

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第3・4・5次調査

2014. 3

佐久市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第3・4・5次調査

2014.3
佐久市
佐久市教育委員会

例　　言

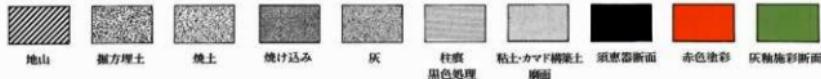
1. 本書は佐久市に所在する西近津遺跡群西近津遺跡の第3・4・5次発掘調査報告書である。
2. 調査は第3次が市道S1-94号線改良工事、第4次が市道S1-101号線舗装工事、第5次がS-103号線改良工事に伴う記録保存調査として佐久市教育委員会が実施した。
3. 遺跡名及び所在地　西近津遺跡Ⅲ(NTⅢ)　佐久市長土呂1741-1外
西近津遺跡Ⅳ(NTⅣ)　佐久市長土呂1796-1B外
西近津遺跡Ⅴ(NTⅤ)　佐久市長土呂1183-7外
4. 調査期間及び面積

発掘調査	西近津遺跡Ⅲ	平成18年6月12日～平成18年9月20日
	西近津遺跡Ⅳ	平成19年10月11日～平成20年2月28日
		平成20年8月17日～平成20年12月19日
	西近津遺跡Ⅴ	平成19年11月12日～平成20年1月8日

開発面積	西近津遺跡Ⅲ	850m ²	西近津遺跡Ⅳ	1,950m ²	西近津遺跡Ⅴ	785m ²
調査面積	西近津遺跡Ⅲ	680m ²	西近津遺跡Ⅳ	1,510m ²	西近津遺跡Ⅴ	580m ²
5. 本書で扱っている座標は世界測地系である。(西近津遺跡Ⅲのみ旧測地系)
6. 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの発掘調査・整理・報告書編集は佐々木宗昭・林　幸彦、西近津遺跡Ⅴは富沢一明が担当した。
7. 本遺跡の出土遺物自然科学分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社、パレオ・ラボに委託した。
8. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址—H　竪穴状遺構—T a　掘立柱建物址—F　古墳址—O T
土坑—D　溝状遺構—M　ピット—Pである。
2. 掃図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。掃図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水系標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物掃図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたがい、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 掃図中のスクリントーンは、以下のことを示す。



目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 経過と周辺遺跡	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査日誌	2
第4節 基本層序	2
第5節 検出遺構・遺物の概要	2

第Ⅱ章 西近津遺跡Ⅲ

第1節 竪穴住居址	5
第2節 掘立柱建物址	35
第3節 土坑	37
第4節 溝状遺構	38
第5節 ピット	39
第6節 遺構外出土遺物	41

第Ⅲ章 西近津遺跡Ⅳ

第1節 竪穴住居址	47
第2節 竪穴状遺構	115
第3節 掘立柱建物址	115
第4節 土坑	117
第5節 溝状遺構	134
第6節 ピット	144
第7節 遺構外出土遺物	151

第Ⅳ章 西近津遺跡Ⅴ

第1節 竪穴住居址	157
第2節 掘立柱建物址	175
第3節 土坑	181
第4節 溝状遺構	182
第5節 古墳跡	186
第6節 ピット	186
第7節 遺構外出土遺物	186

第Ⅴ章 まとめ

付篇

図版

第1章 発掘調査の経緯

第1節 経過と周辺遺跡

西近津遺跡群は、佐久・小諸両市境を南西に流下する湧玉川左岸の田切り台地上に立地し、標高は700~713mを測る。台地の南・東側は、浅い低地で周防畠遺跡群と画されている。近津神社西からJR小海線に至る大きな遺跡群で、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺構や遺物が多く知られている。鷲林城跡が西端にある。

今回の調査地点に近接した長野県埋蔵文化財センターが行った中部横断自動車道に関する発掘調査では、200軒を超える弥生時代後期・古墳時代・奈良・平安時代等の堅穴住居址をはじめ、国内最大級の弥生時代後期の住居址や古代銅印「鉢子私印」が発見され注目を集めている。

付近の集合住宅建築工事に先立つ発掘調査では、弥生時代後期～平安時代の遺構が数多く検出されている。特に、西近津遺跡IVに接する西近津遺跡VIIでは弥生後期～平安時代の堅穴住居址と共に縄文時代後期の敷石住居址や土坑と多量の遺物が発見されている。

佐久市の行う市道改良工事に伴い、平成18年度に西近津遺跡III・平成19年度に西近津遺跡IV・V・VII、平成20年度に西近津遺跡IVの記録保存調査を実施した。



第1図 西近津遺跡III・IV・V位置図(1:25,000)



第2図 西近津遺跡III・IV・V位置図(1:10,000)

第2節 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 三石昌彦(平成18年度) 木内清(平成19年度～21年5月)
土屋盛夫(平成21年5月～25年度)

事務局

社会教育部長 柳澤義春(18・19年度) 内藤孝徳(20～21年6月) 工藤秀康(21年7月～22年度)
伊藤明弘(23・24年度) 矢野光宏(25年度)

社会教育部次長 山崎明敏(19年度) 柳澤木樹(20年度) 金沢英人(21年4～6月) 藤巻浩(23年度)
文化財課長 中山悟(18年度～19年6月) 森角吉晴(19年7月～22年度)

吉澤隆(23・24年度) 三石宗一(25年度)

文化財係長 高柳正人(18年度) 三石宗一(19～24年度) 比田井清美(25年度)

文化財調査係林幸彦(20～23年度) 須藤隆司(22年度～) 小林眞寿(22年度～)

専門員 羽毛田卓也(22～24年度) 富沢一明(23年度～) 上原学(23年度～)

文化財調査係 林 幸彦(～19年度) 並木節子(19～24年度) 富沢一明(～22年度) 上原 学(～22年度)
神津 格(18年度～21年9月) 井出泰章(21年10月～23年9月) 神津和明(23年10月～)
出澤 力(～23年6月) 久保浩一郎(24年度～)
嘱託 林 幸彦(24・25年度)

(1) 調査体制

調査担当者 林 幸彦 富沢 一明 佐々木 宗昭 調査主任 森泉かよ子 調査副主任 埴 益子

調査員 赤羽根充江 浅沼勝男 浅沼ノブ江 阿部和人 安藤孝司 磯貝律子 市川明子 市川光吉

井出孝子 岩崎重子 岩松茂年 碓水知子 白田絢佳 白田真杉 岡村千代美 小幡弘子 加藤ひろ美
柏木義雄 狩野小百合 菊池喜重 神津和子 神津千春 小林節子 小林妙子 小林百合子 小林千勝
小林よしぶみ 斎藤恵李 佐藤瑞希 里見理生 澤井知春 清水澄生 清水律子 副島充子 大工原達江
田中ひさ子 土屋邦子 土屋武士 中山清美 萩原宮子 橋詰勝子 橋詰信子 花里佐恵子 林美智子
林まゆみ 比田井久美子 日向昭次 広瀬梨恵子 細谷秀子 堀籠保子 森泉こずえ 横尾敏雄
柳沢孝子 柳澤 武 山元有美子 依田三男 依田美徳

第3節 調査日誌

平成18年6月12日～平成18年9月20日 西近津遺跡Ⅲ発掘調査。

平成19年10月11日～平成20年2月28日 西近津遺跡IV発掘調査。

平成19年11月12日～平成20年1月8日 西近津遺跡V発掘調査。

平成20年8月17日～平成20年12月19日 西近津遺跡IV発掘調査。

整理作業 平成20年1月21日～3月28日・4月7日～4月18日・12月9日～21年3月31日、

平成21年4月2日～4月17日、平成22年4月1日～4月20日・8月23日～10月20日・

12月21日～23年1月20日、平成23年8月22日～11月20日、平成24年4月23日～6月20日

平成25年4月15日～5月20日、平成26年3月 報告書刊行をもって調査終了。

第4節 基本層序

調査区ほぼ全面が現道路下で、10～30cmが道路構築土であった。西近津遺跡ⅢはⅡ層耕作土直下が浅間火山流堆積層の漸移層となる地点が多い。西近津遺跡IV・Vは道路の影響が少なく、遺構掘り込み面のV層が見られる地点がある。遺構確認は一層の上面では困難で、浅間火山灰石流堆積層上部で行った地点が多い。

第5節 検出遺構・遺物の概要

西近津遺跡Ⅲ

遺構 竪穴住居址27軒(古墳中期1軒・後期5軒、奈良・平安17軒、不明4軒)、土坑(土坑墓含む)13基、溝状遺構2本、ピット113個

遺物 弥生後期土器(箱清水式)、土師器、須恵器、鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鎌・砥石・磨石・敲石等)、獸骨、炭化種実。

西近津遺跡V

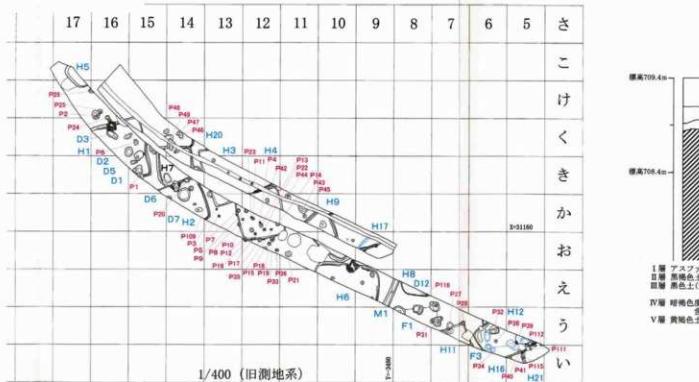
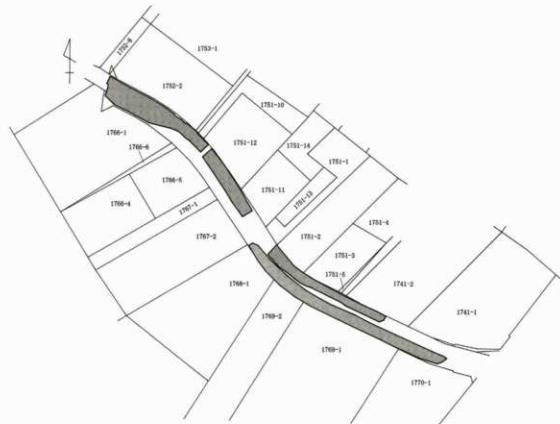
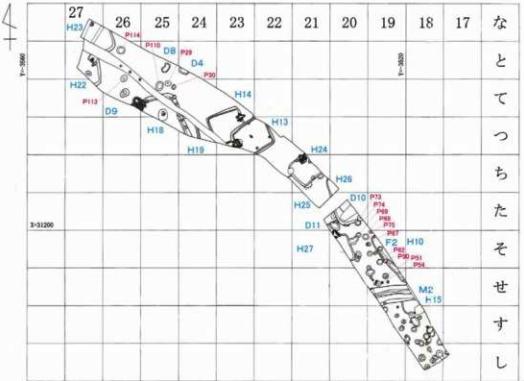
遺構 竪穴住居址52軒(弥生後期22軒、古墳後期9軒、奈良・平安14軒、不明7軒)、竪穴状遺構1棟、掘立柱建物址5棟、土坑46基、溝状遺構15本、ピット187個

遺物 繩文中期後半・後期初頭・前葉・中葉土器、弥生後期土器(箱清水式)、土師器、須恵器、鉄製品(鉄鎌・紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鎌・砥石・磨石・敲石等)、玉類等、人骨、獸骨、炭化種実。

西近津遺跡V

遺構 竪穴住居址19軒(弥生時代後期3軒、古墳時代中期1軒・後期9軒、奈良・平安時代6軒)、土坑(土坑墓・粘土採掘坑含む)10基、溝状遺構7本、古墳址1基、ピット88個

遺物 繩文後期中葉土器、弥生後期土器、土師器、須恵器、土製品(紡錘車等)、鉄製品(紡錘車・刀子等)、石製品(打製石斧・打製石鎌・砥石・磨石・敲石等)、獸骨、



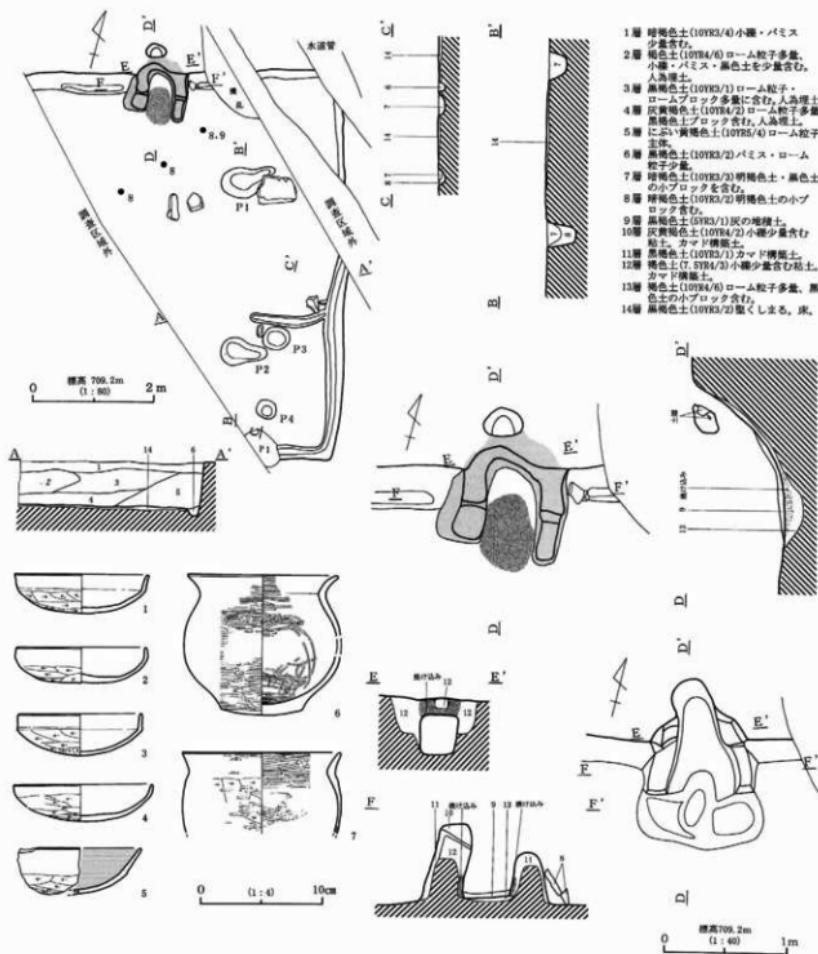
第3図 西近津遺跡Ⅲ 位置図(1:5,000)調査対象地(1:1,000)調査全体図(1:400)標準土層図(1:20)

第Ⅱ章 西近津遺跡Ⅲ

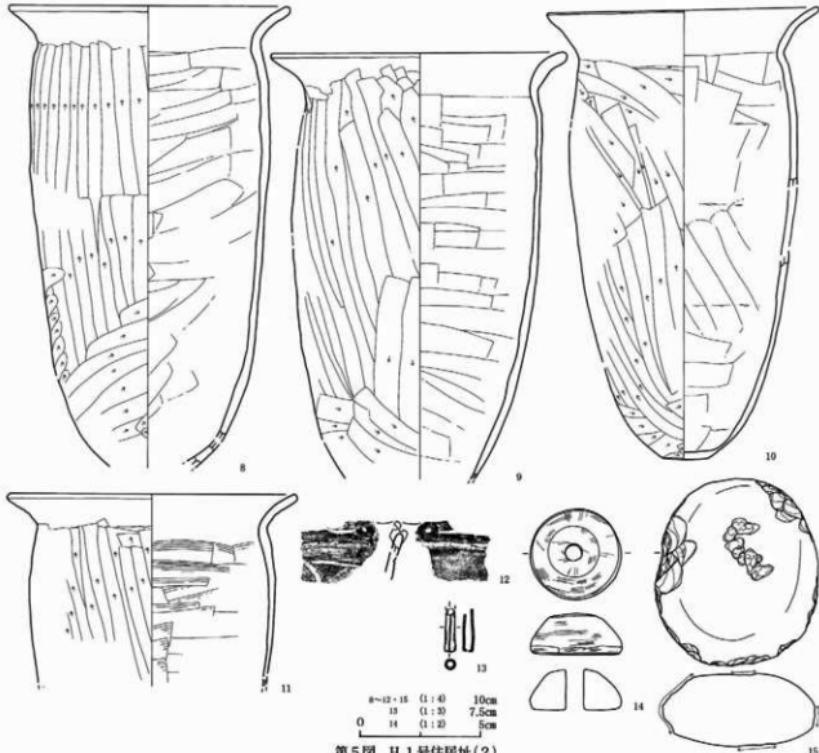
第1節 窓穴住居址

(1) H 1号住居址

き・く・-15・16、け-15G rにあり、D 1～D 3、P 1、P 6に切られる。カマドは北壁中央に地山削



第4図 H 1号住居址(1)



第5図 H1号住居址(2)

第1表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種類	形態	口径(cm)	底面形状	腹面形状	底面・側面・外観		発掘場所(現存高さ)<>位置・ 層号	出土位置
						内面	外面		
1	土師器	縦	11.0	-	3.2	口縁ヨコナデ・底部ヘラケズ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	主柱穴	カマド
2	土師器	縦	(11.0)	-	2.9	口縁ヨコナデ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	主柱穴	カマドヨリ No.3
3	土師器	縦	(10.2)	-	3.4	ナデ・ヨコナデ	底部ヘラケズ・口縁ヨコナデ	主柱穴中央	6C中段・カマド・カマドヨリ 穴口部
4	土師器	縦	(11.4)	-	3.1	ナデ・ヨコナデ	口縁ヨコナデ・底部ヘラケズ	穴口部	穴口部・カマドヨリ
5	土師器	縦	-	-	-	主柱穴・底部ヨコナデ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	穴口部	底部
6	土師器	縦	(12.4)	(6.7)	11.5	エガキ	口縁ヨコナデ・底部ヘラケズ	底部ヨコナデ	主柱穴 W壁
7	土師器	縦	(13.0)	-	<6.7	口縁ヨコナデ・底部ヘラケズ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ・三行キ	底部ヨコナデ	カマド
8	土師器	縦	23.1	-	<37.8	口縁ヨコナデ・底部ヨコナデ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	底穴北壁	口縫隙部 (1区、底穴、カマ ド)・底穴北壁・底穴北壁
9	土師器	縦	24.4	-	<35.0	口縁ヨコナデ・底部ヘラナデ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	底穴北壁	口縫隙部 (1区、底穴、カマ ド)・底穴北壁
10	土師器	縦	22.4	3.6	37.1	口縁ヨコナデ・底部ヘラナデ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	底穴東壁	口縫隙部 (1区、底穴、カマ ド)・底穴東壁
11	土師器	縦	(23.8)	-	<15.7	口縁ヨコナデ・底部ヘラナデ	底部ヨコナデ・底部ヘラケズ	底穴東壁	口縫隙部に 底穴大径
12	陶文	筒状	山形内輪巻き・小切端付円筒形(文から口部にかけて残存。内部内輪巻きから口部にかけて残存。)	-	-	-	-	底穴東壁	1-3・壁芯 3P
No.	種類	形態	最大径	最小径	最大高	腹面	側面	発掘場所	出土位置
13	縫合平明	瓶	<2.6	<0.7	1.7	底面ヨコナデ	<1.20	瓶底の断面を複数に加工。瓶底は閉じた形状。	主柱穴
14	縫合平明	瓶	最大径3.7	最小径2.1	1.7	33.03	丸底D.2、底面開拓。	カマド左袖部	カマド左袖部 No.5
15	縫合	瓶	15.3	13.3	5.6	1653.37	正圓中心と両面に底面開拓。	主柱穴	主柱穴

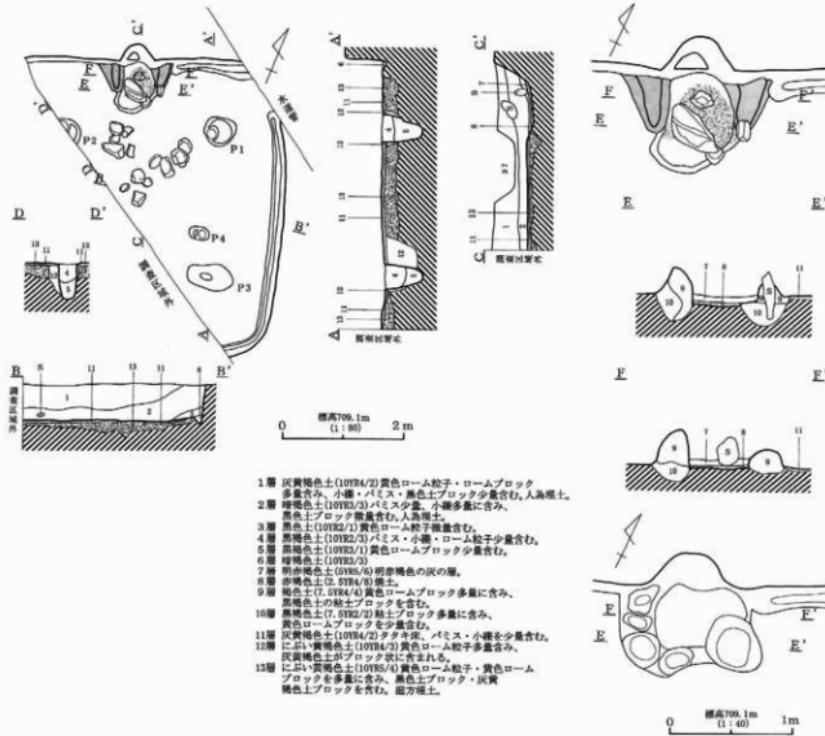
り出して、粘土・褐色土・黒褐色土で構築されている。P 1周辺床面上に散乱する熔結凝灰岩・安山岩はカマド構築に使用されたものであろうか。ピットは4個検出され、主柱穴 P 1・P 2の柱穴間は280 cmを測る。覆土 2~5 層は人為埋土。床は堅く締まる。東壁下・カマド脇には壁溝が巡る。P 3・P 4 と P 3 脇の溝は、間仕切りの基礎であろう。遺物は、土師器 1~11、縄文後期土器 12、器種不明鉄器

13、滑石の紡錘車14、敲石15がある。坏は須恵器坏蓋模倣で内面黒色処理5、須恵器坏身模倣の1・3、半球状の2・4が、甕は口縁部に最大径があり底部突出せず胴が長い8~11、6・7は鉢。2~4がカマド内、14がカマド左袖部、9・10がカマド前床面から出土。覆土内からウシのツノと見られる破片出土。

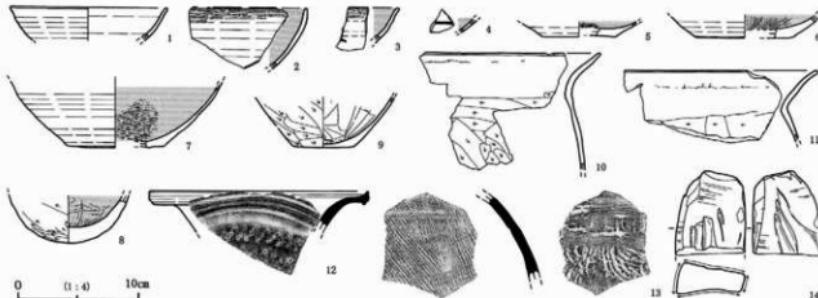
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(2) H 2号住居址

か-13~14、き-14~15G r にありD 7・P 20に切られ、H 7を切る。カマドは北壁中央に、褐色土・黒褐色土と疊で構築されている。P 1・P 2間床面上に散乱する面取軽石・熔結凝灰岩・安山岩もカマド構築材の一部とみられる。主柱穴P 1・P 2およびP 1・P 3の柱穴間は240cmを測る。床は堅く平坦。カマド東から南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層は人為埋土。遺物は土師器1~11、須恵器12~13、砥石14がある。土師器坏2~6は内面黒色処理、坏5・6の底部は回転糸切りされる。3・4は墨書き。7の鉢は、内面黒色処理で底部回転糸切り後手持ちヘラケズリされる。口縁部に最大径がある甕10・11は混入遺物である。本址はこれらの遺物とH 7を切る重複関係より9世紀後半以降に位置づけられる。



第6図 H 2号住居址(1)

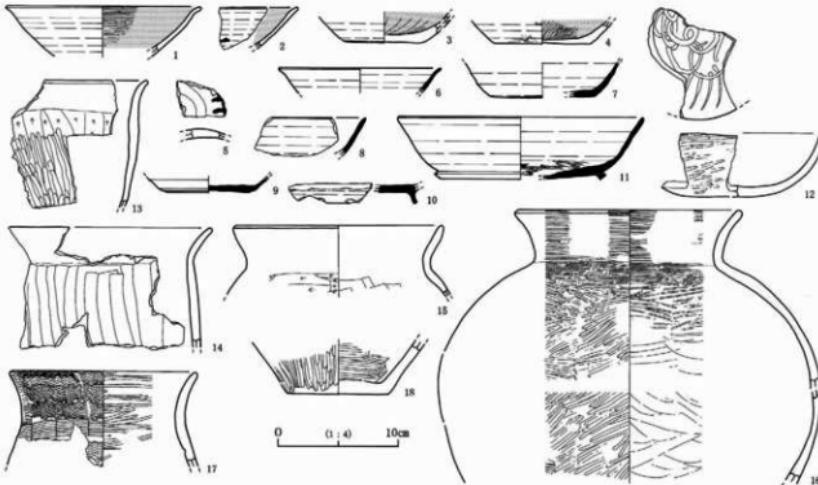


第7図 H 2号住居址(2)

第2表 H 2号住居址出土遺物観察表

No.	種類	形態	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内面		成形・調製・文様		算定値(現存値) >丸底:	標号	出土位置
						内面	外面	成形	調製			
1	土器	盆	(13)	-	<2.7>	クロコナデ	クロコナデ	回転実適	カマド			
2	土器	盆	-	-	-	ミガキ・黑色處理	ミガキ・黑色處理	回転実適	Ⅳ区			
3	土器	盆	-	-	-	ミガキ・黑色處理	ミガキ・黑色處理	回転実適	黒漆			
4	土器	盆	-	-	-	ミガキ・黑色處理	ミガキ・黑色處理	回転実適	黒漆			
5	土器	盆	(6.2)	-	<1.3>	ミガキ・黑色處理	ミガキ・黑色・輪郭あり	回転実適	I区			
6	土器	盆	(6.2)	-	<1.9>	ミガキ・黑色處理	ミガキ・黑色・輪郭あり	回転実適	黒漆			
7	土器	盆	-	(8.0)	<5.4>	ミガキ・黑色處理	クロコナデ	回転実適	カマド・Ⅳ区・カリ方			
8	土器	盆	-	-	<3.8>	ハラズ	ハラズ	回転実適	Ⅳ区			
9	土器	盆	-	5.1	<4.2>	ナデ	ナデ	完全実適	Ⅳ区			
10	土器	盤	-	-	-	口縁部ヨコナデ・側地ナデ	口縁部ヨコナデ・側地ヘラクズ	回転実適	Ⅳ区	カマド		
11	土器	盤	-	-	-	口縁部ヨコナデ・側地ナデ	口縁部ヨコナデ・側地ヘラクズ	回転実適	カマド			
12	骨器	盤	(18.0)	-	<3.4>	ヨコナデ・直角輪郭付	ヨコナデ・直角輪郭付	回転実適	Ⅳ区			
13	骨器	盤	-	-	-	ヨコナデ・ヨコナデ	タタキ目・ヨコナデ	回転実適	Ⅳ区			
No.	固	薄	厚	材	最大径	最大径	最大径	厚	規	系	風	出土位置
14	鉄石	-	-	-	<6.9>	<5.6>	<2.7>	<1.99.80>	下部文場	延長約4. 正面に他の古い骨器あり。		I区

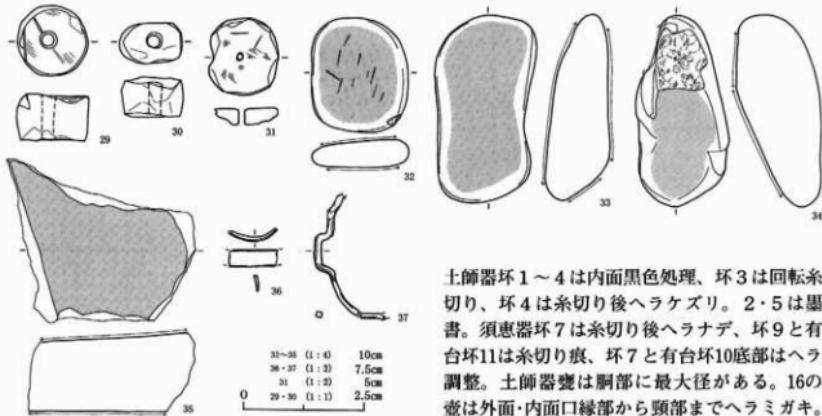
(3) H 3号住居址



第8図 H 3号住居址(1)



第9図 H3号住居址(2)



第10図 H-3号住居址(3)

土師器壺1~4は内面黒色処理、壺3は回転糸切り、壺4は糸切り後ヘラケズリ。2・5は墨書き。須恵器壺7は糸切り痕、壺7と有台壺11は糸切り痕、壺7と有台壺10底部はヘラ調整。土師器壺は胴部に最大径がある。16の壺は外面・内面口縁部から頸部までヘラミガキ。14・26の土師器壺、放射状・螺旋暗文の壺12、土師器壺24・25・27・28、弥生時代後期土器、36の銅鉗、29~31の石製模造品は混入遺物である。

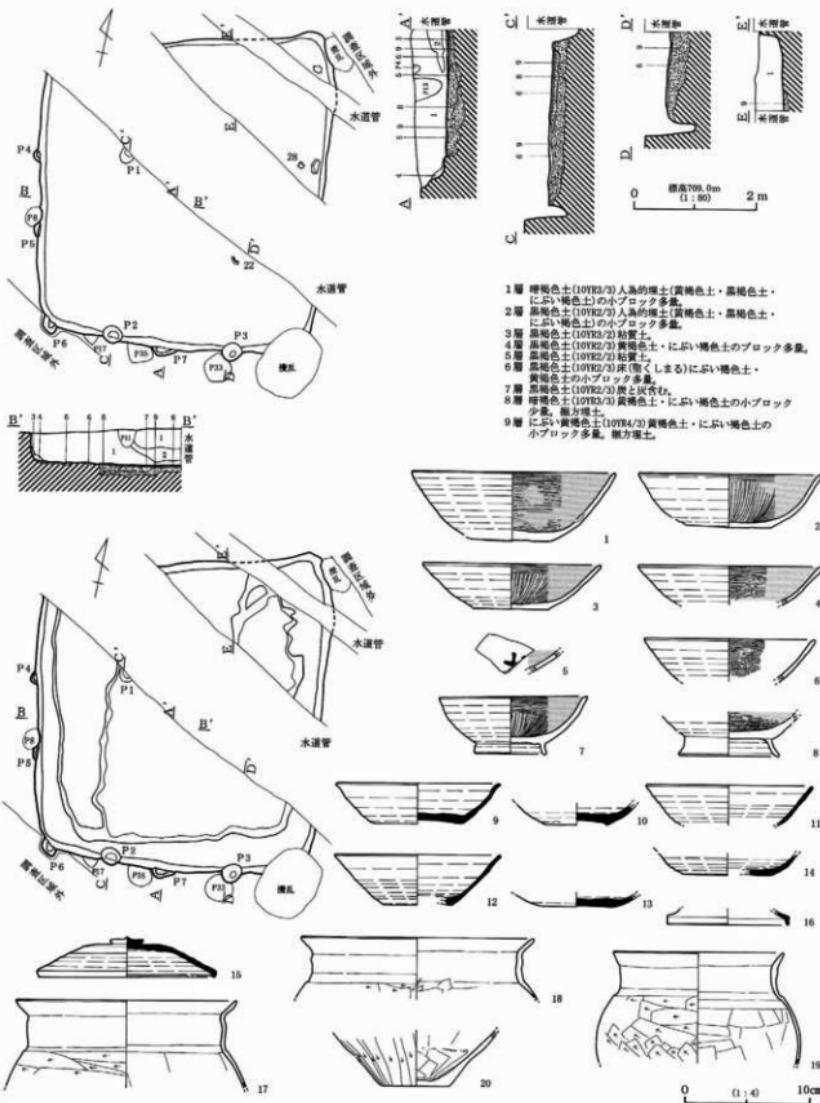
本址はこれらの遺物と9世紀前半のH-4に切られる重複関係より8世紀後半に位置づけられる。

第3表 H-3号住居址出土遺物観察表

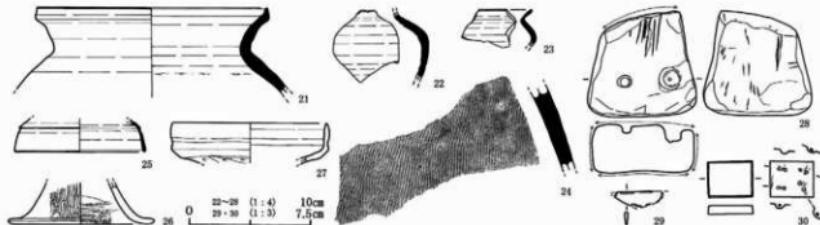
(cm)

No.	種類	材質	最大幅	最大幅	最大厚	量	成形・質感・文様		測定値(1)標準値(2)先端値(3)	器名	出土地點
							内面	外側			
1	土師器	灰	(16.0)	-	4.1	正ガキ→黑色處理	ロクロナデ	白釉実底 内外薄	正2寸 厚1.5cm	土師器	出土地點
2	土師器	灰	-	-	-	-	ロクロナデ	墨片実底 製造裏	出土地點	土師器	出土地點
3	土師器	灰	-	6.7	<2.5	ヘアガギ→黑色處理	ロクロナデ→底部赤切り	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
4	土師器	灰	-	(8.0)	<1.5	ミガキ→黑色處理	ロクロナデ→底部赤切り	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
5	土師器	灰	-	-	-	ミガキ→黑色處理	ロクロナデ→底部赤切り	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
6	須恵器	灰	(13.4)	-	<2.1	ロクロナデ	ロクロナデ	白釉実底 内外薄	正2寸	須恵器	出土地點
7	須恵器	灰	-	(8.5)	<2.0	ロクロナデ	ロクロナデ	白釉実底 有孔切引後ケ	正2寸	須恵器	出土地點
8	須恵器	灰	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	白釉実底	正2寸	須恵器	出土地點
9	須恵器	灰	-	(7.5)	<1.4	ロクロナデ	ロクロナデ	白釉実底→底部赤切り	正2寸	須恵器	出土地點
10	須恵器	白白灰	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ→底部赤切り	白釉実底 有孔切引	正2寸	須恵器	出土地點
11	須恵器	白白灰	(20.3)	(14.2)	5.1	ロクロナデ→みごみごヘラグズリ	ロクロナデ→底部赤切り→有孔切引	白釉実底	No.3	須恵器	出土地點
12	土師器	灰	-	-	-	ミガキ	ミガキ	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
13	土師器	灰	-	-	-	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
14	土師器	灰	-	-	-	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
15	土師器	灰	(17.4)	-	<5.8	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	白釉実底	正2寸	土師器	出土地點
16	土師器	灰	(18.7)	-	<2.6	口縁部から胴上半ミガキ、胴切刃刀子	ミガキ	白釉実底	正2寸 厚1.5cm H41.4cm	土師器	出土地點
17	土師器	黑	(15.4)	-	<0.9	ミガキ	墨片圓筒(付)1(腰止め)	白釉實底	正2寸	土師器	出土地點
18	土師器	黑	-	8.4	<4.0	ミガキ	ミガキ	白釉實底	正2寸	土師器	出土地點
19	土師器	黑	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	-	-	-	正2寸	土師器	出土地點	
20	土師器	黑	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	-	-	-	正2寸	土師器	出土地點	
21	須恵器	土器内板	方巾形腹	幅約1.8cm	厚さ5.5cm	内面 幅約4.5cm厚さ0.6cm、内面 当て舟底。外面 タクサ底。	-	白釉實底	正2寸	須恵器	出土地點
22	須恵器	土器内板	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	-	-	-	正2寸	須恵器	出土地點	
23	須恵器	土器内板	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	内面 三ガキ、外面 細縫目切込、口縁部平凹底	-	-	-	正2寸	須恵器	出土地點	
24	土師器	灰	(12.0)	-	4.5	ミガキ→黑色處理	ロクロナデ→底部ヘラグズリ→ミガキ	白釉實底	正2寸 厚1.5cm	土師器	出土地點
25	土師器	灰	-	-	-	ミガキ→黑色處理	ミガキ	白釉實底	正2寸	土師器	出土地點
26	土師器	灰	-	-	-	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	口縁部ヨコカーデ→胴部ヘラグズリ	白釉實底	正2寸	土師器	出土地點
27	土師器	灰	-	-	-	ナードロコロヨコカーデ	ロクロナデ→底部ヘラグズリ	白釉實底	正2寸	土師器	出土地點
28	土師器	灰	-	-	-	ミガキ→黑色處理	ロクロナデ→底部手荷ヘラグズリ	白釉實底	正2寸	土師器	出土地點
29	白玉	滑石	1.4	1.4	0.9	<1.45	丸座 0.25~0.3、一部欠損。上面に乳突。	正2寸	No.7	白玉	出土地點
30	白玉	滑石	0.8	1.2	0.8	<1.43	丸座 0.2~0.3、一部欠損。	正2寸	白玉	出土地點	
31	石製模造品	滑石	3.1	2.9	0.6	<10.59	丸座 0.25、裏面一部欠損。	正2寸	No.4	石製模造品	出土地點
32	磨石	滑石	9.3	7.9	2.3	316.97	正面に溝有り。正面に擦痕あり。	カクラン	No.4	磨石	出土地點
33	磨石(黒石)	滑石	15.4	8.4	5.9	984.34	正面に溝有り。正面に擦痕あり。	カクラン	No.4	磨石(黒石)	出土地點
34	磨石	滑石	<15.6	<7.5	<6.0	<1000.22	正面欠損。正面に擦痕有り削除とすり有り。	正2寸	No.4	磨石	出土地點
35	磨石	滑石	<13.3	<6.0	<4.0	<1822.24	複数あり(背面裏面)。全面欠損。正面に使用痕。	P内寸0.6	No.6	磨石	出土地點
36	研錐	鐵	<13.0	<1.0	<0.2	<3.09	全面欠損。	正2寸	No.7	研錐	出土地點
37	肉輪	鉄	標印された重量 <0.13	<0.4	<0.6	<0.46	上下欠損。把手状に曲がる→輪か?	正2寸	No.8	肉輪	出土地點

(4) H 4 号住居址



第11図 H 4号住居址(1)



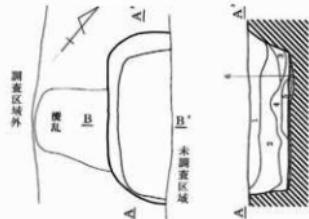
第12図 H4号住居址(2)

第4表 H4号住居址出土遺物觀察表

品目	種類	C(%)	B(%)	A(%)	成績・評定・文書		販路・出荷区分	品名
					内 容	成 績		
1 土壌鑑定	地	(16.0)	6.5	5.7	ルガード-農業用	クロロゲン酸	農業用	外販用
2 土壌鑑定	地	(14.0)	6.9	4.4	ルガード-農業用	クロロゲン酸	農業用	外販用
3 土壌鑑定	地	(14.0)	(8.2)	3.7	ルガード-農業用	クロロゲン酸	農業用	外販用
4 土壌鑑定	地	(15.0)	-	4.20	ルガード-農業用	クロロゲン酸	農業用	外販用
5 土壌鑑定	地	-	-	-	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
6 土壌鑑定	地	(13.8)	-	<3.5	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
7 土壌鑑定	地	(12.1)	5.8	4.6	ルガード-農業用	クロロゲン酸	農業用	外販用
8 土壌鑑定	地	(12.0)	5.8	4.6	ルガード-農業用	クロロゲン酸	農業用	外販用
9 土壌鑑定	地	(13.0)	(7.2)	3.3	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
10 土壌鑑定	地	(5.1)	-	1.10	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
11 土壌鑑定	地	(13.0)	-	<3.5	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
12 土壌鑑定	地	(13.7)	(5.7)	4.1	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
13 土壌鑑定	地	-	(8.0)	<1.20	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
14 土壌鑑定	地	-	(7.4)	<1.60	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
15 土壌鑑定	地	(14.0)	2.7	3.4	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
16 土壌鑑定	地	(10.0)	-	<1.30	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
17 土壌鑑定	地	(18.2)	-	<1.70	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
18 土壌鑑定	地	(19.2)	-	<1.70	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
19 土壌鑑定	地	(19.2)	-	<1.70	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
20 土壌鑑定	地	-	5.5	0.74	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
21 漢方鑑定	草	(19.2)	-	<1.70	緑茶クロロゲン酸	クロロゲン酸	農業用	外販用
22 漢方鑑定	草	-	-	-	クロロゲン酸	クロロゲン酸	農業用	外販用
23 漢方鑑定	草	-	-	-	クロロゲン酸	クロロゲン酸	農業用	外販用
24 花粉鑑定	草	-	-	-	花粉-花粉ナデ	花粉	農業用	外販用
25 麻葉鑑定	草	(10.0)	-	<2.7	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
26 トウモロコシ鑑定	穀	-	(12.0)	<1.60	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
27 トウモロコシ鑑定	穀	-	(11.0)	<1.60	ルガード	クロロゲン酸	農業用	外販用
28 岩松鑑定	木	8.6	8.9	4.0	44315	岩松ノア乳化液	農業用	外販用
29 岩松鑑定	木	<10.0	<10.0	<10.0	44315	岩松ノア乳化液	農業用	外販用
30 岩松鑑定	木	<10.0	<10.0	<10.0	44315	岩松ノア乳化液	農業用	外販用

お-12・13、か-11～13、き-12G r にあり P 4・P 7～P 17・P 22・P 23・P 35・P 42 に切られ、H 3 を切る。長方形に配置の主柱穴 P 1・P 2 の柱穴間は 300cm、P 2・P 3 の柱穴間は 200cm を測る。P 2・P 3 は、西壁・南壁の P 4～P 7 同様壁柱穴である。床は堅く平坦。カマドは調査範囲で、検出されない。覆土 1・2 層は人為埋土。遺物は土師器壺・碗・甕、須恵器壺・蓋・甕・壺、砥石 28、刀子 29、銅製品帶金具の巡方 30 がある。土師器壺 1～5 は内面黒色処理、2・3 は底部手持ちラケヅリ、1 は糸切り後底部周辺ヘラケヅリ。5 は墨書き。6 は内面黒色処理されない。内面黒色処理の土師器壺 7・8 は糸切り後高台貼付。須恵器壺 9・10・12・13 は底部糸切り、14 はヘラ切り後ヘラナデ、15 の須恵器蓋つまみは扁平な擬(5) H 5 屋住址 宝珠、17～19 は「コ」字口縁の武藏式、25～27 は混入遺物。

(5) H 5号住居址



第13圖 H5號住處
布袋圓可口盒拿出

- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 小礫・バミス(0.5~1cm) 大量。
黄色ロームブロック含む。
 - 2層 暗褐色土(10YR3/2) 小礫・黄色ローム粒子・バミス多量含む。人為埋土。
 - 3層 暗褐色土(10YR2/3) 黄色ローム粒子・黄色・バミス多量含む。人為埋土。
 - 4層 暗褐色土(10YR4/4) 黄色ローム粒子・黄色・ロームブロック多量含む。黒褐色土ブロックを含む。人為埋土。

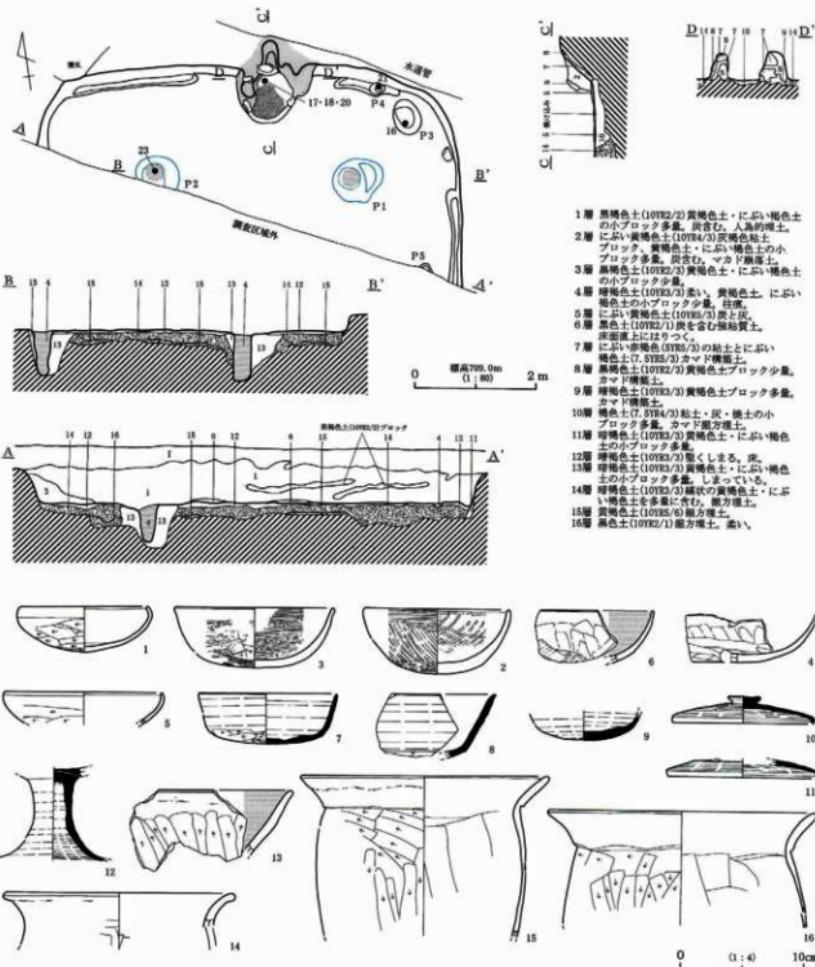
6層 基盤(10YR4/4)

け、こ-17G r にあり、カマド・柱穴等調査範囲では検出されない。床は平坦だが軟弱である。遺物

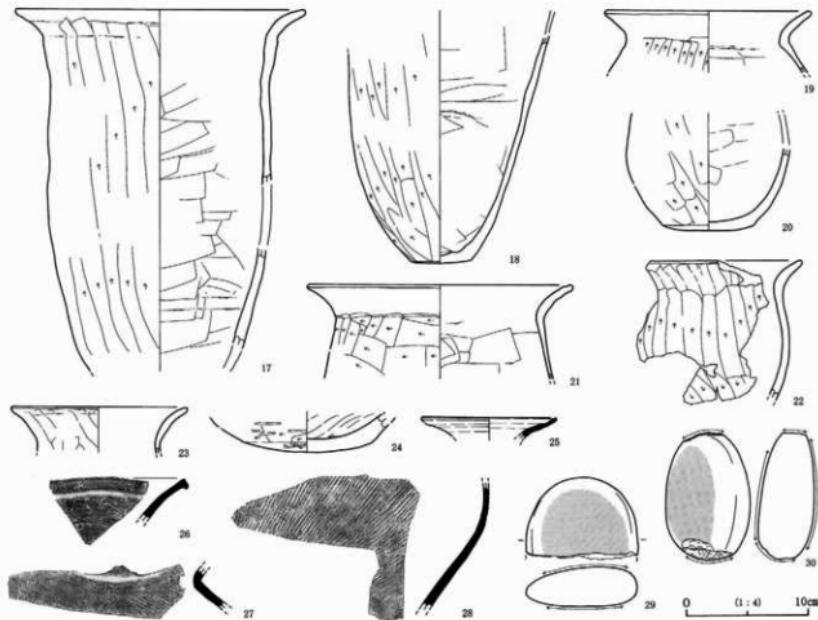
は、弥生時代後期の壺・甕、土師器甕・壺、須恵器甕・壺等いずれも小片が出土したのみであり、時期等不明である。

(6) H 6号住居址

え・お-9~11G r にあり、H 9を切る。カマドは北壁中央に、粘土と面取軽石・熔結凝灰岩等で構築される。ピットは、径30cmの柱痕が確認されたP 1・P 2の主柱穴等5個検出された。P 1・P 2の柱穴間は320cm、床は堅く平坦。北壁下、東壁下に壁溝が巡る。覆土1層は人為埋土。遺物は、土師器・須恵



第14図 H 6号住居址(1)



第15図 H 6号住居址(2)
第5表 H 6号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種類	形態	寸法(幅)	寸法(高)	寸法(厚)	内 部	外 部	成分(種) <種子><内面>		出土地
								種子	内面	
1	土器底	盤	10.6	-	3.7	みごとコナデ-表面ヨコナデ	口縁部ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	1区 Ⅲ段	P2
2	土器底	盤	(12.1)	-	5.4	ヨコナデ-ミガキ	ヨコナデ-体部から底部へラクズリ-ミガキ	完全実開	麻縫	厚土
3	土器底	盤	(13.3)	-	4.9	ミガキ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ-ミガキ	完全実開	外周部	Ⅱ区
4	土器底	盤	-	-	-	ミガキ	ヨコナデ-体部から底部へラクズリ	完全実開	外周部	Ⅱ区
5	土器底	盤	(13.1)	(13.2)	<2.6>	ミガキ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ-ミガキ	完全実開	外周部	Ⅱ区
6	土器底	盤	-	-	-	ミガキ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ-ミガキ	完全実開	外周部	Ⅱ区
7	土器底	盤	(11.6)	9.4	4.2	ロクロナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	1区 Ⅲ段	P2
8	土器底	盤	-	-	-	ロクロナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	1区	Ⅰ区
9	土器底	盤	-	-	<2.5>	ロクロナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	1区	Ⅰ区
10	漆器底	盤	11.6	7.7	2.2	ロクロナデ	ヨコナデ-天井部凹凸-ヘラクズリ-まみ粘付	完全実開	天井部	Ⅰ区 Ⅲ段
11	漆器底	盤	12.0	-	<1.5>	ロクロナデ	ヨコナデ-天井部凹凸-ヘラクズリ	完全実開	外周部	Ⅰ区 Ⅲ段
12	漆器底	盤?	-	-	<2.8>	ロクロナデ	ヨコナデ	完全実開	外周部	Ⅱ区
13	土器底	盤?	-	-	-	ロクロナデ	ヨコナデ	完全実開	外周部	Ⅱ区
14	土器底	盤?	(19.2)	-	<4.7>	ロクロナデ-表面ヨコナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	外周部	カマド
15	土器底	盤?	20.4	-	<13.6>	ロクロナデ-表面ヨコナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	外周部	カマド
16	土器底	盤?	22.0	-	<10.5>	ロクロナデ-表面ヨコナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ	完全実開	No. 3 P1 P2	Ⅰ区 Ⅲ段
17	土器底	盤	(23.9)	-	<29.7>	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラナデ	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラクズリ	完全実開	外周部	Ⅰ区 Ⅲ段 Ⅳ区
18	土器底	盤	-	5.0	<20.8>	裏から底部ヘラナデ	裏部ヘラクズリ-底部ヘラクズリ	完全実開	カマド	カマド
19	土器底	盤	(17.2)	-	<5.0>	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラナデ	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラクズリ	完全実開	外周部	カマド
20	土器底	盤	-	(7.4)	<2.6>	ヘラナデ	裏部ヘラクズリ-底部ヘラクズリ	完全実開	カマド	カマド
21	土器底	盤	22.0	-	<27.8>	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラナデ	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラクズリ	完全実開	1区 Ⅲ段	No. 2 P2
22	土器底	盤	(14.4)	-	<18.8>	ヨコナデヨコナデ	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラクズリ	完全実開	1区 Ⅲ段	P2
23	土器底	盤?	10.6	-	<3.2>	ハナナデ	ヨコナデヨコナデ-裏部ヘラクズリ	完全実開	外周部	Ⅰ区
24	土器底	盤?	(11.2)	-	<2.0>	ヨコナデ	ヨコナデ-底部ヘラクズリ-ミガキ-裏部ヘラクズリ	完全実開	外周部	Ⅰ区
25	漆器底	盤	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	完全実開	外周部	Ⅰ区
26	漆器底	盤	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ-底部凹凸	完全実開	外周部	Ⅰ区
27	漆器底	盤	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	完全実開	外周部	Ⅰ区
28	漆器底	盤	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	完全実開	外周部	Ⅰ区 Ⅲ段
No.	種類	形態	最大幅	最大高	最大厚	内 部	外 部	成分(種)		出土地
29	石斧	-	<6.8>	<3.2>	<3.2>	<35.74>	下部欠損、底部にすり面	完全実開	外周部	カマド
30	石斧	-	10.5	6.8	4.7	43.052	下部欠損、底部にすり面	完全実開	外周部	カマド

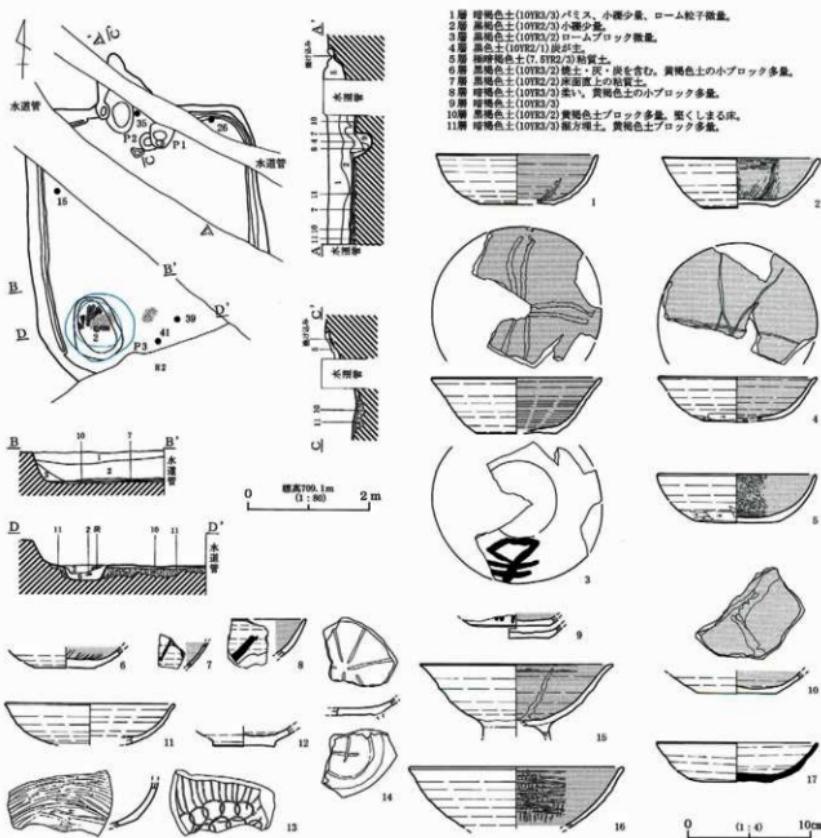
器、磨石29、敲石30がある。カマド内およびカマド袖部からイノシシの第2/5中手骨/中足骨、ニホンジカの中手骨/中足骨は破片、獣類四肢骨の焼骨、獣類部位不明破片の焼骨と非焼骨が検出された。

1~6の半球状土師器坏は、6が内面黒色処理される。須恵器坏7は手持ちヘラケズリ、8は回転ヘラケズリ、9は环蓋かもしれない。10・11はかえりのない环蓋で、10には擬宝珠つまみが貼付される。13は土師器鉢？ 12は須恵器高盤か？ 土師器甕は口縁部に最大径を持つ「く」字口縁の武藏甕15・16・21、口縁部に最大径を持ちやや器肉の厚い17、小型の胴の短い19・20・22がある。

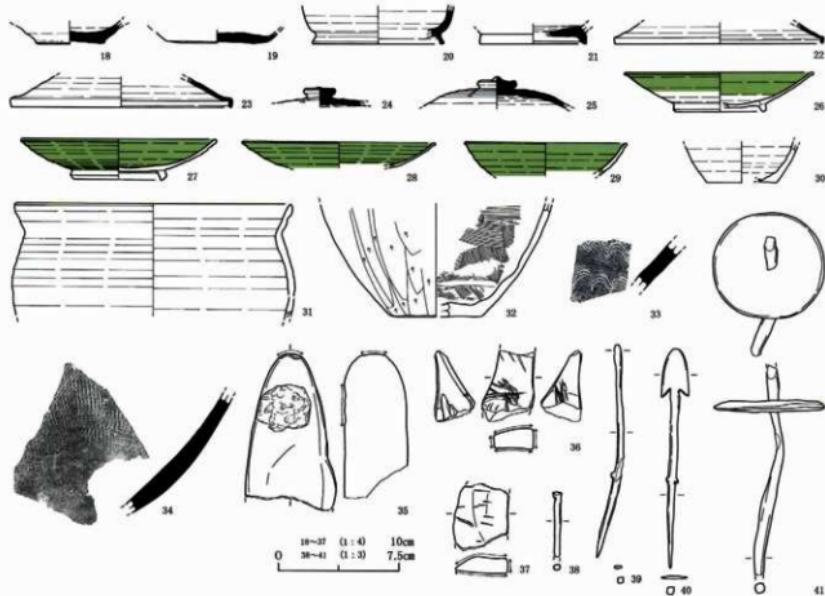
本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(7) H 7号住居址

き・く-14-15G r にあり、H 2・P49に切られる。北壁西寄りのカマドは、原形を留めない。ピット



第16図 H 7号住居址(1)



第17図 H7号住居址(2)

第6表 H7号住居址出土遺物観察表(1)

(cm)

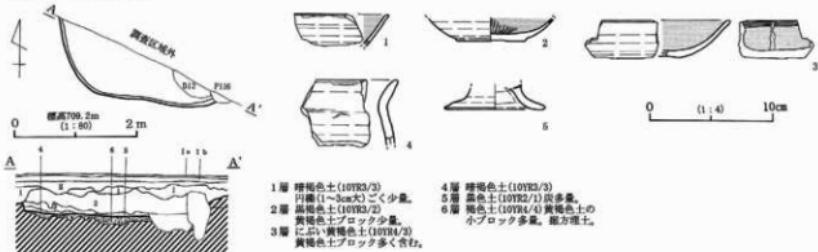
H7	品種	寸法(幅×高)	断面	外觀	寸法(幅×高)		
					内	外	寸法(幅×高)
1. 土師器	瓶	(13.3) (5.7)	4.1	ロクロナデ・瓶底(火口)・黑色底	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
2. 土師器	瓶	12.8	5.8	4.2	ロクロナデ・瓶底(火口)・黑色底	底火口	底火口
3. 土師器	瓶	(14.0) (6.4)	4.6	ロクロナデ・瓶底(火口)・黑色底	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
4. 土師器	瓶	(12.9) 6.3	3.7	ロクロナデ・瓶底(火口)・黑色底	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
5. 土師器	瓶	12.9 (6.9)	4.0	ロクロナデ・三ツ手・黑色底	ロクロナデ・底部火口・底部外手取付	底火口	底火口 P1
6. 土師器	瓶	-	5.2	<1.7	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
7. 土師器	瓶	-	-	ミガキ・黑色底	ロクロナデ	底火口	底火口
8. 土師器	瓶	-	-	ミガキ・黑色底	ロクロナデ	底火口	底火口
9. 土師器	瓶	-	-	ミガキ・黑色底	ロクロナデ	底火口	底火口
10. 土師器	瓶	-	6.5	<1.7	ロクロナデ・瓶底(火口)・黑色底	底火口	底火口
11. 土師器	瓶	(14.0) (7.0)	(3.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	底火口	底火口
12. 土師器	瓶	-	5.0	<1.7	ロクロナデ	底火口	底火口
13. 土師器	瓶	-	-	ロクロナデ・瓶底(火口)・せんじ窓	ヘラカズリ・ミガキ	底火口	底火口
14. 土師器	瓶	-	-	ナデ。底色暗赤(まばら)	ロクロナデ・瓶底火口付	ヘラ形	ヘラ形
15. 土師器	瓶?	(15.8) -	<1.7	ロクロナデ・瓶底(火口)・黑色底	ロクロナデ・底部火口・火口火口	底火口	底火口 No.2
16. 土師器	瓶?	(16.4) -	<1.7	ミガキ・黑色底	ロクロナデ	底火口	底火口
17. 土師器	瓶	(13.1) 6.8	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
18. 遺物	瓶	-	5.8	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
19. 青磁器	瓶	-	5.3	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
20. 青磁器	瓶	-	5.3	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
21. 遺物	青磁器	-	(10.9)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
22. 遺物	青磁器	-	(8.8)	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
23. 遺物	青磁器	(17.3) -	<1.7	ロクロナデ	ロクロナデ	底火口	底火口
24. 遺物	青磁器	(18.3) -	<2.5	ロクロナデ	ロクロナデ	底火口	底火口
25. 遺物	青磁器	-	2.6	<1.6	ロクロナデ	ロクロナデ・火口火口	底火口
26. 灰陶器	罐	(15.6) (7.6)	3.3	ロクロナデ・瓶底(火口)・火口火口	ロクロナデ・底部火口・火口火口	底火口	底火口 No.5
27. 灰陶器	罐	(16.0) (7.8)	3.3	ロクロナデ・瓶底	ロクロナデ・底部火口・火口火口	底火口	底火口
28. 灰陶器	罐	(16.0) -	<2.1	ロクロナデ・瓶底	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
29. 灰陶器	罐	(13.4) -	<2.1	ロクロナデ・瓶底	ロクロナデ・底部火口	底火口	底火口
30. 土師器	ロクロナデ	(5.7) -	<1.3	ロクロナデ	ロクロナデ・底部火口	底火口	カマド
31. 土師器	瓶	(22.6) -	<4.0	ロクロナデ	ロクロナデ	底火口	カマド
32. 土師器	瓶	-	(7.6)	<2.3	ロクロナデ・瓶底タスキ・ハケナデ。蓋部ロクロナデ	ヘラ形	カマド H2
33. 青磁器	罐	内面	コナデ。外側	ロクロナデ・瓶底	ロクロナデ	カマド	カマド
34. 青磁器	罐	内面	フジ。外側	ロクロナデ	ロクロナデ	カマド	カマド

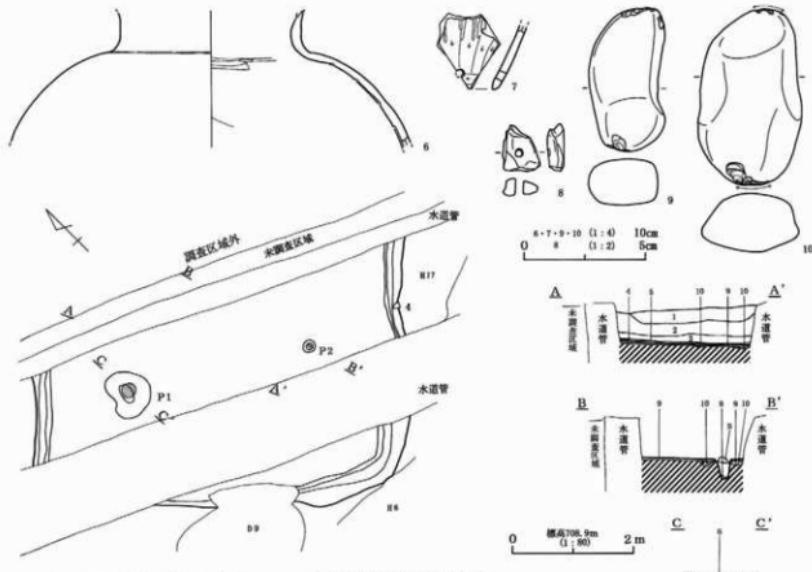
H 7号住居址出土遺物観察表(2)

No.	形 塵	材	底大形	底大幅	底大幅	底 幅	底 高	用		出土位置
								内	外	
35	鉢石		<12.8>	<7.5>	<5.2>	<66.16mm>	下部欠損。上部端と正面に崩れ痕。			No.6
36	鉢石		<5.8>	<4.3>	<3.2>	<69.03mm>	下部欠損。紙幣形4。正面と背面に朱墨。			
37	鉢石		<5.4>	<4.5>	<1.6>	<44.04mm>	上下欠損。紙幣形3。正面に朱墨。			1区
38	角釘	鉄	<4.0>	<0.5>	<0.5>	<2.37>	下部欠損。			東区 ホリ方
39	鉄鎌	鉄	13.0	<0.6>	0.4	<8.19>	長頭有棘鎌身造込丸丸。			東区 No.3
40	鉄鎌	鉄	13.4	1.5	0.5	11.80	長頭有棘鎌身造込丸丸。			カマド
41	筋錐車	鉄	<12.8>	円 6.8 幅<0.7>	円 0.5 幅<0.6>	<63.56>	輪上下欠損。			東区 No.4

は3個検出。P 1覆土は炭が主、P 3内に焼土や灰、多量の炭化材が検出された。他の覆土中には焼土・炭等みられない。床は堅く平坦。北壁下、東壁・西壁下に壁溝が巡る。遺物は、土師器碗2がP 3、敲石35がカマド内、灰釉陶器皿26が北東床隅、鉄鎌39・筋錐車41がP 3東脇の床面から、土師器碗15が西壁床面から出土。炭化栽培種イネ89個・コムギ1個・マメ科(?)1個がカマド内、イネ17個・アワ1個・アズキ類1個・草本のホタルイ属2個がP 1、コムギ10個が第16図3の土師器壺内から検出された。土師器壺は、底部にヘラ成形・調整痕の4・5、底部回転糸切りの1~3・6・9~12。1~4・10に十字状暗文、1~10が内面黒色処理。碗14は内面黒色処理され十字暗文の15と底部にヘラ記号「十」、6条の放射状の暗文。須恵器壺17~19と20~21の有台壺は、底部回転糸切り。須恵器壺蓋は、擬宝珠のつまみ24~25、22~23は返りを有さない。30~32は土師器ロクロ甕、灰釉陶器は皿26~28、碗29。鉄器は筋錐車41、角釘38、長頭有棘鎌身笠盤造込丸丸の鉄鎌39、長頭有棘鎌身柳葉形造込丸丸の鉄鎌40。石器は敲石26~37、敲石35。本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(8) H 8号住居址





- 1層 黒褐色土(10YR2/3)にぶい褐色土の小ブロック。
黒褐色土の小ブロック多量(人為的)。
2層 黒褐色土(10YR2/2) 黑褐色土・黃褐色土のブロックを
帶状に含む。(人為的)
3層 黑褐色土(10YR2/3) 黄褐色土・黑褐色土の小ブロック
少量。(人為的)
4層 棕褐色土(7.5YR4/3)にぶい褐色土が主。(人為的)
- 5層 黑褐色土(10YR2/3)底床の粘質土。
6層 黑褐色土(10YR2/3)柱底。
7層 黑褐色土(10YR2/3) 黄褐色土・にぶい褐色土少量。
8層 黑褐色土(10YR2/4) 黄褐色土の
少量。(人為的)
9層 黑褐色土(10YR2/3)にぶい褐色土のブロック多量。床。
10層 黄褐色土(10YR5/6)能力構造。

第20図 H 9号住居址(2)

第8表 H 9号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種類	断面	法面	成形・表面・文様		測定値()	検出者	<丸底>	出土位置
				内面	外面				
1	土器部	坏	□面(直)	4.4	ミガキ→黑色処理	ナデ→ヘラケズリ→ミガキ	白和美用		ホリ方 墓土
2	土器部	坏	(11.2)	-	<2.2	ミガキ→黑色処理	ミガキ→黑色処理	白和美用	W区 西床
3	土器部	坏	-	-	ミガキ→黑色処理	ロクロナデ	壁片実測	墨書	E 墓出處
4	土器部	鉢	-	-	<6.8	ミガキ→黒色(十手)→黑色処理	ヘラケズリ→ミガキ	白和美用	No.1
5	土器部	壺	(4.8)	<3.8	ナデ	脚部→ラケズリ、底部→ヘラケズリ	脚部→ラケズリ、底部→ヘラケズリ	白和美用	Eヘルト
6	土器部	壺	-	-	<11.2	口縁部コナデ→脚部ヘラナデ	脚部(右脚不備)	白和美用 内面	P1-1 区 西区
7	土器部	壺?	-	-	ミガキ	ヘラケズリ	壁片実測 壁下	壁下に焼成前穿孔	墨土の六あり
所									
8	石製模造品	滑石	1.9	1.5	0.7	2.34	孔底 0.3。中央に穿孔。欠損部分不規則。		西区
9	敲石		11.9	6.3	3.7	420.67	上下端間に敲打痕。		ホリ方 W区
10	敲石		14.5	8.7	4.8	823.10	上下端間に敲打痕。		No.2

柱穴P 1 からは径20cmの柱痕が確認された。P 2は主柱穴P 1とは規則的な位置はないが、礎石を思わせる礎が覆土上部から検出された。床は堅く平坦。南壁から東壁下、西壁下に壁溝が巡る。南壁に張り出し部がみられた。覆土1~4層は人為埋土。床面下の掘方は、僅かにP 2周辺に認められた。

遺物は、土師器、石製模造品、敲石がある。1の半球状坏は内面黒色処理され、外側へラケグリ後ヘラミガキされる。口縁部と底部の境に稜がある坏2は、内外面黒色処理される。4の鉢は、半球状で内面黒色処理される。7は内面へラミガキされ瓶であろう。胴下部に焼成前の穿孔がある。他に5の甕、6の大型の壺がある。墨書「下」があるロクロナデの坏は検出出土で混入品である。

9・10の敲石の上下端部には、敲打痕が認められる。8の滑石模造品は、径0.3cmの穿孔が見られる。

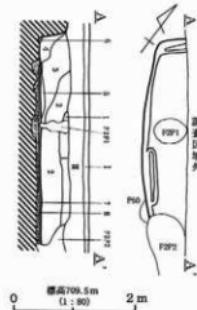
本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけらる。

(10) H10号住居址

そ-19G r にあり、F 2 に切られP50 を切る。カマド・主柱穴等は調査範囲には検出されなかった。床は堅く平坦、床下掘方は浅い。西壁と北壁下の一部に壁溝が見られた。

本址の所産時期を同う遺物は、検出されなかつた。

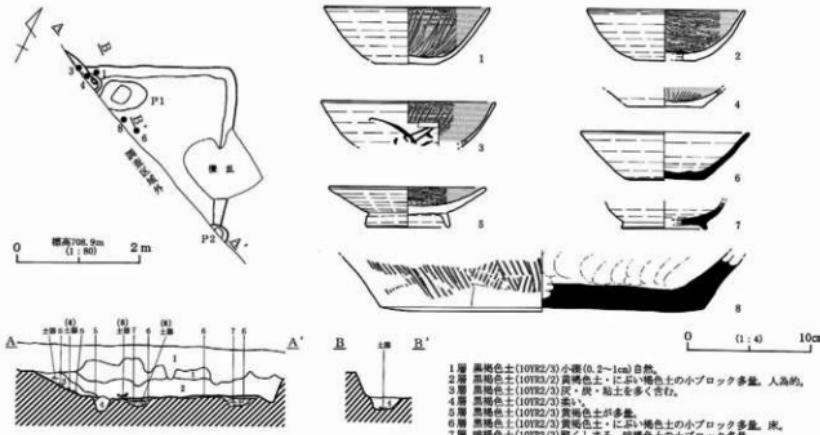
- 1層 砂褐色土(10YR4/3)堅くしまる。
- 2層 黒褐色土(10YR3/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 3層 黑褐色土(10YR3/2)黄褐色土の小ブロック少量。
- 4層 黑褐色土(10YR3/2)黄褐色土の小ブロック多量。
- 5層 墓褐色土(10YR3/3)黄褐色土の小ブロック多量。
- 6層 墓褐色土(10YR3/3)堅い。
- 7層 黑褐色土(10YR2/3)堅くしまる。
- 8層 黑褐色土(10YR4/4)にいわゆる褐色土。灰白色土が混入。表面埋土。



第21図 H10号住居址

(11) H11号住居址

う-6・7 G r にあり、P27・P28を切る。北壁のカマドは、大半が調査区域外に伸びる。ピットピットは、2個検出された。床は堅く平坦、覆土2層は人為埋土。遺物は、土師器壺1・2・4、皿5 壁か碗の3、須恵器壺6・有台环7・甕8がある。1・2・4~7は底部回転糸切り、1~3・4は内面黒色処理、3は墨書きされる。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。



第22図 H11号住居址

第9表 H11号住居址出土遺物観察表

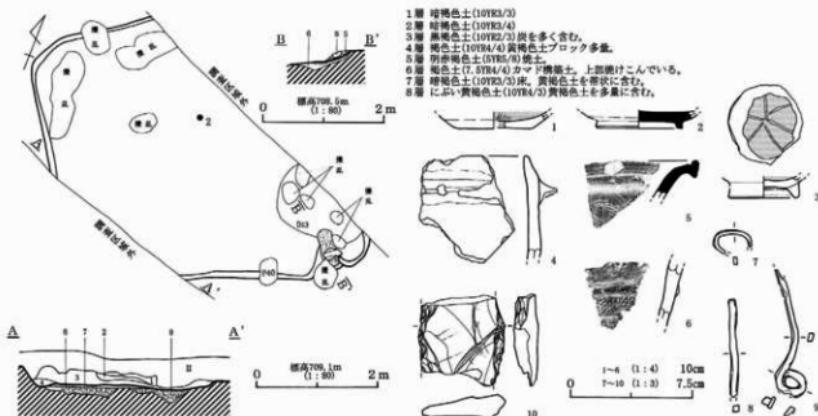
H11	法 線	寸法(横)(幅)(奥)(高)	断面(厚)	成 形・調 整・文 標		規定値()推定値< >丸底・ 備考	出土位置
				内 面	外 面		
1 土師器 壺	(13.6)	5.2	4.6	三ガキ+黒色処理	クロナデ+底部回転糸切り	完全実測	No.4
2 土師器 壺	(13.0)	(5.0)	4.2	三ガキ+黒色処理	クロナデ+底部糸切り	回転実測	カマド
3 上部器 壺	(14.3)	-	<3.7>	三ガキ+黒色処理	クロナデ	回転実測 墓蓋	床
4 土師器 壺	-	6.2	<1.6>	三ガキ+黒色処理	クロナデ+底部回転糸切り	完全実測	No.5
5 土師器 皿	13.0	7.0	3.3	三ガキ+黒色処理	クロナデ+底部糸切り+高台附付	完全実測	カマド内
6 漆器器 壺	(13.8)	(6.5)	4.0	クロナデ	クロナデ+底部糸切り	回転実測	床 No.1
7 漆器器 有台环	-	(7.1)	<2.3>	クロナデ	クロナデ+底部糸切り+高台附付	回転実測	カラン
8 漆器器 壺	-	(26.6)	<5.0>	由て共食+ヨコナデ	側面タキ目。底面ナデ	回転実測	No.2

(12) H12号住居址

い・う・5・6 G r にあり、D13・P40に切られ、H16・H21・F3・P32・P38・P39を切る。南壁東寄りのカマドは、原形を留めない。床は柔らか気味で南側は少し下がる。東に傾斜する道路下にあり深く擾乱されていた。埋納されたウマ骨が検出されたD13との重複関係の把握は困難を極めた。

遺物は、土師器壺1、碗3、須恵器有台环2、羽釜4、須恵器甕5、鉄器の角釘8・轡9・不明7がある。1・2は内面黒色処理される。繩文土器後期後葉深鉢6・打製石斧10は混入遺物である。東床面から炭化した栽培種のスモモ1個、覆土・床面からニホンジカの左上顎第2門歯片・左枕骨・左尺骨・腰椎・椎骨・左脛骨、ウマの左上顎第3門歯・後肢骨の左基節骨・左末節骨、イノシシの可能性のある小型サイズの左右上腕骨遠位端片、焼骨の獣類骨が検出された。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。



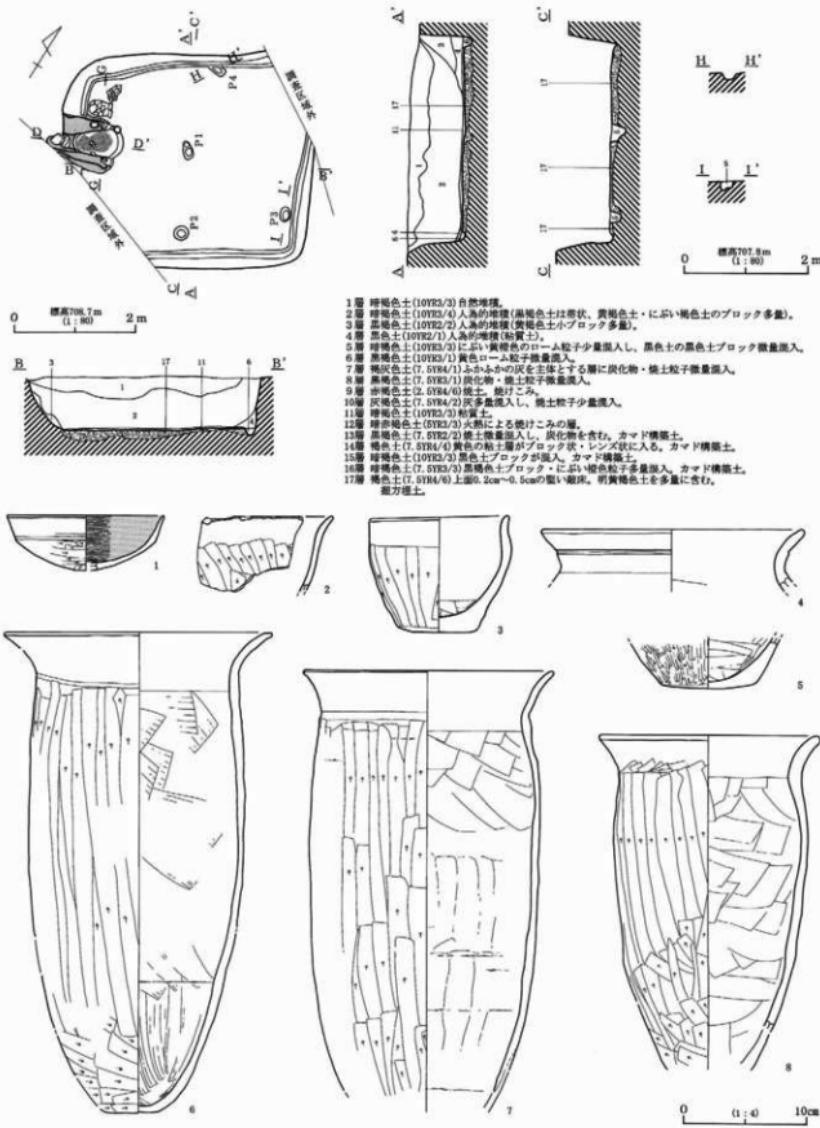
第23図 H12号住居址

第10表 H12号住居址出土遺物観察表

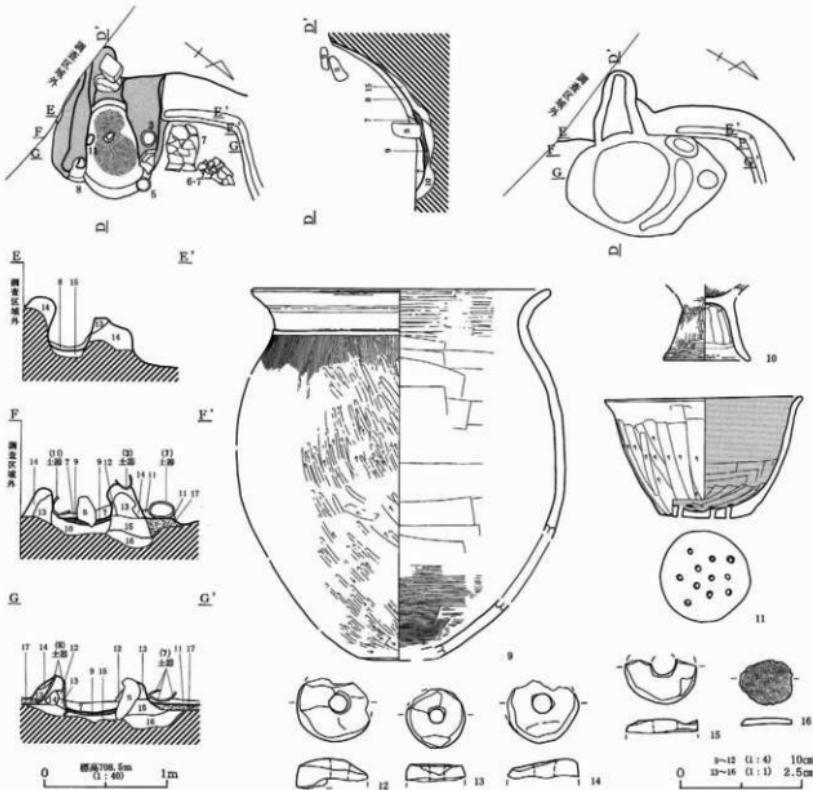
No.	種別	形態	口径(内)	底径(外)	断面(厚)	成形・調整・文様		推定積()既存荷<丸底>	備考	出土位置
						内面	外面			
1	土師器	环	-	(6.4)	<1.4>	ミガナ→黑色処理	クロノダ→窓部凹削・切り	自転実測	床E区	
2	須恵器	有台环	-	7.1	<1.5>	ロコナデ	クロノダ→底部糸切り・高台貼付	完全実測	磨利 No.1	
3	土師器	壺	-	(5.6)	<1.8>	ミガナ→削離・黒色処理	クロノダ→底部糸切り・高台貼付	完全実測	覆土	
4	土師器	羽釜	-	-	-	ナデ・ヘラナデ	ナデ・ヨコナデ→輪付	断片実測	床E区	
5	須恵器	壺	-	-	-	ヨコナデ	輪付状文	断面実測 内面	自然輪付着	床E
6	繩文土器	深鉢	縁跡起下に縁文LR。中筋後室。							床E
No.	施	材	最大長	最大幅	最厚	重	形	見		出土位置
7	不明	鉢	<1.4>	<2.4>	<0.6>	<2.82>	一部欠損。			床面 東
8	角輪	鉢	<6.0>	<0.4>	<0.5>	<5.20>	下部欠損。			床
9	轡?	鉢	<7.8>	<2.1>	<0.75>	<10.11>	上部欠損。			フク土
10	打製石斧		<5.6>	<5.3>	<1.4>	<46.16>	上下欠損。			床面 E

(13) H13号住居址

つ-22-23G r にあり、H14を切る。カマドは西壁北寄りに、粘土と面取輕石・面取り熔結凝灰岩等で構築される。熔結凝灰岩の支脚石がみられた。不規則な配置のピットが4個検出された。床は堅くほぼ平坦である。東壁・西壁・南壁・北壁下に壁溝が巡る。覆土2~4層は人為埋土。壁残高は深く南



第24図 H13号居住址(1)



第25図 H13号住居址(2)

第11表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種類	形態	成形・調製・文様			検定値(寸法等)<→寸法等・備考	出土地點		
			内面	外面	備考				
1	土器部	壺 (12.6)	(11.4)	4.5	ミガキ・黑色處理	口縁ヨコナダ→底面ヘラクズリ	白乳実用	II区(普)	
2	土器部	壺	-	-	ミヨナダ・黑色處理	口縁ヨコナダ→側面ヘラクズリ→黑色處理力	破片実用	I区(普)	
3	土器部	壺	11.5	6.4	9.6	ヘラナダ→口縁部から肩下部ヨコナダ	底面ヘラクズリ→側面ヘラクズリ→脚部ヨコナダ	安全実用 内面(?)	No.4 安全実用
4	土器部	壺	(21.5)	-	<5.1>	口縁部ヨコナダ→側面ヘラナダ	ヨコナダ	白乳実用	II区(普) M 直径22.5cm
5	土器部	壺	-	7.7	4.2>	側面と底面ヘラクズリ・縫合	側面と底面ヘラクズリ	安全実用	No.3
6	土器部	壺	(22.0)	4.3	39.7	側面底面ハケ日→口縁ヨコナダ	口縁ヨコナダ→側面ヘラクズリ・底面ヘラクズリ	安全実用	I区 II区 カマド
7	土器部	壺	20.5	-	<36.0>	側面ヘラナダ・ヨコナダ→脚部ヨコナダ	口縁ヨコナダ→側面ヘラクズリ	安全実用	II区 No.1
8	土器部	壺	18.0	-	<27.6>	側面ヘラナダ→口縁ヨコナダ	口縁ヨコナダ→側面ヘラクズリ	安全実用	No.6
9	土器部	壺	(24.6)	6.7	30.4	側面底面ヘラナダ・ハケ日	側面と底面ヘラクズリ→肩部ハケ日→口縁ヨコナダ→口縫合	安全実用	II区 II区(普) カマド(?)23
10	土器部	糞付壺	-	(7.6)	<9.3>	三ガキ、側面ヨコナダ後三ガキ	側面加工によりヨコナダ→側面ヨコナダ	安全実用	II区(普)
11	土器部	壺	16.1	7.3	10.0	ヨコナダ・側面ヨコナダ前ヨコナダ	側面加工によりヨコナダ→側面ヨコナダ	安全実用	No.5
No.	形	寸法	最大長	最大幅	厚	形	出土地點		
12	臼玉	球	<1.2>	<1.2>	<0.35>	側面火鉢	フク土		
13	臼玉	球	<1.3>	<1.5>	<0.6>	上部・裏面文様	II区 底面		
14	臼玉	球	<1.3>	<1.5>	<0.3>	下部・裏面文様	I区 底面		
15	臼玉	滑石	<0.9>	<1.4>	<0.3>	<0.52>	カマド		
16	土器内円鉗	十字鉗	4.0	3.5	0.3	口側削片。敲打痕	II区		

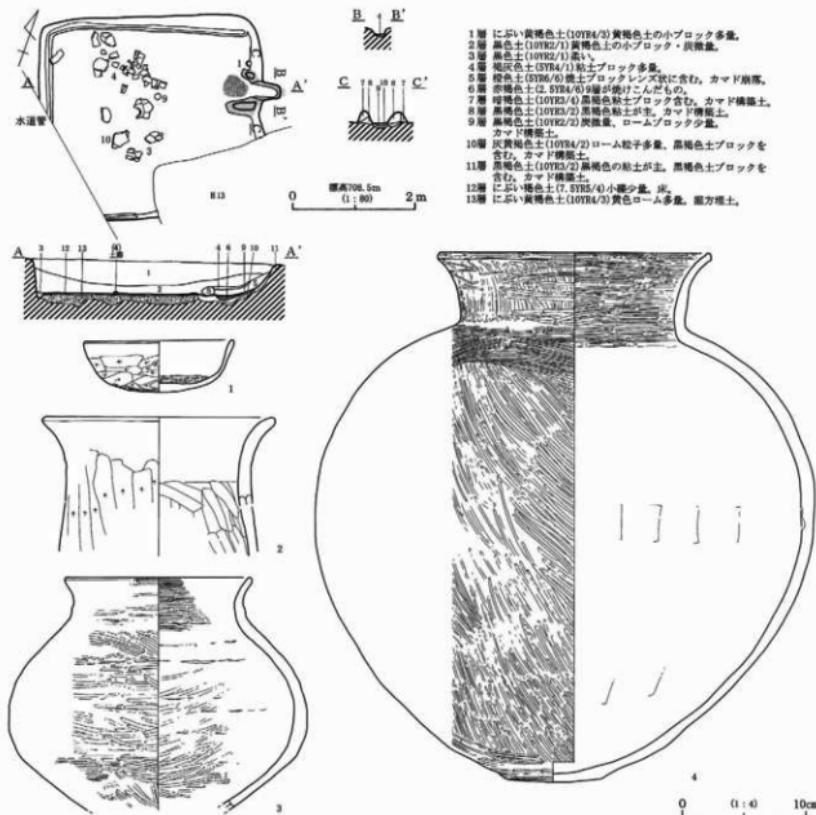
壁で最深90cmを測る。

遺物は、土師器坏1、鉢2・3、甕4～8、壺9、台坏甕10、瓶11、土製品16、滑石製白玉12～15がある。1は須恵器蓋模倣で内面黒色処理される。6～8の甕は、口縁部に最大径があり底部突出せず縦に長くヘラケズリされ胴が長い。9の壺は外面ヘラミガキされる。11の瓶は多孔で内面黒色処理される。2の鉢は内面黒色処理され、瓶かもしれない。12の土製品は、壺胴部片再利用の土器片円板で、敲打痕が認められる。

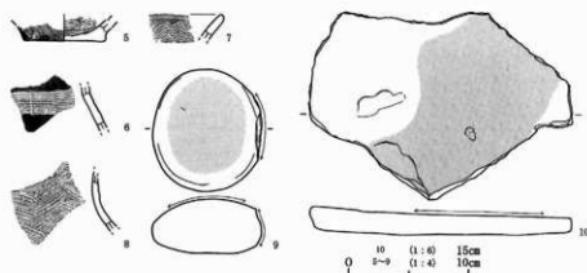
11がカマド内、3・5がカマド右袖部、8がカマド左袖部、6・7がカマド右脇の床面、白玉15がカマド内、13・14が床面から出土した。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(14) H14号住居址



第26図 H14号住居址(1)



第27図 H14号住居址(2)

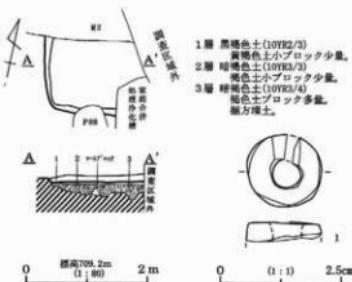
第12表 H14号住居址出土物観察表										
No.	遺物	法面	口径(幅) 底径(幅)	高さ(厚)	内面	成形・調査・文様				
1	土師壺	环	12.4	-	4.3	口縁ヨコナデ→こか版ミガキ				
2	土師壺	甕	(19.2)	-	<11.4>	側部ナデ→口縁ヨコナデ 側部ヘラケズリ→口縁ヨコナデ				
3	土師壺	甕	(15.5)	-	<19.4>	ミガキ				
4	土師壺	西	22.5	7.9	43.6	側部ヘラナデ→口縁ヨコナデ				
5	弥生土器	甕	-	6.8	<2.2>	ミガキ				
6	弥生土器	甕	内面 三ガキ→赤色塗装。外面 三ガキ→赤色塗装 織錦模状。							
7	弥生土器	甕	内面 三ガキ。外面 織錦模状。							
8	弥生土器	甕	内面 三ガキ。外面 織錦模状。							
No.	遺物	材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所	見	出土位置	
9	磨石	石	9.9	8.6	4.5	560.50	被削あり(正面中央突出)、正面にすり面。右側に敲打痕。			No.6
10	台石	石	23.4	32.8	3.2	333.00	被削あり?正面一部黒化。			No.7

南壁中央から西壁・北壁下を壁溝が巡る。1の环がカマド左脇駆面、3と4の甕が床面中央付近に集中していた。9・10の石器も床面中央から出土した。

遺物は土師器壺・甕・壺、石器と混入遺物の弥生時代後期土器が出土した。1は半球状のよくヘラケズリされる壺、2は口径と胴部径が等しそうな甕、3・4は内面口縁部と外面がヘラミガキされる甕である。9は側面に敲打痕が見られる磨石、10は安定の良い台石である。

本址はこれらの遺物より小林貞寿の編年
(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

重複関係のある本址より後出するH13号住居址と大きな時間差はないと思われる。



(15) H15号住居址

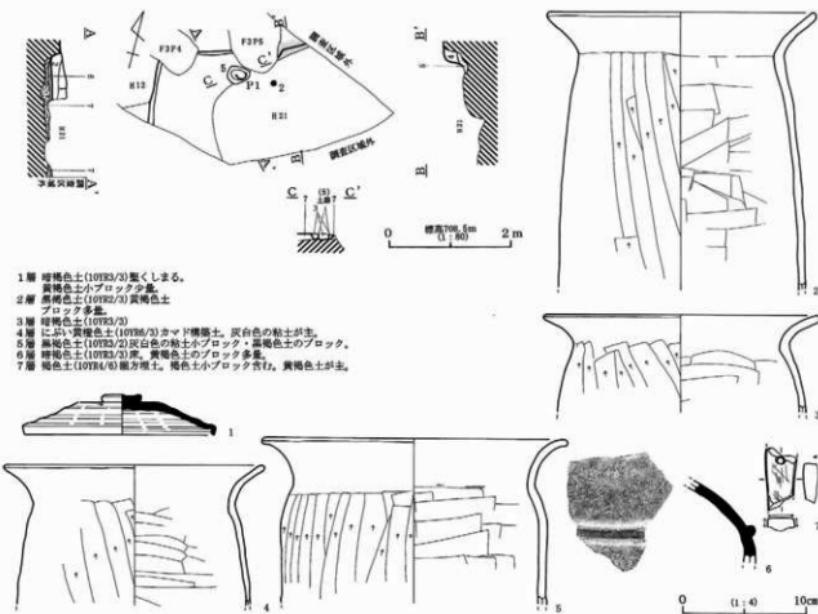
す・せ-18-19G r にあり、M 2・P88に切られる。床面は平坦だが軟弱である。カマド・ピット等調査範囲では、検出されない。遺物は、1の直径1.5cm厚さ0.4cmの滑石製臼玉と土師器小片が出土した。

時期など詳細は不明である。

つ-23-24、て-23G r にあり、H13に切られる。東壁北寄りのカマドは、ほとんど原形を留めない。煙道部立ち上がり側面部と火床付近がよく焼け込んでいる。粘土・暗褐色土と疊で構築されていたようである。

床は堅く平坦である。

(16) H16号住居址



第29図 H16号住居址

第13表 H16号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法量			成形・調製・文様		測定値() 既存値< >丸底・ 備考	出土位置
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内面	外面		
1	須恵器	壺	(16.2)	-	3.3	クロコナデ	ロクロナデ→天井部自転ヘラケズリ→つまみ貼付	完全実測	I 区
2	土師器	壺	(22.0)	-	<22.8>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	自転実測	I 区 No.6 H21壺・カリ方
3	土師器	壺	(22.6)	-	<28.1>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	自転実測	I 区
4	土師器	壺	(21.5)	-	<21.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	自転実測	I 区 H21
5	土師器	壺	(25.0)	-	<13.6>	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	自転実測	No.10 ホリ方
6	須恵器	(四耳)壺	-	-	-	ヨコナデ	タガ目→施等貼付	既存実測	
No.	種別	器種	材	最大長	最大厚	重	所見	出土位置	
7	砥石	-	-	<1.1>	<2.5>	<1.2>	<18.99g> 丸底 0.55. 上下一層存欠損、破壊数3. 正面に擦痕。	I 区	

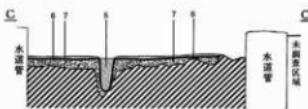
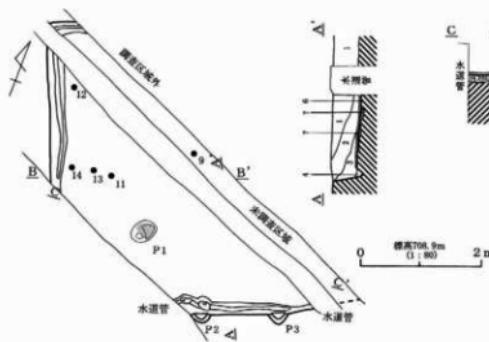
い-5 G r にあり、H12・F2 に切られる。北壁中央のカマドは、F3 号掘立柱建物址に壊されるとんど原形を留めず、僅かに構築土の灰白色粘土が北壁に残存する。床は堅い。ピットはカマド前に1個有り、5 の甕が検出された。

遺物は1の須恵器蓋、2～5の口縁部に最大径を持ち胴部長く外面縦にヘラケズリされる土師器甕、須恵器四耳壺6、7の1孔ある砥石が出土した。

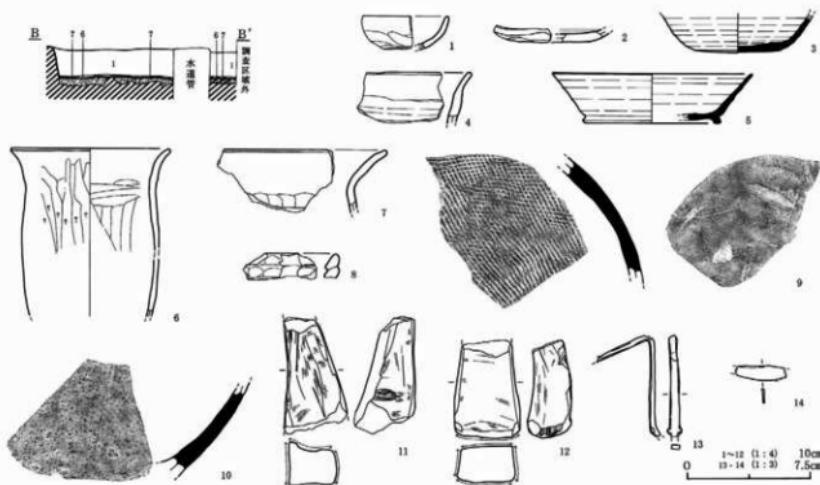
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられよう。

(17) H17号住居址

お-9・10、か-10 G r にあり、H9を切る。ピットは2個検出され、主柱穴P1からは径20cmの柱



- 1層 黒褐色土 (10YR2/3)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロックを斑状に含む。
2層 黑褐色土 (10YR2/3)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック少量、腐少量。人為的堆土。
3層 黑褐色土 (10YR2/3)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック少量。
4層 黑褐色土 (10YR2/3)
黄褐色土・にぶい褐色土の小ブロック少量、人為的堆土。
5層 黑褐色土 (10YR2/3) 1号
6層 黑褐色土 (10YR2/3) 2号
7層 白色土 (10YR4/4)
黄褐色土プロック多量。上面堅く砸き締められている。



第30図 H17号住居址
第14表 H17号住居址出土遺物観察表

(cm)

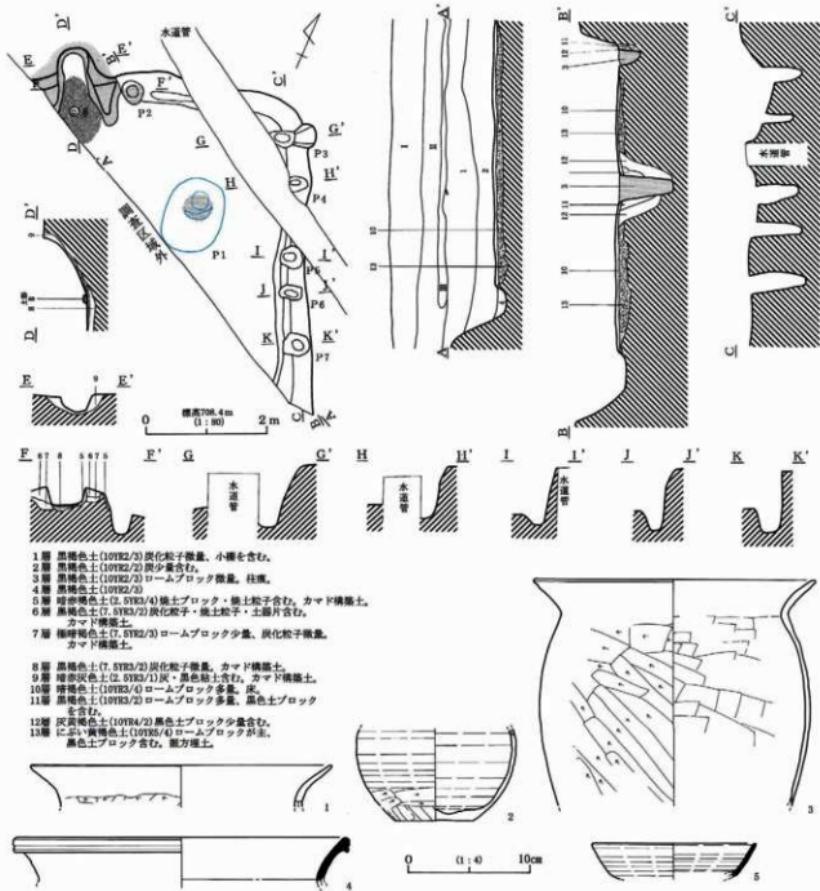
No.	種別	形態	法 面			内 面		外 面		指定地()	残存高()	<凡高()	備考	出土位置
			口径(幅)	底面(幅)	底面(高)	内面(幅)	内面(高)	外面(幅)	外面(高)					
1	土師器	杯	-	-	-	ヨコナデ		横断ヨコナデ→底部ヘラケズリ		破片実測		フク土		
2	土師器	杯	-	-	-	ミガキ→黑色泥炭		横断ヨコナデ→底部手持ちヘラケズリ		破片実測		フク土		
3	須磨器	杯	-	(7.0)	<3.2>	ロクロナデ		クロロナデ→底部手持ちヘラケズリ		白軸実測		N区		
4	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ		ヨコナデ		破片実測		黒区		
5	須磨器	石臼杯	(16.4)	(11.1)	4.1	ロクロナデ		クロロナデ→底部凹輪ヘラケズリ→両台脚付		白軸実測		黒区		
6	土師器	盤	(13.0)	-	<13.8>	口縁ヨコナデ→側部ナデ		横断ヨコナデ→側部ヘラケズリ		白軸実測		N区		
7	土師器	盤	-	-	-	口縁ヨコナデ→側部ナデ		横断ヨコナデ→側部ヘラケズリ		白軸実測		N区	H9E床	
8		手づくね								破片実測		黒区		
9	須磨器	盤	-	-	-	凸面貝殻		タタキ目		破片実測		No.5		
10	須磨器	盤	-	-	-	ナゲ		タタキ目		破片実測		N区		
No.	種別	材	最大径	最大幅	最大厚	内 面	外 面	内 面	外 面	指定地()	残存高()	<凡高()	備考	出土位置
11	礫石	石	<9.6>	<5.2>	<4.0>	横断ヨコナデ→底部ヘラケズリ		横断ヨコナデ→底部ヘラケズリ		破片実測				
12	礫石	石	<8.1>	<5.4>	<3.5>	<22.3>		横断ヨコナデ→底部ヘラケズリ		破片実測				
13	長骨端?	金剛製品	解剖した状態	<0.9>	<0.3>	<6.28>		横断ヨコナデ→底部ヘラケズリ		破片実測				
14	刀子	金剛製品	<3.1>	<0.9>	<0.7>	<1.59>		横断ヨコナデ		破片実測				

痕が確認された。南壁のP2・P3は壁柱穴であろう。カマドは調査範囲では確認されていない。床は堅く敲き締められており平坦。南壁下・西壁下に駆溝が巡る。翼土1~3層は人為埋土。

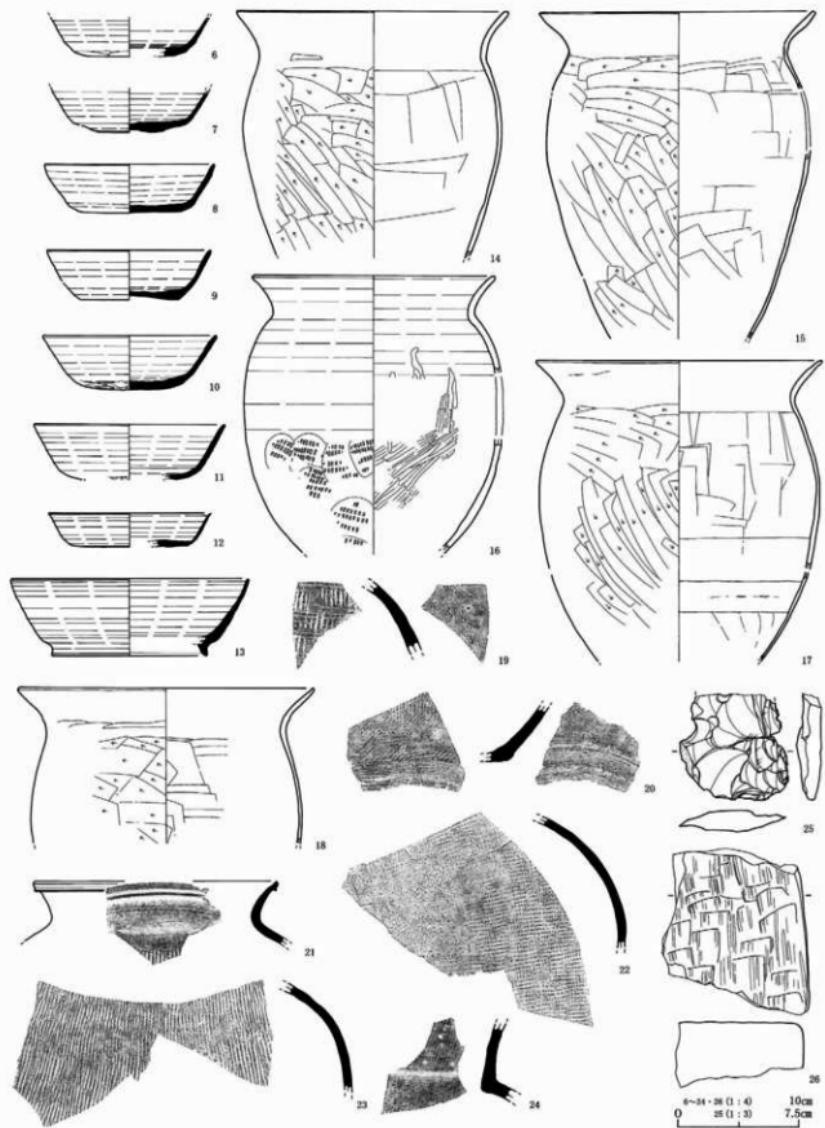
遺物は土師器環1・鉢・甕、須恵器環・有台环・甕、手捏土器、石器、鐵器がある。1は半球状の土師器環、2・3の底部は手持ちヘラケズリ、5は底部回転ヘラケズリ後高台貼付、6・7は口縁部に最大径がある。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられよう。

(18) H18号住居址



第31圖 H18號住居址(1)



第32图 H18号住居址(2)

第15表 H18号住居址出土遺物観察表

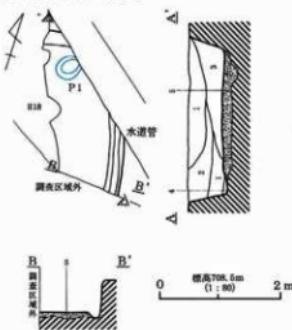
No.	種別	断面	法面	成形・素面・文様		調査範囲(現行最も丸角)	種類	出土位置
				内面	外面			
1	土器器	壺	(24.8)	-	<3.5>	ヨコナデ	口縁部ココナデ→脚部へラケズリ	完全素面 口部と脚部へラケズリ
2	土器器	ロクロ壺	-	6.4	<7.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部と底部外周ナダ→脚下半部手持ちへラケズリ	完全素面 底部と外周部持立り
3	土器器	壺	(23.0)	-	<18.8>	ロ縁部ココナデ→脚部へラナデ	ロ縁部ココナデ→脚部へラケズリ	完全素面 カマド内
4	陶器器	壺	(27.6)	-	<4.2>	ヨコナデ	ヨコナデ	完全素面 頭立え入り
5	陶器器	青台杯	(13.4)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→ハラナダ→頭白配色	完全素面 カマド内
6	陶器器	杯	-	(9.1)	<3.2>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部へラナダ	完全素面 カマド内
7	陶器器	杯	-	5.6	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部へラナダ	完全素面 カマド内
8	陶器器	杯	13.8	8.4	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部外周へ切り替へラナダ	完全素面 No.1
9	陶器器	杯	(13.3)	8.0	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部外周ラクカズリ	完全素面 内面に火炎立き見
10	陶器器	杯	(14.2)	(9.0)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部外周ラクカズリ	完全素面 1区 カマド内
11	陶器器	杯	(15.6)	(9.6)	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ→底部外周ラクカズリ	完全素面 1区 25
12	陶器器	杯	(13.2)	(9.4)	2.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部外周へラケズリ	完全素面 1区
13	陶器器	有台杯	(19.4)	(12.6)	6.3	ロクロナデ	ロクロナデ→脚部輪付	完全素面 内外周に自然輪
14	土器器	壺	22.3	-	<20.3>	ロ縁部ココナデ→脚部へラナデ	ロ縁部ココナデ→脚部へラケズリ	完全素面 口縁上部に成形穿孔跡
15	土器器	壺	(22.6)	-	<26.9>	ロ縁部ココナデ→脚部へラナデ	ロ縁部ココナデ→脚部へラケズリ	完全素面 カマド内 リ方
16	土器器	ロクロ壺	(20.0)	-	<22.8>	ロクロナデ→脚下半部ミガキ	ロクロナデ→脚下半部タタキ(格子)	完全素面 1区 カマド内 リ方
17	土器器	壺	(23.5)	-	<24.7>	ロ縁部ココナデ→脚部へラナダ→ヨコナデ	ロ縁部ココナデ→脚部へラケズリ	完全素面 カマド内
18	土器器	壺	(24.2)	-	<12.8>	ロ縁部ココナデ→脚部へラナダ	ロ縁部ココナデ→脚部へラケズリ	完全素面 カマド内
19	土器器	壺	-	-	-	タテ模様	タテ模様	完全素面 1区
20	土器器	壺	-	-	-	当て模様→ヨコナデ	タタキ目	完全素面 1区
21	土器器	壺	(20.0)	-	<5.4>	ヨコナデ	ロ縁部ココナデ→脚部タタキ目	完全素面 P1
22	陶器器	壺	-	-	-	当て模様→ヨコナデ	タタキ目	完全素面 内面に自然輪付
23	陶器器	壺	-	-	-	当て模様	タタキ目	完全素面 外面に自然輪付
24	陶器器	壺	-	-	-	ヨコナデ	タタキ目	完全素面 自然輪付
No.	種別	断面	最大径	最小径	厚さ	重量	周 長	出土位置
25	打製石斧	-	<6.5>	<6.5>	<1.4>	<58.39g>	上耕穴頭	カマド内
26	砾石?	-	13.6	12.1	5.6	726.27	穴地盤で不規則。正面に亂れを伴う削り跡の使用面。	カマド底端内

つ-24・25、-25 G r にあり、H19を切る。カマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、径40cm前後の柱痕が確認されたP1の主柱穴等7個検出された。P2～P7は壁柱穴でP2はカマド右脇、P3～P7は東壁に60～120cmの間を開けて並ぶ。P2の柱痕径25cm。床は堅く敲き締められていて平坦。カマド脇から東壁下に壁溝が巡る。

遺物は、土師器・須恵器、砾石?26、混入遺物の打製石斧25がある。須恵器の底部は、12は回転ヘラケズリ、9～11は手持ちヘラケズリ、8は回転ヘラ切り後ヘラナダ、6・7はヘラナダ調整される。5・7は有台壺である。土師器壺は口縁部に最大径を持つ「く」字口縁の武藏窯3・14・15・17・18、2・16のロクロ窓がある。

本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(19) H19号住居址



第33図 H19号住居址

- 1層 黄褐色土(10YR2/3)ロームブロック
2層 黄褐色土(10YR3/4)褐色土・ローム
3層 粘褐色土(10YR3/3)墨色土多量、
4層 黄褐色土(10YR3/2)
5層 にい黄褐色土(10YR4/3)黄褐色土
ロームブロック含む。無機土。



つ-24 G r にあり、H18に切られる。床は堅く敲き締められていて平坦。東壁下に壁溝が巡る。カマドは調査範囲には、見られない。床下からP1が検出された。覆土1～3層は人為埋土。

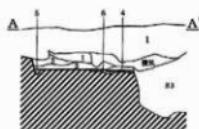
遺物は、2の半球状の土師器壺、1の須恵器蓋、3の須恵器壺がある。

少ない出土遺物で時期詳細は不明。本址は、H18に切られており8世紀第1四半期以前の所産ではある。

第16表 H19号住居址出土遺物観察表

No.	種別	面積	成形・調理・文様		備考	(cm)
			内面	外面		
1	須恵器	蓋	(18.2)	-	<1.8>	ロクロナデ
2	土師器	环	-	-	-	みこみ部ナデ→口縁部ヨコナデ
3	須恵器	蓋?	-	-	-	ロクロナデ

(20) H20号住居址



第34図 H20号住居址

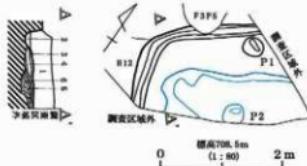
出土遺物は、鉄器の他には内面黒色処理され外縁持つ土師器壊小片のみである。1は短頸有棘鋸身三角形造込両丸の鉄鋸である。

本址の詳細は不明であるが、時期的には8世紀第4四半期のH3号住居址より先行する。

第17表 H20号住居址出土遺物観察表

No.	種別	材質	最大幅	最大高	重 量	所 貫	出土地點	
1	鉄鋸	鉄	10.2	3.1	<0.5>	<15.27>	左脚廻欠損。	覆土

(21) H21号住居址



- 1層 塗褐色土(10YR3/3)
- 2層 塗褐色土(10YR2/3) 細い。
- 3層 塗褐色土(10YR2/3) 土方塗土。
- 4層 塗褐色土(10YR2/3) 土方塗土。
- 5層 塗褐色土(10YR2/3) 土方塗土。
- 6層 塗褐色土(10YR2/3) 塗褐色土(10YR2/3) 含む。底が覆土。

第35図 H21号住居址

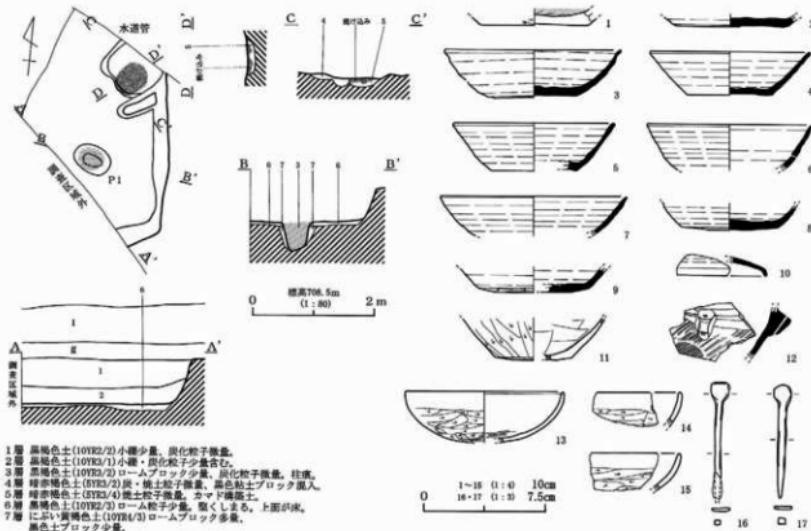
1-4・5 G r にあり、H12・F3・P41・P111・P112・P115に切られ、H16を切る。床は堅く敲き締められているが、やや平坦でない。西壁下・北壁下に

壁溝が巡る。カマドは調査範囲内には、見られない。ピットが2個みられ、P2は床下から検出された。

遺物は、弥生時代後期壺・壺、土師器壊・壺の小片が検出された。本址は、9世紀後半のH12号住居址より先行し、8世紀第1四半期のH16号住居址より後出する。

(22) H22号住居址

1-4・5 G r にあり、H16を切る。床は堅く敲き締められていて平坦である。カマドは東壁に火床の焼け込みと見られる焼上がりが残存する。ピットは、径40cm前後の柱痕が確認されたP1の主柱穴が検出された。遺物は、土師器壊・壺、須恵器壊・蓋・四耳壺、鉄器角釘?16-17、混入遺物と見られる13



1 露天褐色土(10YR2/2)の標準少量、炭化粒子微量。
2 露天褐色土(10YR2/1)の標準、灰化粒子少數含む。
3 露天褐色土(10YR2/2)ロームブロック少量、炭化粒子微量。往底。
4 程度褐色土(10YR2/2)の標準、灰土経て微量、褐色粘土ブロック混入。
5 露天褐色土(10YR2/2)の標準、灰土経て微量。
6 露天褐色土(10YR2/3)ローム粘土少量、堅くしまる。上面が灰。
7 にぶく黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック多量。
8 黑褐色土ローム少量。

第36図 H22号住居址

第18表 H22号住居址出土遺物観察表

(cm)

H22	層位	断面	断面・測定・文様		地質学的・地理的性質 < > 丸底	性質	出土位置
			内面	外面			
1 土器壺	环	-	(4.7) <1.3>	三ガキ→露底切削	鉄物ヘラケズリ、底部ヘラケズリ→三ガキ	須恵器類	露土
2 露天窓	环	(8.6)	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→更迭切削ヘア切り	須恵器類 内外面 火だき痕	露土
3 露天窓	环	(14.4)	6.6	4.0 ロクロナデ	ロクロナデ→腹部切削ヘア切り	完全火焼 内外面 火だき痕	No.1
4 露天窓	环	(13.0)	7.0	3.6 ロクロナデ	ロクロナデ→腹部切削	須恵器類	露土
5 露天窓	环	(13.2)	7.0	3.9 ロクロナデ	ロクロナデ→腹部切削	須恵器類 内外面 火だき痕	露土
6 露天窓	环	(13.4)	-	<3.8> ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器類 外腹火 火だき痕	露土
7 露天窓	环	(15.3)	-	<3.3> ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器類 内腹火 火だき痕	露土
8 露天窓	环	-	(7.8)	<2.2> ロクロナデ	ロクロナデ→腹部切削	須恵器類 内腹火 火だき痕	露土
9 国窓	环	-	(9.0)	<2.1> ロクロナデ	ロクロナデ→腹部切削ヘラケズリ	須恵器類 内外面 火だき痕	露土
10 露天窓	环	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	須恵器類	露土
11 土器壺	环	-	(6.2)	<3.5> ヘラナデ	鉄物ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	須恵器類	露土
12 露天窓	西窓枠	-	-	-	たたき件→後脚缺付→耳脚付	破片発見 另外面 鉄物の痕	露土
13 土器壺	环	(13.0)	-	<4.2> ロクロナデコナデ→おこみ縁ヘラケズリ	土器部コナダ→縁部ヘラケズリ	須恵器類	露土
14 土器壺	环	-	-	3.0 ロクロナデ	土器部コナダ→縁部ヘラケズリ	破片発見	露土
15 土器壺	环	-	-	1.0 ロクロナデ	土器部コナダ→ヘラケズリ	破片発見	露土
16 鉄片?	鉄	-	<7.1>	<1.1> <0.4> <4.81>	下部欠損。 (未確認)	出土地面	露土
17 鉄片?	鉄	6.6	1.0	0.5	4.41 (未確認)	出土地面	露土

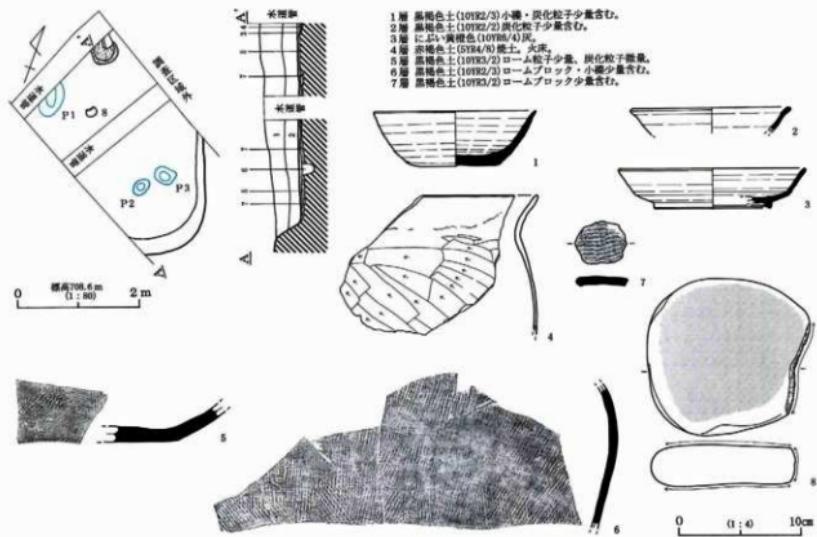
~15の土師器壺がある。1の土師器壺は底部ヘラケズリ、須恵器壺の底部は、6は回転糸切り後手持ちヘラケズリ、2~5・8は回転ヘラ切りされる。

本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代IV期-8世紀第4四半期に位置づけられる。

(23) H23号住居址

と・な-26・27G r にあり、H22に切られる。床は堅く敲き締められていて平坦である。北側調査区城境の窓みに焼土と灰が残存している。カマドの火床と見られる。ピットは3個確認され、P1・P3が主柱穴であろうか。P2は床下から検出された。

遺物は、土師器壺、須恵器壺・甕、7の土製品須恵器土器片円板、8の敲石がある。4の口径と胴

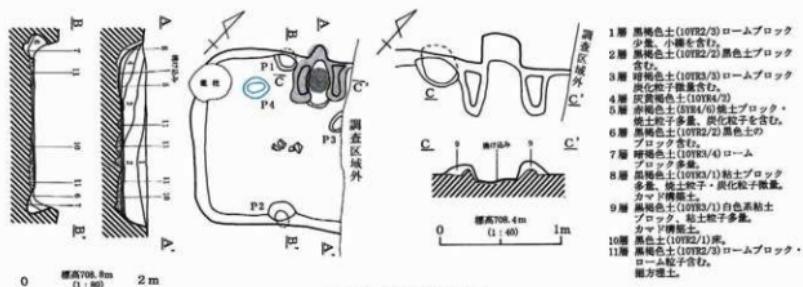


第37図 H23号住居址
第19表 H23号住居址出土遺物観察表

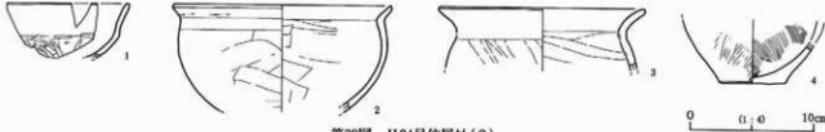
No.	種別	寸法	成形・焼成・文様			測定値(1) 残存高 < >丸底 No.2	寸法
			内面	外面	標		
1	須恵器	坪	13.3	7.6	4.5	ロクロナデ	ロクロナデ-直線切欠ヘラ切り嵌ナデ
2	須恵器	坪	(13.2)	-	<2.7	ロクロナデ	ロクロナデ
3	須恵器	台付坪	(15.3)	(9.5)	3.3	ロクロナデ	ロクロナデ-直線切欠ヘラケズリ→直付台付
4	土器	盤	-	-	-	円錐ヨコナデ-斜削ヘラナデ	直付圓盤
5	須恵器	盤	-	-	-	当て鉢底ナデ	直付圓底ナデ
6	須恵器	盤	-	-	-	タタキ目	直付圓底ナデ
7	須恵器	土器片(円盤)	横断面片、腹面片、底面片、側面片、底面片、側面片	直径4.3 厚径3.5 高さ0.5	-	当て鉢底→ヨコナデ	タタキ目
No.1	須恵器	盤	12.9	13.3	3.4	104.2/91	直付にすり底、右側に打削。
							寸法
							寸法

部径がほぼ等しい土器師武藏妻、1の須恵器坪・3の須恵器有台付の底部は、回転ヘラ切りと回転ヘラケズリが見える。本址は小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅳ期-8世紀第2四半期に位置づけられよう。

(24) H24号住居址



第38図 H24号住居址(1)



第39回 H24号住居址(2)

第20表 H24号住居址出土遺物觀察表

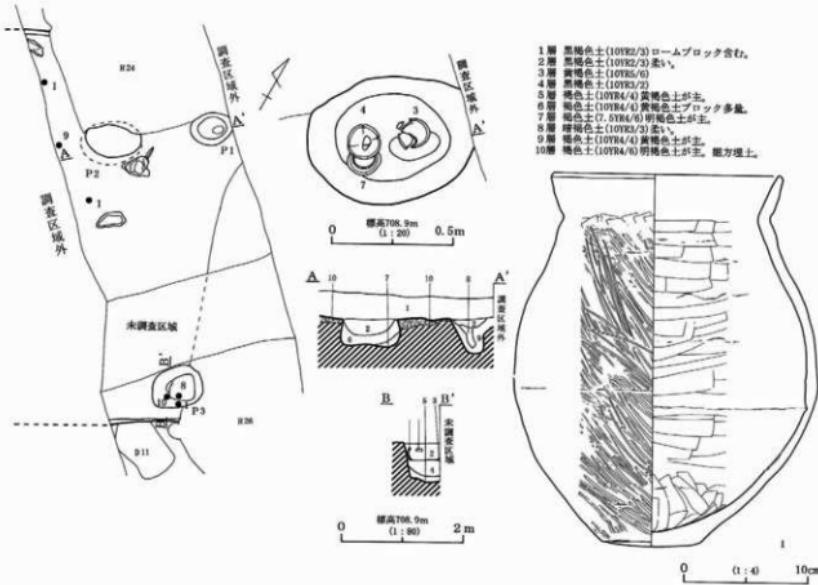
No.	種類	形態	成形・熟成・文種		成形機()/熟成機()/丸成機()	自走機()	出走位置
			内型	外型			
1	土耕器	鋸	-	ミガキ-螺旋状凹	□螺旋ヨコナダ-△螺旋ヘラナダ-△螺旋ヨコナダ	螺旋式	I区
2	耕作機	鋸	(18.0)	<△B>	耕作ヘラナダ-△螺旋ヨコナダ	螺旋式	II区
3	土耕器	鋸	16.9	<△Z>	螺旋ヨコナダ-△螺旋ヨコナダ	螺旋式+△螺旋ヨコナダ	I区 II区 No.1 No.2
4	土耕器	鋸	(5.4)	<△S>	ハケ目のあるヘルナダ	螺旋ハケ目	II区 カクラン

ち-21・22G r にあり、H25 を切る。カマドは北壁に粘土等で構築された地山削出の袖部・火床・煙道が残存する。ピットは4個検出された。主柱穴のP1・P2は、内側に傾斜する壁柱穴である。P4は床下から検出された。床は堅く敲き縮められていて平坦。

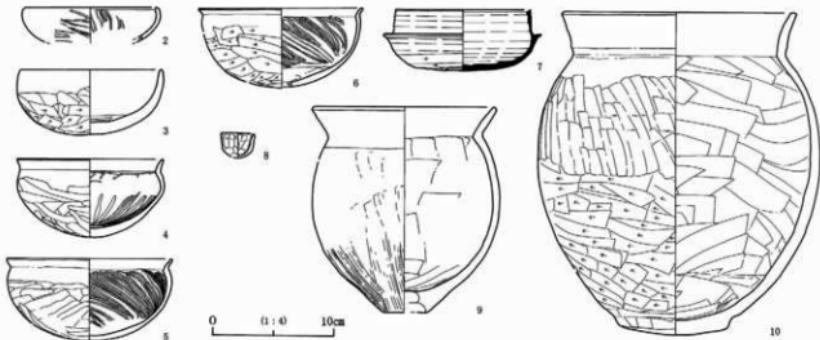
遺物は、1の土師器須恵器坏蓋模倣の坏、2の土師器鉢、3・4の土師器甕がある。これらの遺物から、本址は小林慎寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代IV期-8世紀第2四半期に位置づけられよう。

(25) H25号住居址

た-20・21、ち-21-22G rにあり、H24・H26に切られる。カマドは調査範囲内には、見られない。ピットが3個検出された。柱痕状の8層が見られたP1は主柱穴であろう。3・4の土師器壺と7の須恵器壺が出土した。P2は断面がフラスコ状で深さ44cm。1の土師器壺、8の手捏土器・10の土師器



第40図 H25号住居址(1)



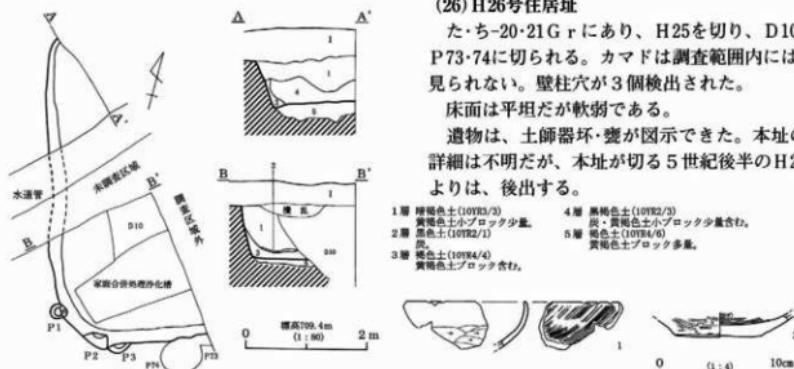
第41図 H25号住居址(2)

第21表 H25号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形態	口径(φ)	底径(φ)	高さ(高さ)	内面		外面		測定値	測定値	出土地點
						横幅	縦幅	横幅	縦幅			
1	土師器	壺or壺	(16.9)	-	30.8	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ→底脚三才ガキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ→ガキ・底脚三才ガキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ガキ・底脚三才ガキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ガキ・底脚三才ガキ〕	No.1	No.3	No.9
2	土師器	壺	(16.6)	-	<2.5	地文	-	-	-	No.2	-	田舎裏面
3	土師器	壺	11.7	-	5.4	みぞ縫合ヘラマギキ→縫合ヨコナデ	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ヘラマギキ〕	No.6	-	田舎裏面
4	土師器	壺	11.9	-	6.4	縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ	〔縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ・ヘラマギキ〕	No.7	-	田舎裏面
5	土師器	壺	12.5	-	6.2	縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ	〔縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヨコナデ・ヘラマギキ〕	No.8	-	田舎裏面
6	土師器	壺	12.6	-	5.5	みぞ縫合ヘラマギキ→縫合ヨコナデ→縫合ヨコナデ	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・ヘラマギキ〕	No.9	-	田舎裏面
7	土師器	壺	11.2	-	5.1	ヨコナデ	-	-	-	No.5	-	田舎裏面
8	土師器	二重土壺	(2.6)	(2.5)	-	〔縫合ヨコナデ→ヨコナデ〕	-	-	-	No.7	-	田舎裏面
9	土師器	小壺	15.2	(3.6)	16.8	口縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ→底部ヘラマギキ	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・底部ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・底部ヘラマギキ〕	〔縫合ヨコナデ→側面ヘラマギキ・底部ヘラマギキ〕	No.2	-	田舎裏面
10	土師器	壺	19.3	8.5	26.5	縫から底部ヘラマギキ→縫ヨコナデ	〔縫ヨコナデ→側面ヘラマギキ・底部ヘラマギキ〕	〔縫ヨコナデ→側面ヘラマギキ・底部ヘラマギキ〕	〔縫ヨコナデ→側面ヘラマギキ・底部ヘラマギキ〕	No.8	-	田舎裏面

甕が検出されたP3は南壁近くにあり深さ64cmを測る。床は堅く敲き締められていて平坦である。50cm内外の隙3個が床面上にみられた。遺物は土師器壺・甕・壺・手捏土器、須恵器壺がある。2~6の土師器壺は半球状で口縫部が短く外反する4、内斜する5・6、内弯する2・3がある。10の甕は胴部に最大径を持ち胴部は丸みを帯び、外面へラケズリされる。1の壺外面はヘラミガキされる。7の須恵器壺は口径11cmで、扁平な体部から長くほぼ直立に立ち上がり、端部は中央が窪む。外面体部から底部回転へラケズリされる。本址はこれらの遺物より、5世紀後半に位置づけられよう。



第42図 H26号住居址

第22表 H26号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形態	法量	成形・調整・文様		指定地()既存地< >丸底・ 備考	出土位置		
				内面	外面				
1	土師器	环	-	-	ヨコナデ・縫文	ヨコナデ・体面ヘラケズリ	破片実測	E・W区	
2	土師器	壺	-	7.2	<2.0>	ミガキ	網附・底部ヘラケズリ後ミガキ	完全実測	E区

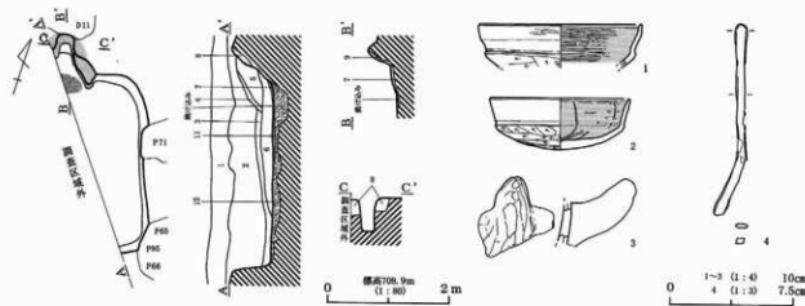
(27) H27号住居址

そ-20G rにあり、D11・P73・74に切られる。カマドは北壁に粘土等で構築された袖部・火床・煙道の一部が残存する。ピットは調査範囲内では見られなかった。

床は堅く敲き締められていて平坦である。

遺物は土師器環・把手、鉄器がある。須恵器壺蓋模倣の環1・2は、内面黒色処理される。3は壺の把手であろうか。4は闊が明確でないが、長頸有茎錐身盤箭込両丸の鉄錐である。

本址は小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期-6世紀中葉~7世紀初頭に位置づけられようか。



1層 黒褐色土(10YR2/2)小窓壁蓋む。
2層 黑褐色土(10YR2/2)灰白色土のブロック多量に含む。人為的堆土。
3層 黑褐色土(10YR2/1)小窓を含む。人為的堆土。
4層 黑褐色土(10YR2/1)堆土粒子。灰化粘土含む。人為的堆土。
5層 黑褐色土(10YR2/1)堆土粒子。灰化粘土含む。人為的堆土。
6層 にい黄褐色土(10YR5/4)にい堆土多量に含む。人為的堆土。
7層 黑褐色土(10YR2/2)灰化粘土含む。にい堆土の
小ブロック含む。

7層 灰褐色土(5YR6/2)灰化粘土含む灰の堆疊土。
8層 にい堆土(5YR6/4)粘土。カマド堆積土。
9層 黑褐色土(5YR2/1)堆土。灰化粘土含む。カマド堆積土。
10層 黑褐色土(10YR1/1)黄色のロームブロック・粘土含む。
灰化粘土含む。カマド堆積土。

11層 黑褐色土(10YR1/1)灰の堆土。盛くしまる。

12層 黑褐色土(10YR4/4)黄褐色土が土。にい堆土を含む。堆方堆土。

第43図 H27号住居址

第23表 H27号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形態	法量	成形・調整・文様		指定地()既存地< >丸底・ 備考	出土位置
				内面	外面		
1	土師器	环	(13.4) 12.3 <3.6>	ミガキ・黒色處理	ヨコナデ・体面ヘラケズリ→一部ミガキ	自転実測	土
2	土師器	环	(11.4) (10.5) 4.2	ミガキ・黒色處理	底部ヘラケズリ→ヨコナデヨコナデ	回転実測 残底	土
3	土師器	把手	-	-	ナデ	破片実測	土
No.	種別	材	最大径	最小径	厚度	所見	出土位置
4	鐵	鉄	11.7	0.7	0.5	<10.05> 一部欠損。形状不明。	土

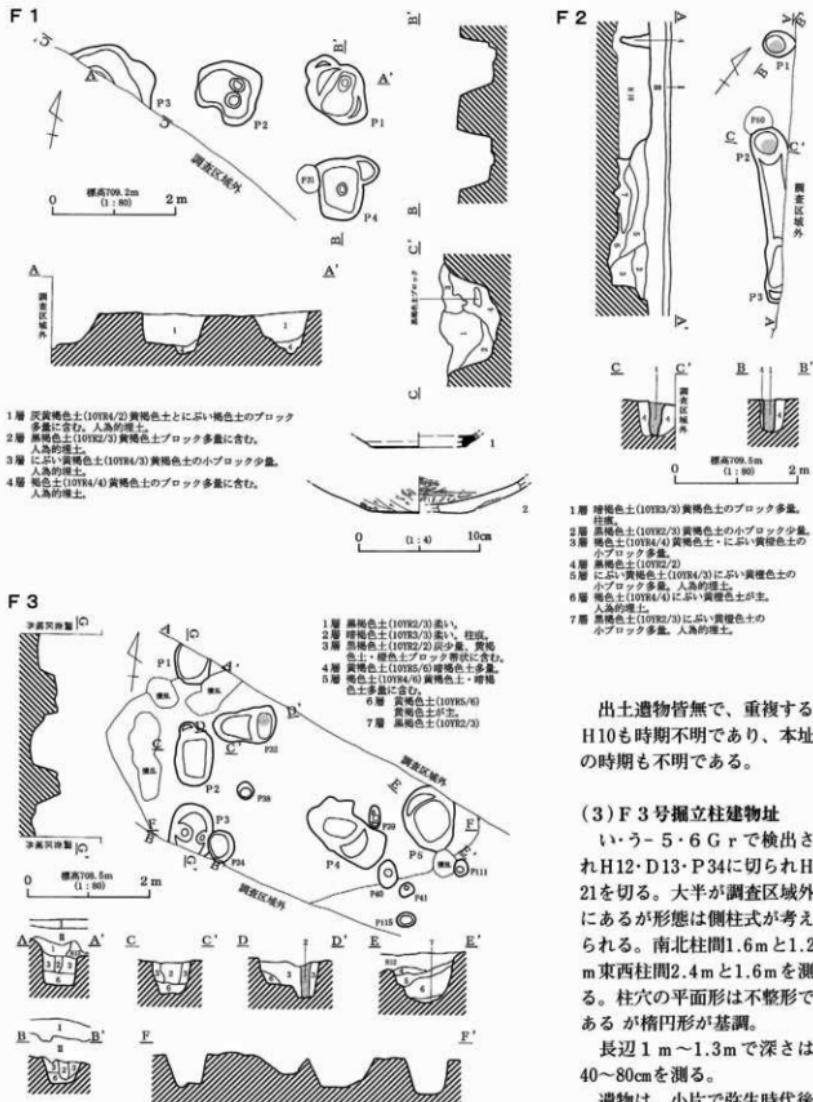
第2節 捜立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址

う-7・8 G rにあり、P31に切られる。大半が調査区域外にある。形態は側柱式と考えられる。南北軸方位はN-10°-W。南北柱間1.6東西柱間1.8mと2.2mを測る。柱穴の平面形は不整形であるが方形が基調、穴底に柱を固定したかのような径20~28cmの小穴がすべての柱穴に認められた。長辺1m前後で深さは60~80cm。遺物は1の底部ヘラナデされる土師器環、2の土師器壺がある。他に小片で弥生時代後期土器、須恵器、土師器、灰釉陶器があるが、これらの遺物での年代決定は困難である。

(2) F2号掘立柱建物址

せ-そ-19 G rで検出され、H10を切りP50に切られる。大半が調査区域外にあり、形態等不明。深さ56cmのP2と深さ60cmのP3が布掘状に連結される。径20cmの柱痕がP1とP2で確認された。



第44図 掘立柱建物址

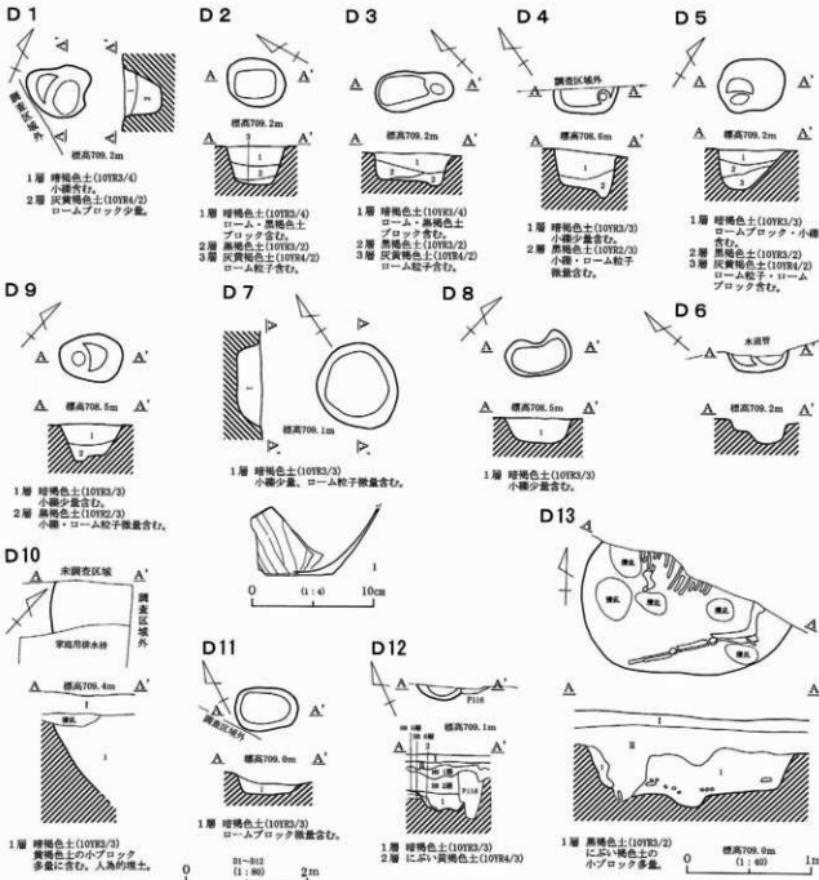
での年代決定は困難である。重複関係は、本址より後出のH12が9世紀後半、本址より先行のH21・H16が8世紀第1四半期であり、本址は8世紀第1四半期から9世紀後半と漠然と位置づけられる。

第3節 土坑

D 1号土坑 き-15G rで検出されH 1を切る。長軸長106cm短軸長90cm壁高は60cm長軸方位はN-90°-E。平面形楕円形、断面逆梯子形。土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明である。

D 2号土坑 く-15G rで検出され、H 1を切る。長軸長93cm短軸長80cm壁高591cm長軸方位はN-25°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期土器片・土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明である。

D 3号土坑 く-16G rで検出され、H 1を切る。長軸長128cm短軸長65cm壁高55cm長軸方位はN-55°-W。平面楕円形、断面テラス持つ逆梯形。土師器や須恵器小片出土したが、時期は不明である。



第45図 土坑

D 4号土坑 と-24G rで検出され、検出長軸長52cm短軸長20cm壁高59.5cm、長軸方位はN-55°-W。平面長方形、断面逆梯形底面東寄りに小ピット1基。土師器壺・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D 5号土坑 き-15G rで検出され、長軸長112cm短軸長82cm壁高81.5cm、長軸方位はN-55°-W。平面円形、断面逆梯形底面東寄りに小ピット1基。土師器壺・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D 6号土坑 く-15G rで検出され、検出長軸長95cm短軸長37cm壁高42cm、長軸方位はN-44°-W。平面梢円形、断面テラスを持つ逆梯形。土師器壺・甕小片出土したが、時期は不明。

D 7号土坑 か-14G rで検出されH 2を切る。長軸長73cm短軸長64cm壁高34cm、長軸方位はN-35°-E。平面円形、断面逆梯形。1の土師器甕等小片出土したが、H 2との関係もあり時期は決めかねない。

D 8号土坑 と-25G rで検出、長軸長55cm短軸長31cm壁高40cm、長軸方位はN-32°-E。平面梢円形、断面逆梯形。土師器壺・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D 9号土坑 て-26G rで検出、長軸長52cm短軸長40cm壁高64cm、長軸方位N-42°-E。平面梢円形、断面テラスを持つ逆梯形。弥生後期土器片・土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明。

D 10号土坑 た-20G rで検出され、H 26を切る。覆土人形埋土。汚水浸透保護のため検出範囲限定。壁高120cm以上、土師器・須恵器小片出土したが、時期は不明。

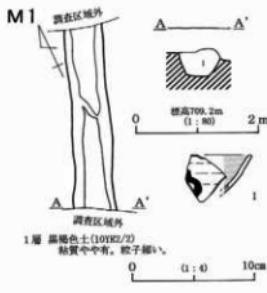
D 11号土坑 た-20G rで検出され、H 25・H 27を切る。長軸長53cm短軸長36cm壁高34cm、長軸方位はN-66°-W。平面梢円形、断面逆梯形。出土遺物皆無で時期は不明。H 27 (6 C中葉~7 C初頭)以降。

D 12号土坑 え-8G r検出されH 8・P 116に切られる。検出長軸長76cm短軸長22cm壁構高34cm、平面梢円形断面凹凸ある逆梯形。時期は重複関係から10世紀前半以前。

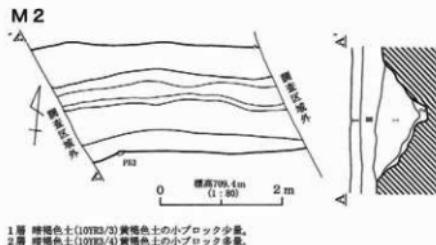
D 13号土坑 う-5G r検出され、H 12・H 16・F 2を切る。検出長軸長85cm短軸長44cm壁高25cm、長軸方位はN-86°-E。平面梢円形、断面中央に小ピットを持つ逆梯形。底面に接して木曾馬クラスの中型ウマのほぼ全身が埋納されていた。頭部・背部は調査区外にある。重複関係から9世紀後半より後出。

第4節 溝状遺構

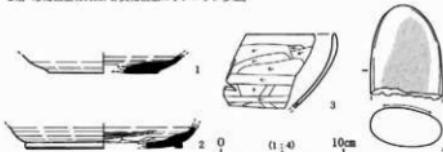
M 1号溝状遺構 う・え-20G rで検出南北調査区域外に伸びる。幅60~70cm、深さ15~28cm、北から南に傾斜する。断面は逆梯子形、10cm段差が見られる。遺物は土師器墨書きの壺・甕、須恵器壺の小片が出土したが、本址の時期比定の根拠とはならない。



第46図 M 1号溝状遺構



1層 黒褐色土(10YR3/3) 黄褐色土の小ブロック少量。
2層 黑褐色土(10YR3/4) 黄褐色土の小ブロック多量。



第47図 M 2号溝状遺構

第24表 M 1号・M 2号溝状遺構出土遺物観察表

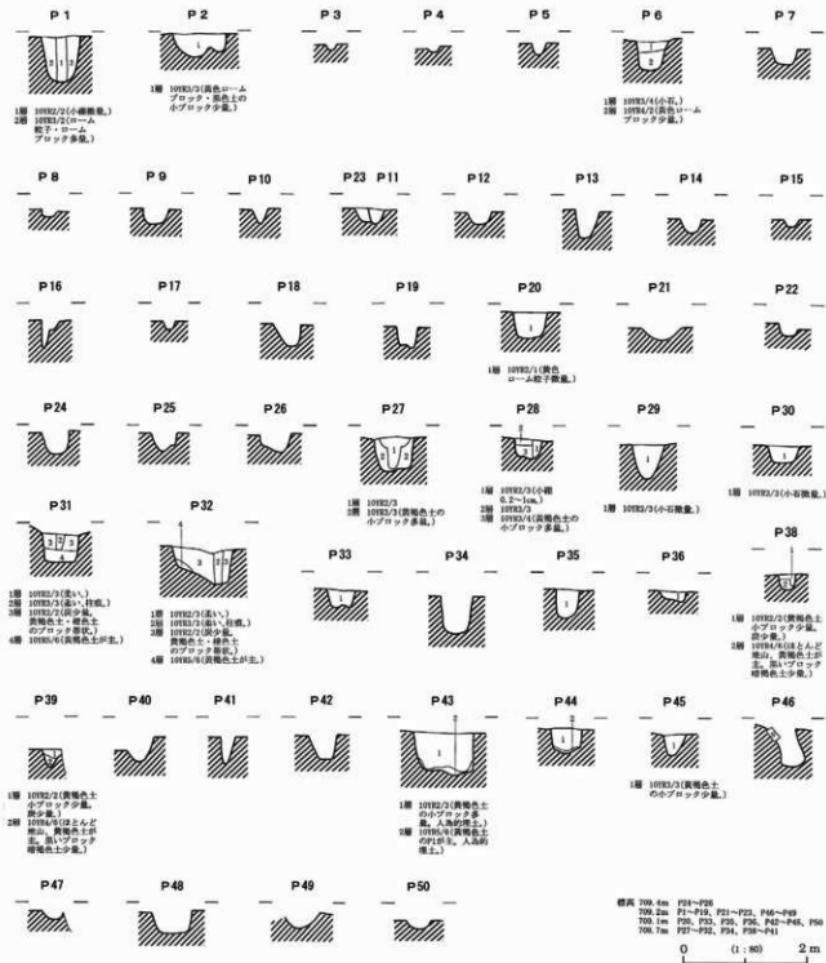
(cm)

No.	種別	基盤	法 管			成 形		崩 壊		文 標		堆積地()残存地 <→ 丸底・ 備 考	出土位置	
			口径(奥)	底径(奥)	高さ(奥)	内 面	外 面	壁	底	壁	底			
1	土師器	壺	-	-	-	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ	壁 破片実測	底 破片実測	基盤	底 破片実測	M1 土壺		
1	須恵器	壺	-	(8.9)	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部凹凸へアリ	回転実測	底 破片実測	あり	あり	M2 須恵器壺		
2	須恵器	青苔壺	-	(14.4)	<2.1>	ロクロナデ→ヘラナデ	ロクロナデ→底部凹凸へアリ	回転実測	底 破片実測	あり	あり	M2 須恵器壺		
3	土師器	鉢	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ→底部へアリ	回転実測	底 破片実測	あり	あり	M2 下鉢		
No.	器種	素 材	最大長	最大幅	最大厚	内 面	外 面	所	見	所	見	堆積地()残存地 <→ 丸底・ 備 考	出土位置	
4	磨石		<7.8>	<6.0>	<3.1>	<203.55>		下部欠損。正面にすり面。					M2	

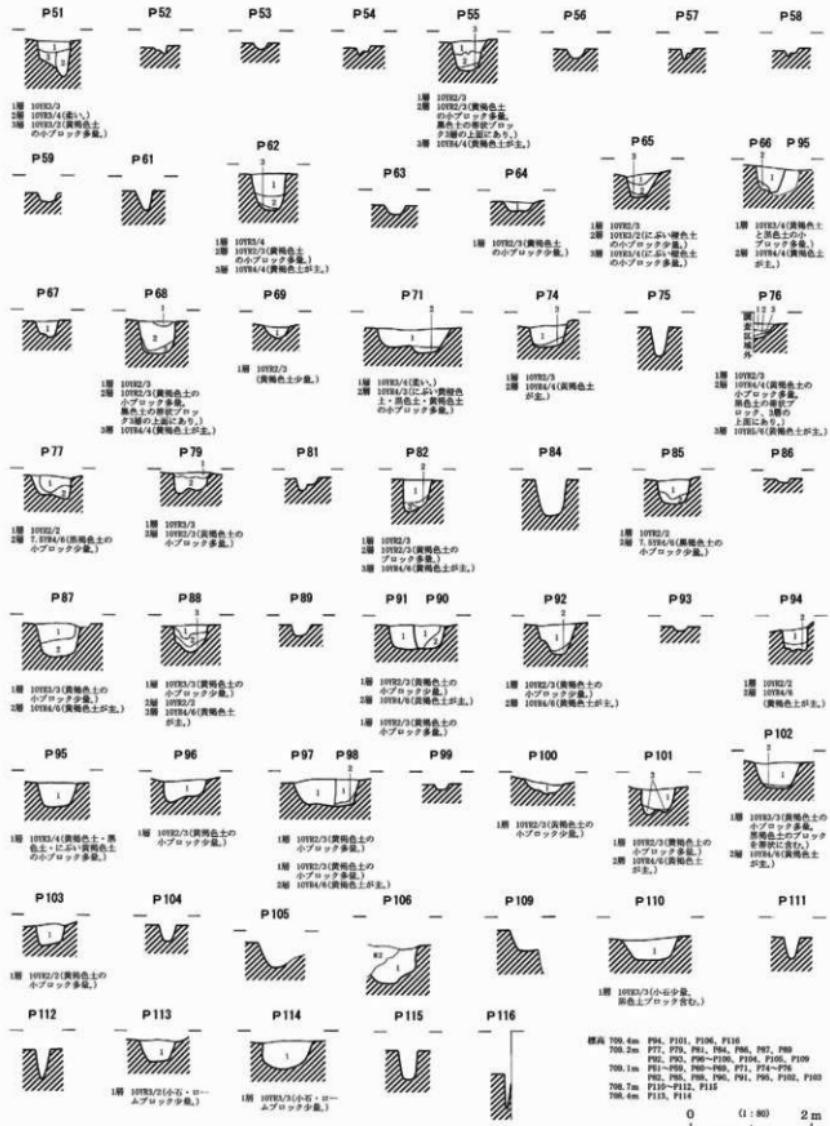
M2号溝状遺構 せ-18・19G rで検出され、東西の調査区域外に伸びる。H15に切られ、P106を切る。幅1.8m～2m深さ0.77m断面は「V」字形である。東から西へごく緩く傾斜する。流水の痕跡はない。遺物は8世紀代の土師器鉢3、須恵器壺1・有台壺2、磨石4がある。

第5節 ピット

ピットは113基が検出されM 2とF 2の周辺とH 4周辺に集中している。大概が柱穴だとみられる



第48図 ピット断面図(1)



第49図 ピット断面図(2)



第50図 ピット出土遺物

第25表 ピット出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 番			内 面	成 形・調 整・文 繕	外 面	測定値(測定部<>丸底)		出土地点
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)				幅(cm)	厚さ(cm)	
1	土師器	杯	(13.5)	6.4	4.7	ミガキ→黒色処理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実用 廉価	P32土	P32土	
2	土師器	环	-	-	-	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→体部ヘラケズリ	破片実用	P65土	P65土	
3	須恵器	有台环	-	(10.0)	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラケズリ→高台貼付	高台実用	P74土	P74土	
4	須恵器	蓋	(14.2)	-	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	高台実用	P74土	P74土	
No.	器種	材	最大径	最大幅	厚さ	所見					出土地点
5	磨石	鈍石	4.6	3.5	1.6	15.44	全体にサリ。正面に条痕。				P36土
6	青銅製金具	金具	3.0	2.7	0.8	23.07	琢磨形。				P61土
7	角釘	鉄	<6.7>	<0.6>	<0.4>	<5.35>	上矢欠損。				P87土
8	鉄軸	鉄	<7.3>	<0.3>	<0.25>	<11.7>	上矢欠損。				P97土

が、明確な建物址とは捉えられなかった。図示できた遺物は、P32から1の底部回転糸切りの土師器杯、P65から2のヘラケズリされる土師器杯、P74から回転ヘラケズリ調整ある須恵器有台环・蓋、P36から5の磨石、P61から6の銅製金具蛇尾、P87から7の鉄釘、P97から65の鉄角軸がある。

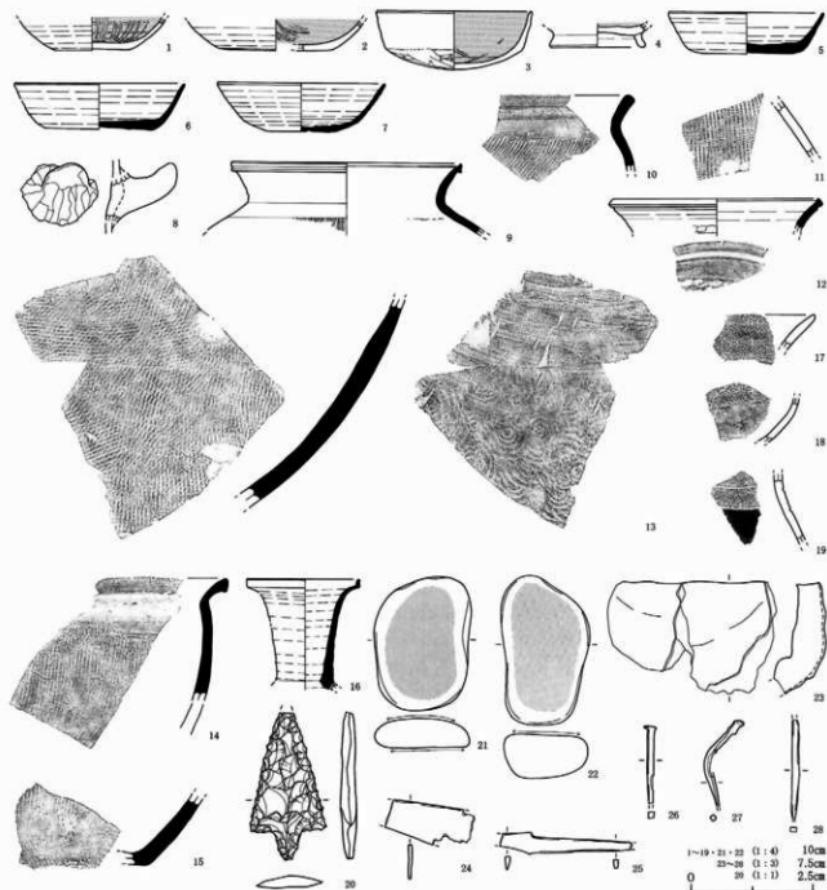
第6節 遺構外出土遺物

弥生時代後期、土師器・須恵器、石器、鉄器が出土した。

1～3は、内面黒色処理される土師器杯、1は底部回転糸切り、2はヘラナデ調整、3は須恵器杯蓋模倣である。4は底部回転糸切り後高台貼付で内面黒色処理される土師器碗。5～7は須恵器杯で、底部ヘラ切り・手持ちヘラケズリがみえる。9～14は須恵器甕、広口で短い口縁部を持つ鉢型の14、大型の13・15、頸部が括れ、口縁部が比較的短い9・10・12がある。16は、口縁部有段の長頸壺

第26表 遺構外出土遺物観察表

No.	種類	器種	法 番			内 面	成 形・調 整・文 繕	外 面	測定値(測定部<>丸底)		出土地点
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)				幅(cm)	厚さ(cm)	
1	土師器	杯	-	(6.0)	<2.7>	ミガキ→黒色底面	ロクロナデ→底部回転糸切り	回転実用	え-2		
2	土師器	杯	-	(9.0)	<2.5>	ミガキ→黒色底面	ロクロナデ→底部ナデ	回転実用	て-26		
3	土師器	杯	(12.8)	-	4.9	みごん部ヘラナデ→口縁部ヨコナデ→ヒガ	口縁部ヨコナデ→底部ヘラケズリ	回転実用	て-27		
4	土師器	瓶	-	(7.8)	<2.0>	ミガキ→黒色底面	ロクロナデ→底部ナデ	回転実用	お-12		
5	須恵器	甕	(12.9)	(8.2)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ナデ→底部ヘラ切り	回転実用 外面に人字引き	て-26		
6	須恵器	甕	(14.0)	8.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り後神持ナデヘラケズリ	完全実用 内外壁大だき	つ-25		
7	須恵器	甕	(13.8)	(5.7)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラナデヘラナデ	回転実用	て-26		
8	土器	手取	-	-	-	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実用	て-24		
9	須恵器	甕	(19.0)	-	<6.0>	ヨコナデ	瓶底タキ目→口縁部ヨコナデ	回転実用	つ-26		
12	須恵器	甕	(17.6)	-	<3.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→口縁部沈没を施す。瓶底ナデ	回転実用	つ-23		
13	須恵器	甕	-	-	-	当て具備	タキ目	新規実用	え-2		
15	須恵器	甕	-	-	-	ヨコナデ	瓶底タキ目→底部外西手持ちヘラケズリ→底底ナデ	新規実用	お-12		
16	須恵器	長頸甕	(9.3)	-	<9.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実用 内外壁に白絞付帯	お-12		
10	須恵器	甕	内面口縁部ヨコナデ・側面柱で直角後ヨコナデ。外壁口縁部ヨコナデ→瓶底タキ目。					後削	つ-24		
11	須恵器	甕	内面ヨコナデ。外壁 ダイヤモンド状削除。					新規実用	つ-25		
14	須恵器	甕	内面口縁部ヨコナデ・側面ヨコナデ・ハナナデ。外壁 口縁部ヨコナデ→瓶底タキ目。					新規実用	乙区		
17	須恵器	甕	内面ヨコナデ。外壁 削除状況。					後削	つ-23		
18	須恵器	甕	内面ヨコナデ。外壁 ダイヤモンド削除。					後削	つ-23		
19	須恵器	甕	内面ヨコナデ。外壁 三三三目・一部手持ちヘラ削除瓶子。					後削	つ-25		
20	石器	棒	<1.0>	1.6	0.3	<1.34>	先端打撲。			#110	
21	磨石	棒	1.0	8.0	2.4	368.85	正面打撲。			#23	
22	磨石	棒	12.3	7.4	3.6	567.54	正面打撲。			#23	
23	切削?	棒	<0.7>	<1.0>	<2.8>	<385.50>	上端部を口縁とする可能性か? 表面に新規付帯。			#23	
24	鋸?	棒	<0.5>	<2.4>	<0.25>	<5.70>	両端打撲。			#19	
25	刀子?	棒	<0.1>	1.4	0.4	<9.89>	両端打撲。			か-11	
26	角釘	鉄	<0.7>	0.7	0.4	<3.36>	下矢欠損。			#23	
27	角釘	鉄	<0.3>	0.8	<0.3>	<2.41>	一部欠損。			#26	
28	角釘?	鉄	<0.0>	<0.4>	<0.4>	<3.50>	上下欠損。			表#	



第51図 遺構外出土遺物

である。23は培塿であろうか、表面に砂礫が付着する。

石器は、磨石21・22、石鎌20があり、鉄器は24の鎌とみられるもの、刀子25、角釘26・27等がある。これらは、遺構確認時に出土し、遺構に帰属できなかったものである。

第27表 穴穴住居址一覧表

(残存個数)×(残存率) (cm)

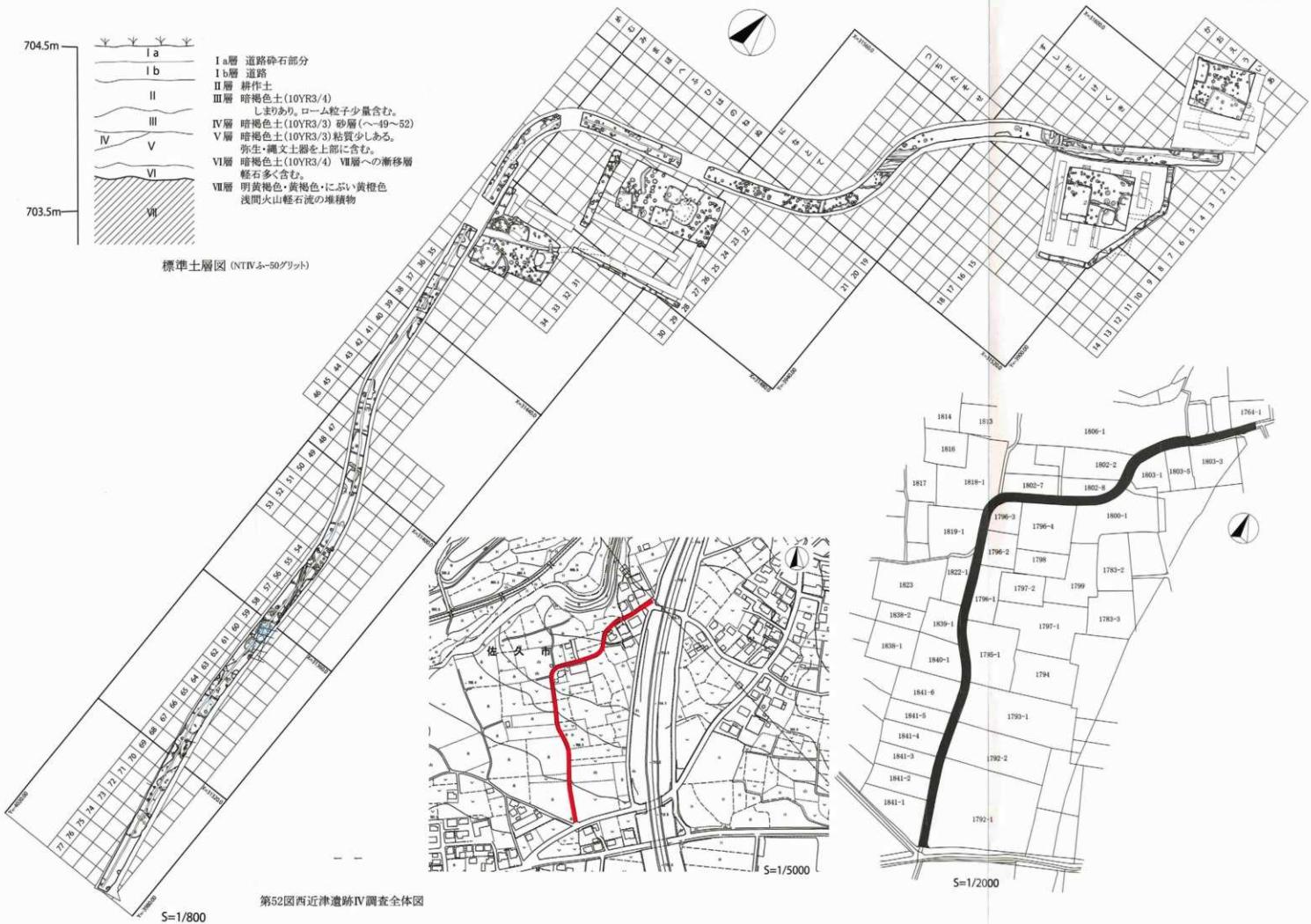
縦目	横出位置	平 面 図			主觀方位 (基準方位)	カマド (部)	柱穴規格 直径×高さ×	備考 壁厚・時間等		
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長	底壁				
丸丸方形 (南北輪長644)										
H1	き・く・け15 き・<16	(474)	(78)	-	(570)	77	N-13° -W	カマド 北壁中央	P1 90×50×35 P2 76×45×52 P3 46×38 x11 P4 34×32×12	D1～D3-P1-P6に切られ、P24を切る。
丸丸方形 (南北輪長486)										
H2	か・13・14 き・14・15	(358)	(54)	-	(372)	63	N-24° -W	北壁中央	P1 54×50×60 P2 <46>×<24>×59 P3 76×44×70 P4 34×22×23	D7-P20に切られ、H7を切る。
長方形 (南北輪長624)										
H3	か・13 き -12・13・14 <-13・14	(90)	(646.0)	616	-	58	N-19° -W	-	P1 柱直26 76×<44>×53	H4に切られ、H20とP109を切る。南壁に張出し版。
丸丸方形 (512)										
H4	お・12・13 か・11～13 き・12	(268)	(350)	(410)	(482)	46	N-13° -W	-	P1 <22>×22×44 P2 32×28×33 P3 34× 32×41 P4 16×12×10 P5 22×8×7 P6 28×20×7 P7 40×12×16	P4-P7～P17-P22、 P23-P35-P24に切られ、H3を切る。
丸丸方形 (南北輪長286)										
H5	け・こ・17	(88)	(60)	252	-	69	N-40° -W	-		
丸丸方形 ? (東西輪長690)										
H6	え・お・9- 10-11	610	-	(102)	(315)	43	N-8° -E	北壁中央	P1 柱直30 84×74×75 P2 柱直30 <45>× 70×66 P3 56×44×32 P4 24×20× P5 <14>×<10>×<10>	H9を切る。
丸丸方形 ?										
H7	き・<14- 15	(310)	(40)	(345)	(240)	48	N-5° -W	北壁西寄り	P1 <38>×40×8 P2 30×<18>×13 P3 106×76×23	H2-P49に切られる。
丸丸方形 ?										
H8	え-8	-	(216)	(118)	-	11		-		D20-P116に切られる。
丸丸方形 ? (東西輪長612)										
H9	お・9-10-11 か・10-11	-	(376)	(148)	(400)	67	N-45° -W	-	P1 78×60×78 P2 22×19×30	H6-H7に切られる。 南壁に張出し版。
方形?										
H10	そ・19	(44)	-	(282)	-	36		-		F2に切られ、P50を切る。
丸丸方形?										
H11	う-6-7	(250)	-	-	(270)	36	N-25° -W	北壁	P1 74×48×25 P2 36×<16>×7	P27-P28を切る。
丸丸方形 (南北輪長436)										
H12	い・う-5-6	(210)	(300)	(200)	(30)	17	S-25° -E	南壁東西寄り		D13-P40に切られ、 H16-H21-F3-P32、 P38-P39を切る。
方形 (東西輪長406)										
H13	つ-22-23	(310)	(230)	(140)	(180)	90	S-30° -W	西壁北寄り	P1 30×16×15 P2 24×22×18 P3 24×16 X11 P4 26×18×12	H14を切る。
方形 (東西輪長376)										
H14	つ-23-24 -t-23	346	(90)	(120)	(188)	58	N-70° -E	東壁北寄り		H13に切られる。
方形?										
H15	す・せ-18- 19	-	<100>	<120>	-	13		-		M2-P88に切られる。
方形?										
H16	い-5	(174)	-	(64)	-	36	N-15° -W	北壁中央		H12-H21-P40に切られる。
方形?										
H17	お-9-10 か-10	-	(204)	(224)	-	48		-	P1 40×30×60 P2 54×34×60 P3 (20)×32 X(5)	H9を切る。
丸丸方形?										
H18	つ-24-25 -t-25	(460)	-	-	(480)	72	N-20° -W	北壁	P1 124×96×97 P2～P7は壁柱突。床面から の深さP2が41 P3が26 P4が13 P5が22 P6が25 P7が37	H19を切る。壁柱穴。
方形?										
H19	つ-24	(120)	-	-	(230)	57	N-20° -W	-	P1 <40>×34×26	H18に切られる。
?										
H20	き・<-14					20		-	P1 <104>×<34>×50 P2 36×30×15	H3-H7に切られる。
丸丸方形?										
H21	い-4-5	(180)	-	(100)	-	26	N-23° -W	-		H12-F3-P41-P111- P112-P115に切られ、 H16を切る。
丸丸方形?										
H22	て・こ-27	-	(60)	-	(260)	61	N-80° -E	東壁	P1 60×44×53	H23を切る。
丸丸方形?										
H23	と・な-26- 27	-	(90)	-	(160)	42	N-20° -W	北壁	P1 <40>×<40>×34 P2 32×22×20 P3 34×30×27	H22に切られる。
丸丸方形?										
H24	ち-21-22	(230)	(224)	268	-	45	N-40° -W	北壁	P1 36×26×17 P2 46×22×13 P3 <30>× <20>×<17> P4 42×36×23	H25を切る。
方形? (南北輪長660)										
H25	た-20-21 -t-21-22	(44)	(104)	-	-	30	N-30° -W	-	P1 <68>×52×56 P2 92×56×44 P3 <24>×68×64	H24-H26に切られる。
丸丸方形?										
H26	た・ち-20- 21	-	(188)	500	-	86	N-15° -W	-	P1～P3壁柱穴。住居址上端からの深さP1 51 P2 44 P3 16	H25を切る。D10- P73-P74に切られる。
丸丸方形?										
H27	そ-20	(110)	(50)	-	270	63	N-20° -W	北壁		D11-P65-P66-P95 に切られる。

第28表 西近津遺跡Ⅲ土坑一覧表

番号	位置	平面図	長軸方位	長軸幅 (mm)	短軸幅 (mm)	深度	測量(直角座標系上に算出)		番号	平面図	長軸方位	長軸幅 (mm)	短軸幅 (mm)	深度	測量(直角座標系上に算出)		番号	平面図	長軸方位	長軸幅 (mm)	短軸幅 (mm)	深度					
							北	東							北	東											
D1	西15	海浜	N90°-E	105	90	60	110.0	11.2	108	2.25	110.0	11.2	55	31	40	110.0	11.2	108	2.25	110.0	11.2	55	31	40	110.0	11.2	55
D2	<15	海浜	N75°-W	93	80	59	110.0	11.2	109	2.26	110.0	11.2	52	40	63.5	112.0	11.2	109	2.26	110.0	11.2	52	40	63.5	112.0	11.2	52
D3	<16	海浜	N75°-W	128	65	55	110.0	11.2	109	2.27	110.0	11.2	-	-	-	<12	<12	109	2.27	110.0	11.2	-	-	-	<12	<12	109
D4	西15	河川	N26°-E	112	80	61	110.0	11.2	109	2.28	110.0	11.2	52	25	34	110.0	11.2	109	2.28	110.0	11.2	52	25	34	110.0	11.2	52
D5	西15	河川	N26°-E	112	80	61	110.0	11.2	109	2.29	110.0	11.2	52	25	34	110.0	11.2	109	2.29	110.0	11.2	52	25	34	110.0	11.2	52
D6	<15	海浜	N44°-W	95	37	42	110.0	11.2	109	2.30	110.0	11.2	85	44	25	110.0	11.2	109	2.30	110.0	11.2	85	44	25	110.0	11.2	85
D7	<14	河川	N35°-E	73	64	34	110.0	11.2	109	2.31	110.0	11.2	-	-	-	-	-	109	2.31	110.0	11.2	-	-	-	-	-	-

第29表 西近津遺跡Ⅲピット一覧表

番号	地名	面積×周囲	番号	面積×周囲	番号	地名	面積×周囲	番号	地名	面積×周囲	番号	地名	面積×周囲	番号	地名	面積×周囲	番号	地名	面積×周囲	番号	地名	面積×周囲	
1	さ15	(144x65)	110/2/3-110/2/4	61	51	34x31	110/2/5-110/2/6	62	51	34x31	110/2/7-110/2/8	63	51	34x31	110/2/9-110/2/10	64	51	34x31	110/2/11-110/2/12	65	51	34x31	110/2/13-110/2/14
2	1116	94x43.5	F21を切らす。土壁斜傾斜。基。109/3-109/2/1	62	51	34x31	110/2/14-110/2/15	63	51	34x31	110/2/16-110/2/17	64	51	34x31	110/2/18-110/2/19	65	51	34x31	110/2/20-110/2/21	66	51	34x31	110/2/22-110/2/23
3	か13	18x11	H4を切らす。	63	51	34x31	H4を切らす。	64	51	34x31	H4を切らす。	65	51	34x31	H4を切らす。	66	51	34x31	H4を切らす。	67	51	34x31	H4を切らす。
4	か12	19x11.5	H4を切らす。	68	51	34x31	H4を切らす。	69	51	34x31	H4を切らす。	70	51	34x31	H4を切らす。	71	51	34x31	H4を切らす。	72	51	34x31	H4を切らす。
5	か13	30x21	H4を切らす。	73	51	34x31	H4を切らす。	74	51	34x31	H4を切らす。	75	51	34x31	H4を切らす。	76	51	34x31	P71を切らす。	77	51	34x31	P71を切らす。
6	か15	56x48	H4を切らす。内門跡。	78	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	79	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	80	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	81	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	82	51	34x31	H4を切らす。内門跡。
7	か13	42x30	H4を切らす。	83	51	34x31	H4を切らす。	84	51	34x31	H4を切らす。	85	51	34x31	H4を切らす。	86	51	34x31	H4を切らす。	87	51	34x31	H4を切らす。
8	か13	28x13	H4を切らす。	88	51	34x31	H4を切らす。	89	51	34x31	H4を切らす。	90	51	34x31	H4を切らす。	91	51	34x31	H4を切らす。	92	51	34x31	H4を切らす。
9	か12	43x25	H4を切らす。内門跡。	93	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	94	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	95	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	96	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	97	51	34x31	H4を切らす。内門跡。
10	か13	27x26	H4を切らす。	98	51	34x31	H4を切らす。	99	51	34x31	H4を切らす。	100	51	34x31	H4を切らす。	101	51	34x31	H4を切らす。	102	51	34x31	H4を切らす。
11	か12	31x28	H4を切らす。	103	51	34x31	H4を切らす。	104	51	34x31	H4を切らす。	105	51	34x31	H4を切らす。	106	51	34x31	H4を切らす。	107	51	34x31	H4を切らす。
12	か12	43x20	H4を切らす。	108	51	34x31	H4を切らす。	109	51	34x31	H4を切らす。	110	51	34x31	H4を切らす。	111	51	34x31	H4を切らす。	112	51	34x31	H4を切らす。
13	か12	41x25.5	H4を切らす。内門跡。	113	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	114	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	115	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	116	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	117	51	34x31	H4を切らす。内門跡。
14	か12	40x35	テラスあり。	118	51	34x31	テラスあり。	119	51	34x31	テラスあり。	120	51	34x31	テラスあり。	121	51	34x31	テラスあり。	122	51	34x31	テラスあり。
15	か12	40x34	H4を切らす。	123	51	34x31	H4を切らす。	124	51	34x31	H4を切らす。	125	51	34x31	H4を切らす。	126	51	34x31	H4を切らす。	127	51	34x31	H4を切らす。
16	か12	30x48	テラスあり。アラスあり。	128	51	34x31	テラスあり。アラスあり。	129	51	34x31	テラスあり。アラスあり。	130	51	34x31	テラスあり。アラスあり。	131	51	34x31	テラスあり。アラスあり。	132	51	34x31	テラスあり。アラスあり。
17	か12	21x14	H4を切らす。内門跡。	133	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	134	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	135	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	136	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	137	51	34x31	H4を切らす。内門跡。
18	か12	16x36	F21を切らす。	138	51	34x31	F21を切らす。	139	51	34x31	F21を切らす。	140	51	34x31	F21を切らす。	141	51	34x31	F21を切らす。	142	51	34x31	F21を切らす。
19	か12	40x35	テラスあり。	143	51	34x31	テラスあり。	144	51	34x31	テラスあり。	145	51	34x31	テラスあり。	146	51	34x31	テラスあり。	147	51	34x31	テラスあり。
20	か14	56x48	H4を切らす。	148	51	34x31	H4を切らす。	149	51	34x31	H4を切らす。	150	51	34x31	H4を切らす。	151	51	34x31	H4を切らす。	152	51	34x31	H4を切らす。
21	か11	66x21	H4を切らす。	153	51	34x31	H4を切らす。	154	51	34x31	H4を切らす。	155	51	34x31	H4を切らす。	156	51	34x31	H4を切らす。	157	51	34x31	H4を切らす。
22	か12	32x23.5	H4を切らす。内門跡。	158	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	159	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	160	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	161	51	34x31	H4を切らす。内門跡。	162	51	34x31	H4を切らす。内門跡。
23	か12	16x24	F11を切らす。内門跡。	163	51	34x31	F11を切らす。内門跡。	164	51	34x31	F11を切らす。内門跡。	165	51	34x31	F11を切らす。内門跡。	166	51	34x31	F11を切らす。内門跡。	167	51	34x31	F11を切らす。内門跡。
24	か16	50x37	内門跡。	168	51	34x31	内門跡。	169	51	34x31	内門跡。	170	51	34x31	内門跡。	171	51	34x31	内門跡。	172	51	34x31	内門跡。
25	か16	44x25.5	F21を切らす。内門跡。	173	51	34x31	F21を切らす。内門跡。	174	51	34x31	F21を切らす。内門跡。	175	51	34x31	F21を切らす。内門跡。	176	51	34x31	F21を切らす。内門跡。	177	51	34x31	F21を切らす。内門跡。
26	か16	47x35	H4を切らす。	178	51	34x31	H4を切らす。	179	51	34x31	H4を切らす。	180	51	34x31	H4を切らす。	181	51	34x31	H4を切らす。	182	51	34x31	H4を切らす。
27	か16	50x25.5	H4を切らす。	183	51	34x31	H4を切らす。	184	51	34x31	H4を切らす。	185	51	34x31	H4を切らす。	186	51	34x31	H4を切らす。	187	51	34x31	H4を切らす。
28	か16	47x35	H4を切らす。	188	51	34x31	H4を切らす。	189	51	34x31	H4を切らす。	190	51	34x31	H4を切らす。	191	51	34x31	H4を切らす。	192	51	34x31	H4を切らす。
29	か16	47x35	H4を切らす。	193	51	34x31	H4を切らす。	194	51	34x31	H4を切らす。	195	51	34x31	H4を切らす。	196	51	34x31	H4を切らす。	197	51	34x31	H4を切らす。
30	か16	47x35	H4を切らす。	198	51	34x31	H4を切らす。	199	51	34x31	H4を切らす。	200	51	34x31	H4を切らす。	201	51	34x31	H4を切らす。	202	51	34x31	H4を切らす。
31	か17	40x42	アラスあり。	203	51	34x31	アラスあり。	204	51	34x31	アラスあり。	205	51	34x31	アラスあり。	206	51	34x31	アラスあり。	207	51	34x31	アラスあり。
32	か16	50x64	H4を切らす。	208	51	34x31	H4を切らす。	209	51	34x31	H4を切らす。	210	51	34x31	H4を切らす。	211	51	34x31	H4を切らす。	212	51	34x31	H4を切らす。
33	か12	66x29	アラスあり。	213	51	34x31	アラスあり。	214	51	34x31	アラスあり。	215	51	34x31	アラスあり。	216	51	34x31	アラスあり。	217	51	34x31	アラスあり。
34	か12	50x64	H4を切らす。	218	51	34x31	H4を切らす。	219	51	34x31	H4を切らす。	220	51	34x31	H4を切らす。	221	51	34x31	H4を切らす。	222	51	34x31	H4を切らす。
35	か12	48x34	H4を切らす。	223	51	34x31	H4を切らす。	224	51	34x31	H4を切らす。	225	51	34x31	H4を切らす。	226	51	34x31	H4を切らす。	227	51	34x31	H4を切らす。
36	か12	48x34	H4を切らす。	228	51	34x31	H4を切らす。	229	51	34x31	H4を切らす。	230	51	34x31	H4を切らす。	231	51	34x31	H4を切らす。	232	51	34x31	H4を切らす。
37	か12	48x34	H4を切らす。	233	51	34x31	H4を切らす。	234	51	34x31	H4を切らす。	235	51	34x31	H4を切らす。	236	51	34x31	H4を切らす。	237	51	34x31	H4を切らす。
38	か12	48x34	H4を切らす。	238	51	34x																	

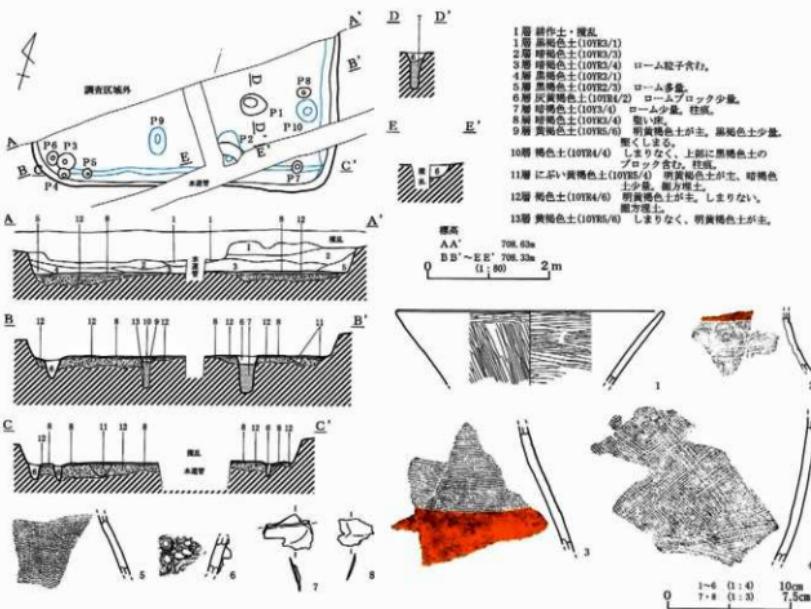


第三章 西近津遺跡IV

第1節 穫穴住居址

(1) H 1号住居址

おかー4Grにある。ピットは10個検出された。東西に長い長径30cm短径20cmを測る五平状の柱痕が確認されたP1は主柱穴とみられる。P10は床下から検出され、南北に長い長径30cm短径12cmを測る五平状の柱痕が確認された。P2は出入口施設であろうか。敲き床の床面は堅く平坦である。



第53図 H 1号住居址

第30表 H 1号住居址出土遺物観察表

No.	種類	材質	口径(奥) 底径(奥) 高さ(奥)	内面	外側	肯定値()存査値 < 2孔底 ×	
						横	縦
1	弥生土器	陶	(22.0) - <6.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	日本実測	No.2
2	弥生土器	陶	内面:ナデ、外面:ヘラ括線文+ヘラ船鉈走文+赤色墨彩			後期	層土
3	弥生土器	陶	内面:ナデ、外面:複雜模印文+赤色墨彩			後期	層土
4	弥生土器	陶	内面:ヘラミガキ、外面:複雜模印文			後期	No.1
5	弥生土器	陶	内面:ヘラミガキ、外面:複雜模印文+櫛波状文			後期	層土
6	縄文土器	深鉢	8字形文から弧状の切跡。			昭和内1	層土
7	不明	鐵	大<3.0> <2.1> <0.25> <1.80> 2片が貼りついている。同一個体か?				出土位置
8	不明	鐵	小<2.1> <1.6> <1.0> <0.55> 2片が貼りついている。同一個体か?				出土位置

遺物は無彩の壺(1)、赤彩の壺(2・3)、甕(4・5)の弥生土器、不明鉄器、本址に伴わない縄文時代後期前葉の堀之内2式深鉢片がある。栽培種の炭化したモモが3個検出された。内1個に種子がみ

られた。1・4が床面から出土した。

2の壺頸部にはヘラ描横走文の区画内にヘラ描斜走文、3の壺頸部には櫛描横走文が施文される。3の甕には櫛描波状文が、4の甕には櫛描斜走文が雜な格子目状に施文される。

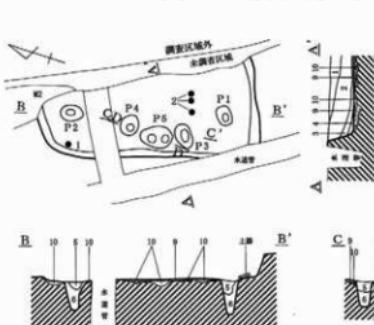
本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(2) H 2号住居址

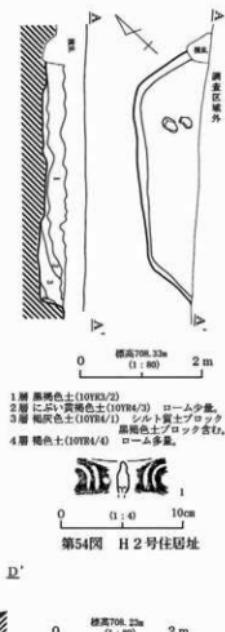
き・し-7・8 G r にある。底面は凸凹し、敲き締まった状態ではなく、平面形も方形・円形ではない。竪穴住居址として扱つたが他の用途を考慮しなければならない。出土遺物は、縄文時代後期前葉の堀之内2式深鉢片1点のみである。本址の時期等不明である。

(3) H 3号住居址

き-4・5 G r にありM 2に切られる。ピットは5個検出された。



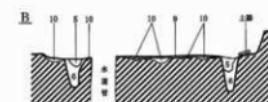
P 1・P 2は主柱穴とみられる。P 3・P 4・P 5は南壁下にあり出入り口の施設であろう。敲き床の床面は堅く平坦で



1層 黒褐色土(10YR2/2)
2層 にじく黄褐色土(10YR4/2) ローム少量。
3層 黄褐色土(10YR4/1) シルト土ブロック
4層 黒褐色土(10YR4/4) ローム多量。



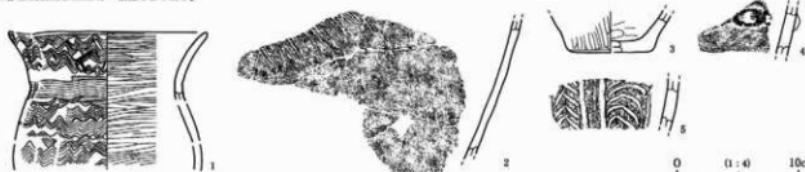
第54図 H 2号住居址



6層 單褐色土(10YR2/3) しまりない。
7層 にじく黄褐色土(10YR4/3) ローム多量。
8層 黄褐色土(10YR4/2) ローム少量。
9層 底黄褐色土(10YR4/2) ローム含む。
10層 黒褐色土(10YR4/4) ローム主。粘土層土。



0 標高708.23m (1:80) 2m



0 標高708.23m (1:80) 2m

第55図 H 3号住居址

第31表 H 3号住居址出土遺物観察表

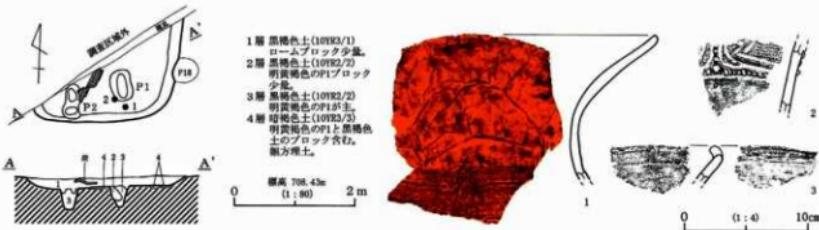
No.	種類	器種	口径(厘)	底径(厘)	高さ(厘)	内 面	外 面	規定値()	
								残存値	<丸底>
1	弥生土器	壺	16.3	-	<11.4>	ヘラミガキ	櫛描波状文・櫛細縞状文	完全実測	No.2 2
2	弥生土器	壺	-	(7.0)	<3.4>	ヘラナデ	ヘラミガキ	回転実測	壺土
3	弥生土器	壺	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	弥生後期	No.3-4-5
4	縄文土器	深杯	-	-	-	櫛描斜走文	櫛描斜走文	後神奈半	II区覆土
5	縄文土器	深杯	-	-	-	縁部の沈線、追汎縫文・強沈縫	縁部の沈線、追汎縫文・強沈縫	中間後半	II区ホリ方

ある。遺物は壺(3)、甕(1・2)の弥生土器、本址に伴わない縄文時代中期後半・後期前半の深鉢片がある。1は櫛描波状文の後櫛描縦状文、2は櫛描斜走文が施文される。

本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(4) H 4号住居址

う-2 G r にあり P18 に切られる。ピットは 3 個検出された。P1・P2 は主柱穴とみられる。全体に床面は平坦、P1・P2 間は特に堅く敲き締められている。1 層には幅 12cm 長さ 60cm の板状の炭



第56図 H 4号住居址

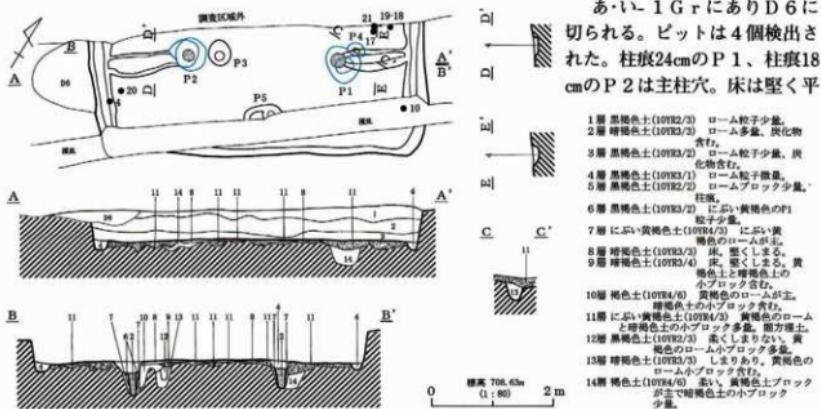
第32表 H 4号住居址出土遺物観察表

(cm²)

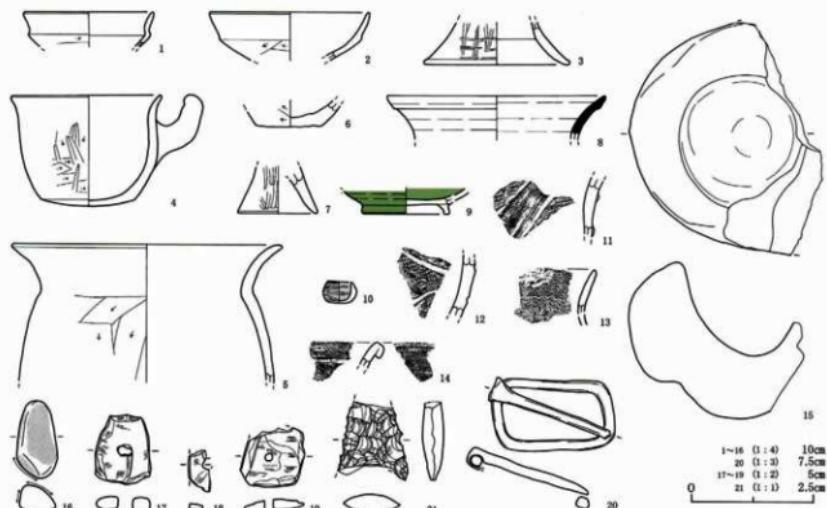
No.	層別	断面	成形・調査・文様	層号	出土位置
1	弥生土器	壺	櫛描 T 文字。赤色塗彩		弥生後期箱清水 No.1
2	縄文土器	深鉢	横位刻み縦帶の円形貼付文から上方に刻み縦帶。2条の沈鉢。縄文LR。		縄之内1 No.3
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折		縄之内1 瓢土

化材がみられた。遺物は、1 の赤色塗彩され頸部に櫛描 T 文字の壺、本址に伴わない縄文時代後期前葉堀之内 1 式の深鉢片がある。本址は、少ない出土遺物であるが弥生時代後期箱清水期に位置づけよう。

(5) H 5号住居址



第57図 H 5号住居址(1)



第58図 H 5号住居址(2)

第33表 H 5号住居址出土遺物観察表

(cm·g)

No.	種別	形 型	成 形・調 整・文 標		指定値()既存値(<)允許値()	備考	出土位置	
			内 面	外 面				
1	土師器	环 (10.6)	-	<2.9>	ヨコナデ	東部ハラケズリ	回転実測 I区 腹区	
2	土師器	环 (13.0)	-	<4.0>	ヨコナデ	ヨコナデ、底部ハラケズリ	回転実測 I区 腹土	
3	土師器	高环 - (12.0)	-	<3.5>	ヨコナデ	ハラミガキ	回転実測 I区 ホリ方	
4	土師器	把手付鉢 12.3	7.5	9.1	ヨコナデ	ハラケズリ→ハラミガキ	完全実測 II区 No.6	
5	土師器	把手付鉢 (21.1)	-	<11.3>	口边缘ヨコナデ	ハラケズリ→口边缘ヨコナデ	回転実測 II区 腹土	
6	土師器	甕 -	5.4	<2.1>	ナデ	ハラケズリ	完全実測 II区 腹土	
7	土師器	台付甕 - (6.4)	-	<3.8>	ヨコナデ	ハラミガキ	回転実測 II区 腹土	
8	須磨器	甕 (18.0)	-	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測 II区 腹土	
9	灰陶器	甕 - (7.0)	-	<2.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→高台貼付→灰陶施釉	回転実測 II区 腹土	
10	ニゴマ付	甕 2.0	2.0	1.6	ヘラミガキ+黒色処理	ヘラミガキ+黒色処理	完全実測 No.5	
11	須磨器	深鉢	海陸紀帶文下をなぞる施跡。縞文LR。				中帶泥漿 III区 腹土	
12	須磨器	深鉢	波線間に縞文LR。				中帶泥漿 III区 腹土	
13	弥生土器	甕	ヘラミガキ。巻邊波状文→押捺痕状文。				後期能清水 II区 腹土	
14	弥生土器	甕	ヘラミガキ。折り返し口縁部に押捺波状文。巻邊波状文。				後期能清水 II区 腹土	
No.	種 別	材 質	重 量	最 大	高 度	重 量	所 見	出 土 位 置
15	凹石		<19.0>	<15.8>	高さ <13.5>	<2740>	凹面 (11.0)。凹深 <7.7>。右側欠損。	腹土
16	磨石		6.3	3.3	2.3	64.66	正面・側面にすり面。	II区 腹土
17	石製模造品	滑石	2.9	2.2	0.6	7.16	孔径 0.4と0.3が合体か。	No.3
18	石製模造品	滑石	<1.7>	<0.9>	<0.25>	<0.59>	孔底 指定(0.4)。左側以外欠損。	No.1
19	石製模造品	滑石	<2.4>	<2.6>	<0.5>	<4.29>	孔底0.3。上部欠損。	No.2
20	鉱具	鉄	7.7	4.5	1.3	52.08		腹土
21	石礫	黒耀石	<1.5>	<1.4>	0.4	<0.96>	先端・基部欠損。	No.4

坦。東壁・西壁下を壁溝が巡る。P 1 と P 2 から東壁と西壁に間仕切り溝が伸びる。P 6 は出入り口施設であろうか。2・3層中には炭化物が確認された。

遺物は土師器須恵器壺蓋模倣の環1・2、高环3、把手付鉢4、甕5・6、台付鉢7?、内面黒色處

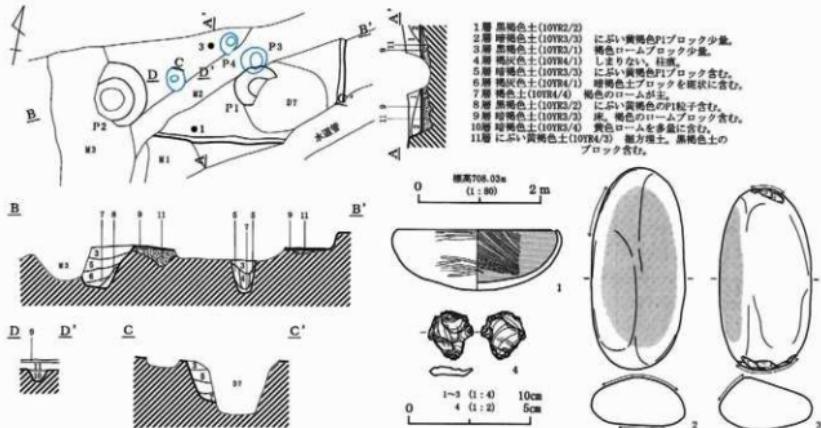
理されるミニチュア鉢、須恵器甕8、鉄製品鉗具20、滑石模造品17~19、凹石15、磨石16、混入遺物の灰釉陶器碗9、石鎌21、縄文中期後葉深鉢片、弥生後期甕片が出土した。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期~7世紀代に位置づけられる。

(6) H 6号住居址

く・け-5・6Grにあり、M1・M2・M3・D7に切られる。ピットは5個検出された。P1・P2が主柱穴とみられる。径20cmの柱痕が確認されたP3は、P1より古い。P4・P5は掘方で検出された。全体に床面は堅く平坦。

遺物は、半球状の内面黒色処理される土器器底1、磨面を持つ敲石2・3、2次加工のある剥片が出土した。本址の時期は、出土遺物少量で不明と言わざるを得ない。



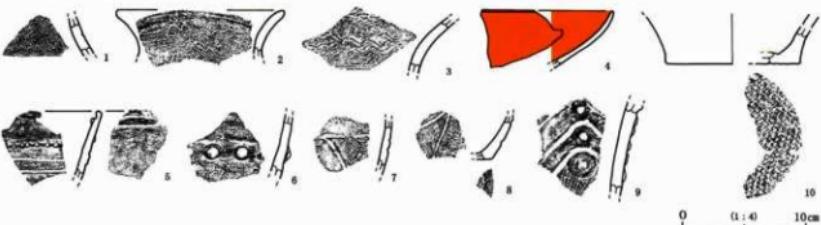
第59図 H 6号住居址

第34表 H 6号住居址出土遺物観察表

(cm-g)

No.	種別	寸法	成形・調整・文様				測定値	残存割合	< >丸底	出土地
			内面	外	面	側				
1	土器器底	11.2	5.0	白かなべラミガキ→黒色處理	ヘラミガキ		完全焼失			No.2
2	磨・擦石	16.5	7.7	4.1	810.91	左側に敲打痕。正面にすり面。				No.3
3	磨・敲石	14.9	7.4	4.5	764.09	上下端部に敲打痕。正面にすり面。				No.1
4	二次加工の ある剥片	2.0	1.8	0.4	1.28	正面に2次加工。				I部覆土

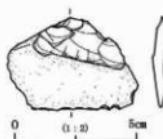
(7) H 7号住居址



第60図 H 7号住居址(1)

第35表 H 7号住居址出土遺物観察表

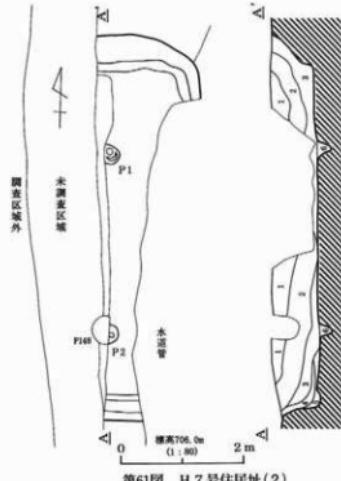
No.	種別	断面	文様・網目			備考	(cm·g)
			内面	外面	裏面		
1	弥生土器	壺	内面 ナデ。外面 ヘラ描斜走文内にヘラ描斜走文。			後期	覆土
2	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外面 縦描波状文。			後期	覆土
3	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外面 縦描波状文→網目織状文。			後期	覆土
4	弥生土器	鉢	内面 ヘラミガキ。外面 縦描波状文→赤色塗彩。			後期	覆土
5	縄文土器	深鉢	口縁下に横位羽み縁線 平行次線間に縄文LR充填。内面 口縁に沿う2条の沈線。			縄文初頭～前葉	覆土
6	縄文土器	深鉢	横位羽み縁帶。			後期初頭～前葉	覆土
7	縄文土器	深鉢	北壁区画内に残存。			名号?	覆土
8	縄文土器	深鉢	露状・斜位の沈線。異文LR。肩代底。			名号?	覆土
9	縄文土器	深鉢	3個のボタン突起開口左右に斜位に垂下する沈線。異文LR充填。			縄文初葉～前葉	覆土
10	縄文土器	深鉢	肩代底。2本と2本通り。底部縫合にC別の縫合2本と2溝。			後期前半	覆土
11	スクリーパー		3.8	5.3	0.5	12.25	下辺に使用痕か。



1層 黒褐色土(10YR3/2) 小窓・ロームブロック含む。
人為堆土。
2層 黒褐色土(10YR4/3) ローム粘土。黒褐色土ブロック
含む。
3層 にがい黄褐色土(10YR4/3) ローム粘土・黒褐色土
ブロック含む。人為堆土。
4層 黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック少量。
5層 深褐色土土(10YR4/2)
6層 黒褐色土(10YR2/3)

め～26～28G rにあり、H 8・P148に切られ、D 8を切る。ピットは2個検出され、主柱穴P1とP2の柱間は3m。床は堅く平坦で掘方はみられなかった。西壁下に壁溝が検出された。覆土1～3層は人為堆土である。遺物は壺(1)、甕(2・3)、鉢(4)の弥生土器、本址に伴わない縄文時代後期初頭・前葉・前半の深鉢片、削器がある。1はヘラ描横走文内に横位羽状のヘラ描斜走文、2・3には櫛描波状文が施文される。4は内外面赤色塗彩。

本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



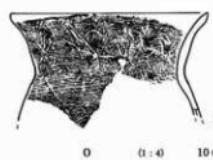
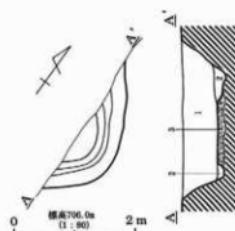
第61図 H 7号住居址(2)

(8) H 8号住居址

め～27G rにあり、H 7を切る。床は堅く平坦である。東壁・南壁下に壁溝が検出された。

調査範囲内では、カマド・柱穴等検出されなかった。遺物は唯一1の土器表が図示できた。2の弥生時代後期の甕は、H 7に帰属するものとみられる。本址の時期等不明である。

1層 黒褐色土(10YR2/2) 小窓(1～3cm)
含む。
2層 黒褐色土(10YR2/2) ローム粘土含む。
3層 黒褐色土(10YR2/1) 小窓・ロームブロック
含む。地力堆土。



第62図 H 8号住居址

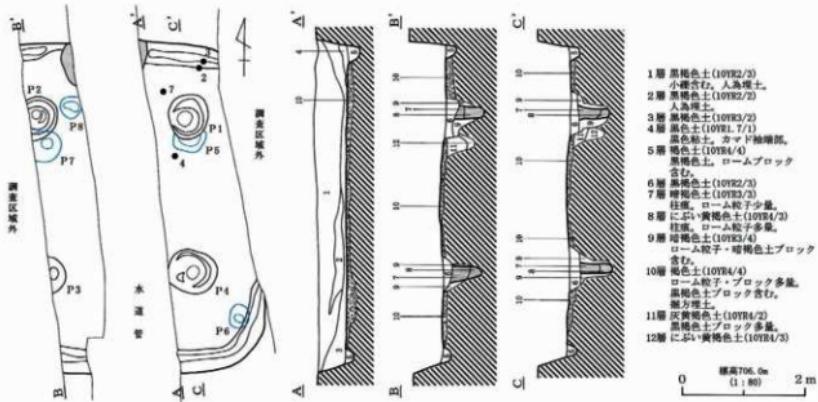
第36表 H 8号住居址出土遺物観察表

No.	種別	法 繪	成形・型態・文様			備考	出土位置
			口縁(径)	底盤(幅)	周縁(厚)		
1	土器器	甕	(22.0)	-	<4.5	ヘラミガキ	口縁ヨコナデ→ヘラミガキ?
2	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 脚部櫛描波状文→網目織状文→脚部櫛描波状文。			回転実測	H7

(9) H 9号住居址

む・め-29・30G rにあり、H10を切る。カマドは北壁中央にあり、黒色粘土で構築された袖部分が確認された。ピットは6個検出された。柱痕20~25cmの主柱穴P1~P4は、梁行き・桁行き共に240cmを測る。P5・P7は位置的にP1・P2の旧い主柱穴であろう。床は堅く平坦。カマド両脇・東壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層は人為埋土。

遺物は土器器坏18、甕6、須恵器坏1~4、鉢5、壺7、甕8、蓋9がある。縄文時代中期後葉・後期堀之内式・堀之内2式の土器片・26の使用痕ある刺片は、混入遺物である。1の底部は内面黒色

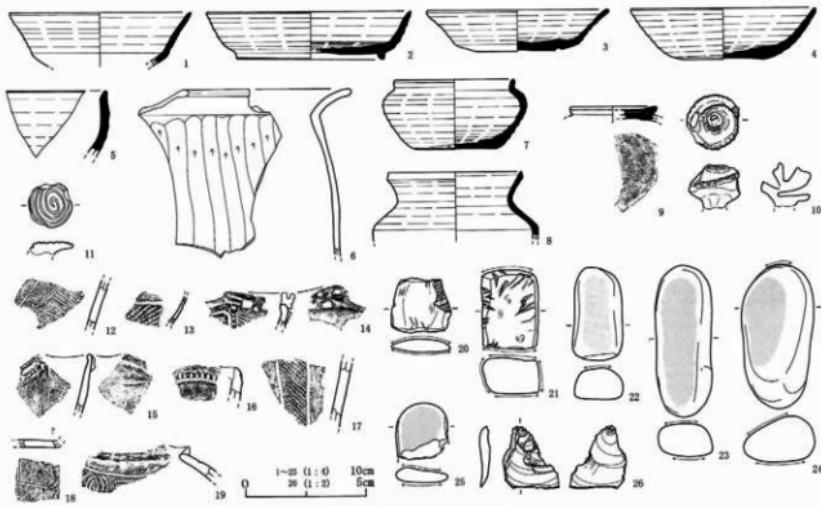


第63図 H 9号住居址(1)

第37表 H 9号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	断面	口径(径) 深さ(高さ) 断面(厚)	内 面	外 面	周辺() 狹い場合 < > 丸底	
						横	縦
1	須恵器	杯	(15.0) (11.4) <4.4>	クロコナデ	クロコナデ	回転美術	I区出土
2	須恵器	杯	16.7 12.0 4.0	クロコナデ	クロコナデ→底部凹輪へラケズリ→高台貼付	完全実測	No.1
3	須恵器	杯	(15.0) (10.2) 3.4	クロコナデ	クロコナデ→底部切り離し棒手持ちヘラナデ	回転美術	No.2
4	須恵器	杯	15.3 8.2 4.2	クロコナデ	クロコナデ→底部手持ちラズリ	完全実測	No.4
5	須恵器	鉢	- - -	クロコナデ	クロコナデ	破片美術	IV区出土
6	土器器	甕	- - -	クロコナデ	クロコナデ	破片美術	II区出土
7	須恵器	壺	(10.0) (7.0) 5.7	クロコナデ	クロコナデ→底部手持ちヘラケズリ	回転美術	No.3
8	須恵器	壺	(11.0) - <5.6>	クロコナデ	クロコナデ。自然輪附着	回転美術	IV区出土
9	須恵器	壺	- (7.0) <1.3>	クロコナデ	クロコナデ→底つまみ貼付	回転美術	I区出土
10	縄文土器	深鉢	匙子、頭部と立ち毛の凹孔。らせん形の刻み複雑。右の唇孔跡ごとに刻み複雑。	内面	外側	縦之内2	II区出土
11	縄文土器	深鉢	小柄手。済み状況。	内面	外側	縦之内2	II区出土
12	縄文土器	深鉢	縄文を充実する平行波線から斜向約6度の沈線。	内面	外側	縦之内2	II区出土
13	縄文土器	ミニチュア 土器?	横位波線。薄灰R充実。	内面	外側	縦之内2	IV区出土
14	縄文土器	深鉢	口縁部内部。円孔えお持突起。口唇部と円孔下面に円形刺突。円形刺突から刻み複雑ととなる沈線。その両脇に垂直沈線。	内面	外側	縦之内1	IV区出土
15	縄文土器	深鉢	口縁部内行。波浪感の刺突も貼付文から口縁に沿って刻み複雑。三角文の沈線。	内面	外側	縦之内2	I区出土
16	縄文土器	深鉢	直状割み複雑下をなする沈線。	内面	外側	縦之内1	IV区出土
17	縄文土器	深鉢	底下すら沈線間に地文焼文。	内面	外側	中間後葉	I区出土
18	土器器	杯	内面 ヘミギヤー→黑色処理。外側 手持ちヘラケズリヘラ記号[+]	内面	外側	縦之内2	III区出土
19	縄文土器	注口土器	横位波線間に集合沈線の対称状文。焼文。	内面	外側	縦之内1	I区出土
No.	種別	質	材	最大径	最大幅	最 大	所 見
20	破石	石	4.5	4.9	1.1	27.80	嵌合部。正面に削り状の条条。欠損後も使用か。
21	破石	軽石	6.5	4.7	2.9	36.88	嵌合部6。正面→左側に条条剥離。
22	磨石	石	7.7	4.1	2.6	137.83	正面にすり面。
23	磨石	石	12.4	4.6	2.8	277.68	正面にすり面。
24	磨石	石	11.9	5.9	5.0	437.41	正面にすり面。上端部に敲打痕。
25	磨石	石	<4.6>	<4.3>	<1.4>	<33.07>	被熱あり? (一部赤化)。下部欠損。裏面にすり面。
26	使用痕のあ る剣片	黑曜石	2.5	2.3	0.4	1.66	右側と下端部は使用痕。



第64図 H9号住居址(2)

処理、底部手持ちヘラケズリされ、ヘラ記号「+」がみえる。3・4・7の底部は手持ちヘラケズリされる。7は短頸壺、8は頸部が括れ口縁部が短い。9の蓋は皿状のつまみを持つ。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅰ期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

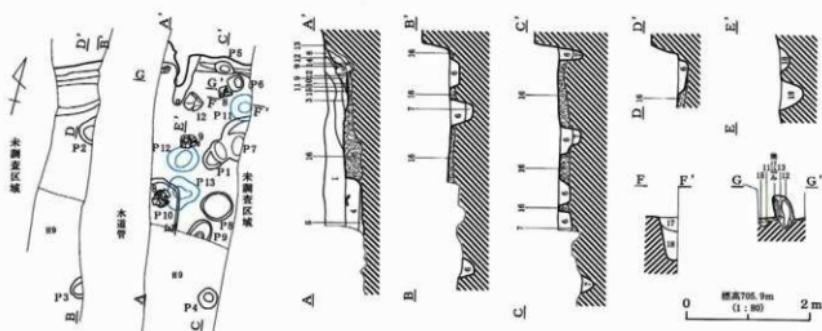
(10) H10号住居址

む-29 G r にあり、H 9 に切られる。カマドは北壁中央にあり、黒色粘土・黒褐色土と砾で構築されている。火床に支脚石が残存する。ピットは13個検出された。主柱穴P 1 ~ P 4 は、桁行き240cm・梁行き220cmを測る。P 11 ~ P 13 は掘方で確認された。床は堅くて平坦である。カマド東の北壁下に壁

第38表 H10号住居址出土遺物観察表

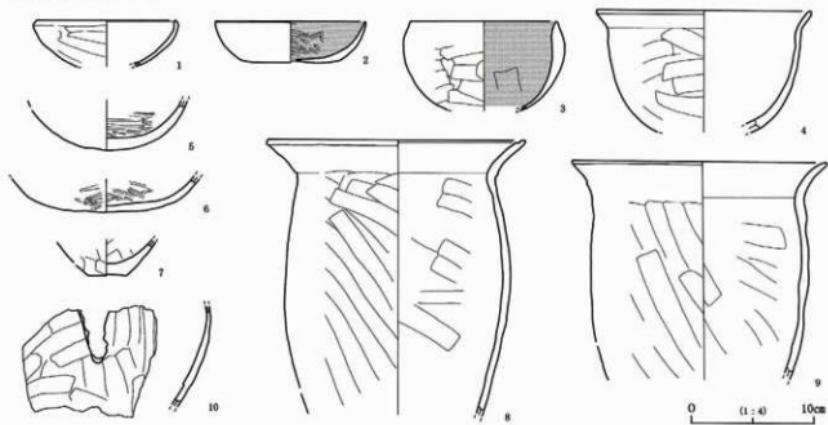
(cm·g)

No.	H10	法 種	底 幅 (cm)	底 厚 (cm)	高 さ (cm)	底 面 (厚)	成形・調 整・文 様		推定値()現存後 >丸頭 備 考	出土位置
							内 面	外 面		
1	土師器	甕	(11.5)	-	<3.8	ナデ	ナデ→ヘラケズリ	刮削実測	I区覆土	
2	土師器	甕	(12.4)	(6.0)	<3.4	ヘラミガキ→黒色処理	ナデ。武者手持ちヘラケズリ	刮削実測	P3	
3	土師器	甕	(12.0)	-	<7.3	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ→黒色処理	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ	刮削実測	I区覆土	
4	土師器	甕	(17.5)	-	<10.0	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ	刮削実測	I区覆土	
5	土師器	甕	-	-	<4.1	ヘラミガキ	摩耗している	刮削実測	I区覆土	
6	土師器	甕	-	(7.0)	<2.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	刮削実測	I区覆土	
7	土師器	甕	-	3.2	<3.0	ヘラナデ	ヘラケズリ。底部ヘラケズリ	刮削実測 内側 有機物付着	I区覆土	
8	土師器	甕	21.3	-	<22.6	ヘラナデ。口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.4	
9	土師器	甕	20.8	-	<17.9	ヘラケズリ。口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	完全実測	No.2	
10	土師器	甕	-	-	-	ヨコナデ	ヘラケズリ。焼成窓穴状加工あり	II区覆土		
11	土師器	甕	-	-	<30.0	ヘラナデ	ヘラケズリ	刮削実測	P1 P2	
12	土師器	甕	22.0	-	<28.5	ハケ目→ヘラナデ。口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→ハケ目ヘラケズリ	完全実測	No.3	
13	陶文土器	深鉢	底想定径 6.5。弧状沈痕。焼文R。底部木葉痕?					後削削痕	カマド	
14	陶文土器	深鉢	口縁部下に輪窓記号文。焼文R。					中削後葉	I区覆土	
15	陶文土器	深鉢	口縁部下に輪窓記号文。焼文R。					中削後葉	I区覆土	
16	陶文土器	深鉢	波状輪窓。口縁部下に輪窓記号文。焼文R。					軸之内2	I区覆土	
17	陶文土器	深鉢	横窓の跡み輪窓。くの字窓口間に輪窓。土師器底面ヘラケズリ。					後削削手	I区覆土	
No.	器 種	材 料	底 大 径	底 大 厚	底 大 深	重 量	所 在	見	出土位置	
18	磨石		<10.3	<6.6	<10.8	<550.91	被熱あり?	(表面赤化)左側以外欠損。正面にすり面。	I区ホリ方	



- 1層 黒褐色土(10YR2/2)
にぶい黄褐色土ブロック・小砾少量。
- 2層 黒褐色土(10YR2/1)
ローム粒子少量。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3)
腐化物微量。
- 4層 墓褐色土(10YR3/3)
小砾微量。
- 5層 黒褐色土(10YR5/1)
- 6層 黒褐色土(10YR5/1)
にぶい黄褐色土ブロック少量。
- 7層 黑褐色土(10YR5/2)
小砾粒子微量。
- 8層 墓褐色土(5YR2/5)
植土粒子多量。
- 9層 墓褐色土(5YR2/3)
腐化物・植土粒子少量。
- 10層 灰褐色土(5YR4/2)
灰土主。

- 11層 赤褐色土(2.5YR4/6)
地土。
- 12層 黑褐色土(5YR2/2)
黑色粘土ブロック多量。植土粒子少量。
- 13層 黑褐色土(7.5YR3/2)
地土ブロック微量。腐化物・ローム・植土ブロック微量。
- 14層 黑褐色土(10YR2/1)
植土ブロック微量。
- 15層 墓褐色土(10YR3/3)
植土粒子・植土ブロック微量。
- 16層 にぶい黄褐色土(10YR5/3)
にぶい黄褐色土ブロック主。
- 17層 黑褐色土(10YR2/2)
にぶい黄褐色土ブロック少量。
- 18層 黑褐色土(10YR3/1)
ローム粒子少。

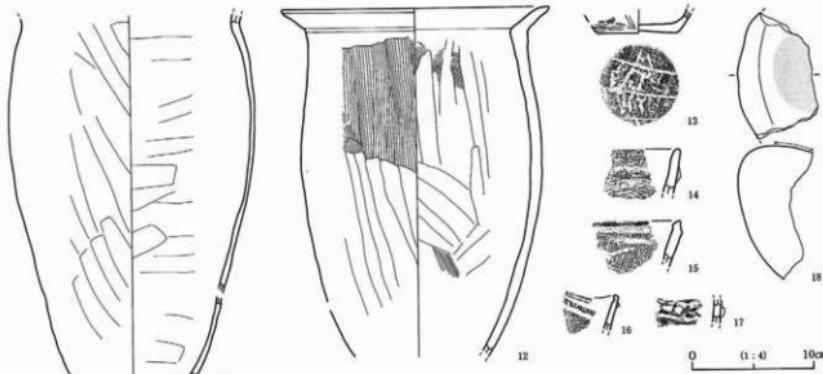


第65図 H10号住居址(1)

溝が認められた。カマド西側に深さ20cmの掘り込みがみられた。9・12がカマド南側の床面から出土し、8がカマド東床面とP10内出土片が接合、11がP7・P10内出土片が接合した。

遺物は、1・2の土師器壺、3～6の鉢、7～12の甌、18の磨石、本址に伴わない13～17の縄文時代中期後葉～後期前半の深鉢片が出土した。土師器壺は半球状の1、内面黒色処理され底部手持ちヘラケヅリの2がある。土師器甌は8・11の武藏甌と9・12の長い胴部の甌がある。8・9・12は口縁部に最大径を持つ。10の胴部片には、焼成後の穴状の加工が見られる。

本址は、これらの遺物から古墳時代7世紀末に位置づけられる。



第66図 H10号住居址(2)

(11) H11号住居址

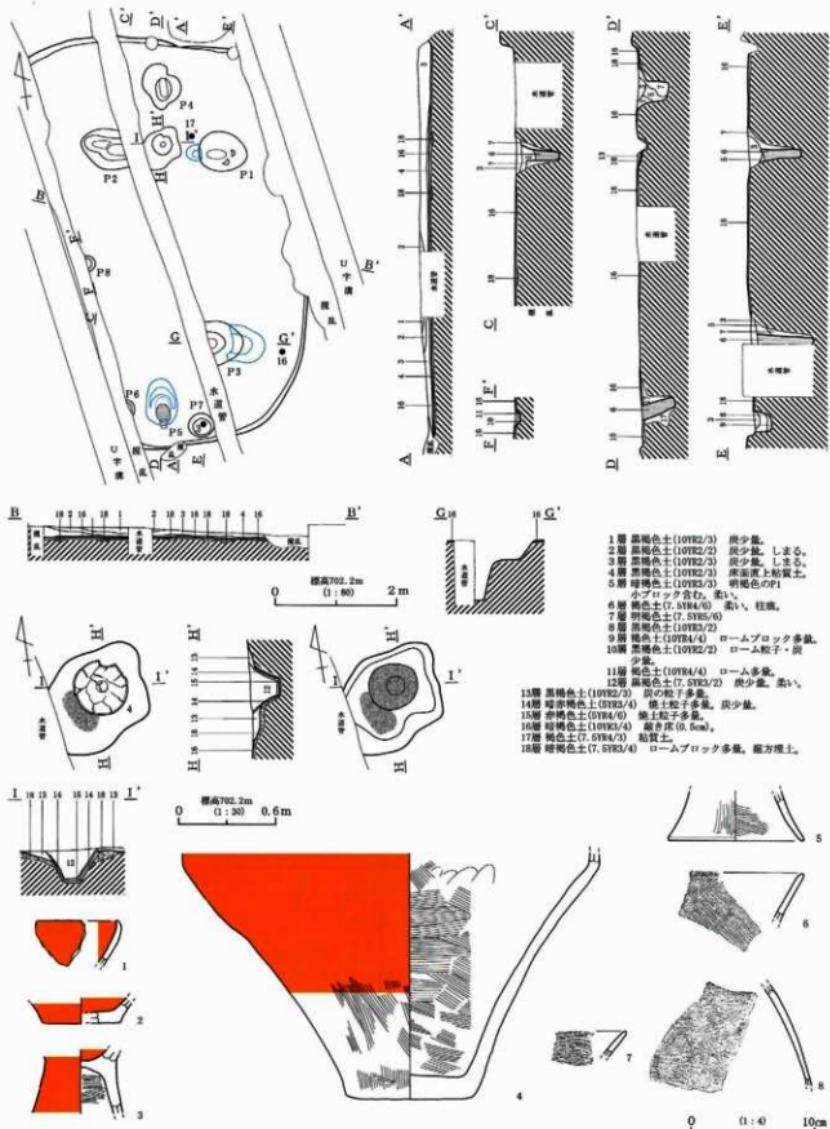
は-72~74G r にあり、D36に切られる。炉は主柱穴P 1・P 2間にある。炉は4の壺底部を用いた埋甕炉で、25cm程掘りこまれている。壺底部内部に少量の炭粒子が、壺の外周に多量の炭粒子がみられた。炉の掘方正面は被熱で赤変していた。ピットは7個検出され、P 1~P 3の主柱穴から五平状柱痕が確認された。P 4は棟持柱、P 5~P 7は出入口施設と考えられる。P 5の柱痕24cmであった。P 1とP 3の桁行き310cm・P 1とP 2の梁行き180cm測る。敲き床の床面は堅く平坦で、壁際を除く床面直上に黒褐色の粘土上が張り付くように認められた。

遺物は鉢・壺・高环の弥生土器、金属製品16、砥石15、石鎌17、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢片がある。1・2は内外面赤色塗彩の鉢、3は赤色塗彩される高环、4は炉に埋設された胴下部の括れより下まで赤色塗彩の壺、8は無彩色の壺、13の赤色塗彩の壺は頸部にヘラ描斜走文施文される。6~12は櫛描波状文・斜走文・簾状文が施される壺、6の口唇部に刻目がある。5は台付甕であろう。16は白銅製であろう、1孔がみられる。

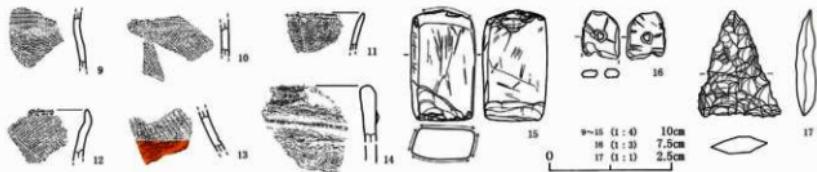
これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第39表 H11号住居址出土遺物観察表

No.	種類	法 番	口径(径) 底径(幅)	深度(厚)	内 面	外 面	被定値()既存値(>九成)		備 考	出土位置
							横	縦		
1	弥生土器	鉢	-	-	<3.7	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩		破片実測	I区復土
2	弥生土器	鉢	-	(6.2)	<2.1>	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩		回転実測	確認面
3	弥生土器	高环	-	-	<5.3>	内面ヘラミガキ・赤色塗彩。脚部ハケメ。	ヘラミガキ・赤色塗彩		完全実測	No.4
4	弥生土器	壺	-	10.4	<20.4>	内面ヘラミガキ・赤色塗彩。下部ハケ目	内面ヘラミガキ・赤色塗彩。下部ハケ目		完全実測	No.5
5	弥生土器	台付壺	-	(10.8)	<4.1>	ハケ目	ヘラミガキ		回転実測	確認面
6	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 横描斜走文模様。口唇部に刻目。						後期	I区復土
7	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 横描波状文。						後期	I区復土
8	弥生土器	壺	内面ナマ。外面 横描斜走文。						後期	P5
9	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 横描波状文。						後期	II区復土
10	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 横描波状文・横描斜走文。						後期	P2
11	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 横描波状文。						後期	II区復土
12	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外面 横描斜走文。横模羽目。口縁部内側気孔に立ち上る。						後期	II区復土
13	弥生土器	壺	内面ナマ。外面 ハラ描斜走文・赤色塗彩。						後期	II区復土
14	縄文土器	深鉢	所調輪製土器。横模羽目。						後期前半	II区復土
No.	底 番	材	底 大 徑	底 大 幅	底 大 厚	重 量	所	見		出土位置
15		砥石	9.1	5.3	2.5	216.95	底面約4. 上下薄部に解打痕。			確認面
16		金属製品?	(臼鉗か?)	<1.9>	<1.5>	<0.3>	<6.37>	穿孔と朱痕あり。下部欠損。		No.2
17		石頭	2.2	1.7	0.4	1.00				No.1

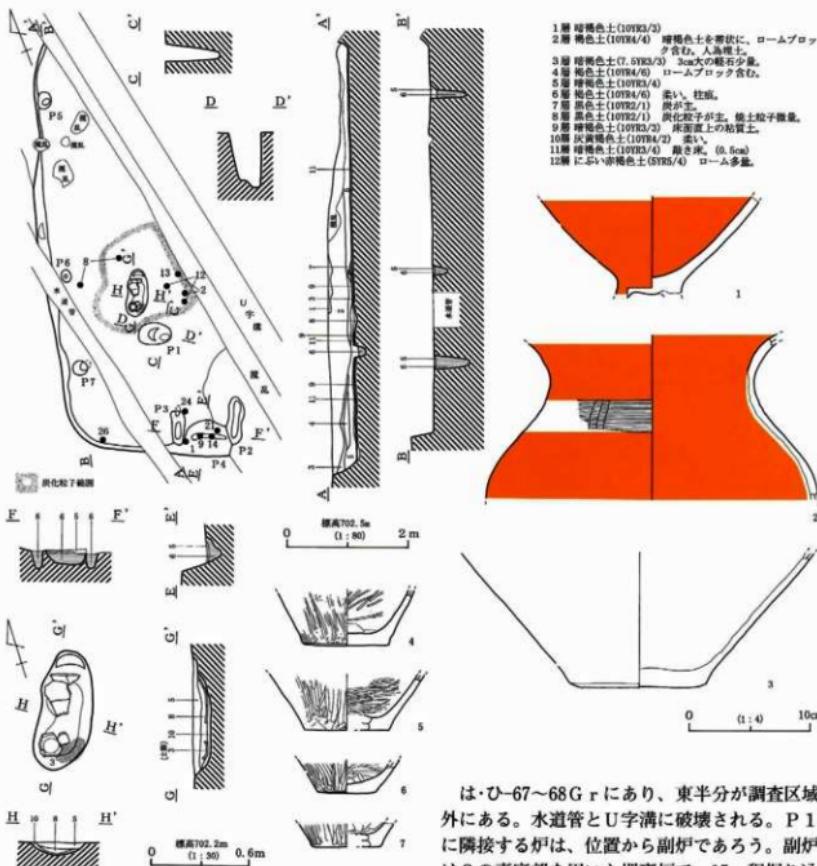


第67図 H11号居住址(1)



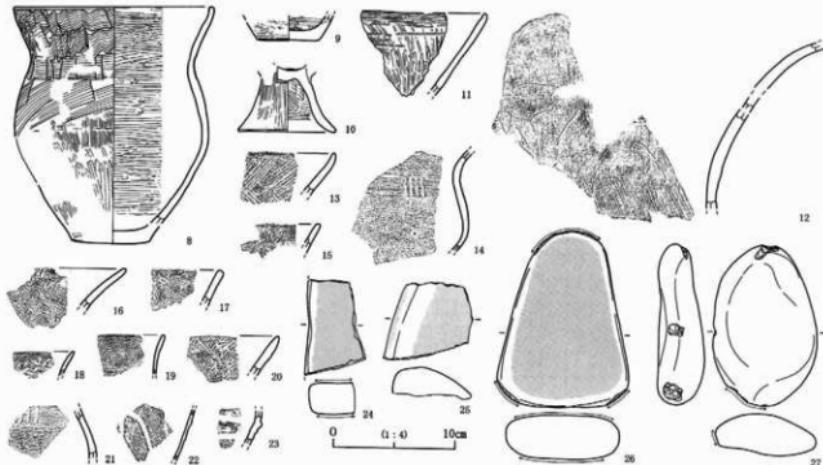
第68図 H11号住居址(2)

(12) H12号住居址



第69図 H12号住居址(1)

は・ひ-67~68G r にあり、東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。P 1に隣接する炉³は、位置から副炉であろう。副炉は3の壺底部を用いた埋甕炉⁴で、15cm程掘り込



第70図 H12号住居址(2)

まれている。さらに赤彩の壺胴部片を敷き詰めていた。3の壺付近が被熱で赤変していた。炉の周辺は、粒子状の炭が床面に張り付くようにみられた。

ピットは7個検出され、P1の主柱穴は掘方の形状から五平状の柱が想定される。P2~P4は出入口施設と考えられる。西壁に接するP5や西壁に近接するP6・P7の柱痕径10~20cmであった。

敷き床の床面は堅く平坦で、H11と同様に壁際を除く床面直上に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

第40表 H12号住居址出土遺物観察表

No.	種別	形態	成形・装飾・文様			測定値()	既存幅 < >丸底・ 盤等	出土位置	
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)				
1	弥生土器	壺	-	-	<8.3>	底部 ヘラミガキ=赤色塗装。腹部 ナ	ヘラミガキ=赤色塗装	完全実測	No.14 S区
2	弥生土器	壺	-	-	-	ヘラミガキ=赤色塗装	ヘラミガキ=樹脂糊(以文(墨跡))=赤色塗装	既存実測 内側	No.11 No.12 S区
3	弥生土器	壺	-	11.2	<11.2>	剥離・摩耗のため判別不能	ヘラミガキ=赤色塗装	完全実測	No.2
4	弥生土器	壺	-	7.1	<6.6>	ヘラミガキ	頭部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	S区 頂土
5	弥生土器	壺	-	(7.0)	<6.6>	ヘラミガキ	頭部ヘラクズリ後三ガキ。底部ヘラケズリ	既存実測	便土
6	弥生土器	壺	-	4.9	<3.9>	ヘラミガキ	頭部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	S区 頂土
7	弥生土器	壺	-	(6.0)	<2.0>	ヘラナデ	頭部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	既存実測	便土
8	弥生土器	壺	16.5	(6.4)	19.4	ヘラミガキ	頭部ヘラミガキ=赤色塗装。底部ヘラミガキ=赤色塗装	完全実測	No.3 N区
9	弥生土器	壺	-	5.1	<2.1>	ヘラミガキ	頭部ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	P4
10	弥生土器	有台壺	-	8.0	<5.3>	ヘラミガキ。台部ハケ日=裾部ヨ	ヘラミガキ	完全実測	S区 頂土
11	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	既存実測	S区 頂土
12	弥生土器	壺	内面 口縁ヘラミガキ=赤色塗装。瓶形ハケ目。外面 ヘラミガキ赤色塗装。底部ヘラミガキ	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	既存実測	No.10-12-13			
13	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	No.11			
14	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	既存実測	P4			
15	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	S区 頂土			
16	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	S区 頂土			
17	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	S区 頂土			
18	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	S区 頂土			
19	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	便土			
20	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	S区 頂土			
21	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外周 磨擦痕波状文	内面 ヘラミガキ	既存実測	P4			
22	陶片	沈跡	沈跡区画内に焼成灰塊。			既存実測	S区 頂土		
23	陶文土器	深鉢	横位剥き残高をなぞる立溝。			既存実測	便土		
No.	種別	形態	最大幅	最大厚	高さ	重 量	所 在	出土地面	
24	磨石		</>	<4.9>	<2.6>	<174.46>	正面にすり面。左側に外欠損。	No.15	
25	磨石		<6.4>	<7.3>	<2.7>	<162.74>	全面欠損。正面と左側にすり面。	P4	
26	磨石		14.5	10.9	3.7	937.30	正面にすり面。頭部3所に輪打痕。	No.17	
27	磨石		13.0	8.5	3.8	530.37	上下端部と左側に輪打痕。	No.16	

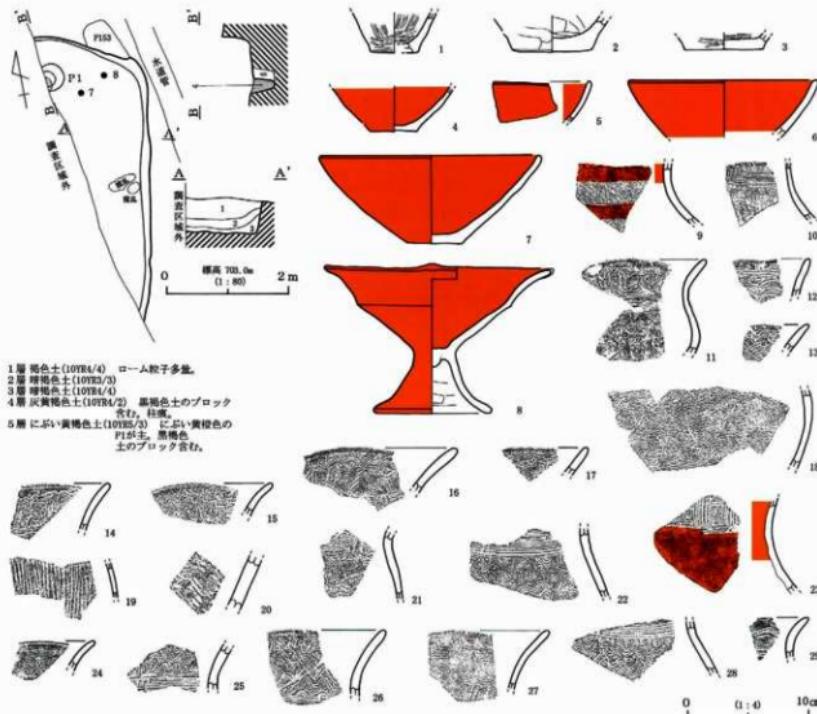
覆土第2層は、人為埋土であった。遺物の出土状態は、主に炉の周辺とP4内外に集中している。遺物は鉢・壺・甕・高壺の弥生土器、磨石24・25、磨り面持つ敲石26、敲石27、床面出土の炭化したイネ1個、炉内出土獸類の焼骨、本址に伴わない縄文時代後期初頭・前半の深鉢片がある。

11は無彩の鉢、1は赤色塗彩される高環、3は炉に埋設された壺胴下部、2・12は赤色塗彩される壺で2は胴上部まで赤彩が及ぶ。4～6・8・9・13～21は甕で、内面ヘラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。8の甕は頸部の櫛描簾状文施文後口縁部に櫛描波状文、胴部に櫛描斜走文が施文される。10の台付甕もある。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(13) H13号住居址

ひ-69G rにありP153に切られ、H16を切る。西半分が調査区域外にある。炉は調査範囲内には見られない。柱痕径20cmのP1は、検出された位置から棟持柱と思われるが、この時期の主柱穴定位に柱穴が見あたらない。敲き床の床面は堅く平坦で、H11・H12と同じく床下の掘方はほとんど見られない。7の鉢と8の高環は、P1の東側床面から出土した。



第71図 H13号住居址

遺物は鉢・壺・甕・高杯の弥生土器、縄文時代後期前半の深鉢片がある。

4~7は碗状で赤色塗彩される鉢、8は壺部中位に屈曲を持つ赤色塗彩される高杯、9~23の甕は赤色塗彩され、10の甕は無彩である。10~23は櫛描T字文、9はヘラ描横走文区画内に段の間隔を開けてヘラ描斜走文が施文される。

1~3・11~19・21~29は甕で、内面ヘラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施文される。19の甕は縦位の粗いハケメ調整で胎土が灰色(10YR 8/2)で異質である。東海系の甕であろう。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第41表 H13号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 番			成形・調理・文様		測定値()	<残存値 >丸括弧	備考	出土位置
			口径(径)	底径(幅)	壁高(厚)	内 面	外 面				
1	弥生土器	甕	-	(4.0)	<3.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	帯土	帯土	
2	弥生土器	甕	-	(6.6)	<3.0>	ヘラナデ	ヘラナデ	回転実測	帯土	帯土	
3	弥生土器	甕	-	(6.4)	<1.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	帯土	帯土	
4	弥生土器	杯	-	3.9	<3.7>	ヘラミガキ	赤色塗彩	ヘラミガキ	赤色塗彩	回転実測	帯土
5	弥生土器	杯	-	-	-	ヘラミガキ	赤色塗彩	ヘラミガキ	赤色塗彩	完全実測	帯土
6	弥生土器	杯	(15.6)	-	<4.7>	ヘラミガキ	赤色塗彩	ヘラミガキ	赤色塗彩	櫛片実測	帯土
7	弥生土器	杯	18.3	4.6	7.2	ヘラミガキ	赤色塗彩	ヘラミガキ	赤色塗彩	回転実測	S区帯土
8	弥生土器	高杯	18.9	9.7	12.2	底部ヘラミガキ 色赤色塗彩	ヘラミガキ 色赤色塗彩	ヘラミガキ 色赤色塗彩	ヘラミガキ 色赤色塗彩	完全実測	No.2
9	弥生土器	甕	内面 横部までヘラミガキ 色赤色塗彩	外周 ヘラミガキ 文様 緑の間隔で割れて横位羽状。							東海系? 帯土
10	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 櫛描T字文→ヘラミガキ無形。								帯土
11	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横部と側部櫛描波状文→横縞状文。								S区帯土
12	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞状文。								
13	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞状文。								帯土
14	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞状文。櫛描波状文。								帯土
15	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞状文。								帯土
16	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞状文。								帯土
17	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文。								S区帯土
18	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文。								S区帯土
19	弥生土器	甕	内面 ヘラナデ。外周 横縞波状文。								東海系? 帯土
20	織文土器	深鉢	縫合丸								縫合丸
21	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横部と側部櫛描波状文→側部の縞状文。								後期前半
22	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文→櫛描波状文。								帯土
23	弥生土器	甕	内面 横部まで赤色塗彩。外周 横部 T字文→ヘラミガキ 赤色塗彩。								帯土
24	土器部	壺	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文?								帯土
25	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文→櫛描横縞状文。								カクラン
26	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文→櫛描横縞状文。								S区帯土
27	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文。								S区帯土
28	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文→櫛部櫛縞横縞状文。								帯土
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状文。								帯土

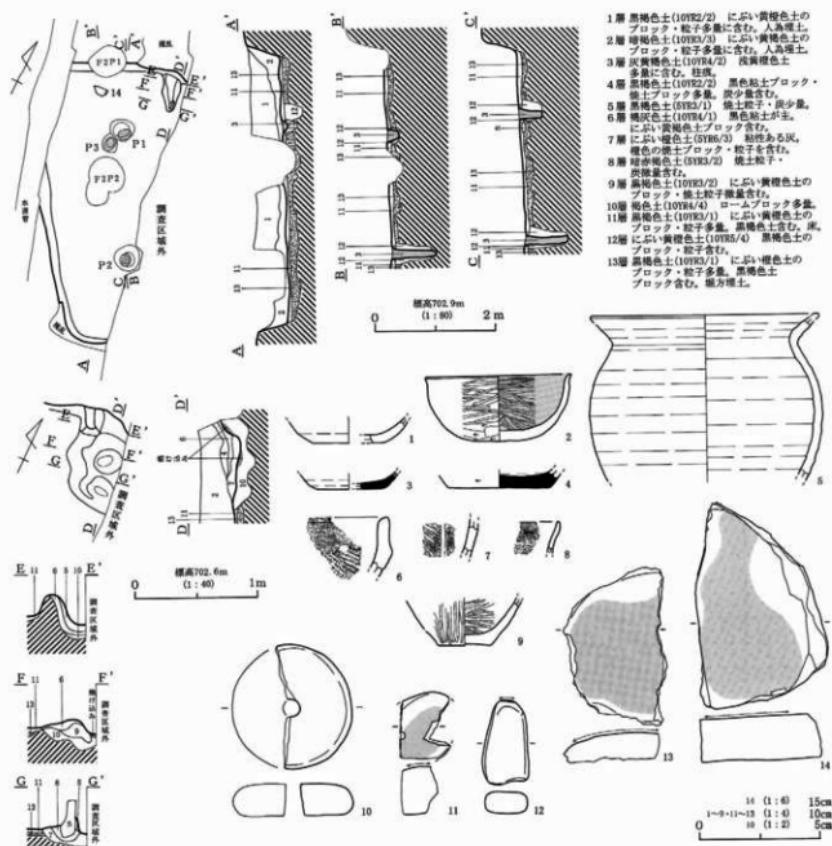
(14) H14号住居址

ひ-67~68G r にあり F 2 に切られる。東半分が調査区域外にある。水道管とU字溝に破壊される。カマドは北壁中央に、褐灰色土・黒色粘土と疊で構築されている。袖は地山削り出しで袖部先端と中程に疊を立てる。

径20cmの柱痕が確認された主柱穴 P 1・P 2 の柱穴間、所謂「桁行き」は200cmを測る。P 1 の西脇に径20cmの柱痕が確認されたP 3 が検出された。P 1 とP 2 の間の床下から水平状態で長辺20cmの平石

第42表 H14号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 番			成形・調理・文様		測定値()	<残存値 >丸括弧	備考	出土位置
			口径(径)	底径(幅)	壁高(厚)	内 面	外 面				
1	土器部	壺	-	(5.6)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部凹輪孔切り	回転実測	帯土		
2	土器部	壺	(12.0)	-	<5.4>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	帯土		
3	須彌壺	壺	-	(5.4)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	カクラン		
4	須彌壺	壺	-	(6.4)	<1.6>	ロクロナデ	ヘラミガキ。底部凹輪孔切り	回転実測	須彌壺		
5	土器部	ロクロ壺	(18.6)	-	<13.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	S区 F2P3		
9	弥生土器	壺	-	4.4	4.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	帯土		
10	防護壁	壁	5.1	<3.1>	<1.3>						堆積面
6	縄文土器	深鉢	夷海記傳文上に夷文R。								中期後葉
7	縄文土器	深鉢	重ね下する沈縫。斜行沈縫。								中期後葉
8	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外周 横縞波状細かく櫛縞波状文。側部櫛縞波状文。								帯土
No.	層別	種 別	材	最大幅	最大厚	重 量	所 在			出 口 位 置	
11	石	石		<5.5>	<4.1>	<3.9> <115.16>	周縁欠損。正面が使用面。			帯土	
12	石	石		6.9	3.8	1.8 83.11	上端部に敲打痕。				破壊面
13	石	石		<12.9>	<8.5>	<2.3> <314.56>	全面欠損。正面にリフ面。			帯土	
14	弥生土器	甕		25.3	16.5	6.1 3860.00	被熱あり(一部黒化)。正面が使用面。			No.1	



第72図 H14号住居址

がみられた。P 1 の立て替えが行われたのであろうか。床は堅く敲き縮められ平坦である。

覆土 1・2 層は、にぶい黄褐色の地山土が多量に混じった人為埋土。

遺物は土師器 1・2・5、須恵器 3・4、磨石 11、敲石 12、台石 13・14、土製紡錘車 10、混入遺物の縄文時代中期後葉の深鉢片、弥生時代後期甕片がある。

1 の土師器壺・3 の須恵器壺は底部回転糸切り、5 は土師器ロクロ甕である。

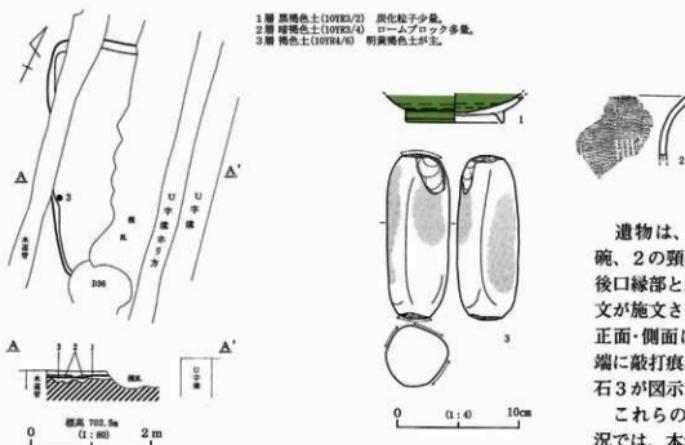
本址は、これらの遺物より平安時代 9 世紀代に位置づけられよう。

(15) H15号住居址

ひ-71・72G r にあり D36 に切られる。東半分が調査区域外にある。水道管と U 字溝に破壊される。カマドや柱穴等調査範囲内では、確認されなかった。床面は軟弱で、平坦ではない。

第43表 H15号住居址出土遺物観察表

H15		法 番	成形・調理・文様			(cm·g)
No.	遺種	口径(外) 底径(内) 高さ(厚)	底径(外) 底径(内) 高さ(厚)	内 面	外 面	発見箇所() 残存度 < > 丸底・ 盤 壁 出土位置
1	灰釉陶器 碗	- (8.0)	<2.4>	ロクロナデ。施釉	ロクロナデ。施釉	回転窯 は71 屋上
2	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 腹部横縞波状文→横縞、兩部横縞波状文。				後期 屋上
No.	器種	材	底大根 底大根	底大厚 底 大	所	見
3	鉗-敲石	13.5	5.1	5.0	588.29	上下端部に敲打面。正面・側面にすり面。 出土位置 No.1



第73図 H15号住居址

(16) H16号住居址

ひ-68 G r にあり H13・P153に切られる。西半分が調査区域外にある。炉址は調査範囲内では、確認されなかった。床面は平坦で堅く締まっている。覆土第1層は1 cm大の輕石を多量に、炭・ぶい黄橙色土を含む人為埋土である。

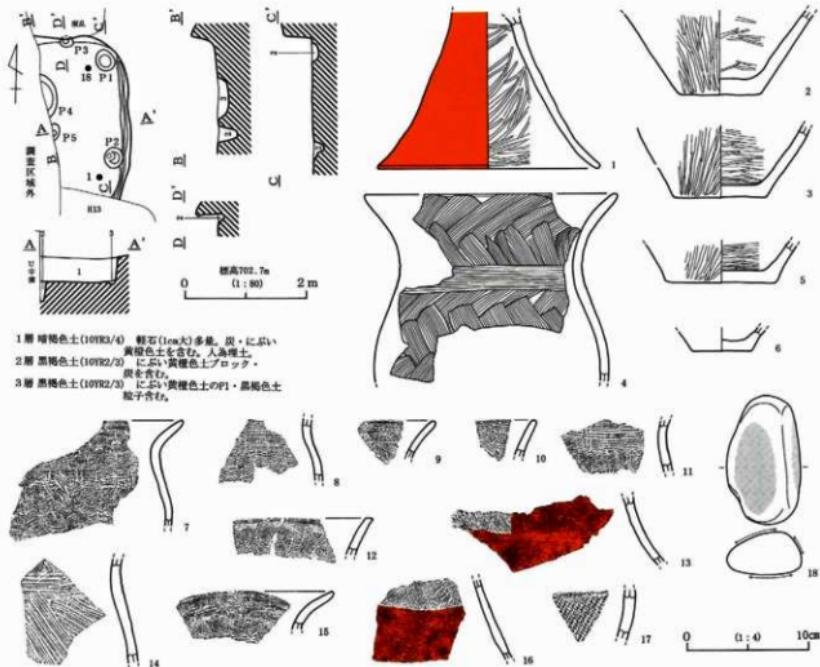
ピットは5個検出された。この時期の規則的な主柱穴の配置が見られない。P 3は壁柱穴で断面はやや内側に傾斜する。P 5が掘方深く32cmを測る。東壁下に壁溝が検出された。主柱穴となりそうな

遺物は、1の灰釉陶器碗、2の頸部横描縞状文の後口縁部と胴部に横描波状文が施される弥生後期型、正面・側面にすり面、上下端に敲打痕が認められる敲石3が図示できた。

これらの遺物・遺構の状況では、本址時期等詳細は不明と言わざるを得ない。が、1から平安時代であろうか。

第44表 H16号住居址出土遺物観察表

H16		法 番	成形・調理・文様			(cm·g)
No.	遺種	口径(外) 底径(内) 高さ(厚)	底径(外) 底径(内) 高さ(厚)	内 面	外 面	発見箇所() 残存度 < > 丸底・ 盤 壁 出土位置
1	男生土器 甕	- (16.3)	<1.9>	ヘラミガキ。赤色彫刻	ヘラミガキ。赤色彫刻	完全実用 No.1
2	男生土器 甕	- (6.8)	<2.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実用 No.2
3	男生土器 甕	- (7.6)	<5.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実用 No.3
4	男生土器 甕	(20.6)	-<15.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実用 No.4
5	男生土器 甕	- (9.0)	<3.4>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実用 No.5
6	男生土器 甕	- (4.8)	<1.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実用 No.6
7	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部・腹部横縞波状文→頭部横縞波状文。				完全実用 No.7
8	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 口縁部・腹部横縞波状文→頭部横縞波状文。				完全実用 No.8
9	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 異色波状文。				完全実用 No.9
10	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 異色波状文。				完全実用 No.10
11	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 腹部横縞波状文→頭部横縞波状文。				完全実用 No.11
12	男生土器 甕	口縁部削り取り。内面 ヘラミガキ。外面 異色波状文。				完全実用 No.12
13	男生土器 甕	内面 ナマ。外面 ヘラミガキを輪状凹凸に施す。赤色彫刻。				完全実用 No.13
14	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 腹部横縞波状文→口縁部・頭部横縞波状文。				完全実用 No.14
15	男生土器 甕	内面 ヘラミガキ。外面 頸部横縞波状文→頭部横縞波状文。				完全実用 No.15
16	男生土器 甕	内面 バイド。外面 ヘラミガキ文→赤色彫刻。				完全実用 No.16
17	男生土器 甕	内面 ナマ。外面 ヘラミガキを輪状凹凸に施す。赤色彫刻。				完全実用 No.17
No.	器種	材	底大根 底大根	底大厚 底 大	所	見
18	盤台	10.6	6.1	3.5	357.75	正反・側面にすり面。 出土位置 No.2

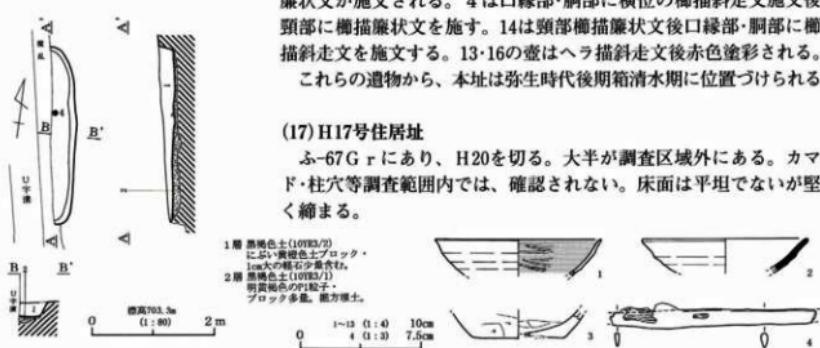


第74図 H16号住居址

P 1・P 2が東壁に接して配置されている。床は掘方で平坦で堅い。遺物は壺・甕・高杯の弥生土器、縄文時代中期後葉の深鉢片がある。1は脚部赤色塗彩される高杯、2~12~14~15は甕で、内面へラミガキされ外面櫛描波状文・斜走文・簾状文が施される。4は口縁部・胴部に横位の櫛描斜走文施工後頸部に櫛描簾状文を施す。14は頸部櫛描簾状文後口縁部・胴部に櫛描斜走文を施す。13~16の壺はヘラ描斜走文後赤色塗彩される。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(17) H17号住居址

ふ-67G rにあり、H20を切る。大半が調査区域外にある。カマド・柱穴等調査範囲内では、確認されない。床面は平坦でないが堅く縮まる。



第75図 H17号住居址

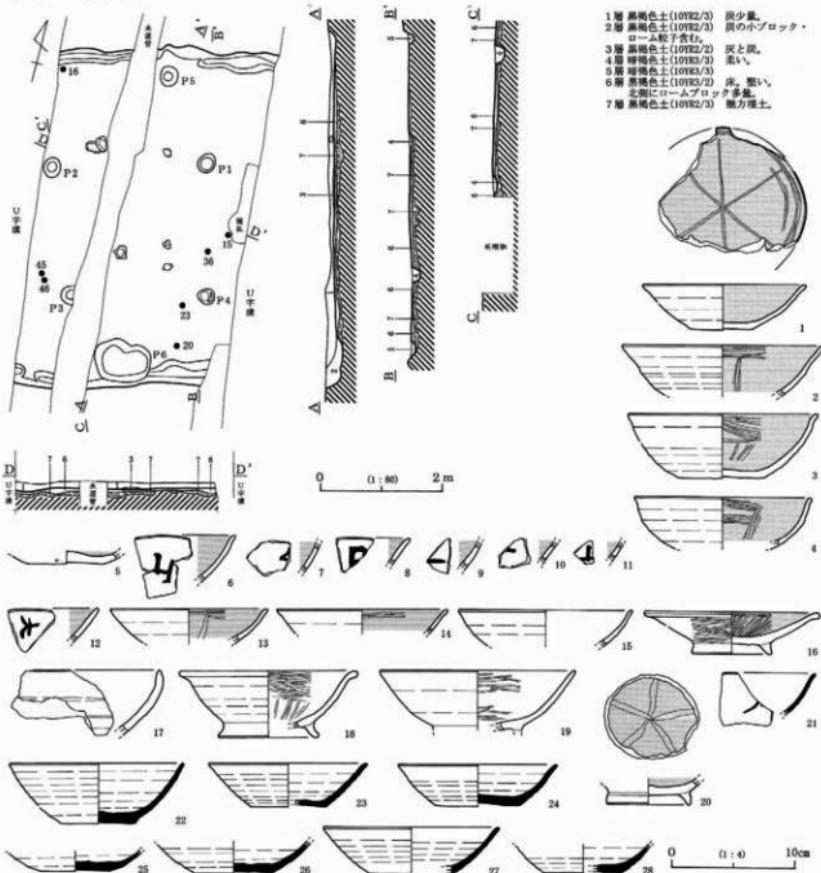
第45表 H17号住居址出土遺物観察表

No.	種別	面積	寸法(幅)	寸法(高)	形態・調査・文様		発生地()	保存状況 <→ 内側・外側・	備考	(cm・g)
					内面	外面				
1	土器部	坪	13.6	-	<3.1>	ヘラミガキ、黑色處理	ロクロナデ	田土松原	ホリガ	
2	土器部	坪	13.6	-	<2.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	田土松原	厚土	
3	土器部	ロクロ壁	-	(7.6)	<2.4>	ナデ	田土松原	田土松原	ホリガ	
No.	種類	面積	寸法(幅)	寸法(高)	寸法(幅)	寸法(高)	所	在		No.1
4	刀子	鉄	<12.7>	<1.2>	<0.5>	<16.87>	同地穴場。木質付着。			

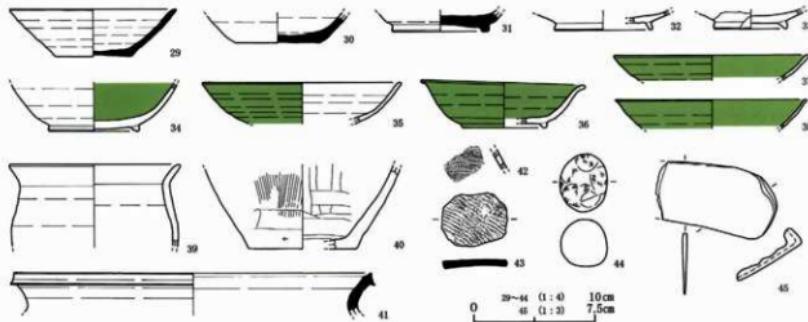
遺物は土師器壺・甕、須恵器壺、金属器がある。1の土師器壺は内面黒色処理される。3は土師器ロクロ甕で底部回転糸切り。4は木質が付着している鉄製の刀子である。

本址は、これらの遺物より平安時代9世紀代に位置づけられよう。

(18) H18号住居址



第76図 H18号住居址(1)



第77図 H18号住居址(2)

ひ・ふ~64~66 G r にあり、H19・H20・H22・D37を切る。西壁・東壁は調査区域外に伸びる。カマドは調査範囲内では確認できない。ピットは6個検出された。台形状に配されるP1~P4が、主柱穴とみられる。桁行き220cm、梁行き260cm・220cmを測る。P6は出入り口施設の基礎であろう。床は堅く締まり平坦である。北壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1・2層に炭・炭の小ブロック含む。ほぼ中央付近の床面に炭と灰の堆積が見られた。

遺物は土師器坏1~15、土師器皿16、土師器鉢17、土師器碗18~20、土師器甕39・40、須恵器坏21

第46表 H18号住居址出土遺物観察表(1)

(cm·g)

No.	種別	断面	法 長	内 面	成形・質 量	文様	外 形	指定地()		備 考	出土位置
								純存値	<丸底・		
1	土師器	床	(13.3)	5.2	3.7	ヘラミガキ。黒色。黒色ぬれ	ロクロナデ。底部右回転糸切り	完全実測	N区床		
2	土師器	床	(16.4)	-	<4.2>	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ	回転実測	N区床		
3	土師器	坪	(15.4)	7.2	5.3	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	N区床	ひ66	
4	土師器	床	(14.4)	-	<4.3>	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ	回転実測	N区床		
5	土師器	床	-	(6.2)	<1.0>	ヘラミガキ。黒色ぬれ	手摺ち右ケズリ	回転実測	I区覆土		
6	土師器	床	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり【上】	断面実測	N区P5		
7	土師器	床	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり	断面実測	N区覆土		
8	土師器	床	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり	断面実測	N区		
9	土師器	坪	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり	断面実測	N区覆土		
10	土師器	床	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり	断面実測	N区		
11	土師器	床	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり	断面実測	N区		
12	土師器	床	-	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ。表面あり【大】	断面実測	N区		
13	土師器	床	(13.0)	-	<2.8>	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ	完全実測	N区		
14	土師器	床	(14.0)	-	<1.9>	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ロクロナデ	回転実測	N区		
15	土師器	床	(14.2)	-	<3.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	No.4		
16	土師器	底	14.3	(6.4)	3.5	ヘラミガキ。黒色ぬれ	ヘラミガキ。表面ぬれ。底部裏台付後へラミガキ半分	完全実測、内外 面火打き有	No.8 1-N区		
17	土師器	床	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	断面実測	N区覆土		
18	土師器	瓶	(14.6)	(8.2)	(5.6)	ヘラミガキ	ロクロナデ。底面の輪糸切り。窓台貼付	回転実測	N区火打		
19	土師器	床	(16.0)	-	<4.9>	ヘラミガキ	ロクロナデ。表面ぬれ。高台火打	回転実測	N区火打		
20	土師器	瓶	-	6.9	<2.2>	黒文。黒色ぬれ	ロクロナデ。底面回転糸切り+窓台貼付	完全実測	No.1		
21	須恵器	床	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ。表面あり	断面実測	N区覆土		
22	須恵器	床	(14.3)	6.2	5.0	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全実測	N区床		
23	須恵器	床	(13.0)	(6.2)	(3.7)	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測、内外 面火打き有	No.2 ひ66		
24	須恵器	床	(13.0)	(7.0)	3.5	ロクロナデ	ロクロナデ。底部右回転糸切り	回転実測、内外 面火打き有	N区床 1区 N区1層		
25	須恵器	床	-	(5.6)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転糸切り	回転実測、内外 面火打き有	N区床		
26	須恵器	床	-	(6.6)	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ。底面回転糸切り	回転実測、内外 面火打き有	N区床 D65		
27	須恵器	床	(14.4)	(7.0)	(3.9)	ロクロナデ	ロクロナデ。底面回転糸切り	回転実測	N区覆土		
28	須恵器	床	-	(6.4)	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ。底面回転糸切り	回転実測	N区覆土		
29	須恵器	床	(13.6)	(6.4)	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ。底面回転糸切り	回転実測	N区床		
30	須恵器	床	-	(7.0)	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部右回転糸切り	回転実測	N区床		

H18号住居址出土遺物観察表(2)

(cm·g)

No.	種別	部類	汎 量		内 面		外 面		現状(①) 堆積物 < > 丸底 ② 破片	堆 積 物 名	出 土 地 点
			口径(Φ)	底径(Φ)	底厚(Φ)	内面	外面	外面			
31	須恵器	台付	-	(8.0)	<1.6>	ロクロナダ	ロクロナダ。底部回転系切り。台付丸付	ロクロナダ。底部回転系切り。	日輪実測	N区未	
32	灰釉陶器	碗	-	(8.0)	<1.6>	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付	ロクロナダ。直輪。丸付柄付	日輪実測	N区未	D66
33	灰釉陶器	碗	-	(6.0)	<1.6>	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付	ロクロナダ。直輪。丸付柄付	日輪実測	N区未	
34	灰釉陶器	碗	-	(7.4)	<1.0>	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付へラケズリ。丸付柄付。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付へラケズリ。丸付柄付。直輪	日輪実測	N区未	B66
35	灰釉陶器	碗	(16.4)	-	<3.4>	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付	ロクロナダ。直輪。丸付柄付	日輪実測	N区未	
36	灰釉陶器	碗	13.5	6.8	3.8	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付へラケズリ。丸付柄付。直輪	ロクロナダ。直輪。丸付柄付へラケズリ。丸付柄付。直輪	日輪実測	N区未	No.3
37	灰釉陶器	碗	(16.0)	-	<2.1>	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪	日輪実測	N区未	D65
38	灰釉陶器	碗	(15.6)	-	<2.4>	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪	ロクロナダ。直輪	日輪実測	P5	
39	土師器	ロクロ	(14.0)	-	<6.9>	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	日輪実測	N区未	D37
40	土師器	ロクロ	(14.0)	-	<6.8>	ヘラナダ	ヘラナダ	ヘラナダ	日輪実測	N区未	
41	須恵器	瓶	(29.2)	-	<3.5>	ロクロナダ	ロクロナダ	ロクロナダ	日輪実測	N区未	
42	砂字・墨	寺	内面	ナダ	外唇	須恵器底付へ墨書き又(中空式墨)	須恵器底付へ墨書き又(中空式墨)	須恵器底付へ墨書き又(中空式墨)	日輪実測	N区未	
43	須恵器	土師器	土器片	印形	印形	印形片	印形片	印形片	日輪実測	N区未	
No.	目	材	最大厚	最大幅	最大長	重 量	用	具			出土物数
44	磨石	石	4.8	3.9	3.9	83.83	全体にナリ				No.7
45	磨石	石	<7.3>	<4.0>	<0.4>	<39.45>	表面に木質付着				No.6

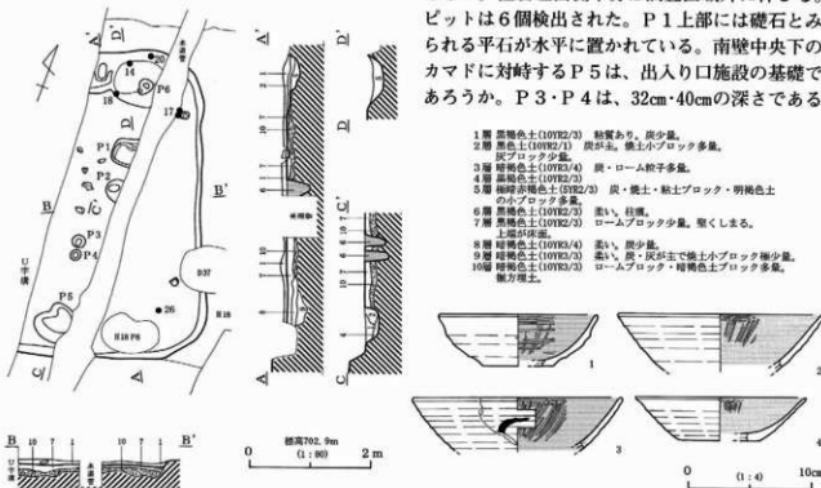
~31、須恵器有台坏31、須恵器要41、灰釉陶器碗32~38、土製品43、44の磨石、鐵器45がある。弥生時代後期土器は、混入遺物である。

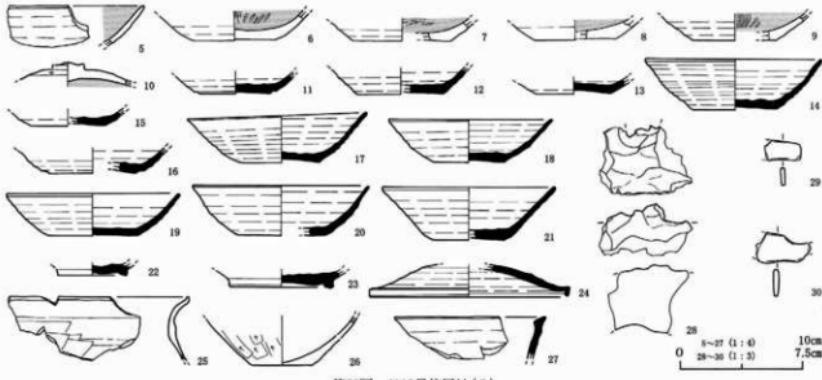
土師器坏1~14·17、III16、碗20は、内面黒色処理される。土師器坏1·3·18·20、須恵器坏22~30、有台坏31の底部は回転糸切り。土師器坏6~12は墨書きされる。6の墨書きは「上」、12は「大」と読める。17の鉢は口縁部内弯する。灰釉陶器の釉は漬け掛け、34·36の底部は回転ヘラケズリ、36は体部下端回転ヘラケズリ。39·40は土師器ロクロ甕である。土製品須恵器壺胴部片を加工した楕円形の土器片円板43の側面には、敲打痕がみえる。45は木質が付着する鎌である。混入遺物42は、内面ヘラナダ外面櫛描横走文下に伊那谷中島式系の櫛描円孤文施文される。

本址は、これらから小林眞寿の編年(2005聖原)奈良·平安時代VI期-9世紀後半に位置づけられる。

(19) H19号住居址

ひ·ふ-64~66 G r にあり、H20を切り、H18·D37に切られる。北壁東寄りのカマドは、原形を留めない。住居址西側半分は調査区域外に伸びる。ピットは6個検出された。P1上部には礫石とみられる平石が水平に置かれている。南壁中央下のカマドに対峙するP5は、出入り口施設の基礎であろうか。P3·P4は、32cm·40cmの深さである。





第79図 H19号住居址(2)

床面は平坦で堅く締まる。

遺物は土師器壺1~9、土師器蓋10、土師器甕25・26、須恵器壺11~21、須恵器有台壺22~23、須恵器蓋24、須恵器甕、土製品28、鉄器29・30が出土した。栽培種のイネが262個IV区掘方から、モモ1個がカマドから、オオムギが1個とダイズ類? 1個が覆土から、獣類の部位不明破片の焼骨が掘方からそれぞれ検出された。イネ・モモ・オオムギ等は、それぞれ炭化していた。

土師器壺1~9・蓋10は、内面黒色処理される。土師器壺1~4・須恵器壺11~21、有台壺22~23の底部は回転糸切り。土師器壺6は底部回転糸切り後手持ちヘラケズり、土師器壺8は底部回転糸切り後ヘラナデ、土師器壺9は手持ちヘラケズリされる。土師器壺3は墨書きされる。25・26は土師器武藏甕で、25は「コ」字口縁部を持つ。28の土製品は、輪の羽口であろう。29の鉄器は刀子である。

第47表 H19号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	遺物別	形	寸	表面	裏面	内面	外面	形状・構造・文様		寸法(横×縦×高)	重さ(g)	備考	
								横	縦				
1	土師器	壺	-	(12.8) (5.8)	4.3	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	5.8	1	
2	土師器	壺	-	(16.0)	-	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	13.5	2	
3	土師器	壺	-	(17.0)	-	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	14.5	3	
4	土師器	壺	-	(13.8)	(6.6)	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	11.5	4	
5	土師器	壺	-	-	-	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	6.5	5	
6	土師器	壺	-	(6.6)	(2.4)	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	3.5	6	
7	土師器	壺	-	(8.0)	(1.9)	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	4.5	7	
8	土師器	壺	-	(6.6)	(1.6)	ヘラミガキ→赤色底層	クロクナデ→底面糸切り→ヘラナデ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	3.5	8	
9	土師器	壺	-	(6.6)	(2.2)	ヘラミガキ→赤色底層?	クロクナデ→底面糸切りヘラケズリ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	3.5	9	
10	土師器	蓋	-	つまみ縛	(1.6)	ヘラミガキ→赤色底層	矢井田四郎→ヘラケズリ→あみ船付	完全美濃	完全美濃	完全美濃	1.6	10	
11	陶製蓋	蓋	-	(5.8)	(1.8)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	0.65	11	
12	陶製蓋	蓋	-	(7.2)	(2.2)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	1.2	12	
13	陶製蓋	蓋	-	(6.0)	(1.4)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	0.8	13	
14	陶製蓋	蓋	-	(14.8)	6.8	4.1	ロロロナデ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	1.8	14	
15	須恵器	壺	-	(6.0)	(1.5)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	0.8	15	
16	須恵器	壺	-	(7.0)	(2.1)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	1.2	16	
17	須恵器	壺	-	(14.7)	6.3	3.9	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	完全美濃	完全美濃	完全美濃	4.5	17
18	須恵器	壺	-	13.4	5.8	3.5	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	完全美濃	完全美濃	完全美濃	2.5	18
19	須恵器	壺	-	(14.0)	(7.2)	3.4	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	4.5	19
20	須恵器	壺	-	(14.8)	(7.4)	4.1	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	4.5	20
21	須恵器	壺	-	(14.2)	(5.8)	4.3	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	4.5	21
22	須恵器	有台壺	-	-	5.6	(1.1)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り・有台付	完全美濃	完全美濃	完全美濃	0.8	22
23	須恵器	有台壺	-	-	(8.4)	(1.5)	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切り・有台付	完全美濃	完全美濃	完全美濃	1.2	23
24	須恵器	甕	-	16.3	-	2.7	ロロロナデ	クロクナデ→底面糸切りヘラケズリ	完全美濃	完全美濃	完全美濃	2.5	24
25	土師器	甕	-	-	-	(5.2)	須恵器コロナデ	須恵器コロナデ・ヘラケズリ	完全美濃	完全美濃	完全美濃	0.6	25
26	土師器	甕	-	(5.0)	(0.4)	ナデ	ヘラケズリ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	0.6	26	
27	須恵器	甕	-	-	-	(5.5)	ロロロナデ	クロクナデ	四辻美濃	四辻美濃	四辻美濃	0.5	27
No.	遺物別	形	寸	底径	高さ	底径	高さ	表面	裏面	寸法(横×縦×高)	重さ(g)	出土地點	
28	羽口?	土師器	口沿	9.5	内径	<44.4%	3.5	の先端部か? 翼形口沿。			カマド		
29	刀子?	鉄	刃	<2.3>	<1.2>	<0.2>	<2.11>	古墳文様。			四辻美濃		
30	不明	鉄	刃	<1.4>	<1.0>	<0.35>	<6.65>	古墳文様。			四辻美濃		

本址は、これらの遺物から小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期- 9世紀前半に位置づけられる。

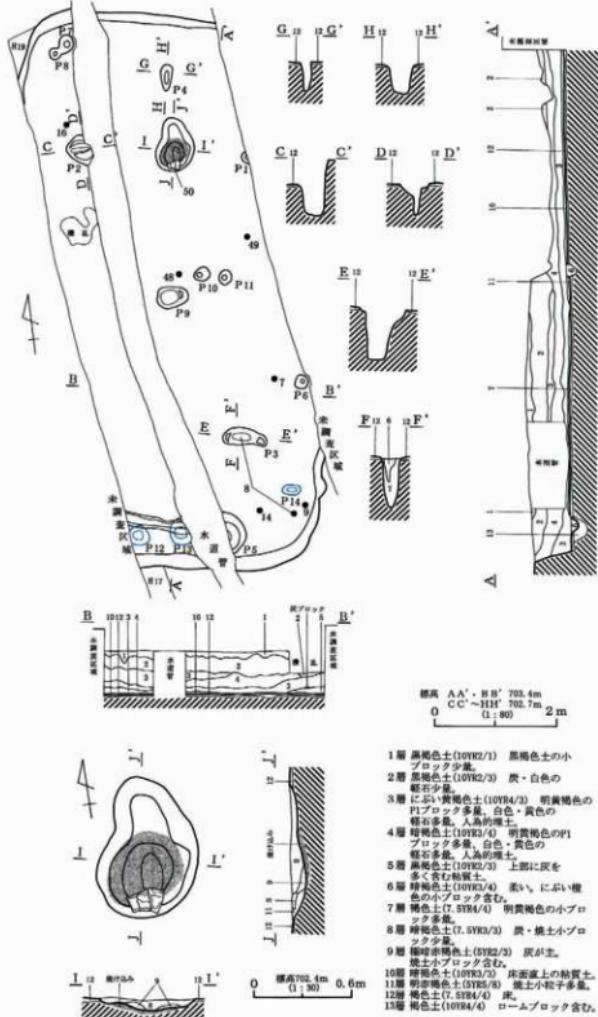
(20) H 20号住居址

ひ・ふ-64~67G rにありH17~H19・D37に切られる。炉は主柱穴P1・P2間にある。炉は台石として使用されたとみれる第81図50の礫を炉礫石として用いた地床炉で、北側にテラスを持ち5cm程掘りこまれている。炉底面は被熱で赤変していた。炉内に残存することは、稀な灰が確認された。ピットは7個検出され、P2・P3の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。P4は棟持柱、やはり、五平状の柱が想定される。桁行き4.6m梁行き2.8m。P5・P11・P12は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。壁際を除く床面直上にH11・H12と同様に黒褐色の粘質土が張り付くように認められた。

覆土第3・4層は、
人為埋土である。

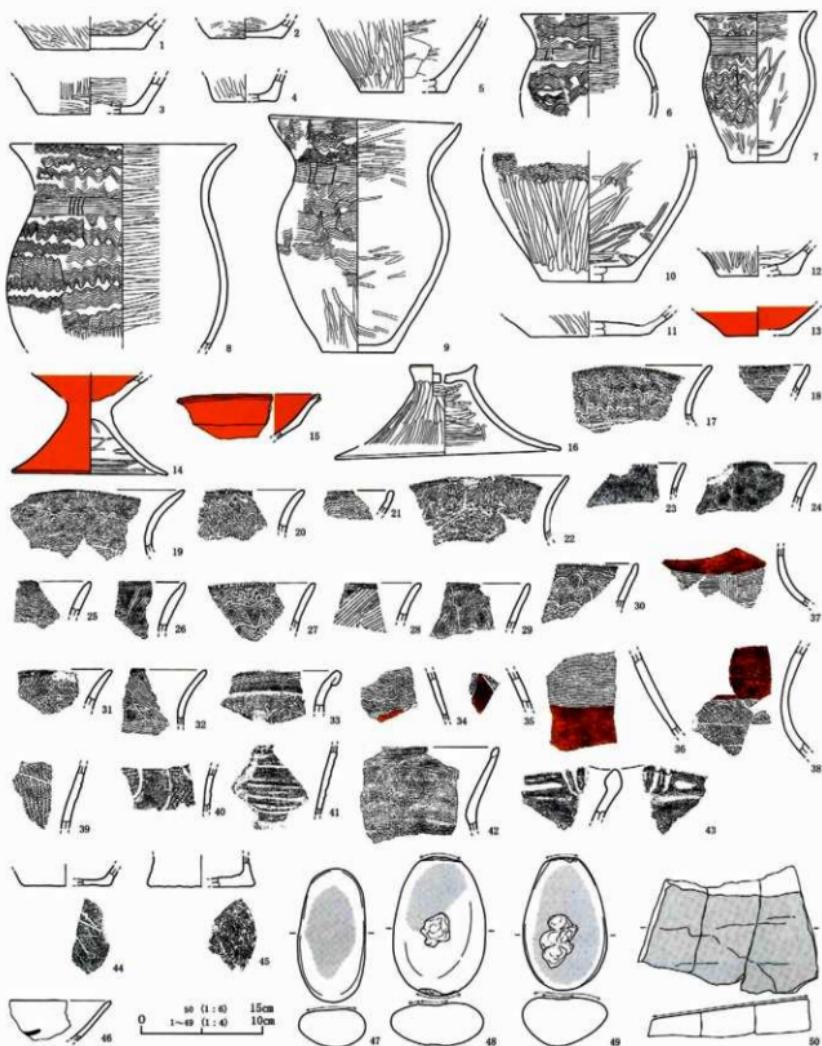
遺物は、甕(1~10-17~30・31~33)・壺(11-12・34~38)・鉢(13)・高环(14-15)・蓋(16)の弥生土器、磨石47、凹石(48-49)、台石(50)、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢片、内面黒色処理・外面に墨書きの土師器等がある。

1～5は翼の底部、



第80図 H20号住居址(1)

6～10・17・19は、櫛描縦状文・櫛描波状文が施文される甕である。口縁部と胴部に波状文が施文された後に頸部に縦状文が施文される。26・28・32には櫛描斜走文が、23・27の口唇部には刻目が、1の内



第81図 H20号住居址(2)

面には炭素吸着がみられる。13の内外面、14・15の坏部内外面、14脚部外面は赤色塗彩される。16は炭素吸着された蓋。34～38は外面赤色塗彩され、頸部の文様にはヘラ描斜走文・櫛描T字文・櫛描波状

第48表 H20号住居址出土遺物觀察表

(cm・g)

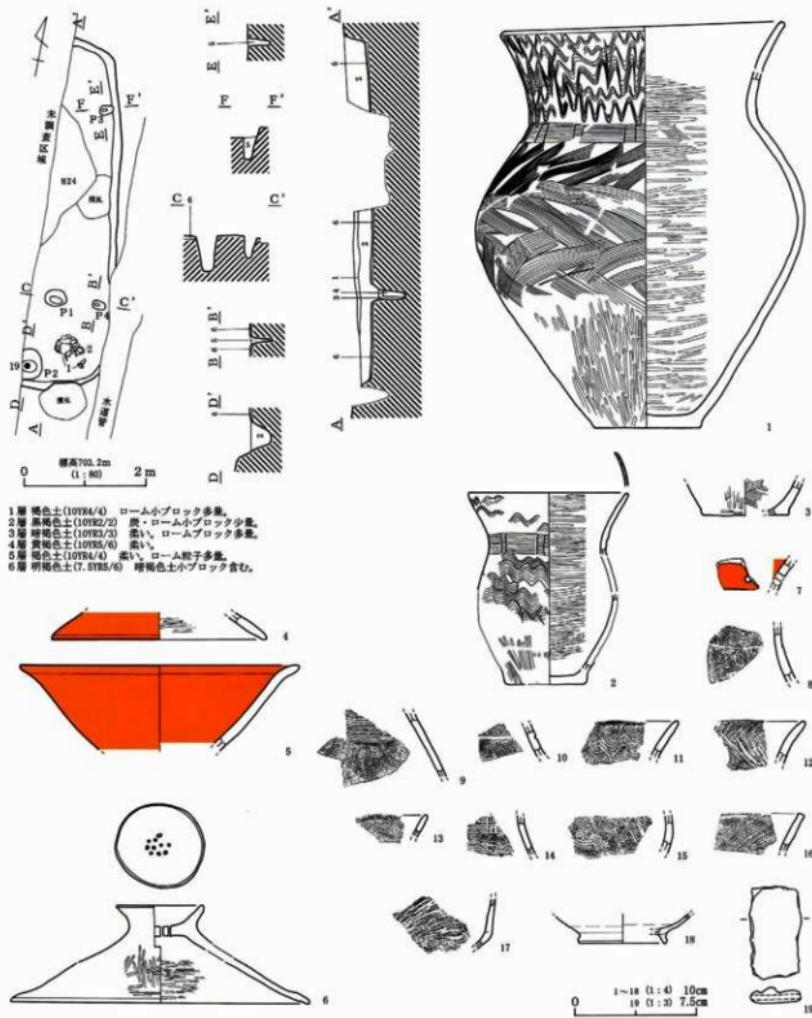
No.	種別	形	法 量	成 形・調 整・文 横			指定物()	残存率 < >丸印	備考	出土地點
				内 面	外 面	備考				
1	弥生土器	縦	-	(8.5) <2.5>	ヘラミガキ→炭素吸着	ヘラミガキ	目輪実周	M区底土		
2	弥生土器	縦	-	(5.8) <1.6>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→底部ヘラミガキ	目輪実周	Ⅱ区2・3・4層		
3	弥生土器	縦	-	(6.6) <3.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	目輪実周	Ⅱ区3層		
4	弥生土器	縦	-	(5.0) <2.2>	ヘラナデ	ヘラミガキ	目輪実周	Ⅱ区1層		
5	弥生土器	縦	-	(7.0) <6.0>	ヘラナデ	ヘラミガキ	目輪実周	M区2層		
6	弥生土器	縦	11.2	-	<8.0> ヘラミガキ	櫛描波状文→櫛描縫状文	目輪実周	M区底		
7	弥生土器	縦	9.9	4.3	12.4	ヘラミガキ 櫛描波状文→櫛描横走文、底部ヘラミガキ	完全実周	No.4		
8	弥生土器	縦	(19.0)	-	<17.0> ヘラミガキ	櫛描縫状文→櫛描縫状文	完全実周	No.5.7 小66 Ⅲ区3層 Ⅲ区底		
9	弥生土器	縦	15.9	5.9	19.5	ヘラミガキ 櫛描波状文→櫛描縫状文、底部ミガキ	完全実周	No.6		
10	弥生土器	縦	-	(7.6) <11.0>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	目輪実周	M区 N区2・3・4層		
11	弥生土器	直	-	(9.5) <2.0>	ナデ。剣跡	ヘラミガキ	目輪実周	Ⅱ区1層		
12	弥生土器	直	-	(6.0) <2.5>	ヘラナデ	ヘラミガキ、底部ヘラミガキ	目輪実周	Ⅱ区底土		
13	弥生土器	鉢	-	5.3	<2.5> 赤色塗彩	赤色塗彩	完全実周	Ⅱ区2・3・4層		
14	弥生土器	高环	-	12.7	<7.9> 环部 赤色塗彩・剣離している。脚部 三方ナ	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全実周	M区底 No.8		
15	弥生土器	高环	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	破片実周	Ⅲ区3層		
16	弥生土器	縦	5.5	18.7	<7.5> ヘラミガキ→炭素吸着	ヘラミガキ	完全実周	Ⅱ区 No.1		
17	弥生土器	縦				櫛組波状文、櫛描縫状文。	後期			
18	弥生土器	縦				櫛描波状文。	後期			
19	弥生土器	縦				櫛組波状文→櫛描縫状文。	後期			
20	弥生土器	縦				櫛描波状文。	後期			
21	弥生土器	縦				櫛組波状文。	後期			
22	弥生土器	縦				櫛描波状文。	後期			
23	弥生土器	縦				櫛組波状文→櫛描横走文。口部に剣目。	後期			
24	弥生土器	縦				櫛組波状文。	後期			
25	弥生土器	縦				櫛組波状文。	後期			
26	弥生土器	縦				櫛組斜走文→櫛描横走文。	後期			
27	弥生土器	縦				櫛組波状文。口部に剣目。	後期			
28	弥生土器	縦				櫛組斜走文。	後期			
29	弥生土器	縦				櫛組波状文。	後期			
30	弥生土器	縦				櫛組波状文。	後期			
31	弥生土器	縦				櫛組波状文。	後期			
32	弥生土器	縦				櫛組斜走文→櫛描横走文。	後期			
33	弥生土器	縦				折り返し口縁。	後期			
34	弥生土器	縦				脚部に櫛組波状文。外面 赤色塗彩。	後期			
35	弥生土器	縦				脚部に剣突を保護する一括組縫文。外面 赤色塗彩。	後期			
36	弥生土器	直				脚部に櫛組横走文。外面 赤色塗彩。	後期			
37	弥生土器	直				脚部に櫛組T字文。外面 赤色塗彩。	後期			
38	弥生土器	豊				櫛組T字文→ヘラ描斜走文を横位羽状に施す。内外面 赤色塗彩。	後期			
39	縄文土器	深鉢				沈縄区画面に焼文R。	後期			
40	縄文土器	深鉢				横状波紋、縄文R。	後期			
41	縄文土器	深鉢				横位沈縄下に網形・雲状沈縄区画。焼文LR。	後期			
42	縄文土器	深鉢				縄縫内折、所謂粗筋土器。	後期			
43	縄文土器	深鉢				小突起に定位の短い沈縄。口縁部に沿って横位沈縄。	後期			
44	縄文土器	深鉢				底部 木状痕。	後期			
45	縄文土器	深鉢				底部より内被瓦端に立ち上る。底径 (8.7) 器高 <2.6>。	後期前半			
46	土師器	环				内面 ヒラミガキ→黒向泥付。外面 異書	破片実周			
No.	器 機	審 材	大 量	最 大 壓	最 大 容	重 量	所 見		出土地點	
47	磨石		11.0	5.6	3.2	304.24	正面にすり面。		I区底土	
48	凹石		11.5	7.6	3.6	420.40	被熱あり？(一部黒化)上下端部と正面上に敲打痕。正面にすり面。		No.3	
49	凹石		11.0	7.0	4.0	475.57	上端部と正面に敲打痕。正面にすり面。		No.2	
50	凸石		16.0	22.3	4.1	1880.00	正面が使用面。		No.10	

文・刺突が充填されたヘラ描鋸歯文がある。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(21) H21号住居址

ふ-63-64 G r にあり H24 に切られ、H22・P161・P162を切る。炉は調査範囲内では検出されない。



第82図 H21号住居址

第49表 H21号住居址出土遺物観察表

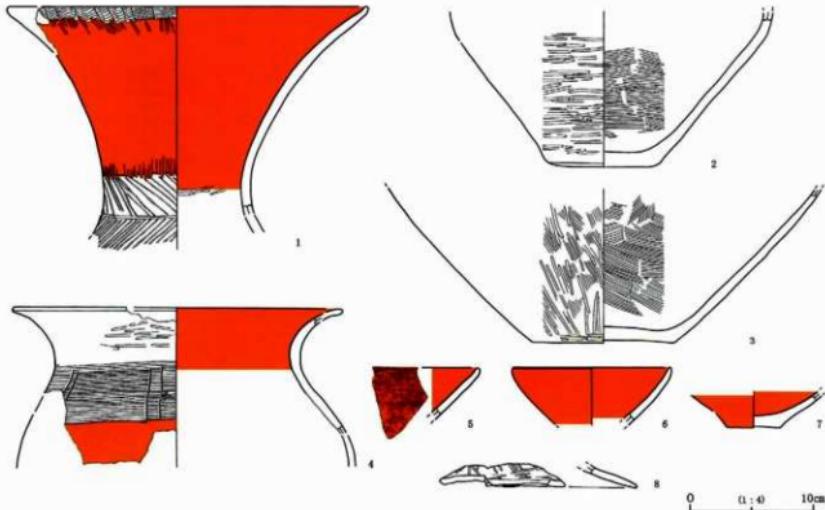
No.	種類	法面			成形・表面・文様		測定値()	所持者 <→ 丸山・ 橋 岡	(cm·g)
		横幅	縦幅()	高さ()	内 面	外 面			
1	弥生土器	蓋	<2.27>	8.6	32.9	ハケ口→ヘラミガキ	実底、輪縁部牛文→頭部 横縞波状文→口縫形 縦縞波状文	完全米開 No.1 No.3	
2	弥生土器	蓋	13.1	(6.5)	15.6	ヘラミガキ	口縫形 刃口に「縫」字縫痕波状文。頭部 横縞波状文	完全米開 No.2 伊2	完全米開 No.2
3	弥生土器	縁	-	(7.0)	<2.9>	ハケ口→ヘラミガキ	ヘラミガキ	切縫波状文	H27.8直 NSE
4	弥生土器	縁	-	(17.4)	<2.2>	ハケ口	ヘラミガキ・赤色謎彩	切縫波状文	カラン NSE
5	弥生土器	縁	(22.4)	-	<7.0>	ハラミガキ→赤色謎彩	ヘラミガキ・赤色謎彩	切縫波状文	カラン NSE
6	弥生土器	縁	(24.4)	7.0	8.1	ハケ口→ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全米開 密孔あ り	カランクラン NSE
7	弥生土器	蓋	-	-	-	ヘラミガキ・赤色謎彩	ヘラミガキ・赤色謎彩	破片 黄斑 密孔あ り	NSE 蓋土
18	反転縁陶	縁	-	(7.0)	<2.5>	ロクロナメ	ロクロナメ切り離し後向右斜材	完全米開 No.8 蓋土	完全米開 No.8 蓋土
8	弥生土器	縁	ヘラミガキ文、外縁 赤色波状。	ヘラミガキ文、外縁 赤色波状。					
9	弥生土器	縁	ヘラミガキ文、外縁 赤色波状。	ヘラミガキ文、外縁 赤色波状。					
10	弥生土器	縁	ヘラミガキ文、外縁 赤色波状。	ヘラミガキ文、外縁 赤色波状。					
11	弥生土器	縁	ヘラミガキ文。	ヘラミガキ文。					
12	弥生土器	縁	ヘラミガキ文。	ヘラミガキ文。					
13	弥生土器	縁	ヘラミガキ文。	ヘラミガキ文。					
14	弥生土器	縁	ヘラミガキ文。	ヘラミガキ文。					
15	弥生土器	縁	ヘラミガキ文。	ヘラミガキ文。					
16	弥生土器	縁	ヘラミガキ 文底部 口縫リーフ西縫波状文。輪縞斜波状文。	ヘラミガキ 文底部 口縫リーフ西縫波状文。輪縞斜波状文。					
17	土器部	縁	内縫 ヘラミガキ、外縫 クラクの匂い有田窯製。タタキ2脚土は在来地で苦しく實なり。瓦白色(10YR8/1) 黑褐灰化?	内縫 ヘラミガキ、外縫 クラクの匂い有田窯製。タタキ2脚土は在来地で苦しく實なり。瓦白色(10YR8/1) 黑褐灰化?				古昔一古代	NSE
19	不明	縁	5.8	3.2	34.12				不明の如き
								No.4	

ピットは4個検出され、P 1 の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。P 3・P 4 は壁柱穴、やはり、五平状の柱が想定される。P 2 は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。

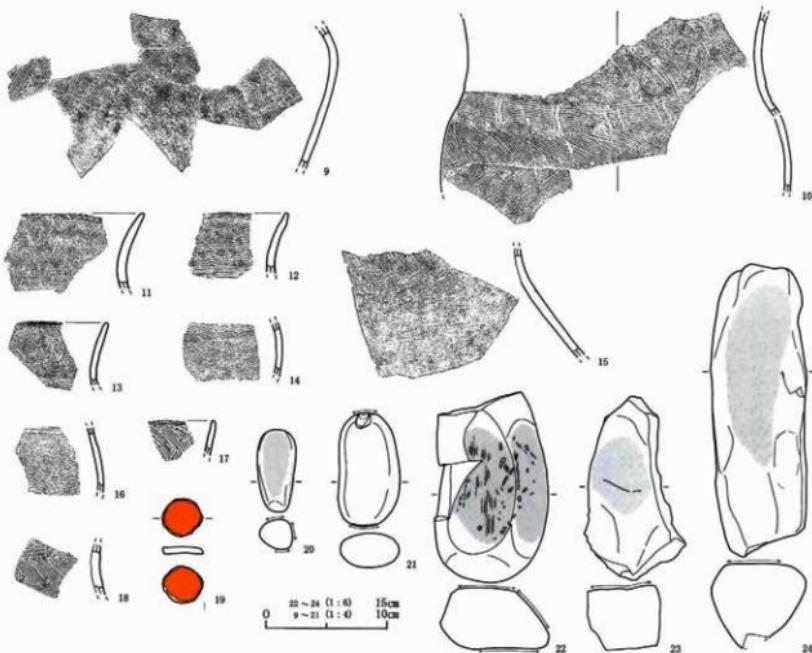
遺物は、甕(1~3・11~17)・壺(7~10)・高杯(4・5)・蓋(6)の弥生土器、鉄器19、本址に伴わぬ胎土灰白色の土師器東海系の甕(17)、灰釉陶器碗(18)がある。1は胸部櫛描斜走文後頸部櫛描簾状文後口縁部櫛描波状文、2は口縫部・胸部波状文後頸部簾状文が施される。11~15は櫛描波状文が、12~16は櫛描斜走文が施される。6の無彩の蓋は、小孔10個持つ。壺は赤彩7~9、無彩の8がある。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(22) H22号住居址

ひ・ふ-62~64G r にありH18・H21・H24・P 161~164・P 167に切られる。炉は3カ所から検出された。主柱穴P 1・P 2 之間の炉1は、主炉である。炉1は第84図4の深鉢を逆位に置き、第84図24の台石を



第83図 H22号住居址(1)



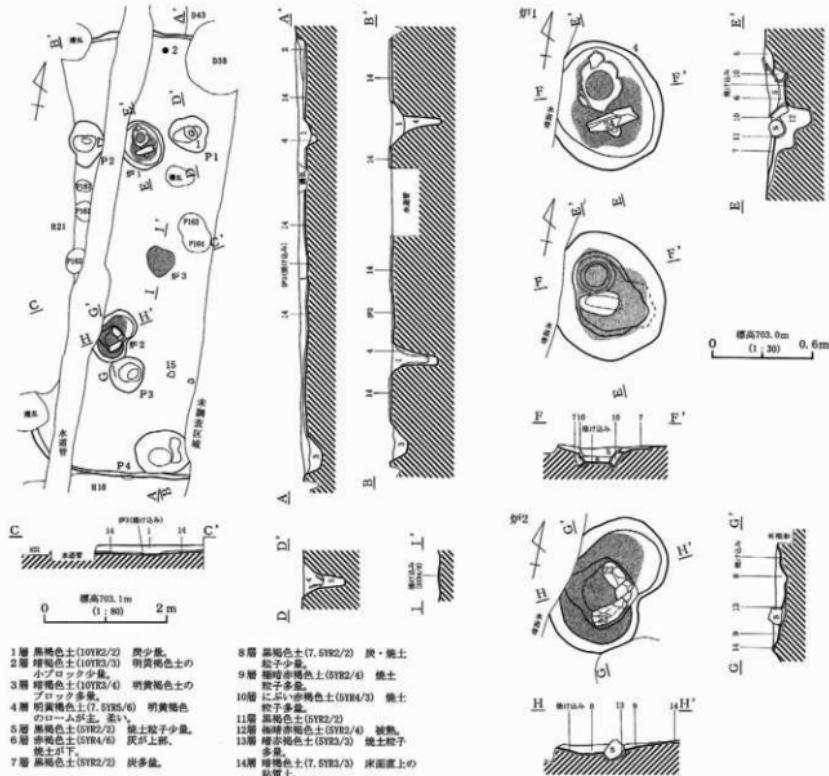
第84図 H22号住居址(2)

第50表 H22号住居址出土遺物観察表

(cm·g)

No.	種類	形 塵	正形			材質	測定(1) 長軸 < > 横軸	記 号	出土地點
			内 葵	外 葵	口部(底)				
1	住居土器	壺	(29.6)	-	<19.0>	ヘラミガキ→赤色遮形	口部鉛錆状紋、腹部ヘラミガキ→赤色遮形	口 完全実測	No.9
2	住居土器	壺	-	8.9	<12.8>	ハケメ	ヘラミガキ	完全実測	No.8
3	住居土器	壺	-	(11.6)	<12.7>	ハケメ	ハケメ→ヘラミガキ	部分実測	E 区 D64 063 カグラソ
4	住居土器	深壺	(26.8)	-	<13.3>	口縁部ヘラミガキ→赤色遮形	輪郭線鉛錆状紋、輪郭部ヘラミガキ→赤色遮形	口縁部 完全実測	No.1-4
6	住居土器	鉢	(11.8)	-	<8.6>	ヘラミガキ→赤色遮形	ヘラミガキ→赤色遮形	口縁部実測	D64
7	住居土器	鉢	-	4.2	<10.0>	ヘラミガキ→赤色遮形	ヘラミガキ→赤色遮形	完全実測	田辺屋土
8	住居土器	鉢	-	-	<1.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	田辺屋土
9	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ、外面 口縁部鉛錆状紋、腹部ヘラミガキ→赤色遮形。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
9	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外壁化粧の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
10	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 口縁部鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
11	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
12	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
13	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
14	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
15	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
16	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
17	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
18	住居土器	壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
19	住居土器	十脚壺	-	-	-	内面 ヘラミガキ。外側 鉛錆状紋、輪郭部鉛錆状紋の痕跡を有する。	内面 ヘラミガキ	部分実測	田辺屋土
20	磨石	-	6.8	3.2	2.5	72.44	正面-右側に直角。	P4	
21	磨石	-	9.3	5.0	2.8	206.25	上端側面に直角。	田辺屋土	
22	台石	-	23.6	14.2	7.8	4030.00	被施アリバー部黒化された状態で使用。正面-右側が使用面。	H22 No.7	
23	石	-	22.7	12.5	8.3	2880.00	正面で使用。	No.6	
24	石	-	36.0	11.9	<10.7>	<84.4>	裏面一部黒化された状態で使用。正面で使用。	No.5	

が縁石にした埋甕¹である。炉底はよく焼け込んでいる。深鉢内下部に焼土、上部に灰が堆積する。炉縁石から南に炭多量にみられた。P 3 の北に接した炉 2 は、副炉といえよう。8 cm 挖り込み第 84 図 22・23 の台石等 3 個の礫を用いた「L」形の石囲炉である。炉底面はよく焼け込んでいる。炉 3 は



第85図 H22号住居址(3)

主柱線上炉1から1.2m南にある地床炉で、5cm程の堆みに焼土が堆積し底面はよく焼け込んでいる。ピットは4個検出され、P1～P3の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。桁行き4m梁行き1.8m。P4は出入口施設の基礎と考えられる。床面は堅く平滑で、掘方は極浅い。

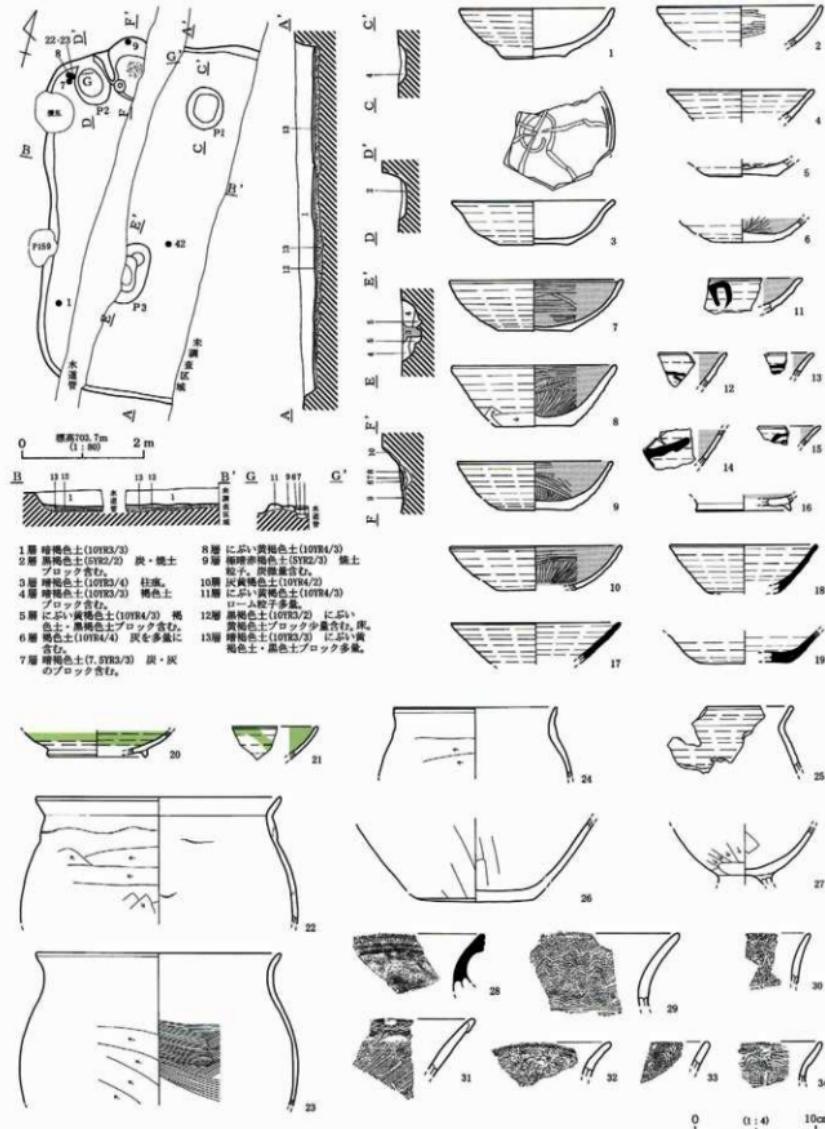
遺物は甕(9~14・16~18)・壺(1~3・5・15)・鉢(6・7)・深鉢(4)・蓋(8)の弥生土器、土製品、磨石(20)、磐石(21)、台石(22・24)、板1から既断の玉形石、板2中に既断の玉形石の跡見られる。

横位羽状の櫛描斜走文が9・10・11の胴部に、17の口縁部に施される。10は胴部櫛描斜走文・口縁部櫛描波状文後頭部櫛描廉状文が、施される。1の壺は、極短く内窓気味の口縁端部に櫛描波状文・頸部に横位羽状のヘラ描斜走文を施し、赤色塗彩される。15の無彩色壺部には、ヘラ描横走沈線内に横位櫛描斜走文が施される。6・7の鉢は、内外面赤色塗彩。8の蓋は無彩である。19の土製品は、表裏面赤色塗彩の鉢か高环片を加工した円形の土器片凹板で、側面に敲打痕・研磨痕が見える。

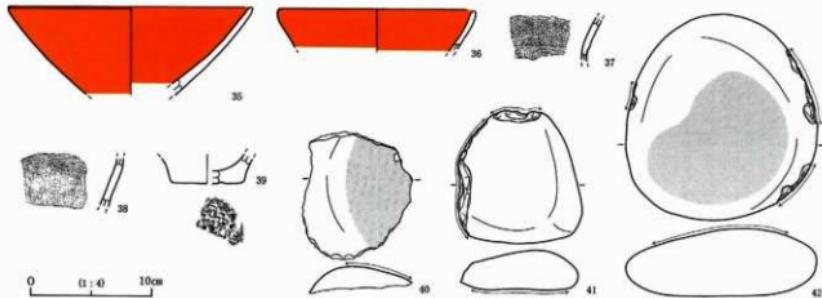
これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(23) H23号住居址

ひ・ト-58~60G.cにあり、H25・H27・H32・E4を切り、P159に切られる。カードは、其腰面より



第86図 H23号住居址(1)



第87図 H23号住居址(2)

第51表 H23号住居址出土物観察表(1)

(cm·g)

No.	種別	器種	法 異			成形・調製・文様	推定様()	推定種 < > 失透	備考	出土位置
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)					
1	土師器	环	12.7	5.4	4.2	クロコナデ→底部凹軸角切り	ロクロナデ→底部凹軸角切り	完全実測	No.6	
2	土師器	环	(13.6)	-	<3.3>	ヘラミガキ	ロクロナデ→底部凹軸角切り	回転実測	Ⅱ区覆土	
3	土師器	环	(13.4)	(5.4)	3.6	ナデ→圓文施文	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	回転実測	Ⅲ区覆土	
4	土師器	环	12.1	-	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実測	Ⅲ区覆土	
5	土師器	环	-	(6.0)	<1.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	完全実測	Ⅲ区覆土	
6	土師器	环	-	5.0	<1.9>	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	完全実測	Ⅲ区覆土	
7	土師器	环	14.3	6.0	4.2	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	完全実測	No.3 カマド	Ⅱ区
8	土師器	环	(13.6)	6.2	5.0	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→底部底外周ヘラケズリ	完全実測	No.1	
9	土師器	环	(12.8)	6.2	4.0	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	完全実測	No.4	
10	土師器	环	(14.2)	6.4	3.6	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	完全実測	Ⅲ区 蓋区	
11	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→黒墨あり	破片実測	Ⅲ区覆土	
12	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→黒墨あり	破片実測	Ⅲ区覆土	
13	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→黒墨あり	破片実測	Ⅲ区覆土	
14	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→黒墨あり	破片実測	Ⅲ区覆土	
15	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→黒墨あり	破片実測	Ⅰ区覆土	
16	土師器	碗	-	(7.8)	<1.3>	ヘラミガキ→黑色処理	ロクロナデ→底部右凹軸角切り→両台貼付	回転実測	Ⅲ区覆土	
17	須恵器	环	(14.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I 区	
18	須恵器	环	(12.2)	(6.0)	<4.1>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	Ⅲ区覆土	
19	須恵器	环	-	(7.0)	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右凹軸角切り	回転実測	Ⅲ区覆土	
20	灰陶陶器	碗	-	(8.0)	<2.2>	ロクロナデ→灰陶施釉	ロクロナデ→切り離し後裏台貼付→灰陶施釉	回転実測	Ⅲ区覆土	
21	灰陶陶器	碗	-	-	-	ロクロナデ→灰陶施釉	ロクロナデ→灰陶施釉	破片実測	Ⅲ区覆土	
22	土師器	罐	(20.0)	-	<10.4>	ヨコナデ ナデ	ヨコナデ ヘラケズリ	回転実測	No.2 Ⅱ区 カマド	
23	土師器	罐	(20.0)	-	<12.6>	ハケメ→ヨコナデ	ヘラケズリ→ヨコナデ	回転実測	No.2 Ⅱ区 カマド P	
24	土師器	罐	(13.4)	-	<5.7>	ナデ	ヘラズリ→ヨコナデ	回転実測	Ⅱ区覆土	
25	土師器	口コナデ	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	破片実測	Ⅲ区覆土	
26	土師器	羽垂?	-	-	9.8	ヘラナデ	ヘラナデ	完全実測	Ⅲ区覆土	
27	土師器	有台盤	-	-	<4.8>	脚部ヨコナデ 備部ヘラナデ	ヘラケズリ→ヘラナデ	回転実測	Ⅲ区覆土	
28	須恵器	罐	-	-	-	-	-	断面実測	Ⅲ区覆土	
35	弥生土器	耳か丸环	(20.0)	-	<7.1>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	I 区 Ⅱ区 木 リカ	
36	弥生土器	耳か丸环	(16.0)	-	<3.5>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	回転実測	I 区覆土	
29	弥生土器	甌	内面	ヘラミガキ。	背面	輪廓輪状文→輪廊波状文。	ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	Ⅱ区覆土	
30	弥生土器	甌	内面	ヘラミガキ。	背面	輪廓波状文→口部波状文。	ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	Ⅱ区木下	
31	弥生土器	甌	折り返し口縁、内面	ミガキ。	背面	輪廓波状文→口部横羽状の輪廊斜走文。	ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	Ⅳ区覆土	
32	弥生土器	甌	内面	ヘラミガキ。	背面	輪廊波状文→口部斜走文。	ヘラミガキ→赤色塗彩	断面実測	Ⅱ区覆土	

ある。にぶい黄褐色土の袖部が僅か残存し、袖部芯材を固定したと思われる小ピットが袖部先端に認められる。火床には、灰の堆積が見られる。床面は、堅く平坦である。ピットは、3個検出された。P 3に径16cmの柱痕が認められた。カマド西脇のP 2内覆土は、炭・焼土ブロックを含む。

遺物は土師器環1~10、土師器皿碗16、土師器環か碗11~15、土師器甌22~27、須恵器環17~19、

H23号住居址出土遺物観察表(2)

(cm-g)

No.	種別	形態	所見	備考	出土位置					
33	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 柳描波状文 口唇部剥み。	断面実測	I区覆土					
34	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 柳描波状文→柳描波状文。	断面実測	覆土					
37	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 柳描波状文→柳描波状文。	断面実測	II区覆土					
38	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 柳描波状文。	断面実測	II区覆土					
39	縄文土器	深鉢	網代式。2本糸2本通り。底径 (6.0) 底厚<2.4>。	後期	II区リ方					
No.	品種	素材	最大径	底大径	底厚	最大厚	重量	所見	備考	出土位置
40	磨石		<10.4>	<9.0>	<1.8>	<221.94>		被熱あり(黒化)→被熱被紛擦片。全周欠損。正面にすり面。	P1	
41	磨石		10.9	10.1	3.3	532.00		被熱あり(一部黒化)上部・左側に敲打痕。裏にすり面。	カマド	
42	磨石		16.9	15.6	5.5	1914.51		被熱あり(一部黒化)縁辺に敲打痕。正面にすり面。	No.8	

須恵器甕28、灰釉陶器碗20・21、40の磨石、磨面を持つ敲石41・42がある。I区覆土からウマの右下顎臼齒片が出土した。縄文時代後期・弥生時代後期土器は、混入遺物である。

土師器杯6～19・土師器杯か碗11～15は、内面黒色処理される。土師器1～3・5～7・9・10・16、須恵器杯19の底部は回転系切り。土師器杯か碗11～15は墨書きされる。24・25は「コ」字口縁の土師器武藏甕、25は土師器ロクロ甕である。27は台付きの土師器武藏甕、26は羽釜かもしれない。

本址は、これらから小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期- 9世紀後半に位置づけられる。

(24) H24号住居址

ふ-63G rにあり、H21を切る。大半は調査区域外にある。カマド・炉等は調査範囲内では、検出されない。ピットは3個確認され、いづれも壁柱穴である。P3は床下から検出され径12cmの柱痕がみられた。床面は堅く締まり平坦である。壁溝が東壁・南壁下を巡る。

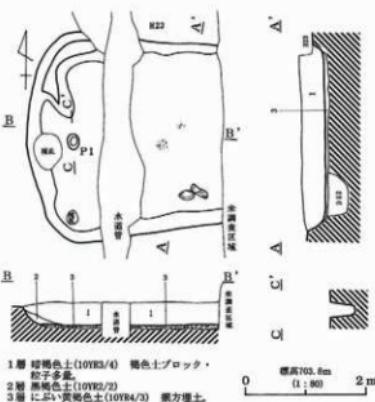
遺物は、横位のヘラ描沈線内にヘラ描斜走文が施され赤色塗彩される1の壺、口縁部・胴部に柳描波状文施後頸部に柳描簾状文が施される甕が出土した。重複する弥生時代後期H21に帰属する可能性があり、本址の時期等詳細は不明である。

第52表 H24号住居址出土遺物観察表

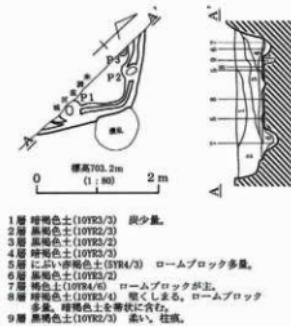
(cm-g)

No.	種別	形態	所見	備考	出土位置
1	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外面 柳描波状文→柳描簾状文。	断面実測	覆土
2	弥生土器	甕	内面 ナデ。外面 ヘラ描沈線内にヘラ描斜走文→赤色塗彩。	断面実測	覆土

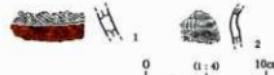
(25) H25号住居址



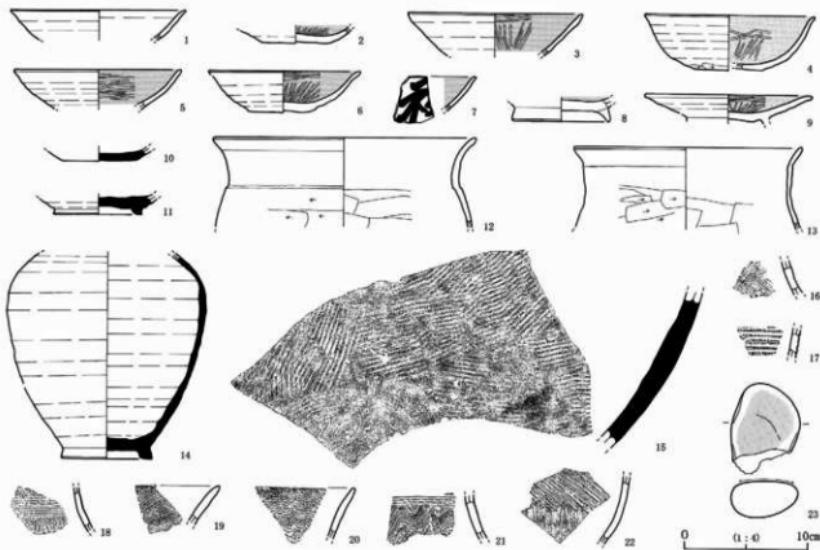
第89図 H25号住居址(1)



- 1層 増塗赤色土(10YR2/3) 薄少量。
- 2層 黒褐赤色土(10YR2/3)
- 3層 黑褐赤色土(10YR2/2)
- 4層 増塗赤色土(10YR2/3)
- 5層 にじみ増塗赤色土(SYR4/3) ロームブロック多量。
- 6層 増塗赤色土(10YR2/2)
- 7層 増塗赤色土(10YR4/6) ロームブロックが主。
- 8層 増塗赤色土(10YR2/4) 厚くしまる。ロームブロック多量。増塗赤色土を帯状に含む。
- 9層 黒褐赤色土(10YR2/3) 細い、往復。



第88図 H24号住居址



第90図 H25号住居址(2)

第53表 H25号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	断面	成形・調製・文様			測定()	残存値 < > 厚さ	備考	出土位置
			内面	外側					
1	土師器	杯	(14.2)	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転美術	I・II区壁土
2	土師器	杯	-	5.7	<1.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全美術	便土
3	土師器	杯	(14.2)	-	<3.5>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転美術	便土
4	土師器	杯	(13.8)	(5.6)	(4.5)	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部下側部手持ちハラケズリ	回転美術	便土
5	土師器	杯	(13.6)	-	<3.3>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ	回転美術	I区壁土
6	土師器	杯	(12.4)	5.5	3.4	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部回転糸切り	完全美術	便土
7	土師器	杯	-	-	-	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。墨書きあり	破片美術	便土
8	土師器	碗	-	(8.0)	<2.0>	ヘラミガキ。黒色処理	底部回転糸切り→高台貼付	回転美術	便土
9	土師器	皿	13.6	-	<2.4>	ヘラミガキ。黒色処理	ロクロナデ。底部右回転糸切り→高台貼付→高台貼付(火焼)	完全美術	便土
10	済器	杯	-	(6.2)	<1.2>	ロクロナデ	高座右回転糸切り	回転美術	便土 I区ホリカ
11	済器	有柄杯	-	(7.2)	<1.7>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部ハラケズリ→高台貼付	回転美術	便土
12	土師器	盤	(21.6)	-	<7.3>	ヘラミナデ	ハラケズリ	回転美術	便土
13	土師器	盤	(18.4)	-	<6.7>	ヘラナデ	ハラケズリ	回転美術	便土
14	済器	盤	-	7.4	<16.9>	ロクロナデ	回転糸切り→ナデ→高台貼付	完全美術	便土
15	済器	盤	内面	ナデ	平面平行タテナ。			断面美術	便土
16	弥生土器	壺	内面	ナデ	外腹	ヘラミガキ子目、 葉文沈泥。			I II区便土
17	鐵文	深鉢	内面	三ガキ	外腹	口縁部・胸部横押き波状文→脚部捺壓状文。			後期前半 II区便土
18	弥生土器	壺	内面	三ガキ	外腹	横押き波状文。			II区便土
19	弥生土器	壺	内面	三ガキ	外腹	横押き波状文。			II区便土
20	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ	外腹	横押き波状文。			便土
21	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ	外腹	横押き波状文→脚部捺壓状文。			便土
22	弥生土器	壺	内面	ヘラミガキ	外腹	横押き波状文→ヘラミガキ。			II区便土
No.	種別	材	断面	最大径	最大幅	最大厚	量	見	出土位置
23	磨石			<7.4>	<5.5>	<3.0>	<161.03>	下部欠損。正面にすり跡。	便土

ひ・ふ・64~66G r にあり、H23に切られ、H31・F 4を切る。東壁は調査区域外に伸びる。カマドは調査範囲内では確認できない。床面は中央に2ヵ所焼土の堆積がみられた。深さ形状から柱穴と思われるピットが1個西壁近くで検出された。北西隅に長さ1.2m幅12~24cm高さ5~14cmのベッド状遺構が確認された。床は平坦で、掘方は浅めである。南壁中央下床面上に25cm・32cm大の礫がみられた。

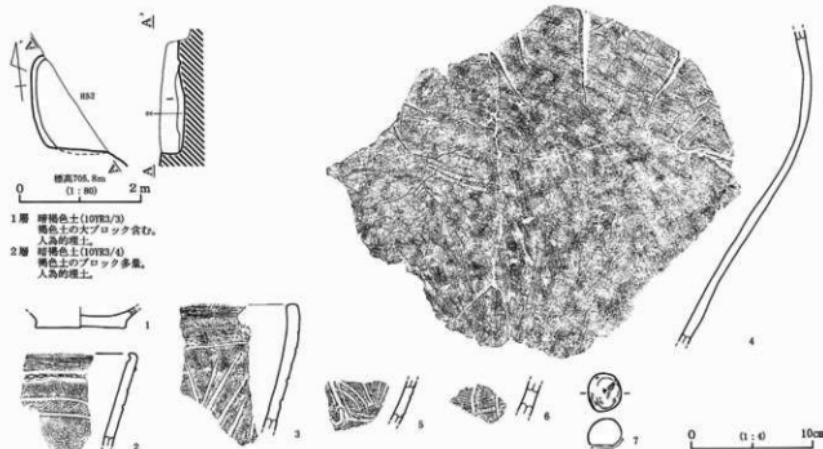
遺物は土師器壺1～6、土師器碗8、土師器皿9、土師器壺か碗7、土師器甕12・13、須恵器有台壺11、須恵器壺10、須恵器甕15、須恵器甕14、磨石23、本址に伴わない縄文時代後期前半深鉢・弥生時代後期甕16・甕18～22がある。土師器壺2～6・壺か碗7・皿9・は、内面黒色処理される。土師器壺2・6、須恵器壺10の底部は回転糸切り、土師器壺4は体部下端底部手持ちヘラケズリ、須恵器有台壺は底部ヘラケズリ後高台貼付される。土師器壺7は墨書「ネ」。12・13は土師器武藏甕で胴部に最大径があり、「コ」字口縁部を持つ。14は有台の長頸甕であろう。16の甕はヘラ描格子文、18・20・21の甕は櫛描波状文、19の甕には櫛描斜走文が施文される。

本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。

(26) H26号住居址

む-33G rにあり、東側部分をH52に切られる。カマド・柱穴等は調査範囲内では確認されない。断面鍋底状で底面堅くはなく、竪穴住居址と扱うのは不適かもしれない。覆土は褐色土のブロック含み人為埋土である。

遺物は1～6の縄文時代中期後葉から後期前半の深鉢片、磨石と見られる7がある。本址の機能等不明、時期は縄文時代後期前半であろうか。



第91図 H26号住居址

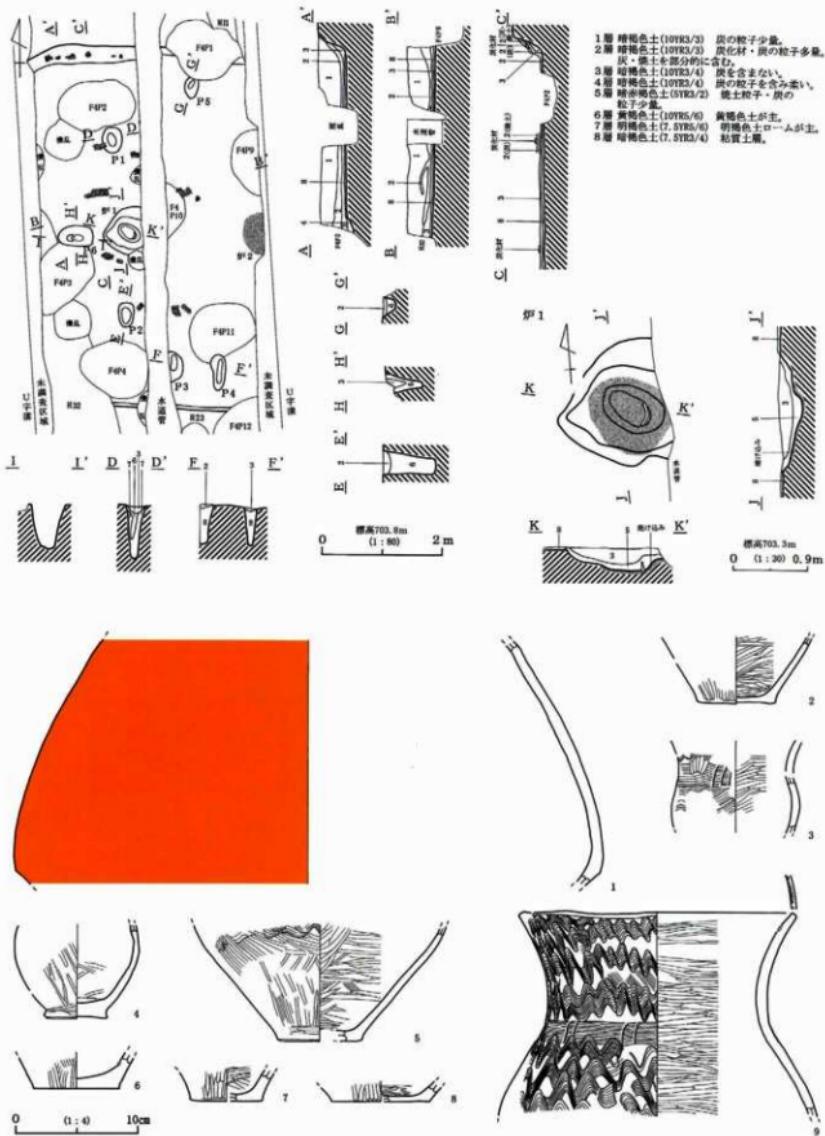
第54表 H26号住居址出土遺物観察表

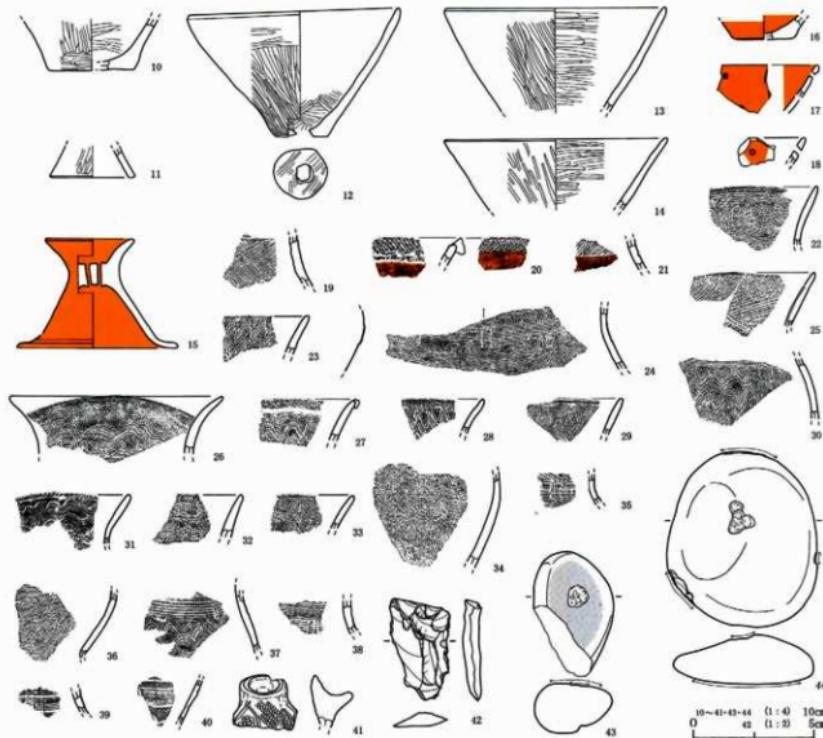
(cm・g)

No.	種別	基盤	法 異	底径(幅)	底深(高)	底面(厚)	成形・調整・文様		測定値()	残存高(< >)丸底・	備考	出土位置
							内 面	外 面				
1	縄文土器	深鉢	-	7.4	<1.7>	ナデ	三ガキ				後期前半	覆土
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折、口縁に沿って割れ縫隙、幾何学文、縄文LR充填。								縄之内2	覆土
3	縄文土器	深鉢	弦紋部曲面内に斜行沈溝。								中期後葉	覆土
4	縄文土器	深鉢	縄文、内面ヨコのナデ。外面 刷上部ヨコ・刷下部タテのミガキ。								後期前半	覆土
5	縄文土器	深鉢	縫状の集合沈溝。								縄之内1	覆土
6	縄文土器	深鉢	凹状沈溝、縄文LR。								縄之内	覆土
7	磨石			<3.1>	<2.7>	<2.2>	<16.50>	全体にすりか?裏面は欠損か?				出土位置

(27) H27号住居址

ひ・ふ-58・59G rにあり、H23・H32・F4・M11に切られる。主軸方位は西を指す。炉は2カ所から検出された。主柱穴P1・P2間の炉1は、主炉である。炉1は第93図24の甕片を炉縁石の代用品にし15cmほど掘り窪めた地床炉である。底面は焼け込んでいる。炉2は炉1の東に1.6m離れた主軸線





第93図 H27号住居址(1)

第55表 H27号住居址出土遺物観察表(1)

No.	種別	面積	法 面	成形・焼成・文様			測定値(?) 残存値 < > 烧成 等級	出土地點
				口径(?)	底径(?)	高さ(?)		
1	弥生土器	壺	-	-	-	<20.0> ハケメ。割れ	ヘラミガキ→赤色濃彩	目録実測 E 区 No.1 小
2	弥生土器	壺	-	6.2	<5.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。表面	完全焼成 I 区 058 小
3	弥生土器	壺	-	-	<7.5>	ヘラミガキ	褐色波状文→褐色斑状文	完全焼成 V 区 H23II 号
4	弥生土器	壺	-	5.0	<7.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目録実測 I 区 D51
5	弥生土器	壺	-	(7.0)	<9.0>	ハケメ→ヘラミガキ	褐色波状文→ヘラミガキ	目録実測 E 区 壱土
6	弥生土器	壺	-	(7.0)	<9.0>	ナマ	ナマ	目録実測 E 区 壱土
7	弥生土器	壺	-	(6.0)	<2.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目録実測 E 区 壱土
8	弥生土器	壺	-	(8.0)	<1.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目録実測 E 区 壱土
9	弥生土器	壺	(22.6)	-	<16.8>	ハケメ→ヘラミガキ	褐色斑状文→褐色波状文。口部剥みあり	目録実測 I 区 F 区 No.13
10	弥生土器	壺	-	(7.0)	<4.2>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目録実測 H23I 号
11	弥生土器	台形壺	-	(7.0)	<2.7>	ナデ	ヘラミガキ	目録実測 N 区 壱土

上にあり、東半分が調査区域外に伸びる。僅かに窪む底面がよく焼け込んでいる。ピットは6個検出され、P1・P2の主柱穴の掘方は、五平状の柱が想定される。梁行き2.8m。P6の棟持柱も掘方から、五平状の柱が想定される。出入口施設の基礎と考えられるP3・P4も五平状の部材が考えられる。本住居址の出入り口は、主軸に直交する位置に設けられている。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられ、掘方は認められない。住居中央から西にかけて多

H27号住居址出土遺物觀察表(2)

(cm·g)

No.	種類	形 塵	成形・調 砥・文様			規定値()	現存値 < > 丸底・ 備考	出土地點
			内 面	外 面				
12 弥生土器	瓶	17.6	4.5	10.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全丸底 の穿孔は複数個	No.3-4-12
13 弥生土器	鉢	(18.2)	-	<8.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目撃実測	I区巻土
14 弥生土器	鉢	(18.3)	-	<5.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目撃実測	II区 No.2
15 弥生土器	皿	(13.2)	7.2	8.9	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	完全丸底 前2孔	盤成 No.5
16 弥生土器	鉢	-	(5.0)	<1.9>	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	目撃実測	I区巻土
24 弥生土器	鏡	-	-	<5.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目撃実測	No.14
26 弥生土器	鏡	(17.4)	-	<4.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	目撃実測	II区巻土
17 弥生土器	鏡	内外面へラミガキ赤色塗彩	口縁部に焼成前穿孔が1孔。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡片実測	I区巻土	
18 弥生土器	鏡	内面 制作。外縁へラミガキ赤色塗彩	背八孔	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡片実測	I区巻土	
19 弥生土器	鏡	内面 ナデ。外縁 横位のくら縦縫合線内に縫位穿孔の横縫合線→赤色塗彩。	内面縫合線と口縁部側面にそとに焼成孔。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
20 弥生土器	鏡	折り返し口縁。外縁 口縫合線と口縫合線端部に焼成前穿孔。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
21 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 横位のくら縦縫合線内に縫位穿孔と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
22 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
23 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
25 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 横縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
27 弥生土器	鏡	折り返し口縁。内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
28 弥生土器	鏡	口縫合線便から内面。内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
29 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
30 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
31 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
32 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
33 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 縦縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
34 弥生土器	鏡	内面 縦縫合線上のナーベルへラミガキ。外縁 細縫合工具のナーベル縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
35 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 細縫合工具のナーベル縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
36 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 細縫合工具のナーベル縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
37 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 細縫合工具のナーベル縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
38 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 細縫合工具のナーベル縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
39 弥生土器	鏡	内面へラミガキ。外縁 細縫合工具のナーベル縫合線と赤色塗彩。	内外面赤色塗彩。	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡面実測	I区巻土	
40 錆文土器	深鉢	縫合部2条の縫合線上に赤色斑痕。底筋の断面が切り欠き状態。	後周	鋸刃B1	II区巻土			
41 錆文土器	深鉢	袋足状把手 手先状把手 内外縫合縫と縫合孔。	後周	名号	II区 小く			
42 スクリッパー	器	4.2	2.5	0.6	6.51		出土地點	
43 庫・磨石	器	<10.2>	<6.0>	<4.1>	<44.94>	下部欠損。正面にすりと焼成跡。	No.11	
44 磨・磨石	器	14.3	12.3	4.4	99.45	被熱あり？(周囲焼化)正面と縫合に敲打痕。表面にすり面。	No.6	

この炭化材が検出された。床に接している炭化材もあるが、ほとんどが床面上の3~5cmを測る覆土第3層上にある。第3層は、炭化材・焼土・灰を含まない。炭化材の上下に灰・焼土・炭化粒子を含む。火に遭ったのは、第3層堆積後である。

遺物は、甕(2~10.22~39)・台付甕(11)・壺(1.19~21)・鉢(13.16~17.18)・蓋(18)の弥生土器、磨面持つ敲石(43.44)、炉1内から獸類部位不明片、オニグルミ片1/3個がある。縄文時代後期称名寺式・加曾利B1式深鉢片は混入遺物である。

口唇部刻みのある9の甕は、頸部櫛描麻状文後口縁部と胴部の櫛描波状文が施文される。3.24.30.36.37等は、胴部櫛描波状文や口縁部櫛描波状文後頸部櫛描麻状文が施される。20の折り返し口縁甕は、口唇部と内外面縫合端部に縄文L R、赤色塗彩される。大型の鉢13.14は無彩、16~18の鉢は内外面赤色塗彩。15の蓋は2孔を持ち内外面赤色塗彩。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期清水期に位置づけられる。

(28) H28号住居址

第56表 H28号住居址出土遺物觀察表(1)

(cm·g)

No.	種類	形 塵	成形・調 砥・文様			規定値()	現存値 < > 丸底・ 備考	出土地點
			内 面	外 面				
1 弥生土器	甕	-	(8.0)	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部 ヘラミガキ	回転実測	I区
2 弥生土器	甕	-	(9.2)	<3.9>	八ヶ目	ヘラミガキ。底部 ヘラミガキ	回転実測	No.1
3 弥生土器	甕	内面 制作。外縁 横縫合走文+赤色塗彩。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	S区			
4 弥生土器	甕	内面 制作。外縁 ドラム構造文内に櫛描波状文。赤色塗彩。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	S区			
5 弥生土器	甕	内面 縫合部まで赤色塗彩。外縁 ヘラミガキ。内縫合走文内へラミガキ子目文。赤色塗彩。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	S区			
6 弥生土器	甕	内面へラミガキ。外縁 口縁・側部櫛描波状文→櫛描麻状文。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	S区			
7 弥生土器	甕	内面へラミガキ。外縁 横縫合走文→櫛描麻状文。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	N区			
8 弥生土器	甕	内面へラミガキ。外縁 横縫合走文→櫛描麻状文。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	N区			
9 弥生土器	甕	内面へラミガキ。外縁 横縫合走文→波状文。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	No.1			
10 弥生土器	甕	内面へラミガキ。外縁 横縫合走文。	内縫合走文と赤色塗彩。	後周	S区			
11 織文土器	深鉢	張状済地。残文L R。			後周初頭	I区		
12 織文土器	深鉢	張状済地。残文L R。			後周初頭	S区		

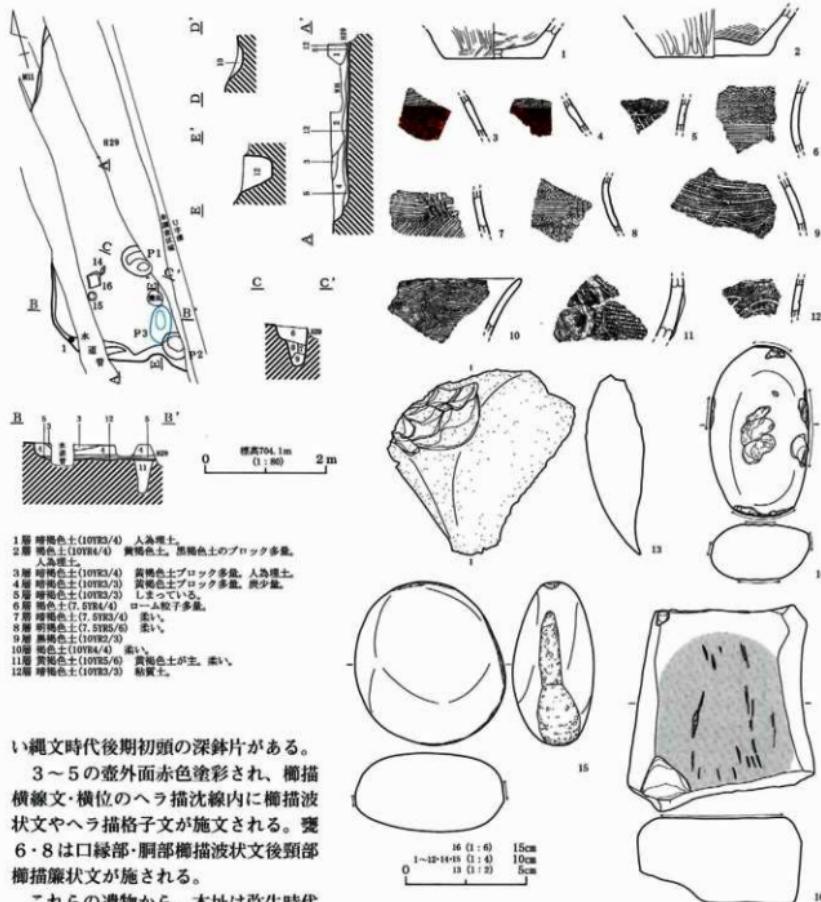
ひふ-56・57Grにあり、H29・M11に切られる。炉は調査範囲内にはない。ピット3個検出されP1は主柱穴、P2は出入口施設の基礎であろう。P3は床下から検出。床面は堅く平坦で、掘方は極浅い。覆土1~4層は人為埋土。H11・H12・H20・H27同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。

遺物は、甕(6~10)・壺(1~5)の弥生土器、剥片(13)、敲石(14~15)、台石(16)、本址に伴わな

H28号住居址出土遺物観察表(2)

(cm-m)

No.	器種	材	縦大長	横大幅	厚さ	重 量	所 見	出土位置
13	剥片		7.5	7.7	2.4	120.82		N区埋土
14	敲石		14.0	8.3	4.7	872.12	正裏と周辺に敲打痕。	No.4
15	敲石		13.5	12.3	6.6	1668.14	ほぼ側面全面に敲打痕。側面は平坦面に近い形狀。	No.2
16	台石		25.8	23.2	11.0	11800.0	正面が使用面。条痕残る。	No.3



これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第94図 H28号住居址

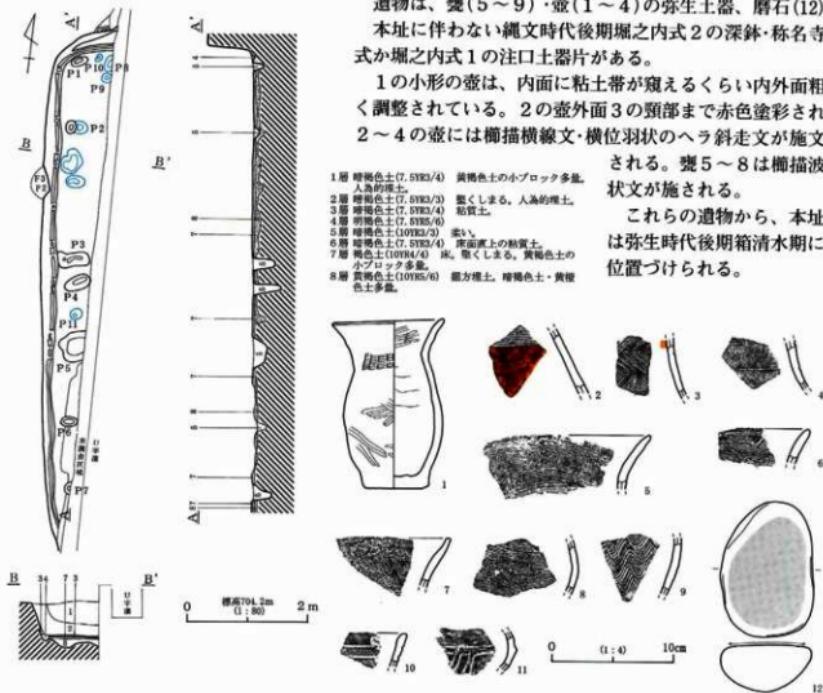
(29) H29号住居址

ひ-55~57G r にあり、F 3・P165に切られ、H28を切る。炉は調査範囲内では確認されない。ピットは11個の壁柱穴が検出された。西壁下を巡る壁溝内に、10カ所の壁柱痕のような浅い窪みがみられた。P 1~P 7は床面から、P 8~P 11は床下から検出された。床面は堅く平坦で、直上にH 11・H 12・H 20・H 27・H 28同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。覆土1・2層は人為埋土である。2層は堅く締まる。

遺物は、甕(5~9)・壺(1~4)の弥生土器、磨石(12)、本址に伴わない縄文時代後期塙之内式2の深鉢・称名寺式か壙之内式1の注口土器片がある。

1の小形の壺は、内面に粘土帯が窺えるくらい内外面粗く調整されている。2の壺外面3の頸部まで赤色塗彩され、2~4の壺には櫛描横線文・横位羽状のヘラ斜走文が施される。甕5~8は櫛描波状文が施される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



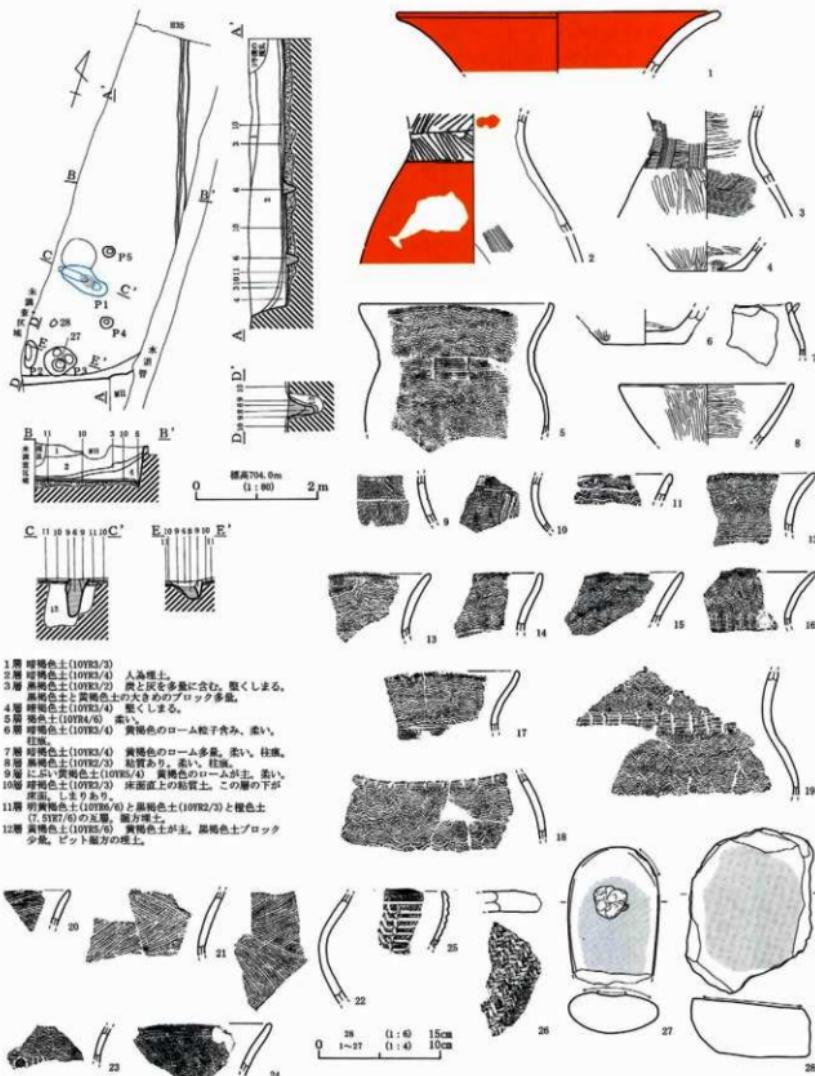
第95図 H29号住居址

第57表 西近津遺跡IV H29号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	固種	法 異			成形・構造・文様			定位()	残存幅 < >	丸柱・ 筒子	出土位置
			口径(φ)	底径(φ)	高さ(φ)	内 面	外 面					
1	弥生土器	甕	9.1	(5.4)	<13.9>	ナデー口縁部ヘラミガキ。粘土帯	ナデー→細いヘラミガキ。櫛描波状文		完全実用		N区覆土	
2	弥生土器	甕	内面 ナデ。外面 櫛描横文 赤色塗彩。						後期		S区覆土	
3	弥生土器	甕	内面 ハケメヘラミガキ 横領上部まで赤色塗彩。外面 ヘラ斜走文横位羽状。						後期		S区覆土	
4	弥生土器	甕	内面 ナデ。外面 ヘラ斜走文 横位羽状。						後期		S区覆土	
5	弥生土器	甕	内面 ハラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描波状文。						後期		N区覆土	
6	弥生土器	甕	内面 ハラミガキ。外面 櫛描波状文。						後期		N区覆土	
7	弥生土器	甕	口縁部面取り。内面 ハラミガキ。外面 櫛描波状文→口縁部辺いをヘラナデ。						後期		N区覆土	
8	弥生土器	甕	内面 ハラミガキ。外面 櫛描波状文。						後期		N区覆土	
9	弥生土器	甕	内面 ハラミガキ。外面 櫛描波状文。						後期		N区覆土	
10	甕	深鉢	口縁部面取り。2条の縦位沈線内に構文LR。						匂之内2		N区覆土	
11	甕	注口土器	櫛描波状文。						後期前葉		S区覆土	
No.	形	種	材	最大長	最大幅	最大厚	重	用			出土位置	
12	陶			11.2	7.5	3.9	522.16	正面にすり地。			P7wせ	

(30) H30号住居址



第96圖 H30号住居址

第58表 H30号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	形種	法 量			底形・質 素・文 種		肯定() 暫存() < > 外観	品 号	出土位置
			口径(厘)	底径(厘)	高さ(厘)	内 面	外 面			
1 弥生土器	壺	-	(26.2)	-	<5.0>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	日輪美術	S6K覆土	
2 弥生土器	壺	-	-	<12.3>	ハケ目調査。摩耗している	ヘラ描斜走文模様羽状に施文		完全美術	ホリ方P3	
3 弥生土器	壺	-	-	<8.7>	頸部 ヘラミガキ。腹部 ハケ目調査	頸部 横描T字文。腹部 ヘラミガキ		日輪美術	S5区	S5床
4 弥生土器	壺	-	(5.9)	<2.3>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部 ヘラミガキ		日輪美術	S5区	S5覆土
5 弥生土器	甕	(16.1)	-	<10.5>	ヘラミガキ	都道府県文→櫛描波状文		日輪美術	N6K床	S6覆土
6 弥生土器	甕	-	6.7	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。剥離している		完全美術	S6K覆土	
8 弥生土器	鉢	(14.2)	-	<4.9>	ヘラミガキ	ヘラミガキ		日輪美術	S5区	S5覆土
7 弥生土器	鉢	片口の鉢。内外面 ヘラグ。								後期
9 弥生土器	壺	内面 フナ。外側 橫位羽状のヘラ描斜走文 一部赤色塗彩。								S5区覆土
10 弥生土器	壺	内面 ハケ目調査。颈部まで赤色塗彩。外面 横描T字文→赤色塗彩。								後期
11 弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 櫛描波状文。								後期
12 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 口唇部・頸部櫛描波状文→櫛描波状文。								カクラン
13 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 横描斜走文→櫛描波状文。								後期
14 弥生土器	甕	口縁部内面気泡味に立ち上る。内面 ヘラミガキ。外側 櫛描波状文。								S5区覆土
15 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 櫛描波状文。								後期
16 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ 口唇部 刻目。外側 櫛描波状文→口縁部・胴部櫛描波状文。								S5区覆土
17 弥生土器	甕	口縁部や内面気泡味に立ち上る。内面 ヘラミガキ。外側 櫛描波状文→櫛描波状文。								N-S5区覆土
18 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 朝鮮櫛描波状文→櫛描波状文。								後期
19 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 櫛描波状文→櫛描波状文。								後期
20 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 横描斜走文。								後期
21 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 横描斜走文→横位羽状の櫛描斜走文。								S5区覆土
22 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 口唇部・頸部→横位羽状の櫛描斜走文。								後期
23 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 櫛描波状文→櫛描波状文・円形胎尻付。								N-S5区覆土
24 弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 横描斜走文。								後期
25 繩文土器	深鉢	口縁部 内面気泡味に立ち上る。7条の横位沈線。弧状短沈線と押圧で区切る加曾利B1の深鉢である。								N6K床覆土
26 繩文土器	深鉢	樹脂貼。3本越え3本潜りの編み方である。								後期简单
27 台石	石	20.5 16.0 3600.00	正齒に使用。						No.1	
28 磐・礎石		<11.4> <7.5> <3.3> <328.61>	下部欠損。正面にすり面。上端部と正面に輪打痕。						No.2	

ふ~54~56G r にあり、H35・F3・M11に切られる。炉は調査範囲内にはない。ピットは5個検出された。五平状の柱痕を持つP1は主柱穴、出入口施設の基礎と考えられるP2も五平状の部材が考えられる。出入口施設の基礎と考えられるP3の柱痕は、P2側に傾斜する。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20・H27・H28同様暗褐色の粘質土が張り付くようにみられる。覆土2・3層は人為埋土、3層には炭と灰が多量に見られた。

遺物は壺(1~3・9・10)・甕(4~6・11~24)・鉢(7・8)の弥生土器、磨面持つ敲石(28)、台石(27)、本址に伴わない繩文土器(25~26)がある。

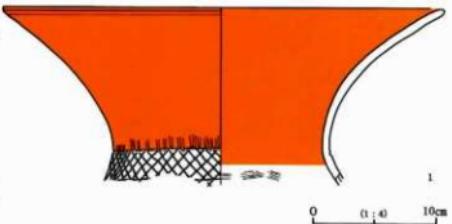
1・2は外面と内面頸部まで壺赤色塗彩され、2は横位羽状のヘラ描斜走文が施される。3・4頸部には櫛描T字文が施され、3は無彩である。甕5・12・19は口縁部・胸部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。11~17は口縁部に櫛描波状文が、20~22・24は櫛描斜走文が施される。25は口縁部内面気泡味に立ち上がり、7条の横位沈線を弧状短沈線と押圧で区切る加曾利B1の深鉢である。26の繩文深鉢網代底は、3本越え3本潜りの編み方である。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

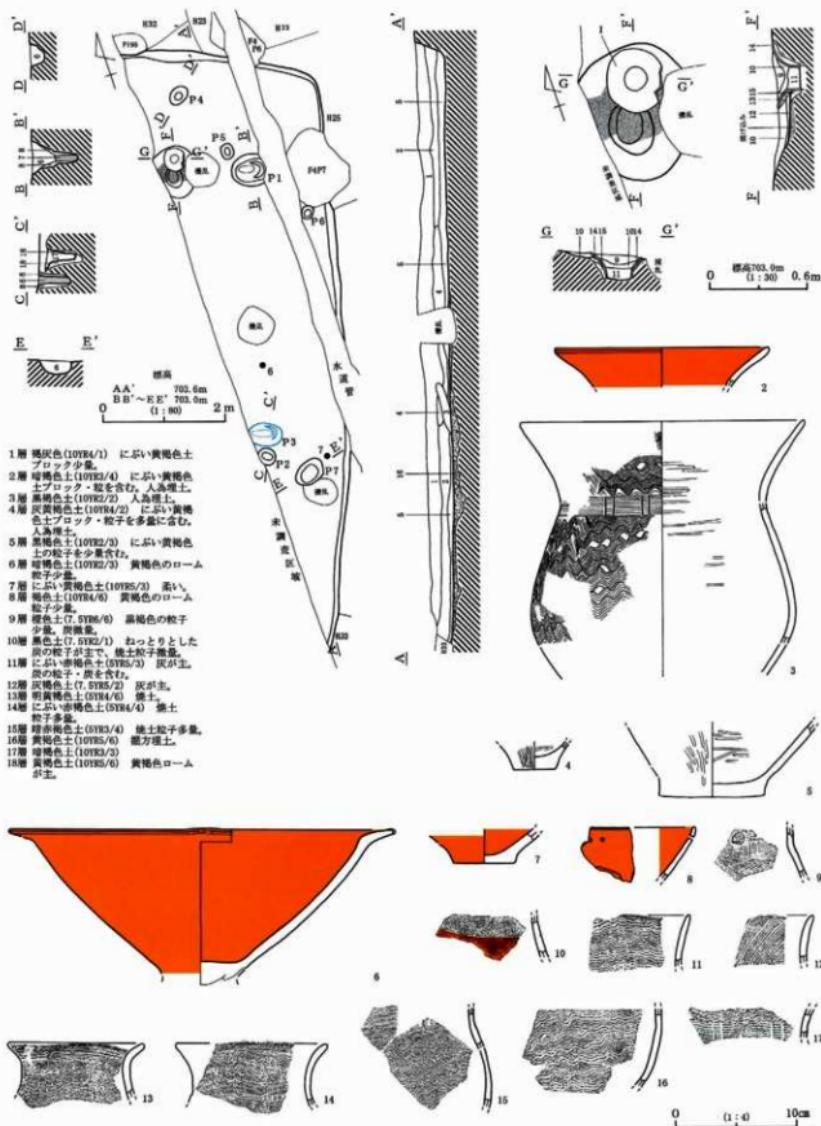
(31) H31号住居址

ひ・ふ~60~62G r にあり、H23・H25・H33・F4・P1951に切られる。H32との新旧関係は、重複部にP195がかかり不明である。

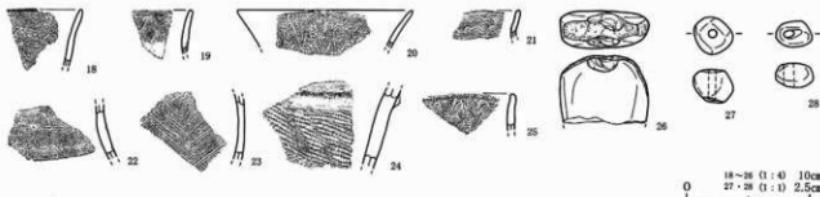
炉は主柱穴P1の西に近接する。第97図



第97図 H31号住居址(1)



第98図 H311住居址(2)



第99図 H31号住居址(3)

第59表 H31号住居址出土遺物観察表

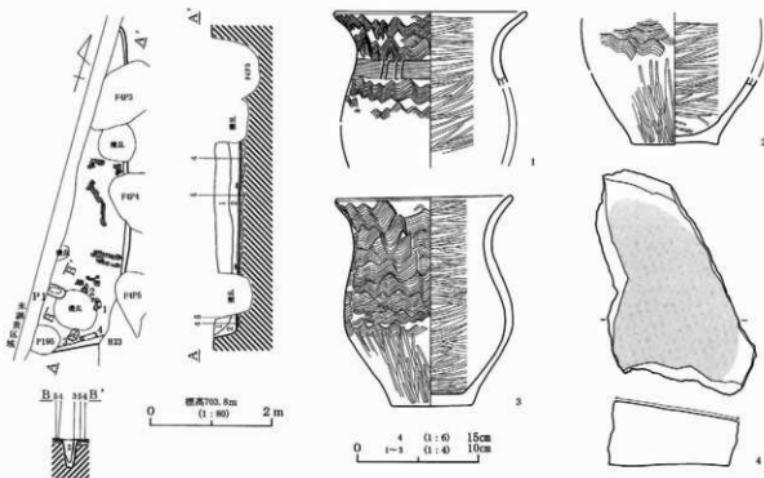
No.	種別	器種	口径(外) 底径(内)	高さ(厚)	成形・調整・文様	測定値()		残存部 < >丸窓	(cm·g)
						内面	外面		
1	弥生土器	壺	36.1	-	<14.7> ハラミガキ	口縁部へラミガキ→赤色塗彩。腹部 部へラミガキ→赤色塗彩	完全実測	Ⅲ区 No.4	
2	弥生土器	壺	(17.4)	-	<3.2> ハラミガキ→赤色塗彩	ハラミガキ→赤色塗彩	回転実測	I区	
3	弥生土器	壺	<23.3>	-	<20.8> ハラミガキ	口縁部・胴部櫛描波状文→ 櫛描縦彫状文	回転実測	Ⅳ区 P6 H 25	
4	弥生土器	壺	-	(3.4)	<2.3> ハラミガキ	ハラミガキ。底部へラミガキ	回転実測	I区覆土	
5	弥生土器	壺	-	8.6	<6.2> ハラミガキ	ハラミガキ。底面へラミガキ	完全実測	Ⅳ区ホリ方 ふ 61	
6	弥生土器	壺	(31.6)	-	<12.7> ハラミガキ→赤色塗彩	ハラミガキ→赤色塗彩	完全実測 突起 4ヶ所あり	No.3	
7	弥生土器	鉢	-	5.0	<2.8> ハラミガキ→赤色塗彩	ハラミガキ→赤色塗彩。底部へラケズリ	完全実測	No.2	
8	弥生土器	鉢	-	-	<4.4> ハラミガキ→赤色塗彩	ハラミガキ→赤色塗彩	破片実測 前頭孔2ヶ所あり	II区覆土	
13	弥生土器	壺	(11.0)	-	<4.7> ハラミガキ	櫛描波状文	回転実測	II区覆土	
14	弥生土器	壺	(12.4)	-	<5.2> ハラミガキ	櫛描波状文→櫛描縦彫状文	回転実測	II区覆土	
20	弥生土器	壺	(14.4)	-	<3.2> ハラミガキ	櫛描波状文	回転実測	II区覆土	
9	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描斜走文→櫛描縦彫付足文。	ハラミガキ。外面 櫛描斜走文→櫛描縦彫付足文。	新苗実測	II区覆土		
10	弥生土器	壺	内面 外面	ナダ。外面 ハラミガキ→ハラミガキ走文。	ナダ。外面 ハラミガキ→ハラミガキ走文。	新苗実測	Ⅳ区 ホリ方		
11	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	新苗実測	覆土		
12	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描斜走文。	ハラミガキ。外面 櫛描斜走文。	新苗実測	Ⅳ区覆土		
15	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描縦彫状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描縦彫状文。	新苗実測	II区覆土		
16	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	新苗実測	II区 H25 Ⅳ区 覆土		
17	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描縦彫状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文→櫛描縦彫状文。	新苗実測	覆土		
18	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	新苗実測	Ⅳ区覆土		
19	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	新苗実測	Ⅳ区覆土		
21	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	ハラミガキ。外面 櫛描波状文。	新苗実測	Ⅱ区覆土		
22	弥生土器	壺	内面 外面	ナダ。外面 ハラミガキ→ハラミガキ走文。	ナダ。外面 ハラミガキ→ハラミガキ走文。	新苗実測	Ⅳ区覆土		
23	弥生土器	壺	内面 外面	ハラミガキ。外面 櫛描斜走文。	ハラミガキ。外面 櫛描斜走文。	新苗実測	覆土		
24	圓文土器	深鉢	内面 外面	櫛描斜走文のナダ→容積減少が認められる。	櫛描斜走文のナダ→容積減少が認められる。	中筋後側	覆土		
25	弥生土器	壺	内面 外面	口縁部削除。内面 ハラミガキ。外面 口縁部櫛描縦彫状文。	口縁部削除。内面 ハラミガキ。外面 口縁部櫛描縦彫状文。	新苗実測	II区覆土		
No.	器種	質材	最大長 最大幅 最大幅	厚	重	所見	出土地点		
26	礫石		<5.6>	<7.3>	<3.1>	<23.7>	下部欠損。上端部に船形打痕。	カクラン	
27	土製丸玉		0.8	0.8	0.6	0.33	孔径 0.15cm	炉	
28	土製丸玉		0.6	0.7	0.5	0.17	孔径 0.2×0.1の横円。	炉	

1の壺の口縁部から頸部を正位に埋設した埋甕^イである。壺南側のテラス部分と周辺がよく焼け込んでいる。壺の中下部に灰、その上に粒子状の炭が堆積していた。テラスにも同様の堆積があった。7個のピットが検出された。P1・P2が主柱穴、P4が棟持柱、P5は支柱、P6・P7は壁柱穴である。桁行きは4.8m。P3は床面下から検出された。P2の柱痕径16cm、P1の柱痕は五平状とみられる。床面は堅く平坦で、P3周辺に浅い掘方があるが、他ではない。覆土2・3層は人為埋土。

遺物は、壺(1・2・10・22)・甕(9・11~21・23・25)・鉢(7・8)の弥生土器、敲石(26)、土製の丸玉(27・28)、炉内からモモの破片が5個(1/2個分)と獣類の部位不明焼骨破片、本址に伴わない縄文中期後葉深鉢片(24)がある。1・2は外面と内面頸部まで壺赤色塗彩され、炉に用いられた1はヘラ描格子文が施文される。3の甕は、口縁部・胴部櫛描波状文後頸部櫛描縦彫状文が施される。11・14・17・18~21は口縁部櫛描波状文、12は櫛描斜走文が施文される。6は口縁部屈曲し鉗状に開く高環で、内外面赤色塗彩される。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(32) H32号住居址

ふ-54~56 G r にあり、H23・F4・P159・P195に切られ、H27を切る。炉は調査範囲内にはない。主柱穴 P 1 の柱痕は五平状とみられる。床面は堅く平坦で、H11・H12・H20・H27・H28・H30同様暗褐色の粘質土が床に張り付く。垂木や桁材であろう炭化材が床面に接して多数検出された。火に遭ったのは、居住時か廃屋間もなくみられる。遺物は1の甕は口縁部と胴部の櫛描波状文後頭部に櫛描簾状文、口縁部から胴中央部まで櫛描波状文のみ施文の2の甕、4の台石がある。



1層 暗褐色土(10YR3/4)

2層 黒褐色土(10YR2/2) 硬化材・炭化粒子が主。灰と焼土が部分的にある。炭化材の上に焼土。

3層 暗褐色土(10YR5/6)

4層 黒褐色土(10YR3/3) 粘質土。

5層 暗褐色土(10YR4/4) 明黄色土多量。

樹木付土。

これらの遺物から本址は、弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

第60表 H32号住居址出土遺物観察表

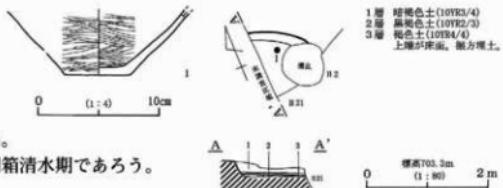
(cm. g.)

No.	種類	法面	断面(幅)	底深(高)	成形・表面・文様	推定値(%)		出土地面
						内面	外面	
1	生土器	甕	15.9	- <12.8>	ヘラミガキ	八ヶメ。	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測 No.2
2	生土器	甕	7.0	<10.3>	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測 No.1	
3	生土器	甕	14.6	6.7	ヘラミガキ	櫛描波状文→ヘラミガキ	完全実測 No.3	
4	台石		28.0	19.8	8.3	5610.00	正規が使用箇。	No.4

(33) H33号住居址

ふ-62 G r にあり、H21・H23に切られ H31を切る。炉・ピット等調査範囲内にはない。床面は堅く平坦で H11・H12・H20・H27・H28・H30同様粘質土が床に張り付く。掘方はない。

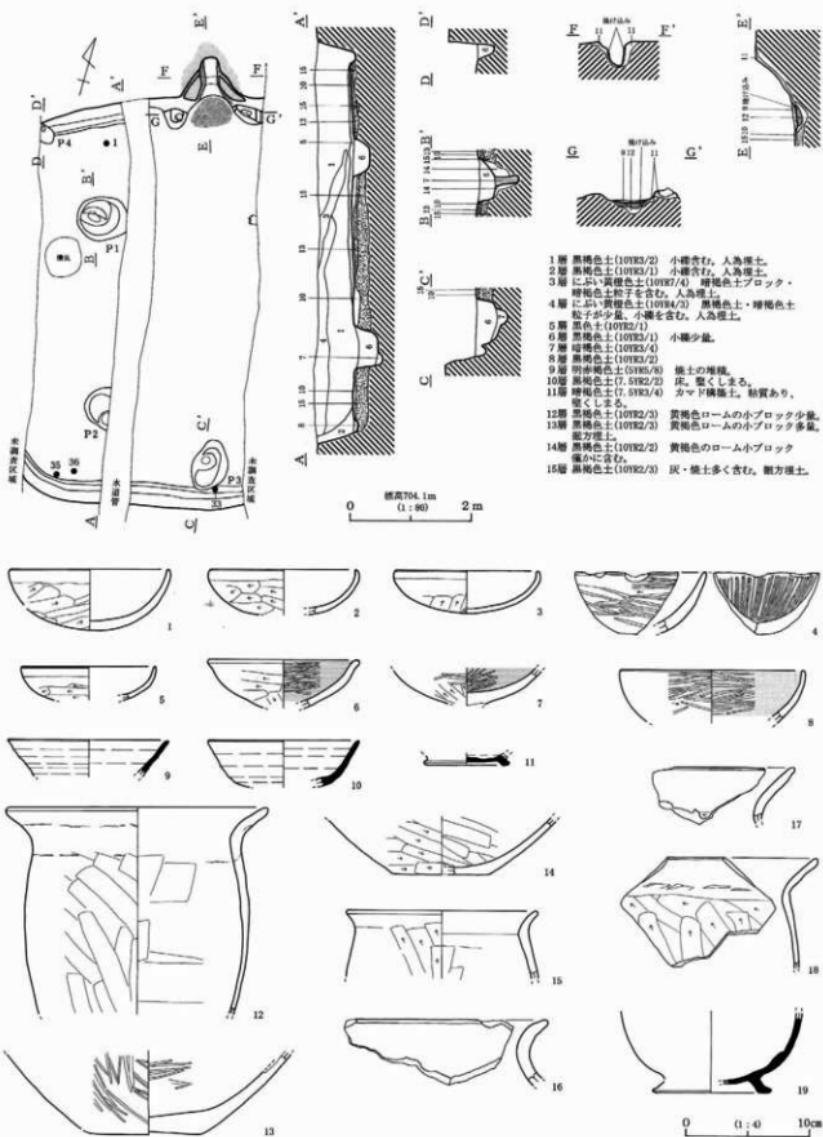
1の甕と重複関係から弥生時代後期箱清水期であろう。



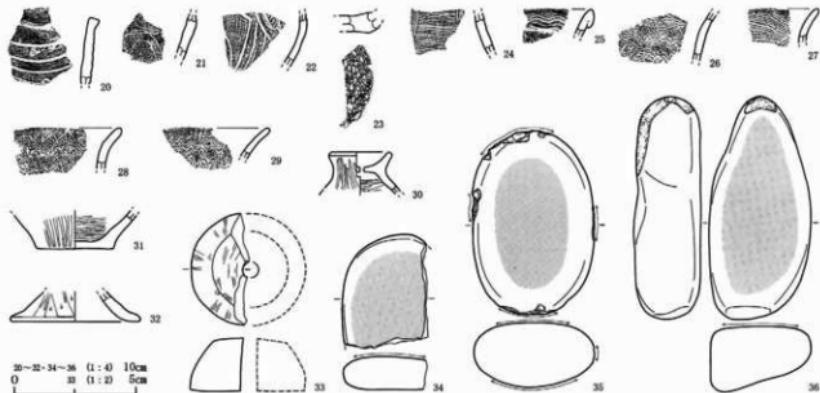
(34) H34号住居址

ふ-51~53 G r にあり、H39を切る。カマドは北壁中央にあり、暗褐色土で構築された袖・煙道部

第101図 H33号住居址



第102図 H34号住居址 (1)



第103図 H34号住居址(1)

第61表 H34号住居址出土遺物観察表(1)

(cm·g)

No.	標示	名種	法 署		成形・調製・文様		推定値()	既存値(< > 丸)	備 考	出土位置
			口径(型)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面				
1	土師器	环	(13.2)	-	5.0	ナデ	口縁部コナデ→体部ヘラケズリ	完全実測	I区 No.1	
2	土師器	环	(12.2)	-	<3.7	ナデ	ヘラケズリ→口縁部ココナデ	回転実測	I区覆土	
3	土師器	环	(11.6)	-	3.5	ナデ	ナデ→ヘラケズリ。口縁部ココナデ	回転実測	Ⅱ区ホリ方 P1 H39	
4	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	Ⅳ区覆土	
5	土師器	环	(11.0)	-	<2.7	ナデ	ナデ→ヘラケズリ。口縁部ココナデ	回転実測	カマド Ⅱ区ホリ方	
6	土師器	陶环	(12.4)	-	<3.9	ヘラミガキ。黒色追理	ヘラケズリ	回転実測	I区 N区	
7	土師器	陶环	-	-	<3.0	ヘラミガキ。黒色追理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅲ区覆土	
8	土師器	环	(15.0)	-	<4.3	ヘラミガキ。黒色追理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	Ⅳ区覆土	
9	陶瓦器	环	(13.2)	-	<3.0	ロクロナデ	ロクロロデ	回転実測	Ⅳ区覆土	
10	陶瓦器	环	(12.4)	-	<3.0	ロクロナデ	ロクロロデ。底部手持ちヘラケズリ	回転実測	Ⅲ区覆土	
11	陶瓦器	舟台环	-	(7.0)	<1.0	ロクロナデ	ロクロロデ。底部舟台ヘラケズリ→舟台貼付	回転実測	Ⅱ区覆土	
12	土師器	盤	(21.6)	-	<17.1	ヘラタツ	ヘラケズリ	回転実測	Ⅱ区覆土	
13	土師器	盤	-	(9.6)	<6.9	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	I区 カマド	
14	土師器	鉢	-	(8.0)	<4.8	ヘラナデ→一部ヘラミガキ	ヘラケズリ→一部ヘラミガキ	回転実測	カマド	
15	土師器	盤	(15.6)	-	<5.4	ヘラナデ	ヘラケズリ	回転実測	I - II - III区	
16	土師器	盤	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	破片実測	Ⅲ - IV区覆土	
17	土師器	盤	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ。ヘラケズリ	破片実測	Ⅳ区覆土	
18	土師器	盤	-	-	-	ヘラナデ	ヘラケズリ	破片実測	カマド	
19	陶瓦器	盘	-	9.6	<6.8	ロクロナデ	ロクロロデ	当初瓦底に成形したものを剥離変更し盤とした	Ⅱ区 H39	
30	弥生土器	皿	5.2	-	<3.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	Ⅱ区覆土	
31	弥生土器	甕	-	(6.4)	<3.1	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	覆土	
32	弥生土器	台付甕	-	(10.6)	<2.4	ナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I区覆土	
20	绳文土器	注口土器	4条の平行沈溝。縄文LR充溝。					腹之内2	Ⅱ区覆土	
21	绳文土器	深鉢	楕円・弧状沈溝(縄編I・沈縫)。					毎名寺	Ⅱ区覆土	
22	绳文土器	深鉢	弧状の集合沈溝。縄文K。					紀之内1	I区覆土	
23	绳文土器	深鉢	網代底。2本底2本溝。					後削前半	カマド	
24	弥生土器	皿	内面 ナデ。外面 横指「字」文。						I区覆土	
25	弥生土器	甕	折り返し口縁。内面 ヘラミガキ。外面 縄編波状文。						I区覆土	
26	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 縄編波状文。						Ⅳ区覆土	

H34号住居址出土遺物観察表(2)

(cm・g)

No.	種別	器種	所	見	備考	出土位置	
27	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 植粘斜走文。			Ⅲ区覆土	
28	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文。			Ⅲ区覆土	
29	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文。			カマド	
No.	種別	器種	所	見	備考	出土位置	
33	防錐器		底径 (4.6) 底少深 (3.1)	<2.2> <31.97>	孔径(0.6)。右側欠損。	No.3	
34	磨石		<9.4> <7.1> <2.8>	<317.63>	正面にすり面。右側へ下側欠損。	Ⅲ区覆土	
35	磨・削石		15.1	10.0	5.3	1293.19 正面にすり面。縁辺に削打痕。	No.4
36	磨・削石		18.4	8.4	5.3	1301.45 正面にすり面。上端部に敲打痕。	No.5

分と焼土が堆積する火床が残存する。ピットは4個検出された。P1の柱痕18cm、主柱穴P1・P2は桁行340cmを測る。P3カマドに対峙し位置的に出入り口の基礎であろう。P4は壁柱穴。床は堅く締まり平坦、20cmほどの掘方には灰と焼土が多く含まれる。カマド西の北壁・南壁下を壁溝が巡る。覆土1~4層は人為埋土である。獸類四肢骨の破片がP4南の床面から検出された。

遺物は、土師器坏(1~5・8)・高坏(6・7)・鉢(13・14)・甕(12・15~18)、須恵器坏(9・10)・有台坏(11)・壺(19)、紡錘車(33)、磨石(34)、磨面持つ敲石(35・36)、混入遺物である縄文時代後期称名寺式・壺之内1式・壺之内2式、甕・壺・土器等である。

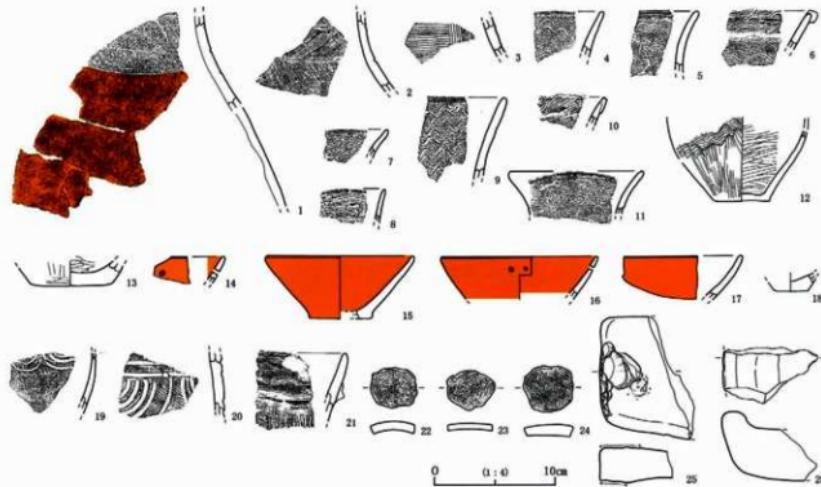
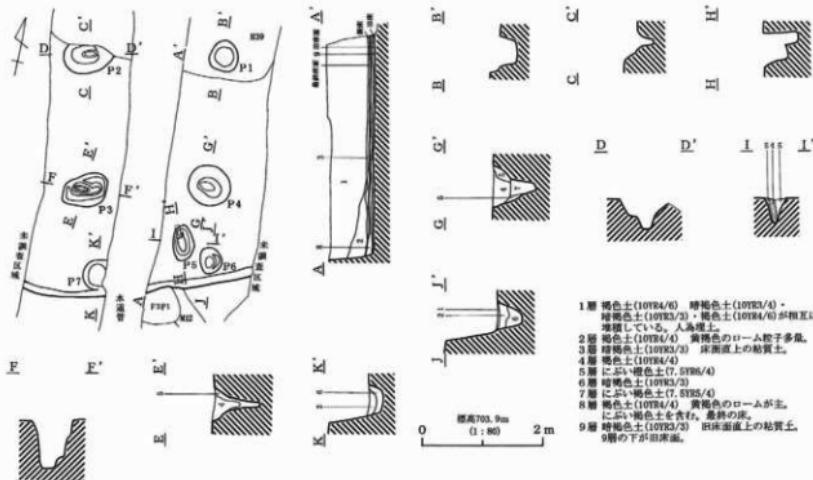
土師器坏1~5・8は半球状の坏、8の坏と6・7の高坏坏部は内面黒色処理される。10の須恵器坏底部は手持ちヘラケズリ、11の有台坏は底部回転ヘラケズリ後高台貼付。土師器甕は、器肉厚く胴部長く縦長のヘラケズリされる12や口縁部「く」字の武藏甕17・18がある。19の須恵器甕は、当初横瓶に成形調整した後器種変更されて壺として焼成されたようである。本址はこれらの遺物から小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期~8世紀第1四半期に位置づけられる。

(35) H35号住居址

第62表 H35号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	法 量			成 形・調 整・文 横	推定(?)	推存場<>丸底・	備 考	出土位置
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)					
12	弥生土器	甕	-	4.6	<6.9>	ヘラミガキ	植粘波状文→ヘラミガキ	完全実測	P3	
13	弥生土器	甕	-	6.6	<2.0>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	E区覆土	
14	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗影	ヘラミガキ→赤色塗影	破片実測 烧成 縫合孔2ヶ所あり	S区覆土	
15	弥生土器	鉢	(12.3)	(5.0)	-	ヘラミガキ→赤色塗影	ヘラミガキ→赤色塗影	箇所実測	S区覆土	
16	弥生土器	鉢	(13.0)	-	<3.5>	ヘラミガキ→赤色塗影	ヘラミガキ→赤色塗影	箇所実測	N-S区覆土	
17	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗影	ヘラミガキ→赤色塗影	破片実測	S区覆土	
18	弥生土器	手づくね 土器	-	2.8	<1.5>	ナデ	ナデ	完全実測	N区覆土	
1	弥生土器	壺				内面 ナデ。外側 ハラケズリ縁内に横位羽状へラ指折文→赤色塗影。		箇所実測	N区覆土	
2	弥生土器	壺				内面 ナデ。外側 縱目へラ指折縁内に横位羽状のへラ指折文→赤色塗影。		箇所実測	S区覆土	
3	弥生土器	壺				内面 ナデ・赤色塗影。外側 縱目T字文。		箇所実測	S区覆土	
4	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文。		箇所実測	S区覆土	
5	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文。		箇所実測	E区覆土	
6	弥生土器	甕				折口・折口縁。内面 ヘラミガキ。外側 口唇部へ縁部植粘波状文。		箇所実測	覆土	
7	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文→縁部植粘文。		箇所実測	S区覆土	
8	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文→縁部植粘文。		箇所実測	S区覆土	
9	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文。		箇所実測	S区覆土	
10	弥生土器	甕				折口・折口縁。内面 ヘラミガキ。外側 口唇部へ縁部植粘波状文。		箇所実測	S区覆土	
11	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外側 植粘波状文→縁部植粘文。		箇所実測	S区覆土	
19	縄文土器	口沿土器				内面 ミガキ。弧状の集中抹擦。		箇所実測	S区覆土	
20	縄文土器	深鉢				横位2条の沈縁下に 弧状の集合抹擦。縁内LR充填。		壺之内	S区覆土	
21	縄文土器	深鉢				口唇部下に横位抹帶。隆起下に横位抹工具による盛下沈縁。		壺之内1	N区覆土	
22	縄文土器	土製品				土製片円板。高环脚片。研磨面。表面赤色塗影。裏面ナデ。長径3.8 厚さ0.7。		箇所実測	N区覆土	
23	縄文土器	土製品				土製片円板。跡跡有り。剥離痕。表面赤色塗影。最大幅3.8 厚さ0.5。		箇所実測	N区覆土	
24	縄文土器	土製品				土製片円板。縫隙部片。表面ヘラミガキ。表面ナデ。長径4.1 幅径3.8 厚さ0.9。		箇所実測	S区覆土	
No.	種別	器種	所	見	備	見			備	出土位置
25	敲石		<10.1>	<7.7>	<3.0>	<92.23>	右側欠損。正面に敲打痕。		P6	
26	石面		<4.7>	<7.8>	<4.2>	<136.63>	左側以外欠損。		N区覆土	



第104図 H35号住居址

ふ-53-54 G r にあり、H38-H39-F3-M12に切られる。炉は水道管の下に位置するとみられる。主柱穴P 1～P 4でP 2・P 3の柱は五平状とみられる。桁行き・梁行き共に2.2mを測る。出入り口施設の基礎であろうP 5の柱痕は住居の外方に傾く。P 6・P 7は貯蔵穴であろうか。新旧2面の床面は双方とも堅く平坦で旧の床面直上には、H11-H12-H20-H27-H28-H30-H33同様暗褐色の粘質

土が床に張り付く。覆土第1・2層は、人為埋土である。

遺物は壺(1~3)・甕(4~13)・鉢(14~17)・手捏土器(18)の弥生土器、土製品(22~24)、敲石(25)、本址に伴わない縄文後期掘之内式深鉢片(20・21)がある。

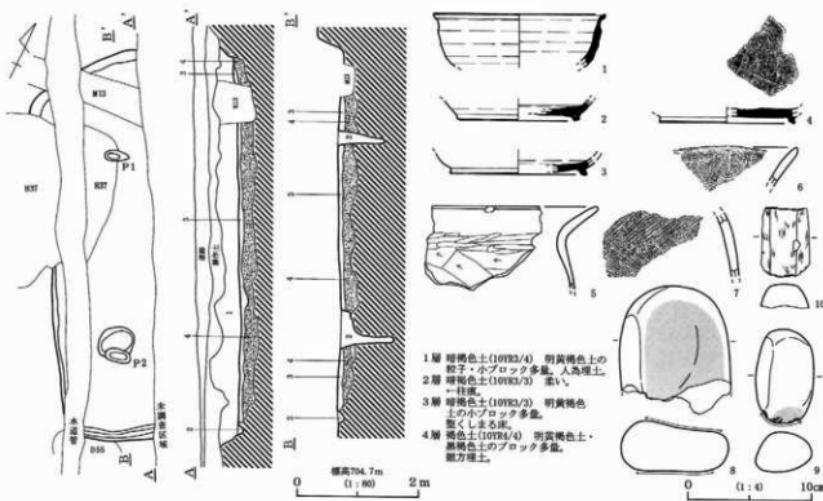
1・2の壺は、外面赤色塗彩され横位羽状のヘラ描斜走文が施される。2・3は、内面頸部まで赤色塗彩され、3は頸部櫛描T字文が施される。4~9・11の甕は口縁部に櫛描波状文が、6の甕は折り返し口縁を持ち口唇部から口縁部櫛描波状文が施される。10は折り返し口縁を持ち口唇部から口縁部櫛描斜走文が施される。14~17は、内外面赤色塗彩される。土製品22~24は、土器片円板である。22は表面赤色塗彩の高环脚部片で、側面に敲打痕・研磨痕が認められる。23は表裏面積際のこれら赤彩の鉢か高环片で、剥離痕が見られる。24は甕脣部片である。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

(36) H36号住居址

ふ-48・49G rにあり、H37・D55・M13に切られる。カマドは調査範囲にない。主柱穴P1・P2の柱は五平状とみられる。桁行き2.3mを測る。床は堅く平坦で、覆土第1層は人為埋土である。

遺物は、土師器甕(5)・須恵器碗か坏(1)・有台坏(2~4)、磨石(8)、敲石(9)、面取状に加工



第105図 H36号住居址

第63表 西近津遺跡IV H36号住居址出土遺物観察表

No.	種別	断面	法 線	内 面	外 面	測定値() 残存部 < > 方向 -		(cm・g)
						備考	出土位置	
1	須恵器	鉢か高环	(14.0)	-	<4.4>	ロクロナデ	ロクロナデ	敲打尖角
2	須恵器	有台坏	-	(10.0)	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り返し後両台附付	5区甕土
3	須恵器	有台坏	-	(11.0)	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部凹輪へ切り後両台附付	須恵器
4	須恵器	有台坏	-	(11.0)	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部凹輪へ切り後両台附付	須恵器
5	土師器	甕	内面 ヘラナデ ヨコナデ、外面 口辺ヨコナデ 剥離ヘラズリ。				破片尖角	甕土
6	勞生土器	甕	内面 ヘラミテ状。				新密尖角	須恵器
7	勞生土器	甕	内面 ヘラミテ。				新密尖角	須恵器
No.	種別	断面	法 線	内 面	外 面	測定値() 残存部 < > 方向 -	備考	出土位置
8	磨石		<10.5>	<2.2>	<4.2>	<57.68>	下部欠損。正面上り面。	須恵器
9	敲石		7.8	4.6	3.3	168.16	下端部に敲打痕。下部に赤色の付着物か?	甕土
10	不明		<5.7>	<3.9>	<1.8>	<88.08>	全周欠損。曲取り状に研磨。	P1

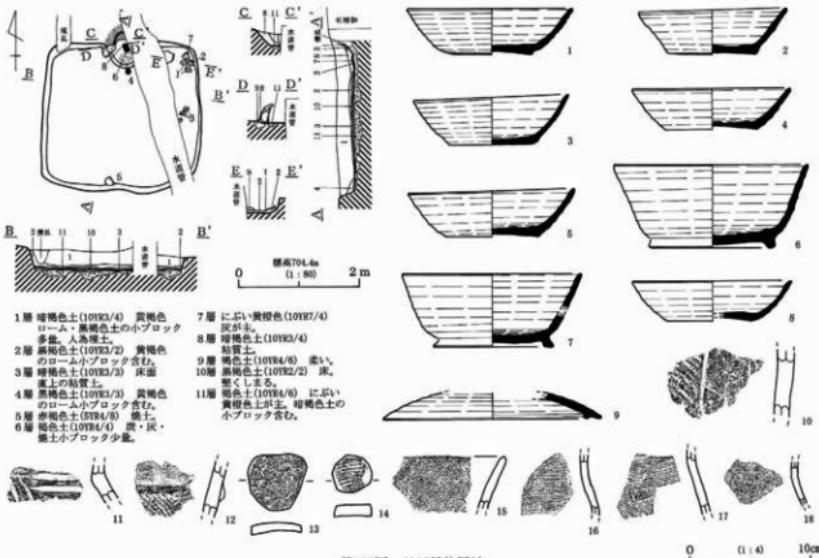
した石器(10)、混入遺物である弥生時代後期甕がある。

須恵器有台坏3・4の底部は、回転ヘラ切り後高台貼付される。土師器甕は、口縁部「く」字の武藏甕で、口縁部に最大径がある。

これらから、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅰ期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

(37) H37号住居址

ふ-48-49G rにあり、H36・D56を切る。カマドは北壁中央にあり、礎を芯材とし暗褐色の粘質土で構築された袖・煙道部の一部、火床が残存する。柱穴等は検出されない。床は堅く締まりほぼ平坦



第106図 H37号住居址

第64表 H37号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	断面	成形・調製・文様			埋定場()	保存場()	>丸・扁	出土地()
			口径()	底径()	厚さ()				
1	須恵器	环	13.7	6.8	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全丸肩 内外 側大だきき	No.2 No.4
2	須恵器	环	12.1	7.2	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全丸肩 内外 側大だきき	No.3
3	須恵器	环	12.8	7.0	4.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全丸肩 内外 側大だきき	No.5-6-7
4	須恵器	环	(13.0)	(7.6)	3.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全丸肩 内外 側大だきき	No.9
5	須恵器	环	13.7	7.6	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り	完全丸肩 内外 側大だきき	No.10
6	須恵器	高台环	15.9	(10.4)	6.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転ヘラグズリ→高台貼付	完全丸肩	I区 築区 床
7	須恵器	高台环	(14.6)	(9.8)	6.1	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転ヘラグズリ→高台貼付	完全丸肩	No.1
8	須恵器	高台环	(13.0)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部右回転糸切り、高台欠崩	完全丸肩 内外 側大だきき	I区 No.13
9	須恵器	環	(18.0)	-	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全丸肩 垂り き有り	I区 N区
10	鏡文土器	深井	垂下する文様、鏡文X。					中横糸割	Ⅱ区覆土
11	鏡文土器	深井	側位、圓形の輪舟状。					側之内	Ⅱ区覆土
12	鏡文土器	深井	側位輪舟上繩紋X。					中横糸割	Ⅱ区ホリ方
13	弥生土器	土器円筒	横筋有、輪舟状文、輪舟波状文、最大幅1.7、厚さ0.6。					側内	Ⅱ区覆土
14	弥生土器	土器円筒	横筋有、輪舟状、輪舟文、厚さ1.0。					側前斜	Ⅱ区覆土
15	弥生土器	環	内面 三ガキ。外面 輪舟状。					側内	Ⅱ区ホリ方
16	弥生土器	環	内面 三ガキ。外面 輪舟状、輪舟の輪舟波状文→輪舟輪舟状文。					側内	Ⅱ区ホリ方
17	弥生土器	環	内面 ヘラ三ガキ。外面 輪舟状→輪舟波状文。					側内	Ⅱ区覆土
18	弥生土器	環	内面 ヘラ三ガキ。外面 輪舟輪舟状文→輪舟波状文。					側内	Ⅱ区覆土

である。覆土第1層は人為埋土である。カマド東脇床面には、平石が見られた。第105図1・2・7が北東隅の床面、4・6・8がカマド内、3が東壁中央下の床面から出土した。

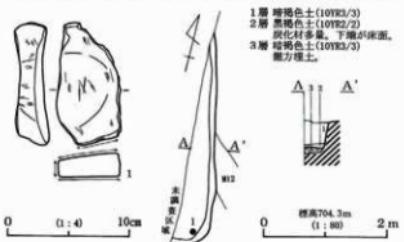
遺物は、須恵器壺(1~5)・有台壺(6~8)・蓋(9)、混入遺物である縄文時代中期後葉・後期前半の深鉢(10~12)・弥生時代後期壺(15~18)、土製品(13~14)がある。カマド内灰から獸類部位不明焼骨片出土。1~5・8の底部回転糸切り、6・7の底部回転糸切り後に回転ヘラケズリ。9は、僅かなかえりを有す。13は弥生時代後期壺片を加工した土器片円板、側面に研磨痕。14は縄文時代後期前半深鉢を加工した土器片円板。側面に敲打痕。

これらから本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第3四半期に位置づけられる。

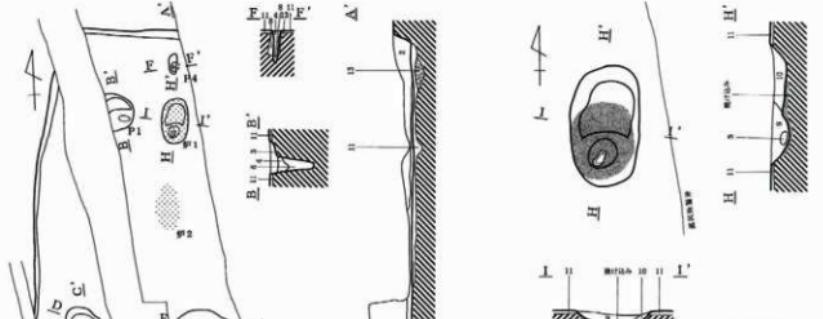
(38) H38号住居址

ふ~48°49'G rにありH35を切り、M12に切られる。カマド・柱穴等調査範囲内にはない。床は堅く締まりほぼ平坦。覆土第2層は炭化材を多量に含む。第107図1の砥石は、最大長10cm最大幅5.3cm最大厚2.5cm重量162.16g、砥面数4、右側欠損後も使用。本址の時期等詳細は不明である

(39) H39号住居址

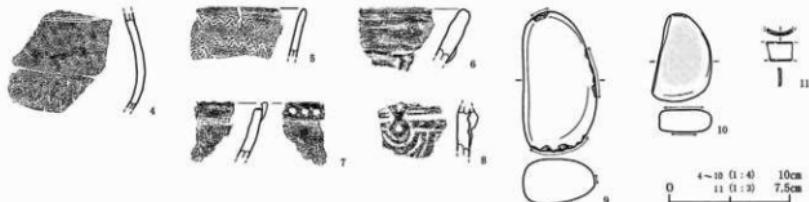


第107図 H38号住居址



- 1層 噴褐色土(10YR3/4) 黄褐色土・黒褐色土のブロック多量。人為堆土。
- 2層 黒褐色土(10YR2/2) 締くし色。
- 3層 黃褐色土(10YR3/3)
- 4層 黑褐色土(10YR3/1)
- 5層 噴褐色土(10YR3/4) 明黄褐色のPLブロック含む。
- 6層 黄褐色土(10YR5/6)が主、黒褐色土小ブロック少量。
- 7層 ぶらり・黒褐色土(10YR4/4)が主、黒褐色土小ブロック少量。
- 8層 ぶらり・黒褐色土(10YR7/4)が主、黒褐色土小ブロック少量。
- 9層 黄褐色土(10YR5/6)が主、黒褐色土少量。
- 10層 黄褐色土(10YR2/1) 黄土ブロック・黒褐色土小ブロック少量。
- 11層 黄褐色土(10YR3/3)と黒褐色土(10YR5/6)の互層。堅くしまる土。
- 12層 黒褐色土(7.5YR2/2)
- 13層 黄褐色土(7.5YR4/3) 黄色(7.5YR4/6)のロームが主。繩方堆土。

第108図 H39号住居址



第109図 H39号住居址

第65表 H39号住居址出土遺物観察表

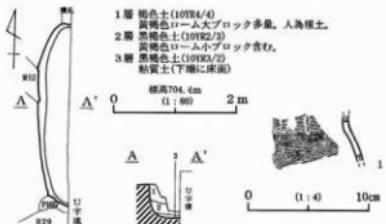
(cm・g)

No.	種別	断面	口径(厘米)	底径(厘米)	高さ(厘米)	成形・調整・文様		規定値()	現存値(<)	>丸底	備考	出土位置
						内面	外面					
2	弥生土器	圓	-	(14.8)	<3.0	ナデ	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ	田畠実測	P2		
3	弥生土器	鉢	-	6.3	<3.1	ヘラミガキ	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ	完全実測	覆土		
1	弥生土器	壺				内面 ナデ、外面 横縞模様文。			新曲実測	W区覆土		
4	弥生土器	壺				内面 ヘラミガキ。外面 横縞波状文。			新密実測	E区覆土		
5	弥生土器	壺				内面 ヘラミガキ。外面 横縞波状文。			新密実測	ホリ方		
6	鏡文土器	深鉢				所持前横縞深鉢	口縫部下に輪位溝。		称名寺	E区覆土		
7	鏡文土器	深鉢				口縫部内凹。口縫線上に沿って円形刺突。			称名寺	覆土		
8	鏡文土器	深鉢				標的の痕(沈没線上の6字鉛付文と紀点に黒鉛の集合沈線)。			堀之内1	ホリ方		
No.	断面	材	最大径	最小径	最大厚	重量	所見					出土位置
9	船石		11.5	6.1	4.0	432.92	上下端部と右側に軋打痕。					伊
10	磨石		7.2	4.8	1.9	97.70	正面にすり面。					W区覆土
11	鉢	圓	<1.6	<1.1	<0.1	<1.14	同様欠損。					覆土

ひ・ふ-52~53G r にあり H34 切られ H35 を切る。炉は 2 カ所から検出された。主柱穴 P 1・P 2 間の炉 1 は主炉で、北側にテラスを持つ地床がである。底面にあった敲石(第109図 9)は炉縁石が移動したのかは定かでない。炉底面はよく焼け込んでいる。炉 1 南 65cm の住居主軸線上の炉 2 は、床面からの掘り込みは見られず、南北 80cm 東西 40cm の楕円形状によく焼け込んでいる。ビットは 5 個検出され、P 1~P 3 の主柱穴は掘方から P 4 の棟持柱と共に五平状の柱が考えられる。P 2 は外側に向けて傾斜している。P 5 は壁柱穴。P 1 と P 2 の桁行き 350cm・P 2 と P 3 の梁行き 160cm を測る。敲き床の床面は堅く平坦で、掘方は北側に僅か認められる。南壁西側部分に壁溝がある。覆土第 1 層は、人為埋土である。

遺物は壺(1・2)・甕(4・5)・鉢(3)の弥生土器、敲石(9・10)、銅鉗(11)、本址に伴わない縄文後期称名寺式・堀之内 1 式深鉢片(6~8)がある。

1 の無彩色の壺は、頸部に櫛描横走文が施される。4 の甕は脇部櫛描波状文後頸部櫛描簾状文が施される。3 の鉢は、内外面赤色塗彩される。



第110図 H40号住居址

これらの遺物から本址は弥生時代後期清水期に位置づけられる。

(40) H40号住居址

ひ-54・55G r にあり H29・M12・P165 に切られる。調査範囲内で炉・柱穴等見られない。覆土第 1 層は人為埋土。床面直上に粘質土が張り付く。時期は H29 との関係で弥生時代後期かそれ以前である。

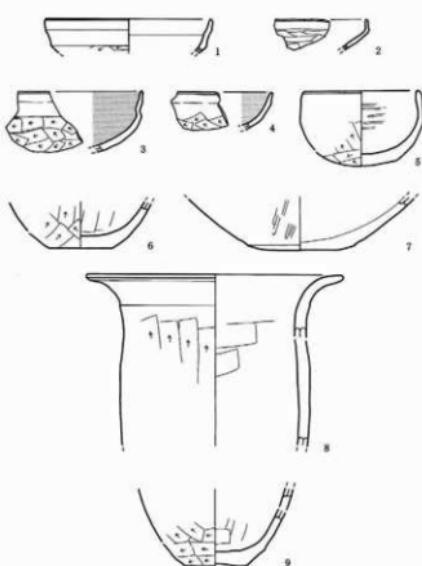
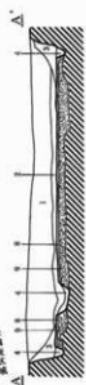
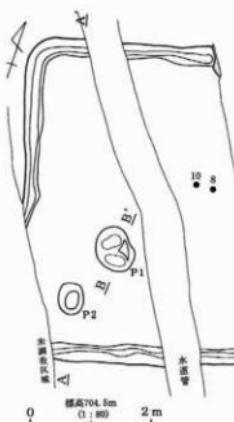


第66表 H40号住居址出土遺物観察表

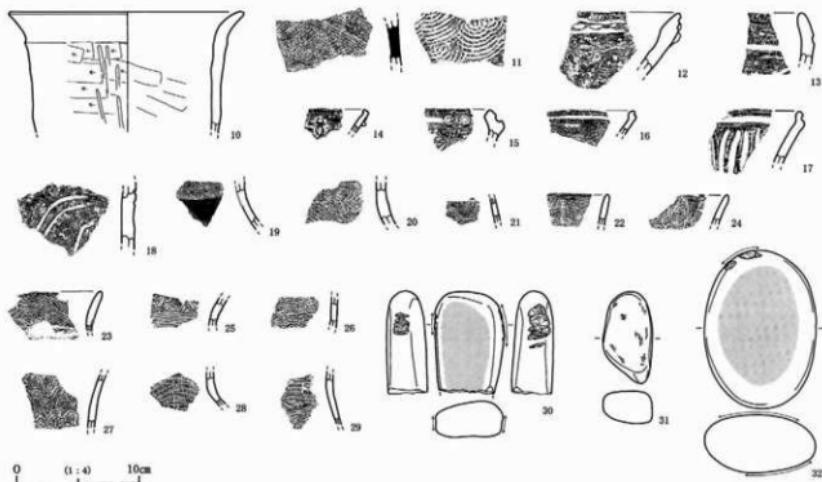
(cm・g)

No.	種別	断面	文様・調整				規格	出土位置	
			内面	外面	材	最大径	最小径	最大厚	重量
1	弥生土器	壺	内面 ヘラミガキ。外面 横縞模様文。櫛描斜走文。						新曲実測 覆土
2	鉢	圓	<9.3	<11.1	<8.8	<1218.16	被熱あり? (一部黒褐色化) 下部欠損。		新曲実測 覆土

(41) H41号住居址



- 1層 にぶい 黄褐色土・黒褐色土上・黒色土がブロック・レンズ状に堆積する。人糞埋土。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) にぶい 黄褐色土ブロック 少量、人糞埋土。
- 3層 黒褐色土(10YR1/1) にぶい 黄褐色土ブロック 少量、人糞埋土。
- 4層 墓褐色土(10YR3/4) 細い。
- 5層 黒褐色土(10YR4/1) 細い、柱痕。
- 6層 にぶい 黄褐色土(10YR5/3) 黒色土ブロック僅かに含む。
- 7層 黒褐色土(10YR4/2) 黒褐色土ブロック多量に含む。
- 8層 墓褐色土(10YR3/4) にぶい 黄褐色土の小ブロック多量に含む。堅くしめる。
- 9層 黒褐色土(10YR4/4) にぶい 黄褐色土・褐色土が主。黒褐色土の 小ブロック少量。板状埋土。



第111図 H41号住居址

第67表 H41号住居址出土遺物観察表

(cm·g)

H41		法 番			成 形・ 開 窓・ 文 標		指 定 () 残存度 < > 丸底・		
No.	器種	基準	口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土師器	壺	(13.4)	-	<2.8>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	回転実測	II 区 II 区
2	土師器	壺	-	-	<2.5>	ヨコナデ	口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	I 区
3	土師器	壺	-	-	<5.0>	ヨコナデ→黒色処理	ヨクロナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	II 区
4	土師器	壺	-	-	<3.1>	ヘラミガキ→黒色処理	ヨクロナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	覆土
5	土師器	鉢	(9.2)	-	6.2	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	II 区
6	土師器	甕	-	5.2	<3.8>	ナデ	ヘラケズリ	完全実測	I 区
7	土師器	甕	-	(8.8)	<4.4>	摩耗している	ヘラミガキ 摩耗している	回転実測	III 区
8	土師器	甕	(20.8)	-	<14.1>	ヨコナデヨコナデ	胸部ヘラナナ	回転ヨコナデ	II 区 No.1
9	土師器	甕	-	5.0	<6.4>	ヘラナナ	ヘラケズリ	完全実測	III 区
10	土師器	甕	(19.2)	-	<9.9>	ヨコナデヨコナデ	胸部ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	I 区 No.2
11	須恵器	甕	-	-	-	同心円文当て 黄斑		断面実測	III 区
12	須恵土器	深鉢				口縁に沿って2条の沈線下に溝状突起。		移名寺	覆土
13	須恵土器	深鉢				口縁部下横位2枚脚。		後削初頭	I 区
14	須恵土器	深鉢				口縁部内折、口縁下横位足見残線上に8字状貼付瓦。		壁之内2	III 区
15	須恵土器	深鉢				口縁部内折。2脚の円形剥離から構位の沈線。その下脚位の沈線。		壁之内1	I 区
16	須恵土器	深鉢				口縁部内折、口縁に沿って横位沈線。		壁之内1	III 区
17	須恵土器	深鉢				口縁に沿った沈線の下2条1対の沈紋が垂下。		壁之内1	III 区
18	須恵土器	深鉢				張状の沈線区画。		移名寺	III 区
19	弥生土器	壺				内面 赤褐色彩、外面 ヘラ抹捺波状文にヘラ描斜文→赤色漆彩。		断面実測	ホリ方
20	弥生土器	甕				内面 ナデ、外面 ヘラ抹捺波状文に構位凹陥、ヘラ描斜文。		断面実測	覆土
21	弥生土器	甕				内面 ナデ。外面 ヘラ抹捺波状文内にヘラ描斜文・斜突を充填したヘラ描斜文。		断面実測	III 区
22	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ、外面 横擦波状文。		断面実測	III 区
23	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ、外面 横擦波状文。		断面実測	III 区
24	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ、外面 横擦波状文。		断面実測	覆土
25	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ、外面 横擦波状文→横擦模様文。		断面実測	III 区
26	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外面 横擦波状文。		断面実測	覆土
27	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ、外面 横擦波状文。		断面実測	覆土
28	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ、外面 横擦波状文。		断面実測	覆土
29	弥生土器	甕				内面 ヘラミガキ。外面 横擦波状文。		断面実測	III 区
No.	器種	素 材	最大 大	最大 小	最大 大	重 量	所 見		出土位置
30	磨・磨石		<8.5>	<5.6>	<3.2>	<273.97>	正面にすり面、両側に敲打痕と条痕。		I 区
31	磨石		7.6	4.1	2.8	137.64	被熱あり? (表面赤化全体にすり)。		覆土
32	磨・磨石		13.1	9.0	5.0	911.06	上端部に敲打痕。正面にすり面。		覆土

ほ・ま-46-47Gr にあり H42 を切る。カマドは北壁東寄りに、粘土・焼土を検出しのみで大半が調査区域外に伸びる。ピットは2個検出され、主柱穴P 1 は径24cmの柱痕が確認された。深さ22cmのP 2 は支柱であろう。床は平坦で堅く縮まる。北壁・南壁・西壁下には壁溝が巡る。覆土1~3層は人為埋土。

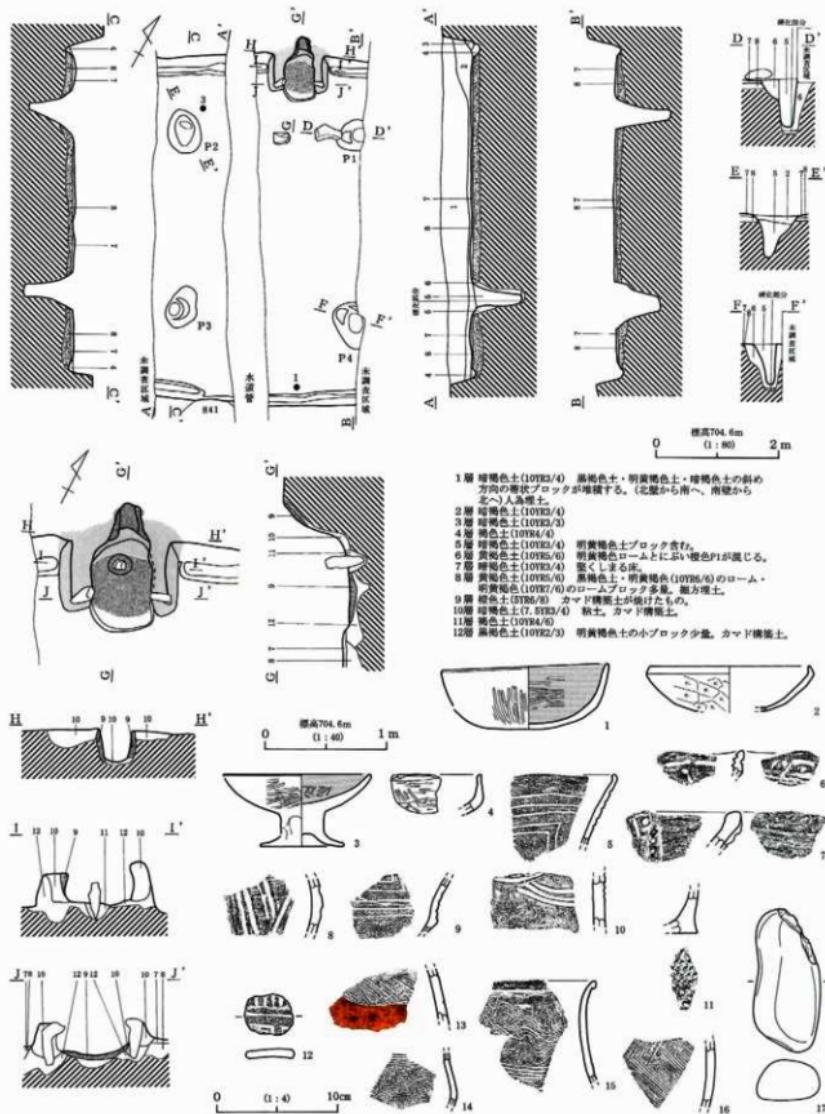
遺物は、土師器壺(1~4)、土師器鉢(5)、土師器甕(6~9)、土師器壺(7)、土師器瓶(10)、須恵器甕(11)、石器(30~31)、本址に伴わない繩文時代後期土器器名石式深鉢(12~18)、堀之内式1深鉢(12~18)、弥生時代後期箱清水式土器甕(19~21)・甕(22~29)がある。

土師器壺は須恵器壺蓋模倣1・3、須恵器壺身模倣2、半球状4があり、3・4が内面黒色処理される。甕8は、口縁部に最大径がある。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期- 7世紀代に位置づけられる。

(42) H42号住居址

ほ・ま-45-46Gr にあり H47を切り、H41に切られる。カマドは北壁に、袖部芯材にL字形に加工した軽石を用い、暗褐色の粘土・黒褐色土で構築されていた。火床に培積凝灰岩を加工した支脚石が残る。火床と煙道部・袖部の内側が焼け込んでいる。ピットは4個検出され、主柱穴P 1・P 3・P 4 は径30cmの柱痕が確認された。P 4 の底面は荷重によるものか、硬化している。桁行き3.0m 梁行き3.0mを測る。床は平坦で堅く縮まる。北壁・南壁下には壁溝が巡る。覆土1層は、黒褐色土・明黄褐色



第112図 H42号住居址

第68表 H42号住居址出土遺物観察表

(cm・g)

H42		法 番			成 形 ・ 調 整 ・ 文 織		指定番()	残存状(< >丸底)	備 考	出土位置
No.	種類	口径(幅)	底径(幅)	厚さ(厚)	内 面	外 面				
1	土師器	坪	(13.4)	・	5.1	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ	完全実測	No.2	
2	土師器	坪	(13.0)	・	<3.7>	ヨコナデ	ヘラケズリ	回転実測	II区覆土	
3	土師器	高坪	(12.0)	(6.2)	6.0	环部ヘラミガキ→黒色処理。脚部ナデ	外部ヘラミガキ、脚部ナデ	完全実測	No.1	
4	土師器	手づくね 土器	・	・	・	ヘラミガキ	ナデ。底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	破片実測	確認面	
5	縄文土器	深鉢	口縁部内折。幾何文様。縄文RL充填。					範之内2	確認面	
6	縄文土器	深鉢	小突起に円形刺突と横列沈線。					範之内1	覆土	
7	縄文土器	深鉢	小突起に輪列沈線と目孔。そこから底下する削み階層。					範之内1	II区覆土	
8	縄文土器	深鉢	斜行集合沈線。縄文RL。					範之内1	IV区覆土	
9	縄文土器	深鉢	幾何文様。縄文RL。					範之内2	確認面	
10	縄文土器	深鉢	弧状の集合沈線。					範之内1	確認面	
11	縄文土器	深鉢	網代底。2本越2本溝り。					後期前半	Ⅳ区	
12	縄文土器	土製品	土器片円板。刻み階層。幾何文様。縄文RL充填。長辺4.0 短辺3.2 厚さ0.7。					範之内2	確認面	
13	弥生土器	壺						新面実測	Ⅲ区	
14	弥生土器	壺						新面実測	確認面	
15	弥生土器	壺						新面実測	II区覆土	
16	弥生土器	壺						新面実測	IV区覆土	
No.	器 様	材	最大幅	最小幅	最大厚	重 量	所 見			出土位置
17	敲石		11.8	5.5	3.4	336.62	被熱あり(正裏裏面)上部に敲打痕。裏面は被熱割れか。			II区覆土

土・暗褐色土の帶状ブロックが住居中央に向けて傾斜する人為埋土である。

遺物は、土師器坪(1・2)、土師器高坪(3)、土師器手捏(4)、敲石(17)、本址に伴わない縄文時代後期土器堀之内式1深鉢(6~7・10)・堀之内式2(5・9)、土製品(12)、弥生時代後期清水式土器壺(13)・甕(14~16)がある。土製品は、堀之内式2の深鉢を加工した土器片円板である。

土師器坪は半球状の1・2があり、1が内面黒色処理される。3の高坪も内面黒色処理される。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。

(43) H43号住居址

ま-44、み-43・44 Gr にありD57に切られる。カマドは東壁やや南壁寄りに、焼け込みが見られる火床と沿道の張り出し部が僅かに残存する。北壁下に厚さ10cmほどの焼土の堆積が確認された。床面は堅固ではない。柱穴はみられない。



第113図 H43号住居址

第69表 H43号住居址出土遺物観察表

(cm·g)

No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		測定値()	残存値 < > 丸底	備考	出土位置
			口徑(φ)	底径(φ)	高さ(厚)	内面	外面				
1	土師器	环	-	(6.8)	<2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部ヘラナデ	回転実測	N区 墓土		
9	弥生土器	甕	(14.8)	-	<7.1>	ヘラミガキ	縄文波状文一帯擦痕付文	回転実測	N区 5区		
4	縄文土器	深鉢	圓状斜手の裏表と側面に円形削突と擦痕。					掘之内1	N区 墓土		
5	縄文土器	深鉢	底下する丸み凸唇と斜面する刻み隆起付交点上に横状擦痕。					掘之内1	N区 墓土		
6	縄文土器	深鉢	縄代付。2本越2本溝。					後周前半	S区 墓土		
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下に横位沈縫。縄文LR。					掘之内2	N区 墓土		
8	縄文土器	波口土器	幾何学文。縄文LR。					掘之内2	S区 墓土		
No.	種類	材質	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見			出土位置	
2	堅?	鉄	10.1	1.4	0.15	7.21	方形の2孔あり。			覆土	
3	石錐		<1.1>	<1.1>	<0.2>	<0.21>	先端・周縁欠損。			N区 墓土	

遺物は、底部ヘラナデされる土師器環(1)、方形の2孔がある器種不明の鉄器(2)、本址に伴わない縄文時代後期土器堀之内1式深鉢(4・5)・堀之内2式深鉢(7・8)、弥生時代後期箱清水式甕(9)、石錐(3)がある。本址の時期は、1の8世紀代とみられる土師器環が唯一のよりどころである。

(44) H44号住居址

み-40-41G r にあり、大半は西側の調査区域外に伸びる。カマド・炉は調査範囲内では確認されない。

ピットは北東隅に2個検出された。壁溝が東壁から南壁下を巡る。覆土第2層は、黄褐色土・黒褐色土のブロックを多量に含む人為埋土である。床面は堅く平坦である。

遺物は、縄文時代後期名寺式と思われる深鉢(1)、堀之内1式の深鉢(2)、堀之内2式の深鉢(3)、後期前半のミニチュア土器(4)、側面に剥離痕・研磨痕、内外面に未貫通孔



第114図 H44号住居址

第70表 H44号住居址出土遺物観察表

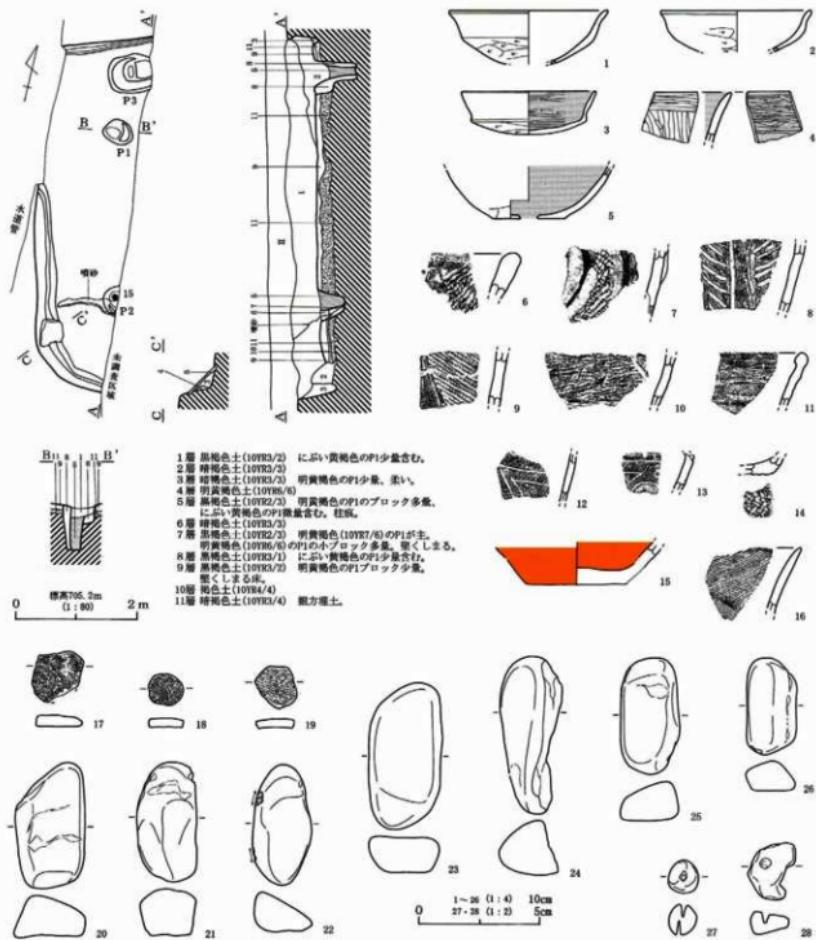
(cm·g)

No.	種別	器種	文様・調整					測定値	残存値	備考	出土位置
			文様	調整	大きさ	形状	厚さ				
1	縄文土器	深鉢	波状口縁? 口縁周に引出しがれ。斜位横位の沈縫。					名寺?	覆土		
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。小突起頂部? 周円形削突から斜位沈縫。					堀之内1	覆土		
3	縄文土器	深鉢	口縁部内折。波頂部裏孔から斜位に垂下する刻み擦痕。					堀之内2	覆土		
4	縄文土器	ミニチュア アシテ器	直縁 3.6cm 残存深さ 3.4cm。網代底?					後周前半	覆土		
5	縄文土器	土器品	瓦片状円板深井調査片。剥離痕。研磨痕。内表面に未貫通の孔あり。2条の斜位沈縫。斜位沈縫。縄文波状。					堀之内1	覆土		
No.	種類	材質	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見			出土位置	
6	二次加工の ある鉄片	黒鐵石	1.9	1.4	0.3	0.82	上部に二次加工。			覆土	
7	磁石		<7.6>	<4.9>	<3.0>	<205.45>	下部欠損。上端部に船底痕。			P1	

を持つ壺之内式深鉢胴部片を加工した土器片円板(5)、二次加工のある剥片(6)、敲石(7)がある。本址は、縄文時代後期の遺物が主であるがいづれも小片であり、時期不明としたい。

(45) H45号住居址

み-39-40 G r にあり、H51を切る。カマドは調査範囲内では確認されない。ピットは3個検出され、主柱穴 P 1 は径30cm・P 2 は径20cmの柱痕が確認された。P 3 は位置的に貯蔵穴かと思えたが、五平



第115圖 H45号住居址

第71表 H45号住居址出土遺物観察表

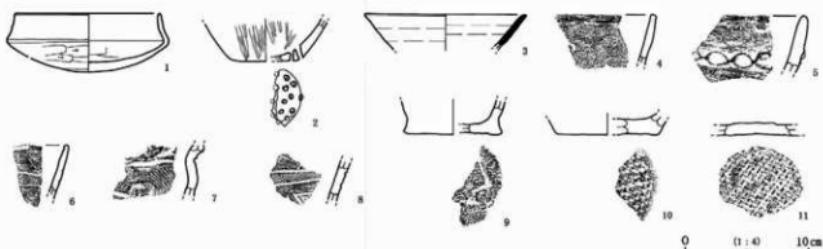
No.	種別	形種	法 量			成形・調理・文様		確定()	推定()	< >先歴	(cm·g)
			口径(径)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面				
1	土師器	壺	13.2	-	<4.4>	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	S-NIS	P1	
2	土師器	壺	12.4	-	<3.4>	ヘラナデ	底部ヘラケズリ	回転実測	N区	土壌	
3	土師器	杯	11.1	-	<3.5>	ヘラミガキ→黑色處理	底部ヘラケズリ	回転実測	N区	土壌	
4	土師器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ→黑色處理	ヘラミガキ	破片実測	S-NIS	土壌	
5	土師器	瓶	-	(6.1)	<4.2>	ヘラナデ。黒色處理	ヘラナデ。底部ヘラケズリ	1穴	回転実測	NIS土壌	
15	弥生土器	壺	-	(8.2)	<3.5>	ヘラナデに、赤い赤色塗彩。一部無	赤い赤色塗彩	回転実測	S-NIS	No.3	
6	縄文土器	深鉢	縄文LR。						中期後半		
7	縄文土器	深鉢	弦状の降帯。腹溝焼付。						中期後半		
8	縄文土器	深鉢	縦目立脚部に斜めに斜化の沈窓。						中期後半		
9	縄文土器	深鉢	斜めの脚窓付。縄文焼。						中期後半		
10	縄文土器	深鉢	地溝式支脚。張状沈窓。						中期後半		
11	縄文土器	深鉢	口縁部内折。所蔵粘土土壌。						縦之内		
12	縄文土器	深鉢	沈窓で縦向字的又横字的。縄文LR充填。						縦之内2		
13	縄文土器	深鉢	口縁部内折。縦向字的又横字的。縄文LR充填。						縦之内1		
14	縄文土器	深鉢	網代式。本鉢と本溝。						後期前半		
16	弥生土器	壺	内面へラミガキ。櫛指跡走る。						後期		
17	縄文 土製品	土器片円板	土器片円板。一部欠損。研磨面。無文。最大長4.5cm 厚さ0.9cm。						後期?		
18	縄文 土製品	土器片円板	土器片円板。輪打痕。無文。長径2.7cm 短径2.3cm 厚さ0.8cm。						後期?		
19	弥生 土製品	土器片円板	土器片円板。輪打痕。研磨面。無文。最大長・厚さ0.7cm。						後期		
No.	器種	材	最大長	最大幅	最 大 厚	重 量	用	見		出土位置	
20	縄文石		10.5	5.8	3.5	304.24				No.7	
21	縄文石		10.0	4.9	4.0	260.63				No.8	
22	縄文石		10.0	4.9	3.2	186.72	左側に敲打痕。			S-NIS	土壌
23	縄文石		12.1	6.0	3.5	379.40				No.5	
24	縄文石		12.9	5.2	4.7	373.90				S東	
25	縄文石		9.6	4.8	3.1	232.12				No.6	
26	縄文石		7.8	4.1	2.5	124.90				No.4	
27	土製品勾玉		1.4	1.2	1.3	2.07	孔径 0.2~0.3。底皮後穿孔? ナデ調整。			No.1	
28	土製品勾玉		2.4	2.0	0.9	3.51	孔径 0.4。底皮後穿孔? ナデ調整。			No.2	

状の柱痕が確認された。P1・P2の桁行き2.6mを測る。床は平坦で堅く締まる。北壁・西壁下には壁溝が巡る。南西隅の床面にくい込んだ鉄平石(第1図)が壁に斜めに架かり、この下に壁溝は認められない。この鉄平石からP2底面にかけて床面から幅2cm、40cmの高さで埴砂(浅黄橙色のシルト質土)が検出された。本址廃絶後覆土第1層が堆積した後の事象である。

遺物は、土師器壺(1~3)、土師器鉢(4)、土師器瓶(5)、縄文石(20~28)、台石(P114掲載図)、土製の丸玉(27~28)、本址に伴わない縄文時代中期後半の深鉢、後期堀之内式深鉢(10~13)、後期土器片円板(17~19)、弥生時代後期箱清水式の壺(15)・甕(16)がある。

1~3は須恵器壺蓋模倣で、3が内面黒色処理される。4の鉢・5の瓶は、内面黒色処理される。本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005型原)古墳時代IV期~7世紀代に位置づけられる。

(46) H46号住居址

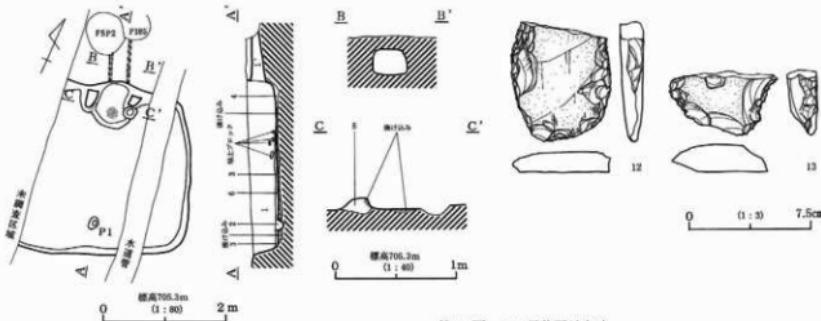


第116図 H46号住居址(1)

第72表 H 46号住居址出土遺物観察表

(cm·g)

NO.	種別	器種	成形・調製・文様			推定地()	残存地()	< > 丸底・ 側面	出土位置
			口径(Φ)	底径(Φ)	高さ(H)				
1	土器底	杯	(12.0)	-	4.8	ナデ	ハラカズリ	口輪実周	力マド
2	土器底	瓶	-	(5.8)	<3.4>	ヘラミガキ	ハラミガキ。底部多孔	口輪実周	W区覆土
3	土器底	瓶	(13.2)	-	<2.9>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実周	層土
4	縄文土器	深鉢	口唇部直取り。口唇部粗削。	所産粗削取。口唇部直下に直角持つ複縫。				後期前半	層土
5	縄文土器	深鉢	所産粗削取。口唇部直下に直角持つ複縫。	口唇部内折。既存穴内に縄文文。				後期前半	W区覆土
6	縄文土器	深鉢	口唇部内折。既存穴内に縄文文。					縄之内2	層土
7	縄文土器	注口式壺	横位支撐内に施焼済火R。					縄之内2	W区覆土
8	縄文土器	注口式壺	横位支撐内。既存穴火R。					縄之内2	層土
9	縄文土器	注口式壺	横位支撐内。2本既存2本新り。					後期前半	E区覆土
10	縄文土器	注口式壺	横位支撐。2本既存2本新り。	既存2.2。				後期前半	層土
11	縄文土器	注口式壺	横位支撐。2本既存2本新り。	既存2.0。				後期前半	層土
NO.	種別	材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
12	打製石斧		<7.3>	<6.1>	<1.4>	<95.07>	上部欠損。刃部に磨滅痕。正面とも凹面。		S区覆土
13	打製石斧		<3.9>	<6.6>	<1.8>	<53.07>	上部欠損。正面に自然面。		S区覆土



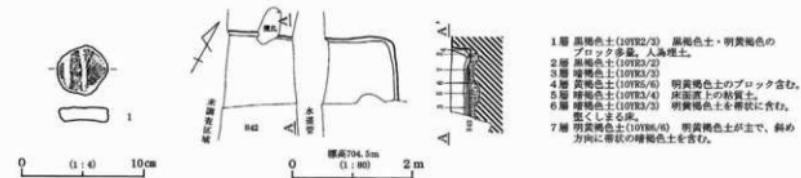
第117図 H 46号住居址(2)

- 1層 短褐色土(10YR3/4) 南壁寄りの下層に褐色土、全般に褐色土が主で、にじむ黄褐色の小1ブロック・粒子多量。
人為埋土。
1層 墓褐色土(10YR3/4) 1層に粘土ブロック多く含む。カマド煙道部に堆积する。
2層 墓褐色土(10YR3/3)
3層 墓褐色土(10YR3/4) 床面以上の粒質土。
4層 墓褐色土(10YR3/3) 粘土・粘土小1ブロック少量。
5層 明黄褐色土(10YR4/0) と墓褐色土(10YR3/3)が混じる。
6層 墓褐色土(10YR3/2) 明黄褐色・明赤褐色のP1のブロック多量。底部多量。

みむ-37-38G r にあり、F 5・P 179・P 185に切られる。カマドは北壁中央に設置され、僅かな袖部・火床・原形を保つ煙道部の一部が検出された。煙道部の末端は、F 5・P 185に壊されているが、北壁から竪穴外に伸びる天井部は残存(72cm)する。煙道部の断面は長方形で、北壁部分で横幅28cm立幅22cmを測る。ピットは、カマドに対峙するよう南壁下に1個検出された。主柱穴であろうか。床面は堅く平坦で、暗褐色の粘質土が床に張り付く。覆土第1層は、人為埋土である。

遺物は、1の須恵器环身模倣の土師器壺、2の多孔持つ土師器瓶、混入遺物の須恵器壺(3)、縄文時代後期前半の土器(4~11)、打製石斧(12~13)がある。
本址は少ない遺物だが、古墳時代後期-7世紀代とみて大過ないであろう。

(47) H 47号住居址



第118図 H 47号住居址

ま・み-45 G r にあり、H42に切られる。カマド・炉・柱穴等は、調査範囲内では確認されない。覆土第1層は、明黄褐色土・黒褐色土のブロックを多量に含む人為埋土である。床面は堅く平坦であり、弥生時代後期のH11・H12・H20・H27・H28・H30・H33・H35に見られた暗褐色の粘土が、床面上に張り付く。

遺物は、縄文時代後期堀之内式の深鉢片を加工した土器片円板が図示できた。2条の平行沈線・縄文が施文される。最大幅4.2cm厚さ1.2cmを測る。他に図示できない、縄文時代・弥生時代の土器小片が出土している。本址の時期は、重複するH42の古墳時代後期-7世紀以前である。

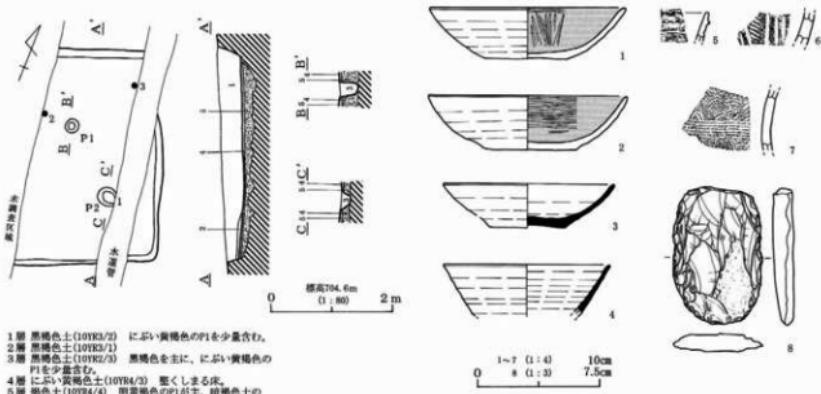
(48) H48号住居址

み・む-36-37 G r にあり、M14を切る。カマドは、調査範囲内では確認されない。ピットは柱穴であろうか、不規則な位置に2個検出された。床面は堅く締まり平坦である。

遺物は、土師器壺(1・2)、須恵器壺(3・4)、混入遺物である縄文時代後期堀之内式の深鉢(6)・堀之内2式の深鉢(5)・弥生時代後期箱清水式の甕(7)、打製石斧(8)がある。

1・3の底部回転糸切り、2の底部回転糸切り後に手持ちヘラケズリされる。

これらの遺物から本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第3四半期に位置づけられる。



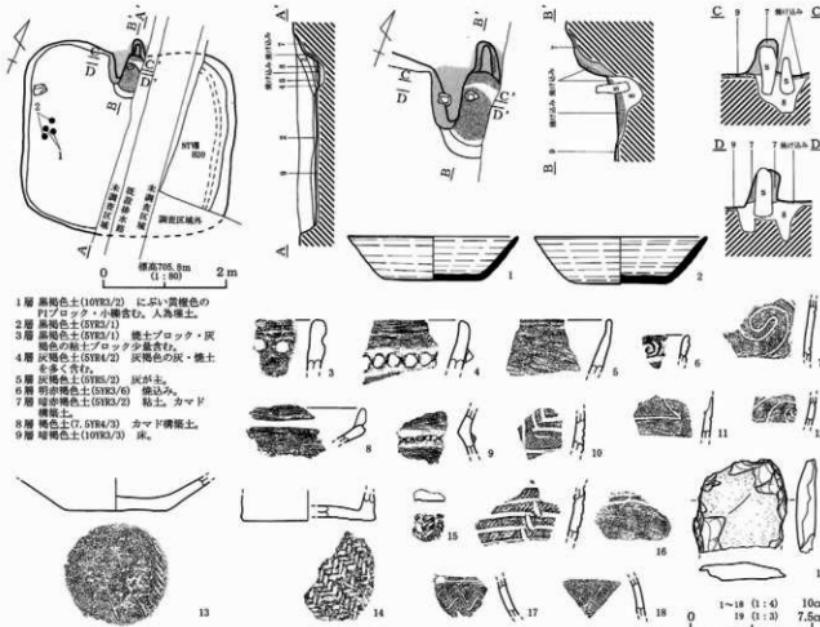
第119図 H48号住居址

第73表 H48号住居址出土遺物観察表

No.	種類	形	法 面	成形・調節・文様		測定()	残存値 < > 丸底・ 直角	備考	出土位置
				内面	外面				
1	土師器	壺	16.0	6.5	4.2	ヘラミガキ。黑色處理	クロナデ。底部回転糸切り	完全実測	No.1-2 S-N区裏土
2	土師器	壺	16.2	7.5	4.4	ヘラミガキ。黑色處理	クロナデ。底部回転糸切り+手持ちヘラ ケズリ	完全実測	No.3
3	須恵器	壺	(14.0)	6.2	3.6	クロナデ	クロナデ。底部右回転糸切り	完全実測	No.4
4	須恵器	壺	(13.6)	-	<4.2>	クロナデ	クロナデ	回転実測	N区裏土
5	縄文土器	深鉢	(上壁部下に割込み厚壁) 壁位沈縫。						堀之内2
6	縄文土器	深鉢	面下-斜行する複合沈縫。縄文甕。						N区裏土
7	弥生土器	甕	内面 ヘラミガキ。外面 横滑波状文-一部擦痕状文。						N区裏土
No.	種 類	形 材	最 大 幅	最 大 深 度	最 大 厚 度	所 見			出土位置
8	打製石斧		8.3	5.5	1.3	74.12	磨滅感強め。正面に自然面。		N区裏土

(49) H49号住居址

み・む-34 G r にあり、H50を切る。本址は東隣で調査された西近津遺跡VIIのH20号住居址と同一住



第120図 H49号住居址出土遺物觀察表
第74表 H49号住居址出土遺物觀察表 (cm·g)

No.	種類	形態	口徑(㎝)	底径(㎝)	高さ(㎝)	内面	外面	測定値(㎝)			出土地點
								側面	頂面	側面	
1	須恵器	環	14.1	8.2	3.6	□クロナデ	□クロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズ	完全正面	内外	No.2-3	
2	須恵器	環	14.1	7.6	3.9	□クロナデ	□クロナデ→底部切り離し後手持ちヘラケズ	完全正面	内外	No.1-4	
3	縄文土器	深鉢				所調蛇腹深鉢。口部断下に直済。		火打さき有			N区覆土
4	縄文土器	深鉢				所調蛇腹深鉢。口部断下に直済持つ埋面。		火打さき無			N区覆土
5	縄文土器	深鉢				所調蛇腹深鉢。口部断下内折。		火打さき無			N区覆土
6	縄文土器	深鉢				空起部正反文と直済式。		火打さき無			N区覆土
7	縄文土器	深鉢				T字状沈泡深鉢。縄文L R。		火打さき無			N区覆土
8	縄文土器	深鉢				□鉢部内折。口縁に沿って北摺。		火打さき無			N区覆土
9	縄文土器	深鉢				別名「腰」。		火打さき無			N区覆土
10	縄文土器	深鉢				幾何学文。縄文L R充填。		火打さき無			N区覆土
11	縄文土器	深鉢				幾何学文。		火打さき無			N区覆土
12	縄文土器	深鉢				T字状沈泡。		火打さき無			N区覆土
13	縄文土器	深鉢				縄文底? 直済R。		火打さき無			N区覆土
14	縄文土器	深鉢				3本鉢一本蓋。底径11.0。		火打さき無			N区覆土
15	縄文土器	深鉢				縄文底? 2本鉢一本蓋。		火打さき無			N区覆土
16	縄文土器	深鉢				5枚の須恵器に施用五郎区切り。		火打さき無			N区覆土
17	須恵器	盤	小鉢	三ガキ。	外周 縦粗粒状文・縦隔壁織紋。			加曾利B1			N区覆土
18	須恵器	盤	内面	三ガキ。	外周 縦隔壁織紋。			新田美濃			N区覆土
19	打削石斧		<5.7>	<5.7>	<1.1>		<4.431>	下部欠損。自然壊残。			N区覆土

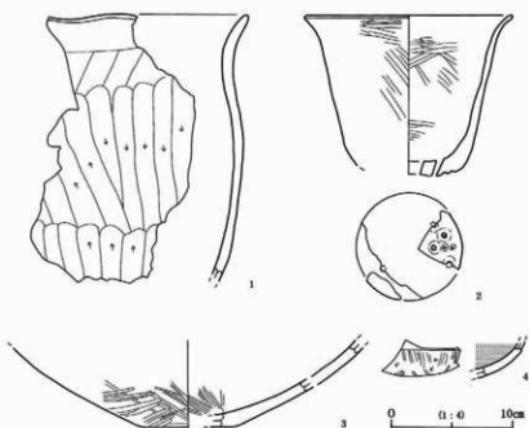
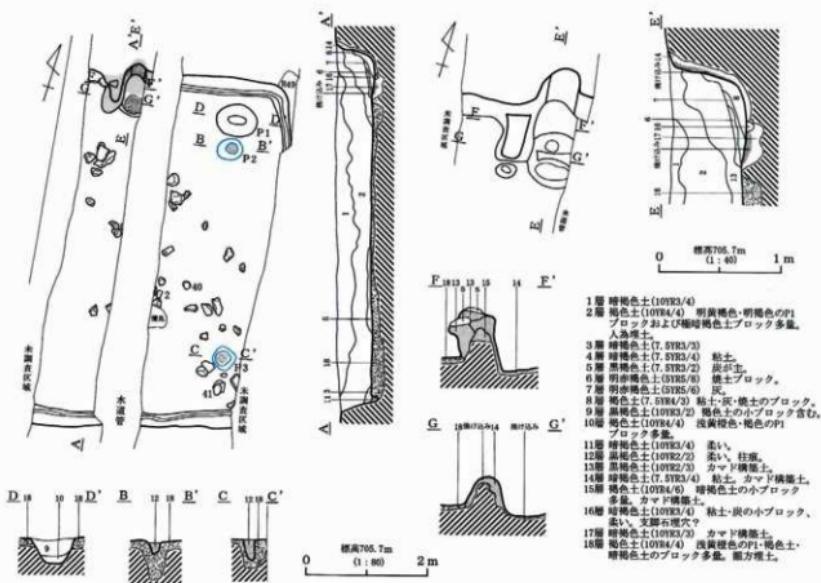
居址である。カマドは北壁中央に、面取り軽石と熔結凝灰岩を袖部の芯材にし、粘土と褐色土で構築されている。火床に安山岩を加工した支脚石が残る。火床上部に灰の堆積が顕著である。火床と煙道部がよく焼け込んでいる。両方の調査範囲内から柱穴は検出されない。床面は堅く締まり平坦である。

遺物は、底部手持ちヘラケズりされる須恵器環(1・2)、混入遺物の縄文時代後期箱清水式の甕、打製石斧がある。

本址は、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀第2四半期に位置づけられる。

(50) H50号住居址

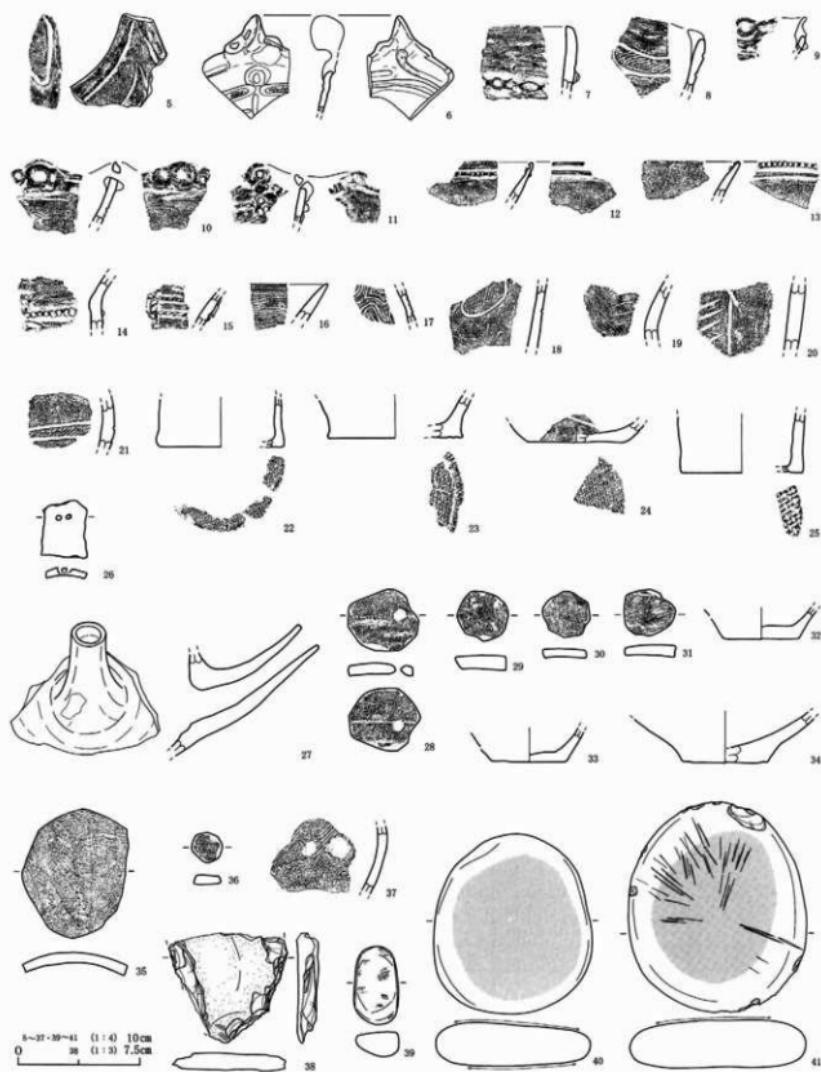
み・む-34・35G r にあり、H51に切られる。カマドは北壁中央に、暗褐色の粘土と暗褐色土・黒褐色



第121図 H50号住居址(1)

土・褐色土と礫で構築されている。袖は地山削り出しで、袖部先端に芯材の礫を立てる小ピットがある。床に散在する熔結凝灰岩や面取り軽石・鉄平石もカマドの構築材の一部と見られる。火床の上部に顕著な灰の堆積が認められた。火床中央には、支脚石抜き取り跡であろう小ピットがある。

ピットが3個検出された。径20cmの柱痕が確認された主柱穴P 2・P 3の柱穴間、桁行きは3.4cmを測る。P 1は貯蔵穴であろうか。壁溝が北壁・東壁・南壁下を巡る。床中央から南壁にかけ床直上に5~10cmに炭が堆積していた。



第122図 H50号住居址(2)

第75表 H50号住居址出土遺物観察表

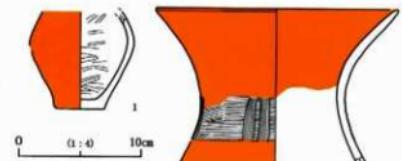
(cm・g)

No.	種類	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()	推存値 < > 先 墓	備 考	出土地點
			口径(横)	底径(横)	高さ(厚)	内 面	外 面				
1	土師器	壺	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラケズリヨコナデ	破片実測	カマド		
2	土師器	壺	17.0	8.6	13.3	ヘラミガキ	ヘラケズリヘラミガキ	完全実測	多孔	No.4	
3	土師器	壺	(8.0)	<7.2>	ハケメ	ヘラミガキ		回転実測	II区	IV区	
4	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラケズリヘラミガキ	破片実測	III区		
52	弥生土器	罐	-	3.3	<2.6>	ヘラナデヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	II区		
33	弥生土器	罐	-	6.0	<2.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ。底部ヘラミガキ	完全実測	II区		
5	绳文土器	深鉢	式状不明	口径(横)沈縁、円形剥先状沈縁内に純文州。逆三角形状の沈縁区画内に幾文Rしを充填。				鶴名寺	II区		
6	绳文土器	深鉢	沈縁と円形貼付文の交差部。口縁に沿って沈縁、突起下に剥突を弱め張り比縫さらに垂下する短縫隙。そこから2条の横縫隙沈縁内に唐草模様。内面は弦文状の沈縁。3条の横縫隙沈縊。					加曾利81	II区		
7	绳文土器	深鉢	所調圓切深鉢。口縁下に注連持つ縫隙。					後期前半	I区		
8	绳文土器	深鉢	式状不明。沈縁区画内に幾文R充填。					鶴名寺	IV区		
9	绳文土器	深鉢	口縁部内凹。突起部に円形剥先もつ円形貼付文。					縫之内1	III区		
10	绳文土器	深鉢	縫之内6。外側面周縁に円形剥先の円形貼付文。					縫之内1	III区		
11	绳文土器	深鉢	式状不明。口縁部貼付文。底縫隙に円孔もつ円形貼付文。その後下8字状貼付文から刻み隆縫。さらに斜行沈縫。					縫之内2	I区		
12	绳文土器	深鉢	口縁部内凹。口縁部下縁に沿って刻み隆縫。内面口縁に沿って沈縫。					縫之内2	I区		
13	绳文土器	深鉢	内面 口縁部に沿ってその下2条の横縫隙。					加曾利81	II区		
14	绳文土器	深鉢	横位刻み隆縫。その下斜行沈縫。					縫之内1	II区		
15	绳文土器	深鉢	横位刻み隆縫またぐ向縫隙に円形剥突もつ刻み隆縫。					縫之内2	II区		
16	弥生土器	壺	斜行刻み走縫。					I区			
17	绳文土器	口付土器	幾文Rし沈縫。					縫之内2	IV区		
18	绳文土器	深鉢	沈縫区画内に幾文R充填。					鶴名寺	II区		
19	绳文土器	深鉢	斜行沈縫。瓣状形の沈縫。					中南後半	III区		
20	绳文土器	深鉢	車下らる沈縫。斜行沈縫。					中南後半	I区		
21	绳文土器	深鉢	2条の横縫隙沈縫内に幾文R。					縫之内2	IV区		
22	绳文土器	深鉢	網代型。2本越2本潜り。素材細い。底縫10.4。					後期前半	I区 IV区 H 495区		
23	绳文土器	深鉢	網代型。2本越2本潜り。素材細い。底縫(11.0)。					後期前半	III区		
24	绳文土器	深鉢	網代型。2本越2本潜り。肩下部斜行沈縫。底縫(8.0)。					後期前半	IV区		
25	绳文土器	深鉢	網代型。2本越2本潜り。底縫(10.0)。					後期前半	I区		
26	绳文土器	土製品	網代型。外面で質實する丸もつ。底辺4.7 窄辺3.8 厚さ0.6。					後期	IV区		
27	绳文土器	口付土器						後期前半	廣土		
28	绳文土器	土製品	土盤片円板。範型深鉢脚部。焼成後骨孔の1孔あり→敲打痕。研磨痕。長縫5.8 窄縫5.1 厚さ0.9。					後期前半	II区		
29	绳文土器	土製品	土盤片円板。深鉢脚部。敲打痕。研磨痕。輪廓状工具による沈縫。径4.2 厚さ1.2。					鶴名寺	IV区		
30	绳文土器	土製品	土盤片円板。深鉢脚部。敲打痕。無文。厚さ0.7。					後期前半?	IV区		
31	绳文土器	土製品	土盤片円板。深鉢脚部。敲打痕。無文。底大幅4.2 厚さ1.0。					後期前半?	I区		
34	绳文土器	深鉢	底縫7.0。					後期?			
35	绳文土器	土製品	土盤片円板。壁脚部。剥離痕。敲打痕。表面赤色塗装。					破片実測	カマド		
36	弥生土器	土製品	土盤片円板。底脚部。敲打痕。表面赤色塗装。					破片実測	III区		
37	弥生土器	壺	内面ヘラミガキ。外邊 跡留斑状。					II区			
No.	種	材	最高	最大幅	底大周	壁 大 厚	高さ(厚)	所 見		出土地點	
38	打製石斧		<6.8>	<7.2>	<1.1>	<61.76>		上部-左側欠損。刃部に巻減。			
39	麻石		6.5	3.7	2.0	73.40		全体にすり(同側面)。	覆土		
40	磨石		14.8	13.1	3.8	1208.31		被熱めり(裏面は被熱による剥離と思われる)。	No.3		
41	砾石?		17.2	14.6	4.2	1590.60		周囲に敲打痕。正面にすり面。正面に条痕。砾石として使用か。	No.2		

遺物は、1の口縁部に最大径があり胴長の土師器壺、2の土師器多孔有する壺、4の須恵器壺蓋模倣の土師器杯、3土師器壺、39・40の磨石、41の砥石、多量の混入遺物縄文時代後期前半の土器(5~34)、弥生時代後期甕(37)、打製石斧(38)、土製品縄文時代後期の土器片円板(35)・弥生時代後期の土器片円板がある。カマド内から獸類四肢骨の焼骨破片、覆土から炭化したモモの破片1/2~1/3個分が出土した。本址は少ない遺物だが、古墳時代後期-7世紀代とみて大過ないであろう。

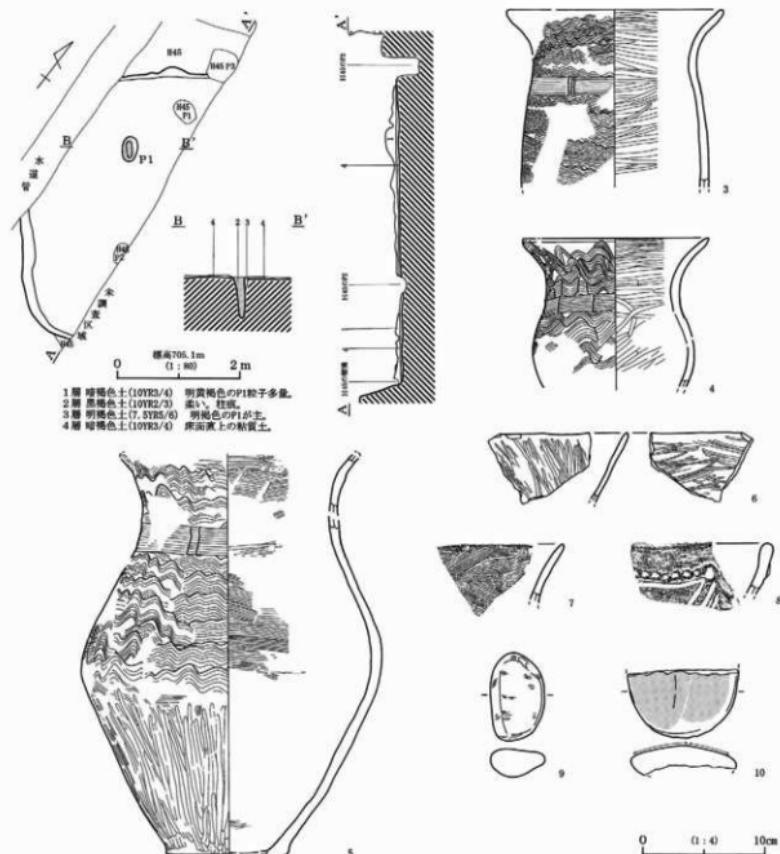
(51) H51号住居址

み-39・40 G r にあり覆土大半がH45に切られる。



第123図 H51号住居址(1)

炉は調査範囲内には、検出されない。主柱穴P1は、五平状の柱が考えられる。床面は堅く平坦であり、弥生時代後期のH11・H12・H20・H27・H28・H30・H33・H35に見られた暗褐色の粘質土が、床面



第124図 H51号住居址(2)

第76表 H51号住居址出土遺物観察表(1)

(cm·g)

No.	種別	断面	口径(径)	底径(幅)	高さ(厚)	成形・調理・文様		推定物()	残存部<>丸底・圓窓	出土位置
						内面	外面			
1	弥生土器	杏	-	4.2	<8.1>	ヘラミガキ	三刀ギ。赤色塗彩	完全実測	床	
2	弥生土器	杏	19.8	-	<13.0>	赤色塗彩	櫛指T字文→赤色塗彩	完全実測	床	
3	弥生土器	杏	(19.2)	-	<14.1>	ヘラミガキ	櫛指波文→櫛指兼状文	回転実測	ホリ方 H45N	
4	弥生土器	杏	15.1	-	<12.8>	ヘラミガキ	櫛指輪模文→櫛指波文	完全実測	Nホリ方 床	
5	弥生土器	杏	(19.6)	10.1	<33.1>	ハケメ削盤→口縁へラミガキ	櫛指波文→櫛指兼状文→ハケメ→ミガキ	完全実測	床 H45 Nホリ方	
6	弥生土器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	壁土	

H51号住居址出土遺物観察表(2)

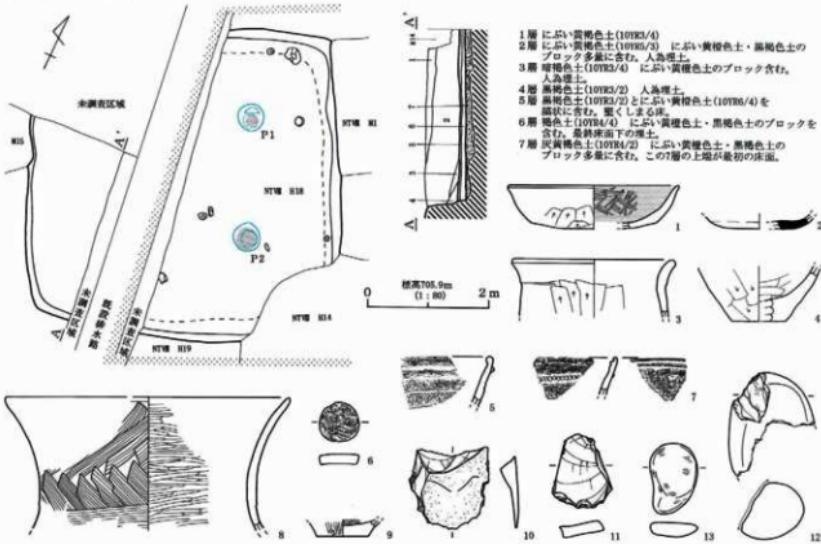
(cm·g)

No.	種別	器種	所見	備考	出土位置
7	弥生土器	縄文斜走文。		後期	H51床
6	萬字土器	波状口縁。波頂部降帶の窓孔から口縁に沿って円形刺突陣帶 その下をなぞる沈線 3条の斜位沈線。		縄之内1	H51床
No.	種別	器種	最大径 最大幅 最大厚 重量	所見	出土位置
9	磨石	7.2 4.5 2.3 109.73	全体にすり。		P2
10	磨石	<5.6> <9.0> <2.0> <120.76>	上部裏面欠損。正面にすり面。		床

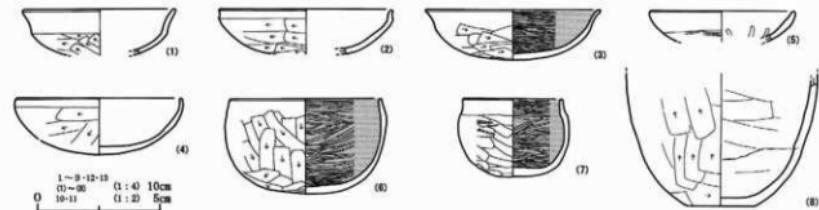
直上に張り付く。床下の掘方ではない。

遺物は、壺(1・2)・壺(3～5・7)・鉢(6)の弥生土器、磨石(9・10)、本址に伴わない縄文後期壺之内1式深鉢片(8)がある。2の赤彩壺は、頸部に横描T字文が施される。3～5の壺は口縁部と肩部横描波状文後頸部横描籠状文が施される。7の壺には、横描斜走文が施される。6の鉢は、無彩。これらの遺物から本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

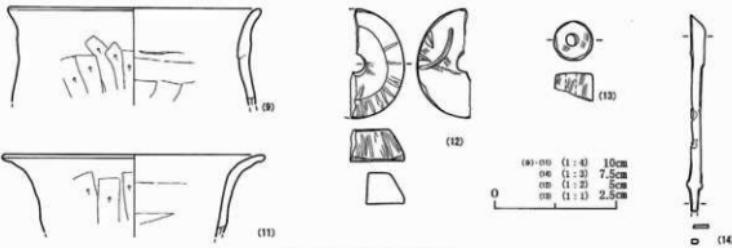
(52) H52号住居址



()は、西近津遺跡VのH18号住居址出土遺物



第125図 H52号住居址(1)



第126図 H52号住居址(2)

第77表 H52号住居址出土遺物観察表

(cm·g)

No.	種別	器種	法 異			成形・調製・文様		推定値()	残存値()	< > 丸底	備考	出土位置
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面					
1	土師器	环	(14.0)	-	<3.4	ヘラミガキ、黒色処理	口縁部ココナデ→ヘラケズリ	回転実測	壁土			
2	須恵器	环	-	(6.0)	<1.2	ロクロナデ、火だしき痕	ロクロナデ、底面回転糸切り。火だしき有	回転実測	壁土			
3	土師器	壺	(13.4)	-	<4.7	ヘラミガキ	ヘラケズリ	回転実測	壁土			
4	土師器	壺	-	(4.4)	<4.5	ヘラナナデ	ヘラケズリ	回転実測	壁土			
5	弥生土器	壺	(23.8)	-	<10.7	ヘラミガキ	櫛指斜走文→櫛指斜走文	回転実測	ホリ方	ホリ32		
9	弥生土器	壺	-	4.2	<1.4	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	壁土			
5	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位剥み隆線。洗綫内に縄文LR先端。					壁之内2	壁土			
6	縄文土器	土器品	土器片円板。深鉢鉢部片。縄文LR。研磨痕。徑3.3 厚さ0.8。					後削削半	壁土			
7	縄文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位剥み隆線。内面 口縁に沿って洗綫。					壁之内2	ホリ方			
No.	器種	材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 見				出土位置	
10	削片		3.4	3.2	0.7	5.85	自然面の残る削片。				壁土	
11	二次加工の ある削片		3.0	2.4	0.5	4.35	下側部に二次加工。				壁土	
12	敲石		<8.5>	<6.9>	<4.9>	<223.99>	下部欠損。上部に衝打痕。				ホリ方	
13	磨石		5.8	3.9	1.3	29.68	熱感有り(裏面赤化)全体にすり。				壁土	

む-32-33 G r にあり、M15に切られ、H26を切る。本址は、東隣で調査された西近津遺跡VIIのH18号住居址と同一住居址である。カマドは排水路内か未調査区にあろう。柱痕が確認された。主柱穴P 1・P 2の桁行き2.0mを測る。平坦で堅く締まる床が2面確認された。西近津遺跡VIIの調査分では、住居の拡張が認められたが、本調査分ではみられない。覆土第2～4層は人為埋土である。

遺物は、土師器環・壺、敲石、磨石、本址に伴わない縄文時代後期土器・石器、弥生時代後期の壺、須恵器環がある。西近津遺跡VIIの調査分では、須恵器環蓋模倣の土師器環・半球状の土師器環・分厚い土師器壺・内面黒色処理される土師器鉢等がある。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。



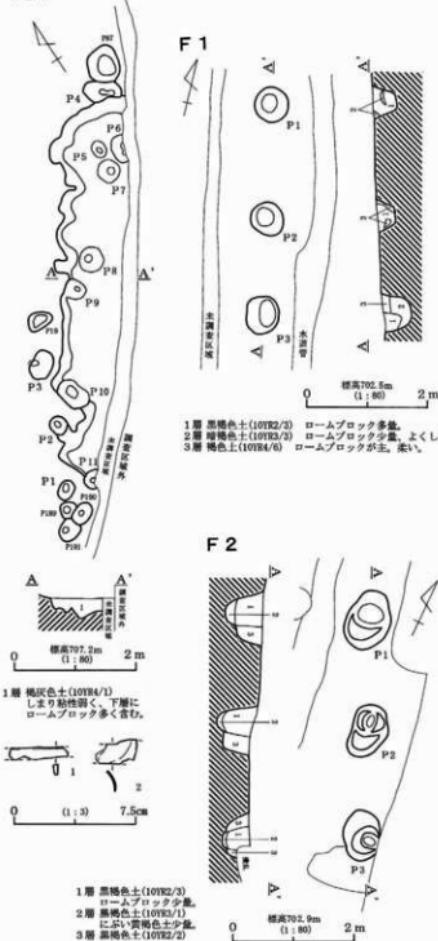
H45号住居址出土遺物

第2節 穴穴状遺構

(1) T a 1号穴穴状遺構

た・ち-17・18G rで検出され、大半が調査区域外にある。隅丸長方形を呈するとみられる。南北軸長6.4m東西軸長1.0m壁高0.35mで、南北軸方位はN-28°-Eを指す。ピットは遺構内から6個(P5~P8)深さ20~32cm、壁柱穴が5個(P2・P4・P9~P11)深さ28~42cm、外柱穴が7個(P1・P3・P19・単独P87・単独P189~191)深さ14~46cmを測る。床面は脆弱である。遺物は、1の両端を欠損する刀子と2の器種不明鉄器

Ta 1



第3節 据立柱建物址

(1) F1号据立柱建物址

ひ-71G rから検出され、西側調査区域外に伸びる側柱式建物址か柱列か不明。柱間180cm、柱穴径60cm深さ40~48cmである。軸方位はN-10°-W、出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明。

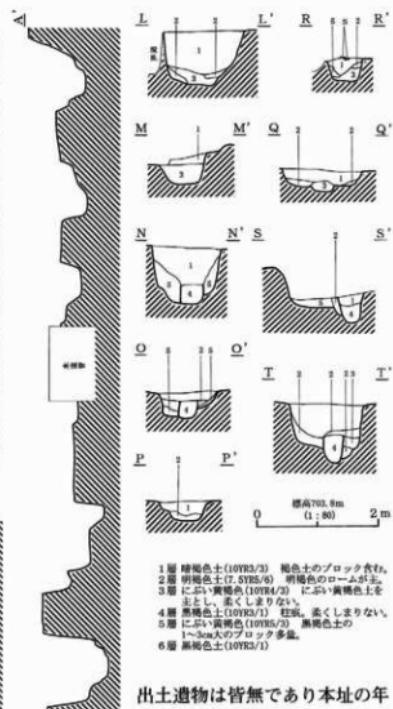
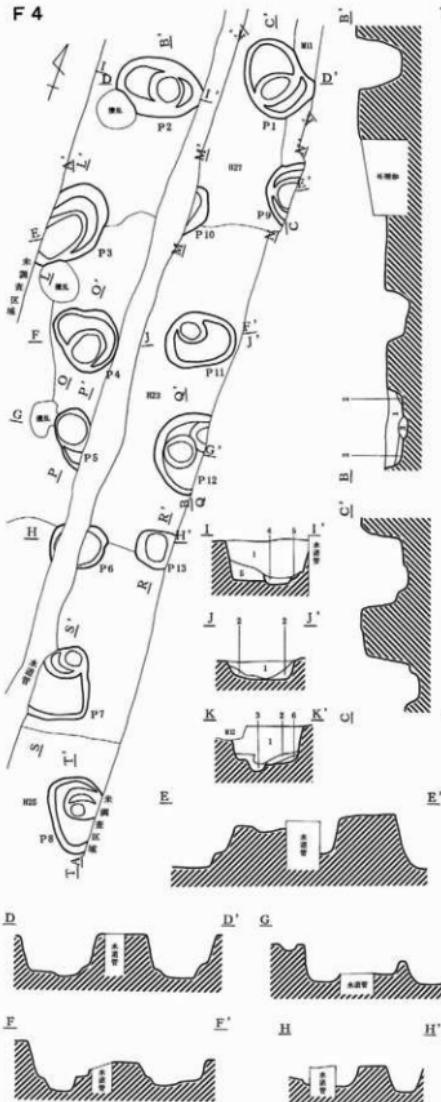
(2) F2号据立柱建物址

ひ-67・68G rから検出された。東側調査区域外に伸びる側柱式建物址か柱列か不明。

軸方位はN-25°-W、H14を切る。柱間180cm・200cm、P1~P3の柱痕径40cmである。

第127図 Ta 1号穴穴状遺構・F1号・F2号・F3号据立柱建物址

F 4



出土遺物は皆無であり本址の年代は不明。

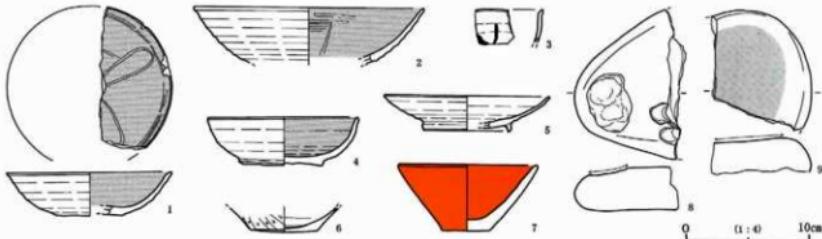
(3) F3号柱立柱建物址

ひ-54-55 G r から検出された。東側調査区域外に伸びる側柱式建物址。軸方位は、N-8°-Wで、M11・M12に切られ、H29・H30を切る。柱間は桁行きが160cm 梁行きが180cm。出土遺物は皆無であり、本址の年代は不明。

(4) F4号柱立柱建物址

ひ-58~61・ふ-58~60 G r から検出された。H23・H25・M11に切られH27・H31・H32を切る。調査された範囲で南北は6間の12m、東西2間の3.6m以上の大型の縦柱式建物址である。柱穴の平面形は楕円形が主で、長軸は100cmを越え深さも多くの100cmを越える。南北軸方位はN-20°-Wを指す。

第128図 F4号柱立柱建物址(1)



第129図 F4号掘立柱建物址(2)

第78表 F4号掘立柱建物址出土遺物観察表

No.	種類	西縁	口径(内)	底径(外)	壁高(厚)	成形・調節・文様		測定値(存続<>丸底、 側面)	備考	出土位置
						内面	外面			
1	土師器	环	(13.4)	(5.2)	3.5	略凹。黑色處理	ロクロナデ→回転糸切り	回転糸切	P13 U60	
2	土師器	环	(18.6)	-	<4.6	ヘラミガキ→黑色處理	ロクロナデ	回転糸切	P13	
3	土師器	环	-	-	-	ロクロナデ	墨書きあり	墨書きあり	P7	
4	土師器	环	12.4	4.0	4.0	ロクロナデ→黑色處理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	P12	
5	灰釉陶器皿	皿	(13.6)	(7.2)	2.9	ロクロナデ→施釉	ロクロナデ→底部回転糸切り後高台貼付→施釉	回転糸切	P12	
6	土師器	盤	-	(5.5)	<2.0	ヘラナデ	側面ヘラケズリ	回転糸切	P6	
7	弥生土器鉢	鉢	11.5	4.1	5.4	ミガキ→赤色透影	側面ミガキ→赤色透影	完全実測	P3	
No.	種類	東縁	材	最大径	底径	壁厚	重 量	所見		出土位置
8	磨石	-	<12.3>	<9.2>	<3.5>	<57.630>	被熱あり(正面黒化)正面は被熱による剥離か?右側欠損。		P13	
9	磨石	-	<9.9>	<2.8>	<26.63>		被熱あり(正面黒化)左側一面欠損。正面にすり面。		P13	

柱痕は30~40cmで太い柱が想定される。遺物は、底部回転糸切りで内面黒色処理される土師器環(1·2·4)、判読不明の墨書き土師器環(3)、土師器甕(6)、

灰釉陶器皿(5)、弥生土器鉢(7)、敲石(8·9)がある。これらの遺物と重複関係から本址は、平安時代9世紀前半に位置づけられる。

(5) F5号掘立柱建物址

み·む-37·38G r から検出され、H32·P185を切る。東西調査区域外のどちらかに伸びる2間×2間の総柱式建物址であろう。南北軸方位はN-8°-Wを指す。南北柱間は180cmと220cm東西柱間は230cmを測る。時代が判明する出土遺物はない。

第4節 土坑

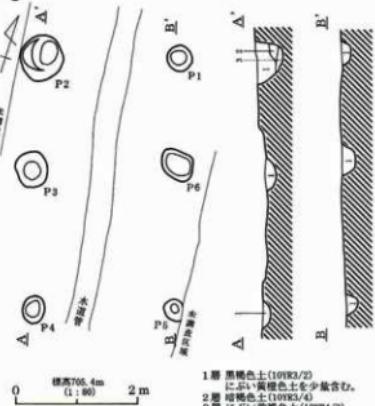
D1号土坑 さ-7G r にあり、長軸長57cm短軸長54cm壁高は33cm長軸方位はN-70°-E。平面形円形、断面鍋底。出土遺物は皆無時期は不明である。

D2号土坑 え·お-4G r にあり、長軸長236cm検出短軸長90cm壁高72cm長軸方位はN-30°-E。

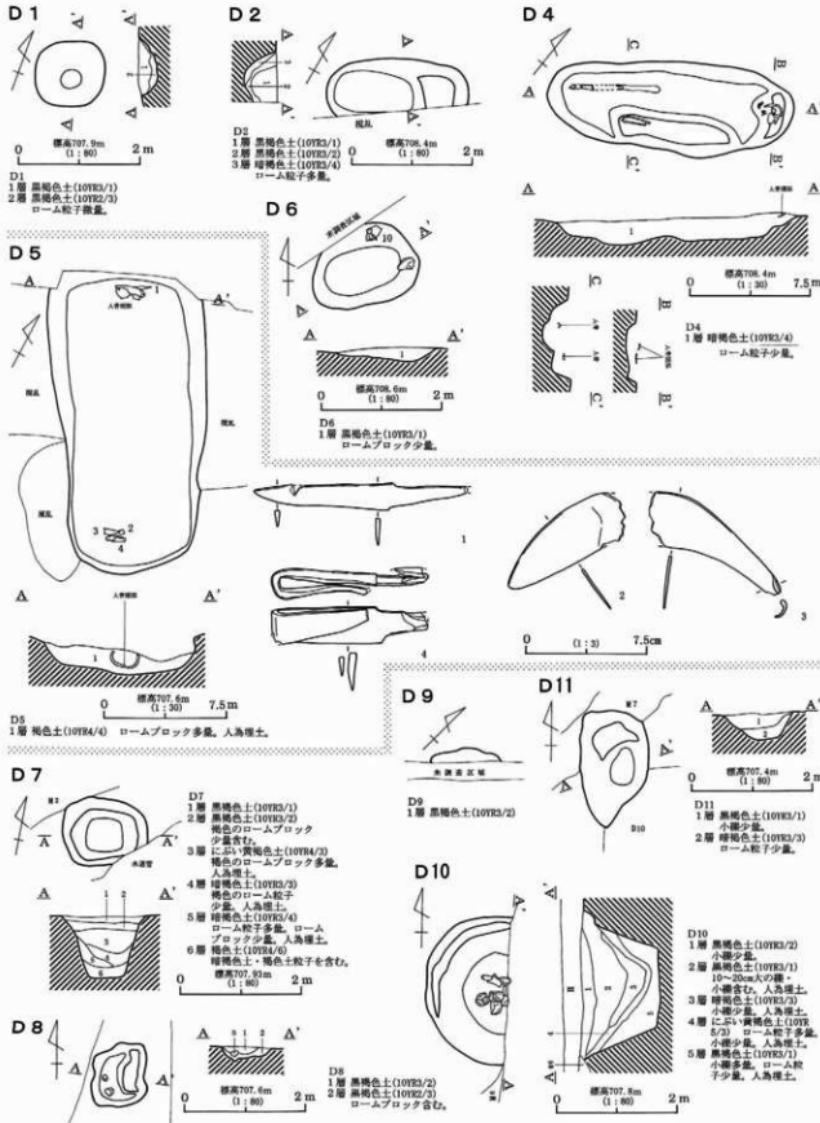
平面形円形、断面鍋底。出土遺物は、縄文時代壙之内2式深鉢片·後期前葉の土器片円板、土師器小片があるが、時期は比定できない。

D4号土坑 う-3G r にあり、長軸長150cm短軸長58cm壁高は18.5cm長軸方位はN-55°-E。平面形椭円形、断面鍋底。成年から壮年前半とみられる人骨が、左側を上にした横臥状態で埋葬されていた。女性とみられるが断定できない。出土遺物皆無のため、時期は不明。

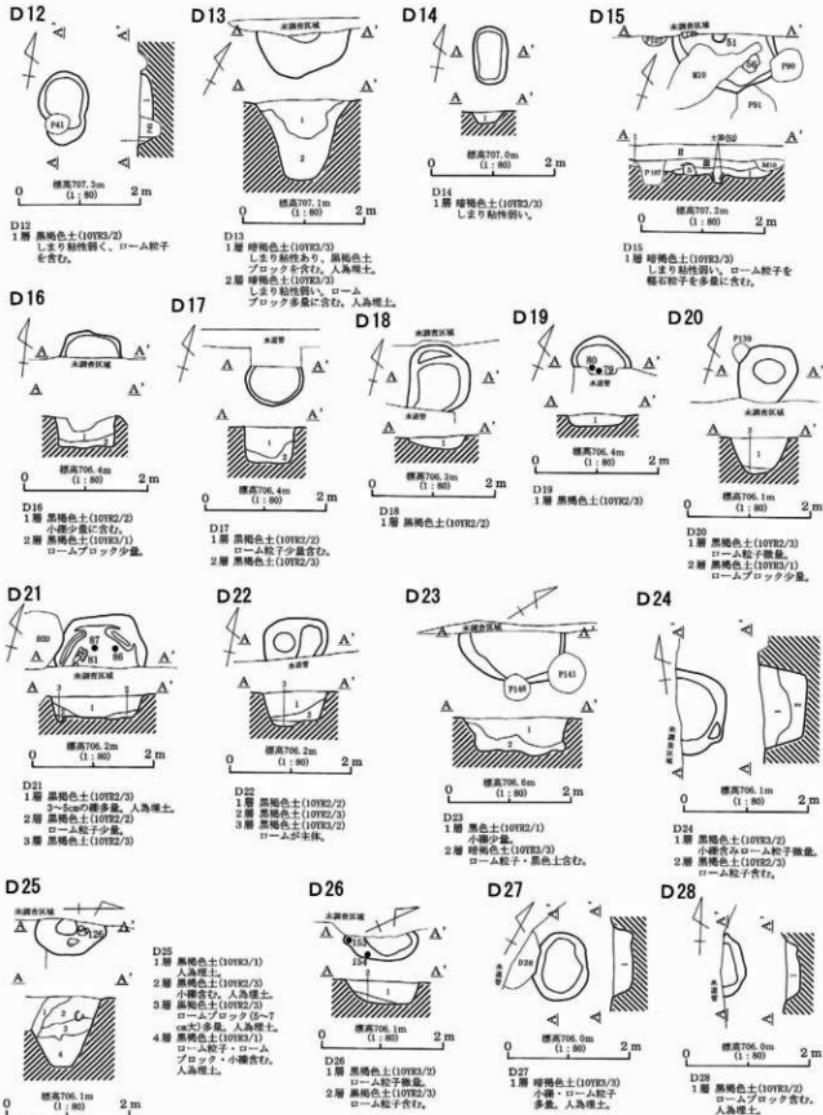
D5号土坑 け-6G r にあり、検出長軸長183cm短軸長92cm壁高は78cm長軸方位はN-30°-Wを指す。



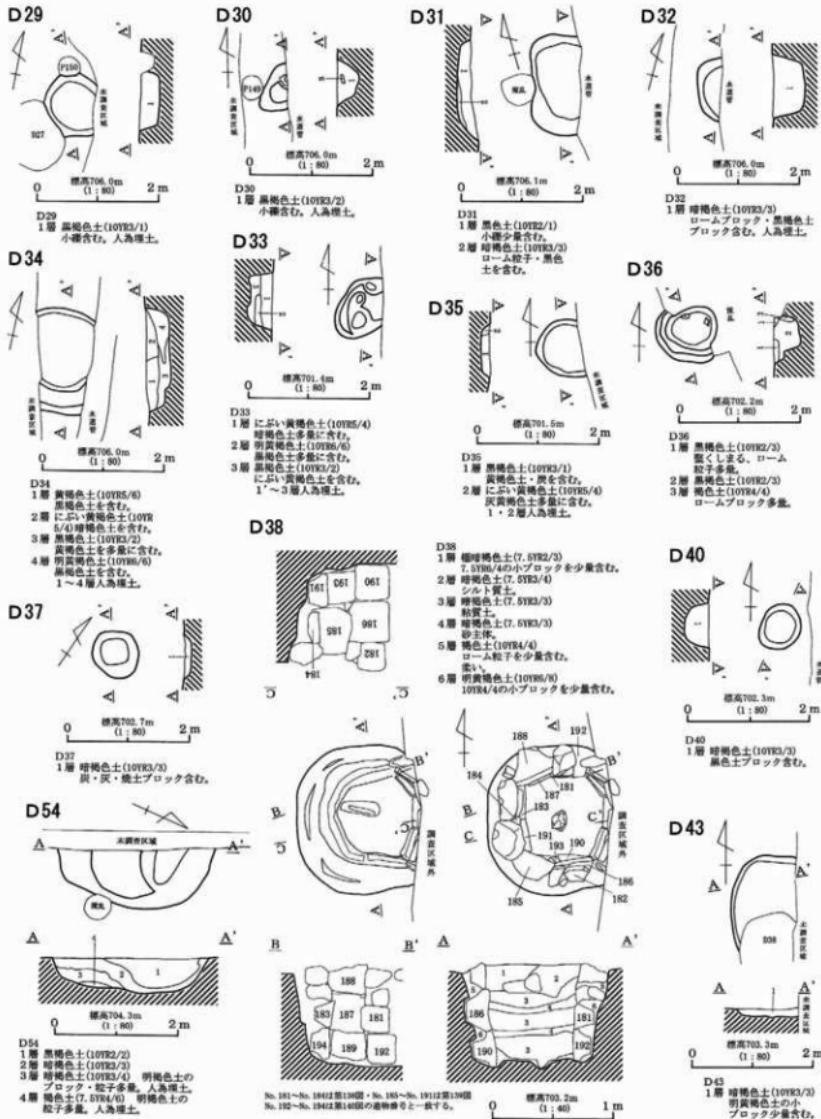
第130図 F5号掘立柱建物址



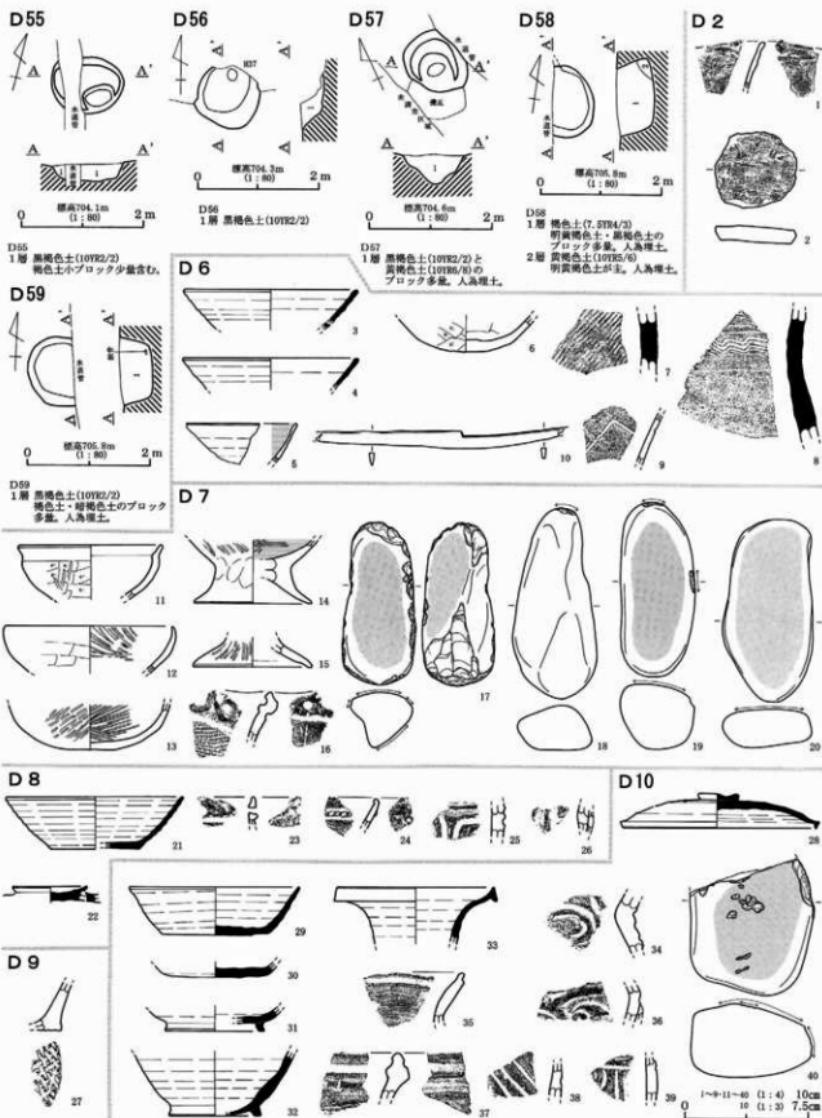
第131図 D1・D2・D4・D5・D6・D7・D8・D9・D10・D11及びD5号土坑出土遺物

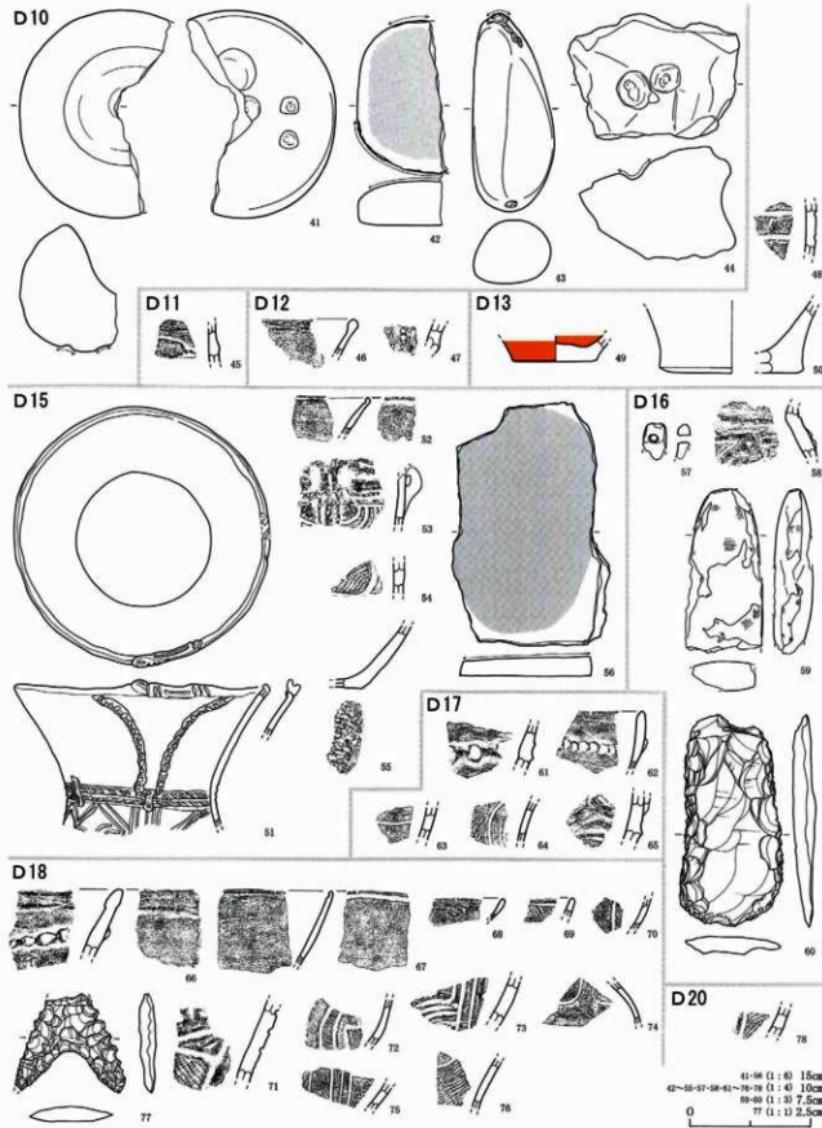


第132図 D12-D13-D14-D15-D16-D17-D18-D19-D20-D21-D22-D23-D24-D25-D26-D27-D28号土坑



第133図 D29-D30-D31-D32-D33-D34-D35-D36-D37-D38-D40-D43-D54号土坑

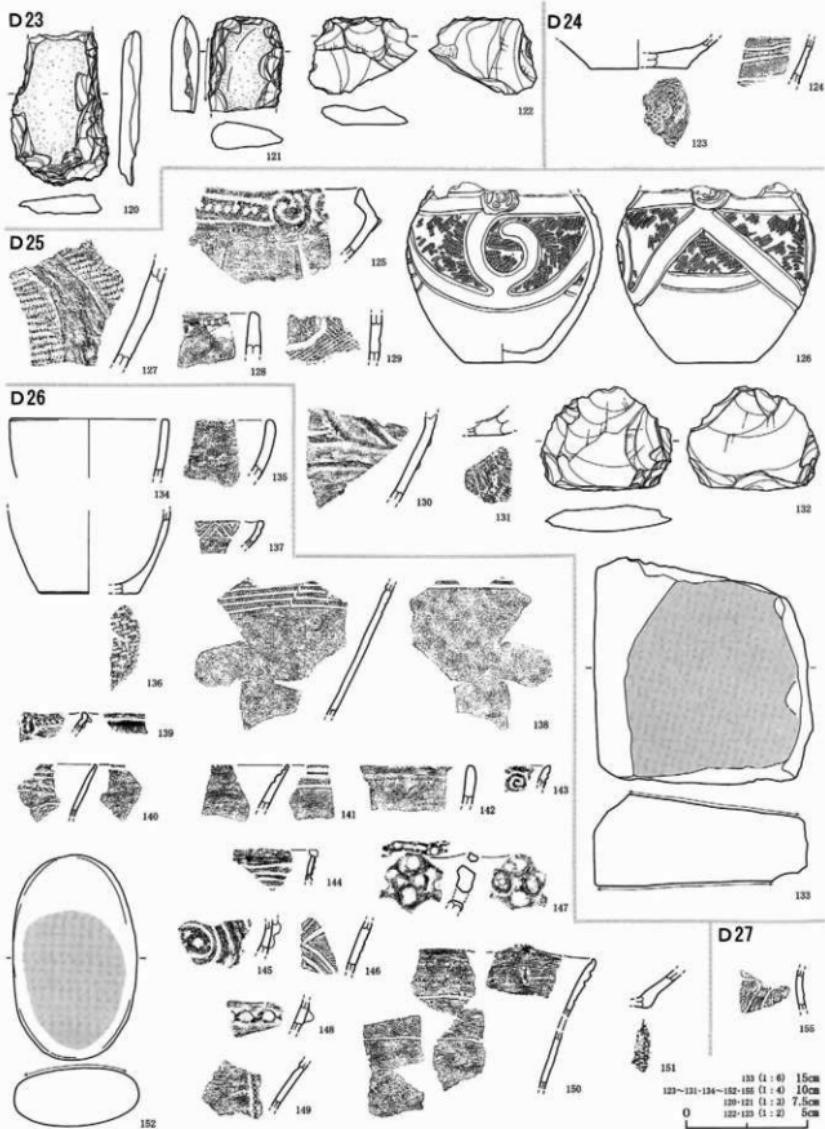




第135圖 D10·D11·D12·D13·D15·D16·D17·D18·D20號土坑出土遺物

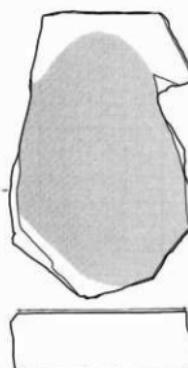
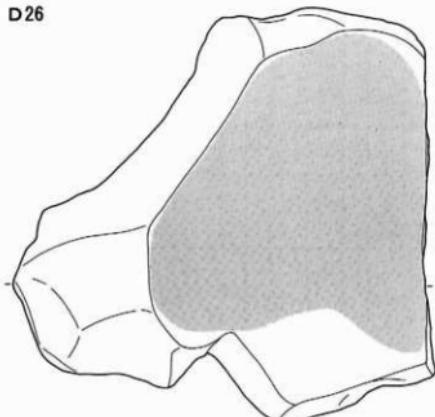


第136图 D 19·D 21·D 22·D 23号土坑出土遗物

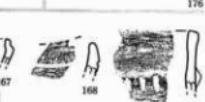
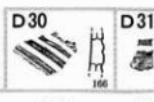
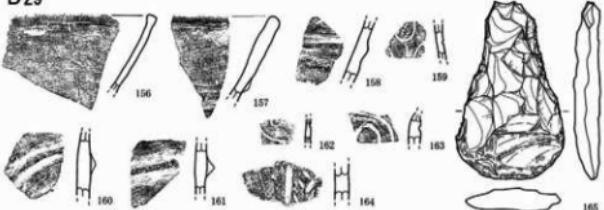


第137图 D23·D25·D26·D27号土坑出土遗物

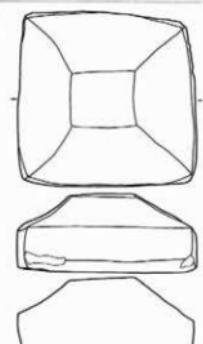
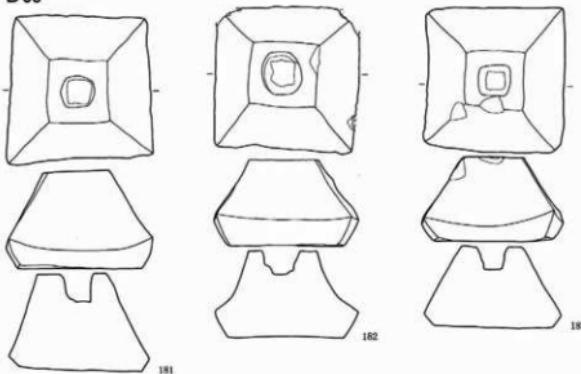
D 26



D 29



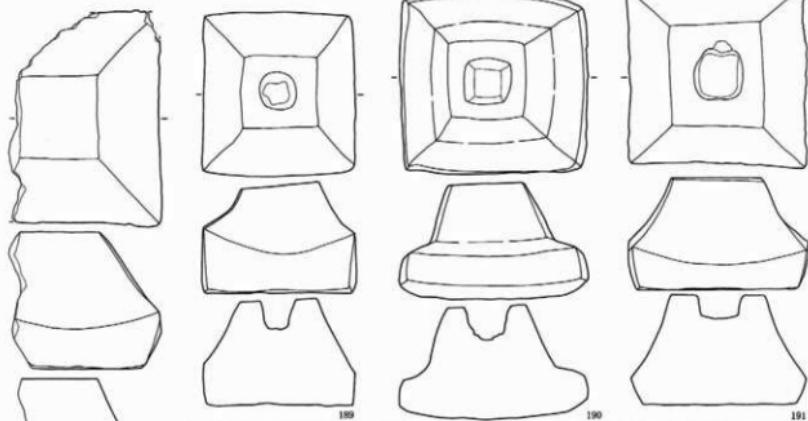
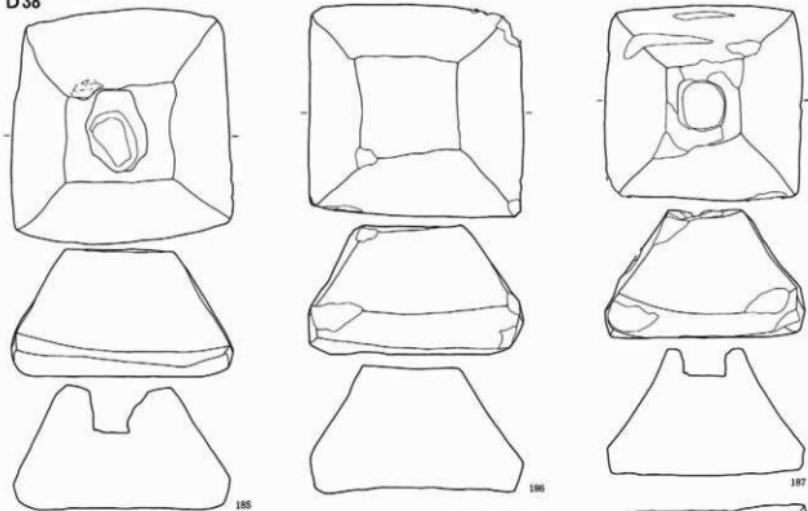
D 38



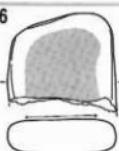
181~184 (1 : 8) 20cm
 185~186~187 (1 : 6) 15cm
 188 (1 : 4) 10cm
 189 (1 : 3) 7.5cm

第138図 D 26・D 29・D 30・D 31・D 35・D 38号土坑出土遺物

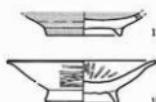
D38



D36

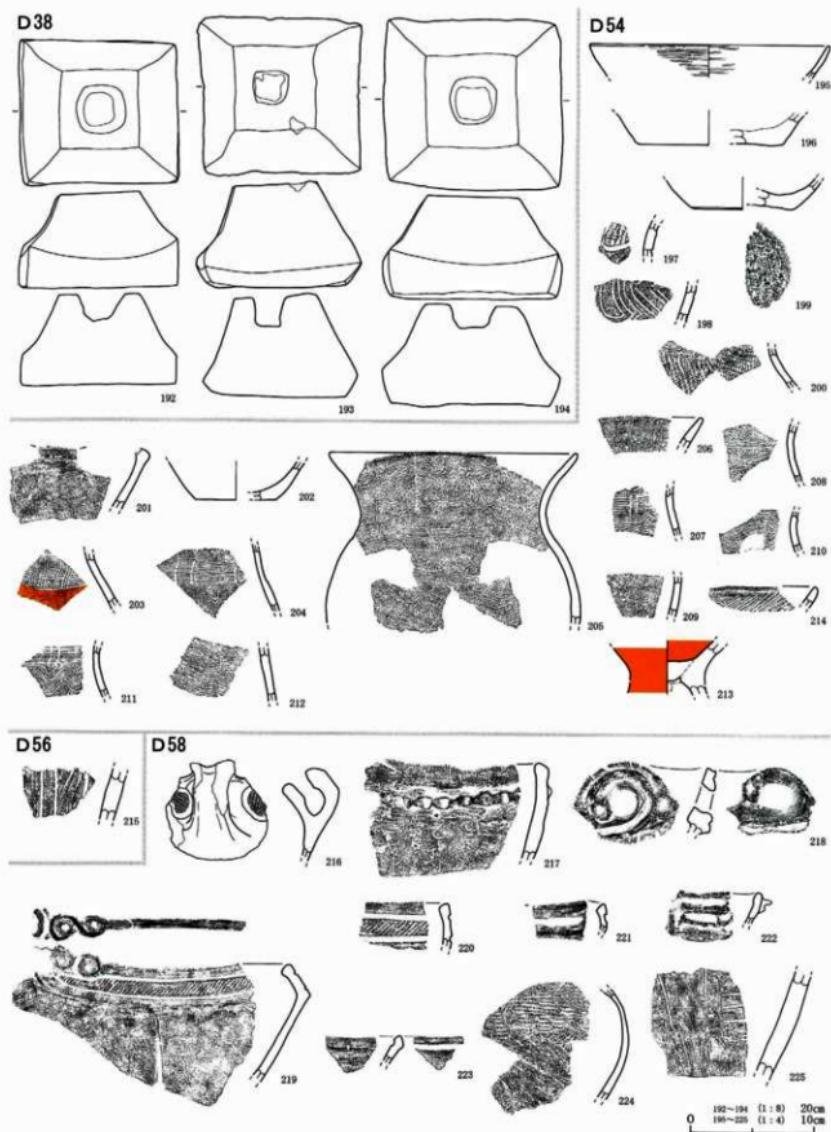


D37



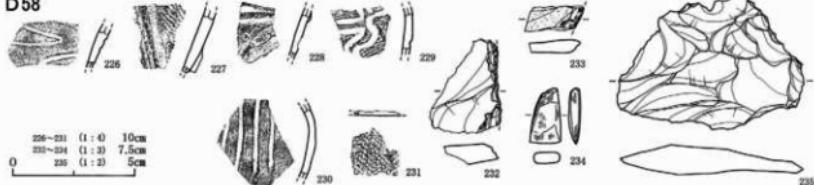
O 185~191 (1 : 8) 20cm
177~180 (1 : 4) 10cm

第139图 D36-D37-D38号土坑出土遗物



第140図 D38-D54·D56·D58号土坑出土遺物

D58



第141図 D58号土坑出土遺物

平面形長方形、断面逆梯子形。底面北端から8~10歳の小児とみられる頭蓋骨が、底面に密着した刀子(第131図1)の直上から検出された。他の部位は遺存しないが、頭蓋骨の位置と底面南端から出土した刀子(第131図4)と鎌(第131図2-3)の存在と遺構の規模から、全身の埋葬が想定される。1の刀子は切先を西に刃部を北に向いている。4の刀子は茎部も刃部も中央から折り曲げられ、切先を東に刃部を北に向いている。2・3の鎌は同一の個体で、刃部中央から折り切りされたような断面を持ち、同一面を意識し刃部を北に向いている。

1および4の刀子は、両側で下部の闊が茎から垂直に立ち上がらず角度を有する。鎌は、湾曲が強く、三日月状の平面形である。この3点の鉄器の特徴から本址は、小林眞寿の金属器・金属製品編年(2005聖原)奈良・平安時代II期~8世紀第2四半期に位置づけられる。

D6号土坑 い-1G r にあり、7世紀代のH5を切る。長軸長182cm短軸長128cm壁高は24cm長軸方位はN-80°-Eを指す。平面形楕円形、断面鍋底。遺物は、土師器壺・甕、須恵器壺(第134図3・4)・甕、縄文後期前葉土器片、刀子(10)が出土した。土師器壺・須恵器壺はロクロ成形、5は内面黒色処理される。平安時代9世紀代であろうか。

D7号土坑 く-6G r にありM2に切られ、H6を切る。長軸長140cm短軸長108cm壁高は120cm長軸方位はN-80°-Eを指す。平面形長方形、断面逆梯子形。覆土3~5mは人為埋土。遺物は、半球状の土師器壺(12-13)、土師器高壺(14-15)、敲石(17~19)、磨石(20)、縄文後期前葉深鉢片、最下層の第6層から獸骨が出土した。獸骨はウマの左橈骨・左尺骨、ニホンジカの角、獸類の焼骨(肋骨・四肢骨)・非焼骨(四肢骨)。本址の時期は、8世紀代であろうか。

D8号土坑 た-12G r にあり、長軸長106cm短軸長90cm壁高は30.5cm長軸方位はNを指す。平面形は方形、断面逆梯子形。遺物は、須恵器の底部手持ちヘラケズリの壺(21)・皿状のつまみを持つ蓋(22)、縄文時代堀之内式深鉢がある。本址の時期は、8世紀代前半であろう。

D9号土坑 せ-10G r で検出、大半が調査区域外である。検出長軸長116cm短軸長22cm詳細不明である。

D10号土坑 そ-14G r にあり、M6に切られ、D11・P30・P32を切る。長軸長244cm検出短軸長130cm壁高は132cm軸方位はNを指す。平面形は円形、断面逆梯子形。第2~5層は人為埋土。遺物は、須恵器の底部回転ヘラケズリの壺(29-30)・有台壺(31)・蓋(28)・長頸壺(32)、凹石(41-44)、磨面持つ敲石(40-42・43)、第2層からウマ/ウシの四肢骨破片・獸類の四肢骨破片、縄文時代堀之内式深鉢片が出土した。本址の時期は、8世紀代前半であろう。

D11号土坑 そ・た-14G r にあり、D10・M7に切られる。残存長軸長188cm短軸長112cm壁高は47cm長軸方位はN-30°-Wを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。時期は、8世紀代前半以前。

D12号土坑 た-16-17G r にあり、P41に切られる。長軸長118cm短軸長80cm壁高は26cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。時期は、遺物小片少量で不明。

D13号土坑 つ-8G r にあり、P41に切られる。長軸長118cm短軸長80cm壁高は26cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は円形か、断面逆梯子形。覆土第1-2層人為埋土。遺物は、縄文時代後期前葉深鉢片・弥生時代後期鉢片があるが、時期は、比定できない。

D14号土坑 て-19G r にあり、長軸長96cm短軸長56cm壁高は23cm、長軸方位はN-10°-Wを指す。平面形は長方形、断面逆梯子形。出土遺物皆無で、時期不明。

D15号土坑 に-20G r にあり、M10・P90・P91に切られる。長軸長166cm検出短軸長56cm壁高は22.5cm、長軸方位はN-55°-Wを指す。平面形は楕円形か、断面逆梯子形。底面円形の小ピットに第135図-51の深鉢が正位に埋設されていた。遺物は、縄文時代堀之内1式の深鉢51~53、後期前葉の深鉢54~55、台石(56)がある。本址は縄文時代後期前葉に位置づけられよう。

D16号土坑 に-20G r にあり、長軸長100cm検出短軸長43cm壁高は51cm、平面形は楕円形か、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期初頭の把手(57)・堀之内1式の深鉢片、磨製石斧(59)、打製石斧(60)がある。本址は縄文時代後期前葉に位置づけられよう。

D17号土坑 ふ-22G r にあり、長軸長95cm残存短軸長76cm壁高は57cm、軸方位はN-70°-Eを指す。平面形は円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期前葉・前半の深鉢片が出土した。本址の時期は、不確実であるが縄文時代後期前葉に比定されようか。

D18号土坑 ふ-~22G r にあり、残存長軸長110cm短軸長98cm壁高は25.5cm、軸方位はN-21°-Wを指す。平面形は不整楕円形、断面鍋底。遺物は、縄文時代中期後半、堀之内式の深鉢片、石鎌(77)が出土した。本址の時期は、不確実であるが縄文時代後期前葉に比定されようか。

D19号土坑 ふ-22G r にあり、長軸長100cm残存短軸長52cm壁高は18cm、軸方位はN-75°-Eを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代堀之内1式の深鉢(79)・(80)が出土した。本址の時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D20号土坑 ま-23G r にありP139に切られ、D21を切る。検出長軸長95cm短軸長94cm壁高は63cm、長軸方位はNを指す。平面形は楕円形、断面逆梯子形。遺物は、縄文時代後期前葉の深鉢片が出土した。本址の時期は、縄文時代後期前葉のD21より後出す。

D21号土坑 ま-23G r にありD20に切られる。長軸長150cm壁高は45cm、平面形は不整多角形、断面逆梯子形。壁際に深さ8cmの溝がみられる。覆土第1層は人為埋土。遺物は、縄文時代後期前半の粗製深鉢(81)等の深鉢片、打製石斧(97~98)がある。本址の時期は、縄文時代後期前半に比定されよう。

D22号土坑 ま-23G r にあり長軸長106cm検出短軸長64cm壁高は66cm、平面形は円形？断面テラスを持つ逆梯子形。軸方位はN-75°-Eを指す。縄文時代後期前葉深鉢片少量、時期は比定できない。

D23号土坑 む-~24G r にあり、P141・P146に切られる。長軸長174cm検出短軸長76cm壁高は61cm、平面形は円形？断面凹凸した逆梯子形。長軸方位はN-25°-Eを指す。遺物は沈線部分に赤彩がみられる縄文時代中期後半浅鉢(107)、縄文時代後期前葉深鉢片、打製石斧(118~121)、剥片(122)がある。時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D24号土坑 め-26G r にあり、P147を切る。長軸長127cm検出短軸長80cm壁高は74cm、平面形は円形、断面逆梯子形。長軸方位はN-25°-Eを指す。縄文時代後期前葉深鉢片少量、時期は比定できない。

D25号土坑 め-26G r にありH7に切られる。残存長軸長150cm検出短軸長58cm壁高は118cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。長軸方位はNを指す。覆土第1~4層は人為埋土。遺物は、125縄文時代堀之内1式の深鉢が3層上部から出土。渦巻き文を両側から抱き込むように三角形状の縄文部を配し、渦巻き文下端が閉じている。縄文時代称名寺式・堀之内1式等の深鉢片、台石(133)、剥片(132)がある。本址の時期は、縄文時代後期前葉に比定されよう。

D26号土坑 め-24-25G r にあり、長軸長124cm検出短軸長42cm壁高は44cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。長軸方位はN-22°-Eを指す。遺物は、縄文時代称名寺式・堀之内1式・堀之内2式・加曾利B1式等の深鉢片、磨石(152)、台石(153-154)がある。本址の時期は、縄文時代後期中葉であろうか。

D27号土坑 む-28G r にありD28に切られD29を切る。長軸長117cm検出短軸長91cm壁高は38cm平面形は楕円形断面逆梯子形。長軸方位N-25°-W。縄文時代後期前葉深鉢片少量あるが時期は不明。

D28号土坑 む-28G r にありD27を切る。長軸長106cm検出短軸長91cm壁高は38cm、平面形は長方形？断面逆梯子形。遺物は縄文土器片少量あるが、時期は不明である。

D29号土坑 む-28G r にありD27・P150に切られる。長軸長107cm検出短軸長85cm壁高は39.5cm、

平面形は円形？断面逆梯子形。長軸方位N-15°-W。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文土器片・打製石斧(165)あるが、時期不明である。

D30号土坑 め-28G rにありP149に切られる。検出長軸長60cm短軸長53cm壁高は39cm、平面形は楕円形、断面テラス持つ逆梯子形。長軸方位N-42°-E。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文後期前半深鉢片少量あるが、時期不明である。

D31号土坑 む-28G rにあり、長軸長164cm検出短軸長85cm壁高は37cm、平面形は長方形？断面逆梯子形。長軸方位N-17°-E。遺物縄文中期後半～後期前葉の土器片少量あるが、時期不明。

D32号土坑 め-28G rにあり、長軸長108cm検出短軸長40cm壁高は55cm、平面形は円形？断面逆梯子形。覆土は、人為埋土。遺物は、縄文後期粗製深鉢片少量あるが、時期不明である。

D33号土坑 は-77G rにあり、検出長軸長113cm短軸長78cm壁高は49cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形。小ピット3個あり。長軸方位N-56°-E。覆土1～3層は人為埋土。遺物は、弥生後期土器・土師器片少量あるが、時期は比定できない。

D34号土坑 ひ-77G rにあり、長軸長172cm検出短軸長90cm壁高は52cm、平面形は円形？断面逆梯子形、テラスあり。覆土1～4層は人為埋土。遺物は、弥生後期土器・土師器・須恵器片少量あるが、時期は比定できない。

D35号土坑 の-76G rにあり、検出長軸長74cm短軸長96cm壁高は18cm、平面形は楕円形？断面逆梯子形、長軸方位N-85°-E。覆土は人為埋土。遺物は内面黒色処理の土師器壺・縄文土器片少量あるが、時期は比定できない。

D36号土坑 の-76G rにあり、東部を攪乱で破壊される。H11・H15を切る。残存長軸長106cm残存短軸長92cm壁高は47cm、平面形は円形、断面テラス持つ逆梯子形。長軸方位N-65°-E。遺物は磨石(177)、弥生後期土器・土師器・須恵器片少量あるが、時期は比定できない。

D37号土坑 ひ-65G rにありH19(9世紀前半)・H20を切り、H18(9世紀後半)に切られる。長軸長78cm短軸長75cm壁高は14cm、平面形は円形、断面鍋底。長軸方位N-42°-W。炭・灰・焼土ブロック含む。遺物は土師器皿(180)等がある。時期はこれらの遺物と重複関係から、9世紀前半～9世紀後半になる。

D38号土坑 ひ-65G rにありH22・D43を切る。隅丸方形の穴の壁面に石を3～4段積んでいる土坑である。南北軸はN-5°-W。石の大半が五輪塔笠部の火輪を使用し、腹面を内側としている。東側が調査区域外で全容は見えないが、南北幅122cm深さ86cmを測る。石組みの内上幅は南北76cm(下幅64cm)、東西78cm(下幅58cm)である。石積みの間は第6層の地山の土を入れている。土坑底面は石積み底面より5cmほど高く壁充填土の第6層を貼っている。底面には西壁に接して長楕円形の33cm×11cmのピットがあり、深さ7cmを測る。土坑内の覆土は下から粘質土と砂質土が交互に堆積し、三度繰り返している。遺構から石積みに使用した五輪塔以外の遺物は出土していない。

石積みの石は五輪塔の火輪が14個、区域外に伸びる東壁面の火輪9個(東壁の石は未回収であるが五輪塔火輪を三段に積んでいる。)と併せて23個の五輪塔を使用している。石質は熔結凝灰岩が20個、軽石が3個である。他には安山岩の河原石も調整用に6個使っている。

石積みの遺構は見られるが、五輪塔の火輪のみを使用することは佐久では初見である。

土坑の壁に石積みを持つ小規模な土坑は14世紀以降に便所遺構とされるものが福井の一乗谷朝倉氏関連遺跡などで確認されている。土坑内に有機物が確認できないことから肥溜ではないと思われるが、本址は粘質土と砂質土が交互にあることから液体物を貯蔵していたものとみられる。

五輪塔は磨耗が少なく完存しており、第139図188の軽石の五輪塔が割れているのみである。これからこの五輪塔は作成されてそれほどの時間を持たず、積まれたものとみられる。笠部の最上部から軒までの稜線は曲線を描き、軒の幅は笠の高さに対し厚く、軒反りの勾配はややきつくなっている。最大幅が20～30cm未満、最大高14～18.2cmのものが14個の内6個あり、小型化の傾向が見られる。これらより16世紀頃の年代があてられようか。しかし、形態的に気になる190の軒までの稜線が折れており、笠塔婆の可能性もある。また、184の最大幅26.5cmに対し最大高13.1と高さの低いもの、

185の軒先までの稜線が直線的で軒先の反りの少ないものは古相が窺える。

D40号土坑 ふ-58G r にあり P160を切る。長軸長80cm残存短軸長68cm壁高は41cm、平面形は円形、断面鍋底。長軸方位N-40°-E。遺物は縄文・弥生後期土器、土師器片少量、時期は比定できない。

D43号土坑 ひ-62G r にあり H22を切り、D38に切られる。残存長軸長100cm検出短軸長106cm壁高は17.5cm、平面形は楕円形、断面鍋底。遺物は弥生後期土器片少量、時期は比定できない。

D54号土坑 へ-50G r にあり、検出長軸長268cm検出短軸長98cm壁高は57cm、3・4層は人為埋土。平面形は楕円形、断面鍋底。遺物は縄文後期土器片少片と弥生時代後期鉋・壺・甌高壺がある。200は、赤井戸・吉ヶ谷系の甌である。本址は、弥生時代後期箱清水式期に比定できよう。

D55号土坑 ふ-へ-49G r でH36を切る。長軸長116cm短軸長93cm壁高38.5cm、平面形楕円形、断面逆梯子形、テラス有り。長軸方位E。遺物は、縄文後期・弥生後期・土師器片少量あるが、時期は、不明。

D56号土坑 へ-49G r にあり H37に切られる。長軸長116cm短軸長93cm壁高は38.5cm、平面形は楕円形、断面逆梯子形、テラス有り。長軸方位N-20°-E。遺物は縄文・弥生土器小片があるが時期は不明。

D57号土坑 み-45G r でH43を切る。長軸長88cm短軸長82cm壁高49cm、平面形は円形、断面テラス持つ逆梯子形、長軸方位N-30°-W。人為埋土。遺物は縄文・弥生土器、土師器小片があるが時期は不明。

D58号土坑 む-33G r にあり、長軸長118cm残存短軸長68cm壁高62cm、平面形は楕円形、断面不整フラスコ状、長軸方位N-37°-W。1・2層人為埋土。出土遺物から縄文時代後期初頭に比定されよう。

D59号土坑 む-33G r にあり、長軸長113cm残存短軸長76cm壁高54cm、平面形は円形、断面逆梯子形、長軸方位N-21°-E。覆土人為埋土。遺物は縄文後期土器片少量あるが時期は不明。

第79表 西近洋遺跡IV土坑一覧表

(残存値) <検出値> (cm)

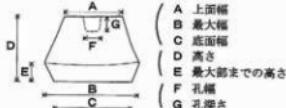
土坑名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長	短軸長	壁高	層	遺物名	検出位置	平面形	長軸方位	長軸長	短軸長	壁高	層	名	考
D1	そ7	円形	N-30°-E	57	54	33		D30	ひ28	楕円形	N-47°-E	<60>	53	39	F149に切られる。縄文後期。		
D2	そ-ひ4	長方形	N-30°-E	236	<90>	72		D31	ひ22	長方形	N-17°-E	164	<80>	32	縄文後期。		
D3	次							D32	ひ26	円形(?)	-	108	<60>	55			
D4	そ3	長方形	N-55°-E	150	58	18.5		D33	ひ27	楕円形	N-56°-E	113	78	49	チラシあり。		
D5	ひ6	長方形	N-30°-W	<183>	92	78.0		D34	ひ27	円形(?)	-	172	<90>	52	チラシあり。		
D6	ひ1	楕円形	N-80°-E	182	128	24		D35	ひ26	円形(?)	N-65°-E	96	<74>	18	縄文後期。		
D7	<6	長方形	N-80°-E	140	108	120	M21: 初引手、土師器片、縄文後期。	D36	ひ27	円形(?)	N-65°-E	<106>	<92>	47	H11-152を切る。アラスあり。想む。		
D8	た12	方形	N	106	90	30.5	M22: 初引手、土師器片、縄文後期。	D37	ひ65	円形	N-42°-W	78	75	14	H11-152を切る。アラスあり。想む。		
D9	ひ10	?	-	<116>	<22>		M23: 初引手、土師器片、縄文後期。	D38	ひ63	円形	N-5°-W	<134>	<86>	82	H2-7を切る。M23を切る。土師器片。		
D10	そ14	円形	N	244	<130>	132	M24: 初引手、土師器片、縄文後期。	D39	ひ58	楕円形	-	113	90	77	F49-50: 变更。M11に切られる。F49-50: 縄文後期。		
D11	そ14	楕円形	N-30°-W	(188)	112	47	M25: 初引手、土師器片、縄文後期。	D40	ひ58	円形	N-40°-E	80	68	41	F160を切る。		
D12	た-16-17	長方形	N-10°-W	118	80	26	F41に切られる。縄文後期。	D41	ひ59	楕円形	-	<98>	<30>	<28>	H2-7を切る。H2-7: 縄文後期。		
D13	そ18	円形	-	154	<68>	<133>	縄文後期。	D42	ひ61	楕円形	-	126	<88>	105	チラシあり。F49-50: 縄文後期。		
D14	そ19	長方形	N-10°-E	96	56	23	縄文後期。	D43	ひ62	楕円形(?)	-	<102>	<102>	<102>	H2-7を切る。M11に切られる。F49-50: 縄文後期。		
D15	に20	楕円形	N-55°-W	166	<94>	<22.5>	M10-P90-P91に切られる。縄文後期。	D44	ひ60	楕円形	-	113	91	45	F41-50: 变更。M11に切られる。F49-50: 縄文後期。		
D16	ひ22	楕円形	-	100	<93>	31	縄文後期。	D45	ひ60	円形	-	137	<80>	45	H12-13を切る。H2-7: 縄文後期。		
D17	ひ22	円形	N-70°-E	95	76	57	縄文後期。	D46	ひ60	楕円形	-	115	98	49.5	F49-50: 变更。H2-7: 縄文後期。		
D18	ひ22-22	半円形	N-21°-W	(110)	98	25.5	縄文後期。	D47	ひ60	楕円形	<70>	<58>	38.5	F49-50: 变更。H2-7: 縄文後期。			
D19	ひ22-22	半円形	N-25°-E	(100)	52	18	縄文後期。	D48	ひ59	楕円形	-	<132>	90	62	H2-7: 縄文後期。		
D20	ひ23	円形	N	<95>	94	63	F13-14に切れる。D21を切る。	D49	ひ59	円形	-	<110>	<42>	<48>	F49-50: 变更。M11に切られる。F49-50: 縄文後期。		
D21	ひ23	半円形	-	150	<90>	45	F20に切れる。縄文後期。	D50	ひ60	楕円形	-	63	<37>	48.5	F49-50: 变更。H2-7: 縄文後期。		
D22	ひ23	円形	N-75°-E	106	<64>	66	チラシあり。縄文後期。	D51	ひ58	楕円形	-	122	80	29.5	F49-50: 变更。H2-7を切る。チラシあり。		
D23	ひ-24-24	円形	N-25°-E	174	<76>	61	F141-141-142に切れる。縄文後期。	D52	ひ61	方形(?)	(106)	(100)	42	F49-50: 变更。H2-7: 縄文後期。			
D24	ひ26	円形	N-20°-E	127	<80>	74	縄文後期。	D53	ひ51	円形	-	(122)	(120)	<26>	H2-7: 縄文後期。		
D25	ひ26	楕円形	N	<100>	<58>	118	H2-7に切られる。縄文後期。	D54	ひ49-50	楕円形(?)	-	<26>	<98>	<57>	F49-50: 变更。H2-7: 縄文後期。		
D26	ひ24-25	楕円形	N-22°-E	124	<42>	44	縄文後期。	D55	ひ49-50	楕円形	E	116	93	38.5	H2-7: 縄文後期。		
D27	ひ28	楕円形	N-25°-W	117	91	38	縄文後期。	D56	ひ49	円形(?)	N-20°-E	<105>	<101>	39	H2-7に切られる。縄文後期。		
D28	ひ28	長方形	-	106	<40>	23	D27に切られる。縄文後期。	D57	ひ45	円形	N-3°-W	88	82	49	H2-7: 縄文後期。		
D29	ひ28	円形	N-15°-W	107	<85>	39.5	D27-F15-50に切られる。チラシあり。縄文後期。	D58	ひ33	円形	N-37°-W	118	<68>	62	縄文後期。		
								D59	ひ33	円形	N-21°-E	113	<76>	54	チラシあり。縄文後期。		

第80表 土坑出土遺物觀察表(1)

(cm³·g)

土坑出土遺物觀察表(2)

五輪塔(火輪)計測凡例



第5節 溝状遺構

M 1号溝状遺構

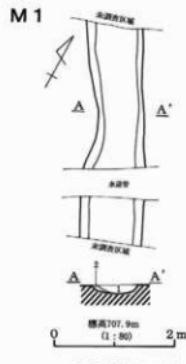
く・け-6 G r にあり、H 6・M 2を切る。南北方向に伸び北側と南側が調査区域外となる。断面形状は、浅い皿状である。規模は検出部分で全長3.56m、幅0.76~1.04m、深さ16~26cmを測る。南北底面の比高差はない。西側には粗い砂がみられた。

遺物は図示できるものではなく、縄文後期土器・土師器壊・須恵器壊の小片が出土した。本址の時期不明である。

M 2号溝状遺構

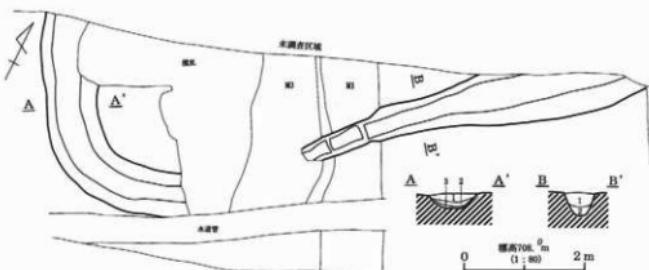
く～こ-6 G r にあり、M 1・M 3に切られ、H 6・D 7を切る。断面U字形と鍋底状で東西方向から北側の調査区域外へL字状に屈曲する。検出長12.4m、幅0.56~0.8m、深さ22~62cmを測る。西が低く東との比高差30cmである。

遺物は、縄文後期土器・土師器壊・須恵器壊・甕の小片が出土した。本址の時期不明である。

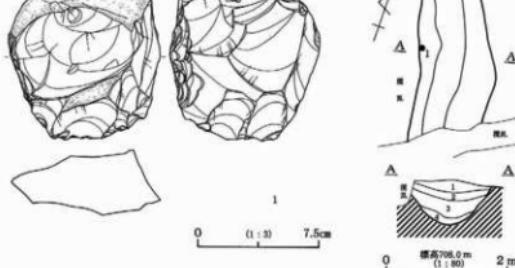
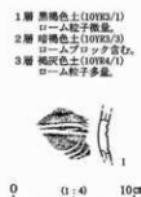


第142図 M 1号溝状遺構

M 2

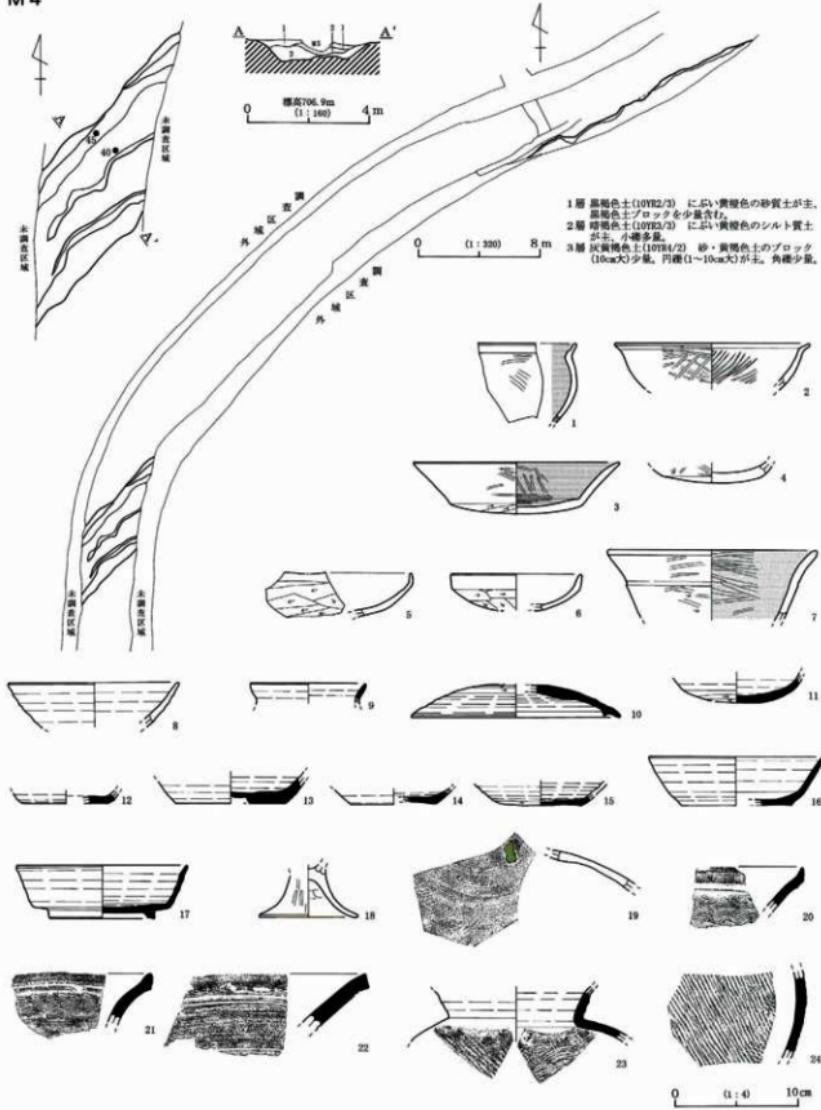


第143図 M 2号溝状遺構

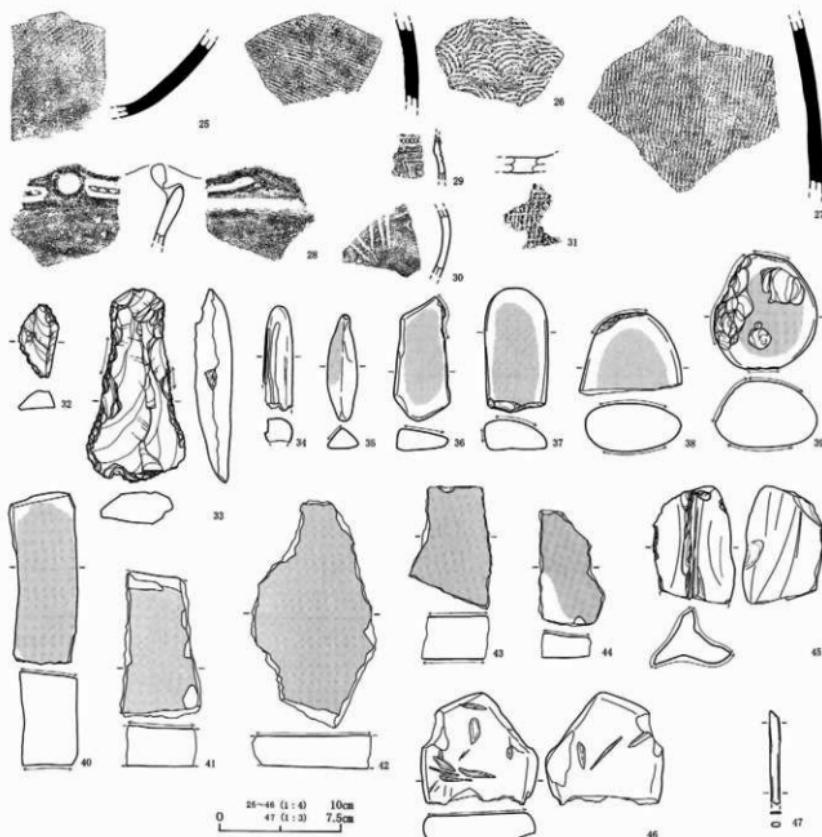


第144図 M 3号溝状遺構

M 4



第145図 M 4号溝状造構(1)



第146図 M4号溝状遺構(2)

M3号溝状遺構

け-6Grにあり、H6・M2・P20を切る。南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面U字形、覆土はレンズ状堆積を見せ、流水の跡はない。規模は検出部分で全長2.8m、幅0.86~1.24m、深さ56~76cmを測る。南北底面の比高差はない。

遺物は第144図1の石核、縄文後期土器・土師器・須恵器の小片であり、本址の時期は不明である。

M4号溝状遺構

お~き-5、き~け-6、そ~た-12~14GrにありP33を切り、M1・M5に切られる。検出長23.52m、幅3.7m、深さ54~73cmを測る。断面形は溝底凸凹する逆台形を呈する。覆土第1層は砂質土が主で、第2層は小砾多量に含むにぶい黄橙色のシルト質土が主である。最下層の3層は角砾と砂・黄褐色土のブロックが少量、1~19cm大の円砾が主である。北東から南西方向へ流下する河川跡である。

第81表 M 2・3・4号溝状構出土遺物観察表

(cm・g)

No.	種別	器種	文 横・調 整						備 考	出土位置	
1	陶文土器	深鉢	2号の横位施塗。弧状の集合洗跡。						壁之内1	M2・6	
1	石核	石	9.5	9.2	4.0	419.95	所 見			出土位置	
1	M 4		成形・調整・文様						堆存場()残存僅く・丸底・		
No.	種別	器種	口徑(底) 底深(高)	壁高(厚)	内 面	外 面			備 考	出土位置	
1	土師器	鉢	-	-	-	ヘラミガキ+黒色処理	ヘラミガキ		破片実測	M4	
2	土師器	杯	(15.9)	-	<3.8>	ナデ→鉢文	ヘラミガキ		回転実測	M4き5	
3	土師器	杯	(16.8)	-	4.2	ヘラミガキ+黒色処理	ヘラミガキ、底部ヘラケズリ		回転実測	M4	
4	土師器	杯	-	-	<1.7>	ナデ	ヘラミガキ		完全実測	M4き5	
5	土師器	杯	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ		破片実測	M4か53層	
6	土師器	杯	(10.6)	(10.4)	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ+底部ヘラケズリ		回転実測	M4	
7	土師器	鉢	(17.0)	-	<5.8>	ヘラミガキ+黒色処理	ヘラミガキ+ヘラミガキ		回転実測	M4き5	
8	土師器	杯	(14.0)	-	<3.7>	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	M4	
9	漆器	舟	(9.4)	-	<1.6>	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	M4	
10	漆器	皿	(17.2)	-	<2.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部回転ヘラケズリ		回転実測	M4き5	
11	漆器	杯	-	-	<2.5>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ		完全実測	M4き5	
12	漆器	杯	-	(7.0)	<1.1>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ		回転実測	M4	
13	漆器	杯	-	(9.0)	<2.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部切り離し手持ちヘラケズリ		回転実測	M4	
14	漆器	杯	-	(7.0)	<1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部手持ちヘラケズリ		回転実測	M4	
15	漆器	杯	-	6.6	<2.0>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→底部外周回転		完全実測	M4き53層	
16	漆器	杯	(14.2)	(9.0)	4.0	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	M4き53層	
17	漆器	舟台	14.0	8.5	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り→舟台付		完全実測	M4き53層	
18	漆器	高杯	-	8.1	<4.3>	研磨摩耗。脚部ヘラナデ・ヨコナデ	ヘラミガキ		完全実測	M4	
23	漆器	盤	-	-	<4.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→平行タキ目		回転実測	M4そ13	
No.	種別	器種	文 横・調 整						備 考	出土位置	
19	灰陶陶器	壺							新面実測	M4	
20	陶器	壺							新面実測	M4	
21	陶器	壺							新面実測	M4か53層	
22	陶器	壺							新面実測	M4き5	
24	陶器	壺							新面実測	M4か53層	
25	陶器	壺							新面実測	M4	
26	陶器	壺							新面実測	M4	
27	陶器	壺							新面実測	M4 <6 No.7	
28	陶文土器	深鉢	口縁部内折。小突起部の首孔から口縁に沿った沈縫内に刺突を充填。						壁之内	M4	
29	陶文土器	深鉢	機位前み隆脊の下段平行字文、鉢文LR。						壁之内2	M4	
30	陶文土器	深鉢	垂下・斜面の集合洗跡。						壁之内	M4	
31	陶文土器	深鉢	外底面部網代焼。2本足2本足り。						後期	M4	
No.	種 別	器 材	最 大 長	最 大 幅	最 大 厚	重 量	所 見			出 口 位 置	
32	二次加工のある割片		麻署石	3.0	1.6	0.7	3.40	左側に二次加工痕		M4	
33	打製石斧		11.8	6.0	2.2	143.70	両端に墨病痕			M4	
34	石劍?		<6.4>	<1.8>	<1.4>	<27.28>	下部→裏面欠損		M4そ・た12-13		
35	磨石		8.8	2.5	1.6	35.95	左側にすり面			M4	
36	磨・磨石		10.1	4.7	1.8	126.28	右側に敲打痕。正面にすり面			M4	
37	磨・船石		10.2	5.2	2.5	178.81	被熟あり? (夷化)正面と左側にすり面、下端部に敲打痕			M4	
38	磨・船石		<6.8>	<3.3>	<4.0>	<305.92>	被熟あり? (夷化と似合)下部欠損、正面にすり面、上端部に敲打痕			M4か5 3層	
39	磨・船石		9.4	8.3	5.5	633.21	被熟あり? (一部夷化)左側を中心に敲打痕。正面にすり面			M4	
40	台石		14.1	5.6	7.8	1122.27	正裏とも使用面。周囲の欠損状況不明		M4そ・た12-13 No.5		
41	台石片		<12.0>	<6.5>	<3.3>	<461.73>	上側以外両面欠損。正面が使用面			M4そ5 3層	
42	台石片		18.6	10.4	2.8	801.61	全周欠損。正面が使用面			M4	
43	台石片		<10.0>	<6.8>	<3.7>	<412.70>	正裏とも使用面。全周欠損			M4	
44	台石片		<9.5>	<5.5>	<2.1>	<162.00>	全周欠損。正面が使用面			M4	
45	砾石		<9.6>	<6.6>	<4.5>	<203.36>	下部欠損。底棘数3			M4No.6	
46	砾石		<9.2>	<9.7>	<2.3>	<267.14>	下部欠損。底棘数2。正裏に条痕			M4か2 2層	
47	砾	鉢	<5.7>	<0.6>	<0.3>	<3.48>	下部欠損。片刃、鋸歯か			M4そ・た12-13	

西近津遺跡VIでM 4号溝状遺構として検出された河川跡と同一のものである。M 4～M 7は並行する。遺物は縄文時代後期土器・弥生時代後期・土師器・須恵器、二次加工のある剥片32、打製石斧33、石劍?34、磨石35、磨り面持つ敲石36～39、台石40～44、砥石45・46、鐵鎌47がある。

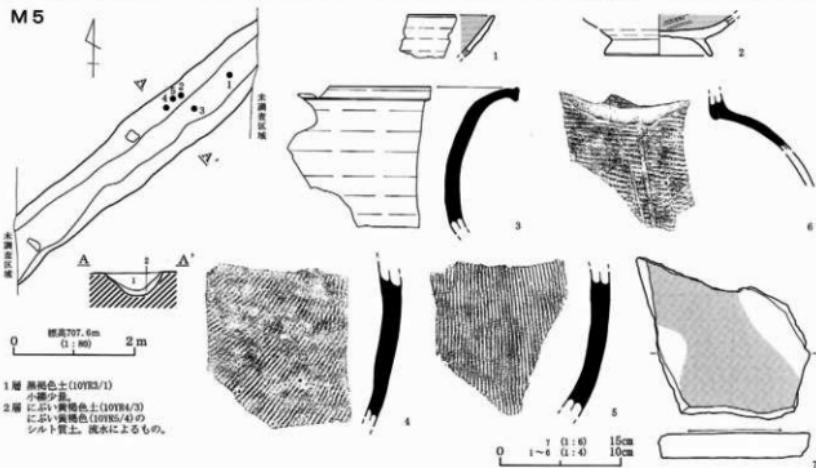
覆土3層からウシの右中手骨破片、ウマの左上顎3/4前臼歯破片、ニホンジカの角の可能性がある破片、ニホンジカの中手骨/中足骨の破片が出土した。

28～30は、縄文時代後期堀之内式の深鉢、31の底部網代は、2本越え2本潜りの編み方である。

土師器には、1・2の内斜口縁環、3の丸底から口縁部長く外反し内面黒色処理される環、5・6の半球状の环、8のロクロ成形の环がある。須恵器には、底部ヘラ調整がみられる环11～15・有台17、天井部ヘラケズリされ返りを有す蓋10、広口で頸部が括れ口縁部が長い甕20～23がある。19は灰釉陶器壺である。これらの土器には、磨耗がみえる。縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代、平安時代の遺物が出土した。本址の時期は、8世紀代であろうか。

M 5号溝状遺構

そ-12・13、た-13G rから検出され、M 4を切り、M 4の中にある。M 4～M 7は並走する。北東から南西方向に延び両側が調査区域外となる。断面逆梯子形、覆土は流水によるシルト質土が堆積する。規模は検出部分で全長5.36m、幅0.8～1m、深さ12～35cmを測る。底面の比高差はなくほぼ平坦である。遺物は、1・2の土師器環、3～5の須恵器がある。本址の時期は、平安時代であろうか。



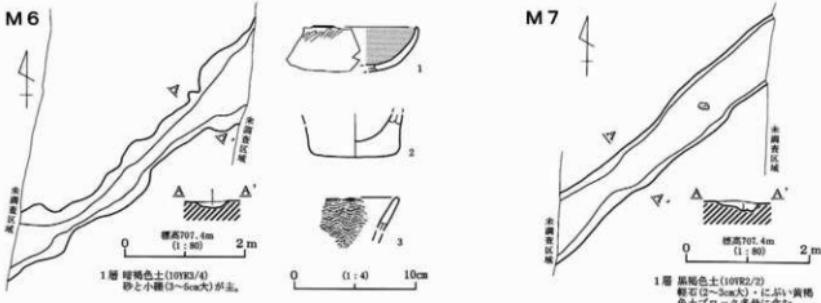
第147図 M 5号溝状遺構

第82表 M 5号溝状遺構出土遺物観察表

M 5							成形・焼成・文様	推定年()発存年()>丸底・ 個考 出土位置
No.	標題	法	面	底	高	底	内面	外面
1	土師器 碗	-	-	8.6	<3.4>	-	ヘラミガキ・黑色処理	ロクロナデ・底部凹凸削り→萬台貼付
2	土師器 环	-	-	-	-	-	ロクロナデ	完全実測 M4 No.4
3	須恵器 甕	-	-	-	-	-	ロクロナデ	破片実測 M4 No.4
4	須恵器 甕	輪	輪	-	-	-	ロクロナデ	破片実測 No.1
5	須恵器 甕	輪	輪	-	-	-	ロクロナデ	無
6	須恵器 碗	輪	輪	-	-	-	ロクロナデ	無
文様・調査								
7	台石	石	材	磨大長	磨大幅	磨大厚	重 量	所 見 出土位置
				20.1	21.6	3.3	2140.00	正面が使用面

M 6号溝状遺構

そ-12・13、た-13G r にあり、M 4～M 7 は並走する。北東から南西方向に延び両側が調査区域外となる。断面鍋底状、覆土は、流水による砂と3～5cmの大いな小礫が堆積する。規模は検出部分で全長5m、幅0.4～1.14m、深さ13～20cmを測る。北東から南西方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。遺物は、2の縄文後期深鉢、3の弥生後期甕、土師器壺がある。本址の時期は、不明である。



第148図 M 6号・M 7号溝状遺構

第83表 M 6号溝状遺構出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 罫			成形・調整・文様		推定値()	残存値<>	丸底	備考	出土位置
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内 面	外 面					
1	土師器	壺	-	-	-	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ		破片実測			
2	縄文土器	深鉢	-	6.8	<3.4>				完全実測			
3	弥生土器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	網目波文		断面実測			

M 7号溝状遺構

そ-た-14G r にあり、D11を切る。M 4～M 7 は並走する。北東から南西方向に延び両側が調査区域外となる。断面凹凸ある鍋底状。規模は検出部分で全長4.6m、幅0.66～0.88m、深さ6～11cmを測る。北東から南西方向に緩く傾斜、比高差は12cm程度である。遺物は縄文土器小片がある。本址の時期は、不明である。

M 8号溝状遺構

ち-18G r にあり、P54・P188を切る。南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面テラス持つ逆梯子形、規模は検出部分で全長3.32m、幅1～1.22m、深さ25～35cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。

第84表 M 8号溝状遺構出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 罫			成形・調整・文様		推定値()	残存値<>	>丸底	備考	出土位置
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内 面	外 面					
1	土師器	壺	-	(10.4)	<2.7>	□クロナデ	□クロナデ→底部切り離し後ナデ。ヘラ可有		凹凸実測			
2	土師器	壺	-	-	-	□クロナデ	□クロナデ		崩片実測			
3	縄文土器	深鉢							断面実測			
4	縄文土器	深鉢	円形斜削突起、縁に斜削沈線。さらに円形刺突文から口縁に沿って1条の沈線。2条の横位沈線の下2条の垂下する沈線。沈線部底内に螺旋状R光沢。						底之内1			
5	縄文土器	深鉢	波状口縁、円形刺突から口縁に沿って2条の沈線。						底之内			
6	縄文土器	深鉢	突起部の円形刺突文からC字波状沈線。縁の2個の円形刺突から横引き沈線と横位透し孔。						底之内1			
7	縄文土器	深鉢	粗粒深鉢。縁部が肥厚する。						後所前半			
8	縄文土器	深鉢	粗粒深鉢。江戸時代以前の遺物。						後所前半			
9	縄文土器	深鉢	幾何学文。区画内に複数刺突文。						底之内2			
10	縄文土器	深鉢	横位刺み縫合に8字貼付文。						底之内2			
11	奥奈器	土器円盤	円形、染原器底部。底部ヘラナデ。取扱痕。ヘラ記号あり。厚さ1.0						BC代			
12	打製石斧		<6.0>	<5.5>	<2.2>	<11.13>			見			
									上下欠損			
												出土位置

遺物は、3~10の縄文後期壙之内1式・壙之内2式・後期前半の深鉢、底部ヘラ調整される須恵器壙1・11、打製石斧12がある。11は底部ヘラ調整・ヘラ記号もつ須恵器壙底部加工した、土器片円板である。須恵器壙1・2・11から、本址は8世紀代であろうか。

M8



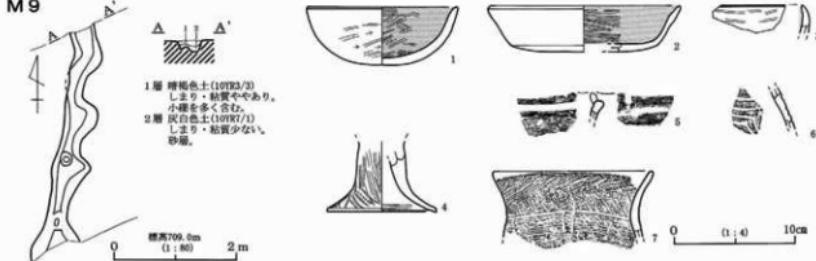
第149図 M8号溝状構

M9号溝状構

て-19G rにあり、南北方向に延び北側と南側が調査区域外となる。断面凹凸あるU字形、規模は検出部分で全長3.8m、幅0.28~0.64m、深さ7~41cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。覆土2層は、砂層である。

遺物は、5・6の縄文時代後期土器、7の弥生時代後期壙、1~3の土師器壙・高壙がある。

M9



第150図 M9号溝状構

第85表 M9・10号溝状構出土物観察表

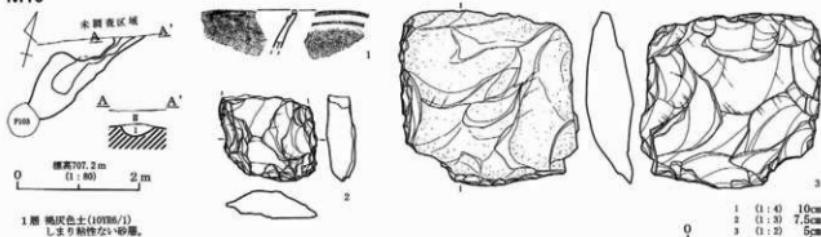
(cm·g)

NO.	種別	形態	法 面	成形・焼成・文様	堆積()		堆積()	堆積()	丸底・ 壙	出土地點
					内面()	外面()				
1	土師器 壙	壙	(12.4)	-	4.8	ヘラミガキ→無色処理	ヨコナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転窯測	M9	
2	土師器 壙	壙	(15.8)	(12.0)	3.8	ヘラミガキ→無色処理	無	回転窯測	M9	
3	土師器 壙	壙	-	-	ヘラミガキ→無色処理	ヘラミガキ	壁片実測	M9		
4	土師器 高壙	高壙	-	-	<9.0>	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転窯測	M9	
7	弥生土器 壙	壙	(15.0)	-	<5.5>	ヘラミガキ	帯幅斜走文→帯幅圓状文	回転窯測	M9	
6	縄文土器 深鉢	深鉢	受起部に縁付沈縫、外周口縫に沿って沈縫。	-	-	-	-	壙之内1	M9	
	縄文土器 浅口計畫	浅口計畫	沈縫区画内に縁付沈縫。	-	-	-	-	壙之内2	M9	
M10										
No. 種別 形態 法面 文様・調査										
No. 種別 形態 内面()縫に沿って火照。 文様・調査 備考 出土地點										
No. 種別 形態 質 材 總大長 總大幅 底大厚 重量 所見 備考 出土地點										
2	打製石斧	斧	-	<5.3>	<6.0>	<1.8>	<6.243>	上部欠損。全体に摩耗	M10壙之内1	M10
3	使用痕のある剣片	剣片	7.2	7.3	1.9	112.40	正面は自然面か?縁辺の表面は使用によるものか		M10	

M10号溝状遺構

に-20 G r にあり D15を切り、P90・P91・P103に切られる。北方向に延び北側が調査区域外となる。断面U字形、規模は検出部分で全長2.2m、幅0.2~0.78m、深さ30~40cmを測る。北から南方向に緩く傾斜、比高差は10cm程度である。覆土1層は、砂層である。

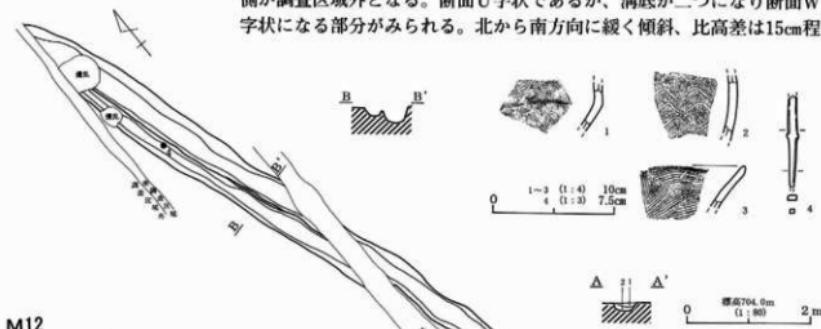
遺物は、1の縄文時代後期土器、2の打製石斧、3の使用痕ある剥片がある。時期は不明である。

M10

第151図 M10号溝状遺構

M11号溝状遺構

ふ-54~56、ひ-56~58 G r にあり、H27・H28・H30・H38・F3・F5を切る。南北方向に延び南北側が調査区域外となる。断面U字状であるが、溝底が二つになり断面W字状になる部分がみられる。北から南方向に緩く傾斜、比高差は15cm程

**M12**

第152図 M11・M12号溝状遺構

度である。規模は検出部分で全長14.6m、幅0.32~0.8m、深さ10~32cmを測る。2層に砂の堆積がある。遺物は、縄文・弥生時代後期土器片と土師器・須恵器・灰釉陶器片、第152図4の鉄鎌がある。本址の時期は、不明である。

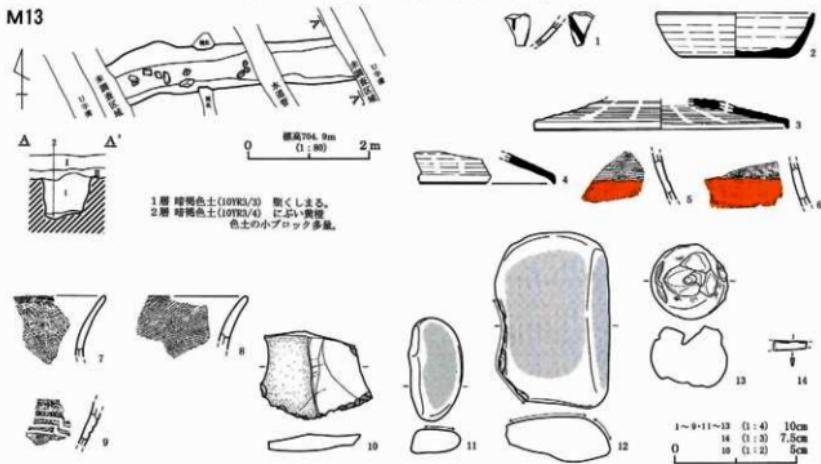
M12号溝状遺構

ひ・ふ-54・55G rにあり、H35・H38・H40を切る。北西から南東方向に延び遺構の両側は、調査区域外にある。断面は逆梯子形、溝底は平坦である。規模は検出部分で全長4.9m、幅0.46~0.52m、深さ18~20cmを測る。2層に砂の堆積がある。遺物は皆無で、本址の時期は不明である。

M13号溝状遺構

ふ・へ-48G rにあり、H36を切る。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にある。断面は凹凸ある逆梯子形、規模は検出部分で全長3.8m、幅0.7~0.84m、深さ70cmを測る。東へ緩く傾斜、比高差13cm。1層上部から10個の砾(安山岩、熔結凝灰岩)。縄文後期・弥生時代後期土器片と土師器・須恵器、第153図10~13の石器と14の刀子がある。本址の時期は不明である。

M13



第153図 M13号溝状遺構

第86表 M11・13号溝状遺構出土遺物観察表

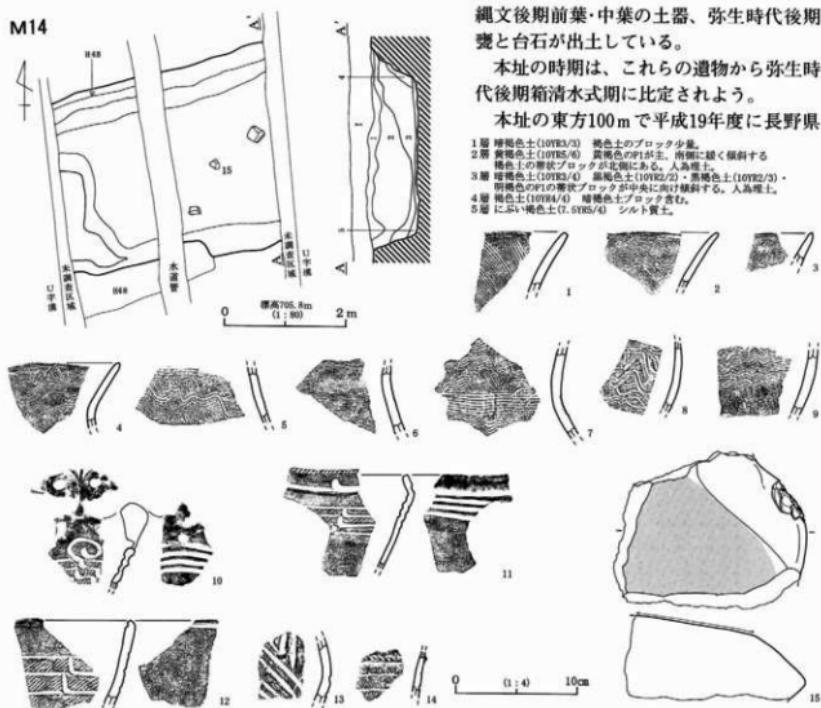
(cm・g)

M11							出土位置			
No.	種類	材質	最大厚	最小厚	最大幅	最小幅	重 量	所 在	出土地點	
1	漆器土器	漆	5.0	2.0	<5.0	<0.7	<0.35	4.0kg	上段下層。開口部付近。灰褐色土	弥生後期 M11
2	漆器土器	漆	5.0	2.0	<5.0	<0.7	<0.35	4.0kg	上段下層。開口部付近。灰褐色土	弥生後期 M11
3	漆器土器	漆	5.0	2.0	<5.0	<0.7	<0.35	4.0kg	上段下層。開口部付近。灰褐色土	弥生後期 M11
M13							出土位置			
No.	種類	材質	最大厚	最小厚	最大幅	最小幅	重 量	所 在	出土地點	
1	土師器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ。堅硬あり。	弥生後期 8C5a4 M13
2	須恵器	土	(13.0)	(9.0)	3.7	0.7	0.20kg	ロクロナデ	ロクロナデ。堅硬あり。内側のリムとし舟ヘラナデ	弥生後期 8C5a4 M13
3	須恵器	土	(20.6)	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ。堅硬あり。内側輪付付	弥生後期 8C5a4 M13
4	須恵器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
5	須恵器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
6	土師器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
7	土師器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
8	土師器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
9	縄文土器	土	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
10	漆器土器	漆	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	弥生後期 8C5a4 M13
11	磨石	石	8.5	4.4	2.2	1.1	0.45	正面上に溝	正面上に溝	弥生後期 8C5a4 M13
12	磨石	石	14.4	9.5	3.8	1.8	0.65	正面右側に溝	正面右側に溝	弥生後期 8C5a4 M13
13	磨石	石	6.1	6.2	5.4	2.2	0.26	溝	溝	弥生後期 8C5a4 M13
14	刀子	石	<2.0	<0.6	<0.2	<0.8	0.00	両面欠損	両面欠損	弥生後期 8C5a4 M13

M14号溝状遺構

み・む-36G rにあり、H48（奈良時代後半）に切られる。東西方向に延びる遺構の両側は調査区域外にある。断面は逆梯子形、規模は検出部分で全長3.64m、幅3.2m、深さ80cmを測る。2・3層は人為埋土、平坦な溝底にはシルト質土が堆積する。西端がテラス状に20~25cmほど高くなっている。遺物は、縄文後期前葉・中葉の土器、弥生時代後期甕と台石が出土している。

M14



第154図 M14号溝状遺構

第87表 M14号溝状遺構出土遺物観察表

No.	種類	器種	文様・調査	備考	出土位置
1	弥生土器	甕	縦縫斜付文	弥生後期	
2	弥生土器	甕	縦縫波状文	弥生後期	
3	弥生土器	甕	縦縫波状文	弥生後期	
4	弥生土器	甕	縦縫波状文	弥生後期	
5	弥生土器	甕	縦縫波状文	弥生後期	
6	弥生土器	甕	縦縫波状文・横割縫状文	弥生後期	
7	弥生土器	甕	縦縫波状文・横割縫状文	弥生後期	
8	弥生土器	甕	縦縫波状文	弥生後期	
9	弥生土器	甕	縦縫波状文	弥生後期	
10	純文土器	口縁部内折	直筒口縁。波形部に2個の円形貼付文。波形部の下溝状沈縫区間に麻消純文R。その下お玉杓子状区切りを持ち4条の横位沈縫区間に内に麻消純文R。内面4条の横位沈縫。	加賀利B1	
11	純文土器	深鉢	10と同一個体とみられる。口縁部下にお玉杓子状区切り持つ波形。口縁部に連続剥片目。	加賀利B1	
12	純文土器	深鉢	4条の横位沈縫区間に内に麻消R。一部剥片。L字区切り。	加賀利B1	
13	純文土器	斜口	斜口・縫合の裏合式接縫。	壇之内	
14	純文土器	縫合剥片	縫合剥片縫縫の下の縫合沈縫区間に内に麻消R先端。	壇之内2	
No.	種類	材質	最大幅	最大深	重さ
15	台石		<13.0>	<15.7>	<6.9>
					<1790>
			周長	厚度	
					出土位置
					No.1

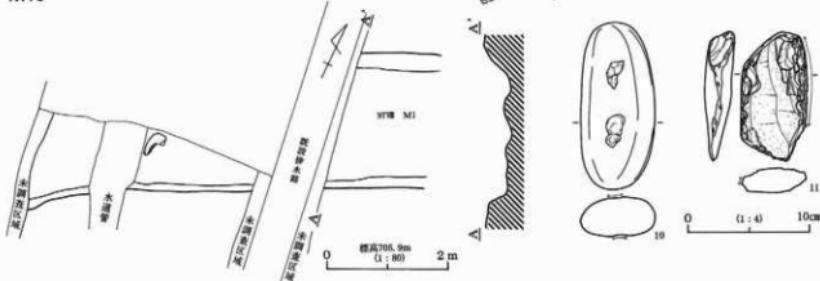
埋蔵文化財センターが実施した中部横断道路関係西近津遺跡群の調査で検出された弥生時代後期の大溝とされる溝状遺構に繋がる可能性が非常に大きい。

M15号溝状遺構

む-32-33 G r にあり、H52-H54・P186・P187を切る。東西方向に延び遺構の両側は調査区域外にあり、東側は東隣で調査された西近津遺跡VIIのM1と同一遺構で繋がる。断面は凹凸が激しい逆梯子形、規模は検出部分で全長3.68m、幅1.44m、深さ46cmを測る。

遺物は、縄文後期土器・土師器・須恵器、凹石、敲石が出土した。

さらに、ニホンジカの右下顎骨、ウマの右下顎M15



第155図 M15号溝状遺構

第88表 西近津遺跡IV M15号溝状遺構出土遺物観察表

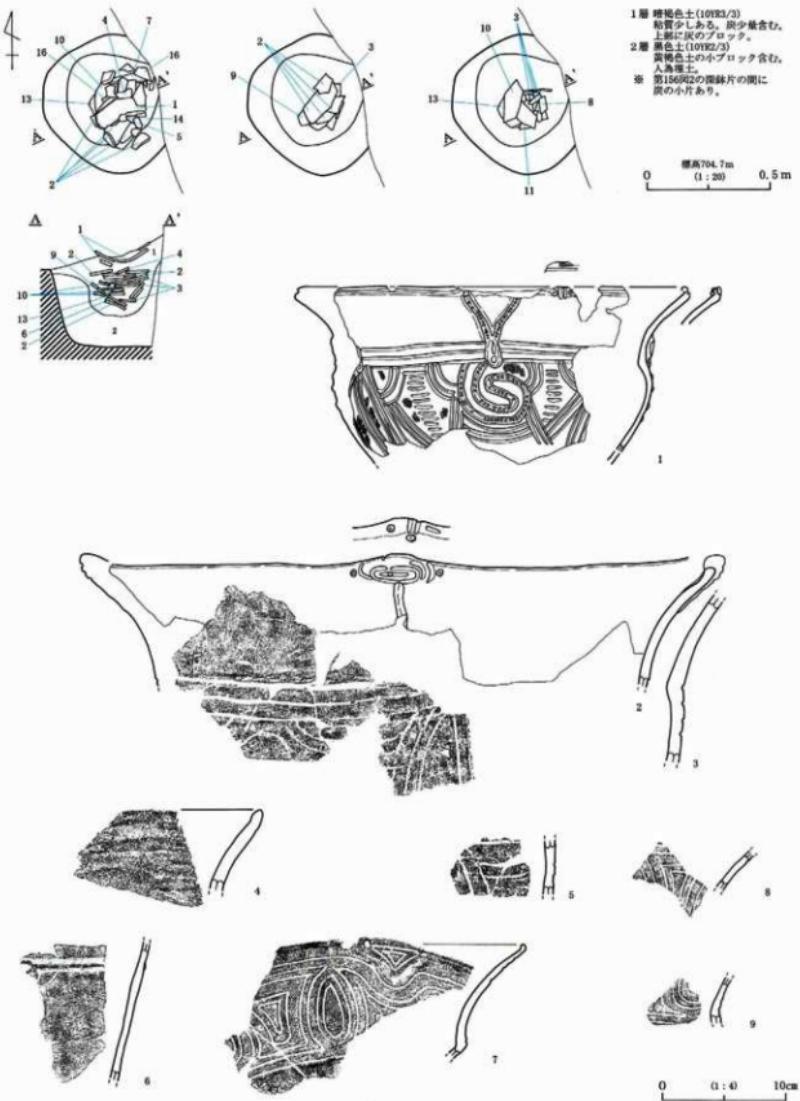
M15		底 面	成形 - 調整 - 文様	外 面	推定容()	堆 積	(cm・g)
No.	種別	面積	口径(高) 直徑(幅) 厚さ(厚)	内 面	外 面	備 考	出土位置
1	土器底	5.6	- - -	ヘラミガキ、無色処理	ナデ	破片発見	
2	須恵器	有台环?	- (9.2)	<1.8>	ロクロナデ	底部回転ヘラ切り後高台貼付	回転実測
3	須恵器	環	- - -				
4	須恵器	環	- - -				
5	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁下に横白帯。			後期前半	
6	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁直折。	口縁直下の横位刮み隆帯から短く垂下する刮み縁帯。		称名寺	
7	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁直下に直底持つ横位隆帯。			称名寺	
8	縄文土器	深鉢	所謂粗製深鉢。口縁直下に直底持つ横位隆帯。			後期前半	
9	縄文土器	深鉢	垂下する縁端上に円形貼付穴。沈縫による残行文字。沈縫LR充填。			組之内2	
No.	施 工	材	最大長	最大幅	最大厚	重 量	所 用
10	凹石		13.7	6.1	3.3	430.42	正面上に2ヶ所ずつの浅い溝打痕
11	敲石?		10.5	5.5	2.0	166.76	上端部一左側に扁平。右側面つぶれ状

第1門歯、ウマの右大腿骨片・遠位端片・脛骨近位端片・四肢骨片、ウマの左下顎第1門歯片、4~5歳程度の大型馬の左右下顎骨が検出された。

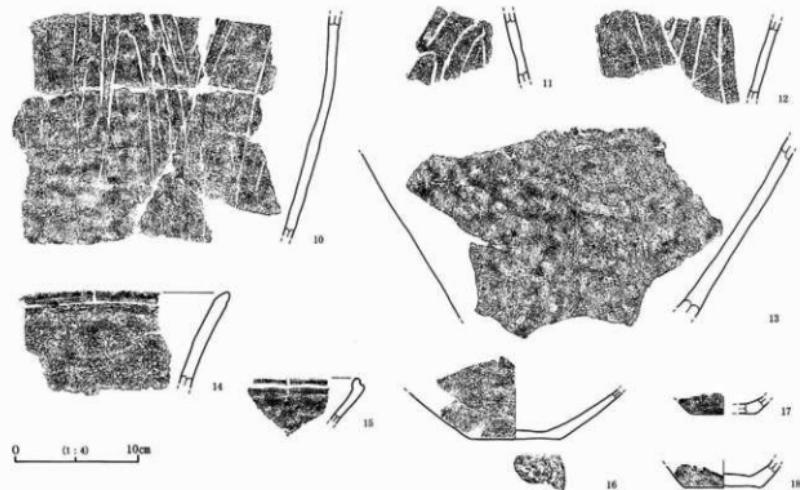
本址の時期は、竪穴住居址等の重複関係や出土遺物から古墳時代後期以降とみられる。

第6節 ピット

総数185基が検出され、そ-16-め-24 G r に集中している。縄文時代後期の土坑が多く存在する地点である。大半が何らかの建物に関連した柱穴と思われるが、建物址として把握できなかった。



第156図 P172号ピット(1)



第157図 P172号ピット(2)

P172号ピット

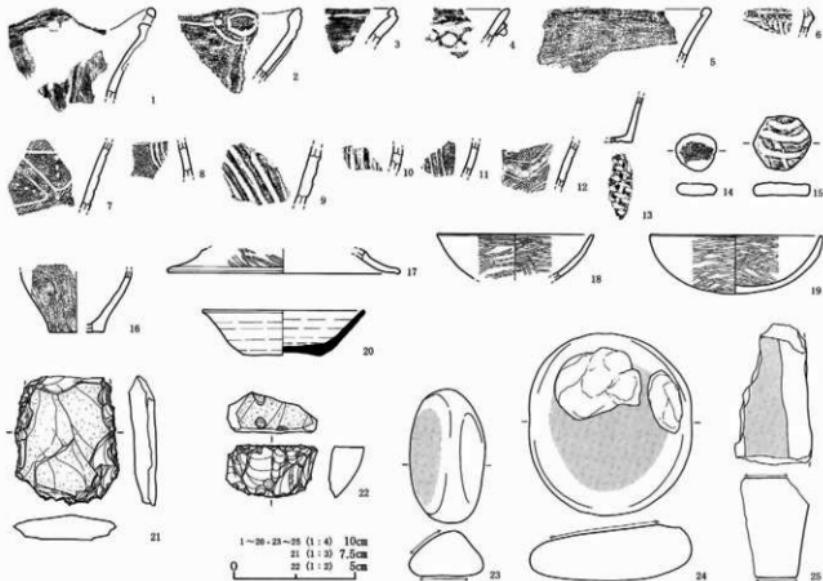
柱穴として扱ったが、土坑としたほうが妥当であろう。平面形は径56cmのほぼ円形、深さは44cmを測る。底面10cmほどから総数82個の土器片を重ね置きしてある。第156図1の鉢が最上部、その下部東側に2~4が西側に10が、2~4に挟み込まれて10がある。覆土は人為埋土で、1層には少量の灰・炭小片が含まれる。2の上器片間に炭片、1の土器上面に接して灰の小ブロックが認められた。

1は口縁部内折する鉢、括れ部8字貼付文下の渦巻き状刻み隆線と紡錘状の集合沈線を斜行集合沈線でつなぐ。これらの間に形成された槍先状区画内は、横位の短沈線で充填される。

2~5は口縁部内折する深鉢の同一個体。突起部円孔から横引きの短沈線をC字状と弧状の沈線が囲み、両脇に円形刺突。突起内部口唇部から円孔へ縦位沈線、脇に円形刺突と短沈線。

第89表 西近津洋渡Ⅳ P172号ピット出土遺物観察表

No.	種別	形態	文様・構造	備考	出土位置
1	縄文土器	鉢	口縁部内折。突起部裏面2枚の沈線肉脛の円形刺突から口唇に沿って沈線。この沈線からV字状刻み隆線がくびれ部・横位集合沈線上の8字貼付文に重なる。8字貼付文の下に渦巻き状刻み隆線。下を弧状集合沈線でつなぐ。他の8字貼付文の下に紡錘状の集合沈線。渦巻き状刻み隆線と紡錘状の集合沈線を斜行集合沈線で繋ぐ。横位集合沈線と組み充填。口縫(3.2)底高<10.9	鉢之内2古	No.12-13-16-17
2	縄文土器	深鉢	口縁部内折。突起部円孔から横引きの短沈線を斜行集合沈線と弧状沈線。両脇に円形刺突。突起内部口唇部から円孔へ縦位沈線。脇に円形刺突と短沈線。3~4と5と同一個体。口縫(5.2)底高<10.9	鉢之内2古	No.1-12-14-17-20-22-23-27-28-49-50
3	縄文土器	深鉢	2~5と同一個体。横位集合沈線から斜行刻みと弧状集合沈線。	鉢之内2古	No.29-39-41-43-46
4	縄文土器	深鉢	2~3-5と同一個体。口縁部内折。	鉢之内2古	No.18
5	縄文土器	深鉢	2~4と同一個体。弧状集合沈線。斜行集合沈線。	鉢之内2古	No.8
6	縄文土器	深鉢	横位集合沈線から斜行集合沈線。	鉢之内2古	No.48
7	縄文土器	鉢	6~9と同一個体。口縫部内折。横位内折2個の円形刺突間に三重の逆三角形沈線を持つ逆三角形の突起。2条1筋の沈線で横円孔と逆三角形が交互に描かれる。区画内に横位光沢。	鉢之内2古	No.3-15
8	縄文土器	鉢	7~9と同一個体。逆三角形の2条1筋の沈線。区画内横位光沢充満。	鉢之内2古	No.25
9	縄文土器	鉢	7~8と同一個体。横位内折の2条1筋の沈線。区画内横位光沢充満。	鉢之内2古	No.24
10	縄文土器	深鉢	12~2と同一個体か? 游U字状沈線の両脇に弧状の集合沈線。	鉢之内2古	No.24-31-32-34-37
11	縄文土器	深鉢	遊U字状沈線。斜行沈線。	鉢之内2古	No.36
12	縄文土器	深鉢	10~2と同一個体か? 瓢孔と斜行集合沈線。	鉢之内2古	H42遺跡
13	縄文土器	深鉢	縫合付文。	鉢之内2古	No.47
14	縄文土器	深鉢	口縫部下横位沈線か?	鉢之内2古	No.19
15	縄文土器	深鉢	口縫部内折。口縫部下横位沈線。	鉢之内2古	No.2
16	縄文土器	鉢	明代式。壺形不明(一部崩損)底径(7.4)	鉢之内2古	H42遺跡
17	縄文土器	鉢	底径(5.2)	鉢之内2古	No.2
18	縄文土器	鉢	底径(6.2)	鉢之内2古	No.38



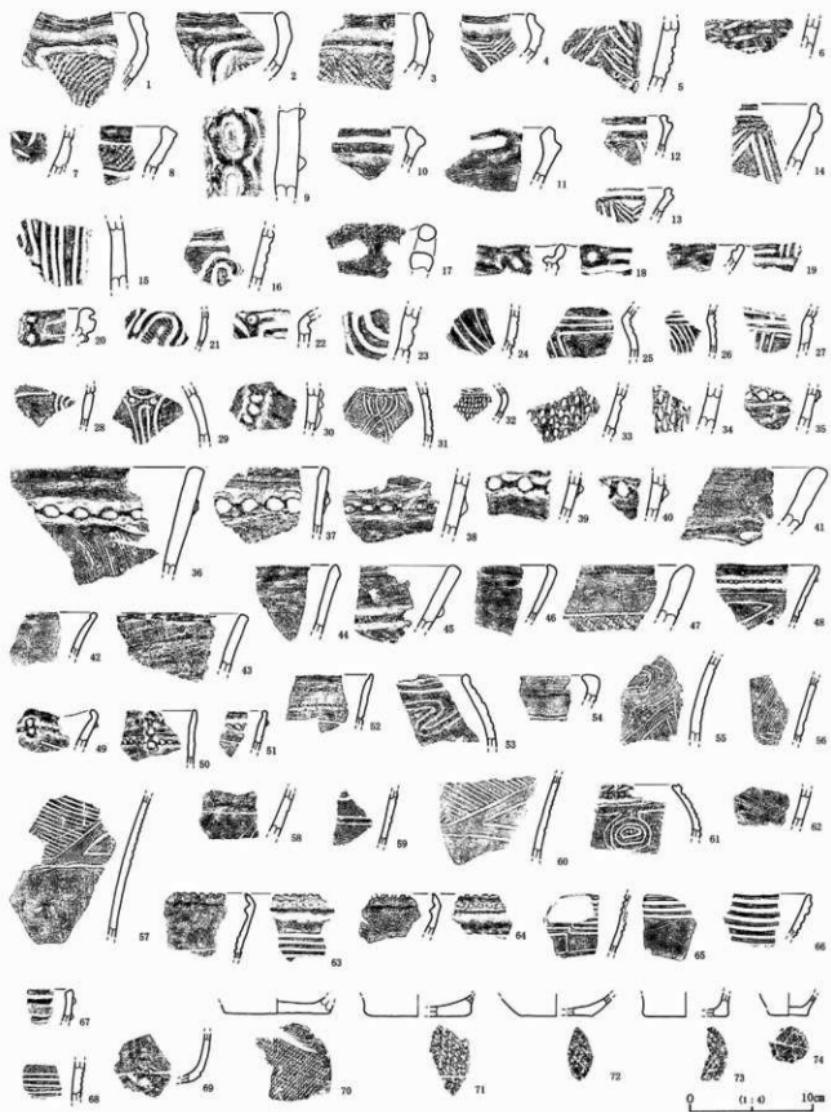
第158図 ピット出土遺物実測図

6は楕円形の隆帯から横位の隆帯。7～9は口縁部内折する鉢、極小突起に2個の円形刺突間に二重の逆三角形沈線を持つ逆三角形の突起を付す。その下部に2条1組の沈線で楕円形と逆台形が交互に描かれ、区画内に縄文L R充填される。10と11は同一個体とみられる。逆U字状沈線の両脇に弧状の集合沈線が施文される。これらは総じて縄文時代後期前葉堀之内2式に比定される。

第90表 西近津遺跡IVピット出土遺物観察表

(cm・g)

No.	P 器別	材質	寸法(幅) 高さ(厚)	重さ(g)	成形・焼成・文様		考察(1) 時代(2) 出土位置
					内	外	
17	土器鉢	陶質	(19.2)	<2.0	ナデ	三才4	回転支拂 P10
18	帶柄土器	陶質	(12.8)	-	<3.7	ヘラミガキ。褐色の斑	回転支拂 P61
19	土器鉢	陶質	(14.0)	-	4.8	ヘラミガキ。褐色の斑	回転支拂 P154No.1
20	直筒土器	陶質	13.4	6.4	3.7	ロクロナデ。底足右側面切り	平行支拂 P55
No.	器別	材質	文様・調査				考察(1) 時代(2) 出土位置
1	縄文土器	陶質	円形持つ突起の凹凸から横位の隆帯に垂下する隆帯。(口縁内)				縦之内 P95
2	縄文土器	陶質	口縁内凹。口縁内に横位の隆帯。隆の凹凸から横引き沈線と弧状沈線。弧状沈線から垂下する隆帯。				縦之内 P38
3	縄文土器	陶質	口縁内凹。口縁下に横位沈線。				縦之内1 P40
4	縄文土器	陶質	所調内表裏。口縁下に横位沈線。				後削削前 P93
5	縄文土器	陶質	口縁内凹。				縦之内 P66
6	縄文土器	陶質	横引み海螺の下皿状沈線。				縦之内 P95
7	縄文土器	陶質	北洋によく見付アズ。X字状に平行沈線凹溝。交点の突起から縁と斜面に連続刺突。平行沈線内に縄文L充填。				縦之内2 P38
8	縄文土器	陶質	横引み沈線。弧状の集合沈線。				縦之内 P92
9	縄文土器	陶質	弧状の集合沈線。				縦之内 P80
10	縄文土器	陶質	弧状の集合沈線。9と同一個体。				縦之内 P80
11	縄文土器	陶質	縫合(口辺部)焼痕状?				縦之内 P45
12	縄文土器	陶質	縫合文。縄文L充填。一部破損。				縦之内 P50
13	縄文土器	陶質	縫合。2本越2本通り。				後削削前 P51
14	土器片	陶質	円形。瓶の深部片。剥離片-研磨片。最大径3.3厚さ1.0				後削削前? P56
15	縄文土器	土器片	円形。弧状・斜行集合沈線。最大径4.6厚さ1.1				縦之内 P51
16	先土器	陶	内面ヘラミガキ。外腹細眉状文-ヘラミガキ				後削削前 P153
No.	器別	材質	重さ(g)	寸法(幅) 高さ(厚)	重さ(g)	寸法(幅) 高さ(厚)	考察(1) 時代(2) 出土位置
21	打製石斧	石	<7.9	<6.4	<1.5>	<101.84>	上部尖頭 P143
22	石核	石	2.2	3.7	1.1	11.73	自然断面 P131
23	磨石	石	11.0	6.2	4.4	389.37	正裏式-すり面 P168
24	磨石	石	15.0	13.4	4.3	1401.92	被熱カリ(全体に黒化)正裏の剥離は被熱によるもの P163
25	白石片	石	<11.7	<6.2	<8.2>	<847.77>	左側以外欠損。正裏に使用面 P177



第159圖 遺構外出土遺物實測圖(1)



第160図 遺構外出土遺物実測図(2)

第91表 遺構外土造物観察表(1)

(cm·g)

Gr	種類	法 量	成形・調整・文様		推定()	堆存値<>	丸底
			内 面	外 面			
74	陶文土器	鉢?	-	3.2 <1.8>	木葉模	後期	め26
75	陶文土器	深鉢	-	6.4 <2.3>		完全実測	後期
77	陶文土器	深鉢	-	(7.6) <1.6>		回転実測	後期
86	陶文土器	盤	-	5.9 <2.3>	ミガキ	側部ミガキ。底部ミガキ	完全実測
87	陶文土器	鉢	-	5.1 <3.7>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	完全実測 後期
88	陶文土器	鉢	-	3.9 <3.2>	ヘラミガキ。赤色塗彩	ヘラミガキ。赤色塗彩	完全実測 後期
89	陶文土器	鉢	-	-	ヘラミガキ。口縁付近赤色塗彩	ヘラミガキ。口縁部に2孔。赤色塗彩	確定実測 後期
90	陶文土器	瓶	-	(4.2) <4.8>	ヘラミガキ。赤彩付器。	ヘラミガキ	回転実測 後期
91	赤陶土器	手捏土器	(7.4)	<1.7>	ナデ	ナデ	回転実測 後期
92	土師器	杯	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬり	ロクロナデ。墨書きあり	回転実測 後期
93	土師器	杯	-	-	ヘラミガキ。黒色ぬり	ロクロナデ。墨書きあり	回転実測
94	土師器	杯	-	6.2 <1.7>	ヘラミガキ。黒色ぬり	ロクロナデ。墨書き回転角切り	完全実測
95	土師器	盤	-	5.2 <1.4>	電文。黒色ぬり	ロクロナデ→高台付。墨書きあり	完全実測
96	土師器	杯	-	(6.6) <1.3>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転角切り	回転実測
97	須恵器	杯	-	(6.8) <2.2>	ロクロナデ	ロクロナデ。底部回転角切り	回転実測
99	須恵器	瓶	-	<3.3>	ロクロナデ	ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ	回転実測
100	反復陶器	鏡	-	5.2 <3.4>	ロクロナデ。施跡	ロクロナデ。高台貼付	回転実測
No.	種類	器種	文様・調整		備 考	出土位置	
1	陶文土器	深鉢	波状口縁。微隆起帯文内に地文焼文R。			中前後半	み40・41
2	陶文土器	深鉢	縦帶区画内に焼文R。			中前後半	み40
3	陶文土器	深鉢	横位隆帯。焼文LR。			中前後半	み40
4	陶文土器	深鉢	波状口縁。弧状沈跡。地文焼文R。			中前後半	ひ65 カクラン
5	陶文土器	深鉢	底下する沈跡。綾状沈跡。			中前後半	み42
6	陶文土器	深鉢	横位の粗沈跡。			中前後半~後期	ひ40 前葉
7	陶文土器	深鉢	綾状沈跡の近沈跡。			中前後半~後期	み43
8	陶文土器	深鉢	口縁部内折。北縁区画内に焼文LR光痕。			名寺	ひ25
9	陶文土器	約手土器	焼円状の堆帶。内折をなさない沈跡。			名寺	ち17
10	陶文土器	深鉢	口縁部内折。口縁下横位沈跡。			名寺内	み40
11	陶文土器	深鉢	口縁部内折。突起部に焼文LR光痕。			名寺内	み44
12	陶文土器	深鉢	口縁直下に横位沈跡。その後状沈跡。			名寺内	み40
13	陶文土器	深鉢	口縁直下に横位沈跡。その後下斜行する集合沈跡。			名寺内	み44
14	陶文土器	深鉢	口縁直下に横位沈跡。斜行結合沈跡。			名寺内	Z 表採
15	陶文土器	深鉢	直下・斜行沈跡。			名寺内	み43
16	陶文土器	深鉢	横位沈跡の下消沈状沈跡。			名寺内	み43
17	陶文土器	深鉢	2個の円孔持つ突起。			名寺内	ひ28
18	陶文土器	深鉢	突起部内外に円形突起。内面円形突起から横位沈跡。			名寺内	み41
19	陶文土器	深鉢	突起部内折に綾状の沈跡。そこから横位沈跡。			名寺内	ひ40
20	陶文土器	深鉢	口縁部字點付+斜行横位沈跡区画内に焼文LR光痕。			名寺内	ひ40
21	陶文土器	深鉢	弧状沈跡間に焼文焼文LRの上に焼文円形の押圧。			名寺内	なに・19-20
22	陶文土器	深鉢	円形突起。弧状沈跡。			名寺内	ひ17
23	陶文土器	深鉢	横位沈跡の下消沈状沈跡。			名寺内	み43
24	陶文土器	深鉢	直下・弧状の集合沈跡。			名寺内	み44
25	陶文土器	深鉢	横位・斜行集合沈跡。			名寺内	み44
26	陶文土器	深鉢	横位・弧状の集合沈跡。			名寺内	ひ44
27	陶文土器	深鉢	横位集合沈跡。斜行集合沈跡。			名寺内	ひ50 V 縦上
28	陶文土器	深鉢	内心円形の沈跡。深縫区画内に焼文LR充満。			名寺内2	ひ28
29	陶文土器	深鉢	2個の円形突起。U字状・弧状沈跡。			名寺内	Z
30	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。直下する庄持付隠帶。			後期前半	ひ28
31	陶文土器	深鉢	横位集合沈跡。対弧状集合沈跡。焼文LR。			名寺内	ち17
32	陶文土器	鉢	8字形突起。横位・北縁の下連続刻突先頭。			名寺	ひ50 V 縦
33	陶文土器	深鉢	多量の刺突文。			名寺	ひ22 カクラン
34	陶文土器	深鉢	多量の刺突文。			三十番場	ひ40
35	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。直下持つ横位隠帶。			後期前半	ひ21
36	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。庄持付・横位隠帶。その下都構工状による巻下沈跡。			名寺	ひ28
37	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。庄持付・横位隠帶。			後期前半	ひ33
38	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。庄持付・横位隠帶。			後期前半	ひ26
39	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。庄持付・横位隠帶。			後期前半	ひ28
40	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。庄持付・横位隠帶。			後期前半	ひ25
41	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。横位隠帶。			後期	ひ50 V 縦
42	陶文土器	深鉢	口縁部内折。			名寺内	ひ14
43	陶文土器	深鉢	所構相對深鉢。			後期	ひ50 V 縦
44	陶文土器	深鉢	口縁部内折。			名寺内	なに・19-20
45	陶文土器	深鉢	横位隠帶。			中前後半	ひ26

西近津遺跡IV遺構外出土遺物觀察表(2)

第7節 遺構外出土遺物

遺構確認時に多くの縄文時代中期後半・後期初頭・後期前葉・後期中葉、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の土器や土製品・石器が出土した。弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代の土器は、該期の竪穴住居址覆土部から出土したものである。縄文時代の遺物は、土坑やピットの上部や周辺から検出された。

縄文時代後期初頭称名寺式土器は、D23・D25・D29・D31のあるG rrめ-25~28に集中する。後期中葉加曾利B1式土器は、D26周辺G rrめ-25から出土した。後期前葉堀之内1式・2式土器は本調査で最も多く、た-12~む・め-26 G rr内で構造はD 8~D 25が存在する地点でから出土した。この地点は、平成22年度に縄文時代後期前葉の遺構が多く検出された西近津遺跡Ⅷに接する。

ここから60m南方の地点でH44号住居址のあるG-rみ-40-41には、縄文時代中期後半・後期前葉塙之内式の深鉢片が集中している。この地点には、堀之内2式土器片82がみられたP172が存在する。

第92表 穴住居址・穴状构造一覧表(1)

(現存値) <検出値> (cm)

遺構名	検出位置	平面				主軸方位 (長軸方位)	備考	
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長		柱穴規格・座標・深さ等	
H1	お・か・4	-	400	<246>	<56>	43	N-14°-W	P1 44×36×59 P2 -x-25 P3 28×28×34 P4 20×16×24 P5 16×14×26 P6 20×18×23 P7 P8 P9 P10
H2	さ・し・7・8	<100>	<90>	-	290	27	-	
H3	き・5・6	-	(22.8)	<140>	<68>	38	N-19°-W	M2に切られる。P1 32×24×61 P2 36×28×47 P3 40×26×37 P4 34×28×42 P5 56×36×17
H4	う・2	-	<220>	<150>	-	17	N	P1Bに切られる。P1 48×34×40 P2 58×26×39
H5	あ・い・1	-	(420)	<210>	<156>	53	N-33°-W	D6に切られる。腰溝間切り。P1 柱直18×60×56×46 P2 柱直14×60×56×60 P3 46×38×45 P4 28×18×37
H6	く・け・5・6	-	(216)	<100>	-		N-5°-W	M1-M2-M3-D7に切られる。P3～P5底から、P1 72×(44)×69 P2 108×88×69 P3 柱直20×42×40×37 P4 36×28×48 P5 38×32×26
H7	め・26～28	<150>	<66>	(70)	-	72	N-5°-W	H8-P1Bに切られる。D25を切る。南北軸長630cm P1 <22>×30×24 P2 30×<14>×23
H8	め・27	-	<90>	<156>	-	58	-	H7を切る。腰溝18cm
H9	む・め・29・30	328	308	108	-	60	N	H10を切る。溝底16cm P1 76×66×67 P2 <46>×66×57 P3 64×<24>×66 P4 82×72×69 P5 56×<36>×53 P6 38×30×29 P7 50×<46>×54 P8 <36>×36×15
H10	む・29	方形?					N-6°-W	H9Cに切られる。腰溝16cm P1 42×39×39 P2 <46>×22×38 P3 <36>×20×42 P4 (34)×34×63 P5 32×20×37 P6 38×36×31 P7 57×<74>×38×37 P8 52×48×16 P9 (30)×38×31 P10 (80)×<48>×32 P11 44×<32>×71 P12 50×42×32 P13 54×48×56
		<144>	-	-	-			
H11	は・72～74	<340>	260	180	-	22	N-13°-E	D36に切られる。P1～P3五平状の柱。P1 80×62×85 P2 <70>×72×73 P3 (56)×74×99 P4 74×64×52 P5 柱直30×6×20×78 P6 25×6×52 P7 61×<16>×<10>×8 P8 44×38×26 P9 26×<14>×5
H12	は・ひ・69・70	-	<130>	-	<640>	45	N-16°-E	P3-C6外へ繋がる。P1 54×36×87.5 P2 76×43×38 P3 56×20×37 P4 70×60×24 P5 28×22×64 P6 24×22×57 P7 16×16×30
H13	う・69	<410>	-	<190>	-	50	N-13°-E	P153に切られ。H16を切る。P1 柱直18×32×46×39
H14	う・67・68	<190>	<60>	-	(240)		N-35°-W	F2に切られる。P1 柱直24×40×36×40 P2 柱直20×42×23 P3 柱直24×32×24×24
H15	う・71・72	-	(126)	-	380	22	(N-27°-W)	D36に切られる。
H16	う・68	<70>	-	(250)	-	50	N-4°-W	P1 54×30×9 P2 36×28×18 P3 22×18×13 P4 <70>×<26>×19 P5 <26>×<12>×33
H17	う・67	<24>	<20>	276	-	26	N-7°-W	H20を切る。
H18	う・ひ・64～66	<360>	<314>	-	-	25	N-10°-W	H19-H20-D37を切る。P1 32×30×6 P2 32×28×16 P3 <22>×30×8 P4 28×24×16 P5 32×30×34 P6 90×70×31
H19	う・ひ・64～66	<150>	<294>	440	-	23	N-19°-W	H20を切り。H18-H27に切られる。P1 (38)×44×7 P2 36×(24)×40 P3 20×20×30 P4 16×16×36 P5 (60)×68×23 P6 (80)×120×24
H20	う・ひ・64～67	腰丸長方形(主軸長900)					N-10°-W	H17-H18-H19-D37に切られる。P1 <16>×<10>×<22> P2 <44>×<44>×50×<46> P3 74×24×84 P4 40×20×62 P5 <70>×<30>×<41> P6 24×22×16 P7 28×26×11 P8 20×18×11 P9 52×34×27 P10 28×24×15 P11 22×20×15 P12 34×36×10 P13 42×<30>×19
		腰丸長方形(主軸長580)						
H21	う・63・64	<72>	<130>	(344)	-	34	N-9°-W	H24Cに切られ。H22-P161-P162を切る。P1 34×30×55 P2 50×<32>×33 P3 24×16×38 P4 22×12×35
H22	ひ・ひ・62～64	(168)	(186)	-	(56)	32	N-13°-W	H18-H21-H24-P161～P164-P167に切られる。P1 66×60×70 P2 64×(54)×83 P3 (84)×70×28 P4 (84)×70×28
H23	ひ・ひ・58～60	<344>	<202>	-	486	29	N-13°-W	H25-H27+H32-F4を切り。P159に切られる。P1 70×60×4 P2 70×54×10 P3 104×<44>×33
H24	ひ・63	-	(140)	(160)	-	60	-	H21を切る。腰溝幅8～18、深さ10～14 P1 40×30×21 P2 40×30×31 P3 18×(10)×20
H25	う・ひ・60～61	<290>	<230>	-	310	40	N-83°-E	H23に切られ。H31-F4を切る。北西隅にベッド状遺構。床面に焼込2ヶ所あり。P1 26×20×43
H26	む・33	方形?					-	H5に切られる。底は鋼底状。
H27	う・ひ・58・59	(16)	(110)	-	150	31	W (伊2ヶ所)	H23-H32-P-M11に切られる。P1 44×34×86 P2 40×26×86 P3 <48>×<24>×63 P4 58×20×64 P5 32×24×26 P6 60×44×71
		(360)	(188)	-	-	42		
H28	ひ・ひ・56・57	-	<220>	-	<492>	32	N-18°-E	H29-M11に切られる。P1 54×<44>×65 P2 48×<32>×8 P3 60×34×55

竖穴住居址・竖穴状遺構一覧表(2)

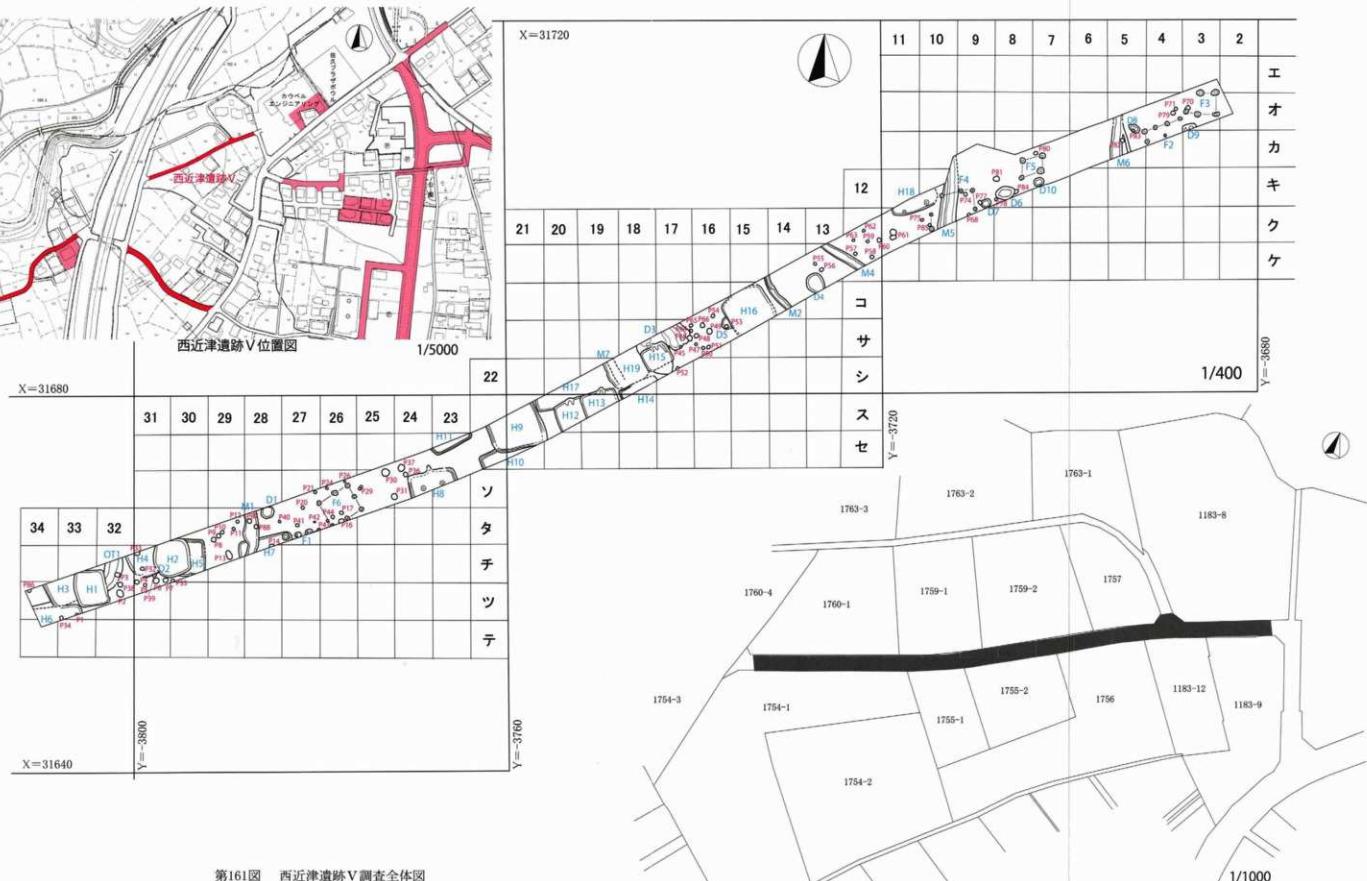
(残存物) <挿出物> (cm)

構造名	検出位置	平面形				主輔方位 (複数方位)	備考	
		北縁部	南縁部	奥側部	西側部			
属丸長方形?								
H29	D-55~57	<100>	-	-	<820>	N-8° -W	F3-P165に切らる。H28を切る。P1 28×14×24 P2 34×20×30 P3 50×24×36 P4 46×24×24 P5 50×(42)×24 P6 24×16×28 P7 18×35×36 P8 28×12×32 P9 <14>×18×13 P10 16×10×22 P11 16×16×18	
属丸長方形?								
H30	B-54~56	-	<200>	(344)	-	60	N-20° -W	H35+3-M11に切られる。壁溝10~16mm。深さ3~5cm P1 84×36×76 板厚28×20 P2 46×20×57 P3 54×34×31 P4 22×20×20 P5 20×18×18
属丸長方形?								
H31	B-56~60~62	<320>	-	<950>	-	47	N-18° -E (P1 埋設段)	H23+H25+H33-F4-P195に切られる。H32とは不明。P1 <58>×54×24
属丸長方形?								
H32	B-58~60	-	(80)	(406)	-	32	N-18° -W	H23+P1-159+P195+32-Fに切られ。H27を切る。H31とは? P1 30×28×46mm壁溝16 P2 30×28×36mm壁溝14 P3 66×36×58 P4 36×26×25 P5 26×20×34 P6 20×18×24 P7 50×34×31
属丸長方形?								
H33	B-62	<1020>	-	-	-	32	-	H21+H22に切られ。H31を切る。
属丸長方形(南北縁部680)								
H34	B-51~53	<380>	<366>	-	-	59	N-13° -W カマド北壁中央	H39に切れる。P1 <86>×74×53壁厚20 P2 <40>×70×46 P3 90×58×52 P4 36×24×28
属丸長方形?								
H35	B-53~54	-	<376>	-	-	77	N-8° -W	H39に切れる。P1 <86>×74×53壁厚20 P2 <40>×70×46 P3 90×58×52 P4 36×24×28
属丸長方形?								
H36	B-48~49	<190>	<130>	-	550	N-25° -W	H37+M13-D5Cに切られる。板幅230 P1 38×18×77柱底5平状 P2 40×22×91柱底5平状	
属丸長方形(主軸長240)								
H37	B-48~49	214	(214)	220	202	33	N-9° -W (カマド北壁中央)	H36+D56を切る。
属丸長方形?								
H38	B-53~54	-	<50>	<340>	-	48	N-14° -W	H35を切り、M12に切られる。
属丸長方形(主軸長620)								
H39	B-52~53	<160>	<340>	-	<380>	N-6° -E (地脚炉)埋設	H34に切られ。H35を切る。床梁160断行350壁溝10 P1 <42>×62×74 P2 64×60×60 P3 94×50×67 P4 36×14×56	
属丸長方形?								
H40	B-54~55	<10>	<240>	-	280	50	N	H29-M12-P165に切られる。
属丸長方形(主軸長500)								
H41	B-46~47	<286>	<360>	-	<264>	49	N-15° -W (北壁+土塗)	H42に切る。壁溝4~12深さ P1 76×62×66 P2 48×42×22
属丸長方形(主軸長574)								
H42	B-45~46	<352>	<332>	-	-	55	N-30° -W (北壁中央+カマド)	H41に切られ。H47を切る。床梁300断行300P1 <48>×42×89 P2 64×56×70 P3 70×50×82 P4 76×<56>×75
属丸長方形?								
H43	B-44 B-43~44	<180>	(100)	460	-	17	N-60° -E (カマド北壁中央)	D57に切られる。北壁下に10cm程の砂土堆積。壁溝2~8cm
属丸長方形?								
H44	B-40~41	<70>	<36>	250	-	47	N	P1 24×24×15 P2 28×24×13
属丸長方形?								
H45	B-39~40	<150>	<96>	-	(300)	N-16° -W	H51を切る。壁溝12~16cm。桁行260槽筋谷あり(P1)。P1 50×40×79 P2 <48>×26×43 P3 <70>×64×82	
属丸長方形(南北縁部580)								
H46	B-37~38	<184>	<262>	238	-	51	カマド北壁	P5-P185に切られる。P1 20×14×14
属丸長方形?								
H47	B-37~38	<270>	-	(96)	-	N-27° -W	H42に切られる。	
方型(南北縁部354)								
H48	B-36~37	<144>	<226>	(230)	-	39	N-22° -W	M14を切る。P1 25×21×32 P2 <30>×28×15
方型(南北縁部354)								
み-C-34	-	<194>	<112>	-	268	31	-	H50を切る。
本址と西近傍 W1H20は同一 住居址								
H49	-	-	-	-	-	カマド北壁 N-7° -W	カマド北壁	
主軸長300 東西輪差340								
H50	み-C-34~35	<330>	<330>	<86>	-	64	N-17° -W	H49に切られる。壁溝5~13。桁行340。P1 柱底20 40×30×47 P2 柱底後20 40×38×48 P3 66×52×45
属丸長方形(主軸長580)								
H51	み-C-39~40	(40)	<60>	-	<180>	59	N-33° -W	H45に切られる。P1 柱底5平 40×24×69
属丸長方形?								
H52	む-32~33	-	<60>	-	<320>	57	N-23° -W	M15に切られ。H26を切る。
属丸長方形?								
H52	本址と西近傍 W1H18同一 住居址	-	-	-	-	-	主柱穴西近傍露骨W18に2個。桁行200	
南北輪長514 東西南輪長(514)								
Ta1	た-C-17~18	<80>	<60>	-	560	35	-	凹凸差ししい。まりのP189-P190-P191-P198-P7も関係ありそう。深さ46~14~17~27~24 P1 34×22×17 P2 30×28×17 P3 60×40×14 P4 60×30×40×40 P5 30×22×20 P6 56×22~27~27 P7 40×36×26 P8 40×40×32 P9 36×32×26 P10 58×34×19 P11 30×20~22×12

第93表 ピット計測表

(残存値) <検出値> (cm)

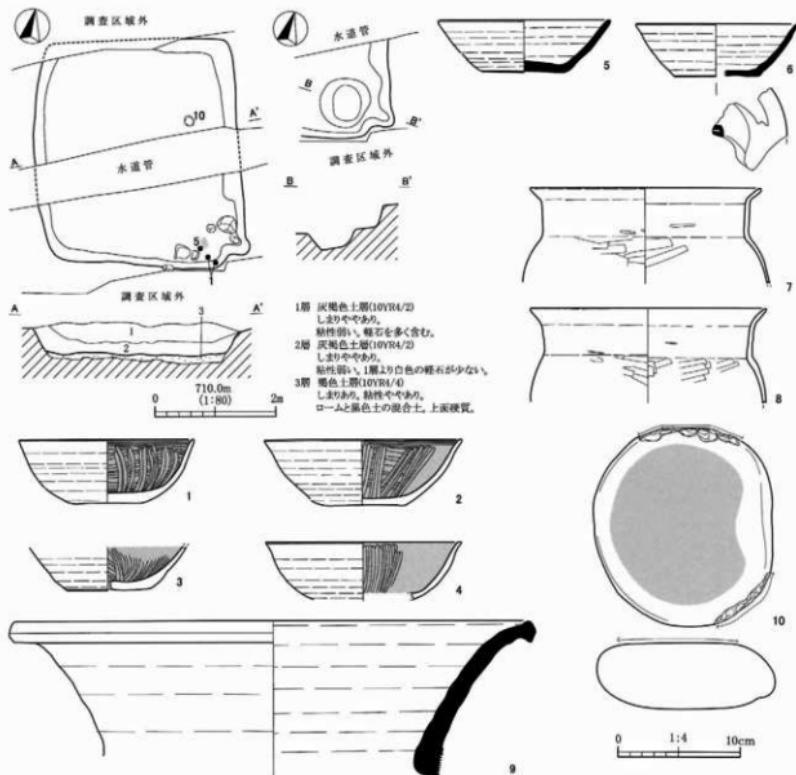
No.	検出位置	基準位置	No.	検出位置	基準位置	寸法
1	○7	35×34	10YR3/1-10YR2/3	100	○7	34×34
2	○7	36×11	10YR3/3	101	○7	67×24
3	○7	28×22	10YR3/1	102	○7	26×30.5
4	○7	<42×34>	10YR3/3	103	○7	54×35
5	○7	48×16	テラスあり。P6を切る。10YR3/1	104	○7	<41×52.5>
6	○7	48×16	テラスあり。P6を切る。P5に切られる。10YR3/1	105	○7	63×24
7	○7	<43×28>	テラスあり。P6に切られる。10YR3/1	106	○7	44×23
8	○6	<34×14>	10YR3/1	107	○7	<38×22.5>
9	L11-2	46×16.5	10YR2/1-10YR2/2-10YR6/8-10YR6/6	108	○7	31×8
10	R4	66×36	上階床面・床	109	○7	48×21
11	R4	28×9		110	○7	37×15.5
12	○3	43×49	テラスあり。	111	○7	28×16
13	○3	28×17		112	○7	32×15
14	○3	51×17		113	○7	44×45
15	○3	31×20.5		114	○7	<44×16>
16	○3	<44×18>		115	○7	<104×36>
17	○3	34×20		116	○7	(89×16) 10YR2/3
18	○3	24×20	H48×2.5-10YR2/3-10YR3/3-10YR3/1	117	○7	88×17
19	○3	26×20	テラスあり。M6に切られる。	118	○7	<37×15.5>
20	E11	88×43	10YR3/3-10YR4/3	119	○7	<71×13.5>
21	E11	48×26.5	10YR2/2-10YR3/2-10YR3/4	120	○7	36×35
22	E11	40×14.5	10YR2/2-10YR3/2-10YR3/4	121	○7	21×22
23	E11	42×13	10YR2/2	122	○7	51×43
25	T11	78×74	P1-P4/2-10YR4/2-10YR3/2-10YR2/2	123	○7	<46×31.5>
26	T14	28×18	10YR3/1-10YR3/2-10YR4/3	124	○7	51×32
27	T15	29×11	10YR3/1-10YR3/2-10YR4/3	125	○7	53×19
28	T15	48×13	10YR3/1	126	○7	<56×16>
29	T15	34×12	10YR3/1	127	○7	51×27.5
30	T15	42×13	10YR3/1	128	○7	50×34
31	T14	<107×25>	D1-P5に切られる。10YR3/1-10YR3/3-10YR4/3	129	○7	50×49.5
32	T15	<27×7.5>	D1-P5に切られる。10YR3/1	130	○7	38×25
33	T12	<65×83>	M4に切られる。(?)	131	○7	56×32.5
34	S12	<54×75>	M4に切られる。(?)	132	○7	10YR2/3
35	S16	<63×32>		133	○7	41×35
36	S16	48×20		134	○7	10YR3/3
37	S16	24×43		135	○7	43×31
38	S16	50×48	鋼文床面保護。P1-P4を切る。	136	○7	52×43
39	S16	45×32.5		137	○7	50×35
40	S17	82×22	鋼文床面。テラスあり。	138	○7	<50×29.5>
41	S17	41×36	P1-P2を切る。	139	○7	34×15
42	S17	28×20		140	○7	16×23
43	S17	42×29		141	○7	<53×24>
44	S17	<49×19>		142	○7	55×12
45	S17	<58×3.5>	鋼文床面。	143	○7	73×26
46	T17	54×41	P1-P9を切る。	144	○7	<52×22>
47	T17	47×25		145	○7	58×37
48	T17	47×17		146	○7	<44×32>
49	T19	<66×26.5>		147	○7	<74×50>
50	T19	49×17	鋼文床面。	148	○7	<47×44.5>
51	T19	104×29	鋼文床面。テラスあり。	149	○7	52×37.5
52	T19	66×27		150	○7	43×37.5
53	T19	48×18		151	○7	43×25
54	T18	<73×44>	MHに切られる。	152	○7	72×30
55	T18	48×20		153	○7	91×43
56	T19	49×39	十字型柱頭。	154	○7	51×32
57	T19	29×39	用意。腰力柱頭。P5に切られる。	155	○7	70×83
58	T19	51×26	テラスあり。P5を切る。	156	○7	<52×52>
59	T19	52×31.5		157	○7	56×36
60	T19	<72×22>	M6に切る。	158	○7	<44×55>
61	T19	51×27		159	○7	69×34.5
62	T19	84×30.5		160	○7	52×48.5
63	T18	70×8		161	○7	<57×27.5>
64	T18	51×13.5		162	○7	112×21
65	T19	<47×34>	P6に切られる。	163	○7	10YR3/1-10YR5/6
66	T18	47×19.5	鋼文床面。	164	○7	44×18.5
67	T18	47×19		165	○7	<46×70.5>
68	T18	93×19.5		166	○7	26×30
69	T18-T19	<244×26>	テラスあり。	167	○7	H22を切る。
70	C19	41×22		168	○7	111×16.5
71	C19	57×35	テラスあり。	169	○7	58×66
72	C19	29×16		170	○7	62×46
73	C19	46×26	鋼文。	171	○7	58×33.5
74	C19	58×45		172	○7	<56×44>
75	C19	<72×21>	P6を切り直し。テラスあり。	173	○7	76×47
76	C19	34×12	P6と切り直し。	174	○7	<52×53>
77	C19	48×15		175	○7	43×26
78	C19	81×31		176	○7	65×36
79	C19	29×35		177	○7	60×26
80	C20	82×2.5	鋼文床面。	178	○7	F5Pへ切る。セイナ。10YR3/1-10YR6/4
81	C20	61×30	廻内-床。	179	○7	59×18
82	C20	34×14		180	○7	<59×14>
83	C20	30×10		181	○7	10YR3/2-10YR6/4
84	C20	<57×12>		182	○7	46×14
85	C20	23×10	テラスあり。	183	○7	F5Pへ切る。10YR3/2-10YR6/4
86	C20	99×31	テラスあり。	184	○7	<52×52>
87	C20	53×26		185	○7	48×73
88	C20	65×42	テラスあり。	186	○7	<52×34>
89	C20	64×14.5	D15に切る。	187	○7	48×20
90	C20	78×83		188	○7	M15に切られる。テラスあり。10YR3/1廻内-ブロックテラス。
91	C20	93×29	テラスあり。	189	○7	46×14
92	C20	<53×33>	P6を切る。	190	○7	50×17
93	C20	65×24	P3-P9に切られる。	191	○7	36×27
94	C20	<63×66>	P3-P9に切られる。	192	○7	<40×8>
95	C20	<49×66>	鋼文床面。P6を切る。テラスあり。	193	○7	P1B0に切られる。
96	C20	47×47		194	○7	80×31
97	C20	34×14				P3B0に切られる。
98	C20	52×29				P3B0に切られる。
99	I:20	50×10.5				



第161図 西近津遺跡V調査全体図

第IV章 西近津遺跡V

第1節 積穴住居址



第162図 H1号住居址及び出土遺物

第94表 H1号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法面			成形・調整・文様		推定値()推存値< >丸底・ 備考	出土位置
			口径(直径) 底径(幅)	底径(幅)	高さ(厚)	内面	外面		
1	土師器	坏	(14.4)	(5.5)	5.2	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→切り離し方法不明 底部外周回転 ヘラケズリ	回転実測	No.5, No.6, II区
2	土師器	坏	(16.2)	6.7	5.3	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→回転角切り	回転実測	I区
3	土師器	坏	-	6.7	-	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→回転角切り	回転実測	I区
4	土師器	坏	(8.1)	-	-	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ	回転実測	II区, II区ホリ方 No.3
5	深巻器	坏	(14.1)	7.1	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→回転角切り	回転実測#墨書き	
6	須恵器	坏	(13.2)	(7.1)	4.3	ロクロナデ	ロクロナデ→角切り	あり	I区
7	土師器	武藏罐	(9.5)	-	-	模ナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区, 一括
8	土師器	武藏罐	(9.7)	-	-	模ナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区
9	漆串器		(23.8)	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	I区, II区, 一括
10	石	石	16.1	14.6	5.4	2170.00	上下端部に敲打痕 正面に溝		出土位置

(1) H 1号住居址

チ・ツ-32・33G r にあり、H 3・O T 1を切る。カマドは東壁南隅にあり、礫を芯材とし粘質土で被覆し構築されたとみられる。柱穴等は検出されない。床は僅か凹凸があるが堅く硬質化している。第162図1と5が、カマド付近床面から出土した。

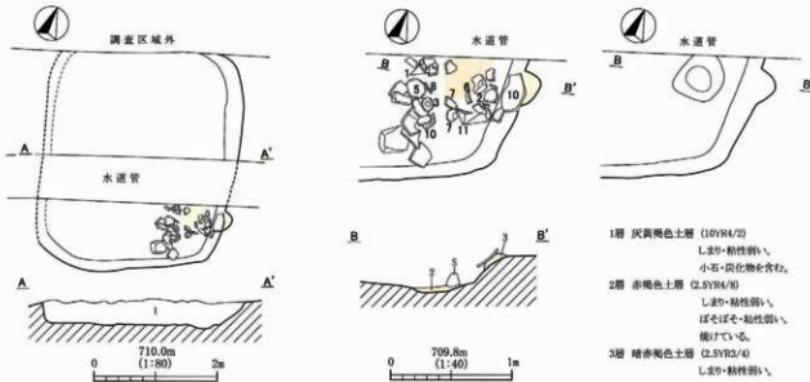
遺物は土師器壺1~4、土師器甕7・8、須恵器壺5・6、須恵器甕9、磨面持つ敲石10が出土した。土師器壺1~4は、内面黒色処理される。土師器甕2・3、須恵器壺5・6の底部は回転糸切り。土師器壺1は底部外周回転ヘラケズリされる。須恵器壺6は、墨書きがみえる。7・8は土師器武藏甕で、「コ」字口縁部を持ち、胴部に最大径がある。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期- 9世紀後半に位置づけられる。

(2) H 2号住居址

タ-30、チ-30・31G r にあり、H 4・H 5を切る。カマドは東壁南隅にあり、礫を芯材とし構築されたとみられる。支脚石が残る火床と煙道の一部が残存するのみである。礫が火床付近に散在する。柱穴等は検出されない。床は平坦で堅く硬質化している。第164図1~8・10・11が、カマド火床や火床前面の床面から集中して出土した。

遺物は土師器壺1・2、土師器高台皿3、土師器甕4、土師器甕8・9、須恵器壺5~7、須恵器甕

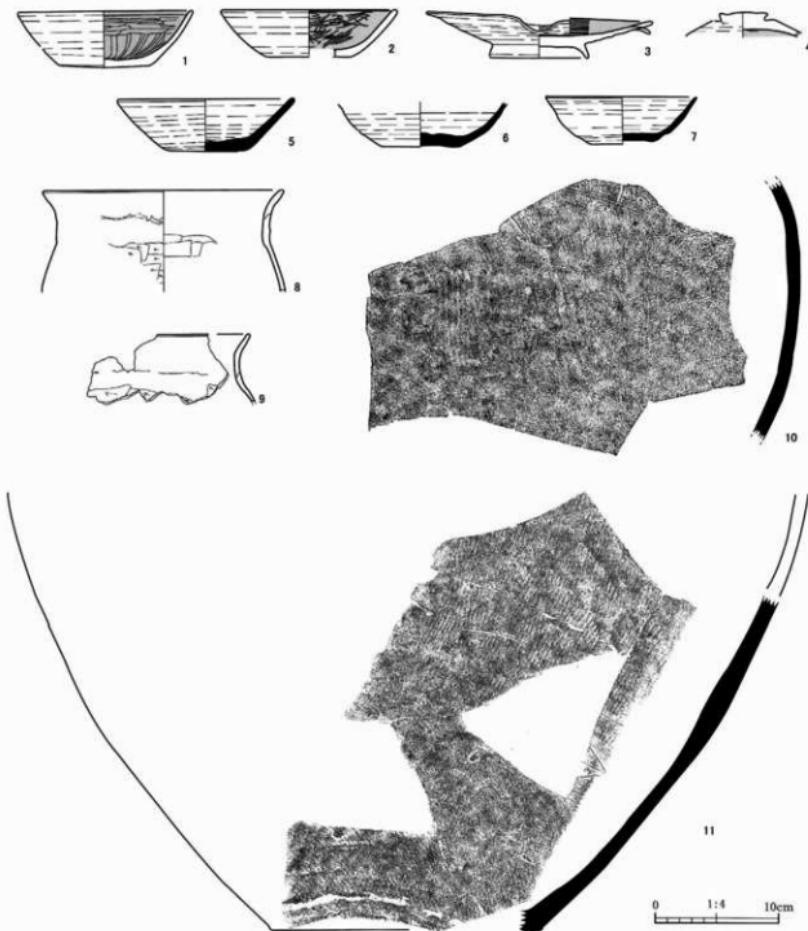


第163図 H 2号住居址(1)

第95表 H 2号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調製・文様		指定値()現存値< >位置		出土位置
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内面	外面	備考		
1	土師器	壺	14.2	7.3	4.6	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	II区、No.10	
2	土師器	壺	14.5	7.0	3.8	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→底部を持ちヘラケズリ	回転実測	No.6	
3	土師器	高台皿	18.4	7.9	3.7	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→底部静止糸切り付高台口縁部繊維花	完全実測	II区、No.3	
4	土師器	甕	-	-	-	ミガキ→黒色處理	ロクロナデ→天井回転ヘラケズリ	完全実測	カマド	
5	須恵器	壺	14.6	6.6	4.25	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	No.2	
6	須恵器	甕	-	6.4	<3.6>	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	II区、No.12	
7	須恵器	壺	12.4	5.2	3.9	ロクロナデ	ロクロナデ→底部回転糸切り	完全実測	I区、II区、No.1	
8	土師器	武藏甕	19.8	-	-	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	回転実測	No.11	
9	土師器	甕	-	-	-	口縁ヨコナデ→胴部ヘラナデ	口縁ヨコナデ→胴部ヘラケズリ	破片実測	II区	
10	須恵器	壺	-	(22.4)	<36.0>	ナデ	タタキ目	回転実測	No.4、No.7、II区、一括	
11	須恵器	甕	-	-	-	-	-	新田実測	No.7	

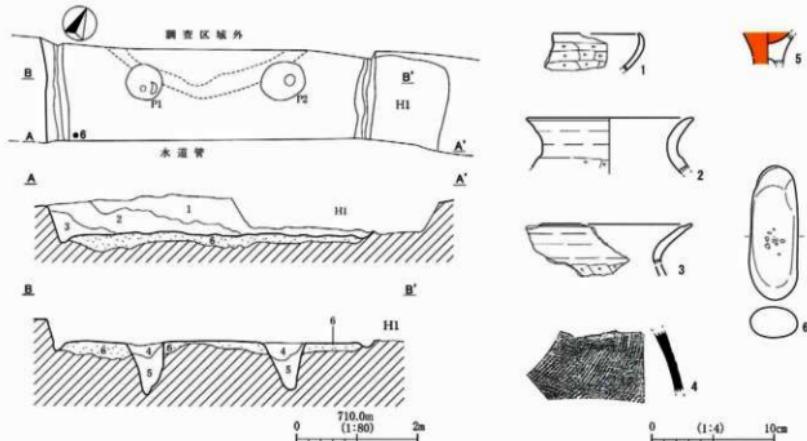


第164図 H2号住居址(2)

10・11が出土した。

土師器1～4は内面黒色処理される。3は片口を有する。土師器壺1と須恵器壺5～7の底部は回転糸切り、土師器壺2は底部手持ちヘラケズリされる。8・9は上師器武藏甕で、「コ」字口縁部を持ち脇部に最大径がある。

本址は、これらの遺物から小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代VI期- 9世紀後半に位置づけられる。



1層 黒褐色土層(10YR3/2)しまりややあり、粘性弱い。黄色の軽石を多量に含む。

2層 單褐色土層(10YR3/3)しまり・粘性弱い。小石を多量に含む。

3層 單褐色土層(10YR3/4)しまり・粘性弱い。黄色ロームブロックを多量に含む。

4層 黑褐色土層(10YR3/1)しまり・粘性弱い。軽石を含む。

5層 黄褐色土層(10YR3/6)しまりややあり、粘性弱い。黒色土とローム土の混合土。

6層 單褐色土層(10YR3/4)しまり・粘性ややあり。黒色土とローム土の混合土。上部硬質化。

第165図 H 3号住居址

第96表 H 3号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量			成形・崩壊・文様			推定値()既存値 < >孔底・ 備考		出土位置
			口径(径)	底径(幅)	厚さ(厚)	内 面	外 面				
1	土師器	壺	-	-	<3.1>	ナデ	ハラケズリ		破片実測	I区	
2	土師器	壺	(13.6)	-	<<4.6>	口縁ヨコナデ	口縁ヨクロナデ 脚部ハラケズリ		脚部実測	I区	
3	土師器	壺	-	-	<4.2>	ナデ	口縁ヨコナデ 脚部ハラケズリ		破片実測	I区	
4	須恵器	壺	-	-	-		タグキ目		断面実測	I区	
5	弥生	高壺	-	-	<2.6>	外縁ハラミガキ=赤彩 脚部ナデ	ハラミガキ=赤彩		完全実測	I区	
No.	器種	材	最大径	最大幅	最大厚	量	所見				出土位置
6	磨・軽石?		11.0	4.1	2.5	176.07	被熱あり? (正面実測)全体に滑らか すりか? 正面中央は敲打痕				

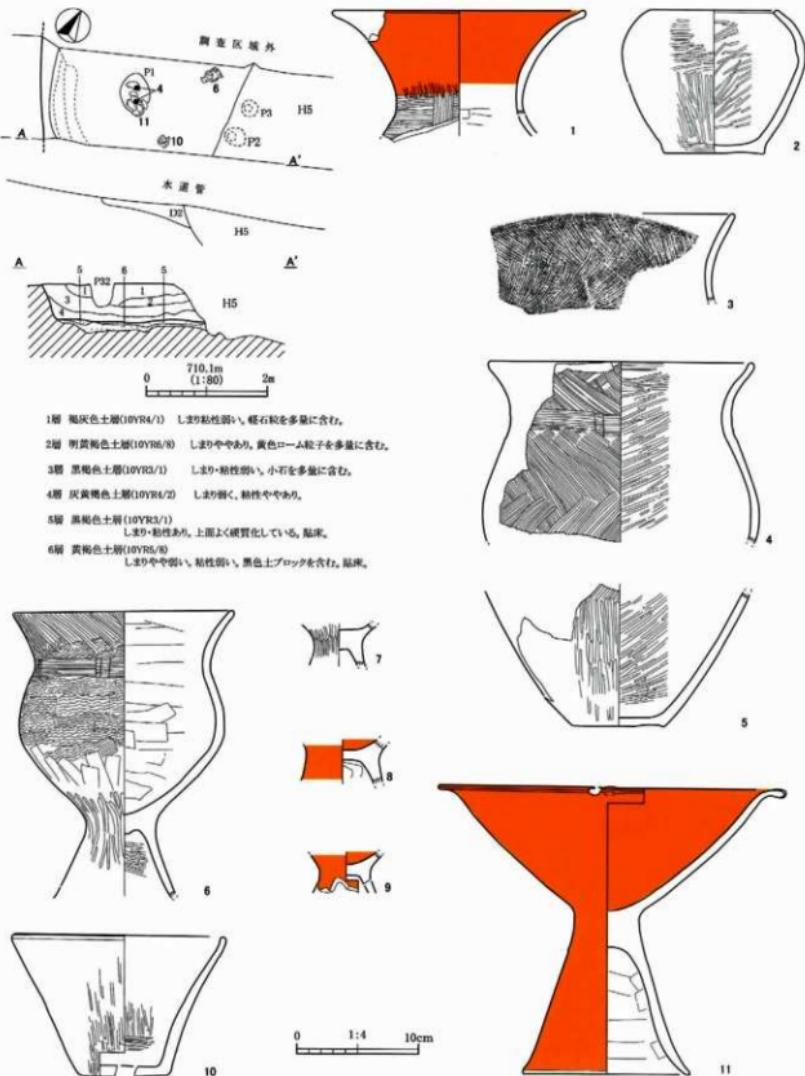
(3) H 3号住居址

チ-33、ツ-33-34G r にあり、H 1に切られ、OT 1を切る。カマドは調査範囲内にはみられない。床は平坦で堅く硬質化している。主柱穴P 1・P 2間は、240cmを測る。東壁・西壁下に壁溝が巡る。遺物は土師器壺1、土師器壺2・3、須恵器壺4、敲石であろう6、混入遺物である弥生時代後期の赤彩される高壺が覆土中から出土した。本址の時期は、遺物少量で判然としないが、1の半球状の土師器壺、「く」の字口縁の土師器壺3から8世紀初頭であろうか。

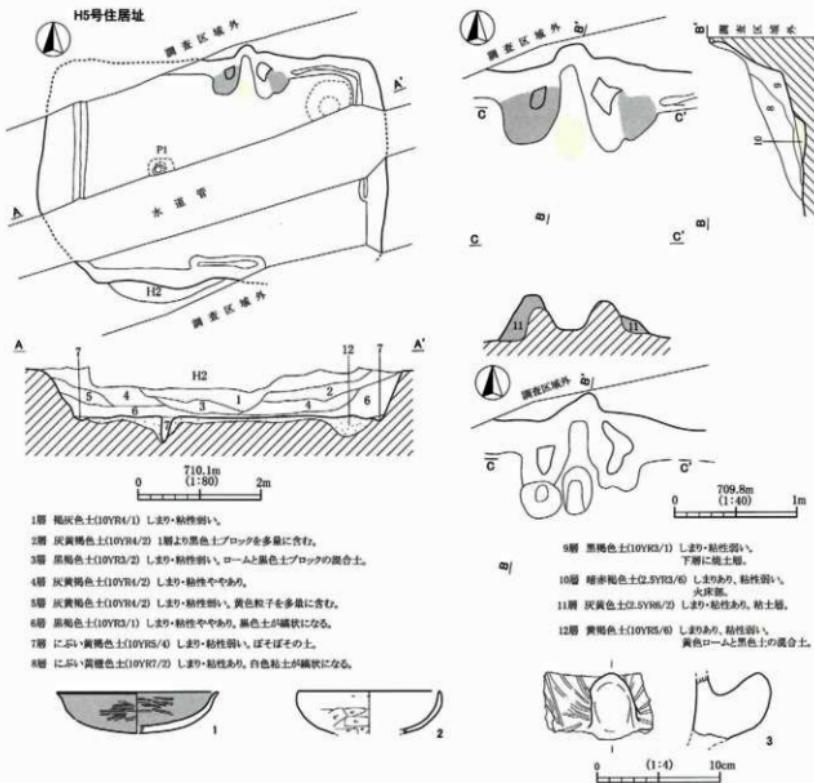
(4) H 4号住居址

チ-31-32G r にあり、H 2・P 32・P 33に切られる。D 2 砥の重複関係は、不明である。炉址は調査範囲内にはみられない。柱穴は3個検出された。P 1はテラスを持ち、79cmを測る深さである。床は平坦でよく硬質化している。遺物は、壺1・2、壺3~5、台付壺6・7、高壺8・9・11、瓶10の弥生土器、覆土からシカの臼歯片が出土した。4はP 1、1はP 2、6・10は床面から出土した。1の壺は赤色塗彩され、頸部横描T字文が施される。4はP 1、1はP 2、6・10は床面から出土した。1の壺は赤色塗彩され、頸部横描T字文が施される。4は無彩の無頸壺である。4の壺は、口縁部横位羽状の櫛描斜走文、頸部櫛描麻状文、胸部横位羽状の櫛描斜走文の順で施文される。6の台付壺は、胸部櫛描波状文、頸部麻状文、最後に口縁部櫛描斜走文が施される。6は口縁部屈曲し鉤状に開く高壺で、内外面赤色塗彩される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第166図 H4号住居址及び出土遺物



第167図 H 5号住居址及び出土遺物

第97表 H 5号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 績			成形・調理・文様		規定値()残存値 < > 丸底 備考	出土位置
			口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	内 面	外 面		
1	土師器	壺	(13.0)	-	<3.4>	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ→黒色処理	完全実測	II区
2	土師器	壺	(11.6)	-	<3.5>	ヨコナデ	ヘラケズリ	回転実測	I区
3	土師器	瓶				ヘラミガキ	ヘラミガキ	破片実測	I区

(5) H 5号住居址

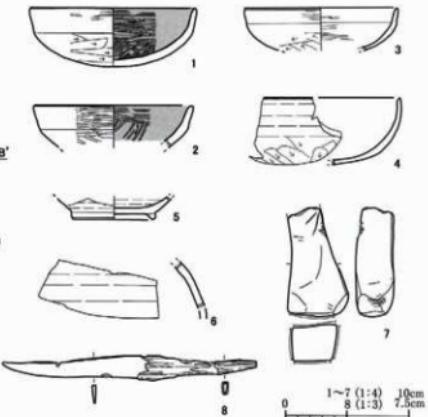
タ・チ-30G r にあり、H 2に切られ、D 2を切る。カマドは北壁や東寄りにあり、袖部地山削り出して、灰黄色の粘土で構築されている。袖部先端の小ピットは、礫を芯材としたことを窺わせる。径18cmの柱痕が確認されたP 1の位置と、主軸が短い事から2本の主柱であろう。床は平坦である。壁溝がカマド東脇から東壁中央にかけてと南壁中央付近、西壁下にみられる。覆土1~6層は、人為埋土である。

遺物は、土師器壺1・2、土師器瓶の把手片が図示できた。1は内外面黑色処理され、半球状で口縁部が短く外反する。本址の時期は、遺物少量で判然としないが、古墳時代後期7世紀代であろうか。

第98表 H 4号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形・調 整・文様		指定値()保存値(< 丸底・ 備考	出土位置
			口径(径) 底径(幅) 高さ(厚)	内 面	外 面				
1	弥生	壺	(20.4)	-	<10.3>	口縁部ヘラミガキ→赤彩 壺底ナデ	無基盤横横窓文 壺底垂下 口縁部ヘラミガキ→赤彩	完全未測	P2
2	弥生	壺	(10.3)	8.1	11.8	ヘラミガキ	ヘラミガキ 底部ヘラミガキ	完全実測	No.4
3	弥生	甕	-	-	-	無	無	新面実測	I区
4	弥生	甕	(21.4)	-	<14.8>	ヘラミガキ	無基盤横窓文 口縁・胸部無横糸窓文	回転実測	No.4, No.5
5	弥生	罐?	-	7.6	<11.1>	ヘラミガキ	無横糸窓文? 下部ヘラミガキ 底部ヘラミガキ	完全実測	No.4, No.5
6	弥生	台付壺	17.9	-	23.5	胴部ヘラナデ 斜面部ハケ目	口部無横窓文状 口縁斜糸窓文 斜面部無横窓文状 傷部無横糸窓文 下半部ヘラナデへ	完全実測	No.3
7	弥生	台付甕	-	-	<3.5>	腹部ヘラミガキ 壺底ナデ	ヘラミガキ	完全実測	I区
8	弥生	高环	-	-	<3.6>	外部ヘラミガキ→赤彩 壺底ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	H4
9	弥生	高环	-	-	<3.3>	底部ヘラミガキ→赤彩 壺底ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測 透かし3ヶ所	I区
10	弥生	甕	17.0	7.2	11.7	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測 1孔	No.2, I区
11	漁生	高环	28.2	13.6	23.8	底部ヘラミガキ→赤彩 壺底ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測 突起あり	No.1, I区



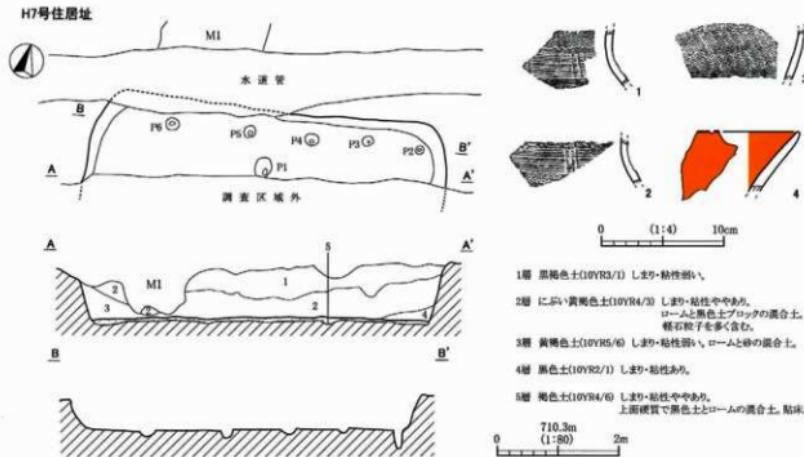
第168図 H 6号住居址及び出土遺物

第99表 H 6号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成 形・調 整・文様		指定値()保存値(< 丸底・ 備考	出土位置
			口径(径) 底径(幅) 高さ(厚)	内 面	外 面				
1	土瓶器	壺	(13.6) (13.0)	4.8	ヘラミガキ→黑色處理	ヘラミガキ→ヘラケズリ		回転実測	
2	土瓶器	壺	(13.0) (12.2)	<3.5>	ヘラミガキ→黑色處理	ヘラミガキ		回転実測	
3	土瓶器	壺	(12.4) (12.2)	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→ヘラケズリ		回転実測	
4	土瓶器	壺	-	-	ヘラミガキ	ロクロナデ→ヘラケズリ		破片実測	
5	灰陶陶器	甕	-	7.8	<1.8>	ロクロクナデ	ロクロクナデ→底部切り離し後高台貼付→灰陶施釉	完全実測	
6	灰陶陶器	甕	-	-	-	ロクロクナデ	ロクロクナデ→灰陶施釉	破片実測	

No.	器種	材質	最大長	最大幅	最大厚	量 量	所 見	出土位置
7	磁石		<9.0>	<5.0>	<3.0>	<184.14>	上部欠損、底面凹凸、右側の縁上と下部に条痕	
8	刀子	金屬製品	15.5	1.5	0.6	<15.84>	ほぼ完形、基部に木質接着	P1



第169図 H 7号住居址及び出土遺物

第100表 H 7号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量			成形・調 整・文 横		補正値()	現存値 < >丸底	備 考	出土地點
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面				
1	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	櫛指波状文、櫛指縞状文	断面実測	凸本		
2	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	櫛指波状文、櫛指縞状文	断面実測	凸本		
3	弥生	壺	-	-	-	ヘラミガキ	櫛指波状文	断面実測	凸本		
4	弥生	高环	-	-	-	ヘラミガキ→赤色塗彩	ヘラミガキ→赤色塗彩	鏡片実測			

(6) H 6号住居址

ツ-33-34、テ-34G r にあり、P 1・P 34に切られ、OT 1を切る。埋め込まれた礫がある焼土の堆積がP 1の東脇から検出された。この付近の覆土には、粘土と焼土ブロックがみられカマドの火床であろう。床は平坦で堅く硬質化している。覆土1・2層は人為埋土である。8の刀子はP 1から出土す。

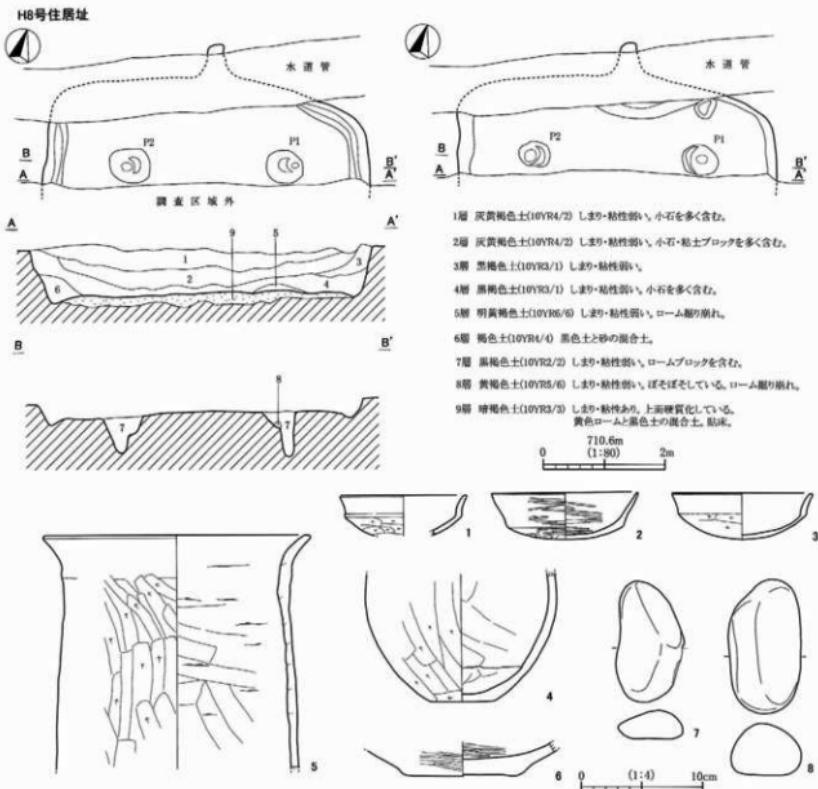
遺物は土師器壺1～4、砥石7、茎部に木質が残存する刀子8、混入遺物の灰釉陶器碗5・壺6がある。1～3は須恵器壺蓋模倣壺で、1・2は内面黒色処理される。4の壺は、丸みを帯びた平底から口縁部が直立する。

これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期7世紀代であろう。

(7) H 7号住居址

タ-27～29、チ-28・29G r にあり、F 1・M 1・P 14に切られる。炉は調査範囲には、検出されない。ピットは6個検出された。壁柱穴P 2～P 6は、北壁下に配列されている。径は16～34cmのほぼ円形で、深さは4.5～28cmを測る。楕円形で深さ55cmのP 1は、位置的に棟持柱であろう。床面は、平坦で堅く硬質化している。覆土2層はロームと黒色土ブロックの混合土、3層はロームと砂の混合土で人為埋土である。遺物は、1～3の壺、内外面赤色塗彩される4の高壺がある。1・2は、口縁部・胴部櫛波状文、頸部に櫛描縞状文が施される。2は櫛波状文施用後頸部縞状文が施される。

これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第170図 H8号住居址及び出土遺物

第101表 H8号住居址出土遺物観察表

(cm)

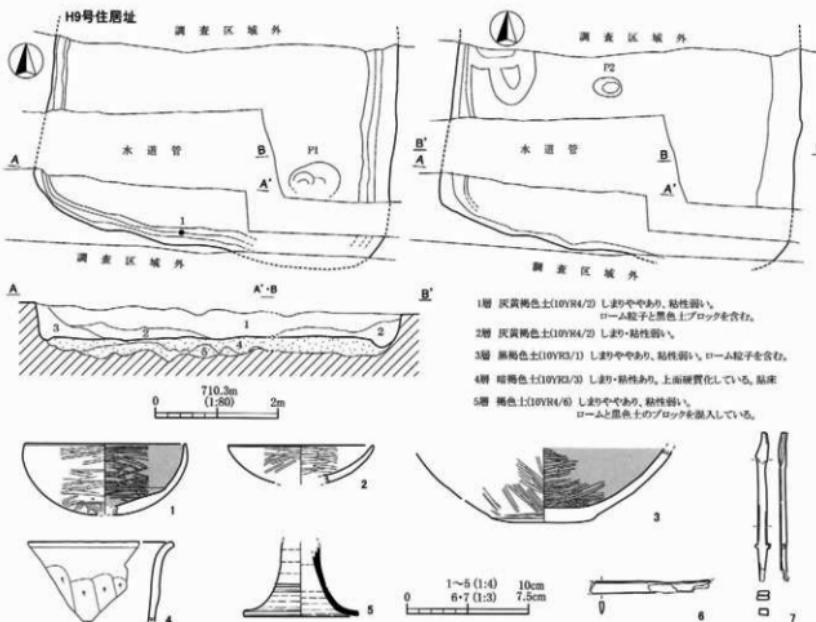
No.	種別	器種	法量			成形・調整・文様		測定値()残存値< >丸底・ 直輪実測	備考	出土位置
			口径(径)	底径(幅)	壁高(厚)	内面	外面			
1	土師器	环	(10.4)	(9.6)	<3.3>	ナデ	ヘラケズリ、口縁ヨコナデ	田輪実測		
2	土師器	环	(12.0)	(9.4)	3.3	ヘラミガキ	ヘラケズリ→ヘラミガキ	田輪実測		
3	土師器	环	(11.4)	(10.4)	3.8	ナデ	ヘラケズリ、口縁ヨコナデ	田輪実測		
4	土師器	盤	-	(5.4)	<10.6>	ヘラナテ	ヘラケズリ	田輪実測		
5	土師器	盤	(22.0)	-	<19.1	ヘラナデ	ヘラケズリ	田輪実測	P1	
6	陶生	盤	-	9.9	<2.8>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	完全実測	P1	
No.	器種	素材	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
7	縄文物石		9.9	5.7	2.5	199.73	右側に摩損した剥離痕。抉りか?			
8	縄文物石		11.0	5.9	4.3	409.01				

(8) H 8 号住居址

ゾー23・24 G r にあり、カマドは北壁中央に煙道部の一部が残存する。床はほぼ平坦で堅く硬質化している。いずれもテラスを持つ主柱穴 P 1・P 2 間は、280cm を測る。北壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器壺 1~3、土師器甕 4・5、編み物石 7・8、混入遺物である弥生時代後期の甕がある。5・6 は P 1 から出土。1~3 は須恵器壺蓋模倣の壺で、体部と口縁部の境に稜を有する。5 は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縱長にヘラケズリされる。

これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期 7 世紀代に位置づけられる。



第171図 H 9号住居址及び出土遺物

第102表 H 9号住居址出土遺物観察表

No.	種別	器種	法 量			成 形・調 球・文 標		推定値()現存値<→丸底・ 凸底・凹底	出 土 位 置
			口径(段)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面		
1	土師器	壺	(13.0)	-	<4.8>	ヘラミガキ→黒色油墨	ヘラクズリ→ヘラミガキ	回転実測	No1 H 10裏方
2	土師器	壺	(12.0)	-	<3.1>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	II 区
3	土師器	甕	-	8.4	<6.0>	ヘラミガキ→黒色油墨	ヘラミガキ	回転実測	II 区
4	土師器	甕	-	-	-	ヘラミガキ	ヨコズレ→ヘラケズリ	破片実測	II 区裏り方
5	須恵器	高壺	-	(9.4)	<6.0>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実測	II 区
No., 器種, 材質, 厚さ, 最大径, 最大厚, 重 量									
6	刀子	鉄製品	<7.3>	<0.7>	<0.3>	<4.39	両端欠損	振り方 II 区	
7	長柄鏡	銅製品	<9.0>	0.9	0.4	<7.86>	鏡身部が折れ曲がる、下部欠損、棒状開	振り方 II 区	

(9) H 9号住居址

ス・セ-21-22G r にあり、H10を切る。カマドは調査範囲では確認されない。床はほぼ平坦で堅く硬質化している。P 1は深さ59cmで位置的にも主柱穴であろう。P 2は、掘方から検出された。南壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器壺1・2、土師器鉢3、土師器甕4、須恵器高杯5、刀子6、長頸鎌7がある。4・6・7は掘方から出土。1・2とも半球状の壺で、1は内面黒色処理される。3の大型の鉢の内面黒色処理される。4は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

これらから、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代I期-8世紀第1四半期に位置づけられる。

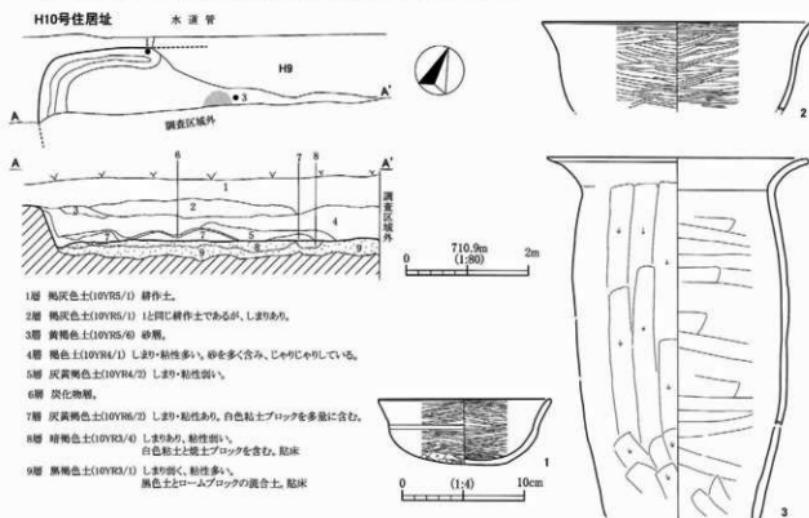
(10) H10号住居址

セ-21-22G r にあり、H 9に切られる。カマドおよびピットは、調査範囲では確認されない。が、覆土7層に多量の白色粘土が含まれ、第172図3が出土した地点床面にまとまった白色粘土がみえ、北壁にカマドが存在したと想定できる。床はほぼ平坦で堅く硬質化している。覆土7層の上部中央から西にかけて炭化物の堆積がみられた。南壁・東壁・西壁下に壁溝が巡る。

遺物は土師器壺1、土師器鉢2、土師器甕3がある。1は壁溝内、3は床面から出土。

1・2とも内面黒色処理される。1は須恵器壺蓋模倣の壺で、体部と口縁部の境に稜を有する。3は口縁部に最大径を持ち、長い胴部外面は、縦長にヘラケズリされる。

これらの遺物から、古墳時代後期7世紀代に位置づけられる。

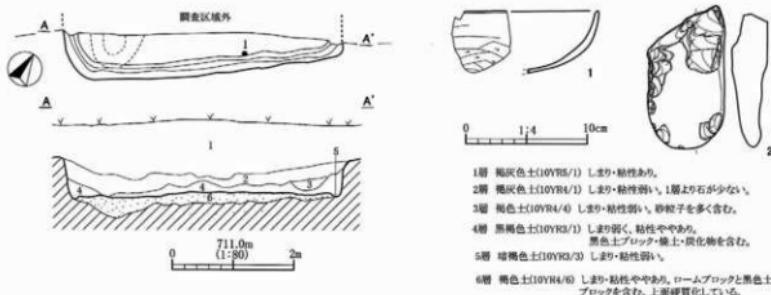


第172図 H10号住居址及び出土遺物

第103表 H10号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()既存値< >丸底・	
			口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	内 面	外 面	備 考	出土地
1	土師器	壺	14.2	12.3	5.4	ヘラミガキ、黒色処理	ヘラケズリ→ヘラミガキ	完全実測	No1
2	土師器	鉢	(22.2)	-	<7.3>	ミガキ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	回転実測	H10
3	土師器	甕	21.2	-	<29.8>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No2



第173図 H11号住居址及び出土遺物

第104表 H11号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	基盤	法面			成形・調整・文様			備考	出土位置
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内面	外面			
1	土師器	环	-	-	-	ヘラミガキ	ヨコナデ→ヘラケズリ		破片実測	
No.	面種	質材	最大径	最小径	最大厚	重量	形見			出土位置
2	敲き石		11.8	6.4	3.0	286.46	両側から敲打、上部の欠損も敲打によるものか			

(11) H11号住居址

セ-23G r にあり、カマドおよびピットは、調査範囲では確認されない。掘方の埋土にはロームブロックと黒色土ブロックが含まれる。この上面の床は、ほぼ平坦で堅く硬質化している。南壁・西壁下に壁溝が巡る。覆土4層には、黒色土ブロック・焼土・炭化物が含まれる。

遺物は土師器半球状の環1、敲き石2がある。

遺物少量であるが本址の時期は、古墳時代後期であろうか。

(12) H12号住居址

ス-20G r にあり H13に切られ、H17を切る。北壁中央のカマドは、灰白色の粘土と暗褐色の砂質土で構築されている。袖部先端は礎を芯材としこれらの構築土で被覆している。火床に横たわる横長の礎は、カマド媚石であろうか。床下の掘方埋土は、黄色ローム・黒色土ブロックの混合土で、上面の床は堅く硬質化している。ピットは、検出されない。

遺物は土師器環1・2、土師器甕3~6、須恵器短径壺7がある。1・3~5はカマドから出土。

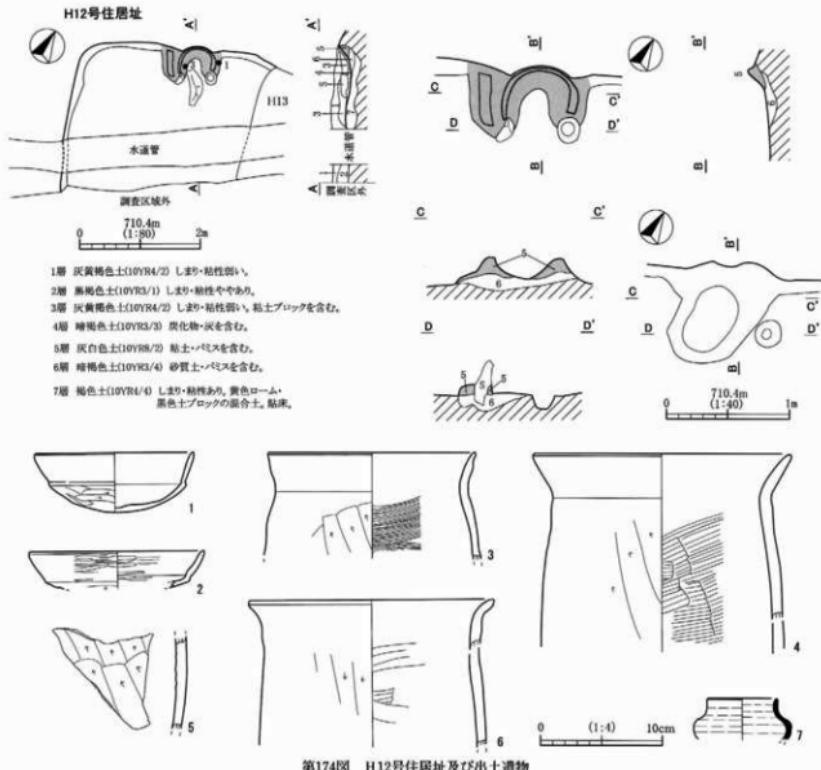
1・2は須恵器環蓋模倣の環で、体部と口縁部の境に段を有する。3・6は胴部に最大径を持ち、長い胴部外面は縱長にヘラケズリ、内面ハケメ調整される。

これらの遺物から本址の時期は、小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期-6世紀中葉~7世紀初頭に位置づけられる。

第105表 H12号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	基盤	法面			成形・調整・文様			備考	出土位置
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内面	外面			
1	土師器	环	(13.0)	(11.8)	4.9	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ		完全実測	No1 カクラン
2	土師器	环	(12.4)	(11.8)	<3.5>	ヘラミガキ	ヘラミガキ→ヘラケズリ		回転実測	II区
3	土師器	甕	(17.0)	-	<8.6>	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ヘラケズリ		回転実測	No2
4	土師器	甕	(21.2)	-	<16.4>	ヨコナデ→ハケメ	ヨコナデ→ヘラケズリ		回転実測	カマド、II区
5	土師器	甕	-	-	-	ハケメ	ヘラケズリ		破片実測	カマド
6	土師器	甕	(20.0)	-	<12.2>	ハケメ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ		回転実測	II区、H14
7	須恵器	面	(5.6)	-	<3.4>	ロクロナデ	ロクロナデ		回転実測	カクラン



第174図 H12号住居址及び出土遺物

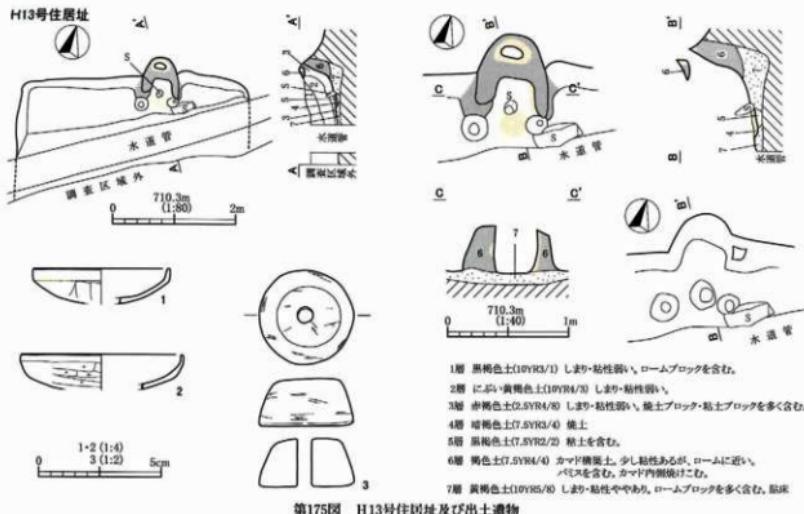
(13) H13号住居址

ス-20G rにありH13に切られ、H17を切る。北壁中央に設置されているカマドは、床下掘方の埋土7層の上面に少し粘性あるがロームに近い褐色土で構築されている。袖部先端の小ピットは、襖を芯材としたことを窺わせる。火床には、支脚石が残存する。斜上方に伸びる煙道部も一部原形を留めていた。煙道残存部の最上面は平面形が楕円形を呈し、長軸18cm短軸10cmを測る。煙道部の立ち上がりは、ほぼ垂直に近く壁の上端あたりで70度の傾斜で住居外上方に延びる。煙道部の内側・左右の袖部内側は、比熱でよく焼け込んでいる。火床にも焼け込みがみられる。

床下の掘方埋土は、ロームブロックを多く含む黄褐色土で、上面の床は堅く硬質化している。柱穴は、検出されていない。

遺物は土師器壺1・2、滑石製の紡錘車がある。1は須恵器壺身模倣壺で、体部と口縁部に稜を有し口縁部が直立する。2は半球状で口縁部内湾する。

これらの遺物から本址の時期は、小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀代に位置づけられる。



第175図 H13号住居址及び出土遺物

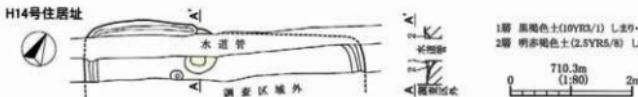
第106表 H13号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	断面	法 量			成形・調査・文様		推定値()既存値< >丸底・ 備考	出土位置
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面		
1	土器器	环	(11.2)	(11.0)	<2.9>	ナデ	ロクロナデ 口縁ヨコナデ	目測実測	I区
2	土器器	环	(13.2)	-	<2.9>	ナデ	ロクロナデ 口縁ヨコナデ	目測実測	II区
No. 種 類 製 材 最大径 最小径 最大厚 重 量 所 在 地 出土位置									
3	防護率	石製品	3.9	2.6	2	48.95	丸縁0.6		北面コーナー 磨土

(14) H14号住居址

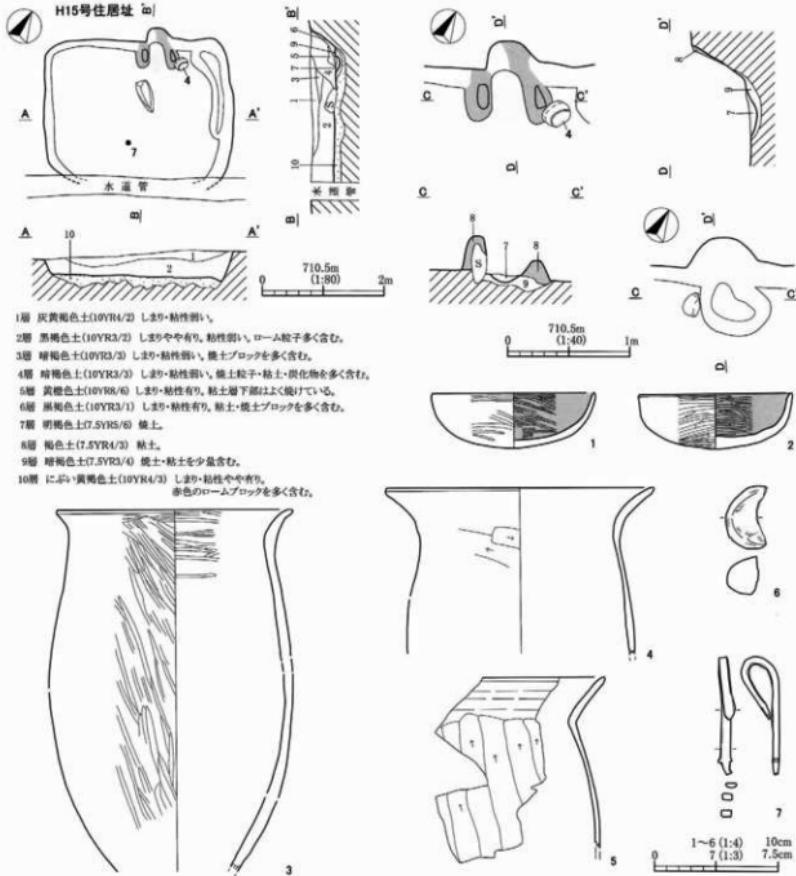
シ・ス-18G r にあ、H19を切る。北壁中央を通り東西に設置された水道管に、カマドの大半が破壊されている。北壁中央よりやや西寄りに床面から16cmの深さによく焼け込んだ部分があり、カマドの火床残存部とみられる。P 1は柱穴としたら、カマドに近接しすぎである。北壁から西壁と東壁下を壁溝が巡る。床面はほぼ平坦である。本址の時期は、出土遺物が武藏壺・須恵器坏小片のみであるが、H19を切っており古墳時代後期6世紀中葉から7世紀初頭以降の平安時代であろうか。



第176図 H14号住居址

(15) H15号住居址

サ・シ-17-18G r にあり、H19-D 3を切る。北壁中央やや東寄りのカマドは、礫を芯材とし褐色の粘土で被覆し構築されている。カマド前方に横たわる横長の礫は、カマド媚石であろうか。火床はよく焼けている。覆土5層の粘土下部はよく焼けており、壊れたカマド構築土の一部とみられる。



第177図 H15号住居址及び出土遺物

第107表 H15号住居址出土遺物觀察表

No.	種別	品種	法 異						成 形・調 整・文 種			規定値()	
			口幅(高)	底幅(高)	高さ(高)	内 面			外 面		備 考	出土位置	
1	土師器	杯	13.2	-	4.5	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ			完全実測	Ⅱ区、一括		
2	土師器	杯	12.4	-	4.6	ヘラミガキ→黒色処理	ヘラミガキ			完全実測	Ⅰ区		
3	土師器	甌	19.4	-	<29.7	ナデ→ヘラミガキ	ヘラミガキ			完全実測	Ⅰ区、Ⅱ区、Ⅲ区		
4	土師器	甌	22.0	-	<13.7	ナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ			完全実測	No.1. カマド		
5	土師器	甌	-	-	-	クロナデ→ヘラナデ	クロナデ→ヘラケズリ			破片実測	Ⅰ区、Ⅱ区		
No.	基 標	材質	底大長	底大幅	底大厚	重 量	所	見				出土位置	
6	磨石	研石	<5.1	<3.4>	<3.0>	<26.54>	右側欠損	全体にすり				Ⅲ区ホリカ	
7	長鏡頭	鉄製鏡	7.2	0.8	0.5	10.25	波状完形	折れ曲がる	難伏闇			No.3	

床下掘方埋土は赤色のロームブロック多く含み、上面がほぼ平坦な床である。ピットは検出されない。4の甕はカマド右袖部先端から、7の鐵鎌は南壁よりの覆土2層から検出された。

遺物は、土師器壺1・2、土師器甕3～5、磨石6、鐵鎌7がある。1は浅い半球状で口縁部が素直に開く。2は丸底から口縁部直立気味に立ち上がる。1・2は内面黒色処理される。3の甕は口縁部径と胴部径がほぼ等しく、外面ヘラミガキされる。4・5の甕は、口縁部に最大径を持つ。7は長頸有棘鐵身柳葉形造込両丸の鐵鎌で、先端近くから折れ曲がっている。

これらの遺物から本址の時期は、古墳時代後期7世紀終末に位置づけられる。

(16) H16号住居址

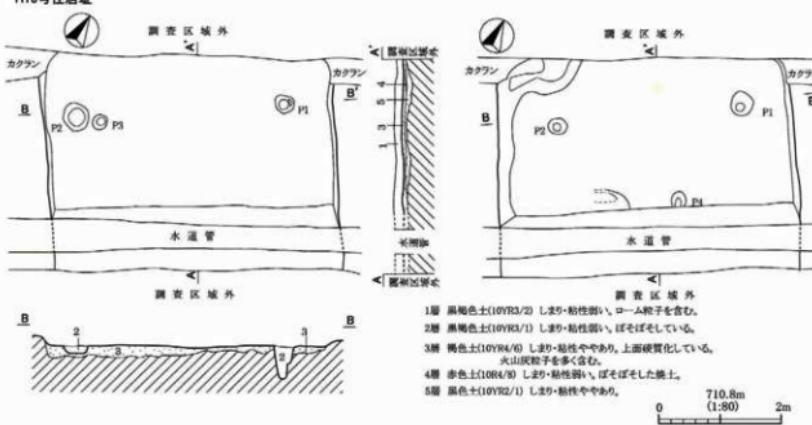
コ-14～16、サー15・16G rにありD 5を切る。住居址北と南側は調査区域外に伸びる。

カマド・炉は、調査範囲では確認されない。P 1とP 3の柱間中央3層の下掘方埋土上部に厚さ5cmほどのぼそぼそした焼土がみられた。

ピットは4個検出された。P 4は床下から発見された。主柱穴P 1とP 3の柱間は、3mを測る。主柱穴P 3西脇のP 2は、支柱穴であろうか。3層上面の床は、ほぼ平坦で堅く硬質化している。

出土遺物は武藏甕、須恵器壺・甕、弥生後期壺・壺の小片のみであるが、平安時代であろうか。

H16号住居址



第178図 H16号住居址

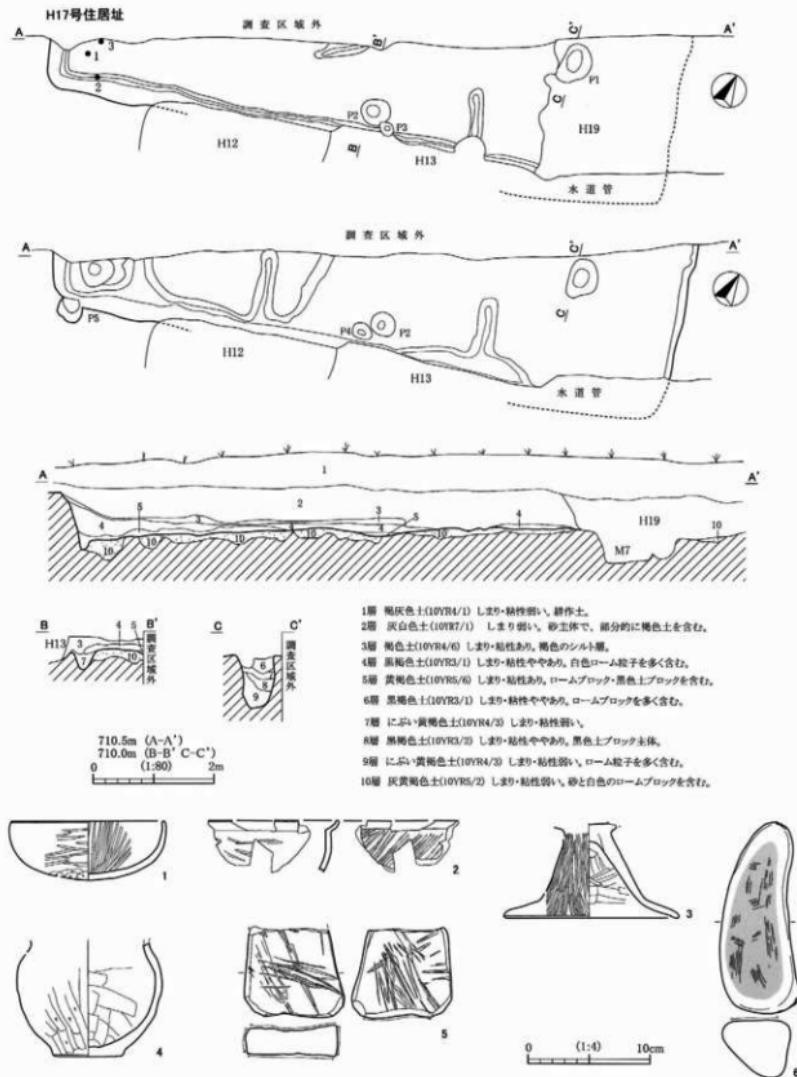
(17) H17号住居址

シ-19・20、ス-19～21G rにあり、H12・H13・H19・M17に切られる。住居址大半は、北側の調査区域外に伸びる。ピットは4個検出された。P 4は床下から発見された。P 2～P 4は、南壁中央下に位置し、入口施設の基礎であろうか。P 1は主柱穴とみられる。南壁下から中央に向けて幅20cm深さ20cmの間仕切溝が伸びている。P 2の西側にもほぼ同様な溝がある。床下から検出された。P 2の北側には、東西方向の幅20cm深さ7cm前後の溝がある。床下の掘方埋土は、砂と白色のロームブロックを含み、上面がやや凹凸のある床である。1～3が南東隅の床面から出土。

遺物は土師器壺1・2、土師器高杯3、土師器甕4、敲石5、磨面持敲石6がある。

1は半球状で口縁部や内窯する。2は内外面ミガキで体部内窯しながら立ち上がり、口縁部短く内窯しながら強く外反する。

本址はこれらの遺物から、古墳時代5世紀後半から6世紀初頭に位置づけられる。



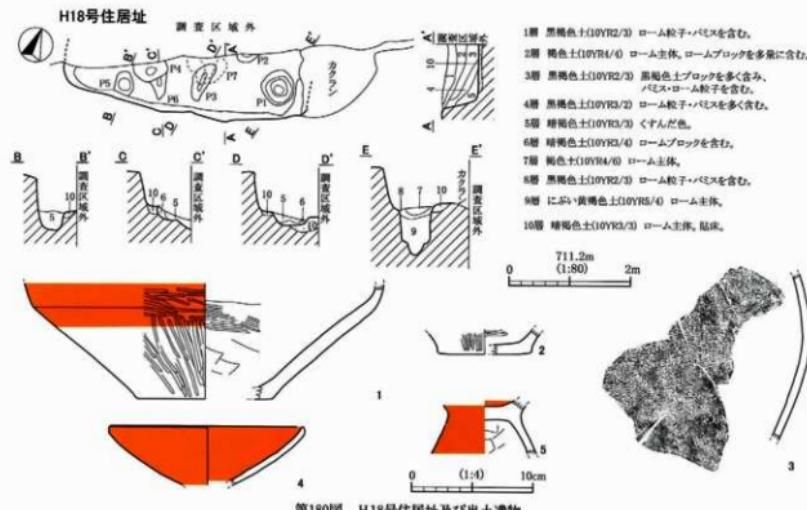
第179図 H17号住居址及び出土遺物

第108表 H17号住居址出土遺物観察表

No.	種別	形態	法 番			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・ 偏考	出土位置
			口径(Φ)	底径(Φ)	高さ(Φ)	内 面	外 面		
1	土師器	壺	(12.6)	-	<4.9>	縦文	ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	東ハシ
2	土師器	壺	-	-	-	縦文	ヘラミガキ	微動実測	Ⅱ区、一階
3	土師器	高壺	-	(14.4)	<7.8>	ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実測	No.1
4	土師器	壺	-	5.7	<9.7>	ヘラナデ	ヘラケズリ	完全実測	No.3
No.	圖 種	材	底大長	底大幅	底大厚	重 量	所 見		出土位置
			15.9	6.4	4.8	699.34	上部端部に素打痕 正面に斷面なすり面		
5	磁石	-	<7.6>	<8.2>	<3.0>	<274.06>	上部欠損 磁石数5 正面に朱痕有		Ⅱ区
6	磨・鉛石	-	-	-	-	-			Ⅱ区

(18) H18号住居址

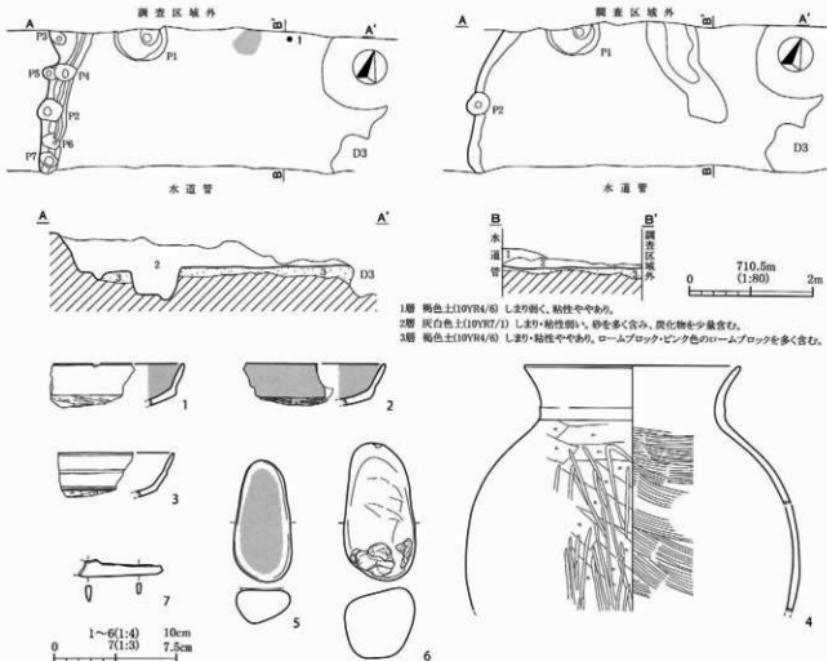
キ・ク-10-11G r にあり住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。ピットは6個検出された。P 1は、南壁下床下から発見された。底面近くに1周するテラスを有し、深さ88cmと深い。位置的に貯蔵穴であろうか。対のP 3・P 4は、南壁中央下に位置し、入口施設の基礎と思われる。P 5・P 6も対をなしている。P 2は、配置場所から主柱穴とみられる。床面は平坦で堅く締まる。覆土2~5層は、人為埋土であろう。遺物は、1の外面胴部赤色塗彩される壺、3の櫛描波状文施文される甕、外面赤色塗彩の鉢4、壺部内外面・脚部外面赤色塗彩の高壺がある。多くの遺物が東側覆土から出土。これらの遺物から、本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。



第180図 H18号住居址及び出土物

第109表 H18号住居址出土遺物観察表

No.	種別	形態	法 番			成形・調整・文様		推定値()残存値< >丸底・ 偏考	出土位置
			口径(Φ)	底径(Φ)	高さ(Φ)	内 面	外 面		
1	弥生	壺	-	(11.0)	<9.5>	ハケ目の残るナデ	ヘラミガキ 前部赤彩	回転実測	E区
2	弥生	壺	-	(7.4)	<2.7>	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転実測	W
3	弥生	壺	-	-	-	-	櫛描波状文	断面実測	E区
4	弥生	鉢	(15.6)	-	<4.9>	ヘラミガキ→赤彩	ヘラミガキ→赤彩	回転実測	E区
5	弥生	高壺	-	-	<4.4>	壺部ヘラミガキ→赤彩 庫部ナデ	ヘラミガキ→赤彩	完全実測	E区



第181図 H19号住居址及び出土遺物

第110表 H19号住居址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	底面			形成・調査・文様			推定値()既存値< >丸底・ 圓筒	出土位置
			口径(幅)	底径(幅)	基底(厚)	内 面	外 面			
1	土師器	壺	-	-	<3.5	ヘラミガキ→黒色処理	ロコロナデ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	破片実測		
2	土師器	壺	-	-	<4.4	ヘラミガキ→黒色処理	ロコロナデ 底部ヘラケズリ→ヘラミガキ→黒色処理	破片実測		
3	土師器	壺	-	-	<3.6	ナデ→ヘラミガキ	口縁ヨコナデ 沈堆? 底部ヘラケズリ	破片実測	Ⅱ区	
4	土師器	壺	(17.6)	-	<20.1>	口縁ヨコナデ 前部ハケ	口縁ヨコナデ 前部ヘラケズリ→ヘラミガキ	回転実測	H15.8区、一括	
No.	種別	器種	底面	材	最大長	最大幅	最大厚	面積	所	地
5	磨石		9.9	4.8	3.0	194.00	正面にすり面			
6	敲石		11.3	5.8	5.4	506.63	正面に敲打痕			
7	刀子		<5.2>	<1.0>	<0.3>	<4.24>	刃部欠損			

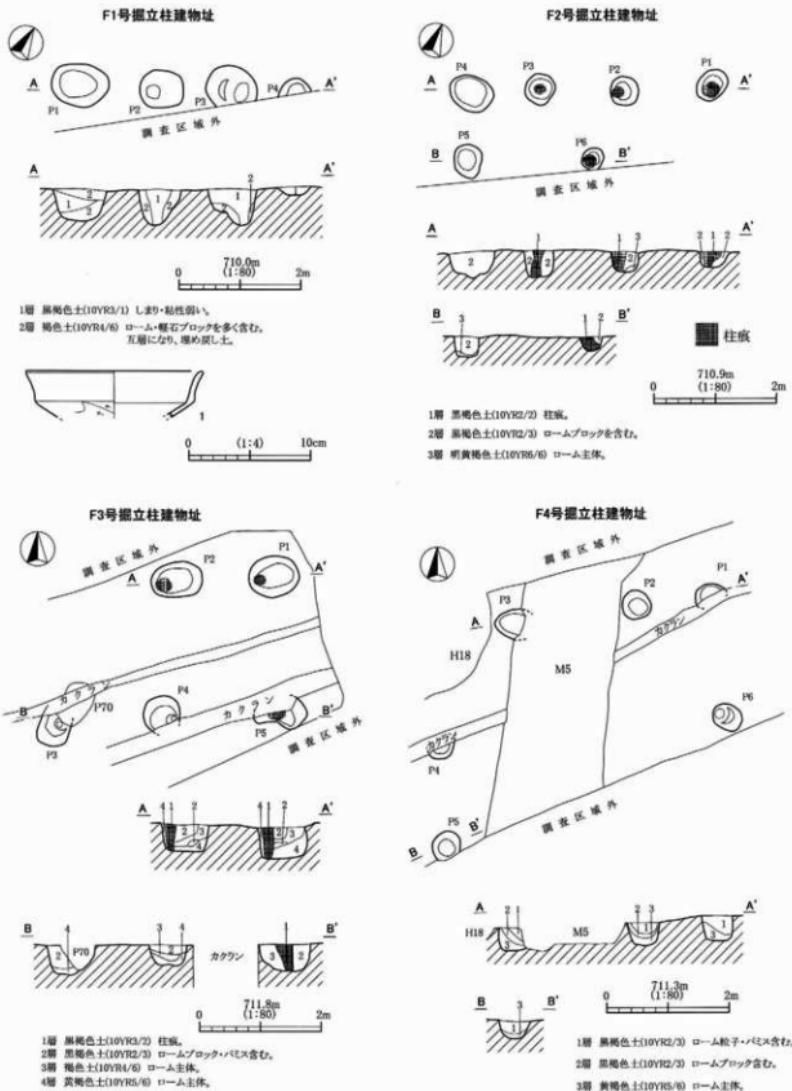
(19) H19号住居址

シ-18 G R にあり住居址大半は、北側の調査区域外に延びる。H15・D 3 に切られ、H17・M 7 を切る。ピットは、7 個検出された。P 1 は主柱穴、西壁・壁溝内に壁柱穴 P 2 ~ P 7 がほぼ均等な間隔で並ぶ。P 1 束の床面に幅40cm 厚さ40cm の粘土の塊がみられた。床面はほぼ平坦である。

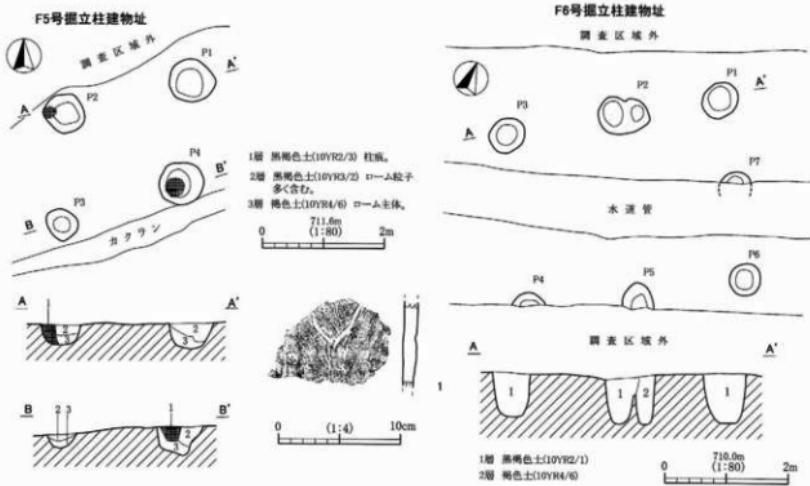
遺物は、須恵器壺蓋模倣の体部と口縁部に稜を有す土師器壺 1 ~ 3、土師器壺、刀子 7、磨石 5、敲石 6 がある。本址の時期はこれらの遺物から古墳時代 6 世紀中葉から 7 世紀初頭に位置づけられる。

第2節 捩立柱建物址

(1) F 1 号撩立柱建物址



第182図 F 1号・F 2号・F 3号・F 4号掘立柱建物址



第183図 F 5号・F 6号掘立柱建物址及び出土遺物

第111表 掘立柱建物址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法 量			成形・調整・文様		推定値()既存値(<丸底)・ 備考	
			口径(奥)	底径(幅)	高さ(厚)	内 面	外 面	出土位置	
1	土師器	壺	(14.4)	(13.0)	<3.8>	ヨコナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ	回転実測	F1P2
2	陶文	-	-	-	-			新底実測 35本 加留利 E M	F5P2

タ-27 G r から検出された。南側調査区域外に延び、側柱式建物址か縦柱式建物址かは不明である。柱間120cm、柱穴は楕円形で長径68~92cm深さ47~63cm。出土遺物は、P 2 から 1 の須恵器壺蓋模倣の体部と口縁部境に稜を有す土師器壺、P 1 から古墳時代後期の壺片、P 2 から弥生後期土器片・土師器内面黒色処理される土師器壺片が出土、本址の時期は古墳時代後期遺構である。

(2) F 2号掘立柱建物址

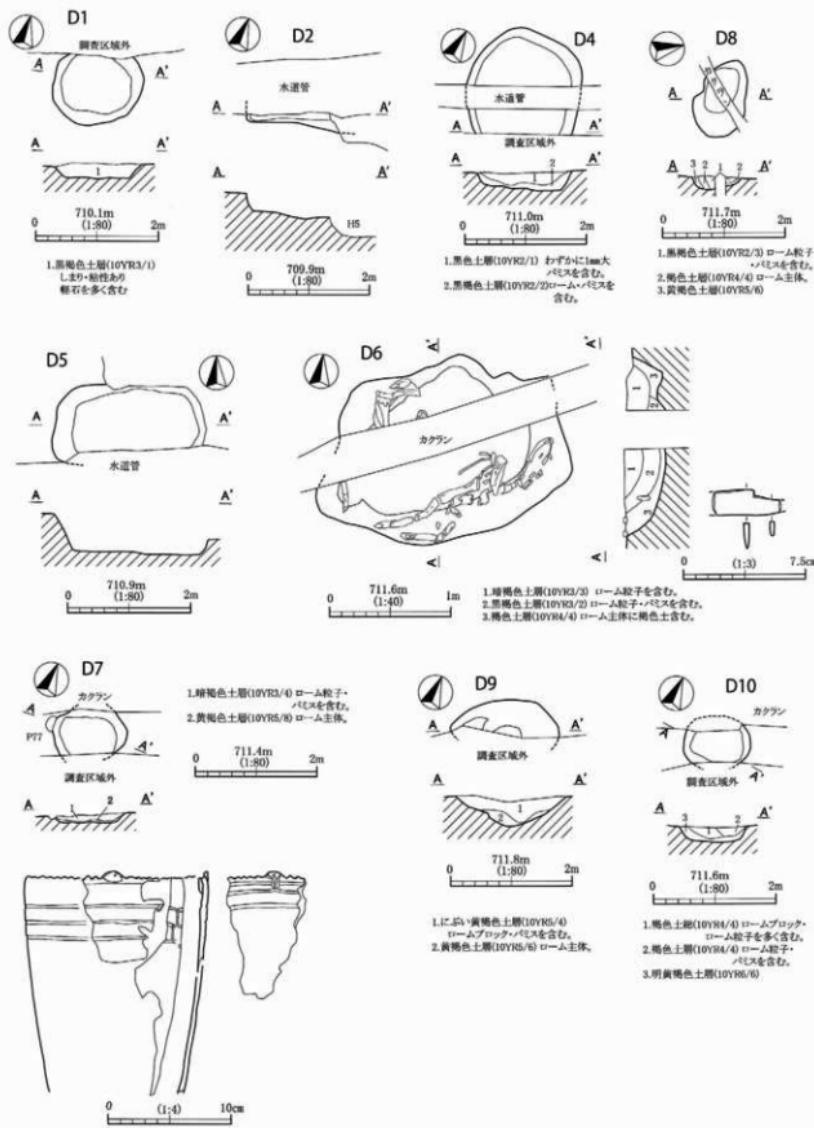
オ・カ-4 G r から検出された。南側調査区域外に延びる3間×?の側柱式建物址。軸方位はN-70°-Eで、桁行柱間120~140cm梁行柱間120cm。柱穴は長径40~74cmの円形・楕円形で深さ28~55cm断面逆梯子形、柱痕は20~26cm。遺物はP 4 から古墳後期の土師器壺小片で、本址の時期は不明である。

(3) F 3号掘立柱建物址

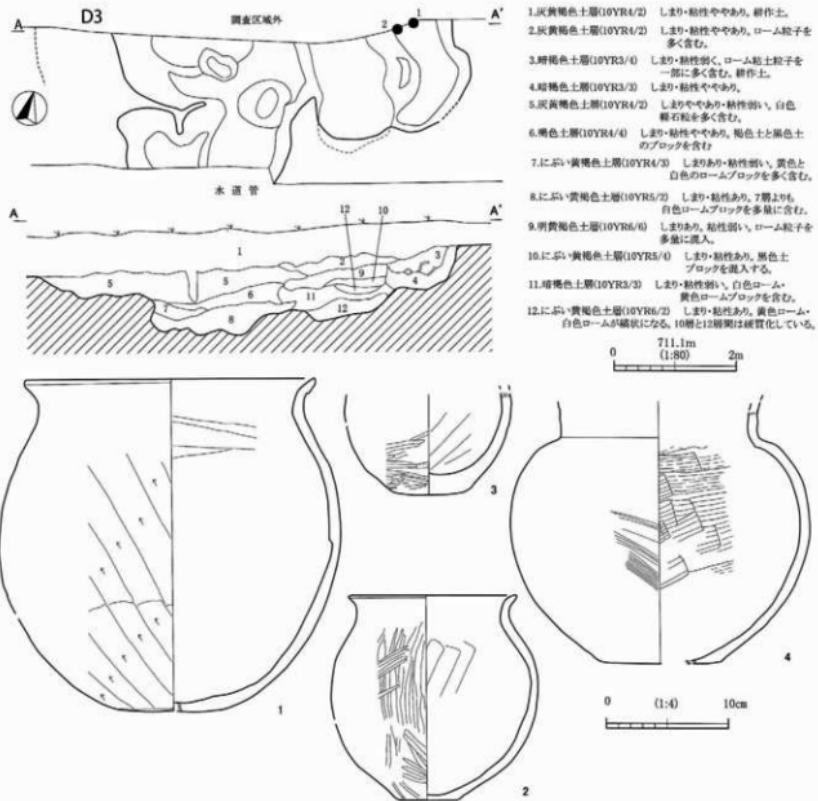
オ-3 G r から検出され、1基が欠落か? 2間×1間の側柱式建物址。軸方位はN-84°-EでP 70 に切られる。柱間は桁行160~180cm梁行220cm。柱穴は長径80~90cmの楕円形で深さ47~56cm断面逆梯子形・U字形、柱痕は20~28cm。遺物はP 5 から古墳後期土師器壺小片あるが、本址の時期は不明。

(4) F 4号掘立柱建物址

キ・ク-9・10 G r から検出され、M 5 に切られ、一部攪乱にかかる。3間×2間の側柱式建物址。軸方位はN-84°-Eで、桁行480cm梁行360cm、柱間は桁行120・200cm梁行160・200cm。柱穴は長径45~50cmの円形・楕円形で深さ32~49cm断面逆梯子形・U字形。出土遺物は皆無であり、本址の時期は不明。



第184図 D 1号・D 2号・D 4号・D 5号・D 6号・D 7号・D 8号・D 9号・10号土坑及び出土遺物

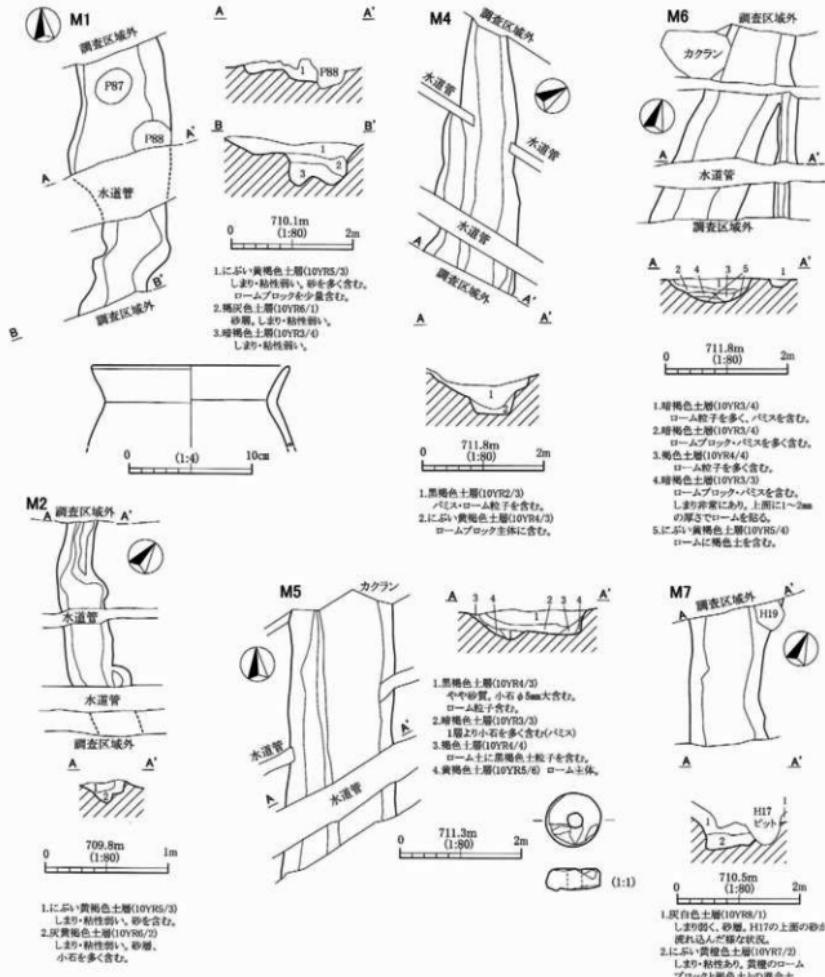


第185図 D 3 土坑及び出土遺物

第112表 土坑出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法量			成形・調製・文様			備考	出土位置
			口径(径)	底径(幅)	高さ(厚)	内面	外面			
1	土師器	壺	24.0 (8.4)	27.3	ヨコナデ→ヘラナデ	ヨコナデ→ヘラケズリ			完全実測	D11
2	土師器	壺	13.8 (4.8)	16.9	ヘラナデ→ヨコナデ	ヘラケズリ→ヘラミガキ			完全実測	D1Ⅱ区市り方
3	土師器	壺	-	6.6	<8.3> ヘラナデ	ハケ目→ヘラミガキ			完全実測	D1
4	土師器	壺	-	(10.0)	<21.5> ハケ目	ハケ目 磨耗			回転実測	D1Ⅱ区
No.	種別	器種	最大径	最大幅	最大厚	重量	所見			出土位置
1	刀子	鉄製品	<4.1>	<1.6>	<0.3>	<6.35>	肉端欠損			D6
No.	種別	器種	法量	成形・調製・文様				備考	出土位置	
1	鏡文	深鉢	(15.0)	-	<18.5>					回転実測 加替利D1

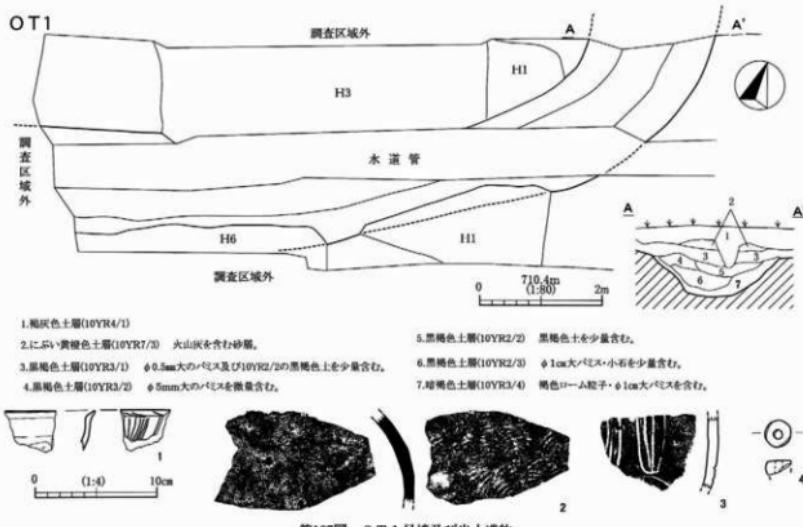


第186図 M 1号・M 2号・M 3号・M 4号・M 5号・M 6号・M 7号溝状遺構及び出土遺物

第113表 溝址出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	形態	法量			成形・調製・文様			補定値()既存値<丸高・	
			口径(例)	底径(例)	高さ(例)	内面	外面	備考	出土位置	
1	土器器	壺	(16.0)	-	<6.7>	磨耗	磨耗	目輪実測	M1	
No.	種別	形態	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置	
1	石製品	臼玉	1.1	1.1	0.4	0.90	孔径0.3		M5	



第187図 OT 1号墳及び出土遺物

第114表 OT 1号周溝墓出土遺物観察表

(cm)

No.	種別	器種	法			成形・調製・文様		備考	出土位置
			口径(底)	底径(高)	高さ	内面	外面		
1	土師器	环	-	-	<3.4>	施文	ナデ 底部ヘラケズリ	破片実測	II区
2	須恵器	甕	-	-	-		当て具痕	新面実測	I区
3	縄文	-	-	-	-			新面実測	I区
No.	基種	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見	出土位置	
4	臼玉		0.5	0.5	<0.3>	<0.11>	裏面欠損	I区	

(5) F 5号掘立柱建物址

カ・キ-7・8 G r から検出された。1間×1間の菱形の変形側柱式建物址。軸方位は、N-75°-Eで、桁行220cm梁行180cm、柱穴は径50~70cmの円形で深さ21~45cm断面逆梯子形・U字形。柱痕は20·30cm。遺物は、P 1から古墳後期土師器坏片、P 2·P 4から土師器甕片・縄文中期後半深鉢片出土したが、本址の時期は不明。

(6) F 6号掘立柱建物址

ソ・タ-25~27 G r から検出された。2間×2間の側柱式建物址。軸方位は、N-60°-Eで、桁行360cm梁行300cm、柱間は桁行180cm梁行160cm。柱穴は長径60~84cmの円形・椭円形で深さ30~41cm断面逆梯子形。遺物はP 2から古墳後期土師器甕片、P 6から弥生後期壺片出土したが、本址の時期は不明。

第3節 土坑

D 1号土坑 タ-28 G r で検出され、長軸長148cm検出短軸長116cm壁高は25cm長軸方位はN-78°-E。平面形円形、断面逆梯子形。縄文前期土器小片出土したが、時期は不明である。

D 2号土坑 チ-31G rで検出され、H 5に切られる。残存長軸長150cm検出短軸長28cm壁高33cmを測る。弥生後期鉢小片出土したが、時期は不明である。

D 3号土坑 サ・シ-17・18G rで検出されH15に切られ、H19を切る。長軸長574cm検出短軸長228cm壁高89cm。粘土探掘坑で幾度も掘り起こされ、平面形断面形とも不整形。1~4の土師器甕、角幹と第1尖が切断されている角器製作残滓の落角が出土した。本址の時期は、出土遺物と6世紀中葉~7世紀初頭のH19を切り、7世紀終末のH15に切られることから、7世紀中葉に位置づけられる。

D 4号土坑 ケ・コ-13・14G rで検出された。長軸長190cm検出短軸長178cm壁高は19cm、長軸方位はN-30°-W。平面楕円形、断面逆梯子形。弥生後期織波状文甕・赤彩土器小片出土、時期は不明である。

D 5号土坑 コ・サ-15・16G rで検出されH16・P 53に切られる。長軸長242cm検出短軸長104cm壁高56cm長軸方位はN-83°-W。平面楕円形、断面逆梯形。弥生後期甕・武藏甕小片出土、時期は不明である。

D 6号土坑 キ-8G rで検出され、長軸長208cm短軸長148cm壁高28長軸方位はN-62°-E、平面楕円形、断面鍋底形。成駒で体高120~125cmの小型ウマ1個体分が、右上側臥姿勢の全身交連状態で出土した。解体されずに埋納されていた。土師器甕や須恵器壺・壺小片、刀子の破片が出土、時期は不明である。

D 7号土坑 キ・ク-9G rで検出されP 77に切られる。長軸長120cm検出短軸長74cm壁高は14cm長軸方位はN-48°-E。平面楕円形、断面鍋底形。縄文時代後期加曾利B 1式の深鉢出土。時期は縄文時代後期中葉であろう。

D 8号土坑 オ・カ-5G rで検出され、P 83に切られる。長軸長134cm短軸長78cm壁高10cm長軸方位はN-25°-W。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。

D 9号土坑 オ・カ-3G rで検出され、長軸長176cm検出短軸長60cm壁高20cm長軸方位はN-62°-E。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。

D 10号土坑 キ-7G rで検出され、長軸長108cm検出短軸長48cm壁高12cm長軸方位はN-85°-E。平面楕円形、断面逆梯形。出土遺物なく、時期等不明である。第116表 西近津遺跡V竪穴住居址一覧表

(複数表)

第4節 溝状遺構

M 1号溝状遺構

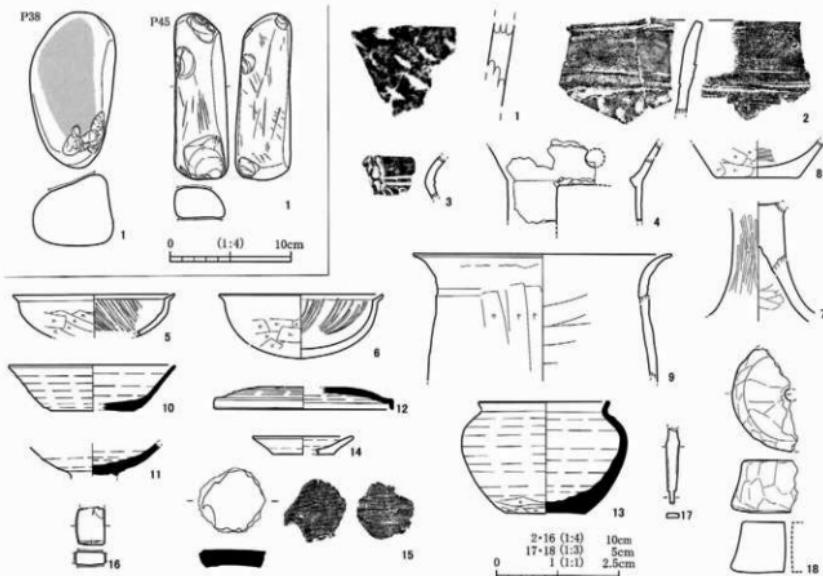
タ・チ-28G rにありP 87・P 88に切られ、H 7を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。断面部分的にW字形。覆土に砂が多くみられ、北から南へ流下する河川跡。検出長4.12m、幅1.0~1.6m、深さ29~80cm、南北底面の比高差は20cmを測る。弥生後期壺、土師器甕出土したが、本址の時期は不明。

M 2号溝状遺構

ケ・コ-14・15G rにあり、北側と南側が調査区域外に延びる。断面テラス持つU字形。覆土に砂・小砾多くみられ、地形の傾斜と逆に南から北へ流れる河川跡。検出長3.6m、幅0.44~0.8m、深さ29~80cm、南北底面の比高差は10cmを測る。弥生後期壺、土師器甕出土したが、本址の時期は不明である。

M 3号溝状遺構

ク11~サ16G rにみられた現道路と畠地との境溝である。



第188図 ピット及び造構外出土遺物

第115表 ピット・造構外出土遺物観察表

(cm)

No.	種類	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
							所	見	
1	磨・鉢石		12.8	7.0	6.2	717.55	正面にすり面 下端部に敲打痕		P38
1	磨・鉢石		13.7	4.5	2.5	236.33	上下端部に敲打痕 正面に擦痕 破石転用の點石か		P45
法量									
No.	種別	器種	□深(度) 強(度)	底径(厚)	内面	外 面	判定基()既存標<火痕・		出土位置
1	縄文		-	-	-	-	無面実面		一括
2	縄文		-	-	-	-	無面実面		一括
3	縄文		-	-	-	-	無面実面		一括
4	乳突	器台	-	-	<6.5>	ロクロナデ	ロクロナデ	回転実面 透	一括
5	土師器	环	(13.2)	-	<3.5>	略文	ヘラケズリ	回転実面	一括
6	土師器	环	13.4	-	5.3	略文	ヘラケズリ	完全実面	一括, OT1 II 区
7	土師器	环	-	-	<9.7>	井垂ヘラミガキ→黑色処理 前部ヘラナデ	ヘラミガキ	完全実面	一括
8	土師器	环	-	6.6	<3.1>	ハゲ目	ヘラケズリ 底部ヘラケズリ	完全実面	一括
9	土師器	环	(21.2)	-	<10.5>	口縁ヨコナデ 前部ヘラナデ	口縁ヨコナデ 前部ヘラケズリ	回転実面	一括
10	消磨器	环	(13.6)	(6.8)	3.8	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	回転実面 内外 面に火だしき痕	一括
11	消磨器	環?	-	-	<2.7>	ロクロナデ	ロクロナデ	完全実面	一括
12	消磨器	環	(14.6)	-	<1.8>	ロクロナデ	ロクロナデ→天井部切輪へラケズリ	回転実面	一括
13	消磨器	環	(10.4)	6.4	9.2	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	完全実面	一括
14	カカラケ目	(8.2)	(5.0)	1.5	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ→回転糸切り	回転実面	一括
15	土製円錐		5.2	5.5	1.4				一括
No.	種類	素材	最大長	最大幅	最大厚	重量	所見		出土位置
16	磁石		<3.1>	<2.3>	<1.1>	<14.49g>	上部欠損 磁面歯	正面に条痕	一括
17	短管環		<4.7>	<0.8>	<0.3>	<4.41g>	縫合部欠損 角開		一括 ケン
18	土製品	筋輪車	最大径 (7.0)	最小径 (5.5)	<3.1>	(0.80)	調整 ヘラケズリ+ナデ	約1/2残存	一括

gt; (cm)

第116表 西近津遺跡V堅穴住居址一覧表

(残存地) <検出地> (cm)

調査名	検出位置	平面形				主軸方位 (基準方位)	備考	
		北壁長	南壁長	東壁長	西壁長			
H1	チ・ツ-32-33	<118>	<200>	<349>	<317>	35	N-9°-W カマド裏壁南隅	H3-OT1を切る。
H2	タ-30 チ-30-31	<24>	276	<340>	<320>	25	N-79°-E	
H3	チ-33 ツ-33-34	-	-	<148>	<170>	40	N-27°-W	H1に切られ。OT1を切る。壁溝あり。P160×56×83 P272×64×78
H4	チ-31-32	-	-	-	<168>	50	N-27°-W	H2-P23-P33に切られる。P164×46×79 P234×32×60 P327×24×32
H5	タ-チ-30	<268>	<260>	<316>	<256>	75	N カマド北壁中央 やぐら	H2に切られ。D2を切る。P140×<24>×33
H6	ツ-33-34 チ-34	<196>	-	<66>	-	45	N-10°-W カマド北壁中央	P1-P34に切られ。OT1を切る。P140×40×20
H7	タ-27-28- 29チ-28-29	<240>	-	<94>	<144>	58	N-14°-W	F1-M1-P14に切られる。P134×24×55 P216×16×28 P320×16× 26 P424×20×4.5 P520×20×6 P622×20×6
H8	シ-23-24	<82>	-	<100>	<100>	28	N-18°-W カマド北壁中央	P162×54×75 P264×54×65
H9	ス-セ-21-22	-	<152>	<172>	<132>	49	N-3°-E	H10を切る。P184×(60)×59 P248×32×22
H10	セ-21-22	(178)	-	-	<124>	32	N-22°-W	
H11	セ-23	-	424	<15>	<84>	31	N-29°-W	壁溝あり。
H12	ス-20	<320>	-	-	<236>	30	N-20°-W カマド北壁東面寄り	H13に切られ。H17を切る。
H13	ス-19	<362>	-	-	<186>	50	N-19°-W	H12-H17を切る。
H14	シ-18 ス-18	推定436	<460>	<44>	<86>	13	N-28°-W	P120×<15>×19
H15	サシ-17-18	282	-	<206>	<186>	46	N-31°-W カマド北壁中央	H19-D3を切る。
H16	コ-14-15-16 サ-15-16	-	-	<308>	<320>	21	N-37°-W	D5を切る。P123×22×56 P267×42×13 P316×16×47 P4-24× 22×17
H17	シ-19-20- ス-19-20-21	-	<516>	-	<70>	65	N-15°-W	H12-H13-H19に切られる。P168×44×46 P248×44×29 P326×20 ×22 P434×26×13 P542×40×43
H18	キ-ク-10-11	-	<376>	-	<38>	60	N-15°-W	P158×56×86 P228×24×20 P368×28×23 P456×<28> ×31 P5-36×28×32×28 P6-80×24×18
H19	シ-18	-	-	-	<236>	26	-	H15-D3に切られ。H17-M7を切る。P188×<54>×57 P244×40×37 P322×22×24 P440×30×35 P526×20×17 P632×26×48 P732×24×42

第117表 西近津遺跡V土坑計測表

(残存地) <検出地> (cm)

調査名	検出位置	平面形		長軸方位	長軸長 (東西向)	短軸長 (南北向)	深さ	備考
		円形	不規則形					
D1	タ-28	円形	N-78°-E	148	<16>	25		調査前期
D2	チ-31	?	-	(150)	<28>	33	H5に切られる。第二次削除。	
D3	サシ-17-18	不規則形	-	574	<28>	89	H15に切られ。H19を切る。土師容器+シカの角。	
D4	ケ-コ-13-14	楕円形	N-30°-W	190	<178>	19	効牛頭、赤色漆皮片。	
D5	コ-サ-15-16	楕円形	N-83°-E	242	<104>	56	H16-P5-3に切られる。弦生縫、武藏縫。	
D6	キ-8	楕円形	N-62°-E	206	148	28	赤色漆皮片+環、土師容器。ウツイ留め付。	
D7	キ-フ-9	楕円形	N-48°-W	120	<74>	14	P77に切られる。調査並行B1。	
D8	オ-カ-5	楕円形	N-63°-W	134	78	10	P83に切られる。	
D9	オ-カ-3	楕円形	N-62°-E	176	<60>	20		
D10	キ-7	楕円形	N-65°-E	108	(48)	12		

M 4号溝状遺構

ケ-12-13G r にあり、北西と南東側が調査区域外に延びる。検出長3.94m、幅0.64~1.6m、深さ37~64cmを測る。断面形は部分的にテラス持つ逆梯子形。底面平坦で比高差、流水の痕跡ない。弥生後期壺・甕、須恵器甕、灰釉瓶小片出土したが、本址の時期は不明である。

M 5号溝状遺構

カ-ヘ-ク-10G r にあり、F 4を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。東側に幅広いテラスを持つ、断面逆梯子形、検出長4.4m、幅1.68~1.84m、深さ43~47cmを測る。南北底面の比高差はない。土師器甕、須恵器甕、灰釉瓶小片、ウマの下顎臼歯2点・足根骨1点、ウマまたはウシの椎骨破片1点、種同定困難なほ乳類の小片3点が出土した。本址の時期は不明である。

第118表 西近津遺跡Vピット計測表

(残存値) <検出値> (cm)

遺物名	検出位置	長径	短径	深さ	形態	備考	遺物名	検出位置	長径	短径	深さ	形態	備考
P1	ツ-33	44	<30>	15	不明	にぶい黒褐色土(10YR4/3) 精石を多く含む。H6を切る。縄文中土器底片、古墳壁片。	P47	サ-16	29	26	15	円形	黒褐色土(10YR4/1)。土師器底片。
P2	ツ-32	80	72	37	橢円形		P48	サ-16	56	48	20	円形	黒褐色土(10YR4/1)
P3	チ-32	52	46	52	橢円形	H6を切る。土師器底片。	P49	サ-16	68	57	34	円形	黒褐色土(10YR4/1)
P4	チ-ツ-31	64	58	41	円形	黒褐色土(10YR3/1)。武藏腰片、古墳壁片。	P50	サ-16	-	42	29	不明	黒褐色土(10YR4/1)。土師器底片。
P5	ツ-31	34	30	9	円形		P51	サ-16	41	37	30	円形	黒褐色土(10YR4/1)
P6	チ-ツ-31	82	60	41	橢円形	黒褐色土(10YR3/1)。古墳壁片、弥生土器片。	P52	サ-16	16	(12)	25	不明	黒褐色土(10YR4/1)
P7	チ-ツ-31	62	58	26	円形	黒褐色土(10YR3/1)。精石多い。	P53	サ-16	70	58	44	橢円形	黒褐色土(10YR3/1)。D5を切る。土師器底片、弥生林片。
P8	9-29	70	60	18	円形	黒褐色土(10YR3/2)。土師器底片。	P54	コ-16	42	39	18	円形	黒褐色土(10YR4/1)
P9	9-29	54	50	53	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P55	ケ-13	19	18	14	円形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.暗褐色土(10YR3/4) ロームブロック含む。
P10	9-29	48	46	24	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P56	ケ-13	53	46	23	橢円形	黒褐色土(10YR2/3)
P11	9-29	48	40	15	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P57	ケ-12	34	31	36	円形	1.黒褐色土(10YR2/2) 2.黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
P12	9-29	44	38	25	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P58	ケ-12	48	(47)	22	円形	黒褐色土(10YR2/3) ローム粒子含む。弥生片。
P13	チ-29	104	60	31	不整形	黒褐色土(10YR3/1)	P59	ク-12	30	<22>	38	不明	1.黒褐色土(10YR2/2) 2.黒褐色土(10YR2/3) 弥生腰片。
P14	タ-28	44	<14>	44	不明	黒褐色土(10YR3/1), H7を切る。	P60	ク-12	50	45	28	橢円形	弥生腰片
P15					F6P4Cに変更		P61	ク-11	129	65	43	不整形	
P16	タ-26	72	<32>	26	不明	黒褐色土(10YR3/1)	P62	ク-12	40	32	22	不整形	黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
P17	タ-26	(52)	44	13	円形	黒褐色土(10YR4/1)	P63	ク-12	37	27	13	橢円形	黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
P18					F6P5Cに変更		P64	サ-16	24	20	26	円形	黒褐色土(10YR4/1) 色味少ない。
P19					F6P6Cに変更		P65	サ-16	22	24	16	円形	黒褐色土(10YR4/1) 弥生腰片。
P20	タ-27	48	40	42	円形	黒褐色土(10YR4/1)	P66	サ-16	30	27	34	円形	黒褐色土(10YR4/1) 弥生腰片。
P21	チ-27	48	40	16	円形	黒褐色土(10YR4/1)。土師器底片。	P67	F4P6Cに変更					
P22					F6P3に変更		P68	ク-12	43	<16>	39	不明	
P23					F6P2Cに変更		P69						黒褐色土(10YR2/3) ロームブロック含む。
P24	ソ-26	36	30	26	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P70	オ-3	78	50	37	橢円形	F3P5を切る。
P25					F6P2Cに変更		P71	オ-4	44	40	37	方形	黒褐色土(10YR3/4)
P26	ソ-26	32	32	13	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P72	F4P2Cに変更					
P27					F6P7Cに変更		P73	F4P1に変更					
P28					F6P7Cに変更		P74	キ-9	40	16	23	橢円形	黒褐色土(10YR3/3) 黒褐色土-ローム粒子が多く含む。土師器底片。
P29	ソ-25	62	30	17	不整形	黒褐色土(10YR3/1)	P75	ク-10-11	44	40	26	円形	土師器底片、内裏窓片。
P30	ソ-25	88	79	9	円形	黒褐色土(10YR3/1)	P76	F4P4に変更					
P31	ソ-24-25	72	60	75	橢円形	黒褐色土(10YR4/1)	P77	キ-9-9	30	21	4	橢円形	黒褐色土(10YR2/3) D7を切る。
P32	チ-31	36	<16>	20	不明	黒褐色土(10YR4/1), H4を切る。	P78	キ-8	25	23	10	円形	黒褐色土(10YR2/3)
P33	チ-31	26	36	34	不明	黒褐色土(10YR4/1), H4を切る。	P79	オ-4	54	(44)	27	橢円形	1.黒褐色土(10YR3/2) 2.にぶい黄褐色土(10YR5/4) ローム生地。
P34	ツ-33	34	<30>	24	円形	黒褐色土(10YR4/1), H6を切る。	P80	カ-7	(72)	50	25	不明	黒褐色土(10YR2/3)
P35	チ-30	-	-	31	不明	黒褐色土(10YR3/1), 縄文中土器底片、弥生土器片。	P81	キ-8-9	70	60	20	円形	黒褐色土(10YR3/3)
P36	ソ-24	48	45	30	円形	黒褐色土(10YR4/1), ざらざらしている。	P82	カ-5	43	43	52	円形	黒褐色土(10YR2/3) M6を切る。
P37	セ-ソ-24	82	76	23	円形	黒褐色土(10YR4/1), ざらざらしている。土師器底片。	P83	カ-5	26	(23)	31	円形	黒褐色土(10YR2/3) D8を切る。黒褐色腰片、土師器底片。
P38	ツ-32	<48>	56	44	不明	黒褐色土(10YR4/1), 土師器底片、弥生腰片、船石。	P84	キ-8	(50)	45	20	不明	土師器底片、土師器底内裏窓片。
P39	チ-31	<40>	45	48	不明	黒褐色土(10YR4/1), 土師器底片。	P85	ク-10	26	(26)	24	円形	黒褐色土(10YR3/4)
P40	タ-28	32	<21>	20	不明	黒褐色土(10YR2/1)。	P86	ツ-33	53	(50)	21	不明	
P41	タ-27	48	<19>	48	不明	黒褐色土(10YR2/1), 土師器底片。	P87	タ-28	64	50	27	円形	M1を切る。
P42	タ-27	25	<17>	21	橢円形	黒褐色土(10YR3/1)。	P88	タ-28	64	(62)	44	円形	M1を切る。
P43	タ-26	36	30	12	橢円形	黒褐色土(10YR3/1)							
P44	タ-26	28	24	19	橢円形	黒褐色土(10YR3/1), 古墳腰片。							
P45	サ-17	23	22	37	円形	黒褐色土(10YR4/1), 精石, D3を切る。							
P46	サ-17	71	58	34	不整形	黒褐色土(10YR4/1), D3を切る。土師器底片。							

M 6号溝状遺構

オ・カ- 5 G r にあり P82に切られ、北側と南側が調査区域外に延びる。幅120cmと幅30cmの二股状に南側へ開く。幅広部分の検出長3.52m深さ25~38cm、幅狭部分の検出長2.3m深さ11~14cmを測る。幅広部分断面形はU字形、底面から15cmに覆土4層の非常に良く縮まる暗褐色土上に1~2mのロームが貼られている。流水の痕跡はない。弥生後期甕、土師器甕出土したが、本址の時期は不明である。

M7号溝状遺構

シ-18・19 G r にあり H19に切られ、H17を切る。北側と南側が調査区域外に延びる。残存長2.3m、幅1.24~1.4m、深さ48~55cmを測る。断面形逆梯子形、底面平坦で比高差ない。本址の時期は、出土遺物皆無であるが、6世紀中葉~7世紀初頭のH19に切られ、5世紀後半~6世紀初頭のH17を切る重複関係から6世紀前半に位置づけられる。

第5節 古墳跡

OT1号墳

チ・ツ-32~34 G r にあり H1・H3・H6・P3に切られる。遺構の大半は、「中部横断道」の長野県埋蔵文化財センター調査区域にある。詳細は不明であるが、古墳時代前期の方墳といわれている。周溝南東コーナーと西側一部が検出された。周溝検出長11m、幅0.88~0.94m、深さ72cmを測る。断面形逆梯子形、底面平坦である。遺物は、縄文後期・土師器壺・須恵器甕の小片、滑石製の白玉が出土した。本址の詳細は、長野県埋蔵文化財センター調査結果を参照されたい。

第6節 ピット

総数75基が検出され、F6周辺のソ-24~チ-32 G r に集中している。大半が何らかの建物に関連した柱穴と思われるが、建物址として把握できなかった。出土遺物等は、第115表に掲載した。

第7節 遺構外出土遺物

遺構確認時に素焼きの紡錘車(18)、短頸鏡(17)、砥石(16)が出土した。土器は縄文時代では、草創期爪形文土器(1)、中期後半(2)・後期前半(3)深鉢片がある。4は弥生時代後期終末の器台であろうか。土師器は古墳時代中期環(5・6)、後期の甕、高环等があり、須恵器は平安時代の壺・蓋・短頸壺・土器片円板がある。

第V章 まとめ

西近津遺跡群内で、平成18年~20年度に長野県埋蔵文化財センターにより「中部横断道」用地内の25,000m²におよぶ広範囲が発掘調査された。(以下、県西近津遺跡群と記す。)佐久市教育委員会実施が実施した昭和46年度の第1次調査以降、平成23年度の第9次調査までの調査地点は、県西近津遺跡群に近接した周辺にある。第4次の調査地点は、県西近津遺跡群の西方100mを南北に並行する。第3次・第5次は、東方の周防畠遺跡群との境をなす低地に至る。

県西近津遺跡群の東西に延びる弥生時代後期といわれている大溝は、位置・出土遺物・形態の特徴から第4次のM14号溝状遺構に繋がる可能性が高い。弥生時代後期の竪穴住居址群は、県西近津遺跡群では、この大溝付近からいったん空白地帯があり、150m程北の地点に再び現れる。この2地点の竪穴住居址の在り方は、第3次~第5次の調査でも同様である。ただ、第4次のM14号溝状遺構付近と第8次の竪穴住居址群は、これらと異なるものとみられ、さらに西方へ延びそうである。

多くの竪穴住居址等が検出された古墳時代後期・奈良・平安時代は、県西近津遺跡群の有り様がさらに東西に拡大することを示している。該期の遺構では、第4次調査で検出された平安時代9世紀前半のF4号掘立柱建物址が特異である。大部分が調査区域外であるが、南北長6間12m検出東西長2間3.6mの縦柱、柱穴は1mの深さで柱痕は30cmを超える。

特異と言えば、五輪塔の火輪のみ23個を壁面全周に積んだ第4次調査のD38号土坑である。佐久ではもちろん初見であり、覆土の堆積状況から液体物を貯蔵していたのかと推察するしかない。五輪塔は、16世紀頃の所産であろう。

縄文時代では、後期壠之内式期の遺構と遺物が発見された。「田切り」上の平坦地では、稀なことである。第8次調査で検出された敷石住居址と土坑群が、さらに、北方と西方に広がりを見せていることが第4次調査で確認された。西方100mの下長畠遺跡まで繋がる広範囲なものと思われる。

付篇

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの自然科学分析

<目 次>

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳの自然科学分析

—パリノ・サーヴェイ株式会社—

はじめに

I. 種実同定

表1. 種実同定結果

表2. 炭化米の大きさ

II. 骨類同定

表3. 出土骨の検出分類群の一覧

表4. 骨同定結果

表5. D 4出土人骨の歯式

図1. ウマ骨格各部の名称

引用文献

図版1 種実遺体(1)

図版2 種実遺体(2)

図版3 出土骨(1)

図版4 出土骨(2)

図版5 出土骨(3)

西近津遺跡V出土の動物遺体

—樋泉 岳二(早稲田大学)・孔智賢(パレオ・ラボ) —

1. はじめに

2. 資料と分析方法

3. 結果および考察

4. おわりに

表1. 西近津遺跡V出土動物遺体の同定結果

図版

はじめに

西近津遺跡(長野県佐久市長土呂)は、浅間山西南麓を流下する湧玉川左岸の田切り地形によって画された台地に立地する。本遺跡のこれまでの発掘調査では、弥生時代後期～平安時代の集落であることが明らかとされている。今回の西近津遺跡の発掘調査では、古墳～平安時代の竪穴住居跡をはじめとして、掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構などが確認されている。

本報告では、西近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した炭化種実や骨類の同定および動・植物利用に関する検討を目的として、種実同定および骨同定を実施した。

I. 種実同定

1. 試料

試料は、西近津遺跡Ⅲ(以下、NTⅢ)より出土した種実遺体9試料(№1～9) 160個と、西近津遺跡Ⅳ(以下、NTⅣ)より出土した種実遺体9試料(№10～18) 301個の、計18試料461個である。試料は全て乾燥した状態で、プラケースに保管されている。各試料の詳細は一覧として、付表(添付C Dに収録)に示す。

2. 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。種実遺体の同定は、現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)、小畑(2008)などを参考に実施し、結果を表に示す。なお、本分析では、主に栽培種の種実遺体を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さの計測を行っており、計測結果の詳細は付表に示した。分析後は、種実遺体を容器に戻して保管する。

3. 結果

同定結果を表1に示す。全試料(№1～18)を通じて、被子植物11分類群(木本のオニグルミ、クヌギ、スマモ、モモ、草本のイネ、アワ、オオムギ、コムギ、ホタルイ属、マメ科(アズキ類)、マメ科)430個の種実が同定された。2個は双子葉類と考えられるが、同定至らなかった。種実以外では、炭化材が19個、土粒が10個確認された。

種実遺体は、全て炭化している。栽培種は、スマモの核が1個、モモの核が24個、イネの穎が40個、穎・胚乳が66個、胚乳が264個、アワの穎・胚乳が1個、オオムギの穎・胚乳が4個、コムギの胚乳が11個と、栽培種の可能性を含むマメ科(アズキ類)の種子が1個、マメ科(?)含むの種子が5個の、計417個が確認され、全体の97%を占める。

栽培種を除いた分類群は、落葉広葉樹で堅果類のオニグルミの核の破片が6個と、クヌギの殻斗の破片が3個、果実の破片が1個、子葉が1個、草本のホタルイ属が2個の、計13個が確認された。

以下に、炭化種実の遺跡別出土状況を述べる。

<NTⅢ>

・№1(H3 II区床上)

栽培種のモモが2個確認された。完形1個は約1/3個(頂部～側面)を欠損する。破片は1/3個未満で、完形個体とは別個体である。

・№2(H3 IV区)

栽培種のモモの破片が6個(計1個分)確認された。

・№3(H3 III区床上)

栽培種の可能性があるマメ科(?)含むが3個確認された。

・№4(H3 III区床上)

卷之三

栽培種のイネが1個確認された。

・No.5 (H4 II区ホリ方)

堅果類のクヌギの殻斗が3個、果実が1個、子葉が1個確認され、同一個体に由来する可能性が高い。

・No.6 (H7 カマド)

栽培種のイネが89個(うち11個穎付着)、コムギが1個、栽培種の可能性があるマメ科(?)が1個の、計90個と、双子葉類が2個確認された。

・No.7 (H7 No.1 ピット内)

栽培種のイネが17個(うち4個穎付着)、アワが1個、マメ科(アズキ類)が1個の、計19個と、草本のホタルイ属が2個確認された。ホタルイ属の果皮表面は平滑で、フトイやサンカクイの類に似る。

・No.8 (H7 第16図3の土器器壊墨書)

栽培種のコムギが10個(完形3個、破片7個)確認された。

・No.9 (H12 東)

栽培種のスモモが1個確認された。

<西近津遺跡IV>

・No.10 (H1)

栽培種のモモが3個確認された。完形1個は約1/3個分(腹面～側面)を欠損し、破片2個は接合して約2/3個分程度、上半部を欠損する。

・No.11 (H1)

栽培種のモモが1個確認され、核側面～基部欠損の内部に種子がみられた。

・No.12 (H12 北床直上)

栽培種のイネが1個確認された。

・No.13 (H19 IV区ホリ方)

栽培種のイネが262個(うち穎40個、穎付着50個)と、オオムギが3個の、計265個が確認された。

状態が良好なイネの胚乳100個の計測結果は、長さが最小3.2～最大5.5(平均4.17±標準偏差0.44)mm、幅が1.5～3.4(平均2.66±0.40)mm、厚さが1.1～2.5(平均1.85±0.29)mmである。また、粒大(長さ×幅)・粒形(長さ/幅)(佐藤、1988)は、短粒が78%を占め、円粒が16%、長粒が6%と次ぐ(表2, 3)。さらに短粒は、極小が45%、小型が32%、中型が1%である(表3)。

表2. 茎化米の大きさ(1)

No.13NTN H19 IV区ホリ方											
長さ(mm)				幅(mm)				厚さ(mm)			
最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差
3.2	5.5	4.17	± 0.44	1.5	3.4	2.66	± 0.40	1.1	2.5	1.85	± 0.29
粒大(長さ×幅)											
最小	最大	平均	標準偏差	最小	最大	平均	標準偏差	標本数 (n)			
5.4	16.9	11.13	± 2.28	1.1	2.5	1.60	± 0.28	100			

*計測値はデジタルノギスによる。粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

表2. 茎化米の大きさ(2)

No.13NTN H19 IV区ホリ方											
粒大・粒形						長粒(2.0)					
円粒(1.0-1.4)			短粒(1.4-2.0)			長粒(2.0)					
最小	小	中	大	最小	小	中	大	最小	小	中	大
(8-12)	(12-16)	(16-20)	(20-)	(8-12)	(12-16)	(16-20)	(20-)	(8-12)	(12-16)	(16-20)	(20-)
8	8	0	0	45	32	1	0	6	0	0	0

*粒大(長さ×幅)、粒形(長さ/幅)は、佐藤(1988)の定義に従う。

・No14 (H19 カマド)

栽培種のモモの破片が1個(約1/5個分)と、堅果類のオニグルミの破片が1個確認された。

・No15 (H19 I 区)

栽培種のオオムギが1個と、栽培種の可能性があるマメ科(ダイズ類?)が1個の、計2個が確認された。

・No16 (H27 炉)

堅果類のオニグルミの破片が5個(計1/3個分)確認された。

・No17 (H3 1炉)

栽培種のモモの破片が5個(計1/2個分)確認され、1個にネズミ類による食痕がみられた。

・No18 (H50)

栽培種のモモの破片が6個(計1/2~2/3個分)確認された。3個は接合し半分になる可能性がある。

4. 考察

西近津遺跡Ⅲ・Ⅳから出土した種実遺体群からは、炭化した栽培種のスモモ、モモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギと、栽培種の可能性を含むマメ科(アズキ類や別系統を含む)が確認された。栽培種は、種実遺体群全体の97%を占める。一方の栽培種を除いた分類群は、落葉広葉樹で堅果類のオニグルミ、クヌギと、草本のホタルイ属が確認された。オニグルミは、川沿いなどの湿润な肥沃地に生育し、クヌギは丘陵～山地の二次林などに生育する落葉高木である。オニグルミは、子葉が生食可能で栄養価も高く、長期保存可能で収量も多い有用植物であることから、古くから利用され、遺跡出土例も多い。出土核は破片であることから、当時栽培種とともに利用された食料残滓の可能性がある。クヌギは高度なアグロバッティング工程を経ることで食用可能となるが、出土果実は殻斗がついた完全な状態と推定され、現地性の高さが示唆される。水生植物のホタルイ属は、周辺の水湿地環境に生育していたと考えられる。

III. 骨類同定

1. 試料

試料は、西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳの竪穴住居跡、溝、土坑などから出土した骨類62試料である(No 1 ~ 62)である。これらの試料の状態は区々であり、乾燥によると思われる縮締やひび割れが生じる試料や、表面に付着した土壤の除去(クリーニング)済の状態のもの、保存状態が極めて悪く、また脆弱であるため土塊として取り上げられた状態の試料などがある。分析に供された試料の詳細は、一覧として結果とともに表4に示す。

2. 分析方法

前処理は、試料の状態を確認した後、砂や泥分は、乾いた筆や竹串、あるいは水に浸した筆で静かに除去する。一部の試料については、一般工作用接着剤を用いて接合する。保存が悪い試料に関しては、パインダーなどを塗布し、補強を行う。

同定は、試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種類および部位の特定を行う。計測は、デジタルノギスを使用する。なお、ヒト歯牙の計測は、藤田(1949)に従った。

3. 結果

西側近津遺跡Ⅲ・Ⅳより出土した骨類より検出した種類は、ヒト、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、ウシである(表3)。各試料の同定結果を表4に示す。また、骨格各部位の名称については、ウマを例として図1に示す。以下に、各試料の結果を記す。

<NT III>

・No 1 (H 1 覆土)

ウシの角の可能性がある破片である。

・No 2 (H 4 II 区床面)

ウマの左上顎第3門歯の破片である。

・No 3 ; (H 6 カマド内火床)

獣類の四肢骨の破片、部位不明破片である。獣類四肢骨は焼骨、部位不明破片には焼骨と非焼骨がみられる。

・No 4 (H 6 カマド袖内)

獣類の部位不明破片である。

・No 5 (H 6 カマド袖)

獣類の四肢骨片、部位不明破片などである。四肢骨は、焼骨と非焼骨がみられる。

・No 6 (H 6 カマド東脇床面)

獣類の部位不明破片である。

・No 7 (H 6 カマド)

獣類の四肢骨片である。焼骨である。

・No 8 (H 6 カマド)

イノシシの第2/5中手骨/中足骨の遠位端である。遠位端が未化骨で外れる。

・No 9 (H 6 カマド)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No 10 (H 6 カマド)

ニホンジカの中手骨/中足骨の破片である。

・No 10 (H 6 カマド)

獣類の四肢骨の破片である。焼骨である。

・No 11 (H12 東)

ニホンジカの左桡骨、左尺骨である。左桡骨は、近位端の破片であり、近位端幅42.48mmを測る。左尺骨は、遠位端が欠損する。この他、桡骨ないし尺骨の破片がみられる。

・No 12 (H12 床面東)

ニホンジカの腰椎の破損である。椎体板がみられるが、化骨化が終了しておらず、椎体と癒合していない。

・No 13 (H12)

ウマの左上顎第3門歯、左基節骨、左末節骨である。左の基節骨・末節骨は後肢である。末節骨はほぼ完存し、基節骨は近位端が破損する。この他に部位不明破片がみられる。

・No 14 (H12 サブトレ)

イノシシの可能性がある左右上腕骨遠位端片、ウマの左桡骨遠位端片・左桡側手根骨・左副手根骨片・手根骨片、獣類の部位不明破片である。イノシシの可能性がある左右上腕骨は小型のサイズである。

・No 15 (H12)

ニホンジカの左上顎第2前臼歯片、獣類四肢骨片である。なお、四肢骨片の中には、幼獣の可能性がある小型のサイズがみられる。

・No 16 (H12 サブトレ)

大型獣類の肩甲骨の可能性がある破片である。

・No 17 (H12 サブトレ)

ニホンジカの椎骨、左脛骨である。椎骨は、椎体および破片がみられ、椎体では椎体板外れる。また、左脛骨の近位端は、54.37mmを測る。この他、獣類の部位不明破片がみられる。

表3.出土骨の検出分類群一覧

脊椎動物門	Phylum	Vertebrata
哺乳綱	Class	Mammalia
サル目(靈長目)	Order	Primates
ヒト科	Family	Homidae
ヒト	Homo sapiens	
ウマ目(奇蹄目)	Order	Perissodactyla
ウマ科	Family	Equidae
ウマ	Equus caballus	
ウシ目(偶蹄目)	Order	Artiodactyla
イノシシ科	Family	Suidae
イノシシ	Sus scrofa	
シカ科	Family	Cervidae
ニホンジカ	Cervus nippon	
ウシ科	Family	Bovidae
ウシ	Bos taurus	

表4. 骨判定結果(1)

No	調跡名	遺構名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
1	NTⅢ	H1 墓土	ウシ?	角?		破片	21		
2	NTⅢ	H4 Ⅱ区床底	ウマ	上顎第3門歯	左	破片	1+		
3	NTⅢ	H6 カマド内火床	獸類	四肢骨		破片	1	○	
				不明		破片	2		
4	NTⅢ	H6 カマド袖内	獸類	不明		破片	16+		
5	NTⅢ	H6 カマド袖	獸類	四肢骨		破片	1		
				四肢骨?		破片	1	○	
				不明		破片	3		
6	NTⅢ	H6 カマド東脇床底	獸類	不明		破片	8		
7	NTⅢ	H6 カマド	獸類	四肢骨		破片	1+	○	
8	NTⅢ	H6 カマド	イノシシ	第2/5中手骨/中足骨		遺位端	1		遺位端未化骨外れ
9	NTⅢ	H6 カマド	獸類	不明		破片	4	○	
10	NTⅢ	H6 カマド	ニホンジカ	中手骨/中足骨		破片	1		
			獸類	四肢骨		破片	4	○	
11	NTⅢ	H12 東		頸骨	左	近位端	1	Bp42.48	
				尺骨	左	遺位端欠	1		
				橈骨/尺骨	左	破片	8		
12	NTⅢ	H12 東西奥	ニホンジカ	腰椎		破片	1+		椎体板未化骨
13	NTⅢ	H12	ウマ	上顎第3門歯	左	破片	1		
				基節骨	左	近位端破損	1		
				末節骨	左	破損	1		
				不明		破片	44		
14	NTⅢ	H12 サブトレ	イノシシ?	上腕骨	左	遺位端破片	1		
				右	遺位端破片	1+			
			ウマ	頸骨	左	遺位端破片	1		
				側側手根骨	左	保存完存	1		
				副手根骨	左	破片	1		
				手根骨	左	破片	1		
			獸類	不明		破片	21		
15	NTⅢ	H12	ニホンジカ	上顎第2前臼歯	左	破片	1		
			獸類	四肢骨		破片	3		
						破片	1+	幼獣?	
16	NTⅢ	H12 サブトレ	獸類	肩甲骨?		破片	1+		
17	NTⅢ	H12 サブトレ	ニホンジカ	椎骨		椎体	4		椎体板外れ
						破片	11		
			獸類	腰骨	左	近位端	1	Bp54.37	
				不明		破片	30		
18	NTⅢ	H12 カマド	獸類	不明		破片	1	○	
19	NTⅢ	D13	ウマ	大腿骨	左	破片	1+		
				左	近位端破片	1			
					左	遺位端破片	2		
			脛骨	左	遺位端欠	1+			
				左	遺位端	1			
				右	遺位端欠	1+			
				右	遺位端破片	1			
			脛骨	左	破片	1			
				右	破片	1+			
			距骨	左	破損	1			
				右	破損	1			
			中心足根骨	左	保存完存	1			
				右	保存完存	1			
			第1+2足根骨,第3足根骨	左	破片	1+			
			第4足根骨	右	破片	1			
			第3足根骨	左	保存完存	1			
			第1+2足根骨,第3足根骨,中足 骨近位端	右	破片	1			土壤状
			第2足根骨	左	破片	1+			
			第3足根骨	左	遺位端欠	1		Bp45±	
			第4足根骨	左	破損	1			
			第2中足骨,第3中足骨	右	破片	1			

<凡例>

P:前臼歯、M:後臼歯、Bp:近位端縮.

表4. 骨同定結果(2)

No	遺跡名	遺物名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
19	NTⅢ	D13	ウマ	第4中足骨 第3中足骨 趾筋骨 後肢	右	破損 遠位端 近位端 破片	1 1 1 80+		
20	NTⅢ	D13	ウマ	蹄骨	右	破片	1+		No.25と同一骨
21	NTⅢ	D13	ウマ	蹄骨	左	破損	1+		
22	NTⅢ	D13	ウマ	大脛骨 脛骨	右	近位端欠 破片	1 1		
23	NTⅢ	D13	ウマ/ワシ	肋骨		破片	30		
24	NTⅢ	D13	ウマ/ワシ	上歯第1門歯	左	破片	1		
25	NTⅢ	D13	ウマ	翼骨 大脛骨 不明	右	破片 近位端片 破片	53 1 33		No.20と同一骨
26	NTⅢ	H5 N区	ニホンジカ	臼齒		破片	10+		同一歯牙の破片
27	NTN	H12 納内層土	駄頭	下顎骨?		破片	1	○	
28	NTN	H12 南庭直上	駄頭	不明		破片	4	○	
29	NTN	H19 西方	駄頭	不明		破片	1	○	
30	NTN	H21 №1	駄頭	下顎骨?		破片	1	○	
31	NTN	H22 №2	駄頭	不明		破片	2	○	
32	NTN	H22 №2	駄頭	不明		破片	2	○	
33	NTN	H23 1区層土	ウマ	下顎臼齒	右	破片	1+		
34	NTN	H27 №1	駄頭	不明		破片	6		
35	NTN	H31内集石(埋乱)	ワシ	下顎第1後臼齒	左	破片	1+		
36	NTN	H31 №1	駄頭	不明		破片	2	○	
37	NTN	H34 №2	駄頭	四肢骨		破片	40+		
38	NTN	H37 カマド内反	駄頭	不明		破片	1	○	
39	NTN	H50 カマド内	駄頭	四肢骨		破片	1	○	
40	NTN	M15	ウマ	下顎第1門歯 大脛骨	右	破損 右 遠位端破片	1 1 1		
				脛骨 四肢骨		近位端 破片	1 24		
41	NTN	M15	ウマ	下顎第1門歯 門歯	左	破片 破片	1 1+		
42	NTN	M15	ニホンジカ	下顎骨	右	破片	1		
43	NTN	M15 №1	ウマ	下顎骨	左	破損	1+	P2-M3植立	
					右	破損	1+	P2-M3植立	
						破片	100+		
44	NTN	D4 №1	ヒト	頭蓋骨 上顎切歎 上顎犬歯	左	破片	1+		
				下顎第2大臼齒 上顎第3大臼齒 下顎第3臼齒	左	破片 右 右	1+ 1 1		
45	NTN	D4 №2	ヒト	大脛骨?		破片	1+		
46	NTN	D4 №3	ヒト	四肢骨?		破片	1+		
47	NTN	D4 №4	ヒト	腰椎?		破片	1+		
48	NTN	D4	ヒト	不明		破片	1+		
49	NTN	D5 №4	ヒト	脛頭蓋骨 頭蓋骨 切歎 第1頸椎		破片 破片 破片 破片	1 7 1+ 1		
50	NTN	D5 №4	ヒト	頭蓋骨		破片	15+		
51	NTN	D5	ヒト	頭蓋骨 上顎中切歎	左	ほぼ完存 近位端破片	1 1		未咬耗。明出歯後
52	NTN	D7 №1	ウマ	頭骨 犬歯 犬歯 頭骨/尺骨	左	近位端 近位端 破片	1+ 1+ 30+		
53	NTN	D7 №2	ニホンジカ	角		破片	1+		切歎有
54	NTN	D7	駄頭	肋骨		破片	2	○	
54	NTN	D7	駄頭	四肢骨		破片	3+		

<凡例>

P:前臼歯 N:後臼歯 Hp:近位端破片

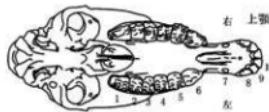
表4. 骨同定結果(3)

No.	遺跡名	溝名・出土位置	種類	部位	左右	部分・状態	数量	被熱	備考
54	NTM	D7	駄馬	四肢骨		破片	3 +		
						破片	1	○	
						破片	2	○	
55	NTM	D10 №2	ワマ/ウシ	四肢骨		破片	1 +		土塊状
						破片	70 +		
56	NTM	D10 №3	駄馬	四肢骨		破片	11 +		
						破片	1		土塊状
57	NTM	D59	駄馬	不明		破片			
						破片	1		
58	NTM	M4 №1	ウシ	中手骨		右	破片	1 +	
						左	破片	1	
59	NTM	M4 №2	ワマ	上顎第3/4前臼歯					
60	NTM	M4 №3	ニホンジカ?	角?					
61	NTM	M4 №4	ニホンジカ?	角?					
62	NTM	D64 塗装面	駄馬	不明			破片	2 +	土塊状

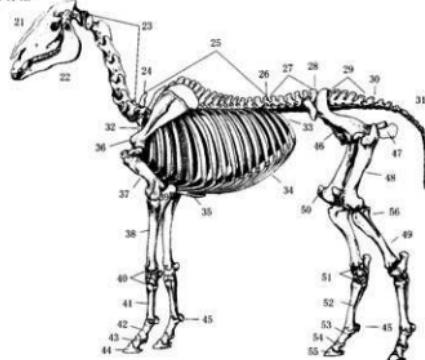
<凡例>

P:前臼歯 M:後臼歯 Bp:近位端幅

頭蓋



全身骨格



1. 上顎第3後臼歯。2. 上顎第2後臼歯。3. 上顎第1後臼歯。4. 上顎第4前臼歯。5. 上顎第3前臼歯。6. 上顎第2前臼歯。
 7. 上顎大歯(雄のみ)。8. 上顎第3門歯。9. 上顎第2門歯。10. 上顎第1門歯。11. 下顎第3後臼歯。12. 下顎第2後臼歯。
 13. 下顎第1後臼歯。14. 下顎第4前臼歯。15. 下顎第3前臼歯。16. 下顎第2前臼歯。17. 下顎大歯(雄のみ)。18. 下顎第3門歯。
 19. 下顎第2門歯。20. 下顎第1門歯。21. 頭蓋。22. 下顎骨。23. 頸椎。24. 第一胸椎。25. 胸椎。26. 最後位胸椎。
 27. 腰椎。28. 最後位腰椎。29. 仙椎。30. 第一尾椎。31. 尾椎。32. 第一肋骨。33. 最後位肋骨。34. 軟肋骨。
 35. 助状軟骨。36. 肩甲骨。37. 上腕骨。38. 桡骨。39. 尺骨。40. 手根骨。41. 中手骨。42. 指骨(基節骨)。43. 指骨(中節骨)。
 44. 指骨(末節骨)。45. 基節骨種子骨。46. 肱骨。47. 坐骨。48. 大腿骨。49. 経骨。50. 膜蓋骨。51. 足根骨。52. 中足骨。
 53. 足趾骨(基節骨)。54. 足趾骨(中節骨)。55. 足趾骨(末節骨)。56. 腓骨。

図1. ウマ骨格各部の名称(加藤・山内, 2003に加筆)

表5. D4出土人骨の箇式

No.44 NTM-D4 №1 出土人骨 上顎	右								左							
	8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
M3	M2	M1	P2	P1	C	I2	I1	I1	I2	C	P1	P2	M1	M2	M3	
○	○	○						○	○	○	○	○	○	○	○	
下顎	○	○	○								○	○	○	○	○	

<凡例>

○:植立。○:遺漏。

・No18 (H12 カマド)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No19 (D13)

ウマの後肢である。左大腿骨片、左右脛骨、左右踵骨、左右距骨、左右中心足根骨、左右第1+2足根骨、左右第3足根骨、左右第4足根骨、左右第2中足骨、左右第3中足骨、左右第4中足骨、基節骨などが確認される。踵骨・距骨・足根骨と第2~4中足骨は、それぞれ塊状に取り上げられており、左右が接する状態である。左第3中足骨は、近位端幅約45mm前後を測る。

・No20 (D13)

ウマの右寛骨の破片である。No25と同一骨である。

・No21 (D13)

ウマの左寛骨である。

・No22 (D13)

ウマの右大腿骨、右膝蓋骨である。大腿骨は近位端が欠損する。

・No23 (D13)

ウマ/ウシの肋骨の破片である。

・No24 (D13)

ウマの左上顎第1門歯、ウマ/ウシの肋骨の破片である。

・No25 (D13)

ウマの右寛骨、右大腿骨である。右寛骨は、No20と同一骨の破片である。右大腿骨は寛骨臼に納まっており、大腿骨頭部である。この他、部位不明破片がみられる。

・No26 (H 5 IV区)

ニホンジカの臼歯の破片である。同一歯牙の破片である。

<西近津遺跡IV>

・No27 (H12 炉内覆土)

獣類の下顎骨の可能性がある破片である。焼骨である。

・No28 (H12 南床直上)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No29 (H19 挖方)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No30 (H21 炉 1)

獣類の下顎骨の可能性がある破片である。焼骨である。

・No31 (H22 炉 2)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No32 (H22 炉 2)

獣類の部位不明破片である。焼骨である。

・No33 (H23 I 区覆土)

ウマの右下顎臼歯片である。

・No34 (H27 炉 1)

獣類の部位不明破片である。

・No35 (H31内集石(攪乱))

ウシの左下顎第1後臼歯片である。

・No36 (H31 炉)

獣類の部位不明の破片である。焼骨である。

・No37 (H34 No 2)

獣類の四肢骨の破片である。

・No.38 (H37 カマド内灰)

獸類の部位不明の破片である。焼骨である。

・No.39 (H50 カマド内)

獸類の四肢骨の破片である。焼骨である。

・No.40 (M15)

ウマの右下顎第1門歯である。

・No.40 (M15)

ウマの右大腿骨片、遠位端片、脛骨近位端片、四肢骨片である。

・No.41 (M15)

ウマの左下顎第1門歯片、門歯片である。

・No.42 (M15)

ニホンジカの右下顎骨である。下顎枝部の破片である。

・No.43 (M15 No.1)

ウマの左・右下顎骨である。左右とも第2前臼歯～第3後臼歯までがみられる。土塊状として取り上げられており、右側を上にした状態である。乾燥によるひび割れが生じており、形状を保つものの破片となっていたため、可能な限り復元を行った。なお、復元する際に臼歯高を測定した。右第2前臼歯を測ることができなかったが、それ以外の臼歯高は、左側の第2前臼歯が43.02mm、第3前臼歯が56.74mm、第4前臼歯が66.47mm、第1後臼歯が62.70mm、第2後臼歯が67.23mm、第3後臼歯が67.46mm、右側の第3前臼歯が56.66mm、第4前臼歯が67.21mm、第1後臼歯が61.47mm、第2後臼歯が66.94mm、第3後臼歯が67.17mmを測る。全臼歯列長179mmを測る。

・No.44 (D 4 No.1)

土塊状として取り上げられたヒトの頭蓋骨である。土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。左側を上にした状態であるが、土圧を受けて変形しており、脳頭蓋の左側が割れて内側へと陥没する。上顎骨、下顎骨は比較的良好に残り、歯牙も観察される(表5)。なお、左上顎側切歯の歯冠幅(近遠心径)が6.35mm、同歯冠厚(頬舌径)が6.02mm、左上顎犬歯の歯冠幅(近遠心径)が7.61mm、同歯冠厚(唇舌径)が8.34mm、左下顎第2大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が11.28mm、同歯冠厚(頬舌径)が10.79mm、右上顎第3大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が8.69mm、同歯冠厚(頬舌径)が11.19mm、右下顎第3大臼歯の歯冠幅(近遠心径)が9.78mm、同歯冠厚(頬舌径)が9.77mmを測る。

・No.45 (D 4 No.2)

土塊状として取り上げられた四肢骨である。露出部が粉状となり、土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。両端が破損した骨体のみが残る。部位を確定できないが、現長260mm程度で径25mm前後であること、さらに断面が丸みを帯びることから、大腿骨の可能性がある。

・No.46 (D 4 No.3)

土塊状として取り上げられた骨である。本試料も土塊から骨を外すと形質を保てないと判断され、No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。四肢骨の可能性がある。

・No.47 (D 4 No.4)

土塊状として取り上げられた四肢骨である。本試料も露出部が粉状となり、土塊から骨を外すと形質を保てないと判断された。No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。骨体のみが部分的に残る状態である。部位を確定できないが、現長140mm程度、径25mm前後である。平らな面が存在するようにも見えることから、脛骨の可能性もある。

・No.48 (D 4)

粉状となった破片である。No.44と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。部位不明破片である。

・ No49 (D 5 No.4)

土塊状として取り上げられたヒトの頭蓋骨である。本試料も土塊から骨を外すと形質を保てないと判断されたため、ある程度砂・泥分を除去して観察した。前頭骨、左右頭頂部、第1頸椎が認められ、右頭頂骨を下にした状態である。第1頸椎は眼窩部に位置する。冠状縫合の内側は閉じていない。また、骨質も薄い。この他、頭蓋骨片、切歯片が認められる。

・ No50 (D 5)

No49と同一遺構から出土していることからヒトと判断した。頭蓋骨の破片である。

・ No51 (D 5)

ヒトの頭蓋骨片、左上顎中切歯である。左上顎中切歯はほぼ完存する。未咬耗で、萌出直後とみられる。

・ No52 (D 7 No.1)

ウマの左桡骨、左尺骨である。左桡骨は、近位端の微細片であるが、左尺骨と関節することから判断した。左尺骨も近位端が残る。この他、左桡骨/尺骨の破片がみられる。

・ No53 (D 7 No.2)

ニホンジカの角の破片である。切痕がみられる。

・ No54 (D 7)

獣類の肋骨、四肢骨、部位不明破片がみられる。肋骨、四肢骨の一部、部位不明破片は焼骨、四肢骨の一部は非焼骨である。

・ No55 (D 10 No.2)

ウマ/ウシの四肢骨の破片である。土塊状である。

・ No56 (D 10 No.3)

獣類の四肢骨の破片である。

・ No57 (D 59)

獣類の部位不明の破片である。一部、土塊状である。

・ No58 (M 4 No.1)

ウシの右手中手骨の破片である。遠位端は欠損し、近位端も破損する。

・ No59 (M 4 No.2)

ウマの左上顎第3/4前臼歯の破片である。

・ No60 (M 4 No.3)

ニホンジカの角の可能性がある破片である。

・ No61 (M 4 No.4)

ニホンジカの中手骨/中足骨の破片、ニホンジカの角の可能性がある破片である。

・ No62 (ひ64 確認面)

獣類の部位不明の破片である。土塊状である。

4. 考察

西近津遺跡III・IVより出土した骨類62試料からは、ヒト、ウマ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、種類不明の獣類が確認された。

イノシシやニホンジカは、日本各地の遺跡において古くより出土することが知られている。本遺跡では、イノシシは、NT III H 6 カマドから第2/5中手骨/中足骨の破片が検出された程度であり、個体数としては少ない。遠位端が未化骨で外れており、幼獣とみられる。また、NT III H 12 サブトレード検出されたイノシシの可能性がある左右上腕骨も大きさから幼獣と判断される。ニホンジカは、のべ6遺構(NT III H 6、NT III H 12、NT III H 5、NT IV M 15、NT IV D 7、NT IV M 4)より確認された。ニホンジカは、成獣とともに、NT III H 12で検出された椎骨で椎体板が外れる資料が確認されることから、幼獣も狩猟の対象となっていた可能性がある。また、NT IV D 7で検出されたニホ

ンジカの角には、切痕が認められたことから、道具としての利用なども推定される。なお、種類不明の獣類の中には、焼骨が認められた。炉やカマドからの試料を主体とする状況から、食利用の痕跡あるいは残滓処理の状況を示すと考えられる。

ウマおよびウシは、家畜として存在していたものに由来すると考えられる。ウシに関しては、NT III H 1 のウシの可能性がある角、NT IV H3I 内集石(攪乱)の左下顎第1後臼歯、NT IV M 4 で右中手骨が検出される程度である。出土数が少ないため、利用の形態についての詳細は不明である。一方、ウマは、多くの遺構(NT III H 4、NT III H12、NT III D13、NT IV H23、NT IV M15、NT IV D 7、NT IV M 4)から出土する。地点別の出土数(試料数)を見ると、NT III D13が最も多く、NT III H12、NT IV M15がこれに次ぐ。NT III D13では、主に後肢が出土し、左右の踵骨・距骨・足根骨と第2~4中足骨が近接する状態である。このことから、左右の後肢を揃えた状態が埋存していた可能性がある。なお、左第3中足骨の近位端幅が約45mm前後を測る。林田・山内(1957)、西中川ほか(1991)を参考とすると、体高120~125cm程度となり、木曾馬・御崎馬クラスの中型馬に相当する可能性がある。次に、M15で出土した下顎骨は、西中川ほか(1991)を参考とすると、臼歯高の計測値から4~5歳程度のウマと推定される。また、全臼歯列長179mmを測ることから、サラブレット並みの体高となる可能性があり、大型馬と判断される。なお、ウシ、ウマについては、焼骨がみられず、また解体に伴う切痕も観察されなかった。ただし、出土骨の状況をみると、NT III D13が全身骨格、NT III H12が前肢、M15が後肢を主体とする。本遺跡周辺(浅間山南麓)には、平安時代以降において、塩野牧や長倉駅といったウマの繁殖・利用に関する施設が置かれていたと推定されている(御代田町教育委員会、1989)。

ヒトは、NT IV D 4・D 5 試料に確認された。D 4 の出土人骨は、左側を上にした状態であることから横臥状態で埋葬されていたことが推定される。本出土人骨には、右上顎第3大臼歯がみられ、また左下顎第3大臼歯も萌出した痕跡が認められることから、16歳程度以上の成人に達していたことがわかる。また、咬耗状況は、左側の上・下第2大臼歯が象牙質が僅かに露出する程度、第3大臼歯がエナメル質咬耗にとどまる。これより、成年(16~20歳程度)後半から壮年(20~39歳程度)前半と推定される。歯牙計測値を權田(1959)と比較すると女性的と判断されるが、眉上隆起、乳様突起、外後頭骨隆起などの性差の特徴が現れる箇所が観察できなかったため、性別の詳細は不明である。

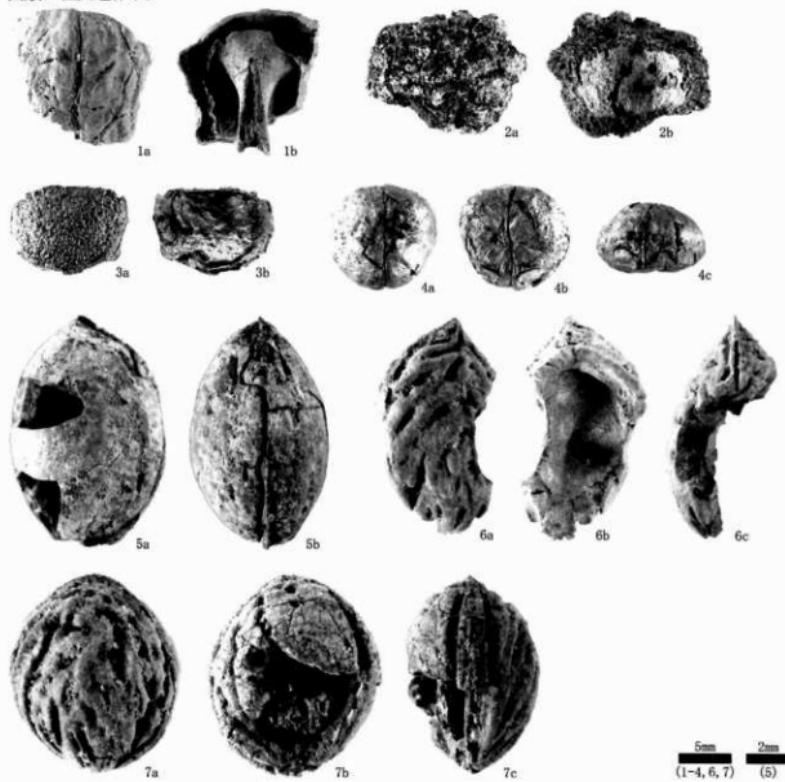
一方、D 5 の出土人骨は、右頭頂骨が土坑底部に接する状態であったとみられるが、埋葬方法については調査所見による確認が必要である。頭蓋は、全体的に骨厚が薄く、冠状縫合の内側が閉じていない。また、左上顎中切歯がみられるが、未咬耗であり、萌出直後に近い時期であったと思われる。これより、本人骨は8~10歳程度の小児程度と考えられる。性別はについては不明である。

引用文献

- 藤田恒太郎, 1949, 齒の計測基準について. 人類学雑誌, 61, 27-32.
- 權田和良, 1959, 齒の大きさの性差について. 人類学雑誌, 67, 151-163.
- 林田重幸・山内忠平, 1957, 馬における骨長より体高の推定法. 鹿児島大學農學部學術報告, 6, 146-156.
- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328 p.
- 加藤嘉太郎・山内 昭二, 2003, 新編 家畜比較解剖図説 上巻. 養賢堂, 315 p.
- 御代田町教育委員会, 1989, 鍛師屋遺跡群 根岸遺跡. 長野県北佐久郡御代田町根岸遺跡発掘調査報告書.
- 中山至大・井口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642 p.
- 西中川駿・本田道輝・松元光春, 1991, 古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究. 平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書, 99 p.
- 小畠弘巳, 2008, マメ科種子同定法. 「極東先史古代の雜穀3」. 日本学術振興会平成16~19年度科学研究費補助金(基盤B-2) (課題番号16320110) 「雜穀資料からみた極東地域における農耕受容と拡散過程の実証的研究」研究成果報告書, 小畠弘巳編, 熊本大学埋蔵文化財調査室, 225-252.

佐藤敏也, 1988, 弥生のイネ, 弥生文化の研究2生業, 金闇 忠・佐原 真編, 雄山閣, 97-111.

図版1 種実遺体(1)



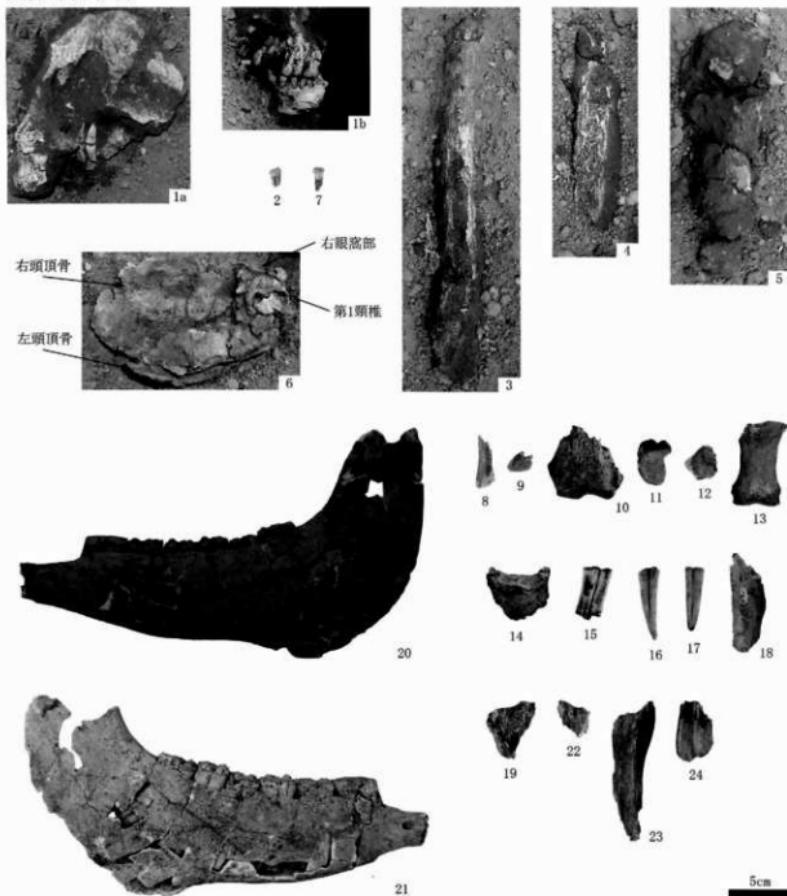
1. オニグルミ 核(NTIV H27 炉;16)
2. クヌギ 葉斗(NTIII H4 II区ホリ方;5)
3. クヌギ 果皮(着点)(NTIII H4 II区ホリ方;5)
4. クヌギ 子葉(NTIII H4 II区ホリ方;5)
5. スモモ 核(NTIII H12 実;9)
6. モモ 核(ネズミ類食痕)(NTIV H31 炉;17)
7. モモ 核・種子(NTIV H1;11)

図版2 種実遺体(2)



8. イネ 頸・胚乳 (NTIV H19 IV区ホリ方;13)
9. イネ 胚乳 (NTIV H19 IV区ホリ方;13)
10. イネ 胚乳 (NTIV H19 IV区ホリ方;13)
11. アワ 頸・胚乳 (NTIII H7 No.1ピット内;7)
12. オオムギ 頸・胚乳 (NTIV H19 IV区ホリ方;13)
13. オオムギ 頸・胚乳 (NTIV H19 I区;13)
14. コムギ 胚乳 (NTIII H7 カマド;6)
15. コムギ 胚乳 (NTB H7 検出面坪墨書き内;8)
16. マメ科 種子 (NTIII H3 III区床上;3)
17. マメ科 種子 (NTIV H19 I区;15)
18. マメ科(アズキ類) 種子 (NTIII H7 No.1ピット内;7)
19. ホタルイ属(平滑型) 果実 (NTIII H7 No.1ピット内;7)

図版3 出土骨(1)



1. ヒト 頭蓋骨(NTIV D4 No. 1;44)
2. ヒト 大腿骨?(NTIV D4 No. 2;45)
3. ヒト 四肢骨?(NTIV D4 No. 3;46)
4. ヒト 左上顎中切歯(NTIV H4 No. 5;51)
5. ウマ 左上顎第3門歯(NTIII H12;13)
6. ウマ 左橈側手根骨(NTIII H12 サブトレ;14)
7. ウマ 左基節骨(NTIII H12;13)
8. ウマ 右下顎臼歯(NTIV B23 I 区埋土;33)
9. ウマ 脊骨(NTIV M15;40)
10. ウマ 右下顎第1門歯(NTIV H62;41)
11. ウマ 左下顎臼歯(NTIV M15 No. 1;43)
12. ウマ 左尺骨(NTIV D7 No. 1;52)

2. ヒト 右下顎第3大臼歯(NTIV D4 No. 1;44)
3. ヒト 頭蓋骨?(NTIV D4 No. 4;47)
4. ヒト 頭蓋骨(NTIV D6 No. 4;49)
5. ウマ 左上顎第3門歯(NTIII H4 II 区床面;2)
6. ウマ 左橈骨(NTIII H12 サブトレ;14)
7. ウマ 左副手根骨(NTIII H12 サブトレ;14)
8. ウマ 左基節骨(NTIII H12;13)
9. ウマ 右下顎第1門歯(NTIV M15;40)
10. ウマ 右大腿骨(NTIV H62;40)
11. ウマ 左下顎臼歯(NTIV M15 No. 1;43)
12. ウマ 左尺骨(NTIV D7 No. 1;52)
13. ウマ 左上顎第3/4前臼歯(NTIV M4 No. 2;59)

図版4 出土骨(2)



25. ウマ 左上顎第1門歯(NTIII D13:24)
 27. ウマ 右寛骨(NTIII D13:20)
 29. ウマ 左大脛骨(NTIII D13:19)
 31. ウマ 右大脛骨(NTIII D13:25)
 33. ウマ 右膝蓋骨(NTIII D13:22)
 35. ウマ 左脛骨(NTIII D13:19)
 37. ウマ 右脛骨(NTIII D13:19)
 39. ウマ 左踵骨(NTIII D13:19)
 41. ウマ 左跗骨(NTIII D13:19)
 43. ウマ 左中心足根骨(NTIII D13:19)
 45. ウマ 右第4足根骨(NTIII D13:19)
 47. ウマ 右第1~2足根骨, 第3足根骨, 中足骨近位端(NTIII H16:19)
 48. ウマ 左右第2~4中足骨出土状況(NTIII D13:19)49. ウマ 左第2中足骨(NTIII D13:19)
 50. ウマ 左第3中足骨(NTIII D13:19)
 52. ウマ 右第4中足骨(NTIII D13:19)
 54. ウマ 第3中足骨(NTIII D13:19) 26. ウマ 左寛骨(NTIII D13:21)
 28. ウマ 右寛骨(NTIII D13:25)
 30. ウマ 左大腿骨(NTIII D13:19)
 32. ウマ 右大腿骨(NTIII D13:22)
 34. ウマ 左脛骨(NTIII D13:19)
 36. ウマ 右脛骨(NTIII D13:19)
 38. ウマ 左右足根骨等出土状況(NTIII D13:19)
 40. ウマ 右踵骨(NTIII D13:19)
 42. ウマ 右跗骨(NTIII D13:19)
 44. ウマ 右中心足根骨(NTIII D13:19)
 46. ウマ 左第3足根骨(NTIII D13:19)
 51. ウマ 左第4中足骨(NTIII D13:19)
 53. ウマ 右第2中足骨, 第3中足骨(NTIII D13:19)
 55. ウマ 基節骨(NTIII D13:19)

図版5 出土骨(3)



56. イノシシ 第2/5中手骨/中足骨(NTIII H6 カマド;8)
 58. イノシシ? 右上腕骨(NTIII H12 サブトレ;14)
 60. ニホンジカ 左上頸第2前臼歯(NTIII H12;15)
 62. ニホンジカ 椎骨(NTB H12 サブトレ;17)
 64. ニホンジカ 左尺骨(NTIII H12 東;11)
 66. ニホンジカ 白歯(NTIV H5 IV区;26)
 68. ニホンジカ 角(NTIV D7 №2;53)
 70. ニホンジカ? 角?(NTIV M4 №3;60)
 72. ウシ? 角?(NTIII H1 覆土;1)
 74. ウシ 右中手骨(NTIV M4 №1;58)
 76. 猿類 四肢骨(NTIII H6 カマド袖;5)
 78. 猿類 四肢骨(NTIV D7;54)
 80. 猿類 四肢骨(NTIII H6 カマド内火床;3)
 82. 猿類 四肢骨(NTIII H6 カマド;7)
 84. 猿類 下頸骨?(NTIV H21 炉内覆土;27)
 86. 猿類 四肢骨(NTIV D7;54)

57. イノシシ? 左上腕骨(NTIII H12 サブトレ;14)
 59. ニホンジカ 中手骨/中足骨(10;NTIII H6 カマド;10)
 61. ニホンジカ 腰椎(NTIII H12 床面東;12)
 63. ニホンジカ 左腕骨(NTB H12 東;11)
 65. ニホンジカ 左脛骨(NTB H12 サブトレ;17)
 67. ニホンジカ 右下頸骨(NTIV M15;42)
 69. ニホンジカ 中手骨/中足骨(NTIV M4 №4;61)
 71. ニホンジカ? 角?(NTIV M4 №4;61)
 73. ウシ 左下頸第1後臼歯(NTIV H31内集石(攢乱);35)
 75. 猿類 四肢骨(NTIII H12;15)
 77. 猿類 四肢骨(NTIV H34 №2;37)
 79. 猿類 肩甲骨?(NTIII H12 サブトレ;16)
 81. 猿類 四肢骨(NTIV H6 カマド袖;5)
 83. 猿類 下頸骨?(NTIV H12 炉内覆土;27)
 85. 猿類 肋骨(NTIV D7;54)
 87. 猿類 不明(NTIV H19瓶方;29)

西近津遺跡V出土の動物遺体

樋泉 岳二(早稲田大学)・孔智賢(パレオ・ラボ)

1.はじめに

佐久市長土呂に所在する西近津遺跡Vからは、弥生時代～中世の集落址が確認された。ここでは、弥生時代後期～古代の遺構から検出された歯および骨片資料の同定結果を報告する。

2. 資料と分析方法

資料は、4遺構から採集された5資料である。各遺構の覆土から取り上げられたものだが、採集方法の詳細は不明である。遺構の情報は以下である。

弥生時代後期のH4号住居址は小鎌治遺構の可能性もあり、古墳後期と平安の遺構と重複している。D3号土坑は、古墳時代以降の粘土採掘坑である。D6号土坑は、出土遺物がなく時期は不明だが、中世の可能性も想定されている。

クリーニングは、洗浄すると破損するおそれがあったため、付着された土を乾燥し、筆で取り除いた。特に保存状態が悪い資料No16は、表面の土を除去した後、水に薄く溶かした木工用ボンドを塗って形態を保つようにした。接合可能な資料については、接合を行った。同定は国立歴史民俗博物館西本豊弘氏所蔵の現生標本との比較によって行った。

3. 結果および考察

同定結果を表1に示す。資料はすべて哺乳類の歯または骨である。全般的に溶解が進行しており、保存状態は悪い。以下、遺構ごとに内容を述べる。

H4号住居址(資料No14、弥生時代後期)

シカ *Cervus nippon* の臼歯が確認された。エナメル質のみの破片である。

D3号土坑(資料No15、古墳時代以降)

シカの角落の角座部分。今回の分析資料の中では、比較的保存がよい。角幹と第1尖は切断されており、角器製作の残滓である。

D6号土坑(資料No16、年代不明～古代？)

ウマ *Equus ferus* が1個体分まとめて検出されている。成獣で、性別は不明。中手骨・中足骨の計測値から推定される体高は120～125cm程度で、古代に一般的にみられる比較的小型のウマである。骨は全体的に溶解が進行しており、とくに脆弱な部位(頸椎・肋骨など)はほとんど消滅しているが、肩甲骨・橈骨・中手骨・寛骨などは比較的の保存がよい。腰椎と後肢の脛骨～足根骨が欠如しているのは攪乱のためである。同定結果と出土状況の実測図を照合した結果、全身が交連状態(各骨が関節した状態)で埋蔵されていたことが確認された。右を上に向けた側臥姿勢である。死後のウマを解体することなく、そのまま埋納したものと考えられるが、その性格については遺構・遺物などと比較検討したうえで検討するままで検討する必要がある。

M5号溝状遺構(資料No17・18、古代)

ウマの下顎臼歯2点と足根骨1点、ウマまたはウシと思われる椎骨破片1点、および種同定の困難な哺乳類の小片3点が確認された。

4. おわりに

西近津遺跡Vからはウマ・シカを含む哺乳類遺体が出土した。弥生時代後期のH4号住居址ではシカの歯が確認され、シカ獣が行われていた可能性が示された。また古墳時代以降ながら、角器製作の残滓と考えられる鹿角が出土したことから、本遺跡において角器生産が行われていたことが示唆される。古代？のD6号土坑からはウマの全身骨が出土した。死後のウマを解体することなく、そのまま埋納したものと考えられるが、その性格については遺構・遺物などと比較検討したうえで検討する必要がある。

表1. 西近津遺跡V出土動物遺体の同定結果

資料No.	No.	通稱	出土位置	種類	部位	残存位置/残存状態	左右	数	備考・計測
14	1	H4号住居址	-	シカ	臼齒	破片	-	多数	
15	2	D3号土坑	-	シカ	角	角座	L	1	落角、角幹・第1尖を切離
16	3	D6号土坑	1	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	4	D6号土坑	2	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	5	D6号土坑	3	ウマ	上顎臼齒(P3~M2のいずれか)	-	R	1	
16	6	D6号土坑	4	ウマ	上顎臼齒(P3~M2のいずれか)	-	R	1	
16	7	D6号土坑	5	ウマ	上顎臼齒(P3~M2のいずれか)	-	L	1	
16	8	D6号土坑	6	ウマ	下顎M3	-	L	1	
16	9	D6号土坑	7	ウマ	下顎骨	[P4-M1-M2-M3 +下顎板]	L	1	
16	10	D6号土坑	7	ウマ	上顎M2	-	L	1	
16	11	D6号土坑	7	ウマ	上顎M3	-	L	1	
16	12	D6号土坑	7	ウマ	上顎骨	[P3-P4-M1-M2-M3]	R	1	M2は著しく変形
16	13	D6号土坑	7	ウマ	下顎骨	[P3-P4-M1-M2-M3]	R	1	
16	14	D6号土坑	9	ウマ	肩甲骨	関節部	R	1	
16	15	D6号土坑	9	ウマ	肋骨	-	-	2	No.16-14の肩甲骨に付着して出土
16	16	D6号土坑	10	ウマ	手根骨/足根骨	-	-	4	
16	17	D6号土坑	10	ウマ	上腕骨	完存	R	1	
16	18	D6号土坑	15	ウマ	桡骨	遠位端	L	1	
16	19	D6号土坑	16	ウマ	肩甲骨	関節部	L	1	
16	20	D6号土坑	不明	ウマ	上腕骨	近位端	L	1	
16	21	D6号土坑	不明	ウマ	胸椎	-	-	2	
16	22	D6号土坑	不明	ウマ	胸椎	破片	-	1	
16	23	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	24	D6号土坑	8	ウマ	中手骨	近位端	R	1	SD:31.8mm
16	25	D6号土坑	8	ウマ	基節骨	-	-	1	
16	26	D6号土坑	11	ウマ	桡骨	近位端	R	1	
16	27	D6号土坑	11	ウマ	上腕骨	遠位端	R	1	
16	28	D6号土坑	12	ウマ	後骨	遠位端	R	1	No.16-26と同一個体
16	29	D6号土坑	12	ウマ	手根骨/足根骨	-	-	1	
16	30	D6号土坑	13	ウマ	中手骨	遠位端	R	1	No.16-24と接合
16	31	D6号土坑	13	ウマ	基節骨	-	-	1	
16	32	D6号土坑	14	ウマ	中手骨	完存	L	1	Bp:45.5mm, SD:30.8mm
16	33	D6号土坑	21	ウマ	中足骨	近位端	L	1	Bp:42.7mm, SD:29.5mm
16	34	D6号土坑	不明	ウマ?	頸椎	破片	-	多数	
16	35	D6号土坑	17	ウマ	仙骨	-	-	1	
16	36	D6号土坑	17	ウマ	寰骨	坐骨破片	R	1	
16	37	D6号土坑	17	ウマ	大腿骨	近位端	L	1	
16	38	D6号土坑	17	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	39	D6号土坑	18	ウマ	寰骨	転骨破片	R	1	No.16-36と接合
16	40	D6号土坑	18	ウマ	大腿骨	骨幹	R	1	
16	41	D6号土坑	18	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	42	D6号土坑	19	ウマ	寰骨	關節・坐骨破片	L	1	
16	43	D6号土坑	19	ウマ	寰骨	關節破片	R	1	No.16-36と接合
16	44	D6号土坑	19	ウマ?	不明	破片	-	2	
16	45	D6号土坑	20	ウマ	腰椎	椎体	-	1	
16	46	D6号土坑	不明	ウマ	椎骨	椎体	-	1	
16	47	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
16	48	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	-	-	2	
16	49	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	椎体破片	-	2	
16	50	D6号土坑	22	ウマ	胸椎	棘突起破片	-	2	
16	51	D6号土坑	22	ウマ	椎骨	破片	-	2	
16	52	D6号土坑	不明	ウマ?	不明	破片	-	多数	
17	53	M5号溝状遺構	-	ウマ	下顎臼齒(P3~M2のいずれか)	-	L	1	
17	54	M5号溝状遺構	-	ウマ	下顎M3	-	R	1	
17	55	M5号溝状遺構	-	ウマ	足根骨	-	-	1	
17	56	M5号溝状遺構	-	ウシまたはウマ	椎骨	椎体	-	1	
17	57	M5号溝状遺構	-	哺乳類・同定不可	不明	破片	-	3	1点は椎の破片
18	58	M5号溝状遺構	No.1	ウマ	下顎M3	-	L	1	



H4号住居址



D3号土坑



D6号土坑



D6号土坑



M5号溝状遺構



M5号溝状遺構



西近津遺跡Ⅲ(平成18年度調査)



西近津遺跡Ⅲ(平成18年度調査)



西近津遺跡Ⅳ(平成20年度調査地点東に近接して中部横断自動車道)

図版 2



西近津遺跡IV(平成19年度調査)



西近津遺跡IV(平成20度調査)

西近津遺跡Ⅲ



1 H1号住居址

2 H1号住居址

3 H1号住居址
カマド

4 H1号住居址
カマド煙道部

5 H1号住居址
カマド掘方

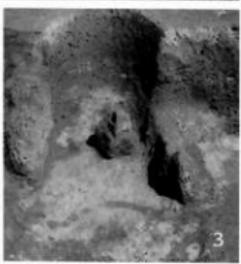
図版 4



1



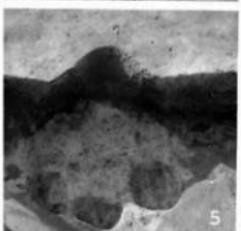
2



3



4



5



6



7

H2号住居址遺物出土状況(南方より)

1 H2号住居址カマド付近遺物出土状態

2 H2号住居址
カマド

3 H2号住居址
カマド

4 H2号住居址
カマド掘方

5 H2号住居址
カマド掘方

6 H2号住居址
遺物出土状態

7 H2号住居址
掘方

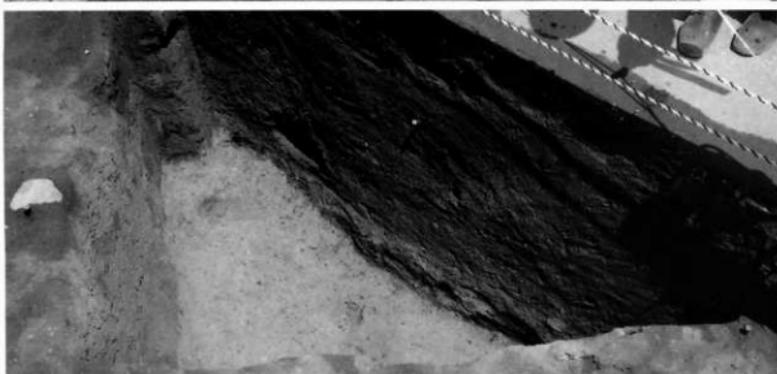
H3号住居址全景



H3号住居址掘方



H3号住居址掘方



図版 6



H4号住居址全景



H4号住居址



H4号住居址掘方

H4号住居址掘方



H5号住居址全景



H5号住居址掘方



H6号住居址全景



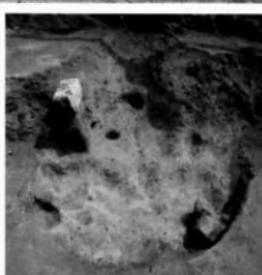
図版 8



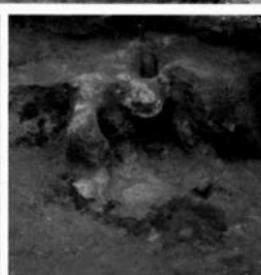
H6号住居址掘方



H6号住居址
出土状態



H6号住居址
カマド掘方

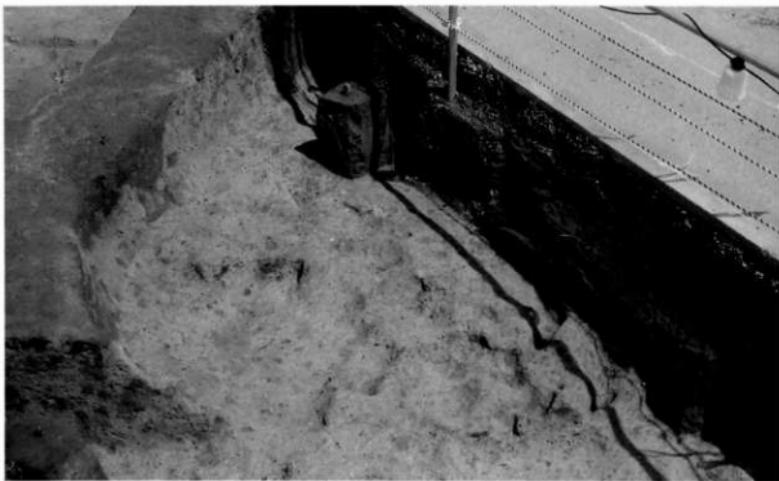


H6号住居址
カマド



H7号住居址
南側部分全景

H7号住居址
南側部分掘方



H7号住居址
北側部分全景



H7号住居址
北側部分掘方

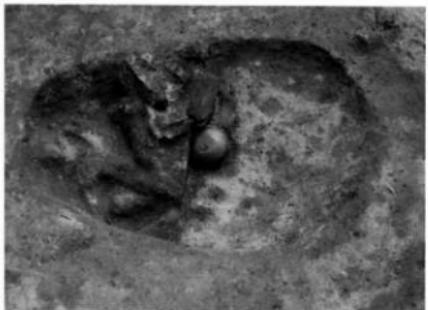


図版10



H7号住居址
紡錘車出土状態

H7号住居址
紡錘車出土状態



H7号住居址
P3内遺物
出土状態

H7号住居址
鉄鎌出土状態



H8号住居址掘方

H8号住居址全景

H9号住居址
北側部分

H9号住居址掘方



H9号住居址
南側部分

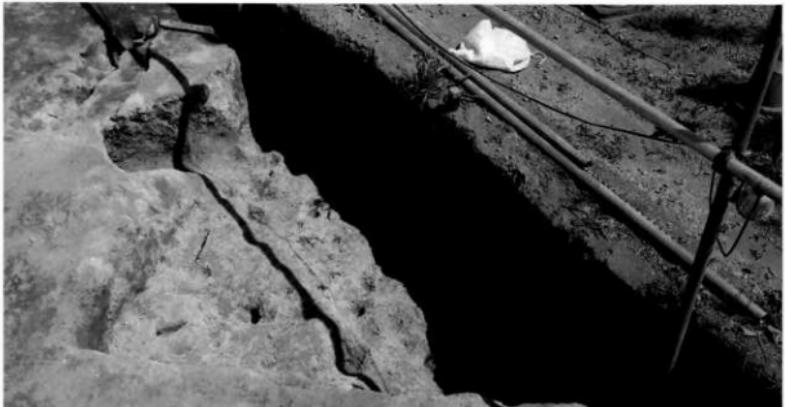
F1号掘立柱建物址
P3



H11号住居址全景



図版12



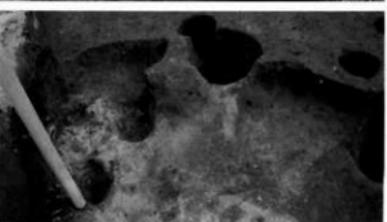
H11号住居址
掘方



H12号住居址
掘方



D13号土坑
出土獸骨



H12号住居址
カマド



D13号土坑
出土獸骨



H13号住居址
全景



H13号住居址
掘方



H13号住居址
カマド



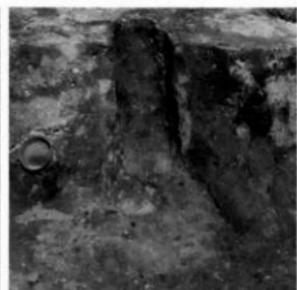
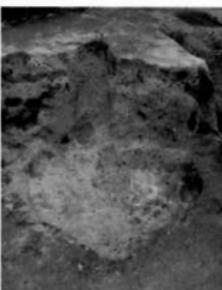
H14号住居址
遺物出土状態



図版14



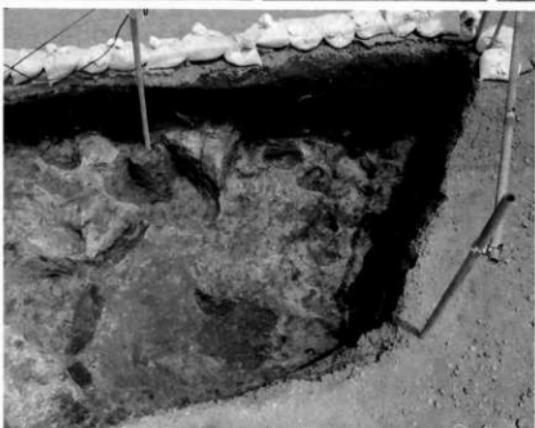
H14号住居址
掘方



H14号住居址
遺物出土状態

H14号住居址
カマド掘方

H14号住居址
カマド



H16号住居址
掘方

H17号住居址
全景



H17号住居址
掘方



H17号住居址
遺物出土状態



H17号住居址
鉄鎌出土状態



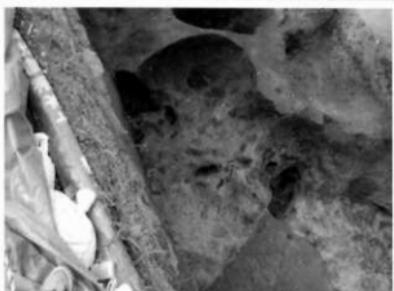
H17号住居址
刀子出土状態

図版16



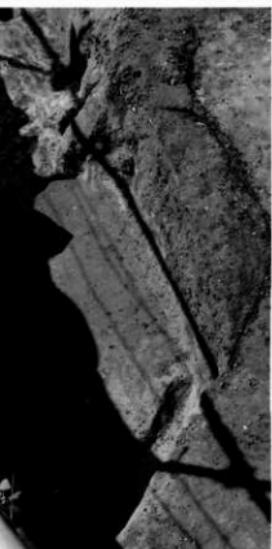
H18号住居址
掘方

H18号住居址
全景



H18号住居址
カマド掘方

H18号住居址
カマド



H19号住居址
掘方

H19号住居址
全景

H20号住居址
全景



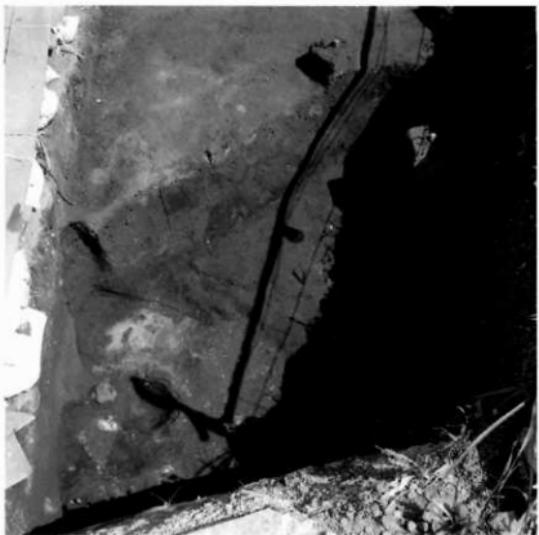
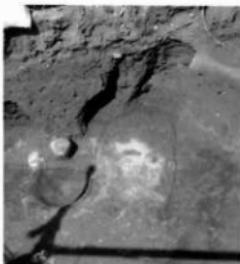
H20号住居址
掘方



H21号住居址
掘方



図版18



H22号住居址
カマド



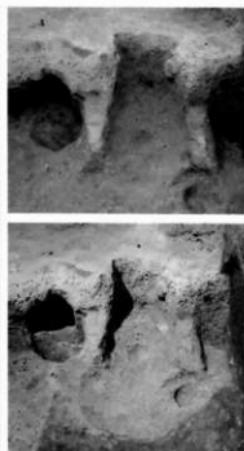
H23号住居址
カマド

H23号住居址
全景



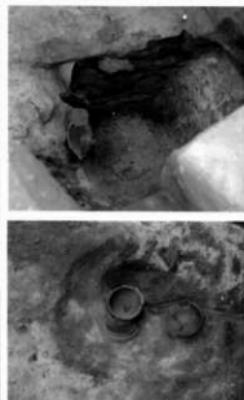
H24号住居址
全景

H24号住居址
掘方



H24号住居址
カマド

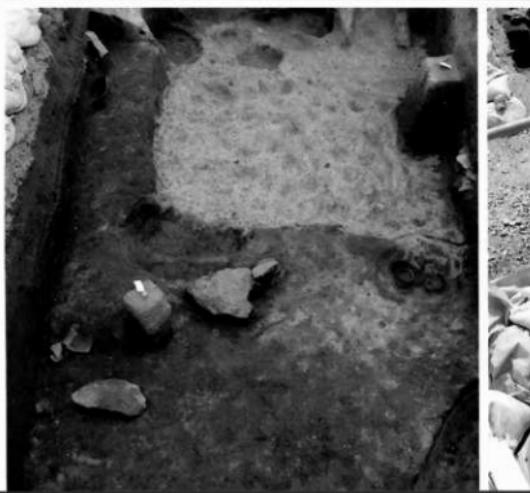
H24号住居址
カマド掘方



H25号住居址
全景

H25号住居址
P3

H25号住居址
P1内出土状態



H25号住居址
遺物出土状態

H26号住居址
全景

図版20



H27号住居址
掘方



H27号住居址
鐵鎌出土状態

H27号住居址
カマド掘方

H27号住居址
カマド



H15号住居址
掘方

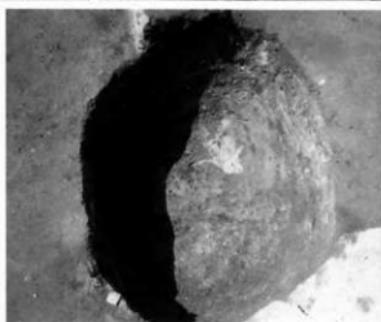
H10号住居址
全景

お12Gr
ピット群

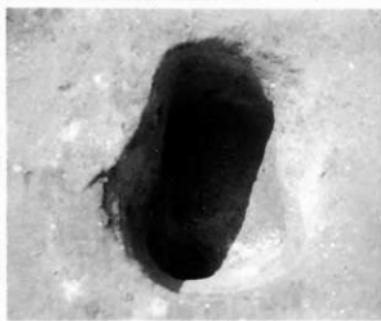
西近津遺跡Ⅲ
H6号住居址
付近景



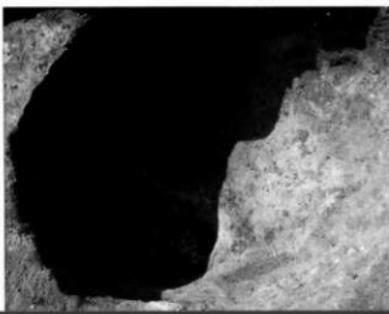
D1号土坑



D3号土坑

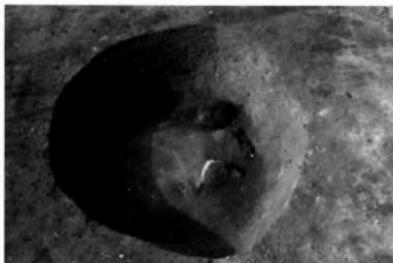
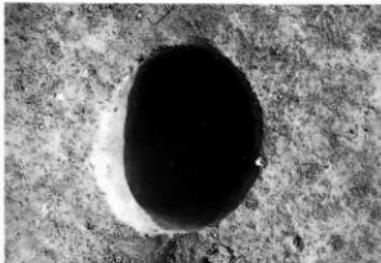


D5号土坑

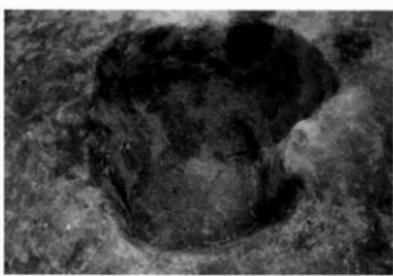
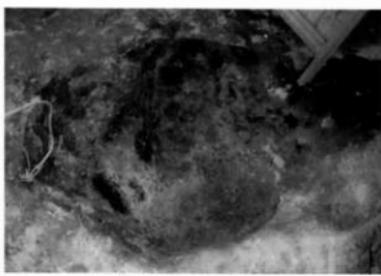


D6号土坑

図版22

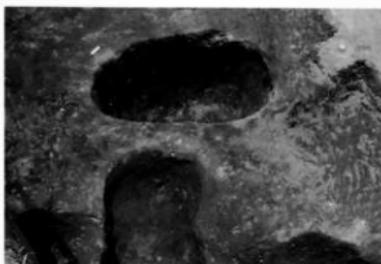


P20
D7号土坑



F1号掘立柱建物址
建物址P2

F1号掘立柱建物址
建物址P1



D9号土坑

F1号掘立柱建物址
建物址P4



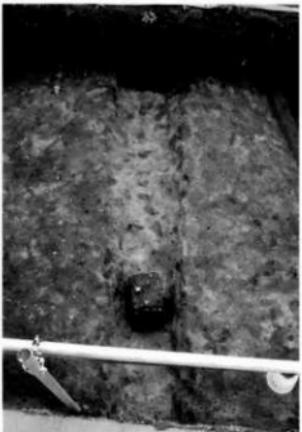
D10号土坑

D11号土坑

D13号土坑



M1号
溝状遺構



M2号
溝状遺構



M2号
溝状遺構付近
ピット群



西近津遺跡IV



H1号住居址
全景

H1号住居址
掘方



H2号住居址
全景

H3号住居址
全景



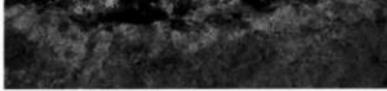
H3号住居址
遺物出土状態



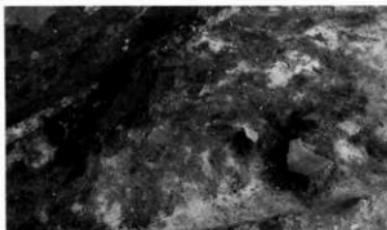
H3号住居址
遺物出土状態



H4号住居址
全景



H4号住居址
掘方

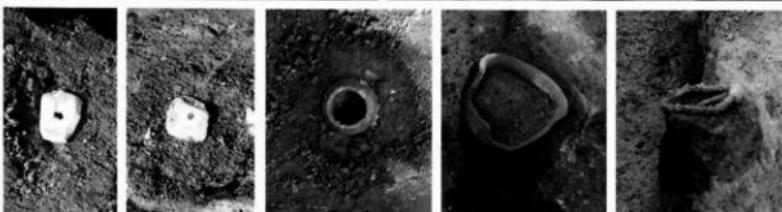


H4号住居址
遺物出土状態

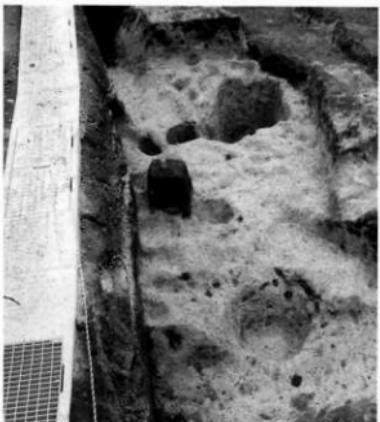
图版26



H5号住居址
掘方
全景



H5号住居址
遗物出土状态



H6号住居址掘方

H6号住居址
遗物出土状态

H6号住居址
全景



H7号住居址
全景



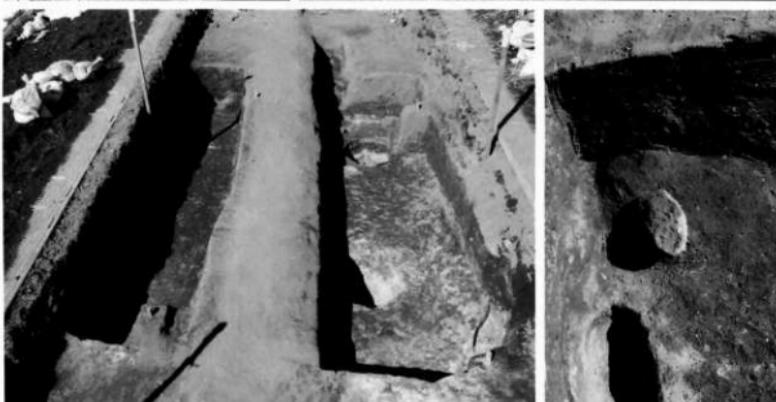
H7号住居址
全景

H8号住居址
全景



H9号住居址
全景

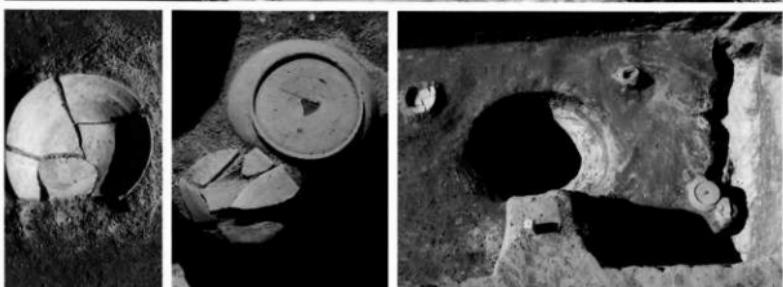
H9号住居址
遺物出土状態



図版28



H9号住居址
掘方



H9号住居址
遺物出土状態



H10号住居址
全景

H10号住居址
カマド



H10号住居址
カマド掘方

H10号住居址
遺物出土状態

H11号住居址
全景



H11号住居址
全景

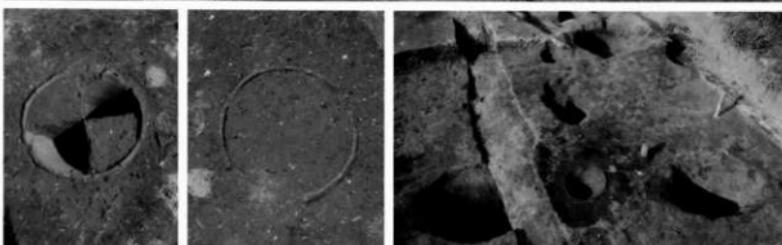


图版30

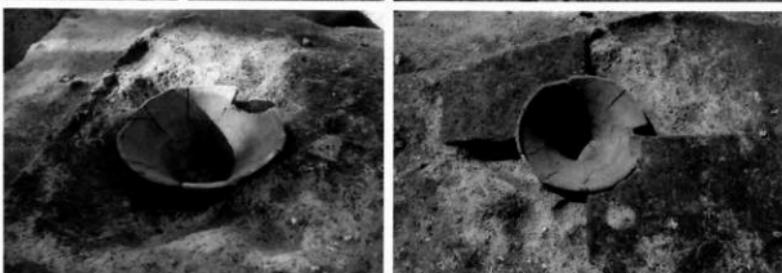
H11号住居址
全景



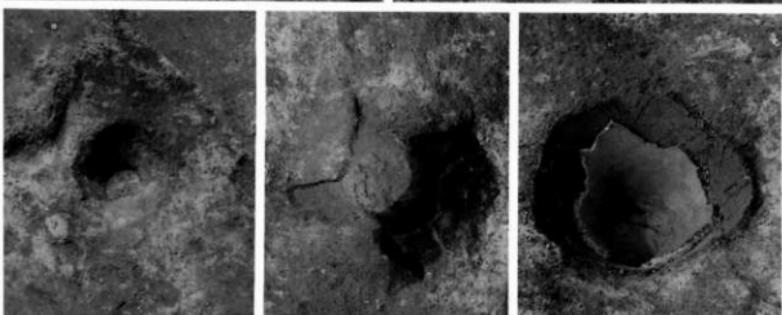
H11住居址
炉址



H11住居址
炉址



H11住居址
炉址



H11号住居址
P1



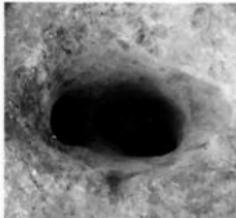
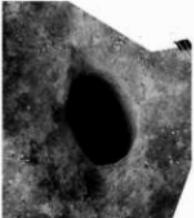
H11号住居址
P2

H11号住居址
P3

H11号住居址
P4

H11号住居址
P7

H11号住居址
P5



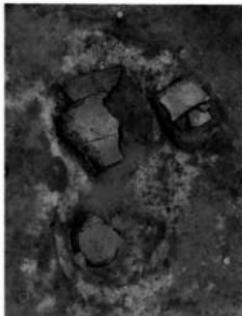
H12号住居址
全景



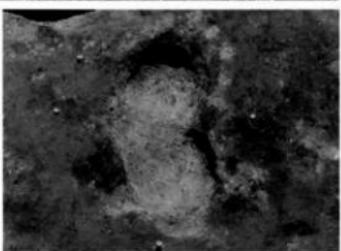
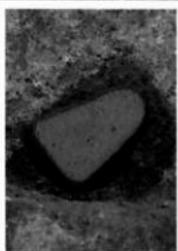
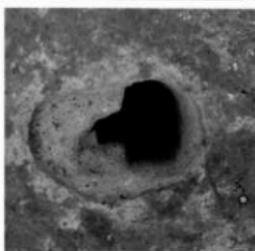
H12号住居址
掘方



図版32



H12住居址
炉址



H12住居址
ピット

H12住居址
遺物出土状態

H12住居址
炉址掘方



H14号住居址
全景

H13号住居址
全景



H14号住居址
カマド

H14号住居址
遺物出土状態

H14号住居址
掘方



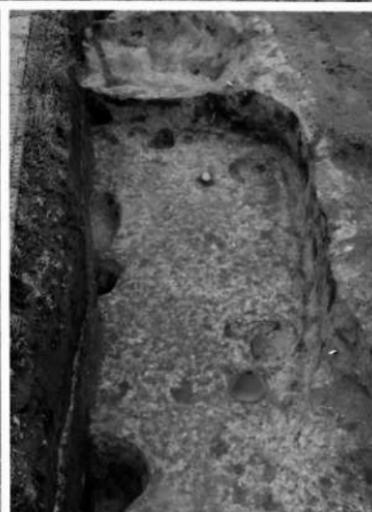
H15号住居址
全景



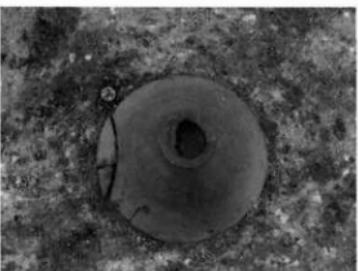
H15号住居址
掘方



H16号住居址
全景



図版34



H17号住居址
全景



H17号住居址
遺物出土状態



H18号住居址
全景



H20号住居址
付近

H18号住居址
掘方

H19号住居址
全景



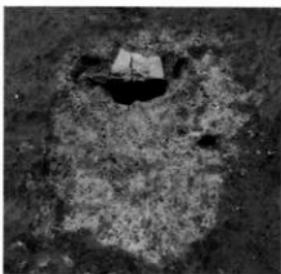
H19号住居址
掘方



H20号住居址
全景



图版36



H20号住居址
P3



H20号住居址
遗物出土状态



H22号住居址
全景

H21号住居址
全景



H22号住居址
炉址1-P1

H21号住居址
遗物出土状态

H22号住居址
掘方



H22号住居址
P1内
遺物出土状態

H22号住居址
遺物出土状態



H22号住居址
炉址1

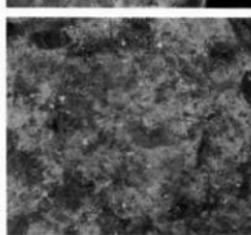
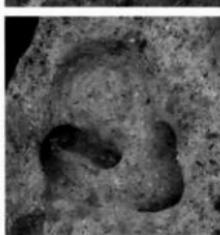
H22号住居址
炉址1

H22号住居址
炉址1

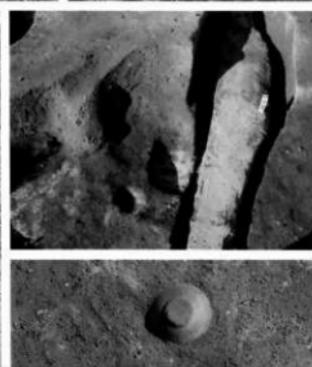
H22号住居址
炉址2

H22号住居址
炉址2

H22号住居址
炉址2



H23号住居址
全景



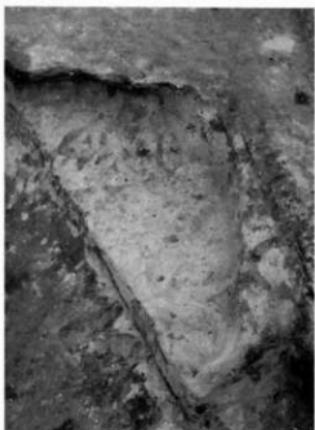
H23号住居址
カマド

H23号住居址
遺物出土状態

図版38



H24号住居址
全景



H26号住居址
全景

H24号住居址
掘方



H25号住居址
全景

H27号住居址
全景



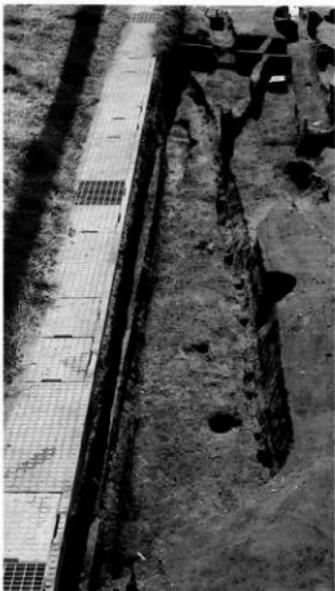
H27号住居址
炉址



H27号住居址
炭化材
出土状態

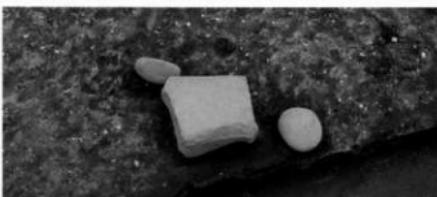


図版40



H28号住居址
全景

H29号住居址
全景



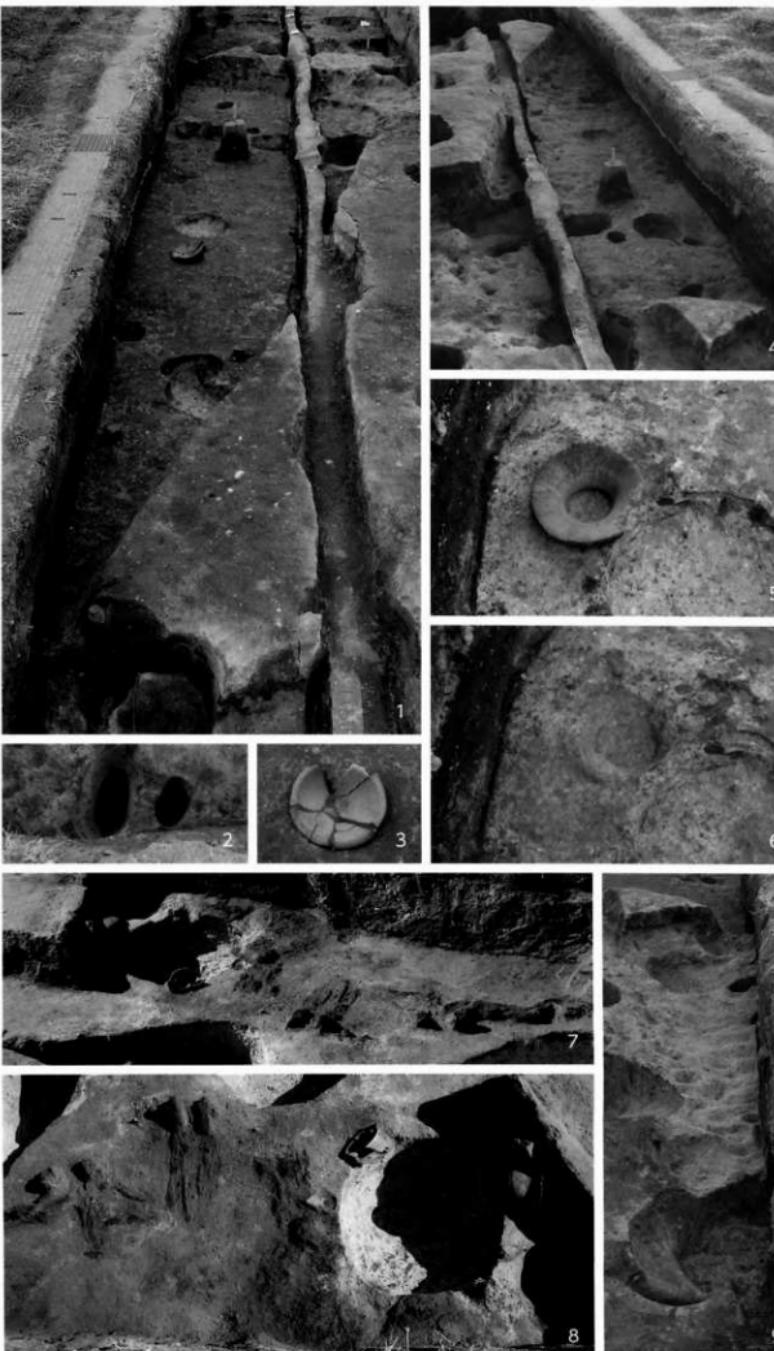
H29号住居址
掘方

H29号住居址
P3・P4



H28号住居址
遺物出土状態

H30号住居址
全景



1 H31号住居址
全景

2 H31号住居址
P1・P2

3 H31号住居址
遺物出土状態

4 H31号住居址
掘方

5 H31号住居址
炉址

6 H31号住居址
炉址掘方

7 H32号住居址
全景

8 H32号住居址
炭化材
出土状態

9 H32号住居址
掘方

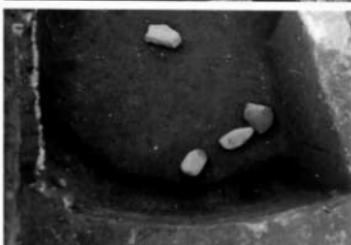
図版42



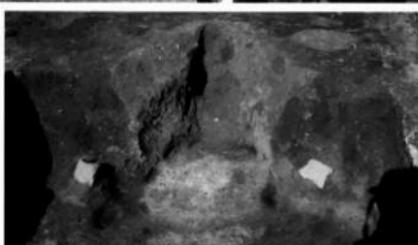
H34号住居址
全景



H33号住居址
全景



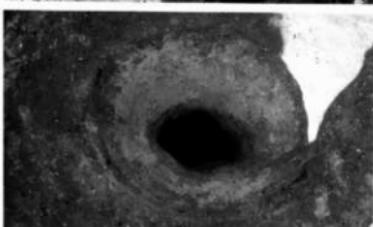
H34号住居址
遺物出土状態



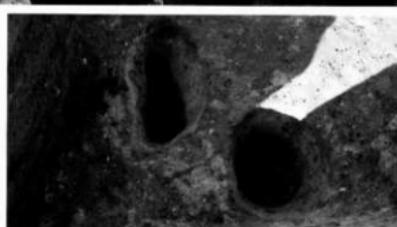
H34号住居址
カマド



H35号住居址
全景



H35号住居址
P4



H35号住居址
P5・P6

H36号住居址
全景



H37号住居址
掘方



H37号住居址
カマド内
遺物出土状態



H37号住居址
遺物出土状態



H37号住居址
カマド

图版44



H39号住居址
全景

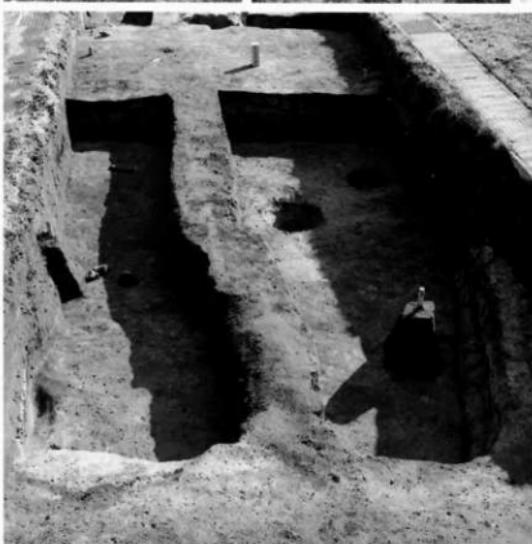
H38号住居址
全景



H39号住居址
炉址

H39号住居址
炉址

H39号住居址
炉址



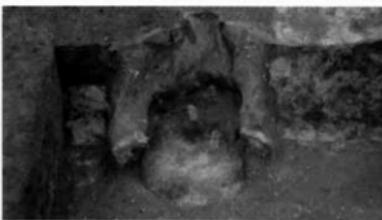
H41号住居址
全景

H40号住居址
全景

H42号住居址
全景



H42号住居址
カマド



H42号住居址
全景



H43号住居址
カマド



H44号住居址
全景

西近津遺跡IV
平成20年1月
調査地点



图版46



H45号住居址
掘方
H45号住居址
全景



H45号住居址
填砂
遗物出土状态
H45号住居址
填砂
遗物出土状态

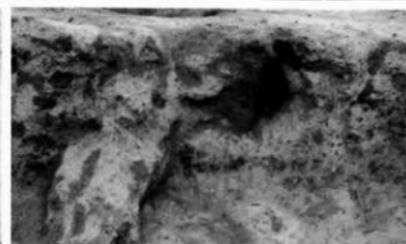
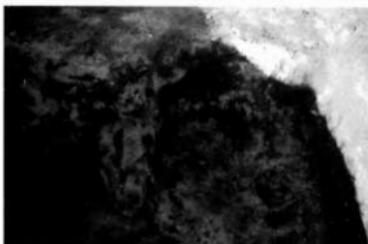


H45号住居址
填砂
H45号住居址
填砂
H45号住居址
填砂

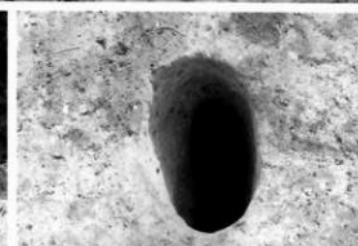
H46号住居址
全景



H46号住居址
カマド



H46号住居址
カマド煙道部



H46号住居址
P1



H47号住居址
全景

図版48



H48号住居址
全景



H49号住居址
全景



H49号住居址
遺物出土状態

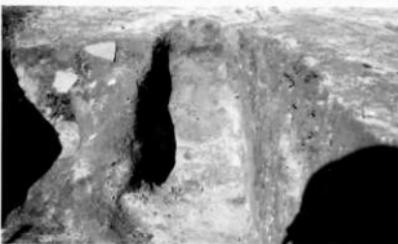


H49号住居址
カマド

H50号住居址
全景



H50号住居址
カマド



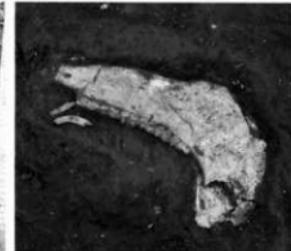
H51号住居址
全景



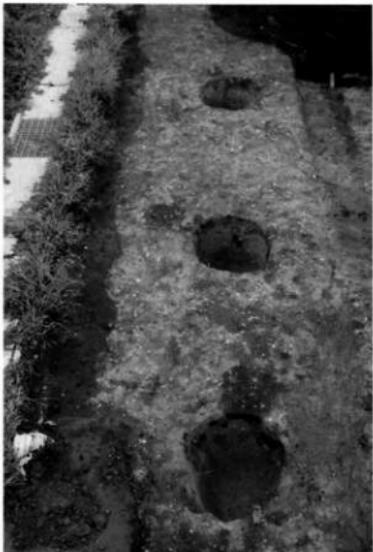
M15号
溝状遺構
全景



M15号
溝状遺構
獸骨出土状態



図版50



F1号
掘立柱建物址



F3号
掘立柱建物址

F2号
掘立柱建物址

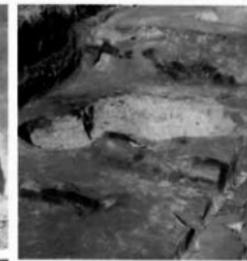
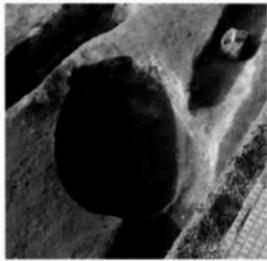


西近津遺跡IV
から
南東を望む

F4号
掘立柱建物址



F4号
掘立柱建物址
P1



F4号
掘立柱建物址

P9

F4号
掘立柱建物址
P2

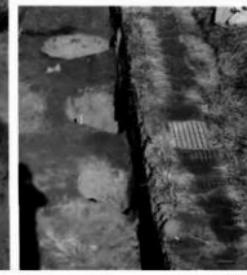
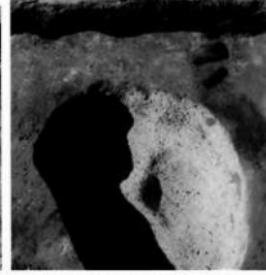
F4号
掘立柱建物址
P10

F4号
掘立柱建物址
P11

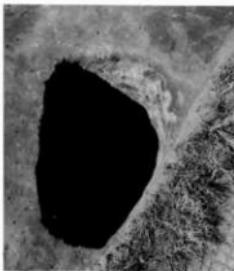
F4号
掘立柱建物址
P11・P12
・P13

F4号
掘立柱建物址
P12

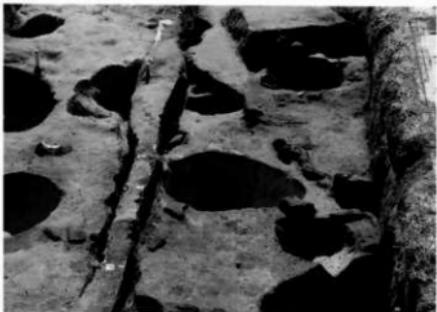
F4号
掘立柱建物址
P4・P5



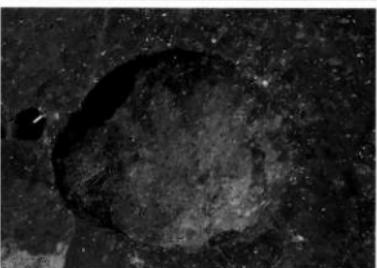
図版52



F4号
掘立柱建物址
P8



F4号
掘立柱建物址
P6



D2号土坑
D1号土坑



D4号土坑

D5号土坑

D5号土坑
小兒頭蓋骨

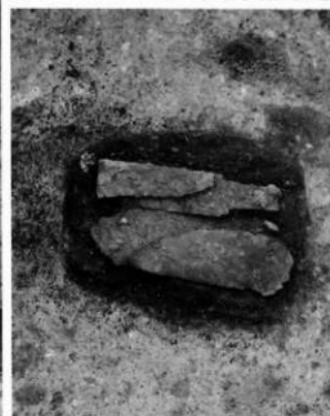
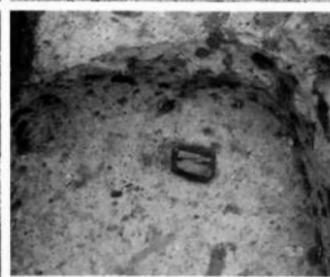
D5号土坑
小兒頭蓋骨下
刀子出土状態



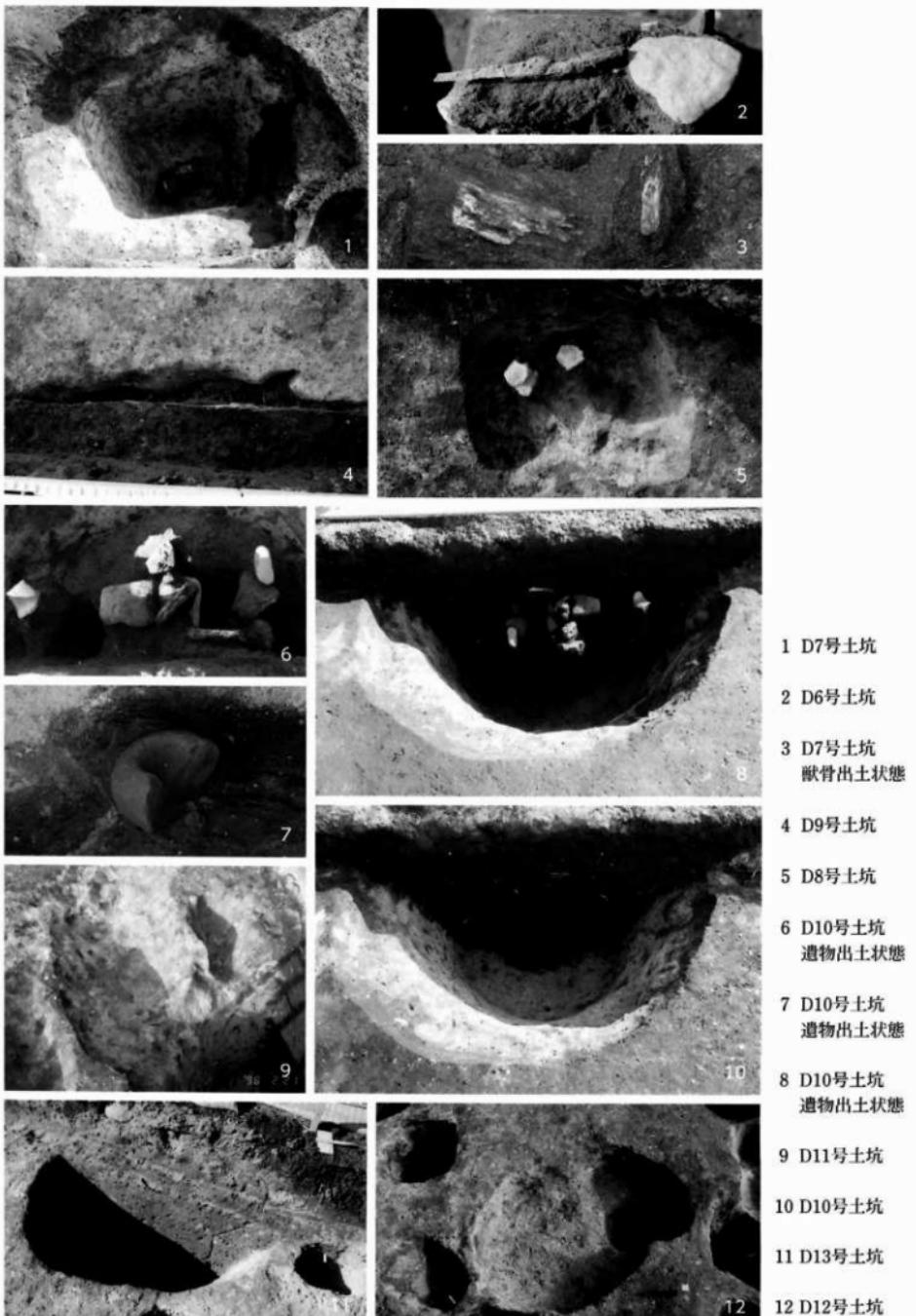
D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態

D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態

D5号土坑
南側の刀子・
鎌出土状態



図版54

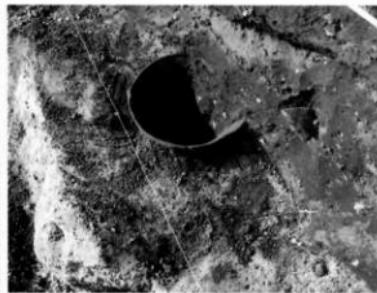


1 D7号土坑
2 D6号土坑
3 D7号土坑
獸骨出土状態
4 D9号土坑
5 D8号土坑
6 D10号土坑
遺物出土状態
7 D10号土坑
遺物出土状態
8 D10号土坑
遺物出土状態
9 D11号土坑
10 D10号土坑
11 D13号土坑
12 D12号土坑

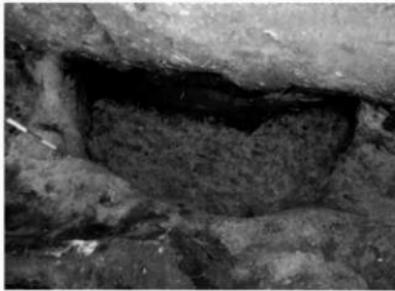
D14号土坑



D15号土坑



D16号土坑



D17号土坑



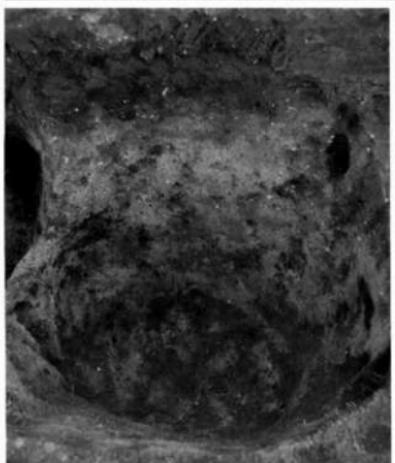
D17号土坑



D18号土坑



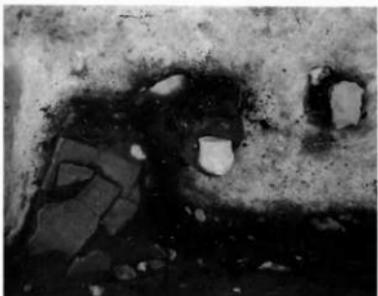
D20号土坑



西近津遺跡IV
平成20年1月
調査地点

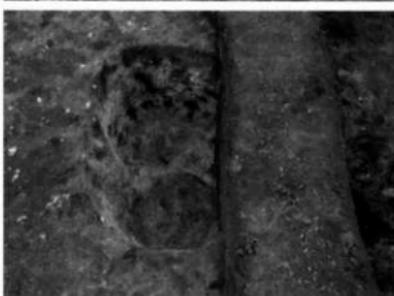


図版56



D21号土坑
遺物出土状態

D21号土坑



D23号土坑

D22号土坑



D25号土坑

D24号土坑

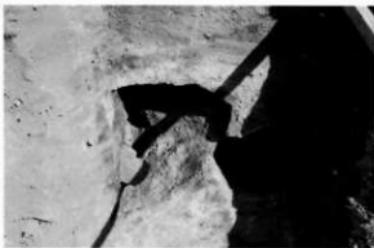
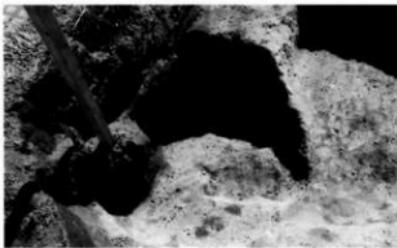
D26号土坑



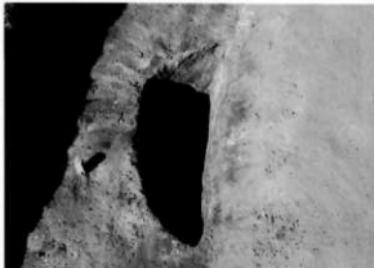
D28号土坑

D27号土坑

D29号土坑



D31号土坑



D33号土坑



D35号土坑



D37号土坑

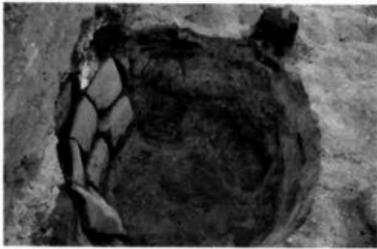


西近津遺跡IV
平成20年1月
調査地点

図版58



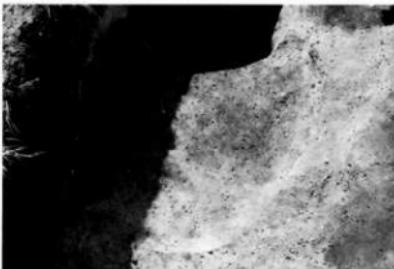
D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D38号土坑
五輪塔火輪
使用の石積み



D54号土坑
D43号土坑



D56号土坑
D55号土坑



1 D57号土坑

2 D57号土坑
・D58号土坑3 M1号溝状遺構
M3号溝状遺構

4 M2号溝状遺構

5 M4号溝状遺構

6 M5号溝状遺構

7 M5号溝状遺構
遺物出土状態8 M4号溝状遺構
獸骨出土状態

图版60



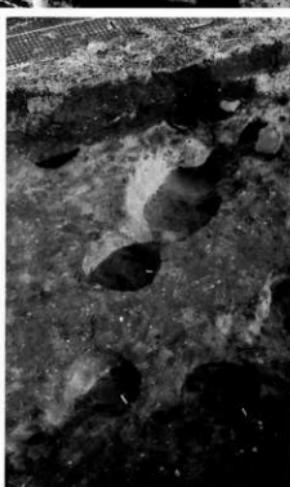
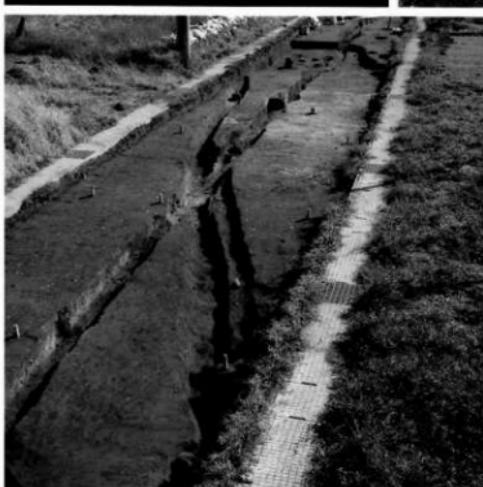
M7号溝状遺構

M6号溝状遺構



M9号溝状遺構

M8号溝状遺構



M11号溝状遺構

M10号溝状遺構

M12号溝状遺構



M13号溝状遺構



M13号溝状遺構



M14号溝状遺構



M14号溝状遺構
遺物出土状態



P172号
遺物出土状態



P172号
遺物出土状態



図版62



P172号ピット

P172号ピット
遺物出土状態



西近津遺跡IV
つ18～な20
グリッド
ピット群



H46号住居址
付近
ピット群

西近津遺跡IV
ふ52～ほ48Gr
平成20年11月
調査地点



西近津遺跡IV
つ18～な20
グリッド
ピット群

西近津遺跡V

西近津遺跡V
調査区全景



H1号住居址

H1号住居址
遺物出土状態



H2号住居址

H2号住居址
カマド

H2号住居址
遺物出土状態



H3号住居址

H3号住居址
掘方



図版64



H4号住居址
掘方

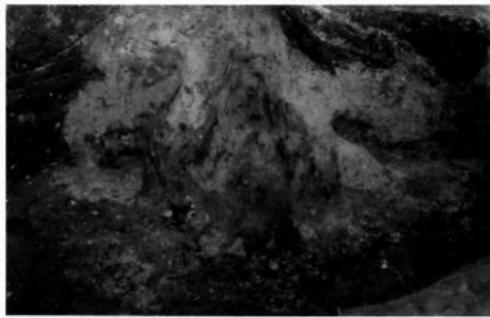


H5号住居址
掘方



H5号住居址
全景

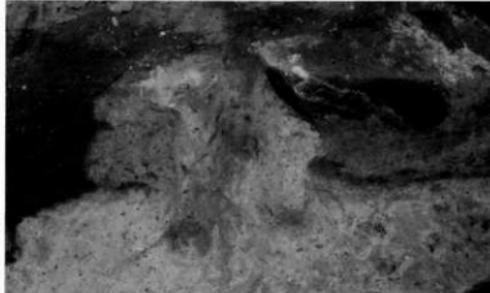
H5号住居址
遺物出土状態



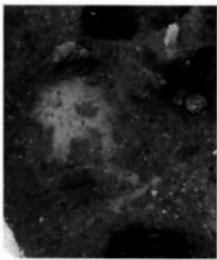
H6号住居址
全景

H5号住居址
カマド

H5号住居址
カマド掘方



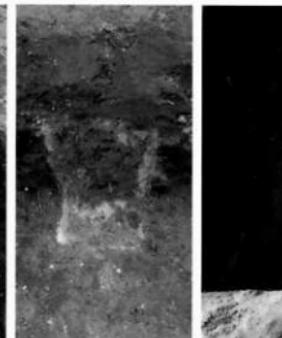
H6号住居址
炉址



H6号住居址
全景

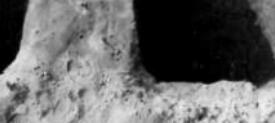
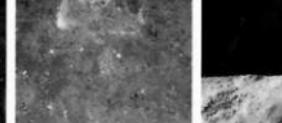
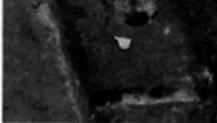
H6号住居址
掘方

H8号住居址
全景



H8号住居址
カマド

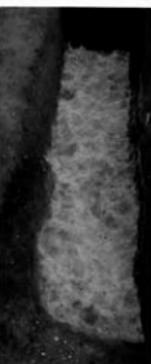
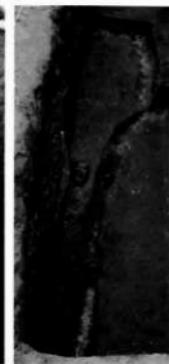
H9号住居址
全景



H9号住居址
掘方

H10号住居址
全景

H10号住居址
掘方



H11号住居址
全景

H11号住居址
掘方



図版66



H12号住居址
掘方

H12号住居址
全景



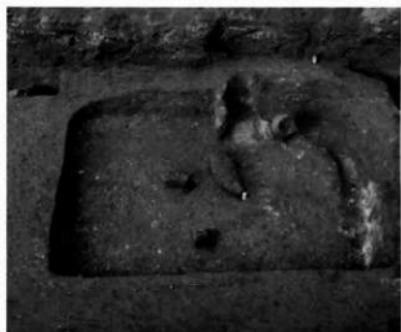
H13号住居址
全景

H13号住居址
カマド



H13号住居址
掘方

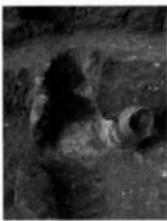
H13号住居址
カマド



H15号住居址
掘方

H15号住居址
全景

H15号住居址
カマド



H16号住居址
全景

H16号住居址
掘方

H17号住居址
全景



H17号住居址
掘方

H18号住居址
全景



H18号住居址
掘方

H19号住居址
全景



H19号住居址
掘方

OT1号古墳



図版68



1 F2号
掘立柱建物址

2 F3号
掘立柱建物址

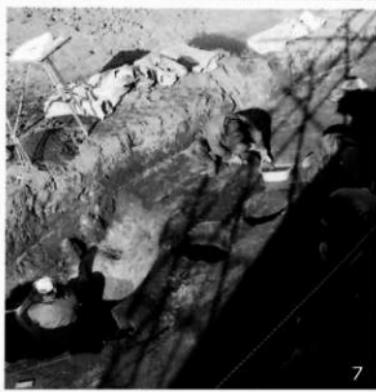
3 F1号
掘立柱建物址

4 F4号
掘立柱建物址

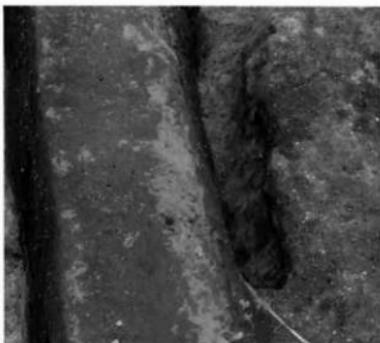
5 F5号
掘立柱建物址

6 西近津遺跡V
調査風景

7 西近津遺跡V
調査風景



D1号土坑



D3号土坑



D5号土坑



D7号土坑

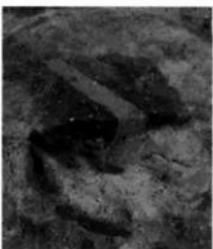
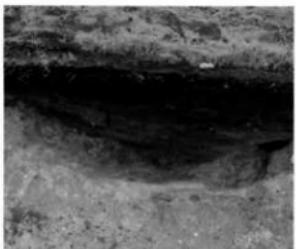
ウマ

出土状態

D6号土坑



図版70



D10号土坑

D9号土坑

D8号土坑



M2号
溝状遺構

M1号
溝状遺構



M5号
溝状遺構

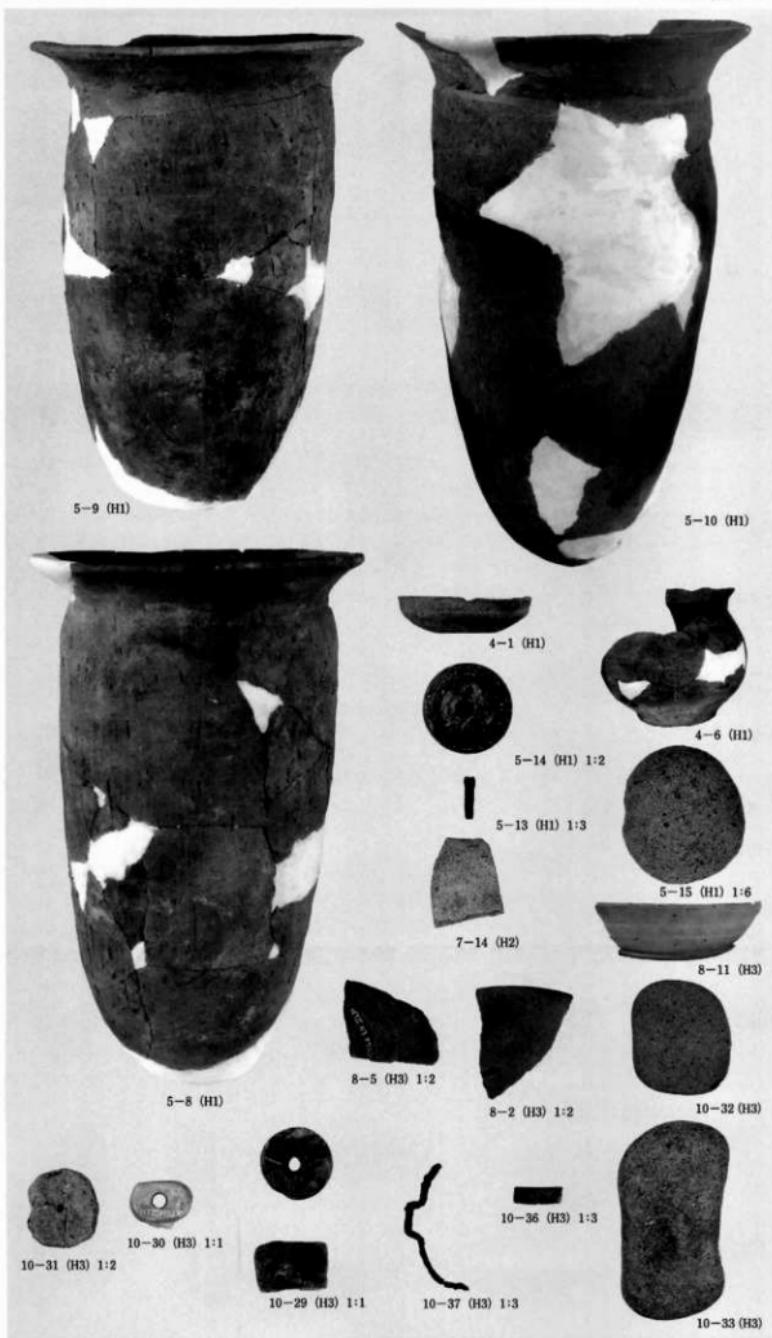
M4号
溝状遺構



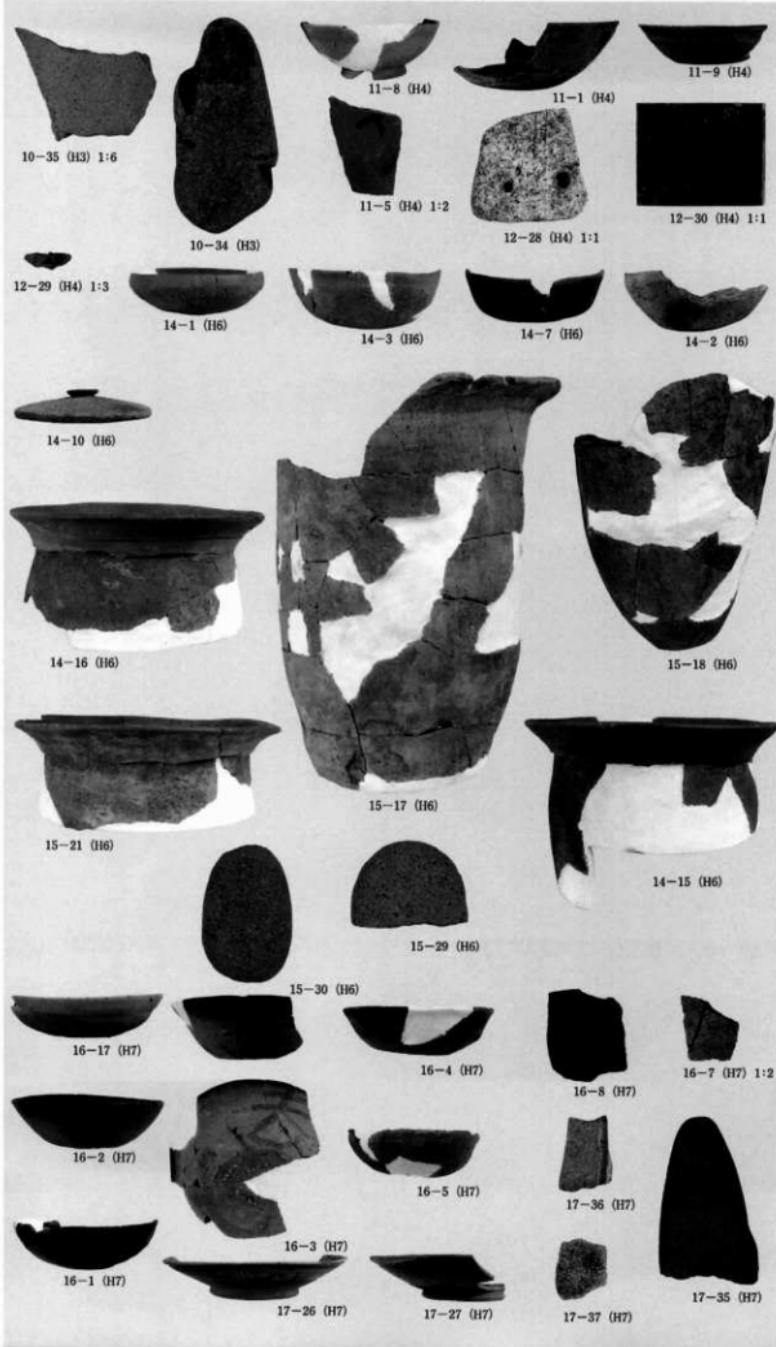
M7号
溝状遺構

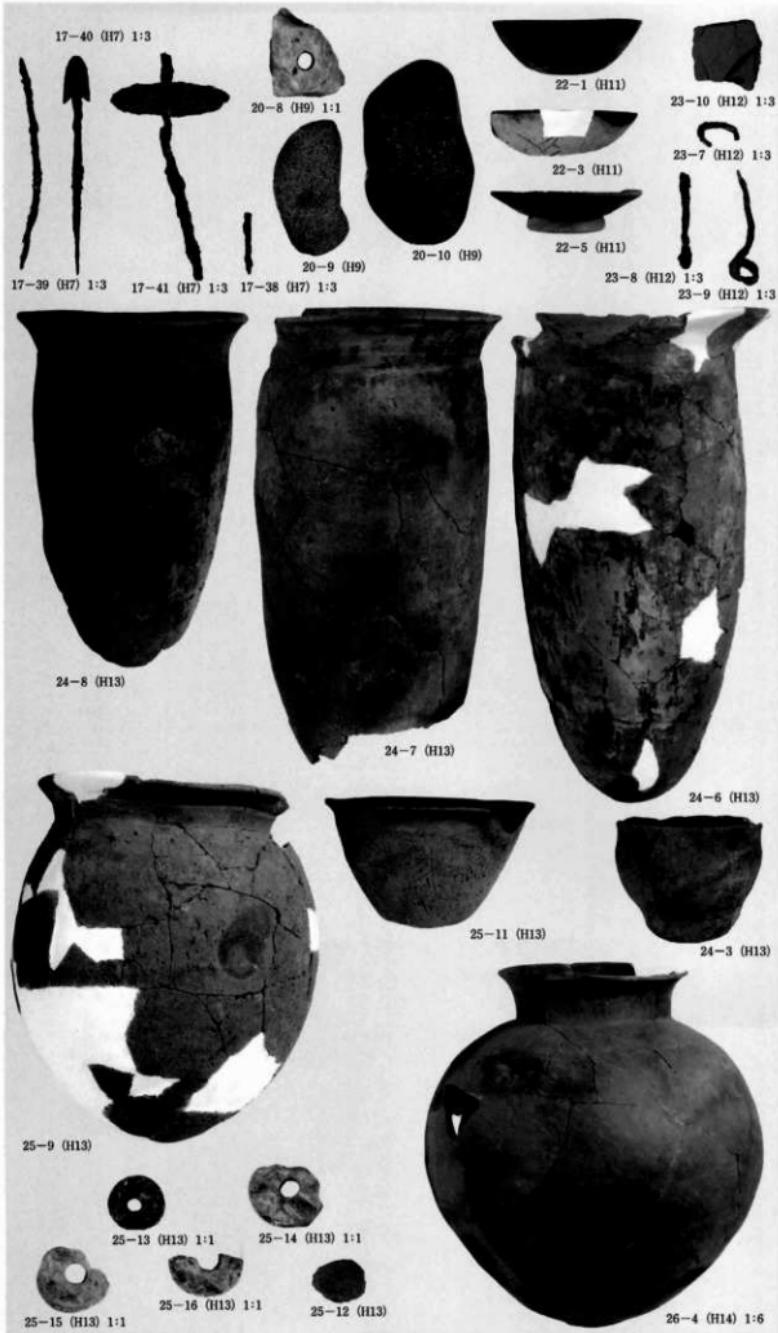
M6号
溝状遺構

西近津Ⅲ出土遺物

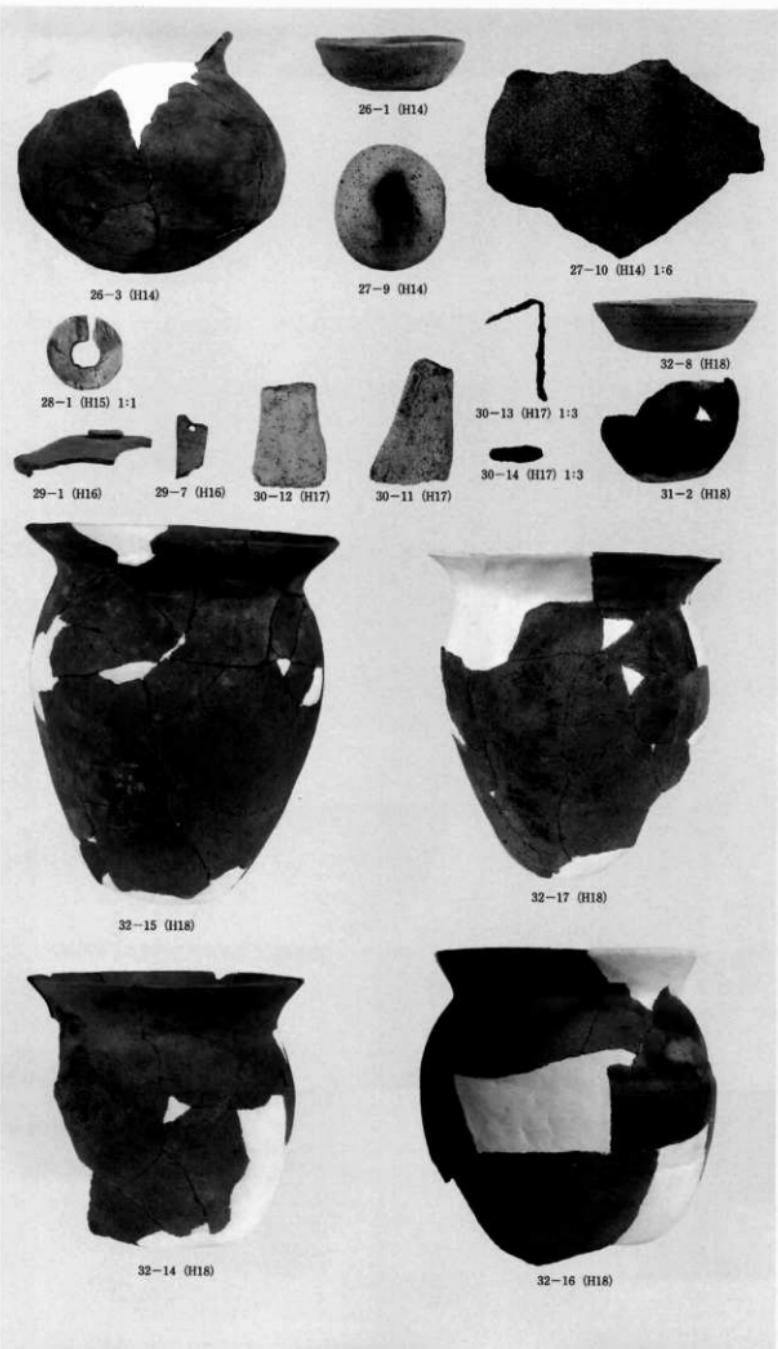


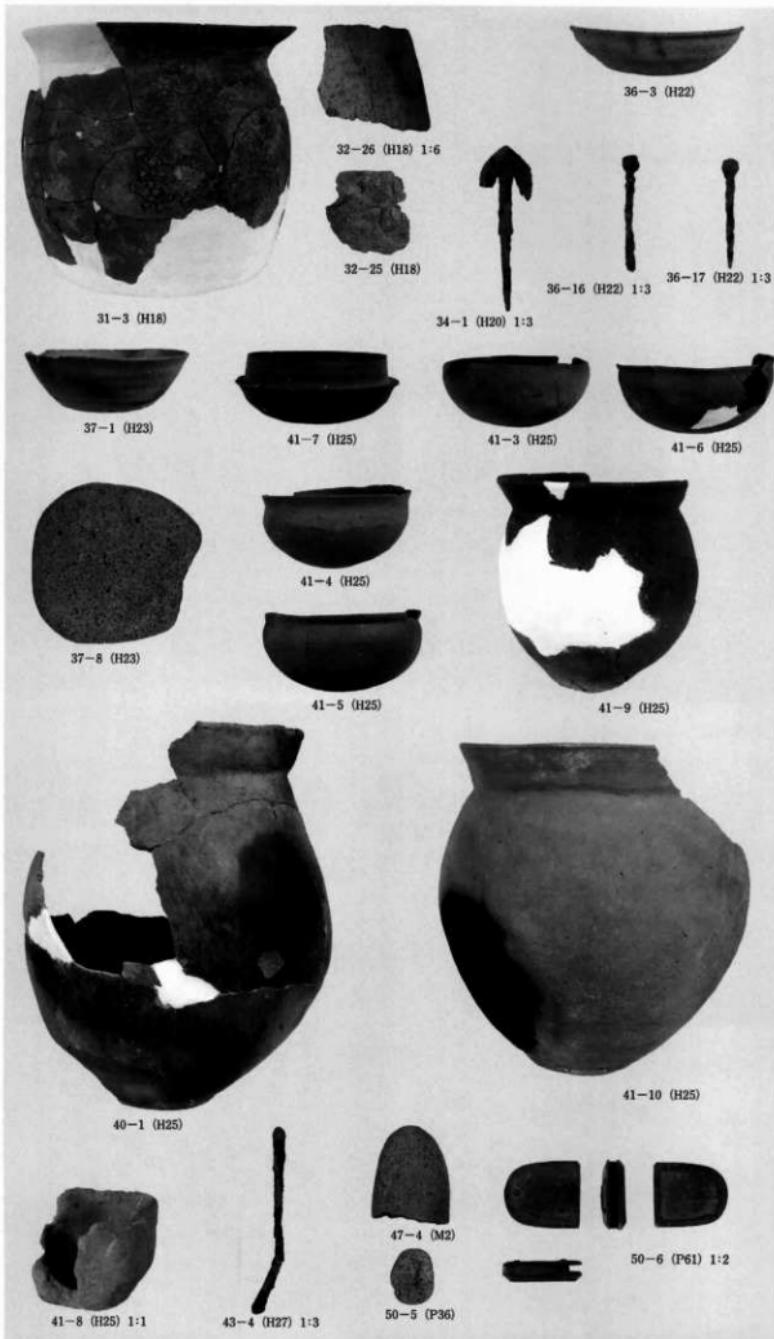
図版72



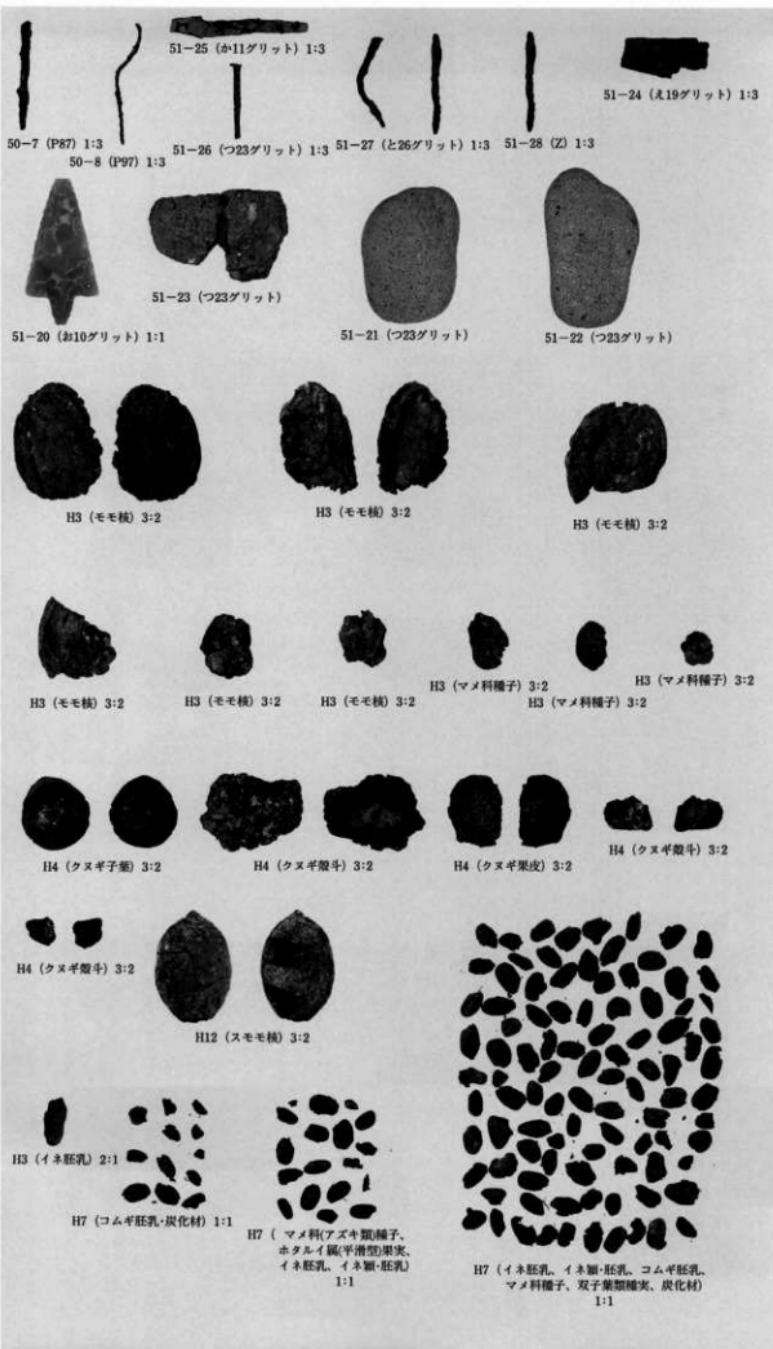


図版74

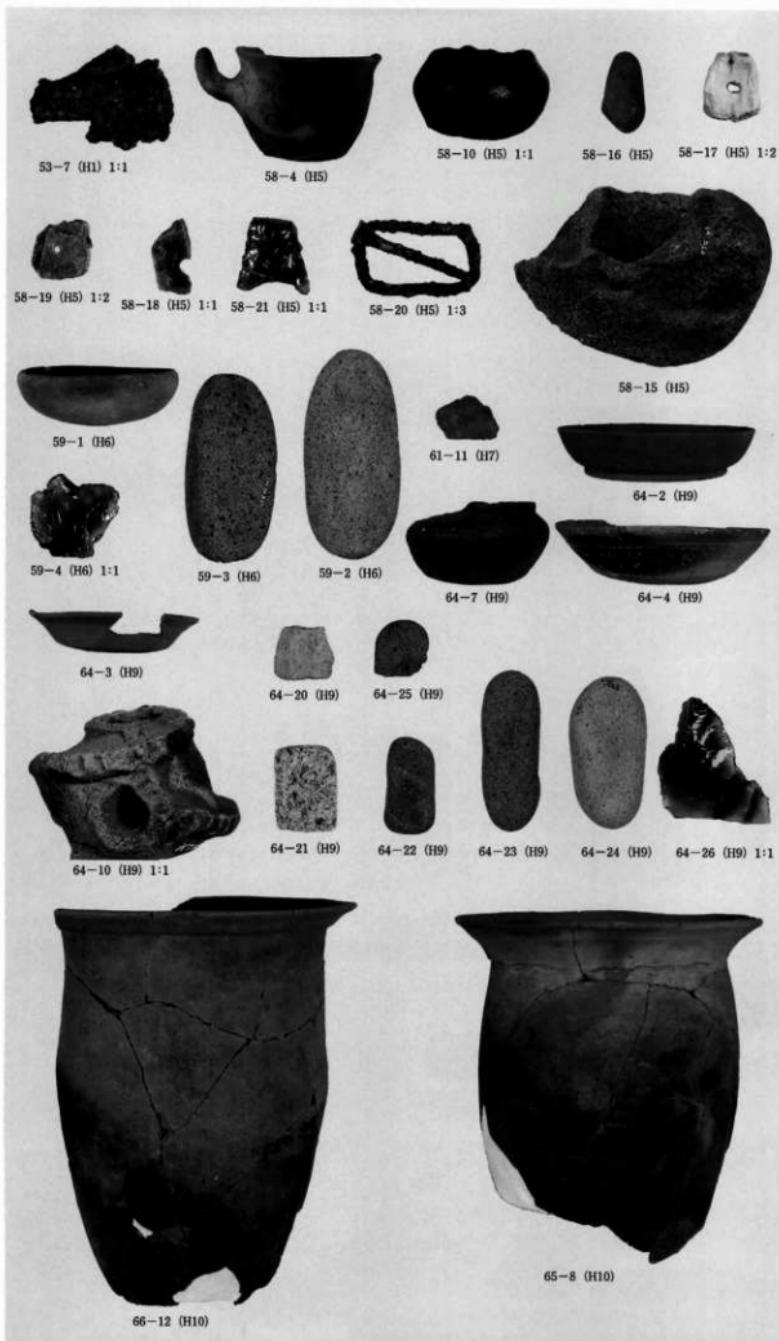




図版76

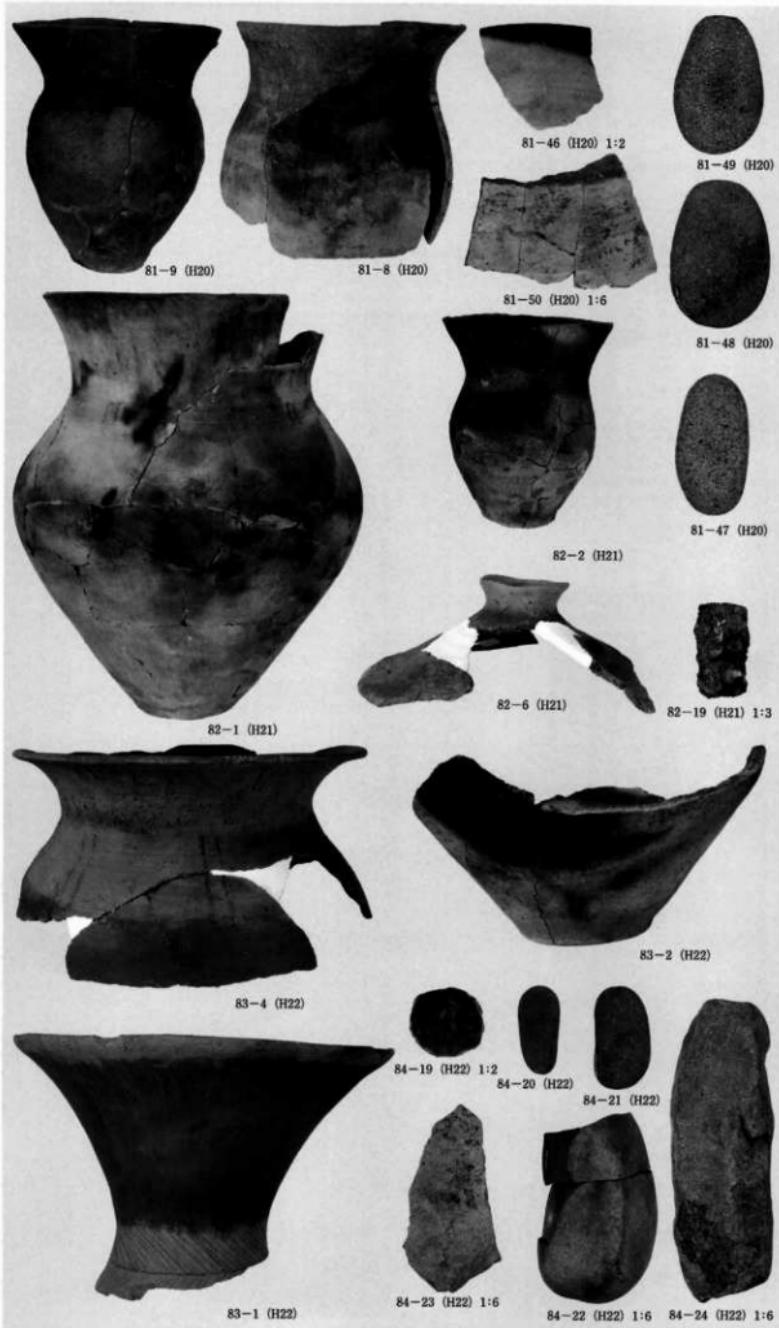


西近津IV出土遺物

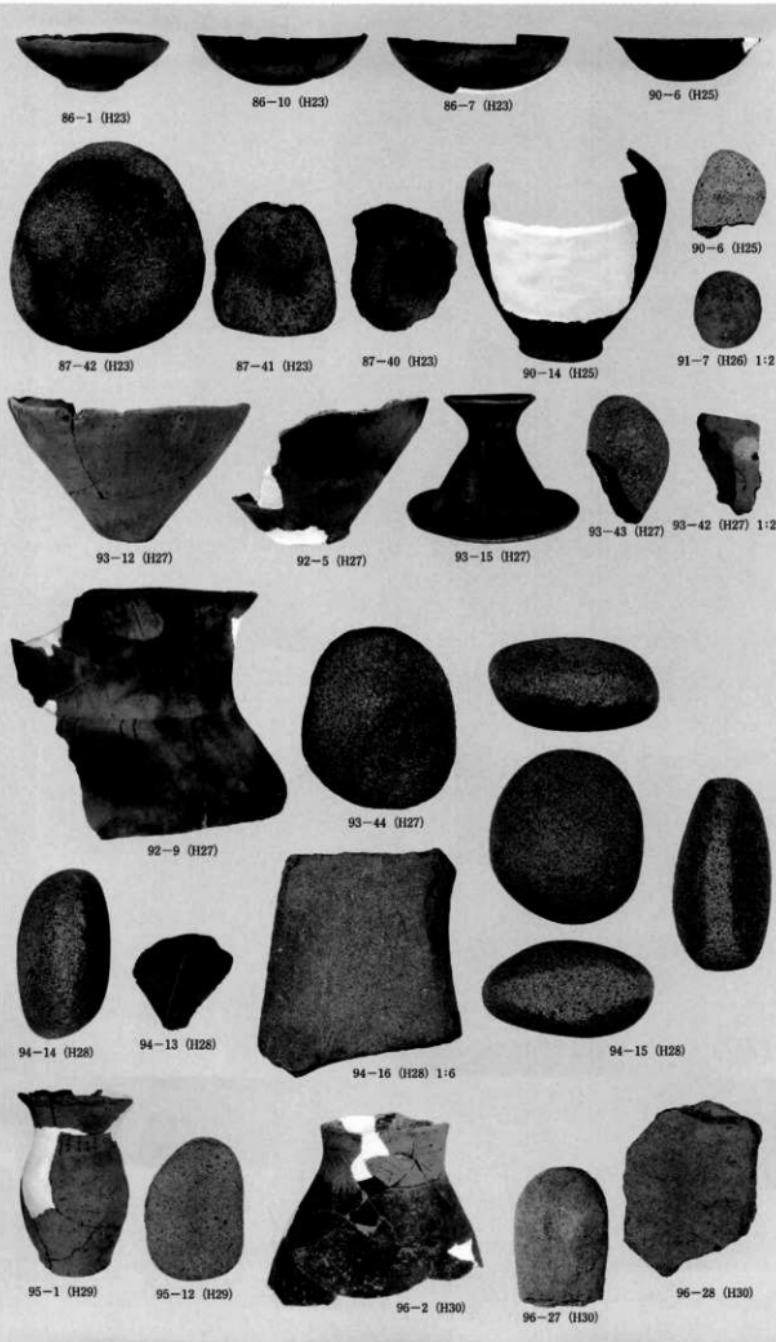


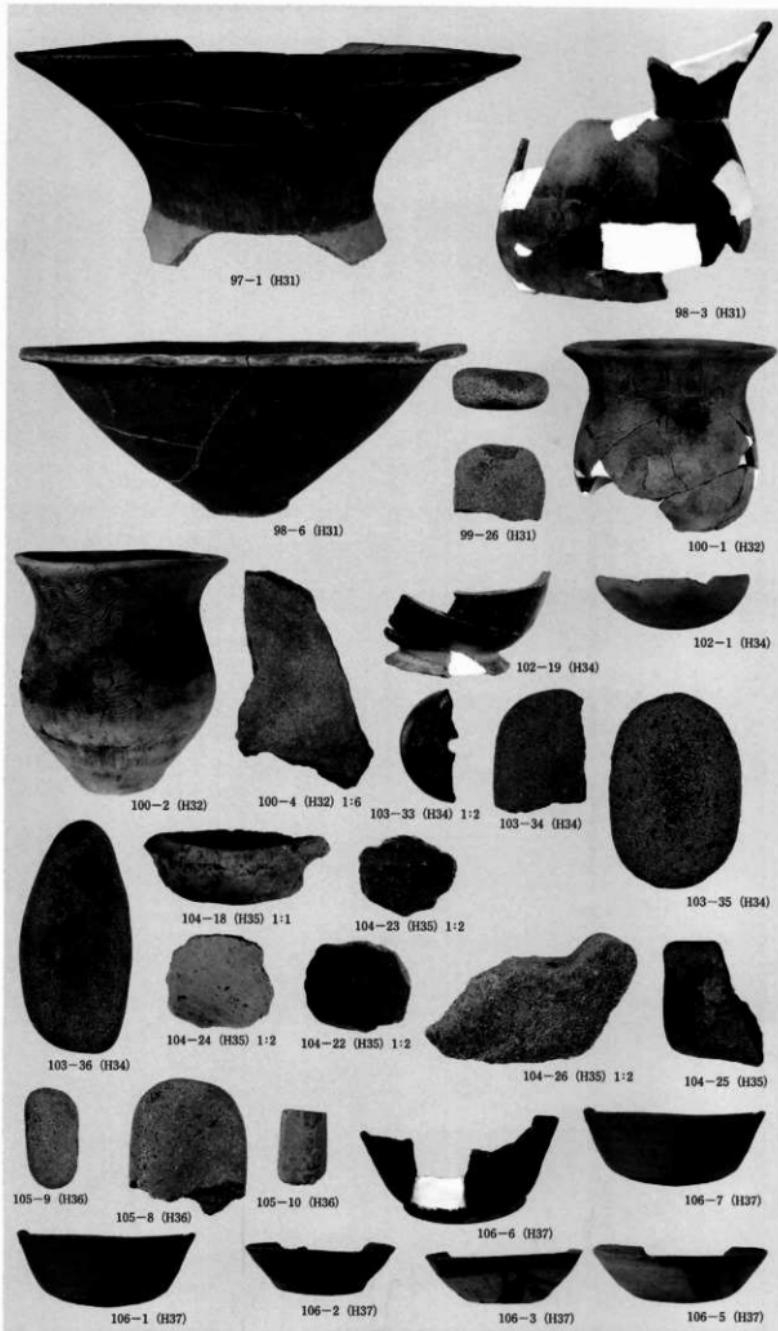
図版78



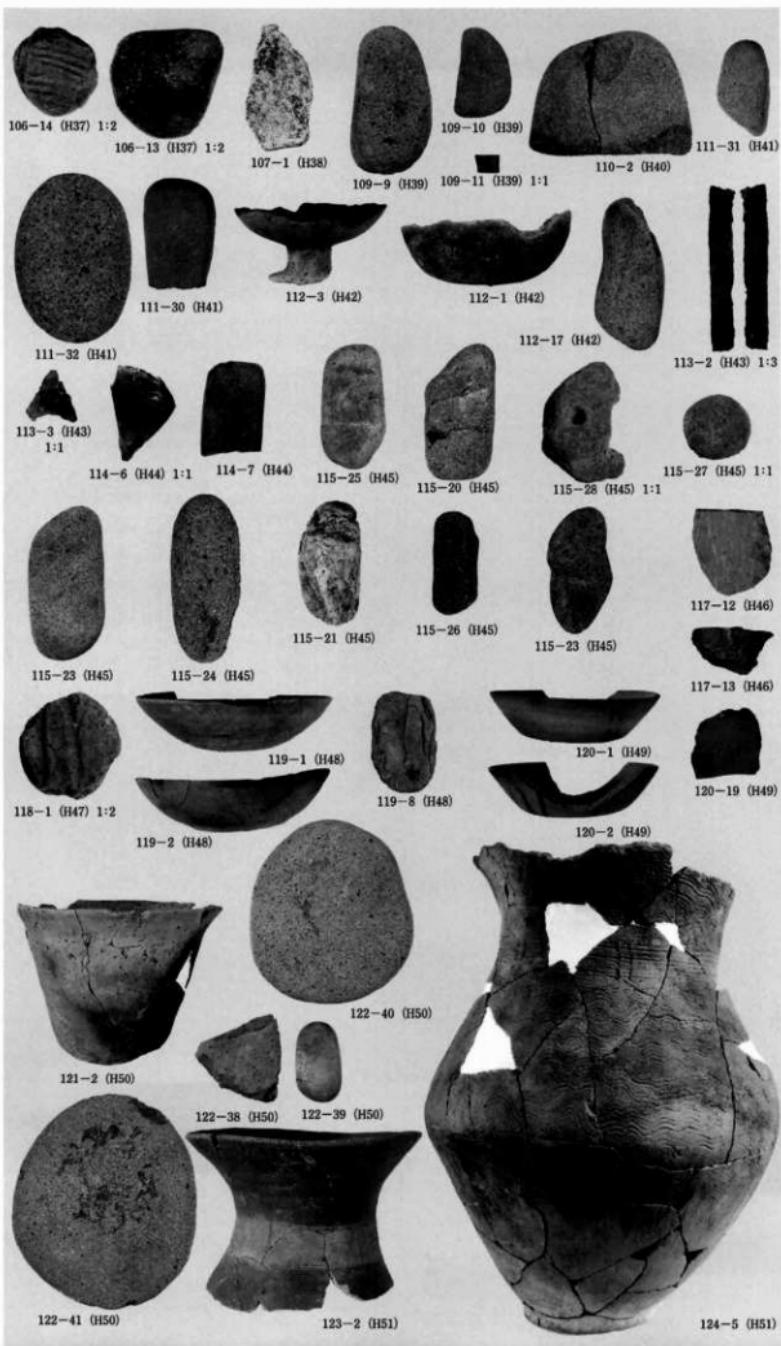


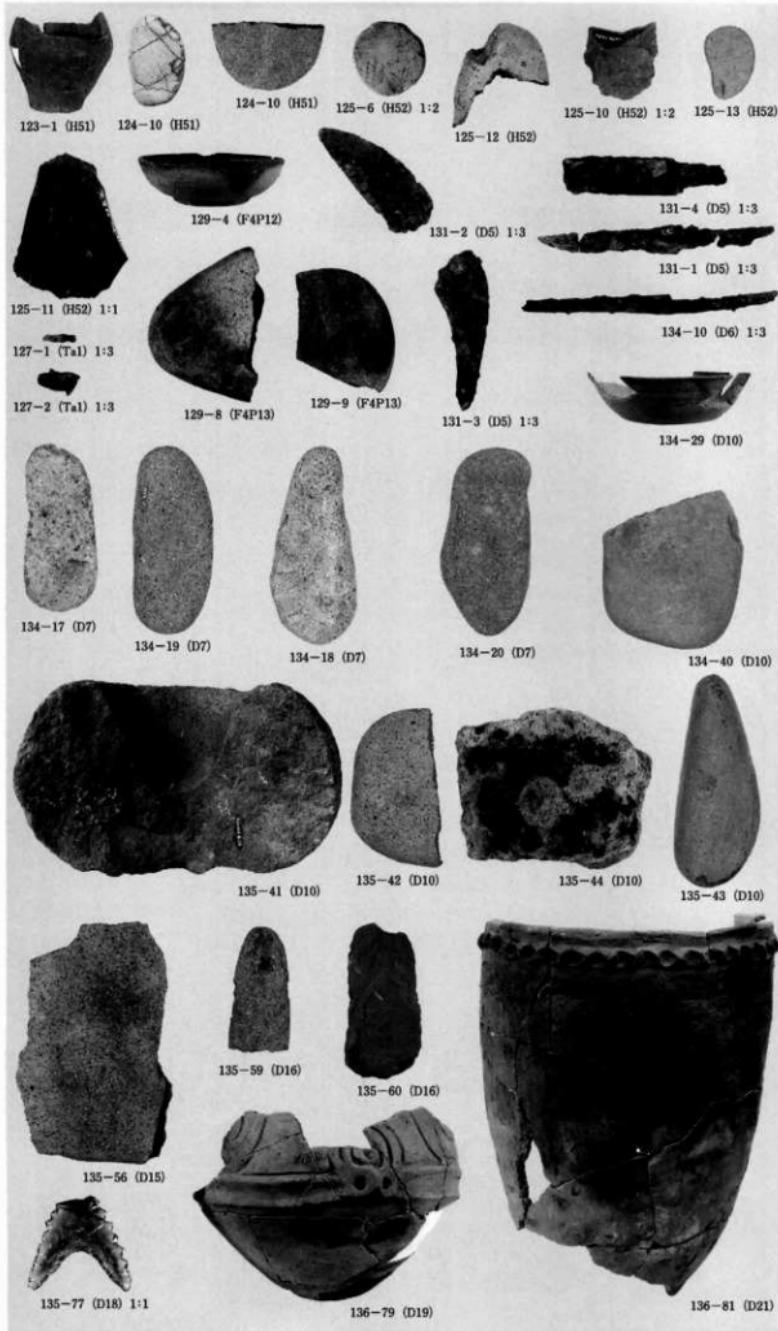
図版80



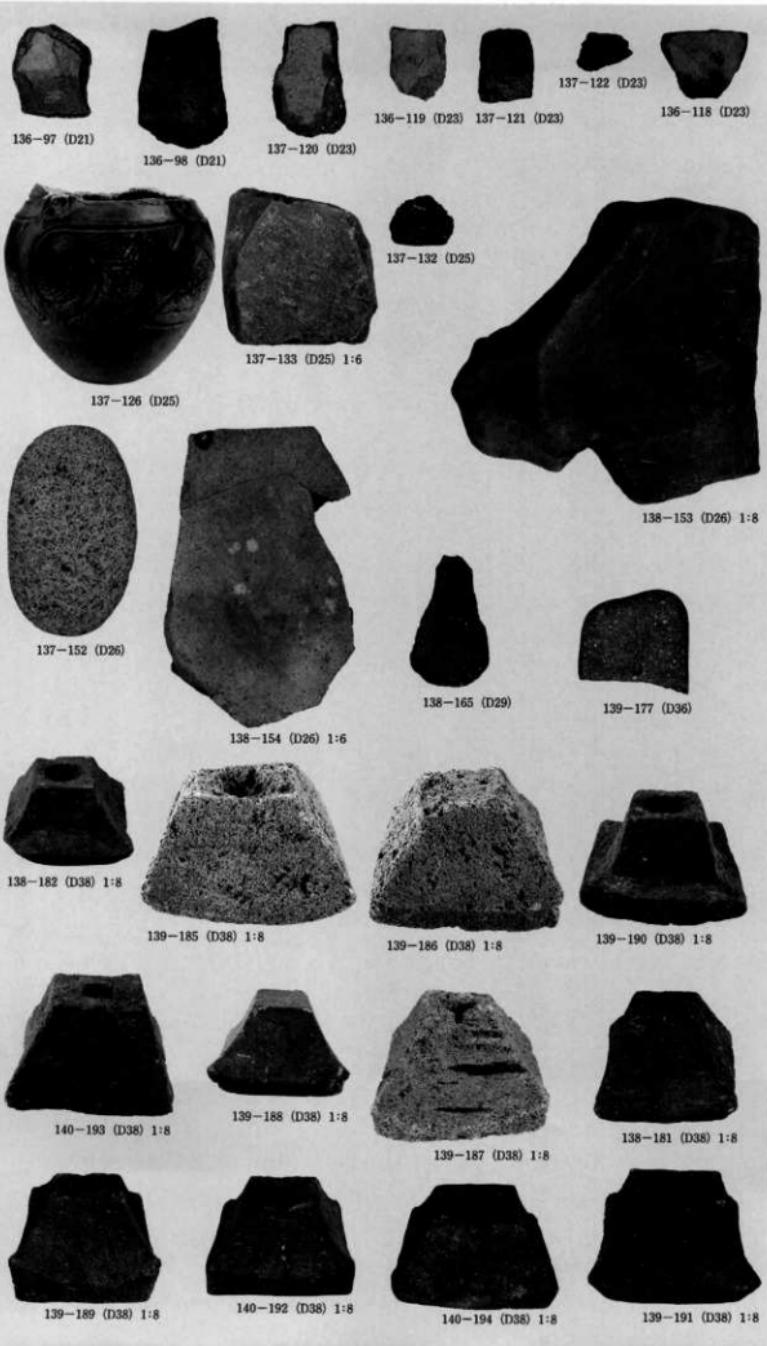


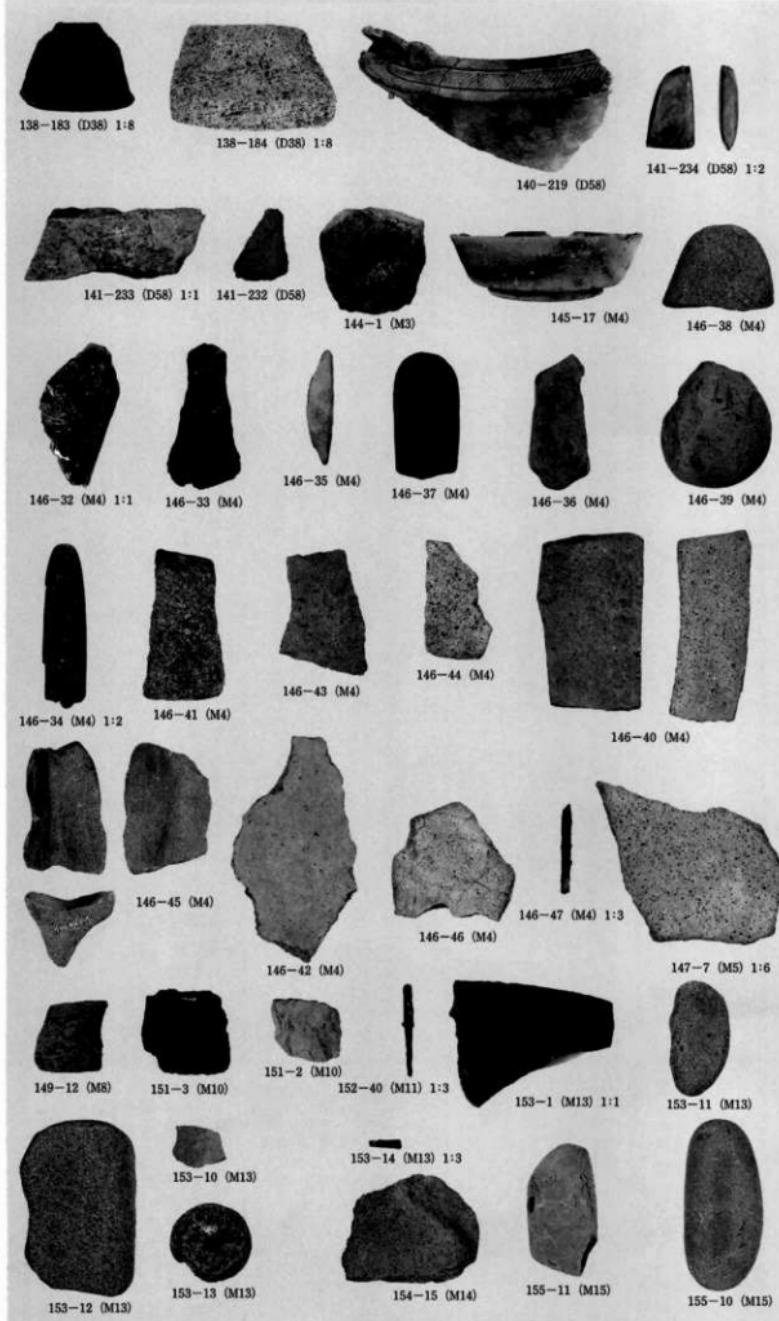
図版82



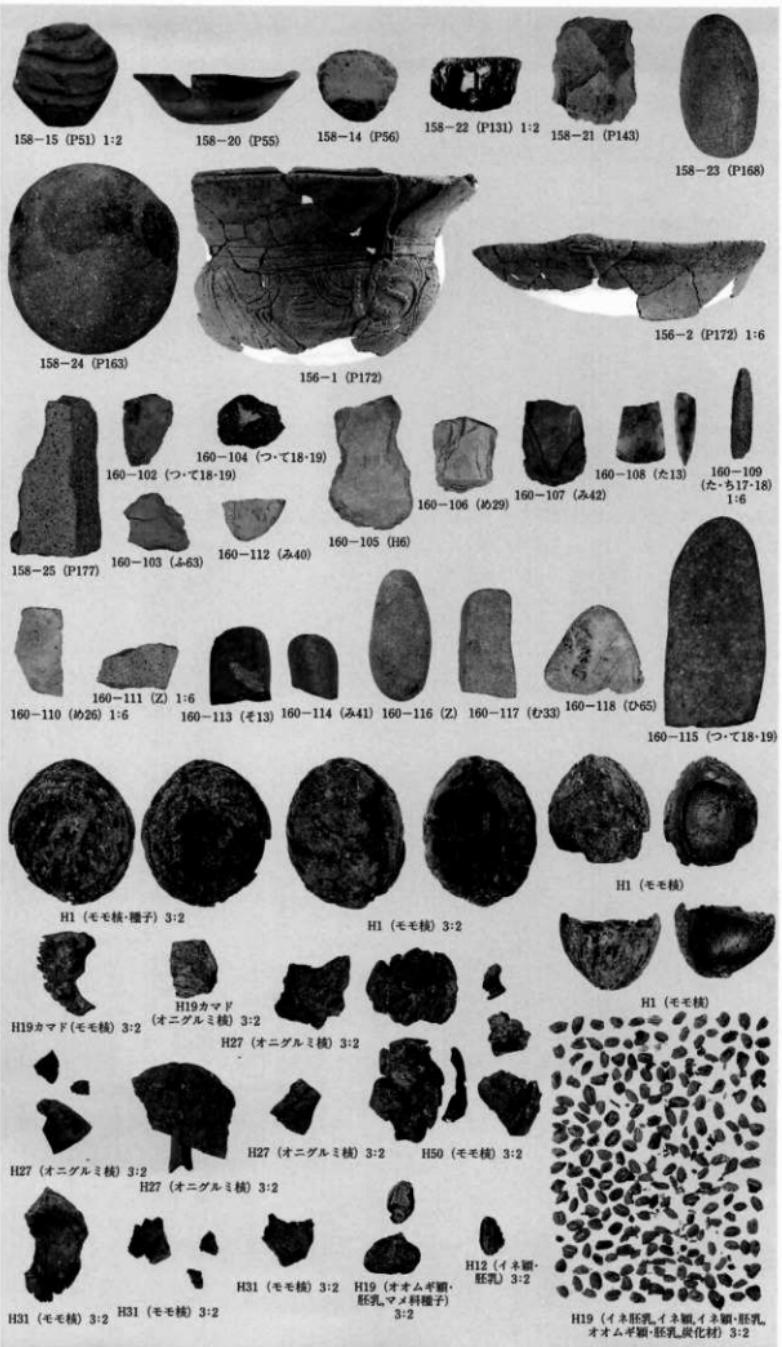


図版84

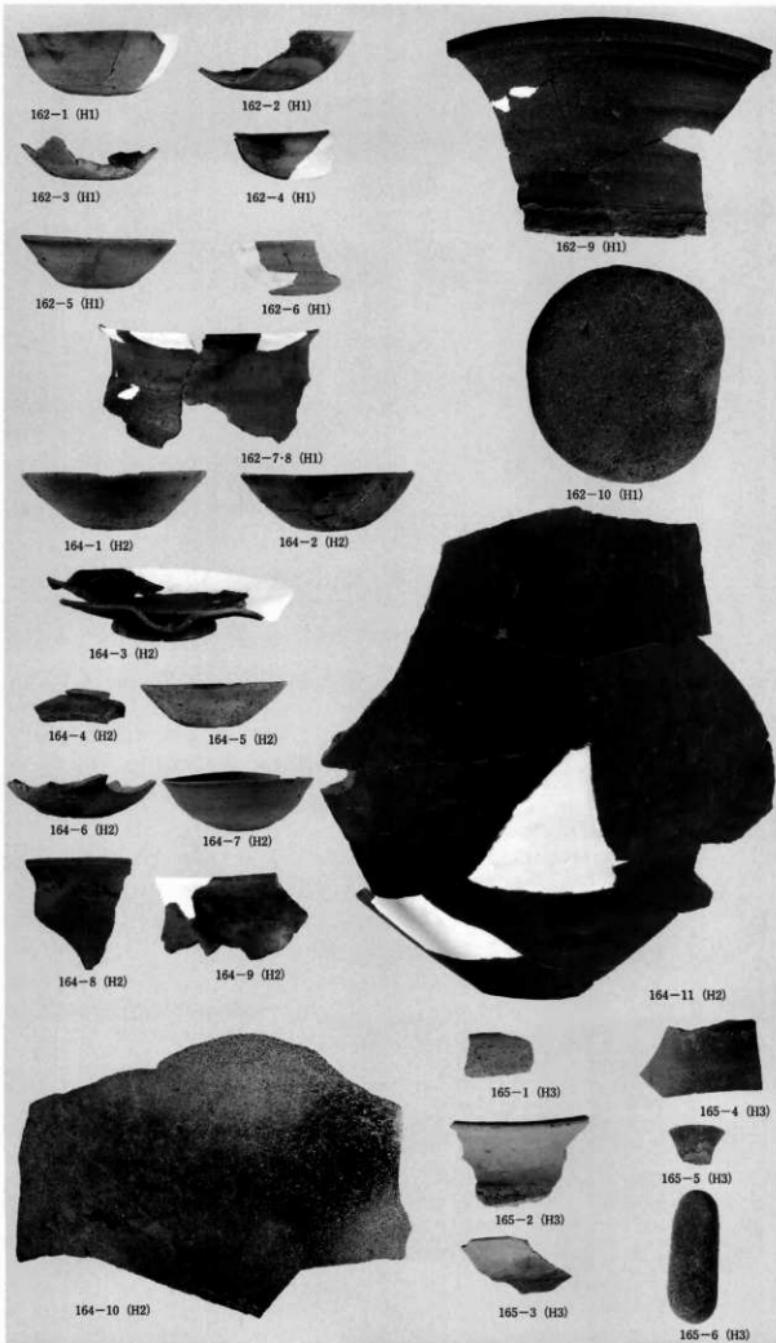




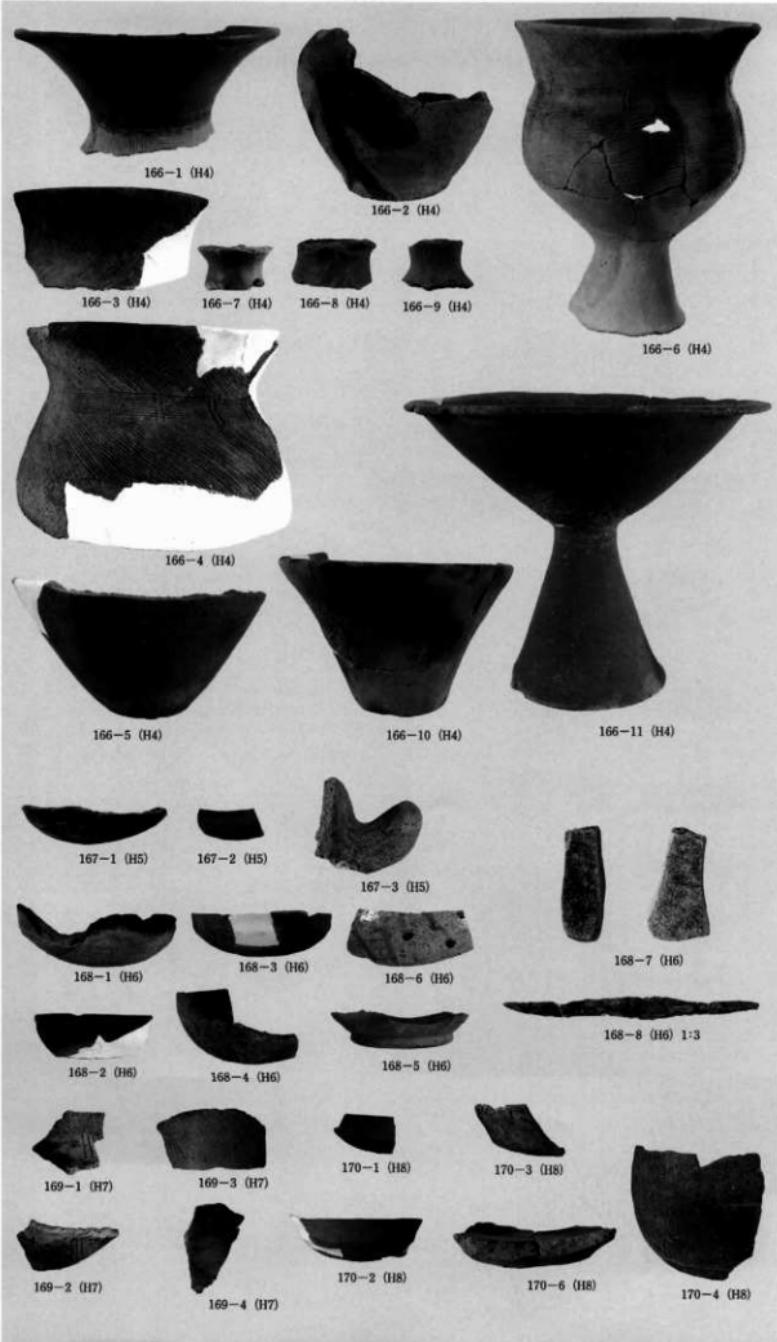
図版86

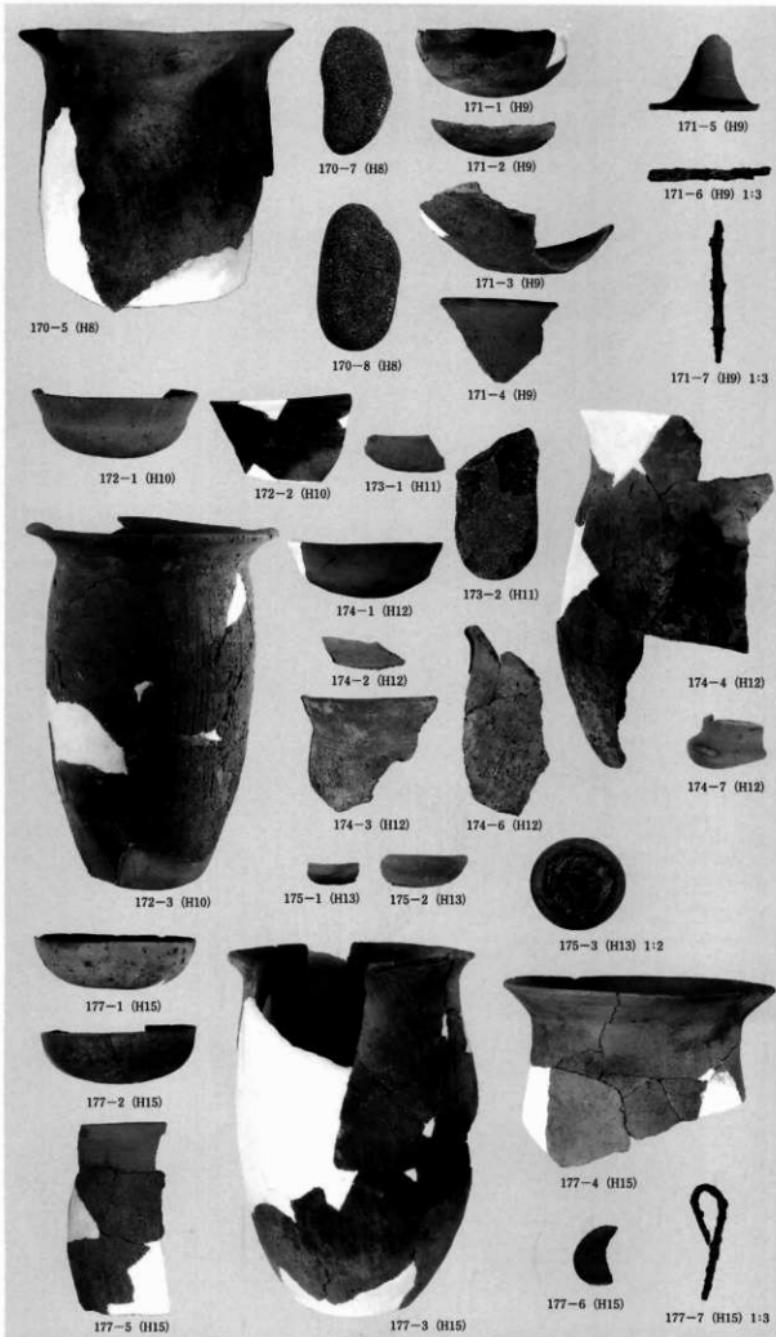


西近津V出土遺物

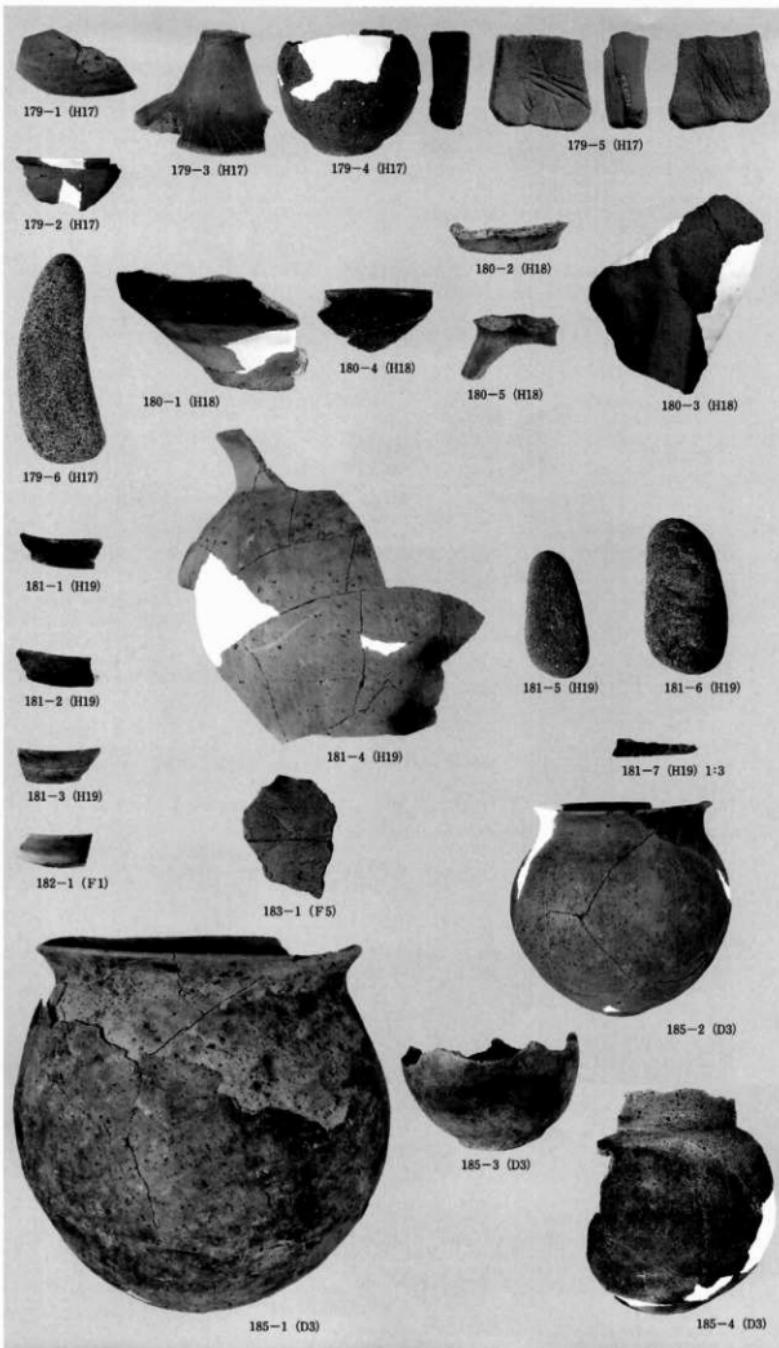


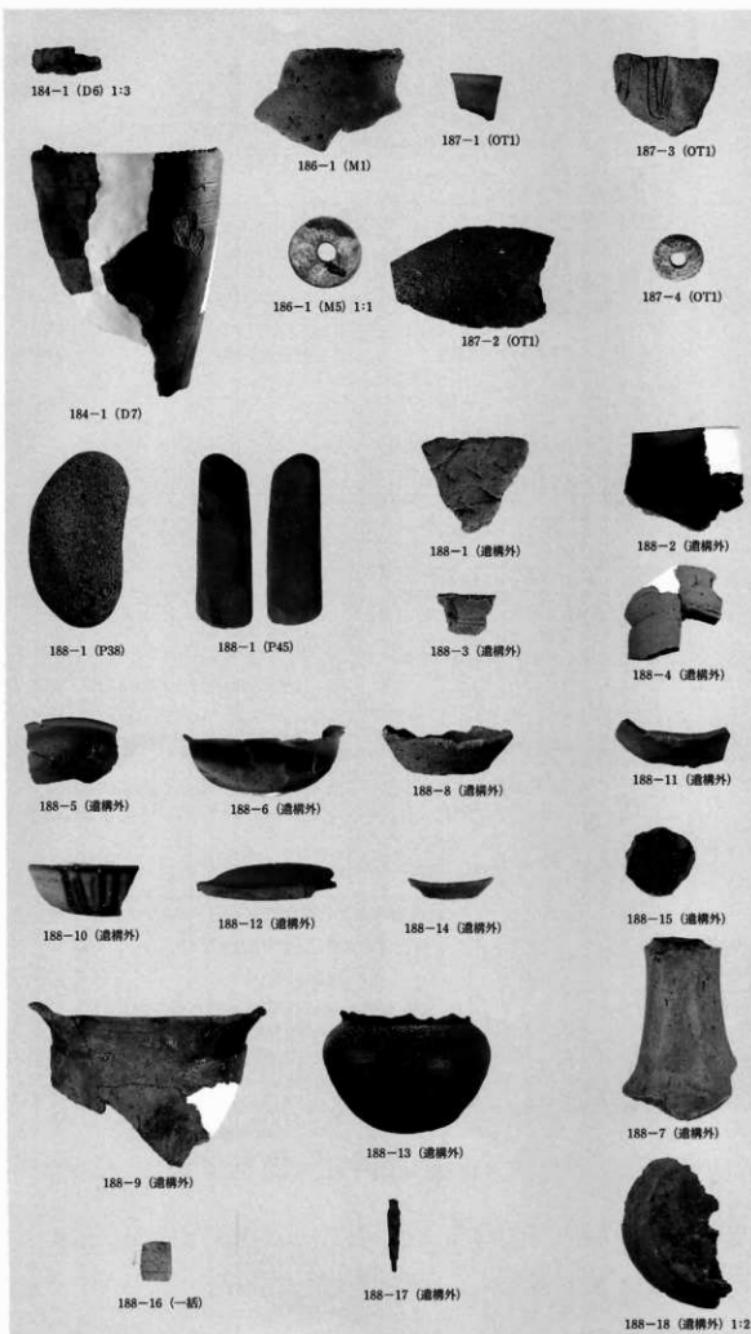
図版88





図版90





報告書抄録

ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきさんよんご		
書名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・V		
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集		
編著者名	林 幸彦		
編集機関	佐久市教育委員会		
発行機関	佐久市教育委員会		
発行年月日	20140331		
郵便番号	385-0006		
住所	長野県佐久市志賀5953		
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953	TEL 0267-68-7321	FAX 0267-68-7323
ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきさん	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん
遺跡名	西近津遺跡群西近津遺跡Ⅲ	西近津遺跡群西近津遺跡Ⅳ	西近津遺跡群西近津遺跡Ⅴ
ふりがな	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん	にしちかついせきぐん にしちかついせきよん
遺跡所在地	長野県佐久市長呂		
遺跡番号	29		
北緯	36°16'51"	36°17'04"	36°17'08"
東經	138°27'40"	138°27'23"	138°27'30"
発掘期間	20060612～20060920	20071011～20081219	20071112～20080108
発掘面積m ²	680	1,510	580
発掘原因	市道S1-94号線改良工事	市道S1-101号線舗装工事	市道S-103号線改良工事
種別	集落跡	集落跡	集落跡
主な時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代中期、奈良時代、平安時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代後期、奈良時代、平安時代	縄文時代後期、弥生時代後期、古墳時代中期、奈良時代、平安時代
主な遺構	竪穴住居27、土坑13、溝状遺構2、壁面5、土坑46、溝状遺構15、ピット113	竪穴住居52、竪穴式遺構1、掘立柱建物5、土坑10、溝状遺構7、壁面5、土坑46、溝状遺構15、ピット187	竪穴住居19、土坑10、溝状遺構7、壁面5、土坑46、溝状遺構15、ピット88
主な遺物	弥生土器(後期)、土焼器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鐵製品、獸骨、炭化穀実	縄文土器(中期・後期)、弥生土器(後期)、土焼器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鐵製品、人骨、獸骨、炭化穀実	縄文土器(草創期・後期)、弥生土器(後期)、土焼器(古・奈・平)、須恵器(奈・平)、石器、石製品、土製品、鐵製品、獸骨、炭化穀実
特記事項	ウマの埋葬土坑が検出された。	縄文時代後期の土坑群、弥生時代後期の大溝、平安時代の大型掘立柱建物址、16世紀の五輪塔が壁面に積まれた土塊が検出された。	古墳時代前期の古墳周溝が検出された。
要約	西近津遺跡群の東城を南北に横断する「中部横断自動車道路」の測定で検出された弥生時代後期・古墳時代後期・奈良・平安時代の大規模な集落が、今回の3次にわたる調査地点まで東西におよんでいることが確認された。		

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第208集

西近津遺跡群西近津遺跡Ⅲ・Ⅳ・V

2014年3月

編集・発行 長野県佐久市教育委員会

長野県佐久市中込3056

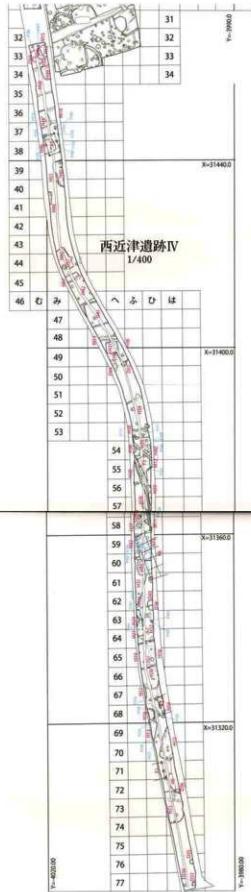
文化財課

長野県佐久市志賀5953

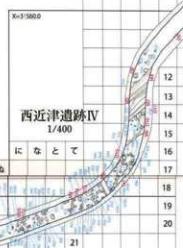
電話 0267-68-7321

FAX 0267-68-7323

印刷所 株式会社 佐久印刷所



西近津遺跡IV



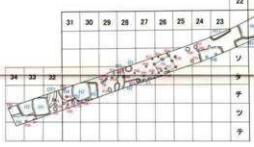
西近津遺跡
1/400

四〇



西近津遺跡Ⅲ
1/400 (旧測地系)

下三
采)



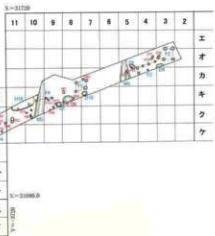
西近津遺跡V 1/400

1



西近洋遺跡IX

x



11

10

9

9

6

7

6

8

5

4

3

2

10

1



